高知県香南市発掘調査報告書　第 20 集

西野（にしの）遺跡Ⅱ

— 宅地開発に伴う発掘調査報告書 —

第一分冊

2022.3

香南市教育委員会

序

西野遺跡は、野市町西野に所在する弥生時代から古代・中世にかけての集落遺跡です。この遺跡が所在する物部川東岸は、下ノ坪遺跡や北地遺跡など、香南市内でも遺跡が集中する地域の一つです。西野遺跡では、これまで6度に渡って調査が行われ、周辺の遺跡の調査成果と合わせて、少しずつ地域の歴史が明らかになり始めてきました。

本書で報告するのは平成18年度に行われた2回目の調査で、これまで香南市で行なった調査としては最大規模に相当します。弥生時代の竪穴建物跡などの遺構と共に、多くの土器が出土しました。平成19年度に行われた3回目の調査で出土した日本で唯一の銅矛再加工品なども含めて、西野遺跡からは多くの注目される成果が得られています。

香南市内には、この他にも多くの遺跡があります。これらの遺跡を守り、地域の皆様に伝えていくことは、大切な責務だと考えています。本書が、皆様が香南市の歴史を知り、自分たちの住む地域に誇りを持っていただくきっかけの一つとなれば幸いです。また、近隣市町村を含む周辺地域の歴史を紐解く資料の一助となることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたっては、埋蔵文化財への深いご理解とご協力を賜りました地元の皆様方に心から謝意を表すと共に、発掘調査に従事して頂いた現場作業員の皆様方、報告書作成にあたりご指導ならびにご教示頂きました関係各位に心から厚く御礼申し上げます。

令和4年3月

高知県香南市教育委員会
教育長　入野　博

例　言

1．本書は、宅地造成開発に伴い、平成18年度に野市町教育委員会が実施した西野遺跡ルノ丸地区の発掘調査報告書である。

2．西野遺跡は、高知県香南市野市町西野1530番地他に所在する。

3．本報告は、二次調査（平成18年度）のＡ～Ｄ・Ｊ～Ｌ区と四次調査（平成19年度）の北区である。これらは調査区の北部に当たり、南部及び四次調査の南区については次刊報告する。

4．発掘調査対象面積は二次調査が約8,700㎡、四次調査が約905㎡、発掘調査面積は、二次調査が約4,500㎡、四次調査が170㎡である。

5．二次調査は、試掘調査を平成17年10月に行い、平成18年4月4日から19年3月30日に発掘調査を行った。四次調査は平成19年10月9日から11月8日に発掘調査を行なった。いずれも調査時から整理作業を開始し、報告書刊行年度は令和3年度である。

6．試掘調査・発掘調査時の平成18年度の調査体制は以下の通りである。

調査員　野市町教育委員会 生涯学習課　溝渕　真紀

調査員　財団法人 野市町開発公社　更谷　大介

7．本報告書に関する整理作業は、更谷と溝渕が平成20年度まで遺構図及び写真等の整理作業を行ない、平成22年度より香南市教育委員会生涯学習課 主監調査員 松村 信博と臨時職員 藤方 正治が整理作業を継続した。平成28年度より横山 藍（同 主査調査員）が報告書刊行作業を行なった。

8．報告書刊行時、令和3年度の香南市教育委員会生涯学習課文化振興保護係の体制は以下の通りである。

課長	猪原　加江	会計年度職員	齋藤　美幸
係長	竹中　ちか		高橋　加奈
再任用職員	澤田　秀行		髙橋　由香
主査調査員	横山　藍		藤原　ゆみ
			松井　喬行
			松田　克純
			山﨑　佐世
			依光　美佐子

9．本書の執筆・編集は横山が行なった。遺構写真撮影は更谷・溝渕による。試掘及び土層観察等の調査に関する記述は、更谷の記録を元にしている。遺構図の作成は更谷・溝渕が行なったものをトレースした。実測遺物の選出作業については松村、遺物観察作業については藤方・横山が行なった。

10．遺構については、ST（竪穴建物跡）・SB（掘立柱建物跡）・SK（土坑）・SD（溝跡）・P（柱穴）・SX（性格不明遺構）とし、遺構番号は必要に応じて通し番号を付した。報告書刊行の際は調査時の遺構名及び番号をそのまま使用し、報告する。掲載している遺構図の縮尺はSTはS=1/80、SBはS=1/80・S=1/100、SK・SD・PはS=1/40・S=1/80で作成しそれぞれに記載しており、方位（N）は世界標準座標方眼北である。

11. 遺物については、原則的にS=1/3及びS=1/4、その他必要に応じて適切な縮尺を使用した。各遺物にはスケールバーを掲載している。

12. 現場作業及び整理作業については下記の方々に行って頂いた。（敬称略、五十音順）

発掘調査作業

佐野 信重・橿尾 俊喜・河村 みさ子・西川 博明

整理作業

齋藤美幸・高橋加奈・髙橋由香・小松経子・藤方正治・藤原ゆみ・松田克純・水田紀子・宮本幸子・山﨑佐世・吉本由佳・依光美佐子

また、報告書作成にあたっては、香南市教育委員会・香南市文化財センターの諸氏の協力と援助を得た。

13. 出土遺物について、池澤俊幸氏・久家隆芳氏・吉成承三氏（（公財）高知県埋蔵文化財センター）、出原恵三氏に助言を頂いた。記して感謝する。

14. 調査の実施にあたっては、地元の方々の絶大な協力と援助を得た。記して感謝する。

15. 出土遺物の注記は、出土略号を二次調査の試掘調査を05－NNR南、本調査を06－NNR南、四次調査は07－NNR南とし、図面・写真資料とともに香南市文化財センターにおいて保管している。

本文目次

第Ⅰ章　遺跡の概要と調査の経過 1
1. 西野遺跡の概要 1
2. これまでの調査と二次調査の経過 3
(1) 一次調査(平成17年度調査)の概要と成果 3
(2) 二次調査(平成18年度調査)の経過と概要 4
(3) 三次調査の概要 4
(4) 四次調査の概要 4
(5) 五次調査の概要 5
(6) 六次調査の概要 5
3. 試掘調査の概要 6
第Ⅱ章　北部調査区の調査成果 13
1. 調査の方法 13
2. 調査区の概要と基本層序 14
3. 検出遺構と出土遺物 17
(1) 竪穴建物跡 17
(2) 掘立柱建物跡 67
(3) 土坑 73
(4) 溝跡 95
(5) 柱穴 97
(6) 性格不明遺構 109
(7) 包含層出土遺物 109

挿図目次

図1－ 1　香南市位置図 1
図1－ 2　西野遺跡周辺の遺跡 2
図1－ 3　西野遺跡1～6次調査区位置図 5
図1－ 4　試掘調査位置図 6
図1－ 5　試掘TR7～10遺構図 7
図1－ 6　試掘TR11・12遺構図 8
図1－ 7　試掘TR13・14遺構図 9
図1－ 8　試掘TR8～11出土遺物実測図 10
図1－ 9　試掘TR12出土遺物実測図 11
図1－10　試掘TR14出土遺物実測図 12
図2－ 1　調査区位置図・グリッド設定図 13
図2－ 2　H区南壁セクション 14
図2－ 3　J区東壁セクション 15
図2－ 4　遺構平面図 16
図2－ 5　ST2001遺構図 18
図2－ 6　ST2001出土遺物実測図1 18
図2－ 7　ST2001出土遺物実測図2 19
図2－ 8　ST2002遺構図 20
図2－ 9　ST2002出土遺物実測図 20
図2－10　ST2003・2004遺構図 21
図2－11　ST2003出土遺物実測図1 21
図2－12　ST2003出土遺物実測図2 22
図2－13　ST2003出土遺物実測図3 23
図2－14　ST2003出土遺物実測図4 24
図2－15　ST2004出土遺物実測図 24
図2－16　ST2005遺構図 24
図2－17　ST2005出土遺物実測図 25
図2－18　ST2006遺構図 26
図2－19　ST2006出土遺物実測図 26
図2－20　ST2007遺構図 27
図2－21　ST2007出土遺物実測図 27
図2－22　ST2008遺構図 28
図2－23　ST2008出土遺物実測図1 28
図2－24　ST2008出土遺物実測図2 29
図2－25　ST2008出土遺物実測図3 30

図２－ 26　ST2008出土遺物実測図４ 31
図２－ 27　ST2009出土遺物実測図１ 32
図２－ 28　ST2009遺構図 33
図２－ 29　ST2009出土遺物実測図２ 33
図２－ 30　ST2010上面土器集中遺物出土状態図 34
図２－ 31　ST2010上面土器集中出土遺物実測図１ 35
図２－ 32　ST2010上面土器集中出土遺物実測図２ 36
図２－ 33　ST2010上面土器集中出土遺物実測図３ 37
図２－ 34　ST2010遺構図 38
図２－ 35　ST2010出土遺物実測図１ 39
図２－ 36　ST2010出土遺物実測図２ 40
図２－ 37　ST2010出土遺物実測図３ 41
図２－ 38　ST2010出土遺物実測図４ 42
図２－ 39　ST2012遺構図 43
図２－ 40　ST2012出土遺物実測図１ 43
図２－ 41　ST2012出土遺物実測図２ 44
図２－ 42　ST2012出土遺物実測図３ 45
図２－ 43　ST2012出土遺物実測図４ 46
図２－ 44　ST2012出土遺物実測図５ 47
図２－ 45　ST2013遺構図 48
図２－ 46　ST2013出土遺物実測図 48
図２－ 47　ST2015遺構図 49
図２－ 48　ST2015出土遺物実測図１ 50
図２－ 49　ST2015出土遺物実測図２ 51
図２－ 50　ST2016・2017遺構図 52
図２－ 51　ST2016出土遺物実測図 52
図２－ 52　ST2017出土遺物実測図 53
図２－ 53　ST2018遺構図 54
図２－ 54　ST2018出土遺物実測図 55
図２－ 55　ST2019遺構図 56
図２－ 56　ST2019出土遺物実測図 56
図２－ 57　ST2020遺構図 57
図２－ 58　ST2020出土遺物実測図 58
図２－ 59　ST2021遺構図 59
図２－ 60　ST2025遺構図 59
図２－ 61　ST2025出土遺物実測図 59
図２－ 62　ST2026遺構図 60
図２－ 63　ST2026出土遺物実測図 60

図2－64 ST2027遺構図 60
図2－65 ST2028遺構図 61
図2－66 ST2028出土遺物実測図 61
図2－67 ST3001遺構図 62
図2－68 ST3001出土遺物実測図 62
図2－69 ST1遺構図 63
図2－70 ST2遺構図 63
図2－71 ST1出土遺物実測図1 64
図2－72 ST1出土遺物実測図2 65
図2－73 ST2出土遺物実測図 66
図2－74 SB1遺構図・出土遺物実測図1 67
図2－75 SB1出土遺物実測図2 68
図2－76 SB2遺構図 69
図2－77 SB3遺構図・出土遺物実測図 70
図2－78 SB4遺構図・出土遺物実測図 71
図2－79 SB5遺構図 71
図2－80 SB6遺構図・出土遺物実測図 72
図2－81 SK1遺構図・出土遺物実測図 73
図2－82 SK2009遺構図・出土遺物実測図 74
図2－83 SK2014遺構図 74
図2－84 SK2014出土遺物実測図1 75
図2－85 SK2014出土遺物実測図2 76
図2－86 SK2014出土遺物実測図3 77
図2－87 SK2015遺構図・出土遺物実測図 77
図2－88 SK2052遺構図・出土遺物実測図 78
図2－89 SK2053遺構図・出土遺物実測図 78
図2－90 SK2057遺構図・出土遺物実測図 79
図2－91 SK2061遺構図・出土遺物実測図 79
図2－92 SK2062遺構図・出土遺物実測図 80
図2－93 SK2070・2162遺構図・出土遺物実測図 80
図2－94 SK2081遺構図・出土遺物実測図 81
図2－95 SK2090遺構図・出土遺物実測図 82
図2－96 SK2141遺構図・出土遺物実測図 83
図2－97 SK2143遺構図・出土遺物実測図 83
図2－98 SK2147遺構図・出土遺物実測図 84
図2－99 SK2149遺構図・出土遺物実測図 84
図2－100 SK2151遺構図・出土遺物実測図 85
図2－101 SK3001遺構図 85

図2－102 SK3001出土遺物実測図1 86
図2－103 SK3001出土遺物実測図2 87
図2－104 SK3002遺構図 87
図2－105 SK3002出土遺物実測図1 88
図2－106 SK3002出土遺物実測図2 89
図2－107 SK3002出土遺物実測図3 90
図2－108 SK出土遺物実測図1 91
図2－109 SK出土遺物実測図2 93
図2－110 SK出土遺物実測図3 94
図2－111 SD出土遺物実測図1 95
図2－112 SD出土遺物実測図2 96
図2－113 ピット出土遺物実測図1 98
図2－114 ピット出土遺物実測図2 99
図2－115 ピット出土遺物実測図3 100
図2－116 ピット出土遺物実測図4 101
図2－117 ピット出土遺物実測図5 102
図2－118 ピット出土遺物実測図6 103
図2－119 ピット出土遺物実測図7 104
図2－120 ピット出土遺物実測図8 105
図2－121 ピット出土遺物実測図9 106
図2－122 ピット出土遺物実測図10 107
図2－123 SX1遺構図・出土遺物実測図 108
図2－124 包含層出土遺物実測図1（弥生土器・土師器） 110
図2－125 包含層出土遺物実測図2（弥生土器・庄内式土器） 111
図2－126 包含層出土遺物実測図3（弥生土器・土師器） 112
図2－127 包含層出土遺物実測図4（弥生土器・土師器） 113
図2－128 包含層出土遺物実測図5（石製品） 113
図2－129 包含層出土遺物実測図6（石製品） 114
図2－130 包含層出土遺物実測図7（土師器） 115
図2－131 包含層出土遺物実測図8（土師器） 116
図2－132 包含層出土遺物実測図9（土師器） 117
図2－133 包含層出土遺物実測図10（土師器） 118
図2－134 包含層出土遺物実測図11（土師器） 119
図2－135 包含層出土遺物実測図12（土師器） 120
図2－136 包含層出土遺物実測図13（須恵器） 121
図2－137 包含層出土遺物実測図14（須恵器） 122
図2－138 包含層出土遺物実測図15（須恵器） 123
図2－139 包含層出土遺物実測図16（須恵器） 124

図2－140 包含層出土遺物実測図17（緑釉陶器・黒色土器・瓦器・白磁・磁器）..... 125
図2－141 包含層出土遺物実測図18（瓦）..... 126
図2－142 包含層出土遺物実測図19（土製品）..... 126
図2－143 包含層出土遺物実測図20（鉄製品）..... 126

遺物観察表目次

遺物観察表　1 ～ 20..... 129
遺物観察表　21 ～ 40..... 130
遺物観察表　41 ～ 60..... 131
遺物観察表　61 ～ 80..... 132
遺物観察表　81 ～100..... 133
遺物観察表 101 ～120..... 134
遺物観察表 121 ～140..... 135
遺物観察表 141 ～160..... 136
遺物観察表 161 ～180..... 137
遺物観察表 181 ～200..... 138
遺物観察表 201 ～220..... 139
遺物観察表 221 ～240..... 140
遺物観察表 241 ～260..... 141
遺物観察表 261 ～280..... 142
遺物観察表 281 ～300..... 143
遺物観察表 301 ～320..... 144
遺物観察表 321 ～340..... 145
遺物観察表 341 ～360..... 146
遺物観察表 361 ～380..... 147
遺物観察表 381 ～400..... 148
遺物観察表 401 ～420..... 149
遺物観察表 421 ～440..... 150
遺物観察表 441 ～460..... 151
遺物観察表 461 ～480..... 152
遺物観察表 481 ～500..... 153
遺物観察表 501 ～520..... 154
遺物観察表 521 ～540..... 155
遺物観察表 541 ～560..... 156
遺物観察表 561 ～580..... 157

遺物観察表 581 ～600 158
遺物観察表 601 ～620 159
遺物観察表 621 ～640 160
遺物観察表 641 ～660 161
遺物観察表 661 ～680 162
遺物観察表 681 ～700 163
遺物観察表 701 ～720 164
遺物観察表 721 ～740 165
遺物観察表 741 ～760 166
遺物観察表 761 ～780 167
遺物観察表 781 ～800 168
遺物観察表 801 ～820 169
遺物観察表 821 ～840 170
遺物観察表 841 ～860 171
遺物観察表 861 ～880 172
遺物観察表 881 ～900 173
遺物観察表 901 ～920 174
遺物観察表 921 ～940 175
遺物観察表 941 ～960 176
遺物観察表 961 ～980 177
遺物観察表 981 ～1000 178
遺物観察表1001 ～1020 179
遺物観察表1021 ～1040 180
遺物観察表1041 ～1060 181
遺物観察表1061 ～1080 182
遺物観察表1081 ～1100 183
遺物観察表1101 ～1120 184
遺物観察表1121 ～1140 185
遺物観察表1141 ～1161 186
遺物観察表1162 ～1182 187
遺物観察表1183 ～1203 188
遺物観察表1204 ～1224 189
遺物観察表1225 ～1245 190
遺物観察表1246 ～1266 191
遺物観察表1267 ～1287 192
遺物観察表1288 ～1308 193
遺物観察表1309 ～1329 194
遺物観察表1330 ～1350 195

遺物観察表1351 ～1371 196
遺物観察表1372 ～1392 197
遺物観察表1393 ～1413 198

第Ⅰ章　遺跡の概要と調査の経過

1．西野遺跡の概要

西野遺跡が所在する高知県香南市は、平成18年3月に赤岡町・香我美町・野市町・夜須町・吉川村が合併し誕生した自治体である。東西約18km、南北約15km、総面積は約126㎢で、東は安芸市・安芸郡芸西村、西は南国市、北は香美市に隣接する。南部は土佐湾に面し、北部は四国山脈に連なる山岳地帯である。人口約33,190人（令和3年12月現在）で、恵まれた自然を生かした農業や漁業などの一次産業が盛んな地域である。野市町は西部の南国市との境界に当たる一級河川物部川の左岸に展開する。物部川の古期扇状地性堆積物である砂礫層からなる野市台地上の縁辺に西野遺跡が立地する。

西野遺跡は南北約600m、東西約250mを測る、物部川左岸の河岸段丘上に展開する遺跡である。北部に深渕遺跡、南部に下ノ坪遺跡・北地遺跡など弥生時代から奈良・平安時代にかけての遺跡が広がる遺跡地帯の中央部に位置する。発見当初はこれらの遺跡地帯を一連の遺跡群と捉え、「西野遺跡群」の名称が採用されたようである[(1)]が、遺跡範囲から見ても「西野遺跡群」ではなく「西野遺跡」と呼称することが適当と考えられ、令和3年度に名称変更がなされた。本書では遺跡名を「西野遺跡」と統一して報告を行う。本報告の調査地点は、高知県香南市野市町西野、小字を「ルノ丸」とするルノ丸地区に所在する。

先述の通り、西野遺跡は物部川左岸に展開する河岸段丘上に展開する遺跡群のひとつである。この周辺は、弥生時代前期末に物部川対岸の拠点的集落である田村遺跡群から分村によって集落が成立し、以後盛衰を繰り返しながら集落が拡大する遺跡が点在している。弥生時代前期末から中期初頭にかけて、周辺の北地遺跡・下ノ坪遺跡の他に、市内では香宗川流域の下分遠崎遺跡・十万遺跡・拝原遺跡などでも遺跡数が急増しており、西野遺跡もその一つとして位置付けることができる。弥生時代から古墳時代にかけて、西野遺跡周辺で発掘調査により確認された竪穴建物跡は100を超える。また、奈良から平安時代前期の官衙関連遺跡である深渕遺跡・下ノ坪遺跡、近世の石積み堤防が

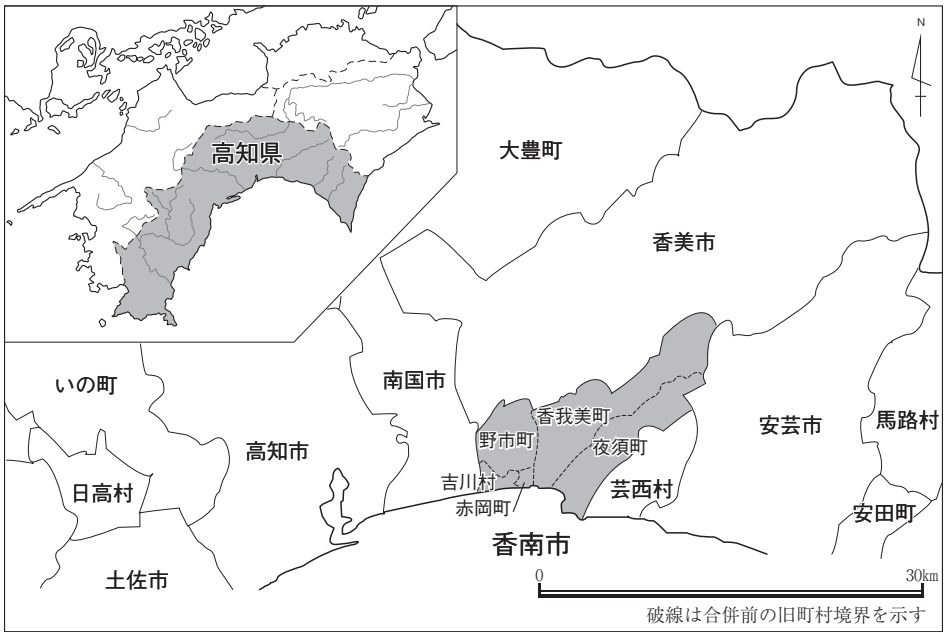


図1－1　香南市位置図

確認された上岡北遺跡など、以降も注目される遺跡が集中している。西野遺跡においても、弥生時代前期末、弥生時代後期末から古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、古代末から中世前期、近世の各時代の遺物が出土していることから、周辺遺跡の盛衰と連動し、連綿と生活が営まれてきた地域であることが示唆される。[2]

補注・参考文献

(1)『西野遺跡ルノ丸地区　2005年度調査』2013香南市教育委員会

(2) 地理的歴史的環境については、『西野遺跡ルノ丸地区　2005年度調査』で詳細が記載されているため割愛した。

図1－2　西野遺跡周辺の遺跡

No.	遺跡名	種別	時代
1	烏ヶ森城跡	城跡	中世
2	高田山城跡	城跡	中世
3	ノツゴ遺跡	散布地	弥生
4	西佐古遺跡	散布地	古代・中世
5	前ノ山城跡	城跡	中世
6	東佐古遺跡	散布地	弥生・古墳
7	上分古墳	古墳	古墳
8	小山谷古墳	古墳	古墳
9	鬼ヶ岩屋洞穴遺跡	洞穴遺跡	弥生・中世
10	笹ヶ峰遺跡	洞穴遺跡	弥生
11	白岩窯跡	窯跡	古代・中世
12	アゴデン窯跡	窯跡	古代
13	竹ノ内（溝渕山）古墳	古墳	古墳
14	亀山窯跡	窯跡	弥生・古代・中世
15	日吉山古墳群	古墳	古墳
16	父養寺城跡	城跡	中世
17	父養寺古墳	古墳	古墳
18	母代寺土居屋敷遺跡	集落跡	古代～中世
19	城八幡城跡	城跡	古墳
20	母代寺遺跡	散布地	古代・中世
21	深渕北遺跡	集落跡	弥生～中世
22	西上野遺跡	散布地	弥生
23	大谷城跡	城跡	中世
24	大谷遺跡	散布地	古墳・古代
25	大谷古墳	古墳	古墳
26	山下遺跡	散布地	古代・中世
27	中山田土居城跡	城跡	中世
28	兎田柳ヶ本遺跡	祭祀跡	弥生・古墳
29	兎田八幡宮遺跡	散布地	中世
30	西ノ谷遺跡	散布地	古代・中世
31	大崎山古墳	古墳	古墳
32	富家城跡	城跡	中世
33	本村遺跡	集落跡	弥生～中世
34	本村アンノヤシキ遺跡	散布地	古代・中世
35	曽我遺跡	集落跡	弥生～中世
36	香宗城跡	散布地	中世
37	香宗遺跡	散布地	中世
38	宝鏡寺跡	寺跡	古代～中世
39	東野土居遺跡	集落跡	旧石器～近世
40	東野遺跡	散布地	古代・中世
41	平井遺跡	散布地	古墳・古代
42	深渕城跡	城跡	中世

No.	遺跡名	種別	時代
43	深渕遺跡	散布地	弥生～中世
44	西野遺跡	集落跡	弥生～中世
45	北地遺跡	集落跡	弥生～中世
46	下ノ坪遺跡	集落跡	弥生～古代
47	上岡北遺跡	堤防・集落跡	弥生・近世
48	上岡遺跡	集落跡	弥生・古代
49	高田遺跡	集落跡	弥生～中世
50	下高田遺跡	集落跡	古代～中世
51	宇賀遺跡	散布地	弥生～中世
52	下井遺跡	散布地	古代・中世
53	八丁地遺跡	集落跡	古代
54	横井ナノ丸遺跡	散布地	中世～近世
55	横井ウノ丸遺跡	集落跡	古代～中世
56	野口遺跡	散布地	弥生～中世
57	射場屋敷遺跡	集落跡	弥生～中世
58	吉原遺跡	城跡	中世
59	八反遺跡	散布地	中世
60	浜口遺跡	散布地	弥生・古墳
61	南中曽遺跡	散布地	弥生・古墳
62	住吉砂丘遺跡	散布地	弥生
63	小屋敷遺跡	散布地	中世
64	ハザマ遺跡	散布地	弥生～中世
65	須留田城跡	城跡	中世
66	御所の前遺跡	散布地	弥生～中世
67	大東遺跡	散布地	古墳～中世
68	江見遺跡	散布地	古墳
69	岸本飛鳥神社西遺跡	集落跡	近世
70	岸本ヨノ丸遺跡	散布地	中世
71	四坊遺跡	散布地	中世
72	安岡家住宅	屋敷地	近世
73	岡ノ芝遺跡	散布地	古墳～中世
74	宮の西遺跡	集落跡	弥生・古墳
75	宮ノ前遺跡	散布地	弥生～中世
76	前田城跡	城跡	中世
77	下分遠崎遺跡	集落跡	弥生
78	中城跡	城跡	中世
79	久保田庵免遺跡	集落跡	古代・中世
80	久保田遺跡	集落跡	中世
81	刈谷城跡	城跡	中世
82	国吉城跡	城跡	中世
83	花宴遺跡	集落跡	弥生
84	徳王子大崎遺跡	集落跡	弥生・中世

2. これまでの調査と二次調査の経過

西野遺跡の発掘調査は平成17年度より令和3年度まで合計6度に渡って行われている。いずれも調査の原因は宅地開発に伴う緊急発掘調査である。ここでは、一次調査が開始された平成16年度から本書が刊行される令和3年度に至る西野遺跡発掘調査の経緯をまとめておく。

(1) 一次調査（平成17年度調査）の概要と成果

本書で報告する二次調査の調査区中央から北部へ約50mの地点で行われた宅地開発に伴う調査

で、全体の調査次数では一次調査に相当する。調査対象面積は2,409㎡、調査面積は564㎡である。平成16年度末に試掘調査、平成17年5～8月に本調査を実施、平成24年度に報告書が刊行された。検出遺構の主な帰属時期は4時期で、弥生後期末から古墳初頭(3世紀)、古墳後期(6世紀後半から7世紀初頭)、古代(8～10世紀)、古代末から中世前期(11～13世紀)である。竪穴建物跡が4棟、遺構番号を付した土坑は51基、ピットは343個である。

弥生時代後期末から古墳時代初頭の遺物が最も多く、4棟の竪穴建物跡及び8基の土坑、30個以上のピットが当該時期のもので、多くの弥生土器や土師器と共に庄内式土器などの搬入品も出土している。古墳時代後期及び古代の遺構は、明確に特定できるものは一部の土坑とピットなど僅かであるが、出土遺物の様相と周辺調査区の調査結果から、一定の範囲に広がっていたものと見られる。古代の遺物が出土した遺構は土坑20基以上とピット50個以上を占める。8世紀代の遺物が多く、赤色顔料の施された土師器や緑釉陶器、黒色土器など、官衙関連の集落と推察される遺物も出土している。特筆すべき遺物としては、SK45からU字形鍬・鋤先が挙げられる。古代末から中世前期の遺構はピット8基である。また調査区中央部の南北方向の溝(SD7)からは弥生時代から中世前期にかけて細片を含めて600点以上の遺物が出土している。

⑵ 二次調査(平成18年度調査)の経過と概要

宅地開発に伴い、二次調査及び三次調査の試掘調査を平成17年10月に行った。試掘調査の結果、調査対象地には良好な遺物包含層が遺存しており、弥生土器・土師器・須恵器などが約4,000点出土した。この結果を受け、香南市教育委員会では、宅地部分については盛土によって遺跡の保護を行うこととし、永久構造物である全面道路施工部と掘削深度の深い浄化槽設置部において、埋蔵文化財の調査を実施し記録保存を行うこととした。宅地開発の対象地約15,000㎡の内、北西部の約8,700㎡を二次調査対象とし、調査面積は約4,500㎡である。

本発掘調査は、平成18年4月4日から平成19年3月30日まで、約1年間に渡って実施された。北部のA～D・J～L区ついては第一分冊である本報告書で、南部の調査区については、第二分冊において報告を行う。

⑶ 三次調査の概要

平成17年度に実施した試掘調査の結果を元に、宅地開発の対象地の南東部で行われた調査である。調査対象地は約7,400㎡、調査面積は約3,000㎡である。平成18年10月1日から平成19年3月30日の約6ヶ月に渡って実施された。調査区南西部の弥生時代後期末の竪穴建物跡より青銅器銅矛再加工品が出土し、平成20年8月に記者発表が行われた。この他にも銭貨(萬年通寶)などの注目される遺物を含め、二次調査と合わせて弥生土器約75,200点、土師器約47,600点、須恵器約28,900点、瓦質土器約600点、中世陶磁器約230点、近世陶磁器約160点、瓦約2,700点、石製品約300点、鉄製品約210点などが出土した。検出遺構は弥生時代後期や古墳時代の竪穴建物跡約10棟など多数である。

⑷ 四次調査の概要

二次調査の調査区の南東部で、浄化槽整備計画のある範囲について調査を行なった。調査対象面積は約905㎡、調査面積は170㎡である。二次調査の調査区に隣接するため、北区・南区の2調査区の内、北区は本報告書、南区については第二分冊において報告を行う。調査期間は平成19年10月9日から11月8日の約1ヶ月で、検出遺構や出土遺物は概ね二次・三次調査と同様の内容である。弥生土器・土師器・須恵器・貿易陶磁器などが出土し、検出遺構は、竪穴建物跡3棟、溝跡8条、柱穴等約300個である。

⑸ 五次調査の概要

二次調査の調査区の北西部で、宅地開発に伴い影響を受ける範囲について行われた調査である。平成22年11月4日から翌23年1月7日まで行われた。調査対象面積は2,284㎡、調査面積は約700㎡である。これまでの調査と遺構・遺物の様相はほぼ同様であるが、弥生時代後期の遺物については後期前半に限定されており、後期後半の遺物は殆ど確認されていない。調査区西端の土坑2基と、東部の溝跡から弥生時代前期末の遺物がまとまって出土している。

⑹ 六次調査の概要

二次調査の調査区の東部で実施された宅地開発に伴う調査で、調査対象地は約3,500㎡、調査面積は1,320㎡である。令和3年4月1日から9月20日まで約6ヶ月に渡って実施された。検出遺構は竪穴建物跡9棟、掘立柱建物跡10棟、土坑75基、溝跡37条、遺物が出土した柱穴879個で、出土遺物の様相は概ねこれまでの調査と同様である。弥生時代後期末の土器及び庄内式土器、大型の扁平片刃石

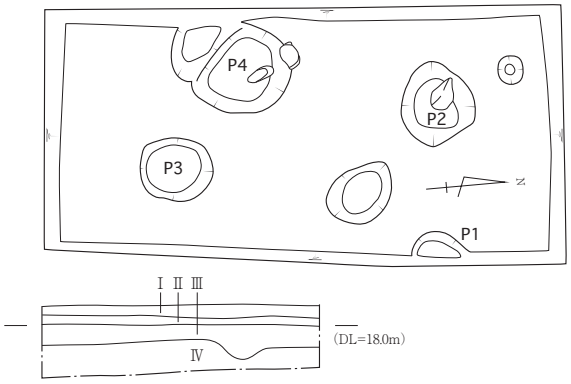
図1－3　西野遺跡1～6次調査区位置図

斧が出土した。

3. 試掘調査の概要

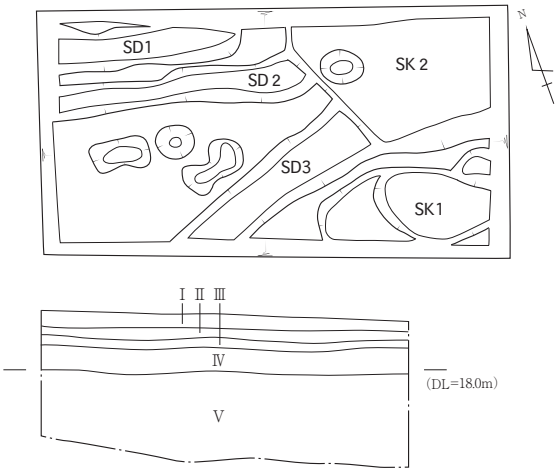
試掘調査は平成17年度二次調査と三次調査の調査範囲を対象に行われた。ここでは、平成17年度に作成された『西野ルノ丸地区南宅地開発に伴う試掘確認調査概報』を元に試掘調査の概要をまとめる。本報告書に掲載する二次調査の対象地の範囲内のトレンチはTR7～15で、調査面積は全体で168㎡である。調査方法は以下の通りである。重機及び手掘りにより遺構・遺物の有無を確認を行い、検出した遺構については平面図を作成した。それぞれの位置については平板による測量を行い、土層の確認はセクション図を作成し、記録を行なった。以下にそれぞれのトレンチについて詳細を報告する。

図1－4　試掘調査位置図

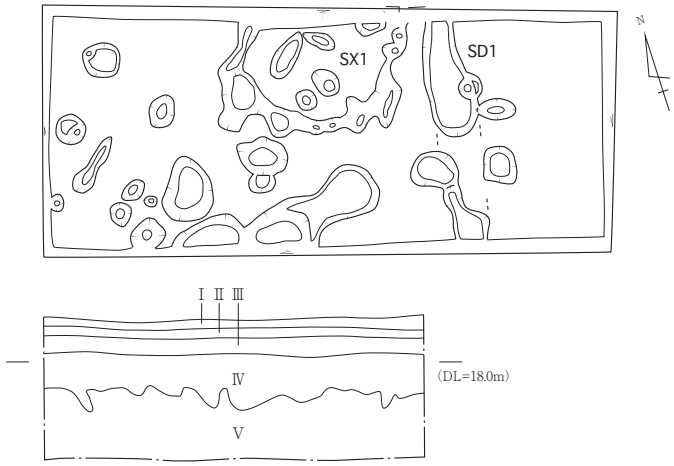


TR7 西壁　基本層序
Ⅰ層　表土
Ⅱ層　灰黄色シルト質土（基盤）
Ⅲ層　黒色シルト質土（遺物包含層）
Ⅳ層　明黄色シルト質土～砂質土（礫混）

TR7

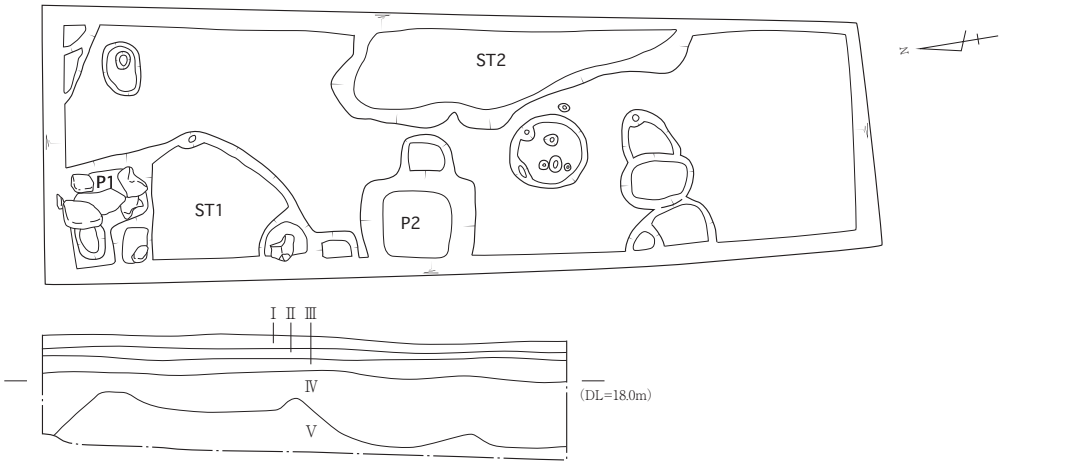


TR10



TR8

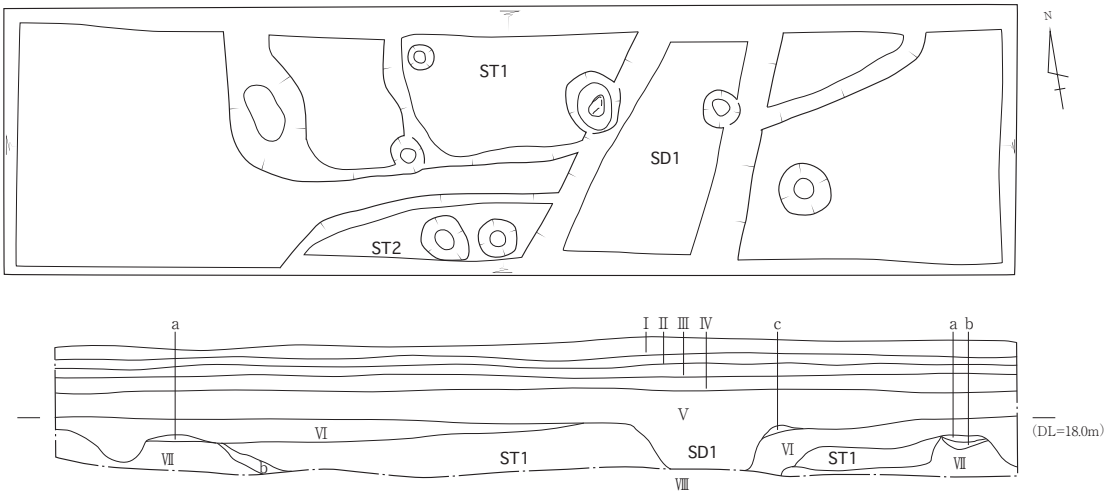
TR8 北壁 TR9 東壁 TR10 北壁 基本層序
Ⅰ層　表土
Ⅱ層　灰黄色シルト質土（基盤）
Ⅲ層　灰色シルト質土
Ⅳ層　黒色シルト質土（遺物包含層）
Ⅴ層　明黄色シルト質土（地山）



TR9

0　1　2m
(S=1/60)

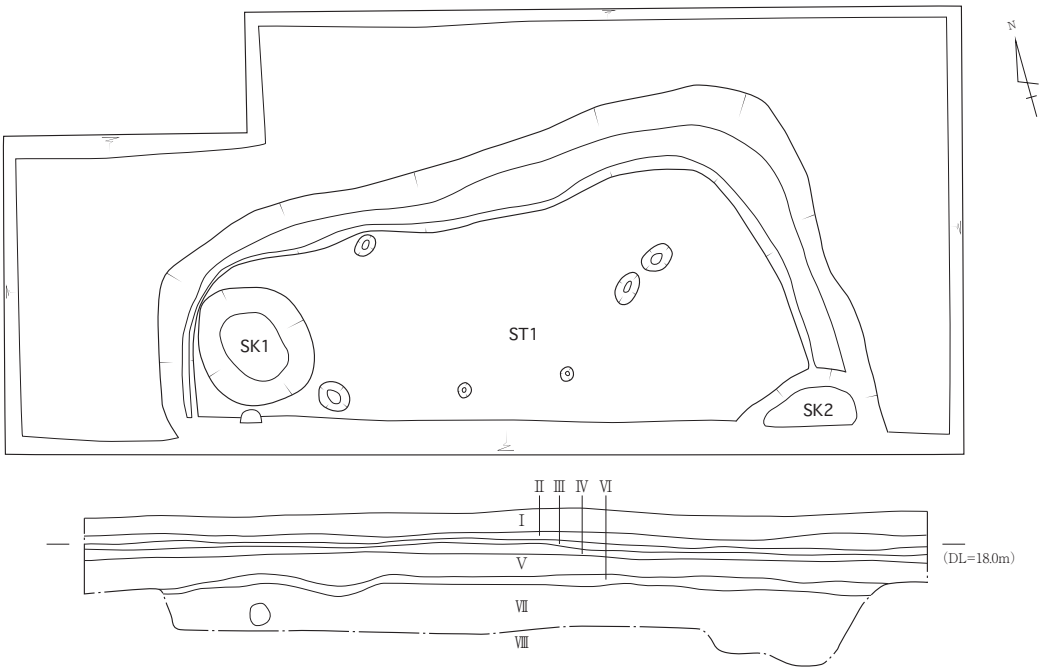
図1－5　試掘TR7～10遺構図



TR11 北壁 基本層序

Ⅰ層　表土
Ⅱ層　灰黄色シルト質土（基盤）
Ⅲ層　灰色シルト質土
Ⅳ層　灰黒色シルト質土
Ⅴ層　黒色シルト質土
Ⅵ層　濃黒色シルト質土
Ⅶ層　茶灰色シルト質土
Ⅷ層　明黄色シルト質土（礫混）
a 層　茶橙色シルト質土
b 層　黒茶色シルト質土
c 層　明橙色シルト質土

TR11



TR12 南壁 基本層序

Ⅰ層　表土
Ⅱ層　灰黄色シルト質土（基盤）
Ⅲ層　灰色シルト質土
Ⅳ層　灰黒色シルト質土
Ⅴ層　黒色シルト質土
Ⅵ層　濃黒色シルト質土
Ⅶ層　茶灰色シルト質土
Ⅷ層　明黄色シルト～砂質土（礫混）

TR12

0　1　2m
(S=1/60)

図1－6　試掘TR11・12遺構図

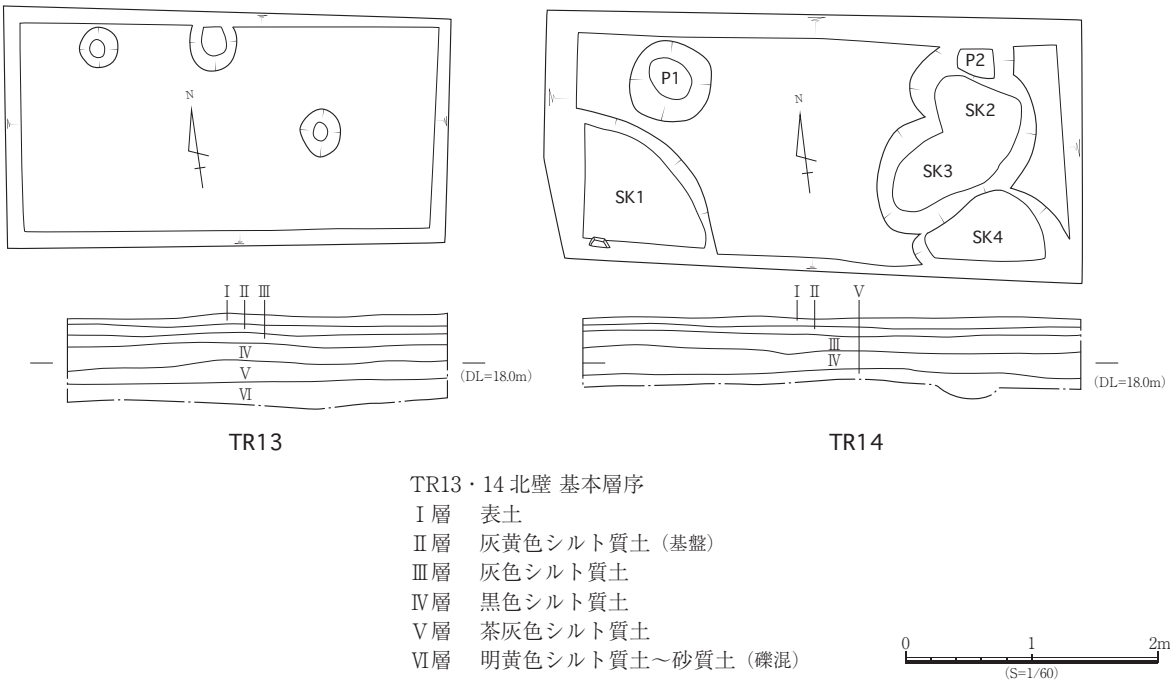


図1－7　試掘TR13・14遺構図

TR7

Ｂ区南端に設定した 4.1 × 2.0mのトレンチである。検出した遺構は、柱穴 6 個である。出土遺物は弥生土器細片 9 点、土師器細片 57 点、石製品 1 点である。

TR8

Ｂ区中央南寄り、TR7 の北側に設定した 4.6 × 2.0mのトレンチである。トレンチ東側で南北に延びる古代の溝 1 条と、柱穴多数、性格不明遺構 1 基を検出した。出土遺物は土師器細片 93 点、須恵器細片 1 点である。1 を図示した。

TR9

Ｂ区中央南寄り、TR8の北側に設定した6.5 × 2.1mのトレンチである。北側の西部隅と、中央東側に性格不明遺構を検出したが大半はトレンチ外へ延び、詳細は不明である。古代とみられる柱穴1個も検出した。出土遺物は、弥生土器細片 83 点、土師器細片 196 点、須恵器細片 10 点、近世陶磁器 1 点、土錘 1 点、石製品 1 点である。2～6 を図示した。

TR10

Ｂ区北部東寄りに設定した3.7 × 2.0mのトレンチである。東西に延びる溝 2 条と北東から南西に延びる溝 1 条と、土坑 2 基を検出した。土坑はSD2・3に切られる。出土遺物は弥生土器細片 48 点、土師器細片 17 点、須恵器細片 10 点である。7・8 を図示した。

TR11

Ｂ区北部中央に設定した 8.0 × 2.0mのトレンチである。南北に延びる幅約 1.4mの溝と、その溝に切られる竪穴建物跡とみられる遺構 2 棟を検出した。2 棟ともトレンチ外に延びる。出土遺物は弥生土器細片 498 点、土師器細片 13 点、須恵器細片 2 点である。尚、ST1 については、整理作業の際にST2005 と同一遺構であることが判明したため、ST2005 出土遺物として遺物実測図を第Ⅱ章に記載した。それ以外は 9～13 を図示した。

TR12

Ｂ区北部西寄りに設定した8.0 × 3.6mのトレンチである。古代の柱穴１個を検出した。トレンチ南側に竪穴建物跡を確認したため、南部の拡張を行なった。竪穴建物跡は長軸5.4mの隅丸方形状で、壁溝を確認した。出土遺物は弥生土器細片1,249点、土師器細片58点、須恵器細片１点、石製品２点である。14～41を図示した。33はST1床面で出土した。

TR13

Ｂ区西部北寄りに設定した3.5 × 1.8mのトレンチである。柱穴３個を検出した。出土遺物は土師器細片５点である。

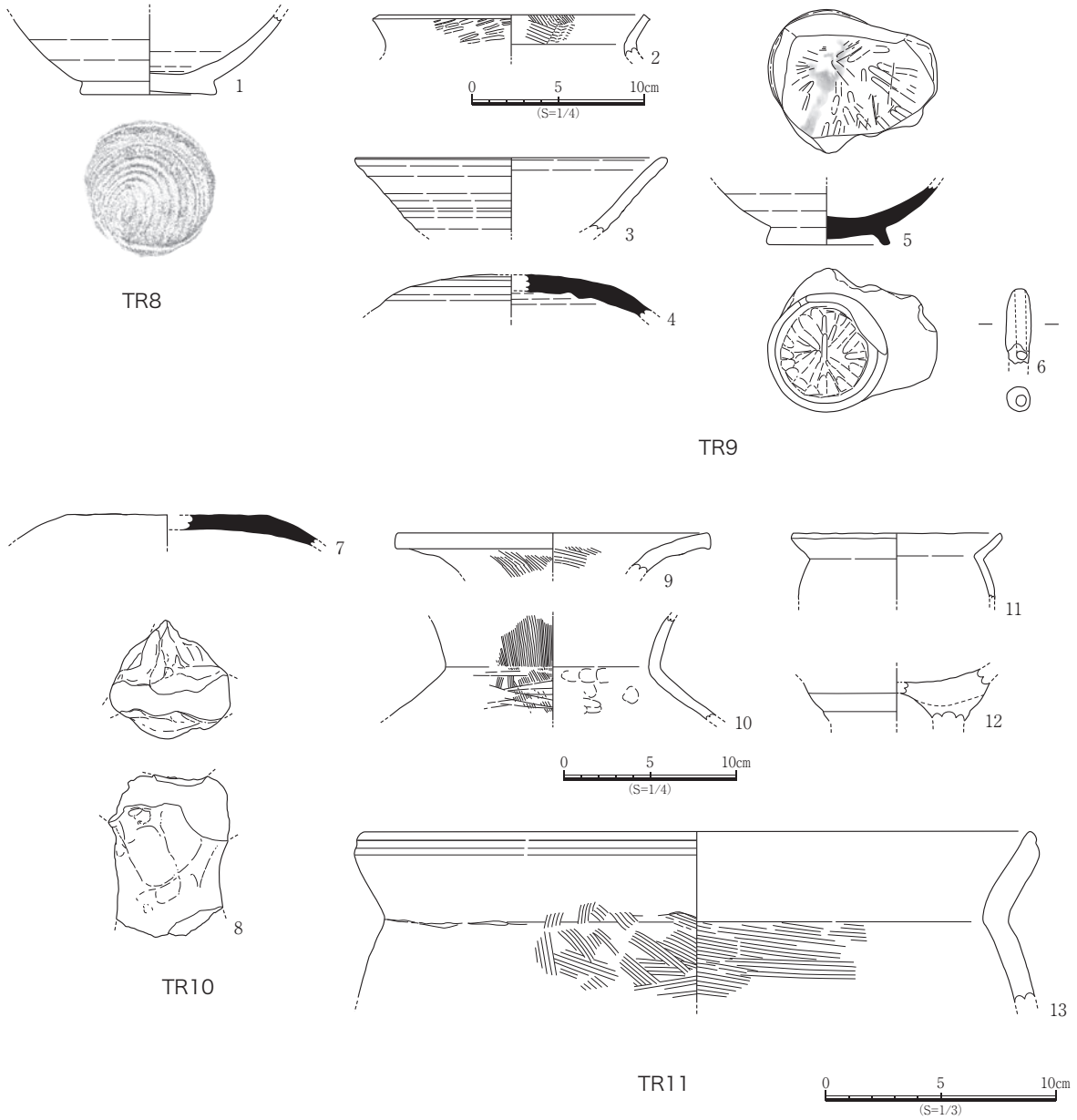


図１－８　試掘TR8～11出土遺物実測図

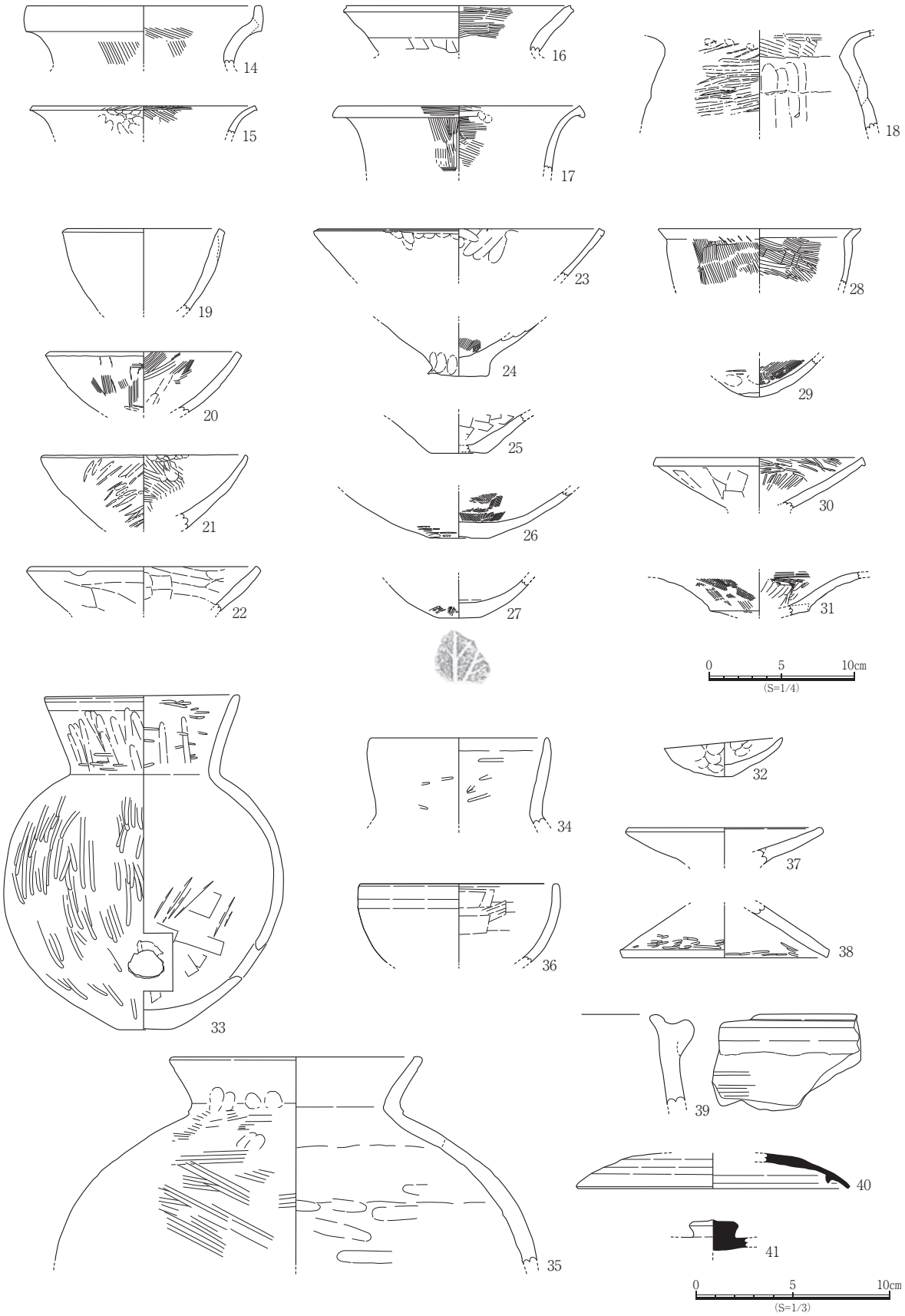


図1－9　試掘TR12出土遺物実測図

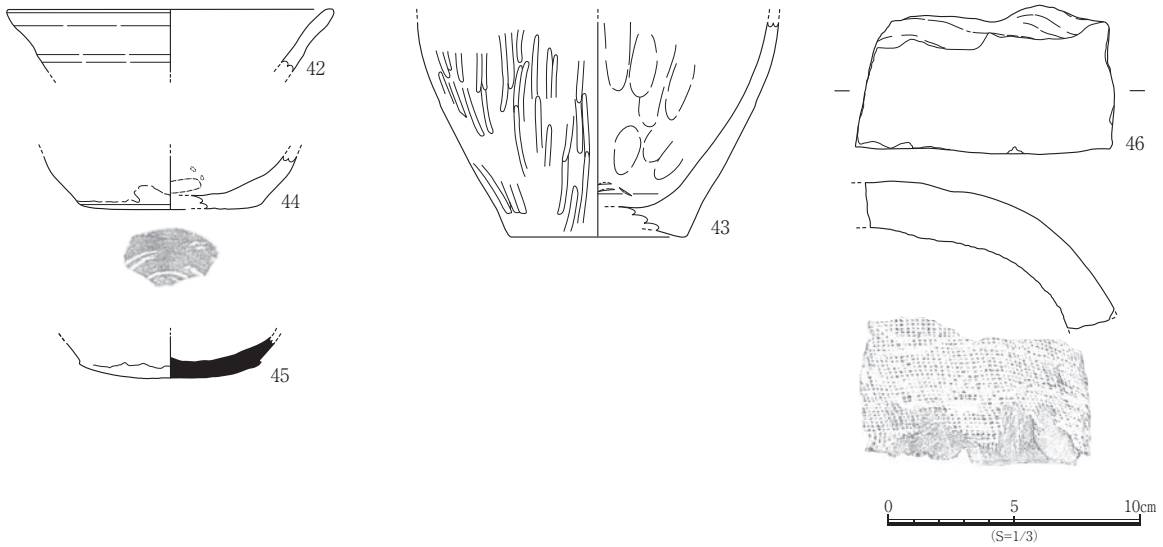


図1－10　試掘TR14出土遺物実測図

TR14

Ｂ区西部南寄りに設定した4.3 × 2.1mのトレンチである。西南隅に竪穴建物跡の一部とみられる落ち込みを確認した。東部の土坑からは布目圧痕を有する瓦や比熱した自然石が出土した。出土遺物は弥生土器細片16点、土師器細片47点、瓦1点、石製品1点である。42～46を図示した。

TR15

Ｂ区西部中央に設定した4.6 × 2.0mのトレンチである。遺構と思われるものは確認できなかった。出土遺物は土師器細片1点である。

まとめ

試掘調査の結果、本調査地点には良好な遺物包含層が遺存しており、弥生土器・土師器・須恵器等が約4,000点出土した。検出遺構についても、竪穴建物跡とみられる遺構7棟をはじめ、掘立柱建物と考えられる柱穴や土坑、溝等が多数検出され、調査地全体に弥生時代から古代(平安時代)の遺構を確認することができた。野市町深渕北遺跡から上岡遺跡にかけての物部川左岸、河岸段丘部や野市台地上一帯の遺跡とも密な関係を呈していることが考えられる。[1]

補注

(1)『平成17年度－西野ルノ丸地区南宅地開発に伴う試掘確認調査概報－』より抜粋、一部改変

第Ⅱ章　北部調査区の調査成果

1. 調査の方法

原則として、宅地開発計画の内、幅員6mの道路及び、その両側3mの浄化槽設置予定範囲の4,500㎡について調査を実施した。調査に際しては、任意の座標軸を採用した。4mごとのグリッドを設定し、東西方向については東部隅を起点としたアルファベット、南北方向は北部隅を起点として、位置情報の記録を行なった。任意座標軸の北は、公共座標軸より17度東傾する。

調査区名については掘削順にアルファベットを付したが、検出遺構については全調査区を通して続き番号を付した。遺構番号を付したのは、全ての竪穴建物跡及び溝跡、遺物が出土した土坑・ピット等である。掘立柱建物については、調査時には個別のピットとして記録を取り、整理作業の際に遺

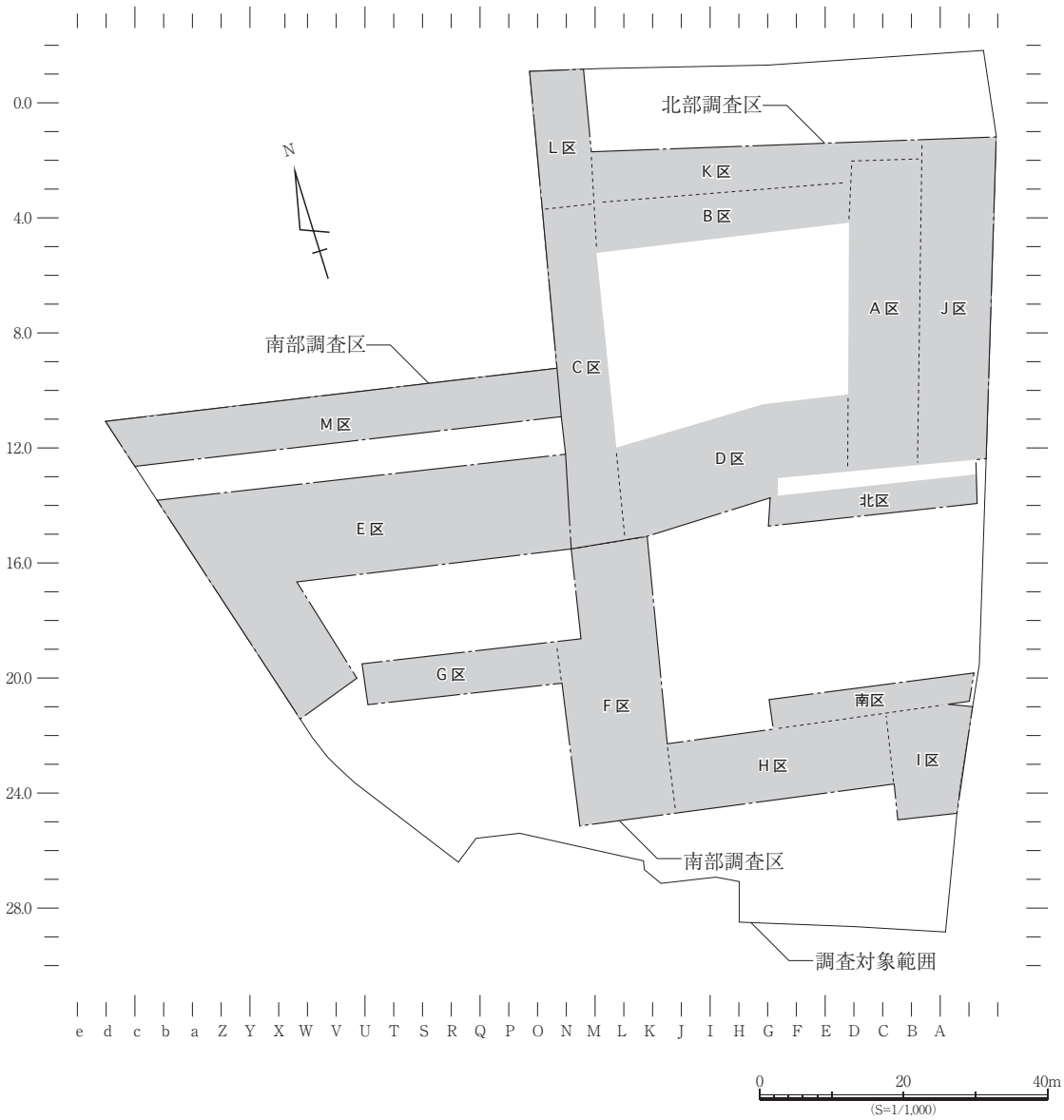


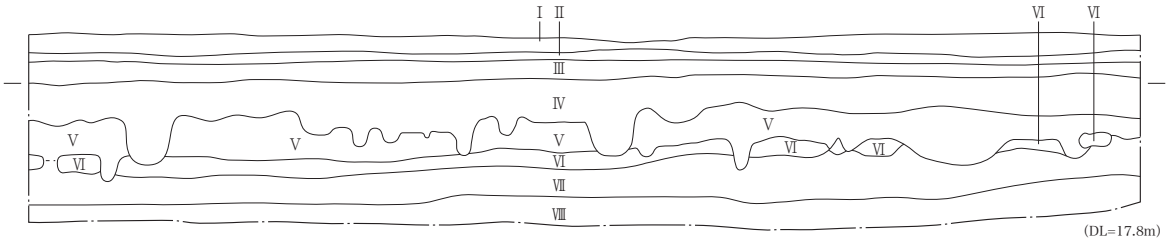
図2－1　調査区位置図・グリッド設定図

構番号を付した。

発掘調査は、耕作土及び包含層の直上まで重機を用いて堆積土を除去し、包含層掘削・遺構検出・遺構埋土掘削を手作業で進めた。遺構の実測については、平面及び断面を縮尺20分の1、出土状態など必要に応じて縮尺10分の1等の図を作成し、記録を行なった。

2. 調査区の概要と基本層序

調査区の基本層序は以下の通りである。土質及び色調については、調査時の記録を採用している。H区南壁ではⅤ層、J区東壁ではⅣ層が遺物包含層である。包含遺物は弥生時代前期末から近世までが混在する。遺構検面の標高は東部J区で17.90～18.10m、西部E区で17.20～17.80m、南部H区で17.40～17.60m、北部K区で17.80～18.10mである。北東部が高く、南西部へ向かって僅かに傾斜している。



層位
Ⅰ層　表土
Ⅱ層　灰黄色シルト質土（基盤）
Ⅲ層　灰色シルト質土
Ⅳ層　灰黒色シルト質土
Ⅴ層　黒色シルト質土
Ⅵ層　明橙色シルト質土
Ⅶ層　茶褐色シルト質土
Ⅷ層　黄色シルト質土（地山）

0　1　2m
(S=1/40)

図2－2　H区南壁セクション

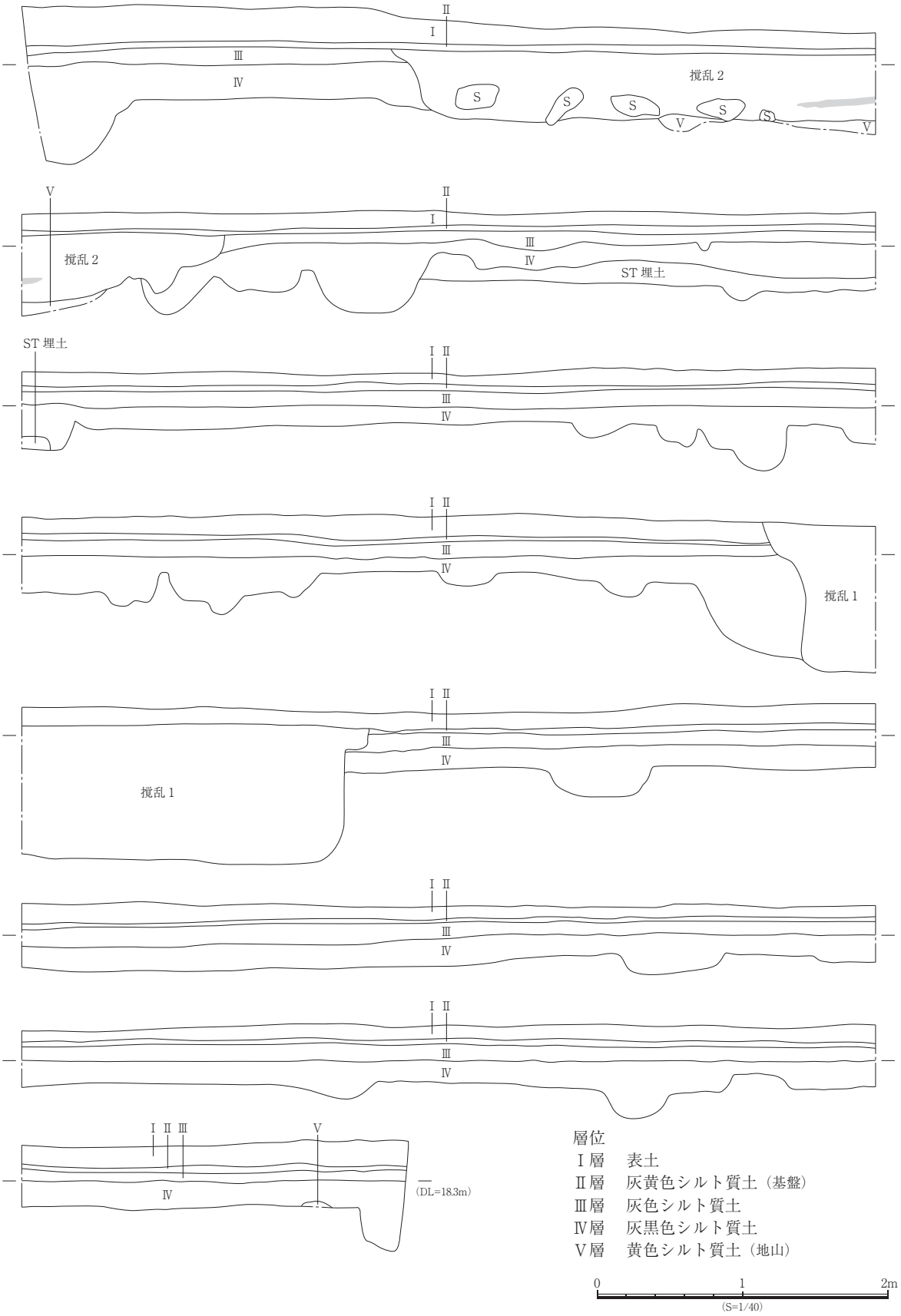


図2－3　J区東壁セクション

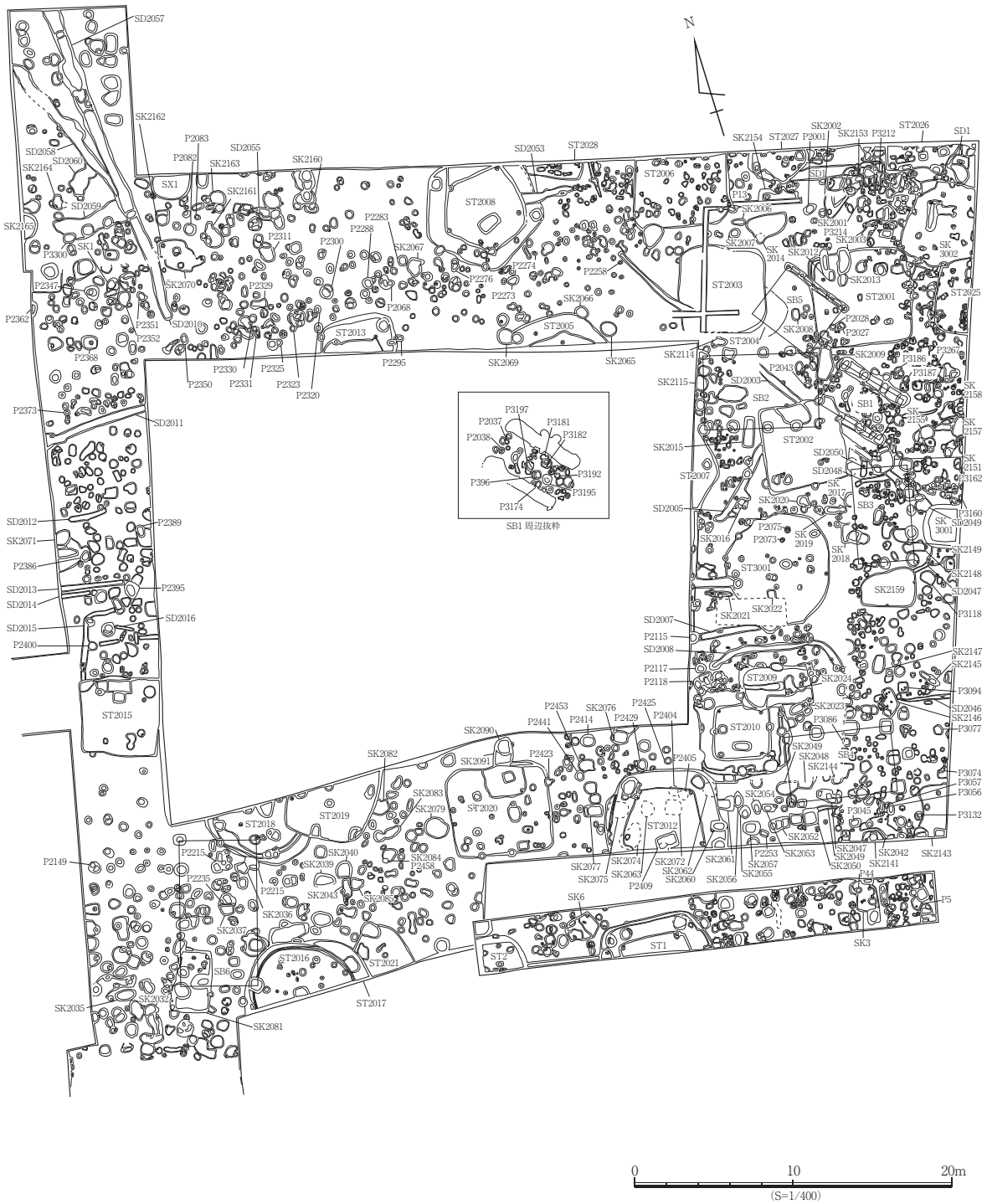


図2－4　遺構平面図

3．検出遺構と出土遺物

二次及び四次調査では、竪穴建物跡29棟、土坑94基、溝跡73条、ピット多数の遺構を検出した。遺構検出面は１面のみで、異なる時期の遺構が同一面で確認された。出土遺物から確認できる時期は、弥生時代前期末、弥生時代終末期から古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、古代末から中世前期、近世から近代と多岐に渡る。占める割合としては弥生時代終末期から古墳時代初頭、次に古墳時代後期、これに次いで古代から中世前期の遺物が確認されている。一方、いくつかの時期の遺物が混在して出土した遺構も多く、遺構の時期の特定が困難なものも多い。ここでは、調査区全体の内、主に北部のＡ～Ｄ・Ｊ～Ｌ区と四次調査（平成19年度）の北区で検出した遺構・遺物について報告する。

⑴竪穴建物跡

竪穴建物跡は異なる時期の遺構との切り合いが多く、出土遺物の混入もみられるが、概ね弥生時代終末期から古墳時代初頭、古墳時代後期の２時期のものが検出された。調査時の切り合い関係の記録が乏しく、整理作業の際に確定できた別時期の遺構については破線、判然としないものについては実線で床面検出遺構と同様の表記とした。出土遺物実測図については器種・器形ごとに図示し、詳細については、遺物観察表に記す。

ST2001

Ａ・Ｊ区北部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡である。長軸は6.40m 、短軸は6.24mを測り、面積は約 40.00 ㎡である。検出面からの深さは約 0.16mで、床面標高は約 18.00mを測る。北部縁辺中央部に焼土を伴うカマドを検出した。床面北東部と南西部に複数の小ピットを検出したが、主柱穴については判然としない。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器等で、47～72を図示した。

ST2002

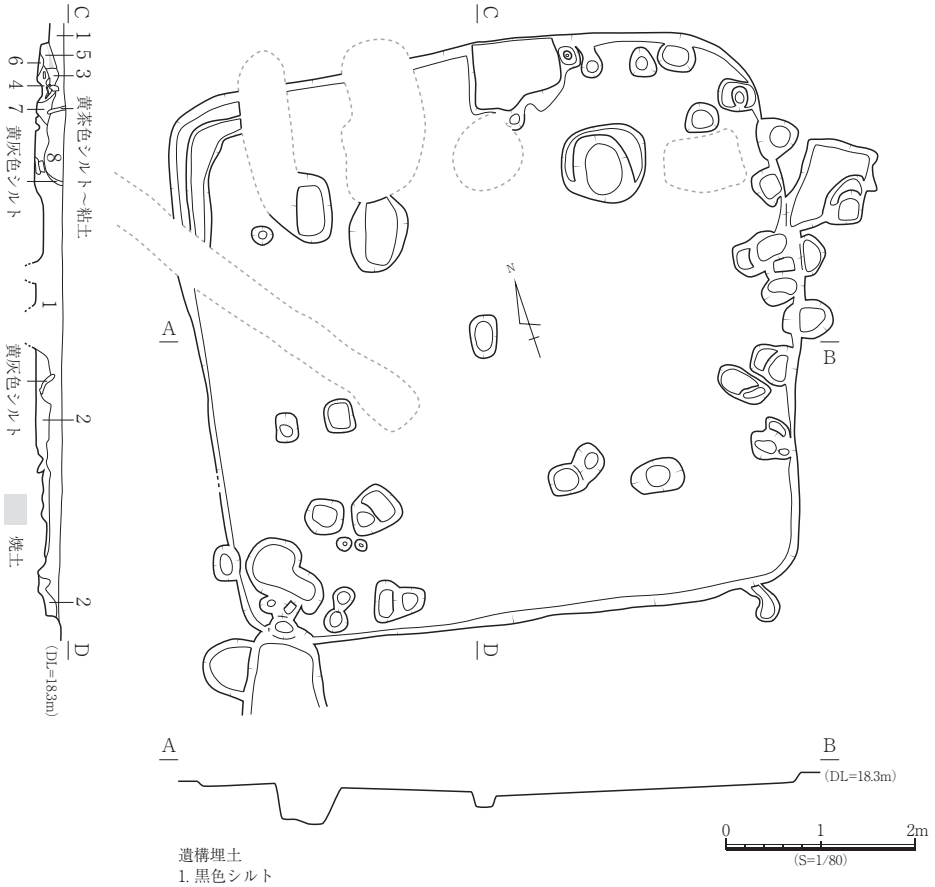
Ａ区中央部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡である。長軸は 5.28m 、短軸は 5.20mを測り、面積は約 27.00 ㎡である。検出面からの深さは約 0.16mで、床面標高は約 17.85mを測る。北部縁辺中央部にカマドを検出した。主柱穴については判然としない。出土遺物は弥生土器・須恵器・石製品等で、73～81を図示した。

ST2003・2004

ST2003はＡ区北部及びＢ区東部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡である。長軸は 6.72m 、短軸は5.48mを測り、面積は約37.00㎡である。検出面からの深さは約0.32mで、床面標高は約17.70mを測る。北部縁辺中央部にカマドを検出した。主柱穴は確認されていない。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器・石製品等で、82～134を図示した。ST2004はST2003に切られる、隅丸方形を呈するとみられる竪穴建物跡である。検出面からの深さは約 0.20mである。隅部のみ検出され、詳細は不明であるが、長軸3.20m以上、短軸1.20m以上、面積は24.00㎡以上をとみられる。出土遺物は弥生土器等で、135～139を図示した。

ST2005

Ｂ区南部で検出した多角形状を呈するとみられる竪穴建物跡で、調査区南部へ延びる。長軸は7.04m以上、短軸は2.44m以上を測り、面積は約8.81㎡以上である。検出面からの深さは約0.48mで、北部に深さ 0.24mの段部を有する。床面標高は約 17.60m 、下段は約 17.50mを測る。主柱穴については判然としない。出土遺物は弥生土器・土師器・石製品等で、140～159を図示した。試掘調査の際に出土したTR11の出土遺物についても、同一遺構のため合わせて掲載した。



遺構埋土
1. 黒色シルト
2. 黒色シルトに黄色シルトがブロック状に混じる
3. 黄色シルトに黒色シルトがブロック状に混じる（炭混じる）
4. 黄灰色シルト～粘質土に黒色炭化土がブロック状に混じる
5. 茶黒シルト
6. 黒色シルトに黄色シルトがブロック状に混じる
7. 茶灰色シルトに黒色シルトがブロック状に混じる
8. 黒色シルト（後世の土坑）

図2－5　ST2001遺構図

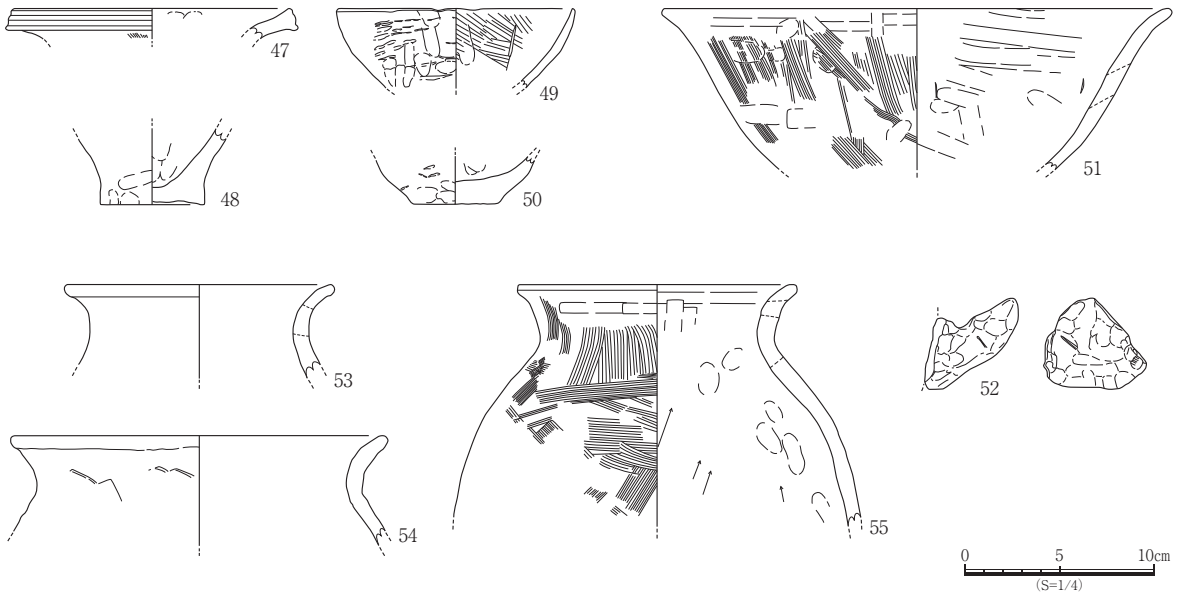


図2－6　ST2001出土遺物実測図1

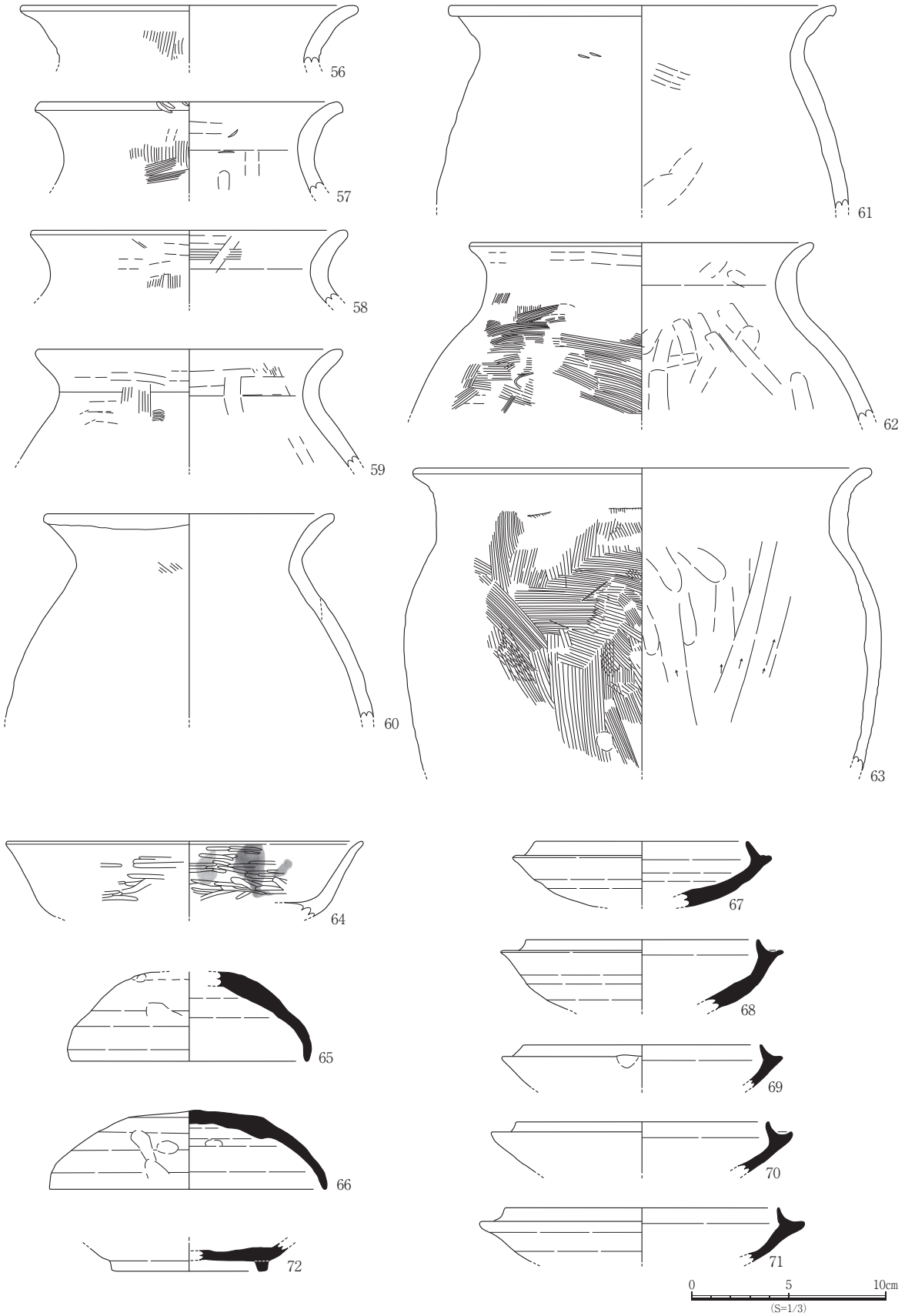


図2－7　ST2001出土遺物実測図2

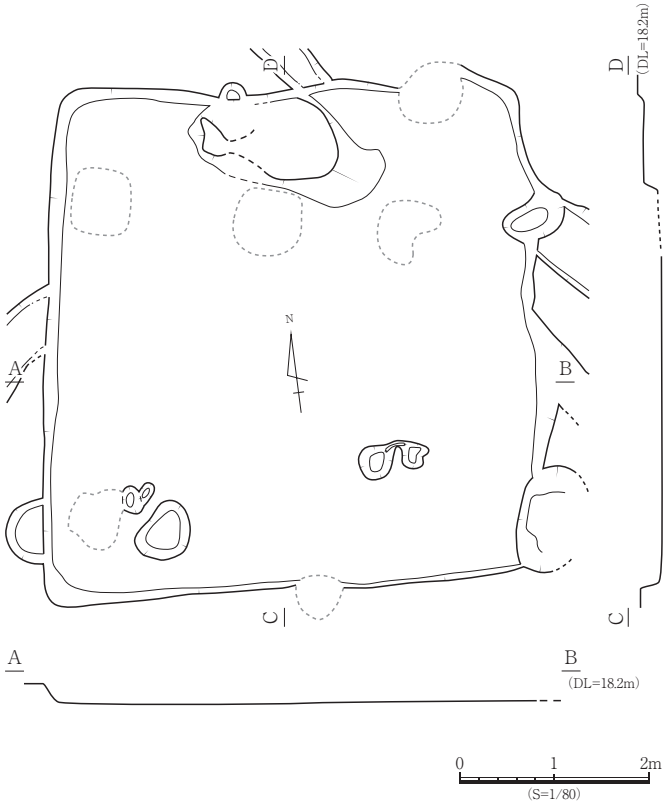


図2－8　ST2002遺構図

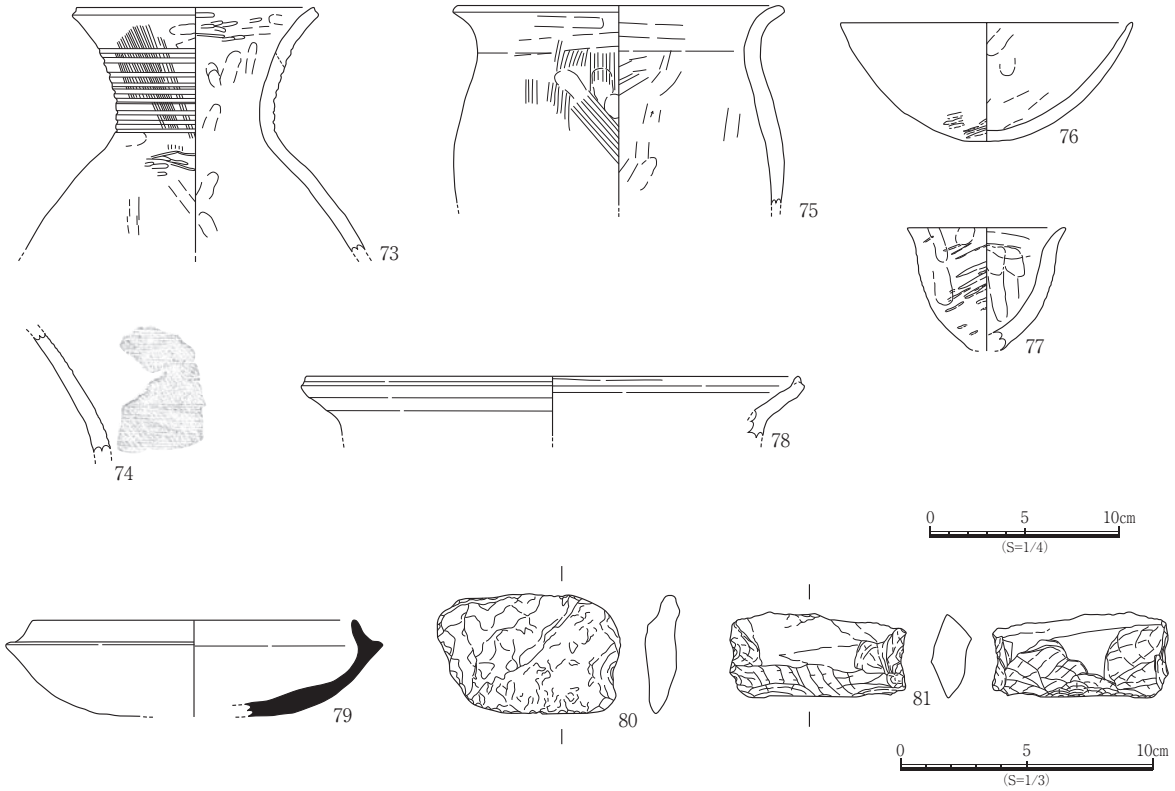


図2－9　ST2002出土遺物実測図

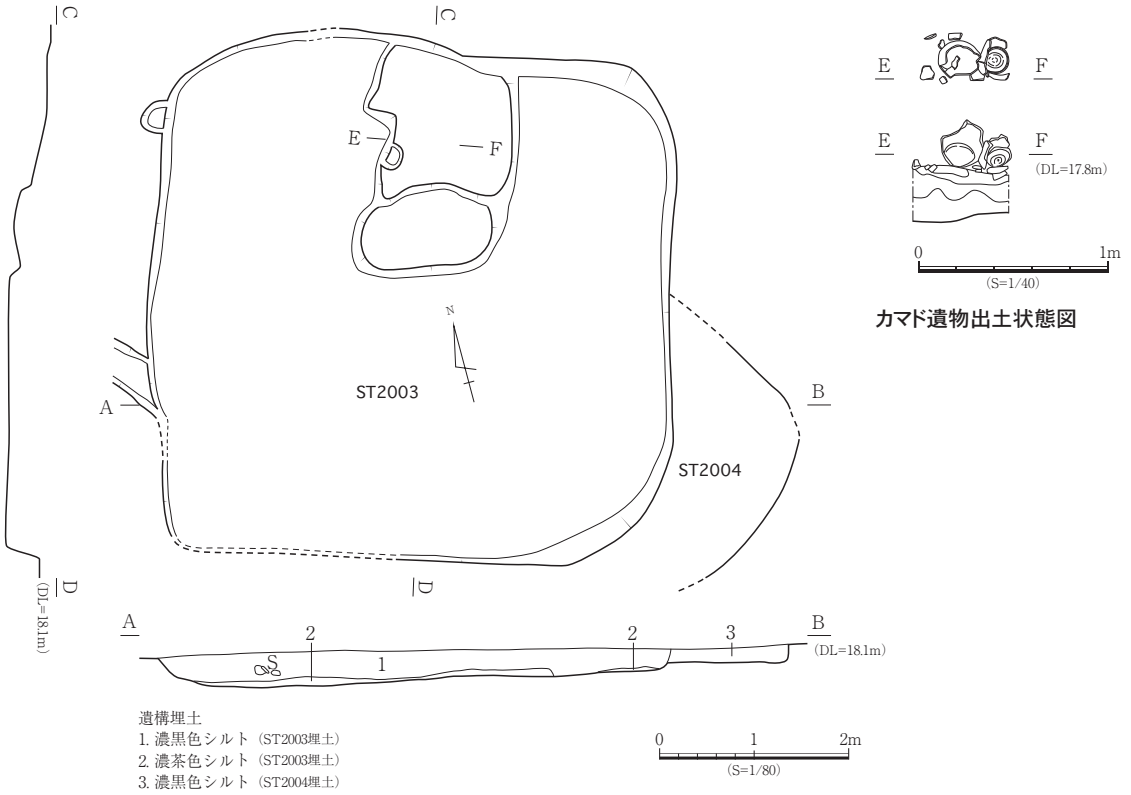


図2－10　ST2003・2004遺構図

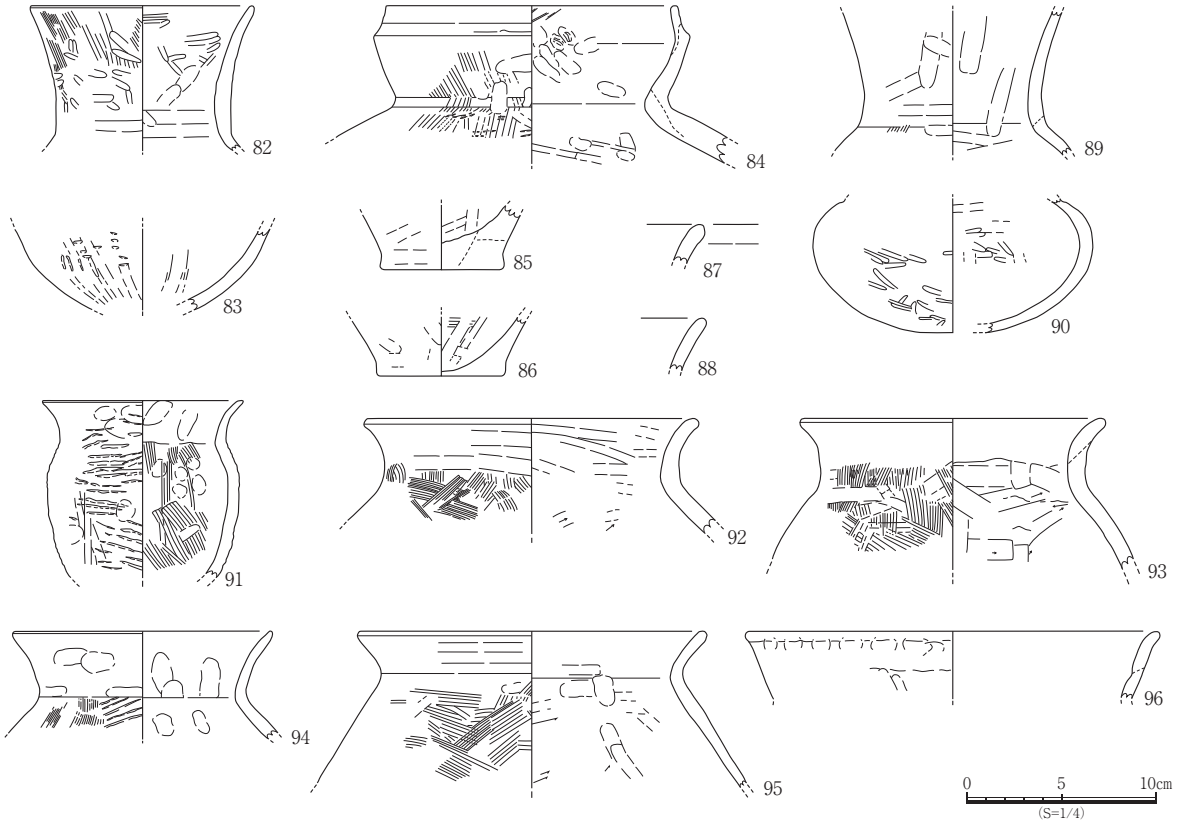


図2－11　ST2003出土遺物実測図1

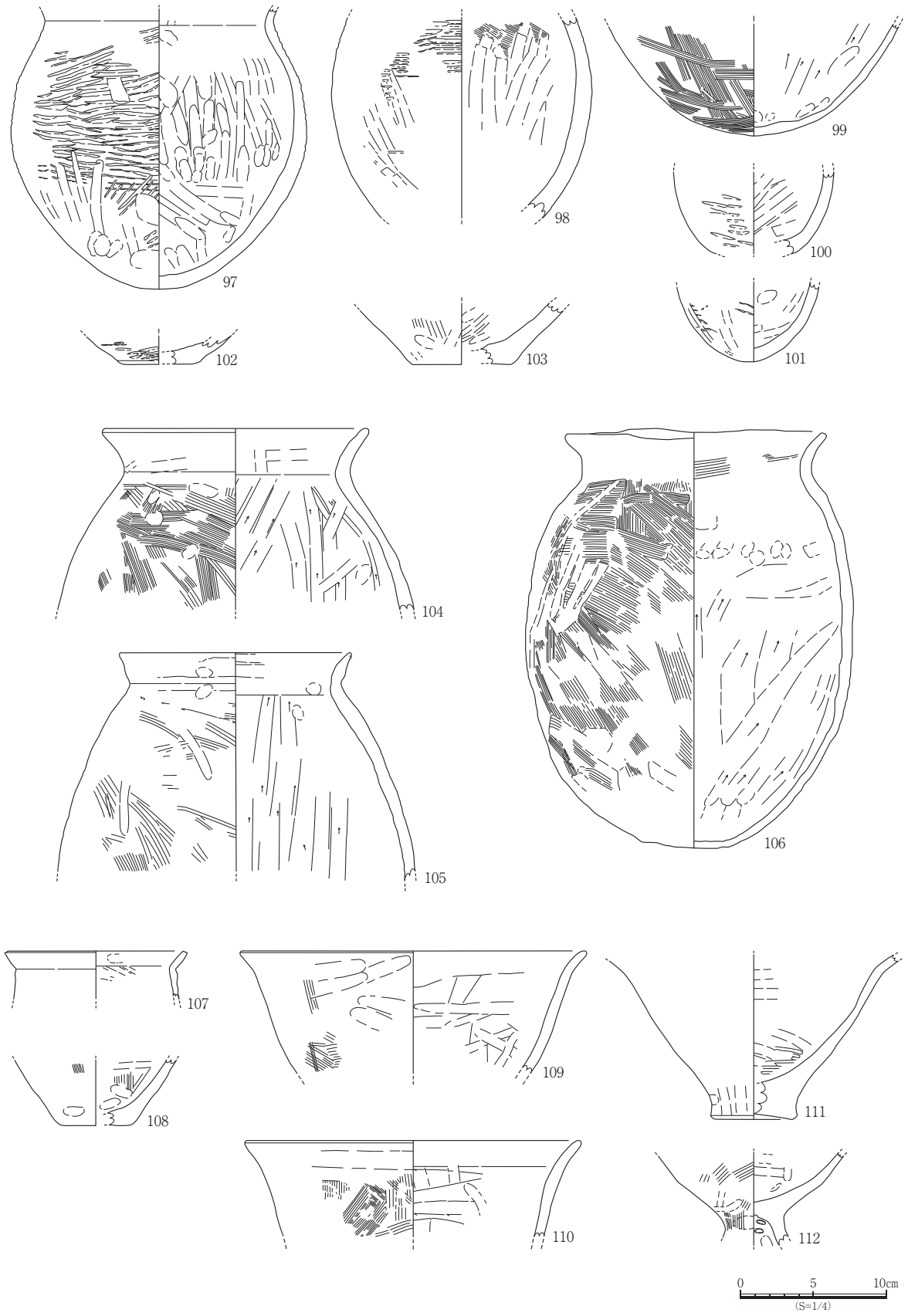


図2－12　ST2003出土遺物実測図2

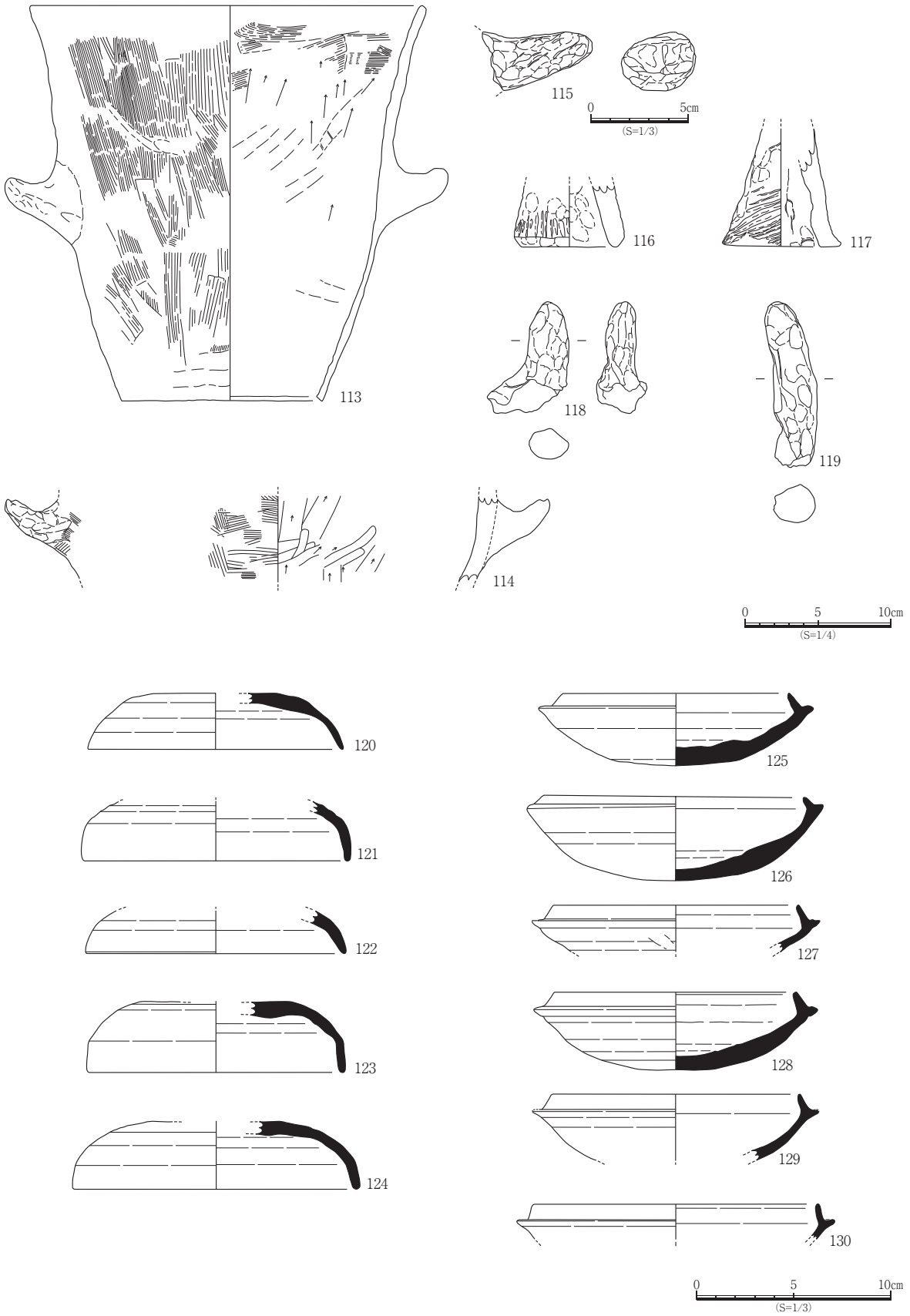


図2－13　ST2003出土遺物実測図3

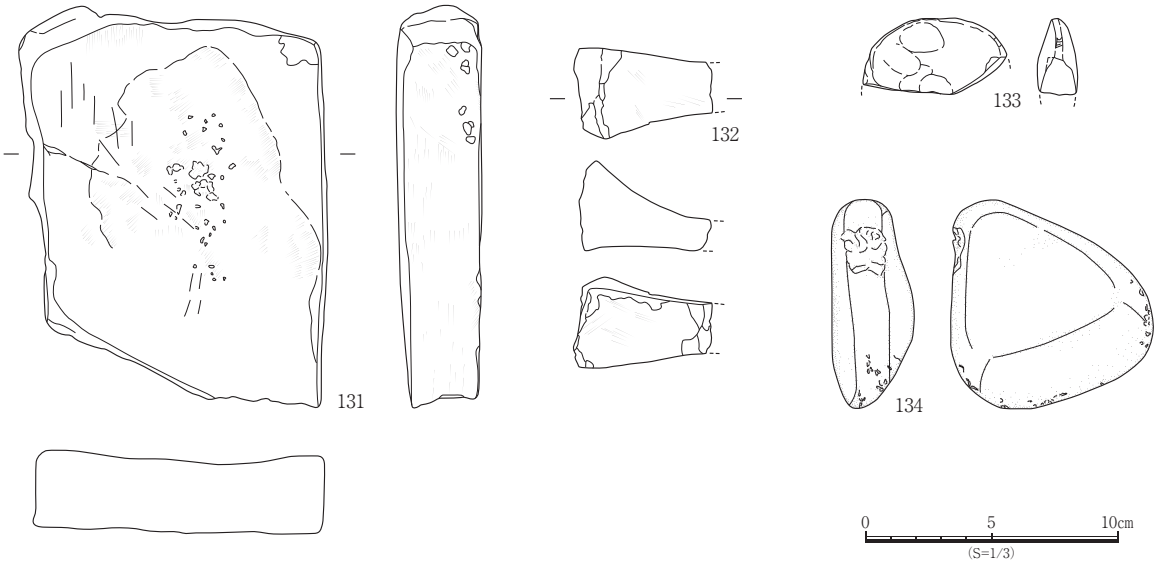


図2－14　ST2003出土遺物実測図4

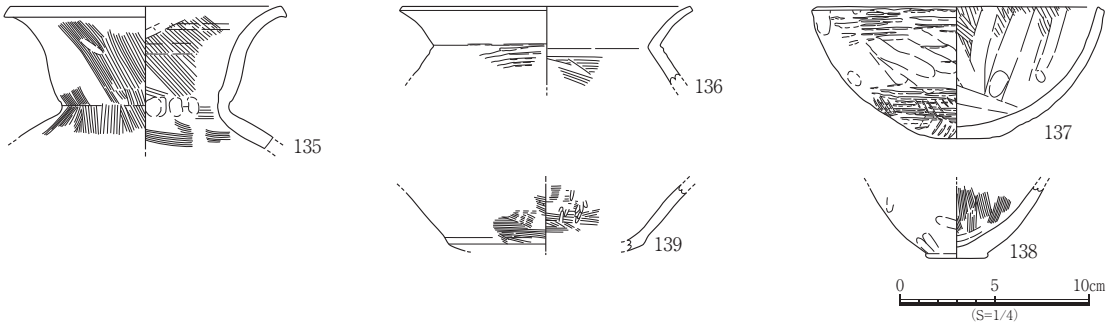


図2－15　ST2004出土遺物実測図

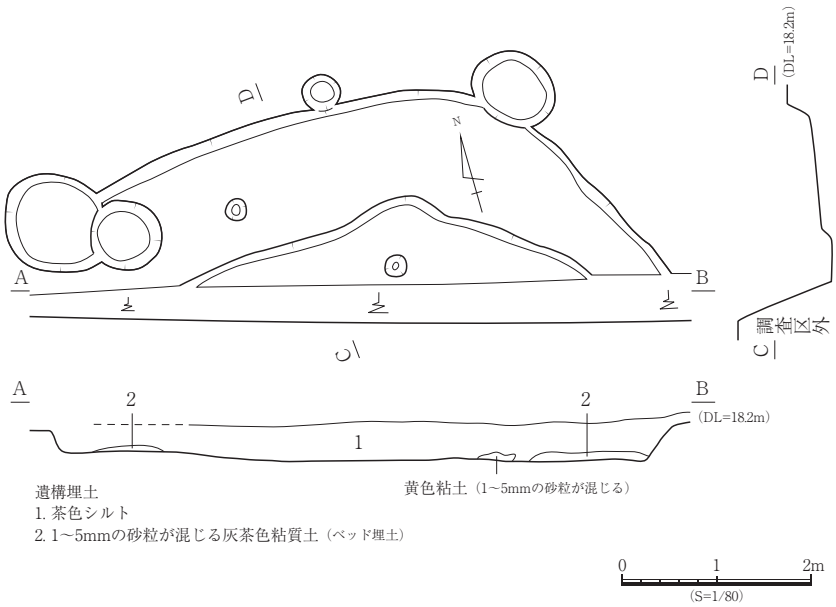


図2－16　ST2005遺構図

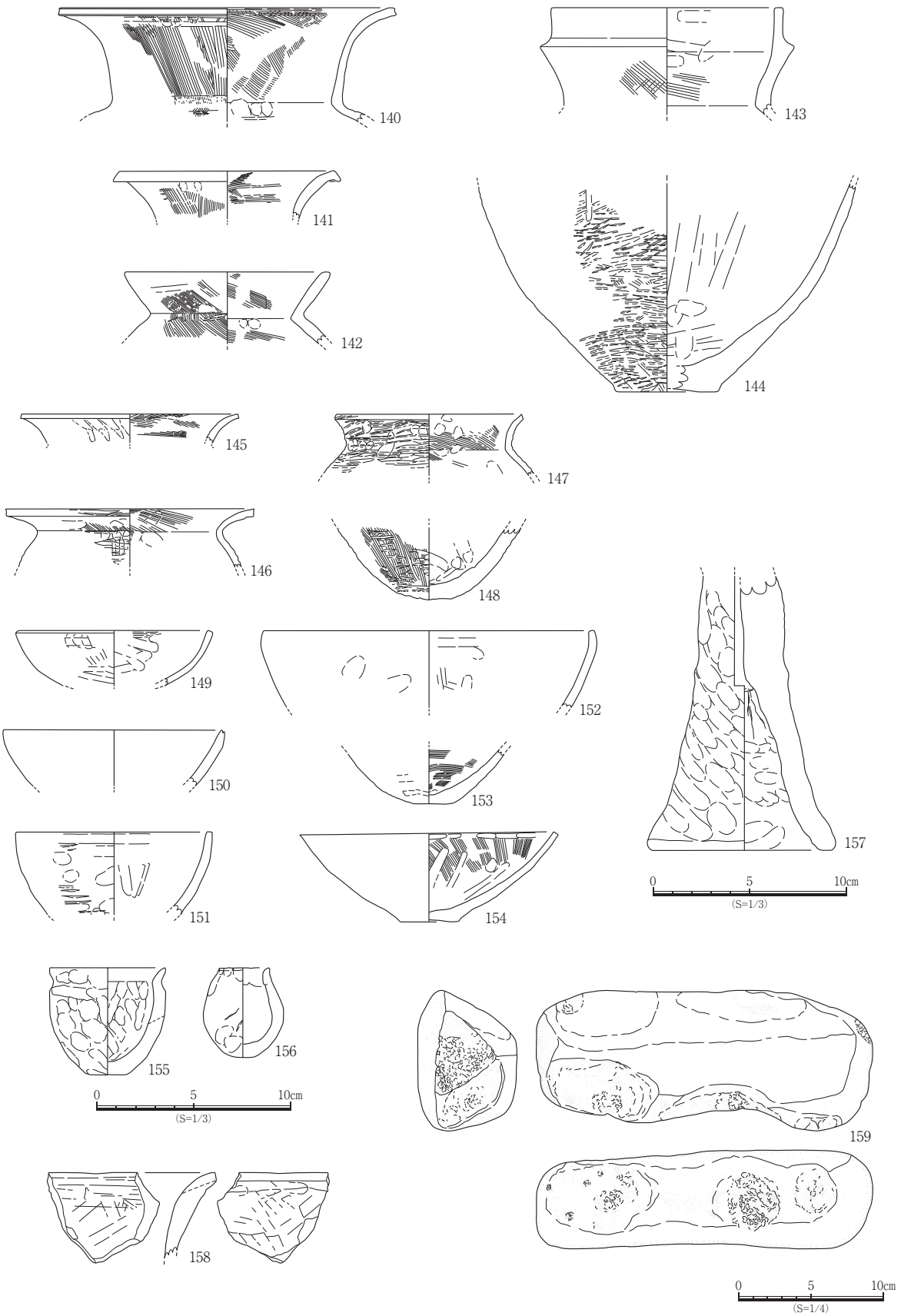


図2－17　ST2005出土遺物実測図

ST2006

K区東部及びB区北東部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡で、調査区北部へ延びる。長軸は6.08m、短軸は4.64m以上を測り、面積は約28.21㎡以上である。検出面からの深さは約0.32mで、床面標高は西部で約17.50m、東部で約17.60mを測る。床面で小ピットを検出したが、主柱穴については判然としない。出土遺物は須恵器・鉄製品等で、160・161を図示した。

ST2007

A区中央西部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡で、調査区西部へ延びる。長軸は4.80m以上、短軸は1.80m以上を測り、面積は約5.40㎡以上である。検出面からの深さは約0.32mで、床面標高は西部で約17.59m、東部で約17.73mを測る。床面で主柱穴は検出されなかった。出土遺物は弥生土器・石製品等で、162～173を図示した。

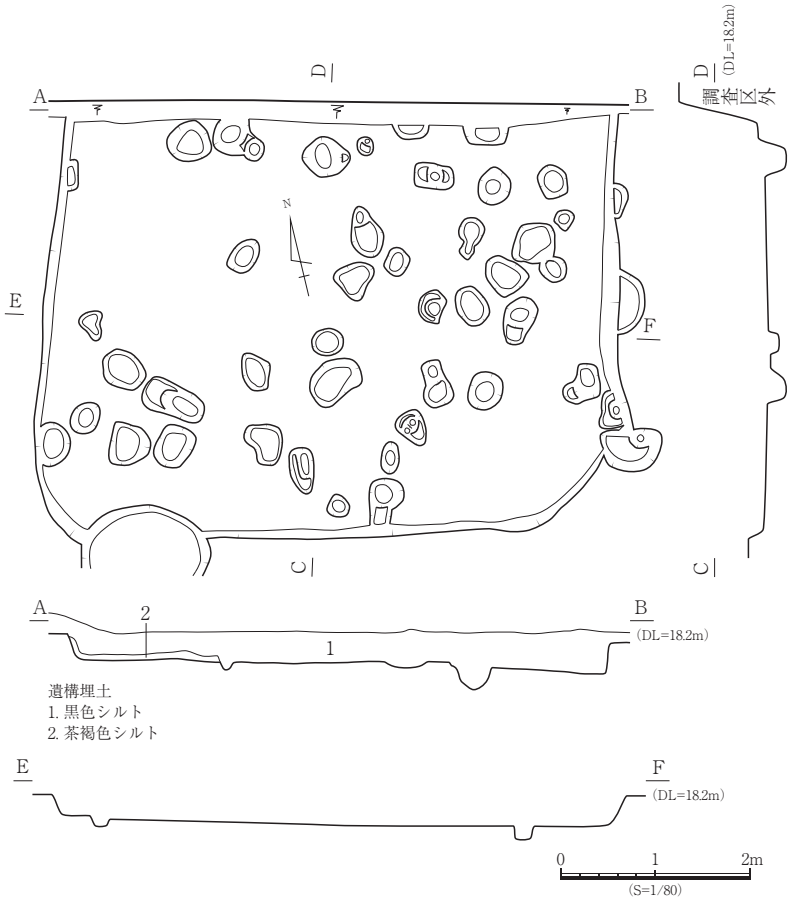


図2－18　ST2006遺構図

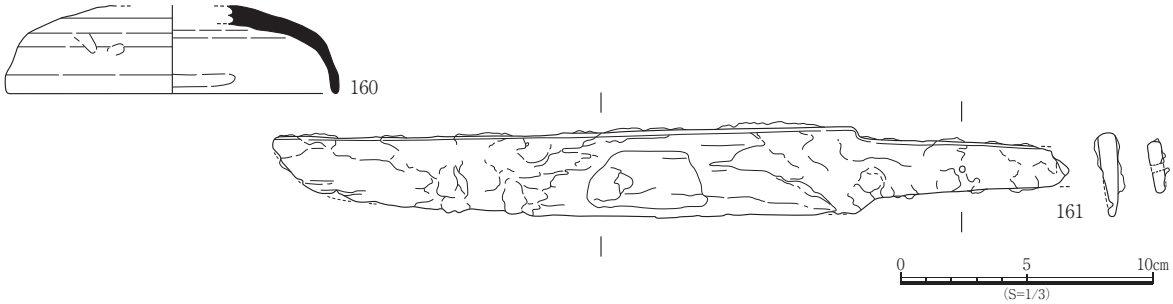


図2－19　ST2006出土遺物実測図

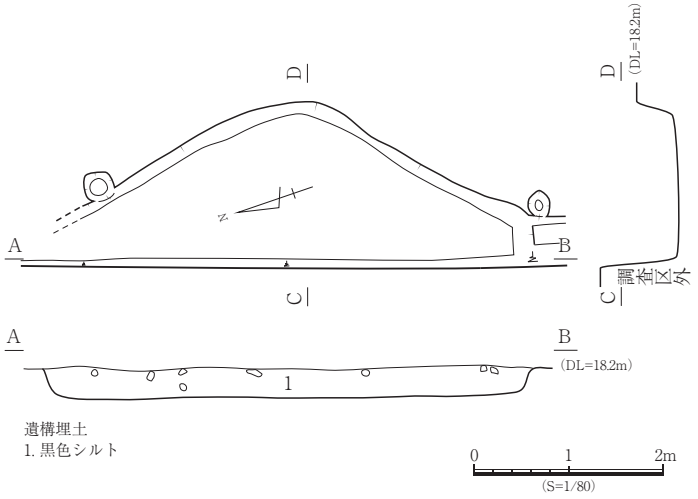


図2－20　ST2007遺構図

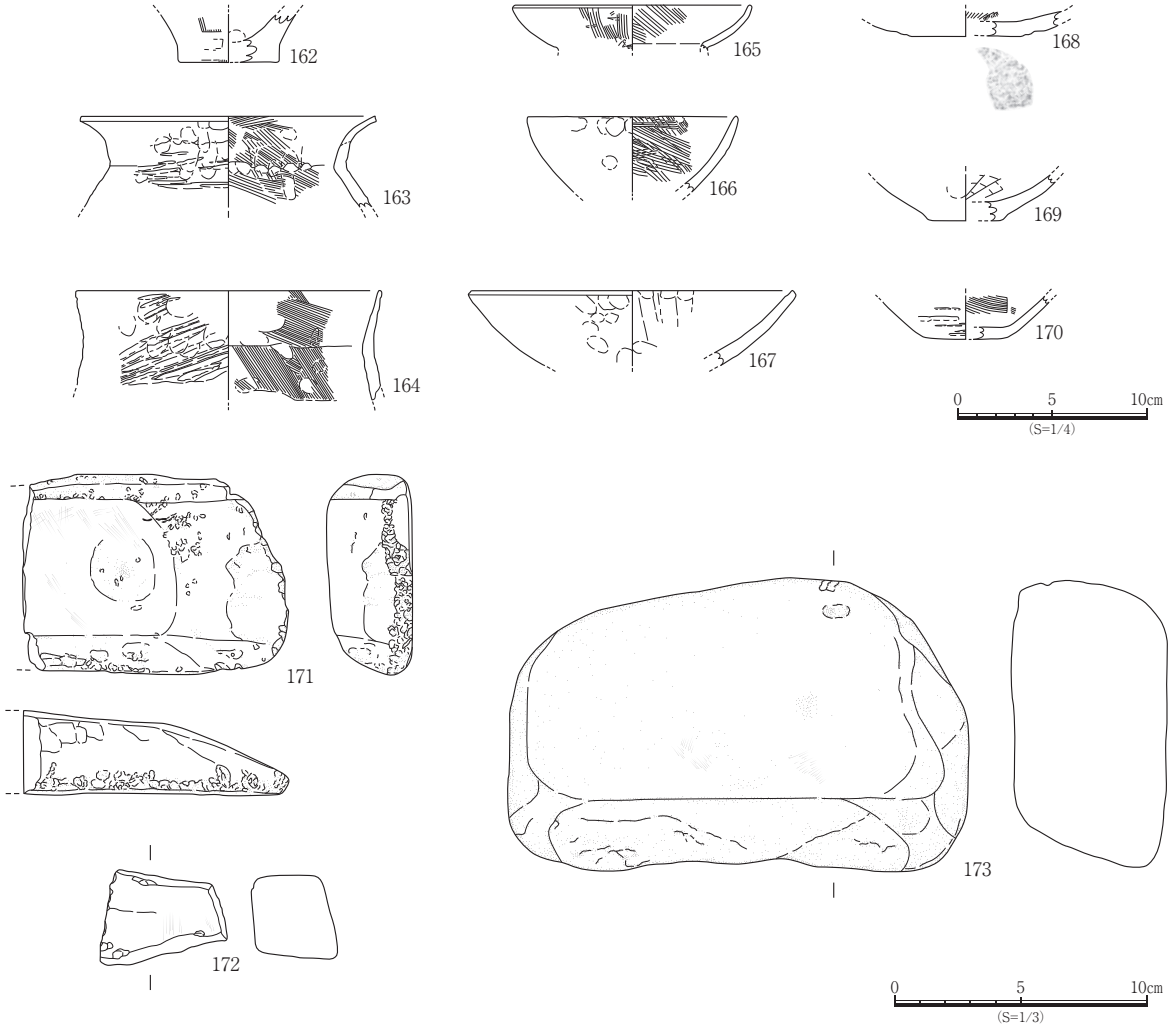


図2－21　ST2007出土遺物実測図

ST2008

K区中央部及びB区北部で検出した隅丸五角形を呈する竪穴建物跡で、調査区北西部へ延びる。長軸は7.48m、短軸は6.88m以上を測り、面積は約38.48㎡以上である。検出面からの深さは約0.36mで、床面標高は約17.85mを測る。中央部は同じく隅丸五角形を呈する段部を有し、下段の床面標高は17.75mを測る。主柱穴は5個とみられる。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器・石製品等で、174～227を図示した。

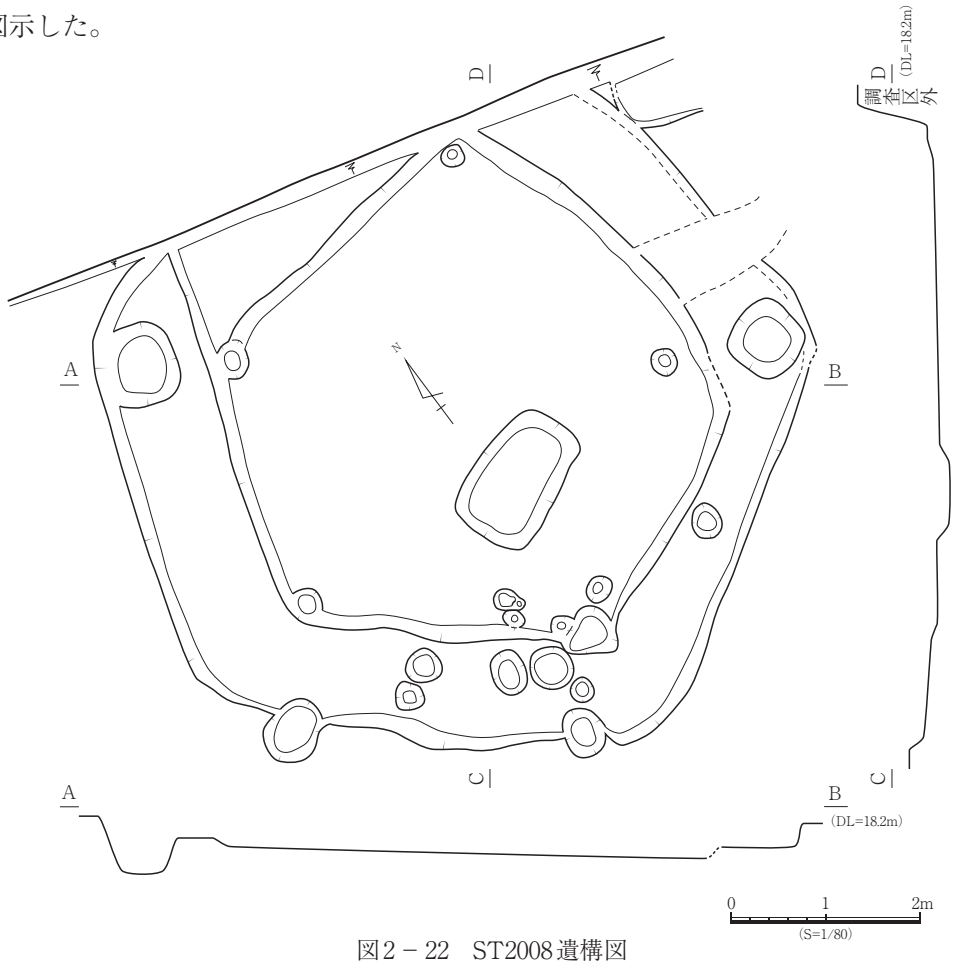


図2－22　ST2008遺構図

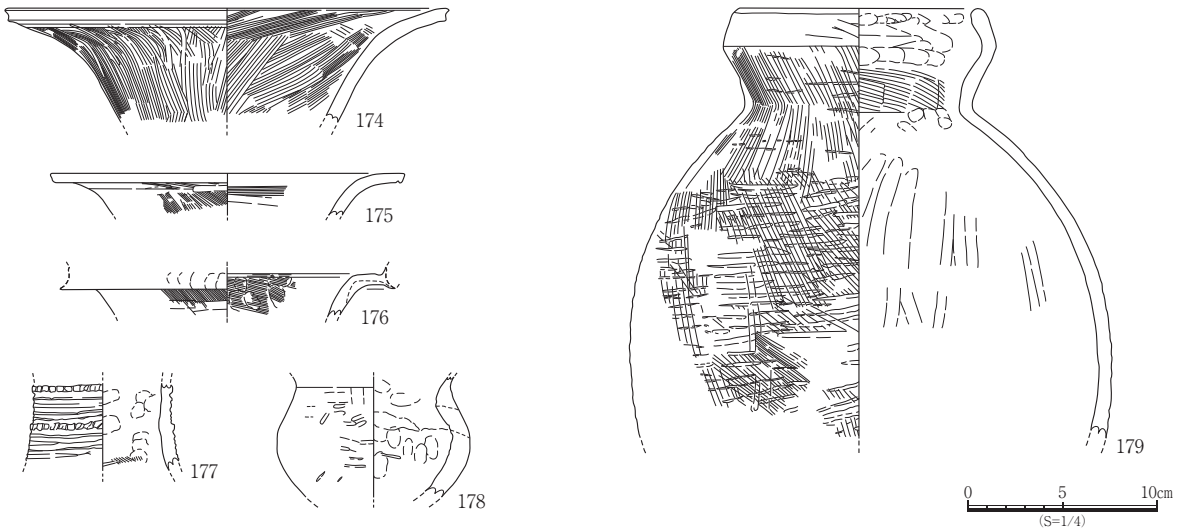


図2－23　ST2008出土遺物実測図1

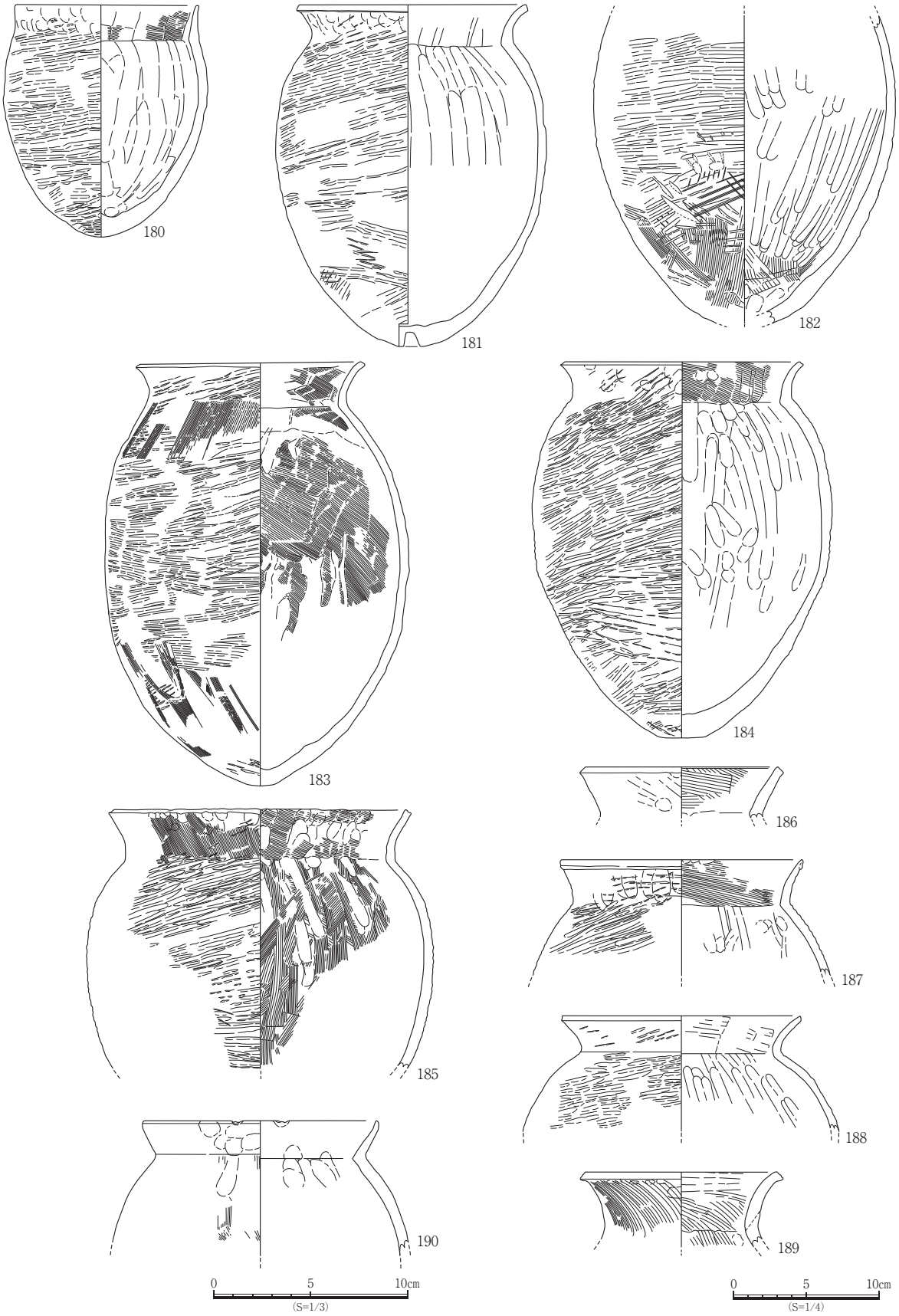


図2－24　ST2008出土遺物実測図2

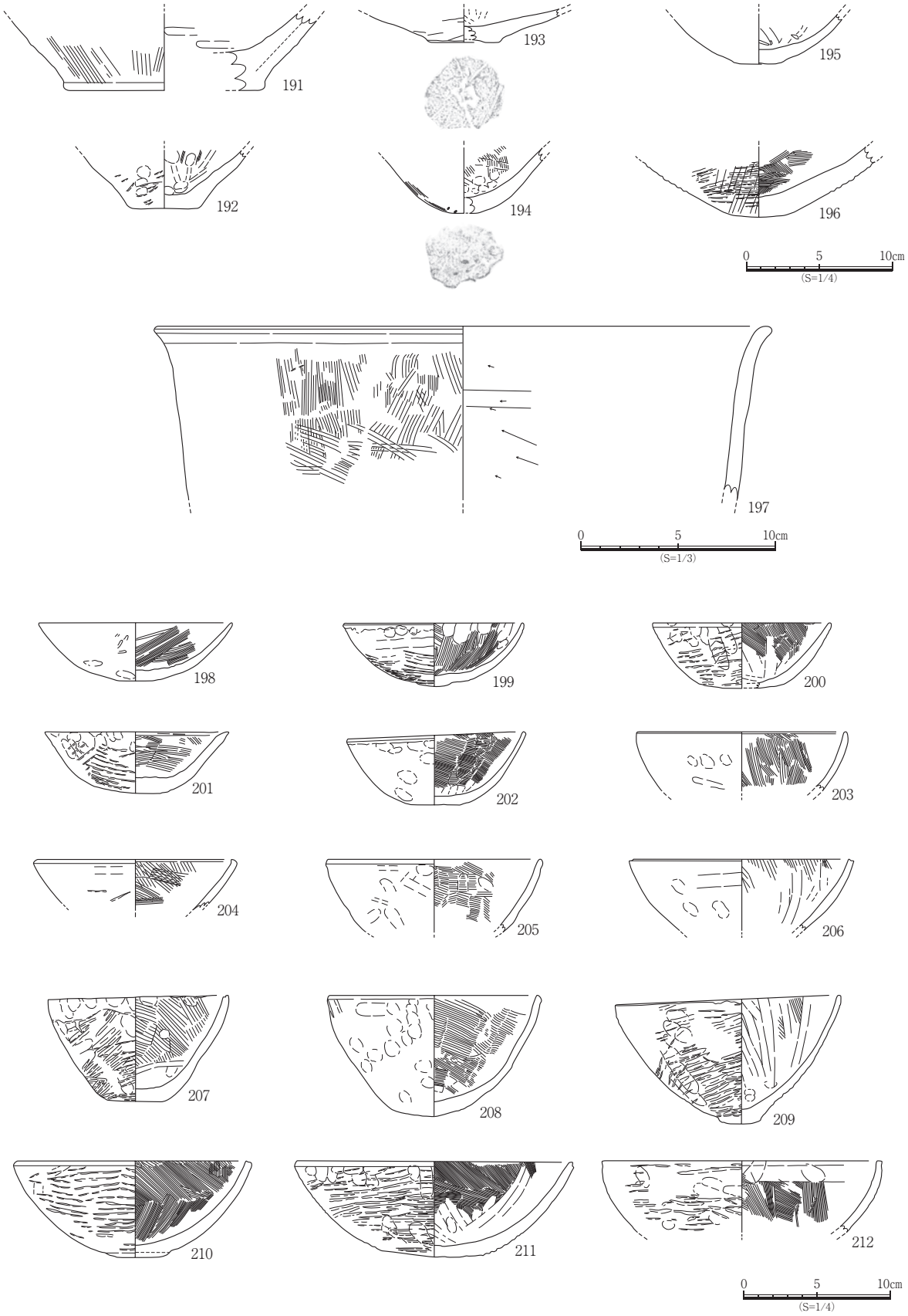


図2－25　ST2008出土遺物実測図3

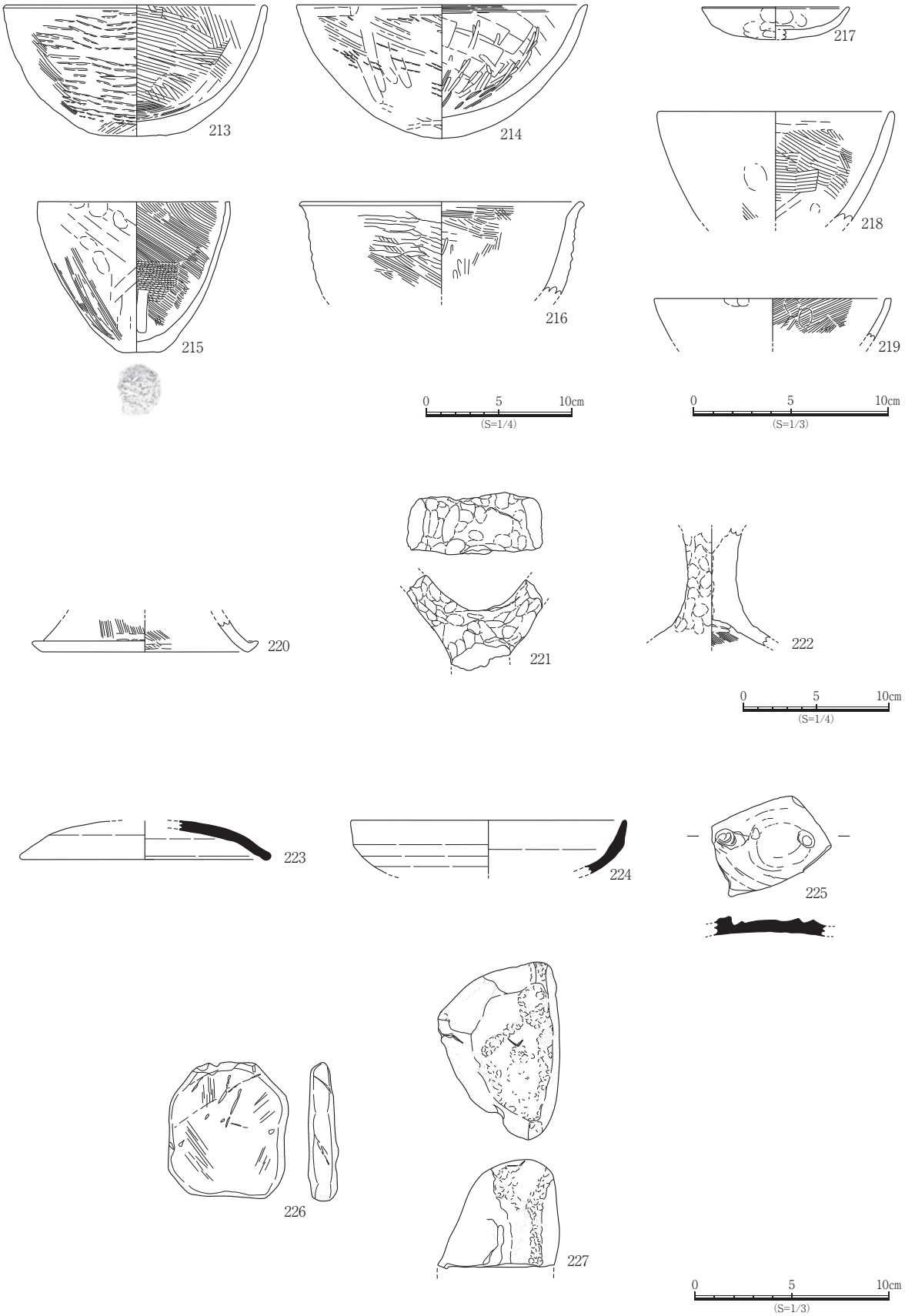


図2－26　ST2008出土遺物実測図4

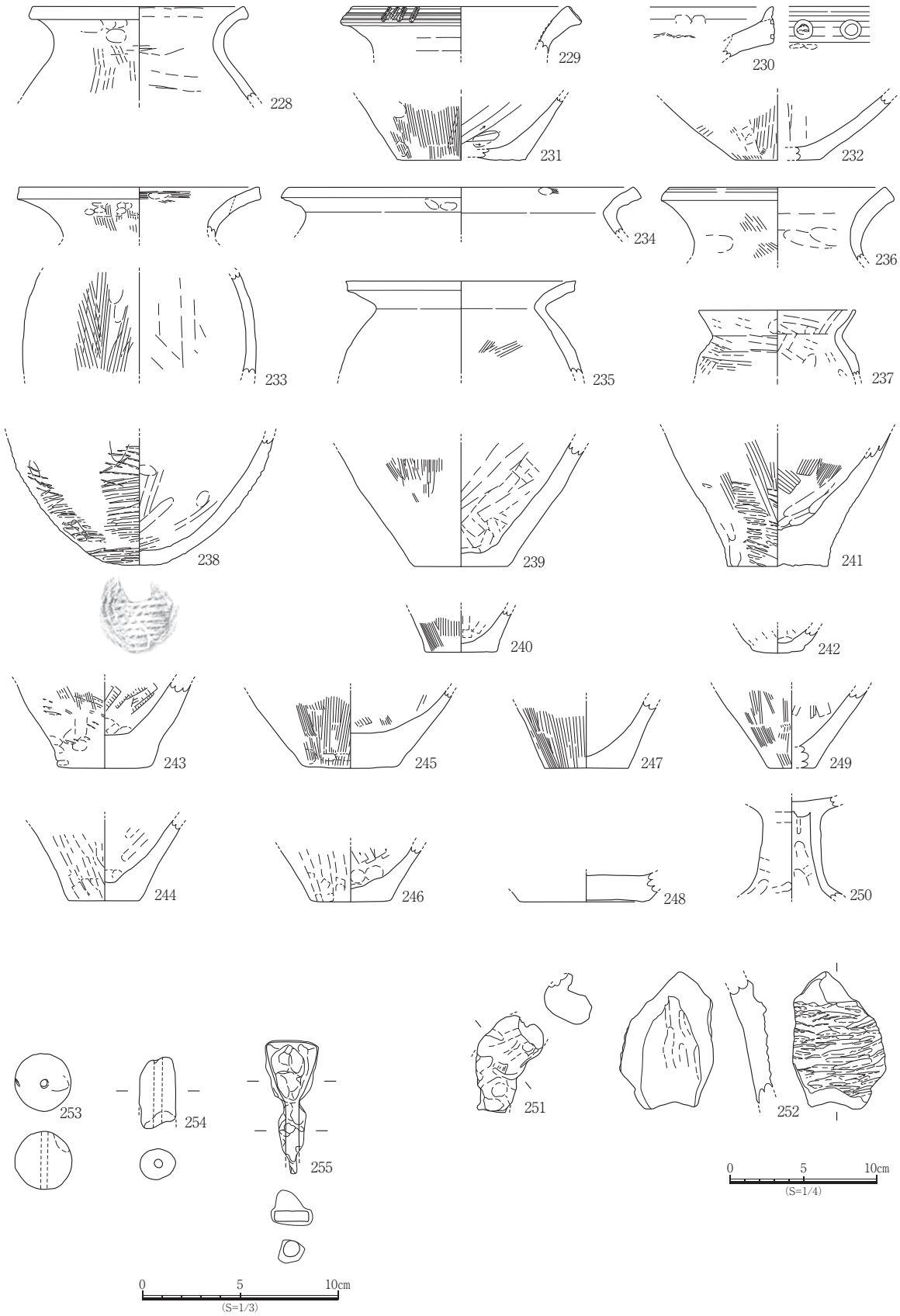


図2－27　ST2009出土遺物実測図1

ST2009

A区南部で検出した隅丸長方形を呈する遺構である。竪穴建物跡又は土坑と考えられるが、調査時の番号通りSTとして報告を行う。長軸は4.48m、短軸は2.76mを測り、面積は約12.36㎡である。検出面からの深さは約0.40mで、床面標高は約17.50mを測る。主柱穴は判然とせず、中央に幅0.24～0.56mの東西方向の溝状の落ち込みを有する。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・鉄製品等で、228～265を図示した。

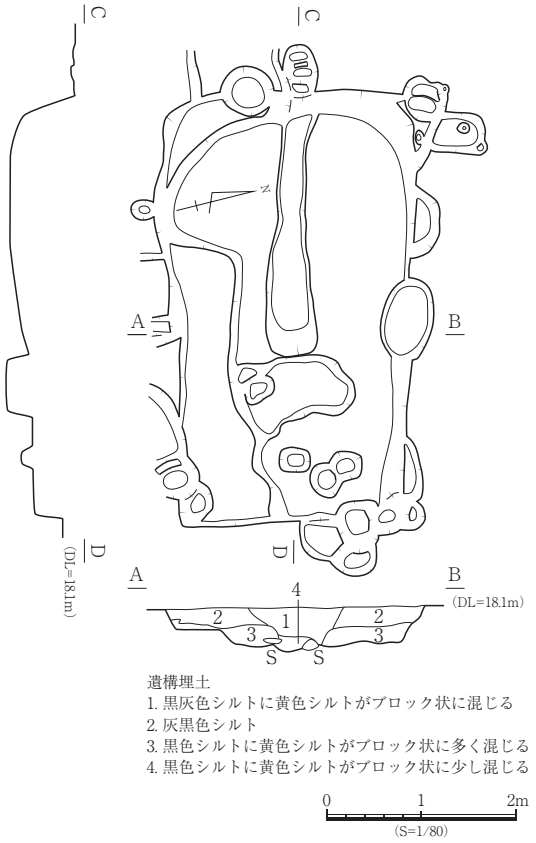


図2－28　ST2009遺構図

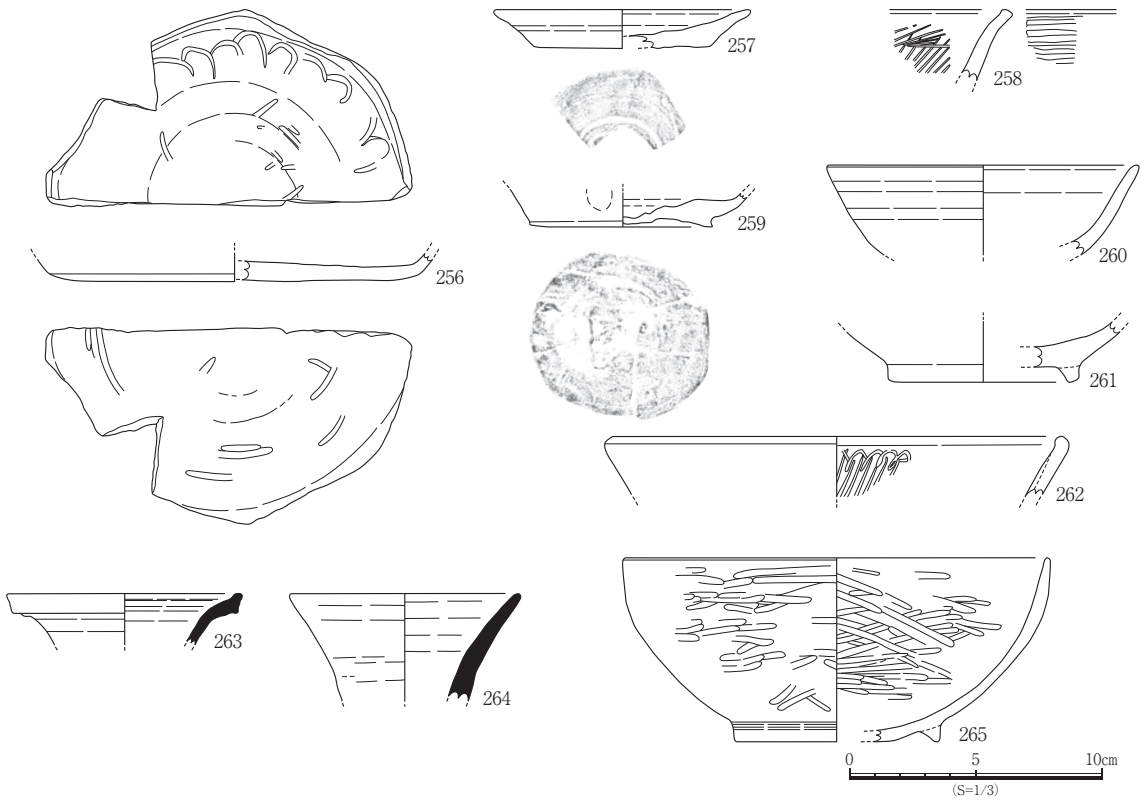
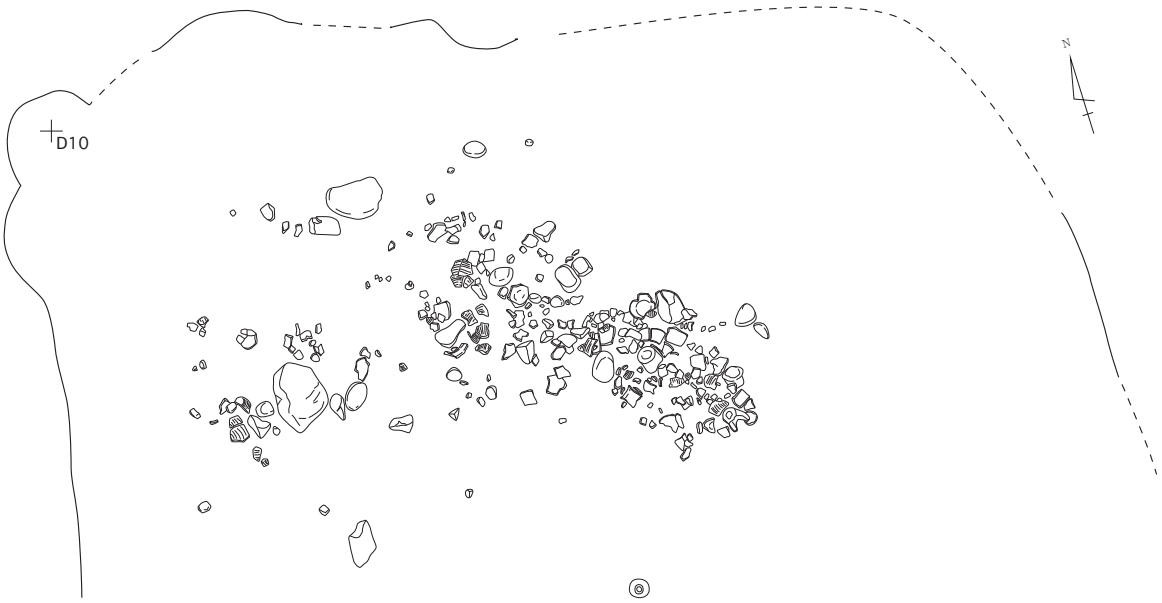


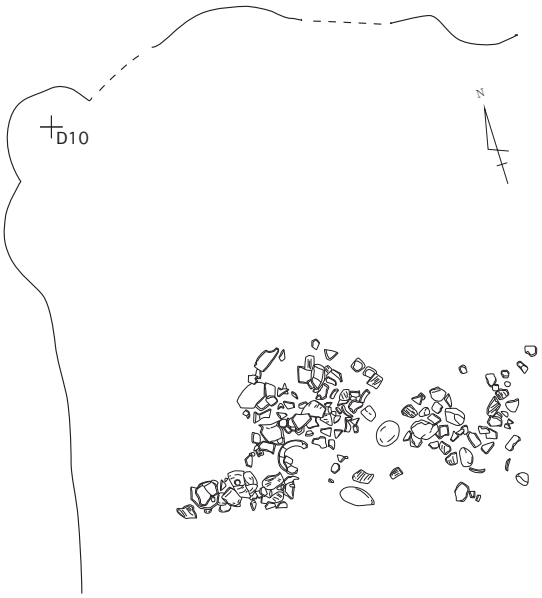
図2－29　ST2009出土遺物実測図2

ST2010上面 土器集中

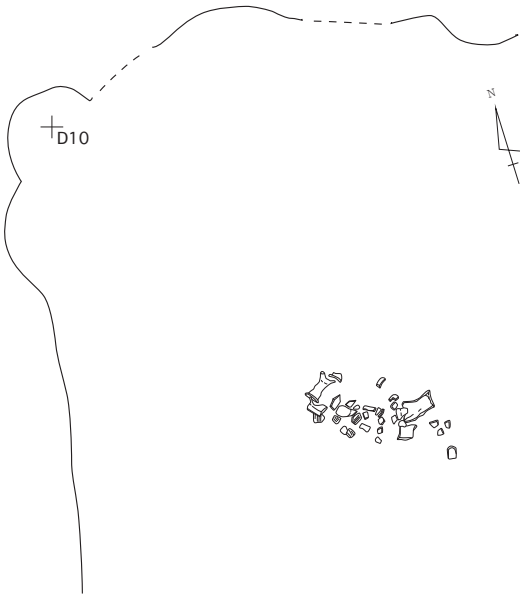
ST2010の検出面で土器集中を確認した。遺物が出土した範囲は、ST2010の直上に当たり、廃絶儀礼等の関連があるものとみられるため、関連遺構として報告しておく。調査時には3回に分けて遺物の取り上げを行った。土器集中の出土遺物は、弥生土器・石製品等で、266～306を図示した。



ST2010 上面土器集中 遺物出土状態（1 回目）



ST2010 上面土器集中 遺物出土状態（2 回目）



ST2010 上面土器集中 遺物出土状態（3 回目）

0　1　2m
(S=1/40)

図2－30　ST2010上面土器集中遺物出土状態図

図2－31　ST2010上面土器集中出土遺物実測図1

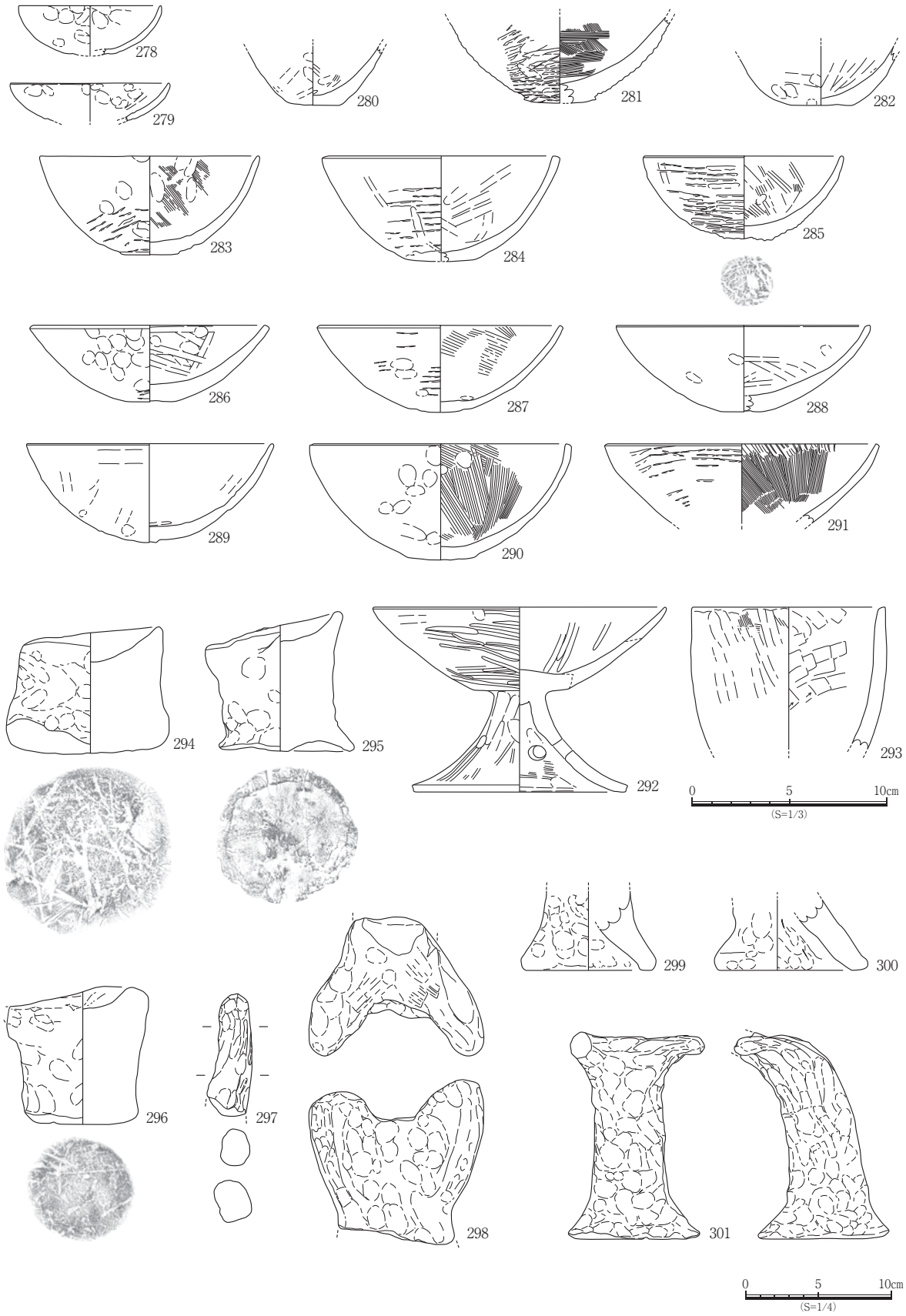


図2－32　ST2010上面土器集中出土遺物実測図2

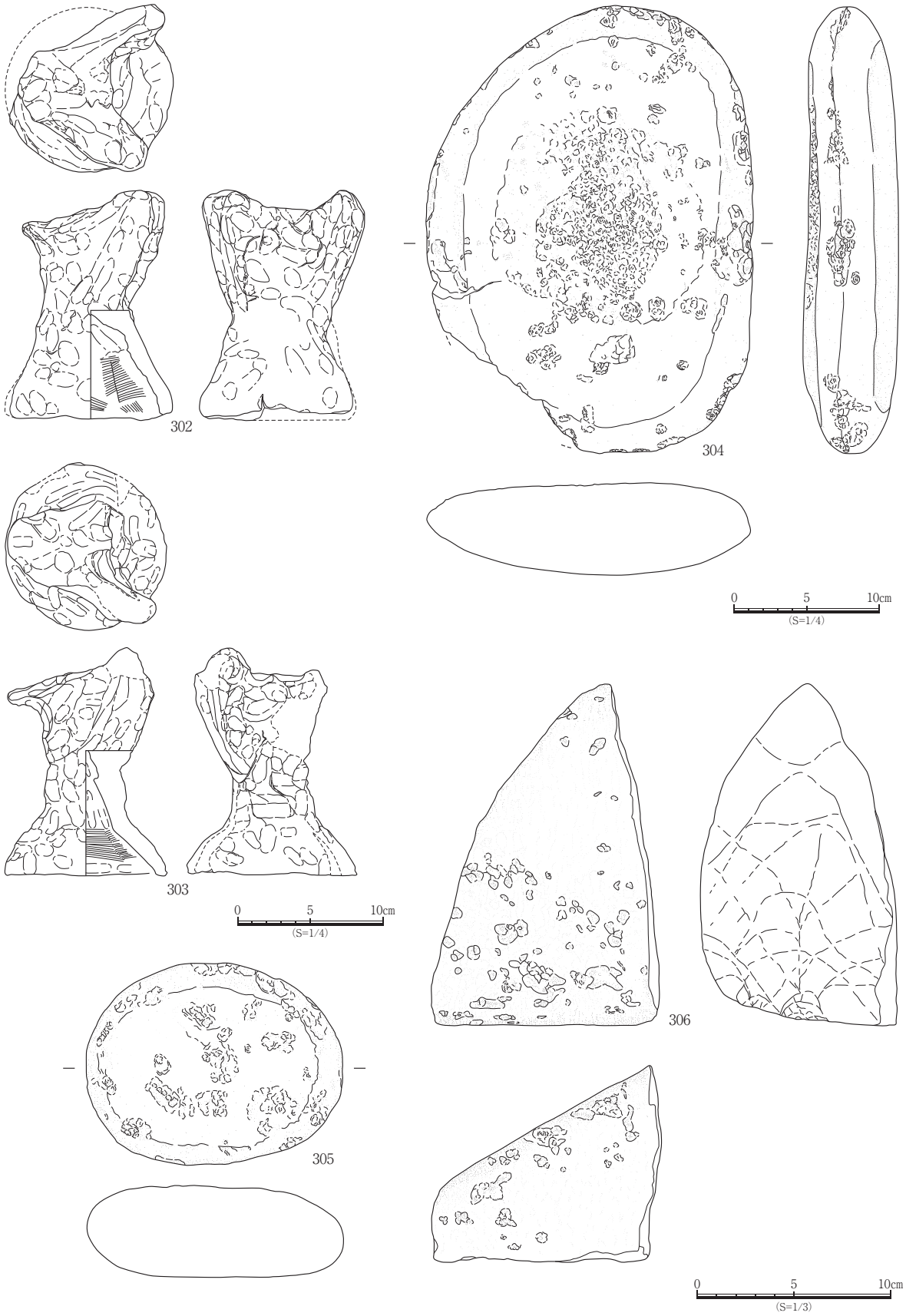


図2－33　ST2010上面土器集中出土遺物実測図3

ST2010

Ａ区南部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡である。長軸は 6.00m 、短軸は 5.76m を測り、面積は約 34.56 ㎡である。検出面からの深さは約 0.40m で、床面標高は約 17.45m を測る。中央部の東西に並ぶピットは棟持柱、中央部の方形を呈する落ち込みの四隅にみられる小ピットは、柱又は垂木とみられる。床面東部及び南部の壁際に幅 0.19 ～ 0.48m の壁溝が巡る。ST2010 の出土遺物は弥生土器・須恵器・石製品等で、307 ～ 379 を図示した。

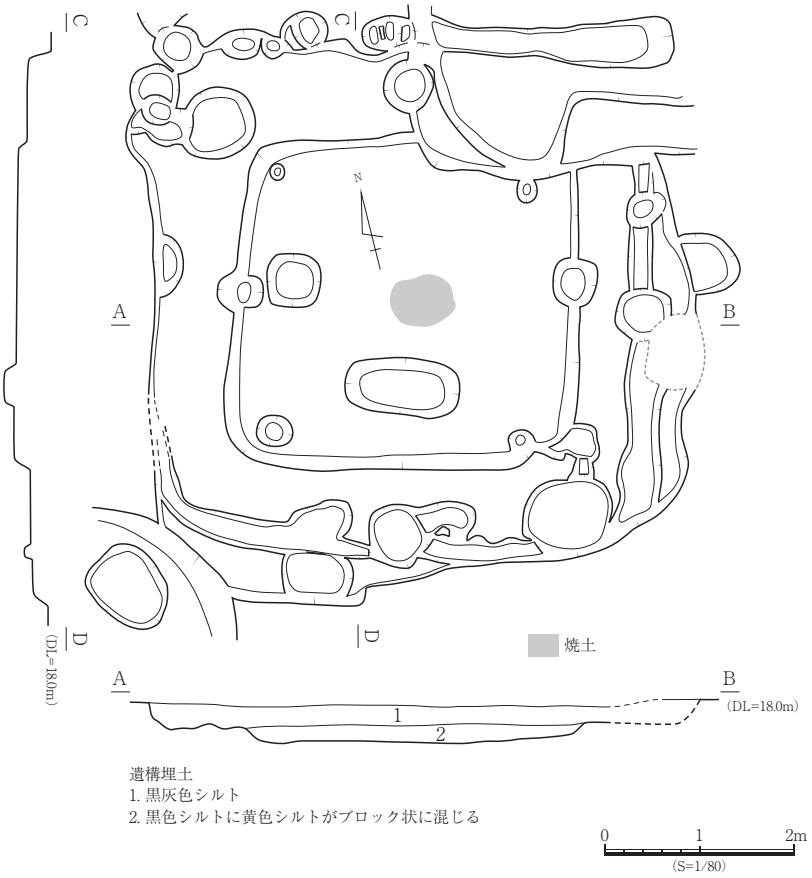


図２－34　ST2010 遺構図

ST2012

Ｄ区東部で検出した隅丸五角形とみられる竪穴建物跡である。長軸は 7.92m 、短軸は 5.28m 以上を測り、面積は約 41.82 ㎡以上である。検出面からの深さは約 0.40m で、床面標高は 17.80m を測る。中央部は同じく隅丸五角形を呈する段部を有し、下段の床面標高は17.20～17.30m である。床面西部壁際に幅0.30 ～ 0.40m の壁溝を有し、主柱穴は 3 個以上とみられる。中央土坑は床面中央よりやや南部に位置し、隅丸長方形状である。ST2012 の出土遺物は弥生土器・土師器・石製品等で、380 ～ 480 を図示した。

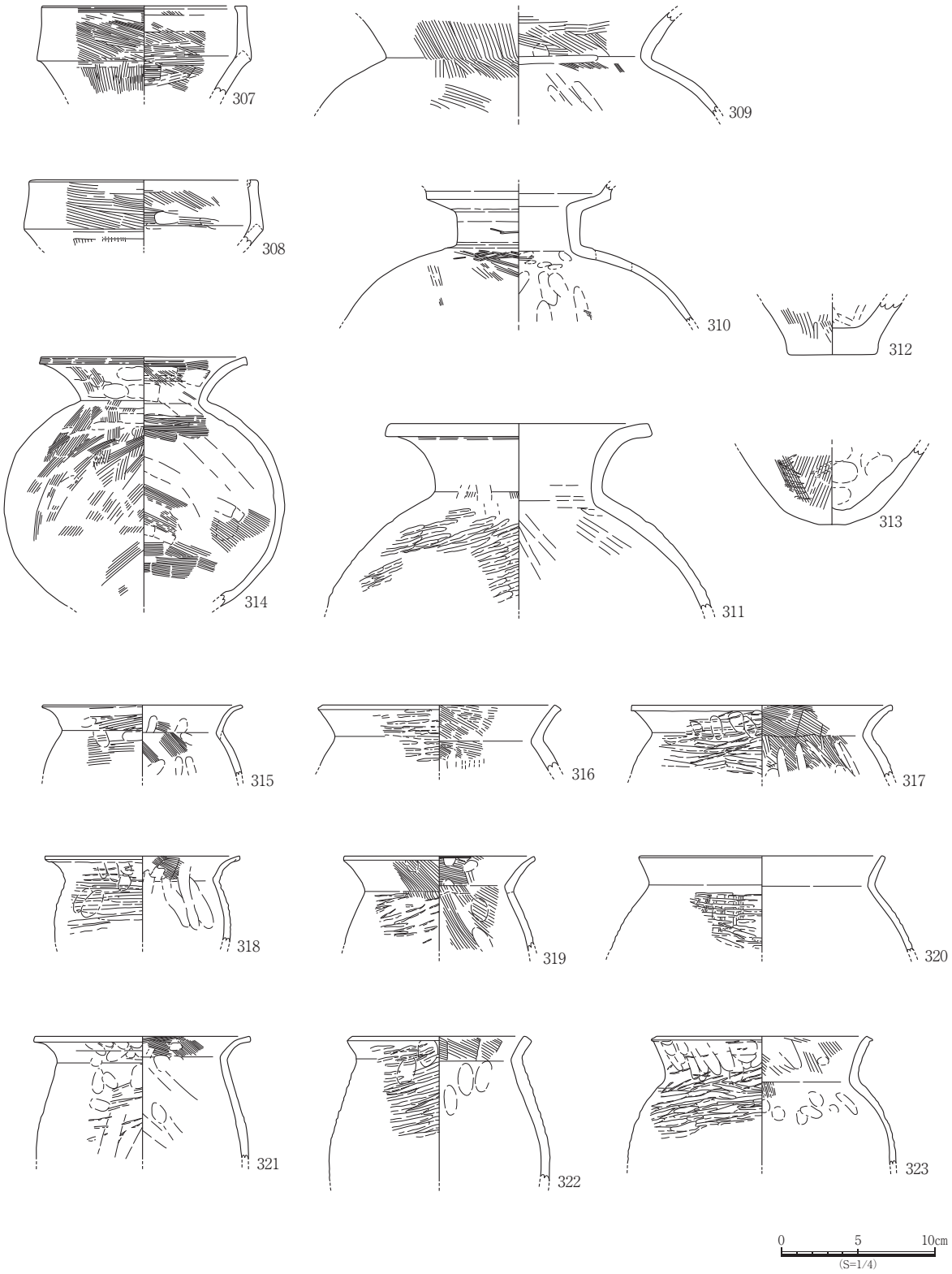


図2－35　ST2010出土遺物実測図1

図2－36　ST2010出土遺物実測図2

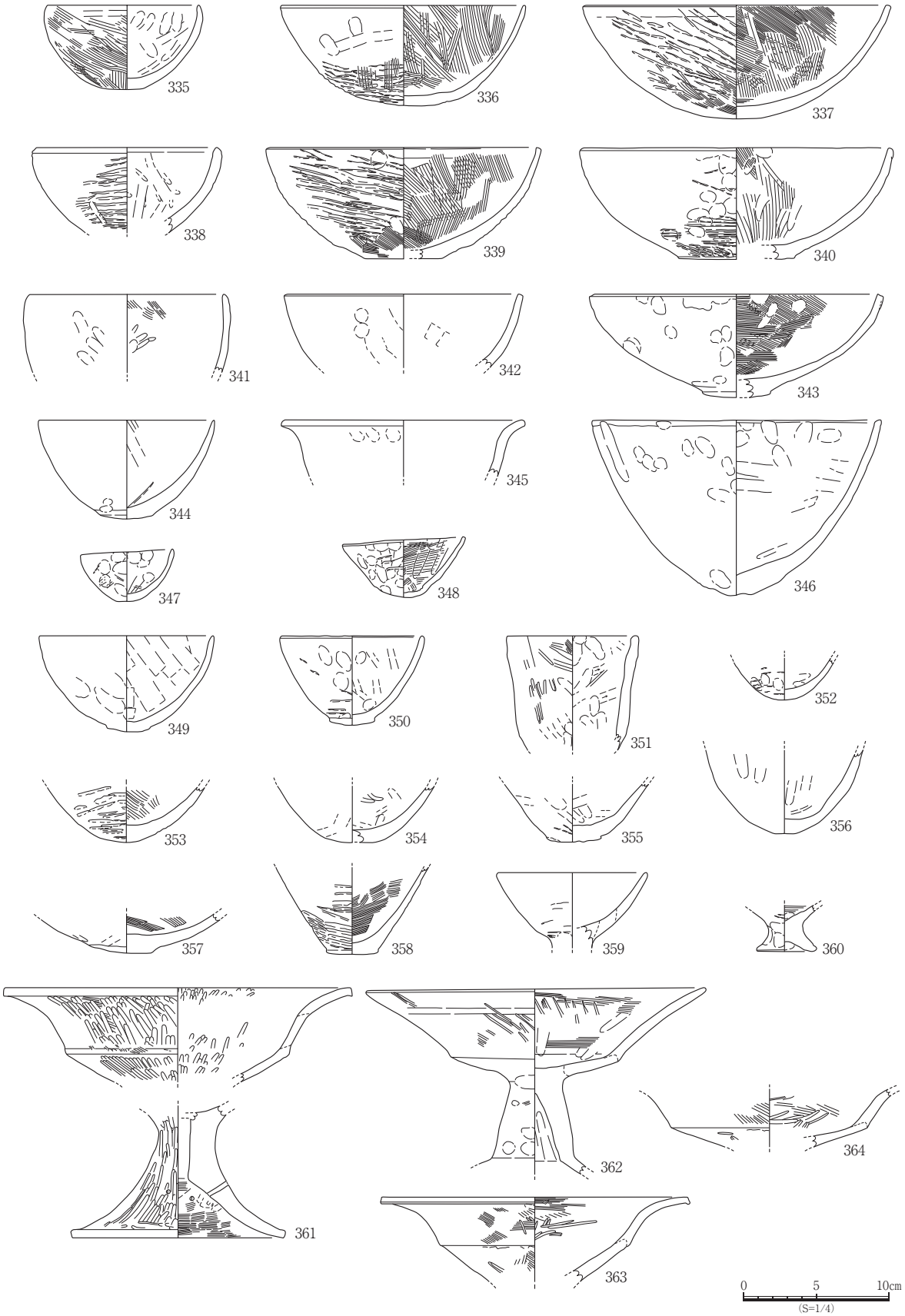


図2－37　ST2010出土遺物実測図3

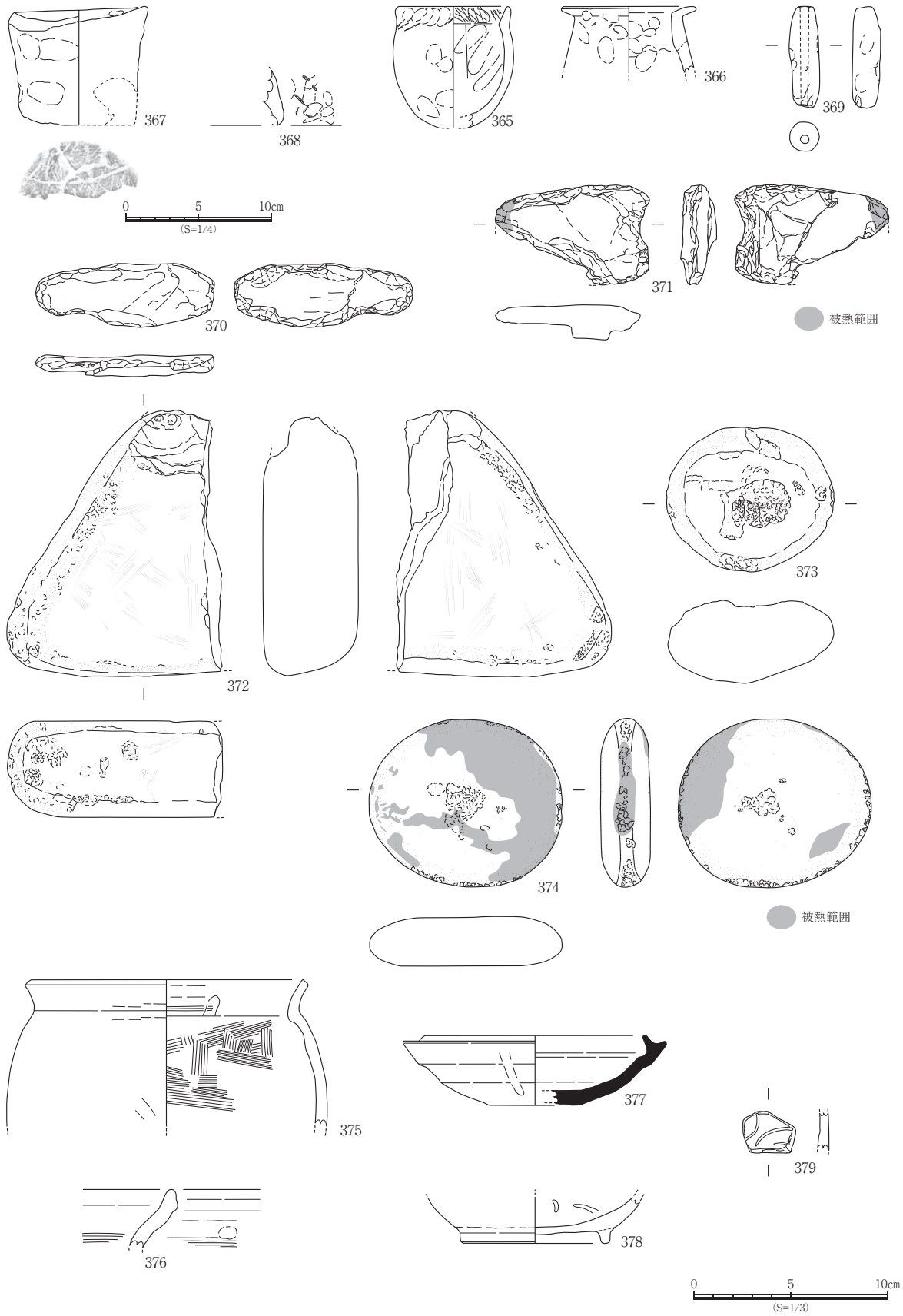


図2－38　ST2010出土遺物実測図4

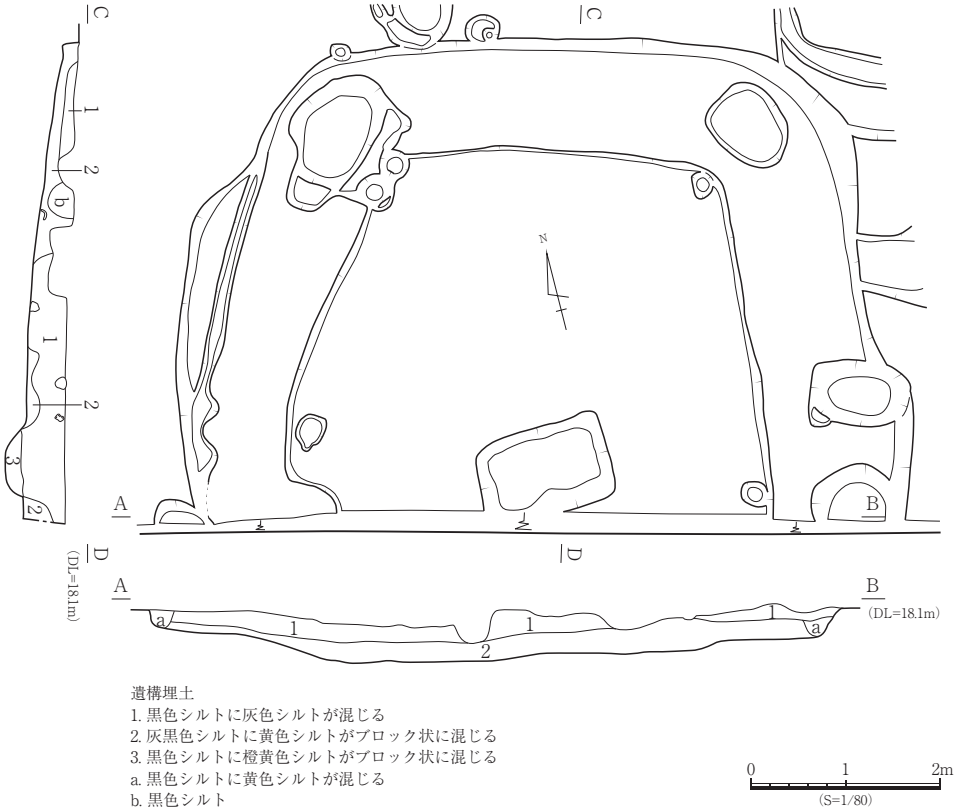


図2－39　ST2012遺構図

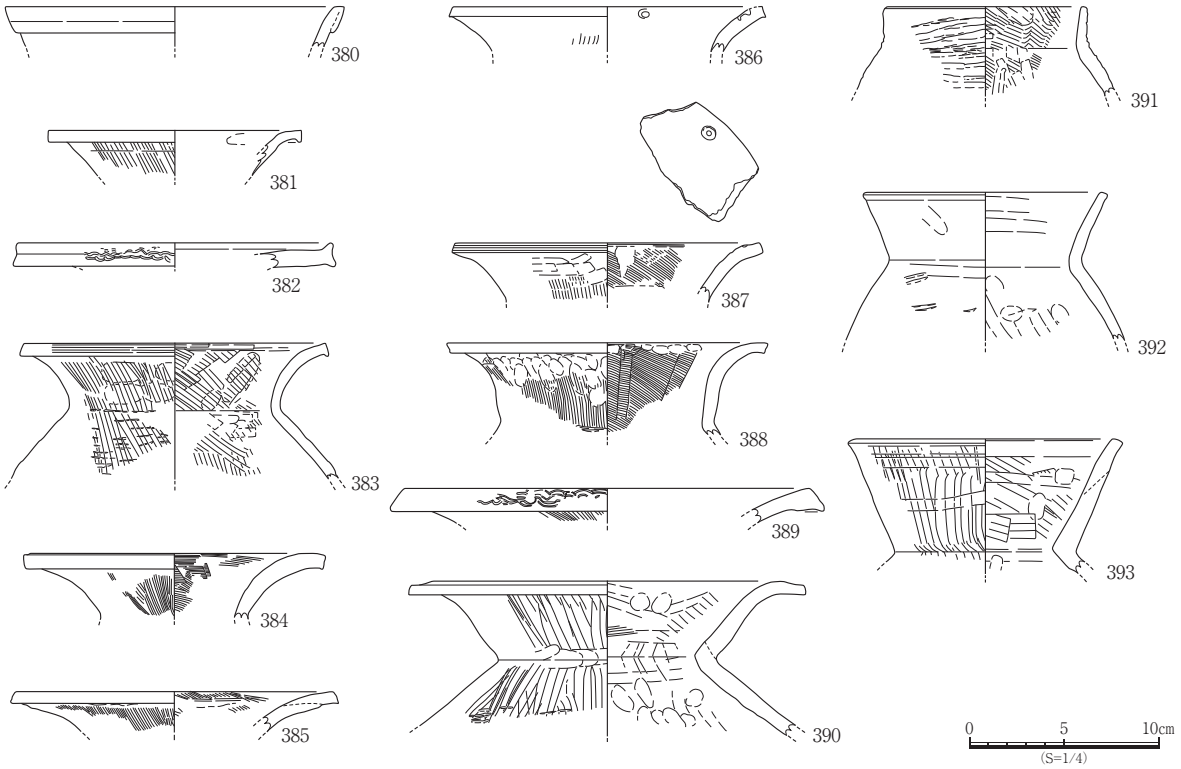


図2－40　ST2012出土遺物実測図1

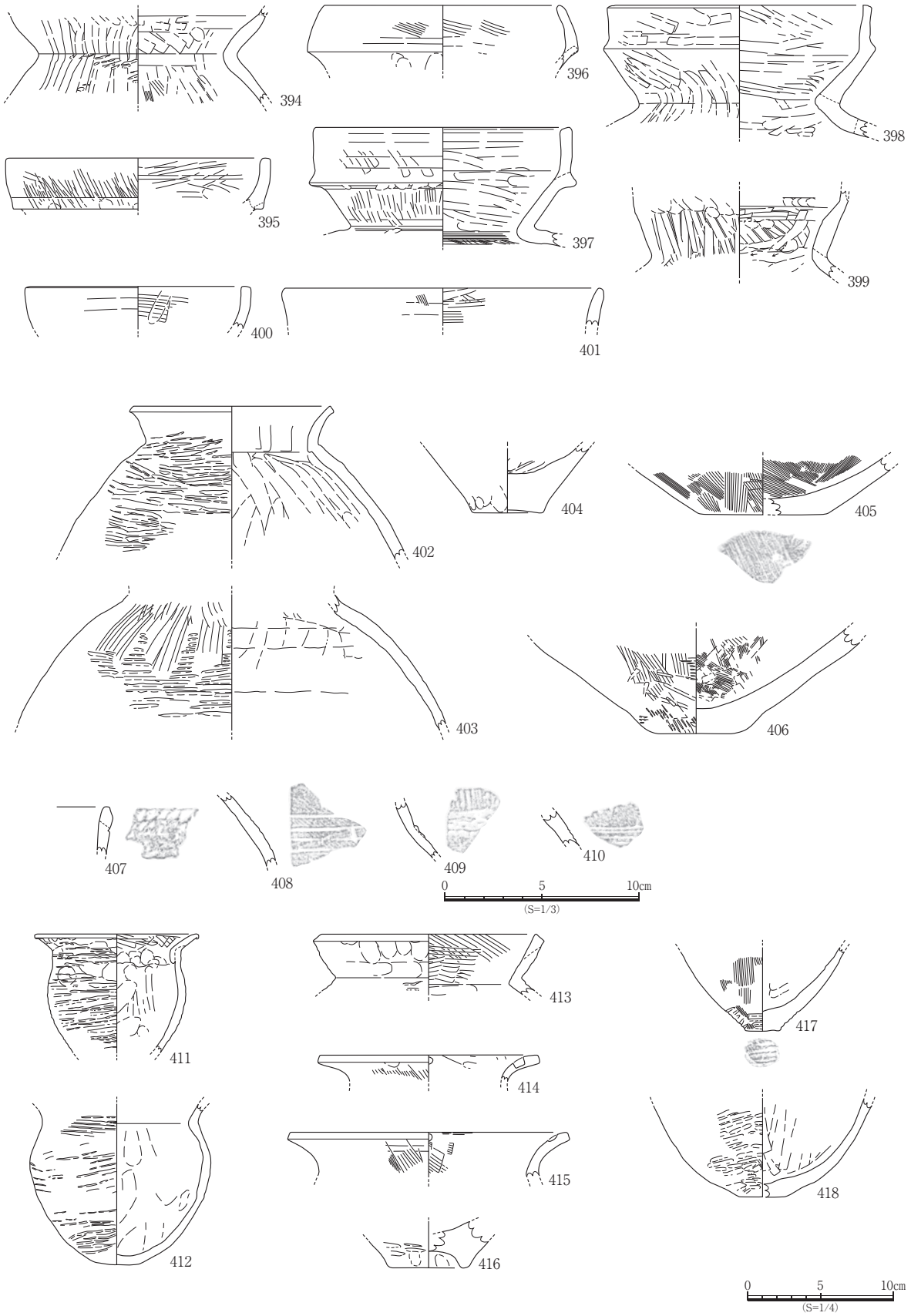


図2－41　ST2012出土遺物実測図2

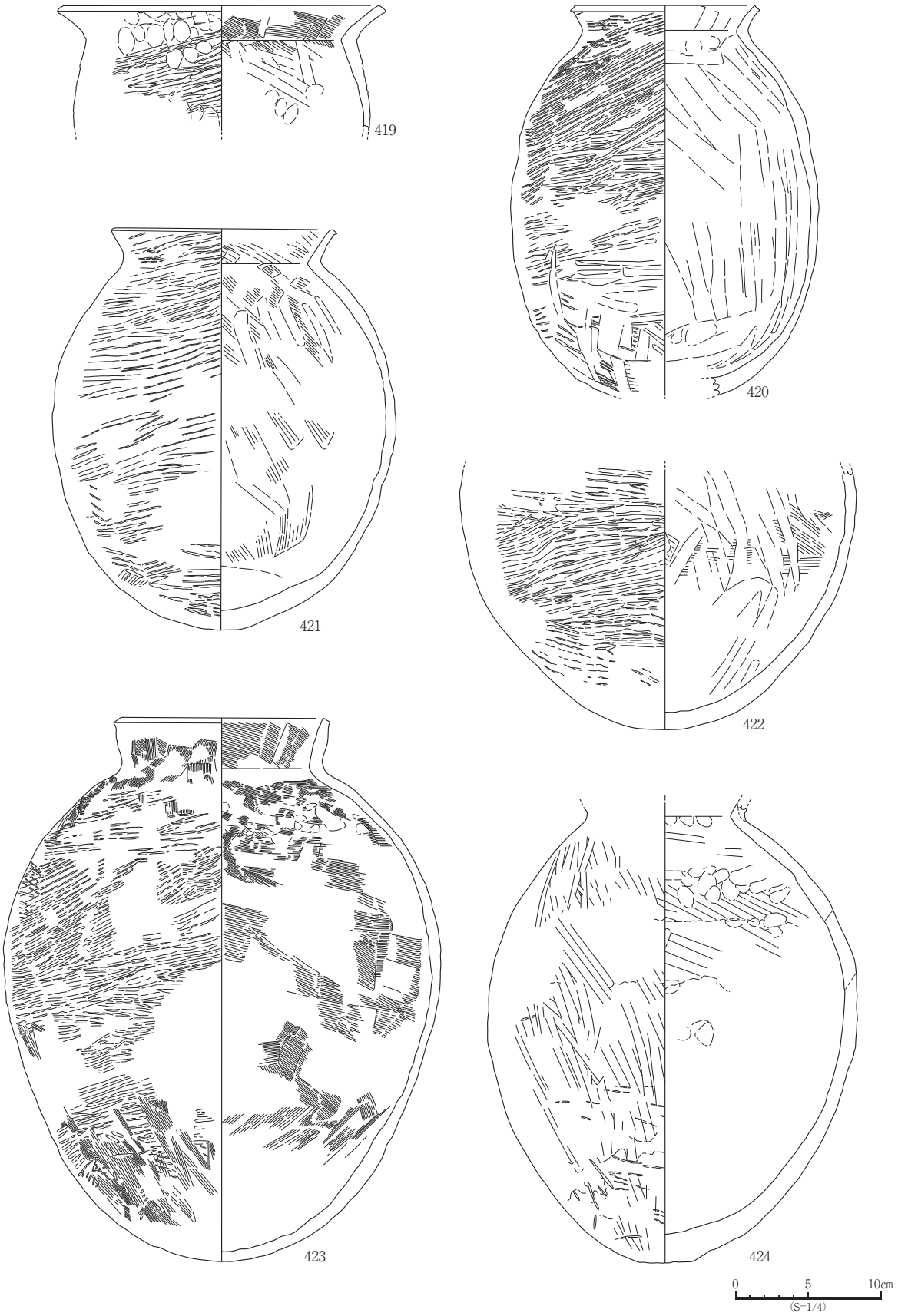


図２－42　ST2012出土遺物実測図３

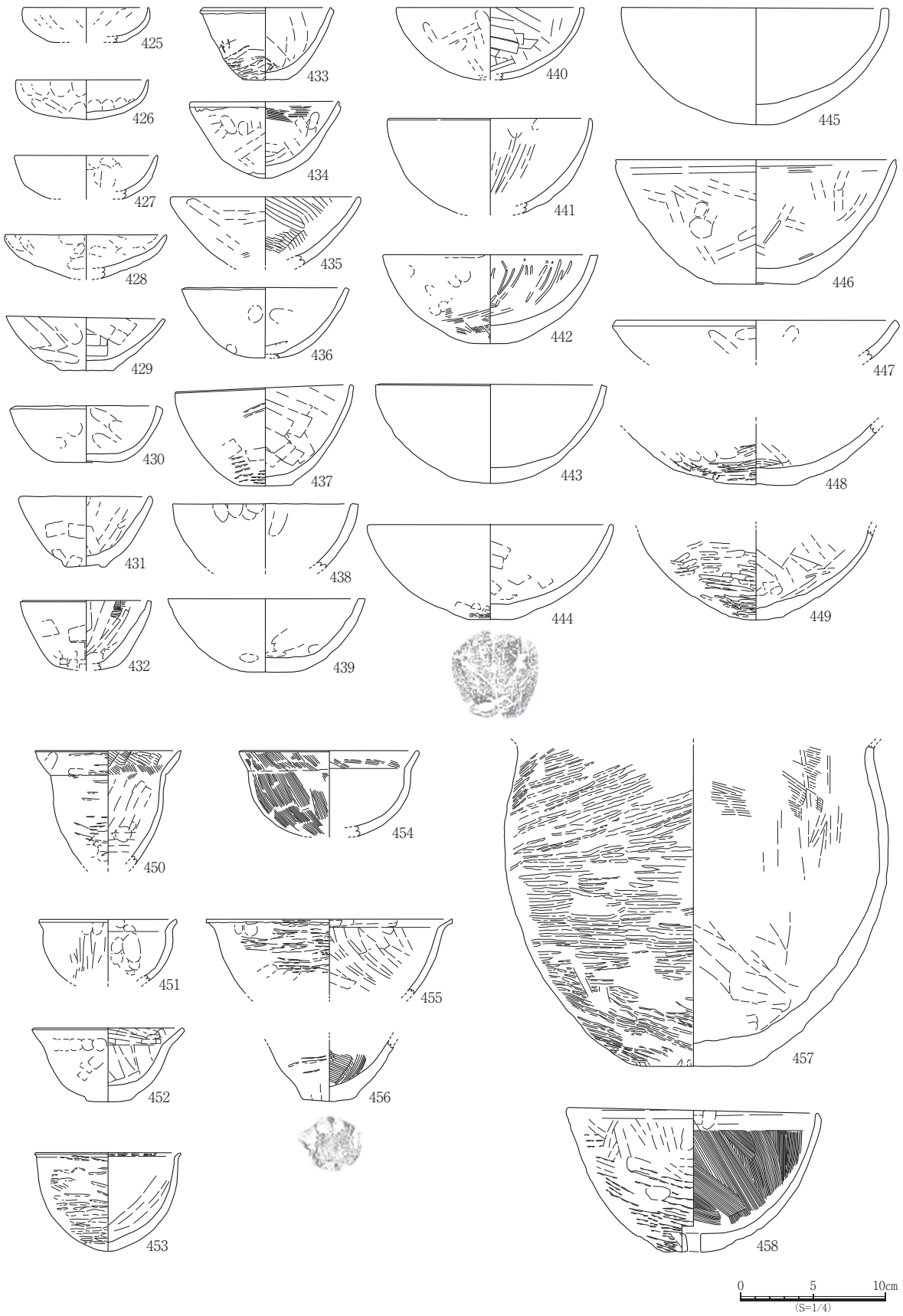


図2－43　ST2012出土遺物実測図4

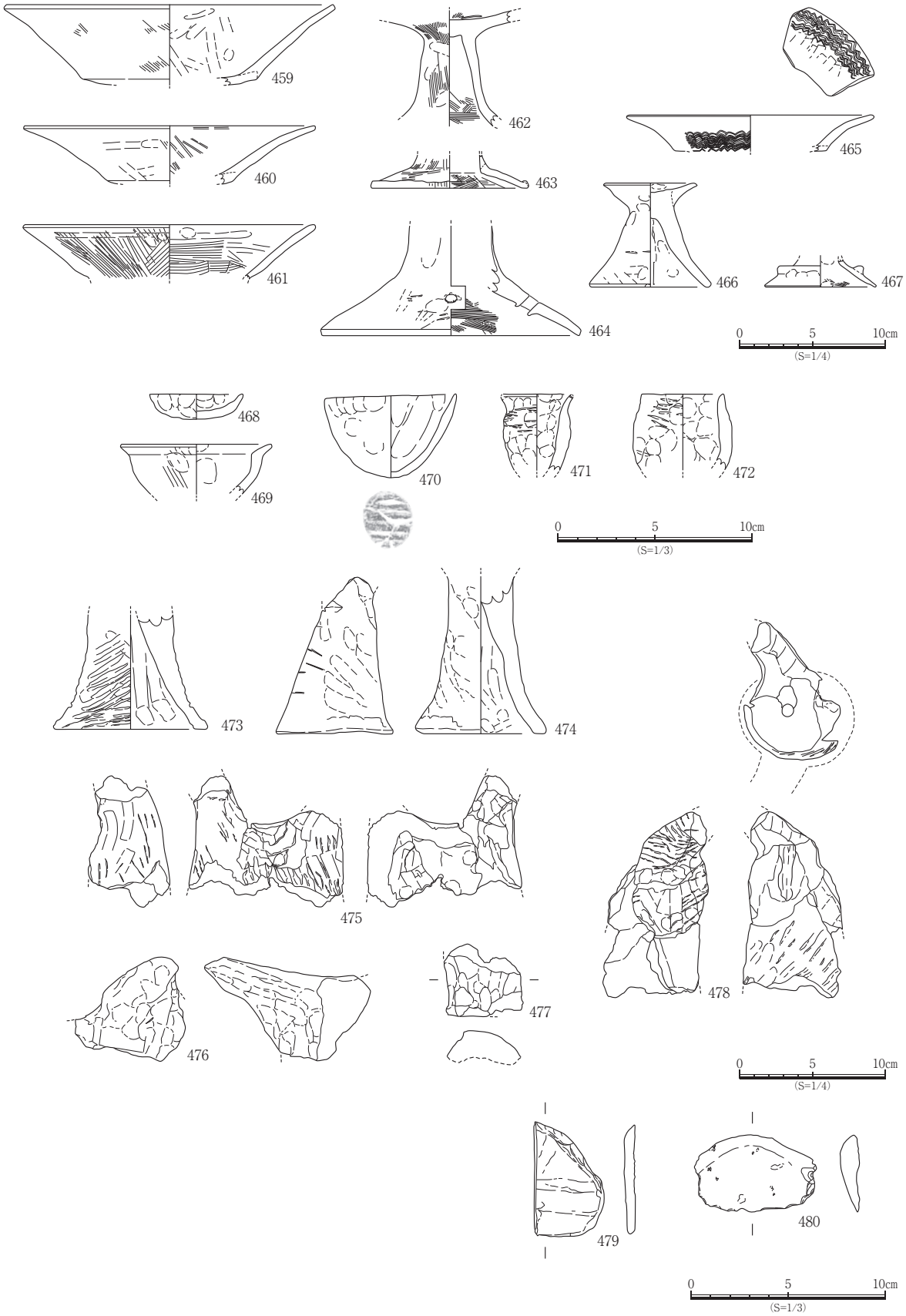


図2－44　ST2012出土遺物実測図5

ST2013

B区南部で検出した隅丸方形状とみられる竪穴建物跡で調査区南壁へ延びる。長軸は4.64m、短軸は2.40m以上を測り、面積は約11.13㎡以上である。検出面からの深さは約0.32mで、床面標高は約18.00 mを測る。中央寄りに不整形の段部を有し、下段の床面標高は17.90mである。主柱穴は2個以上とみられる。ST2013の出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器等で、481～497を図示した。

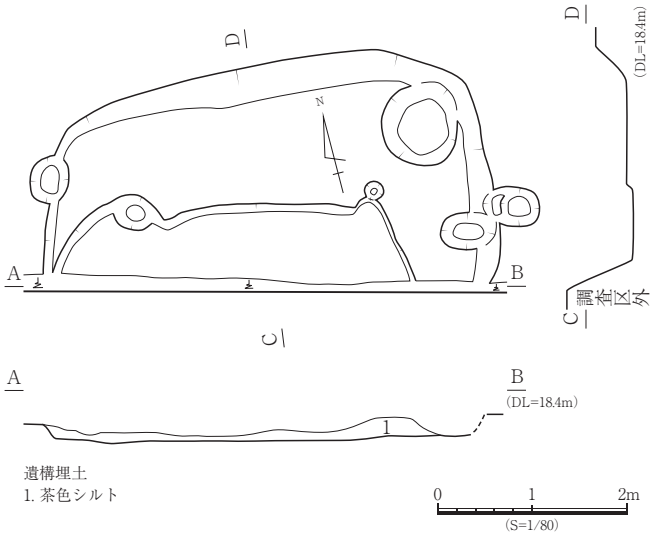


図2－45　ST2013遺構図

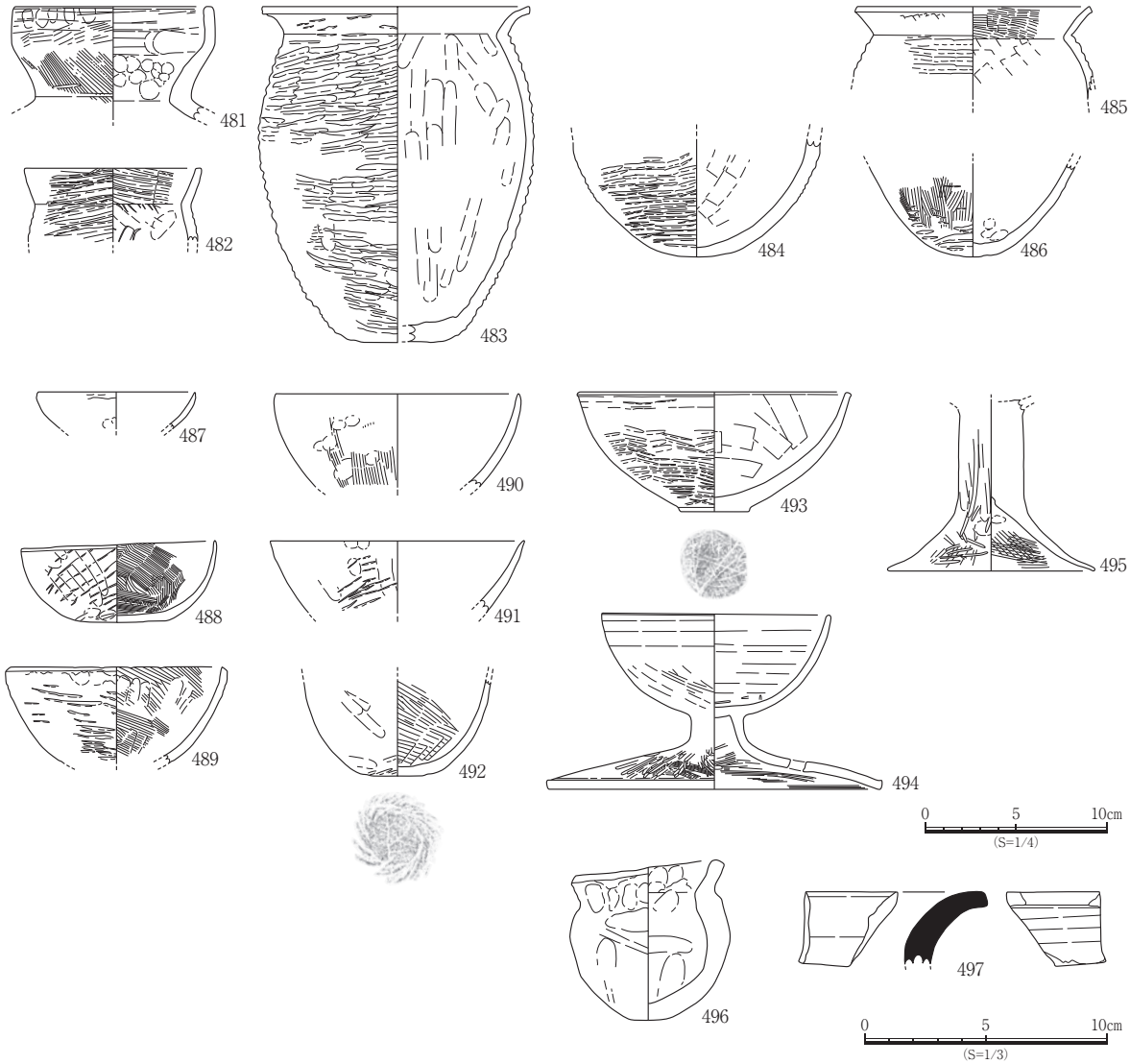


図2－46　ST2013出土遺物実測図

ST2015

Ｃ区中央部で検出した隅丸方形ないし方形状の竪穴建物跡で調査区東壁へ延びる。長軸は 5.16m 、短軸は 4.88m を測り、面積は約 25.18 ㎡である。検出面からの深さは約 0.28m で、床面標高は 17.70m を測る。北部縁辺中央部にカマドを検出した。主柱穴は 4 個とみられる。ST2015 の出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器・石製品等で、498 ～ 520 を図示した。

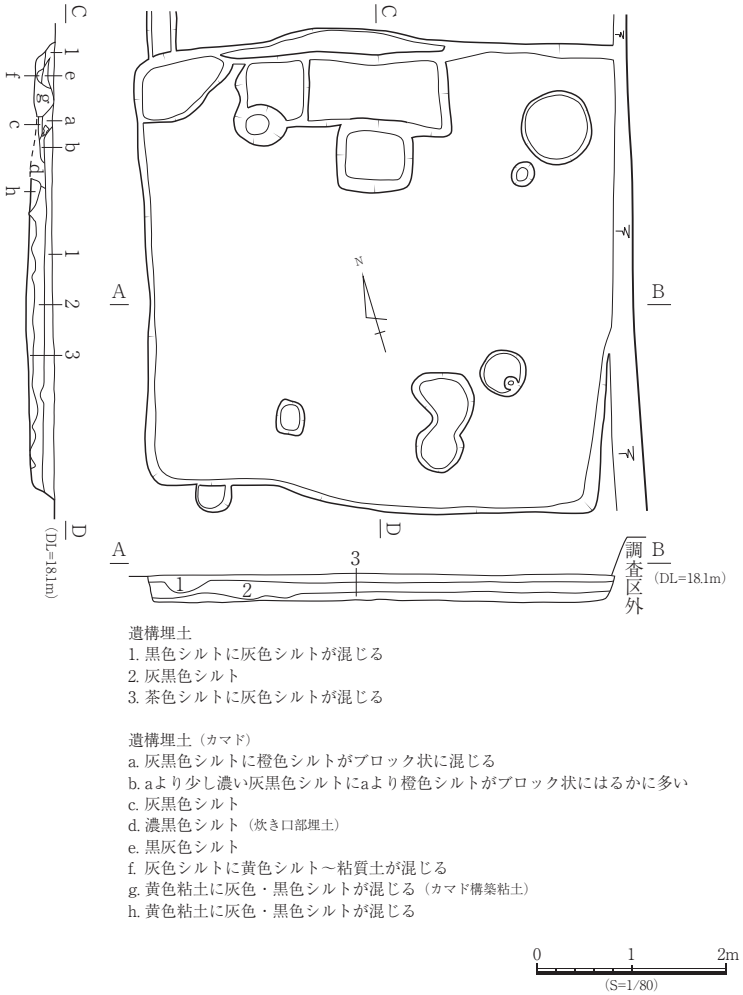


図２－47　ST2015 遺構図

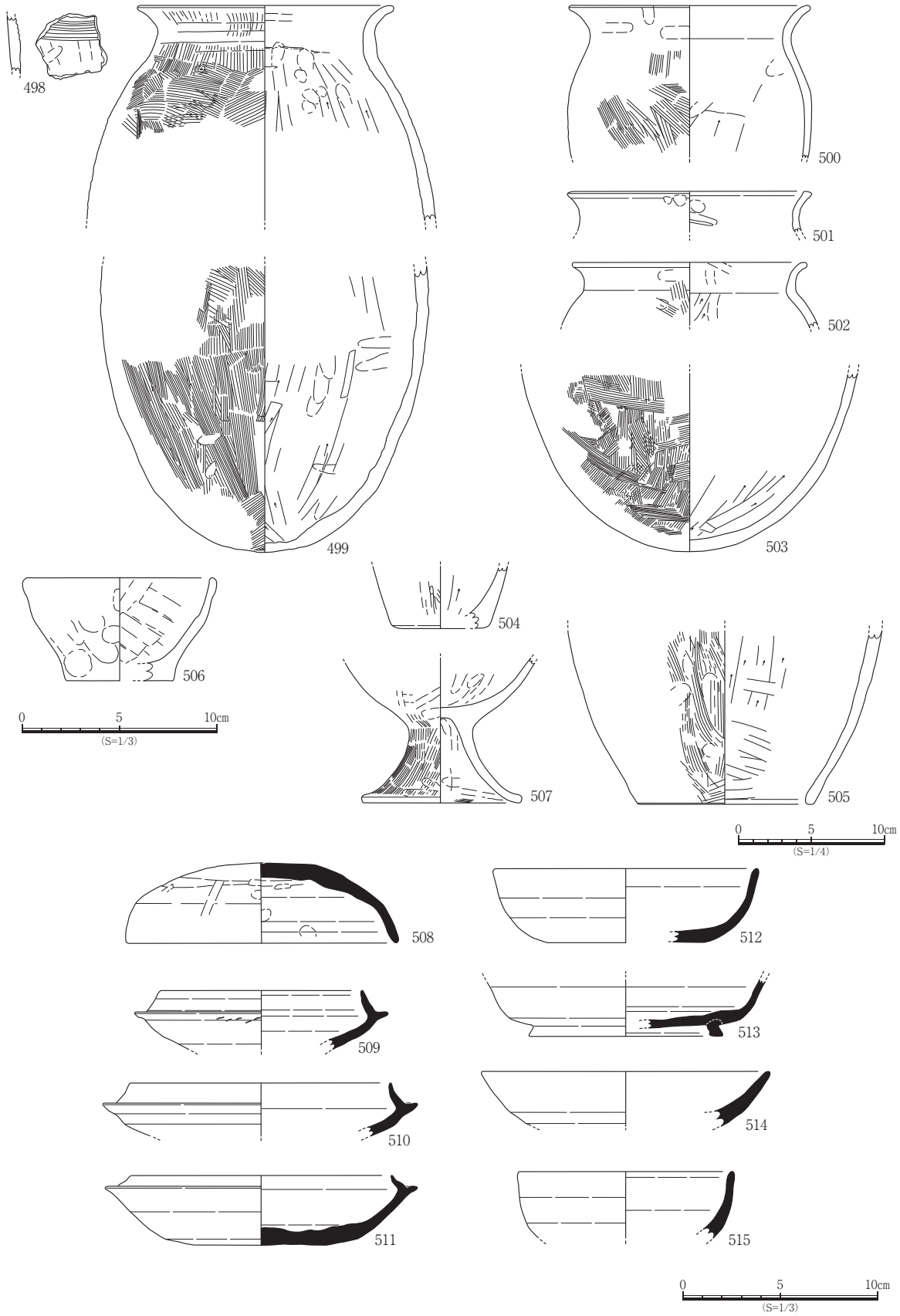


図2－48　ST2015出土遺物実測図1

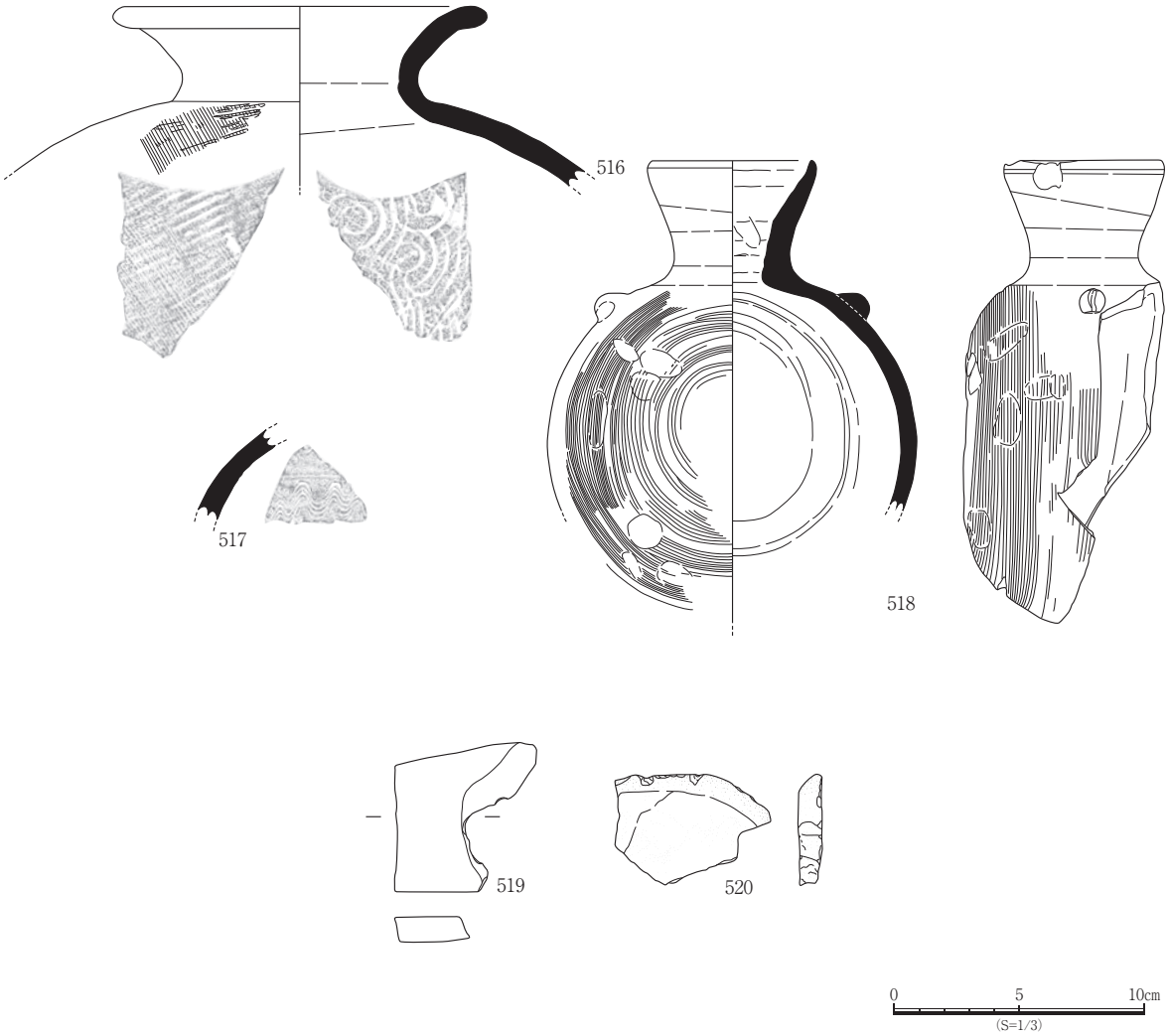


図２－49　ST2015出土遺物実測図２

ST2016

Ｄ区南部で検出した円形状の竪穴建物跡で調査区南壁へ延びる。長軸は7.28m 、短軸は3.52m以上を測り、面積は約19.66㎡以上である。検出面からの深さは約0.48mで、床面標高は17.40mを測る。床面に複数のピットがみられ、主柱穴は判然としない。壁溝は壁際及び段部の際で確認され、幅0.12～0.24mを測る。中央ピットは床面の中央に位置する。ST2016の出土遺物は弥生土器・須恵器・石製品等で、521～534を図示した。

ST2017

Ｄ区南部で検出した円形状の竪穴建物跡でST2016の北東部に隣接し、大半を切られる。長軸は3.92m以上、短軸は0.96m以上を測り、面積は約5.55㎡以上である。検出面からの深さは約0.36mで、床面標高は17.40mを測る。主柱穴はみられない。床面標高はほぼ同じであるが、ST2016に切られる形で検出されたため、異なる遺構と判断された。ST2017の出土遺物は弥生土器・白磁・土製品等で、535～555を図示した。

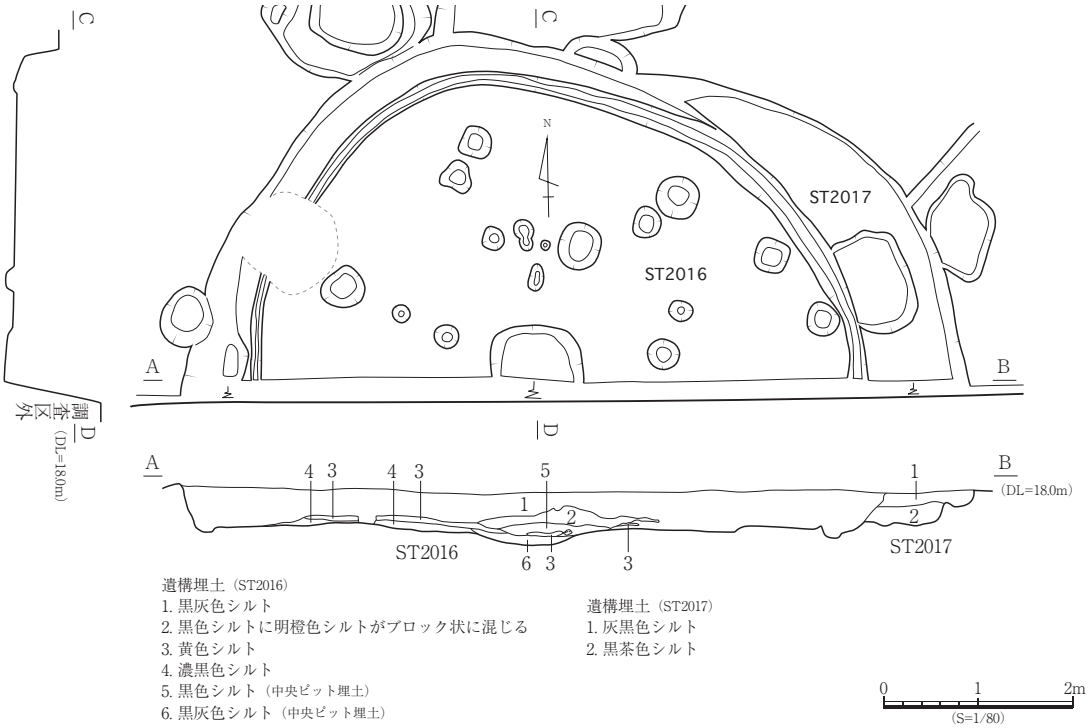


図2－50　ST2016・2017遺構図

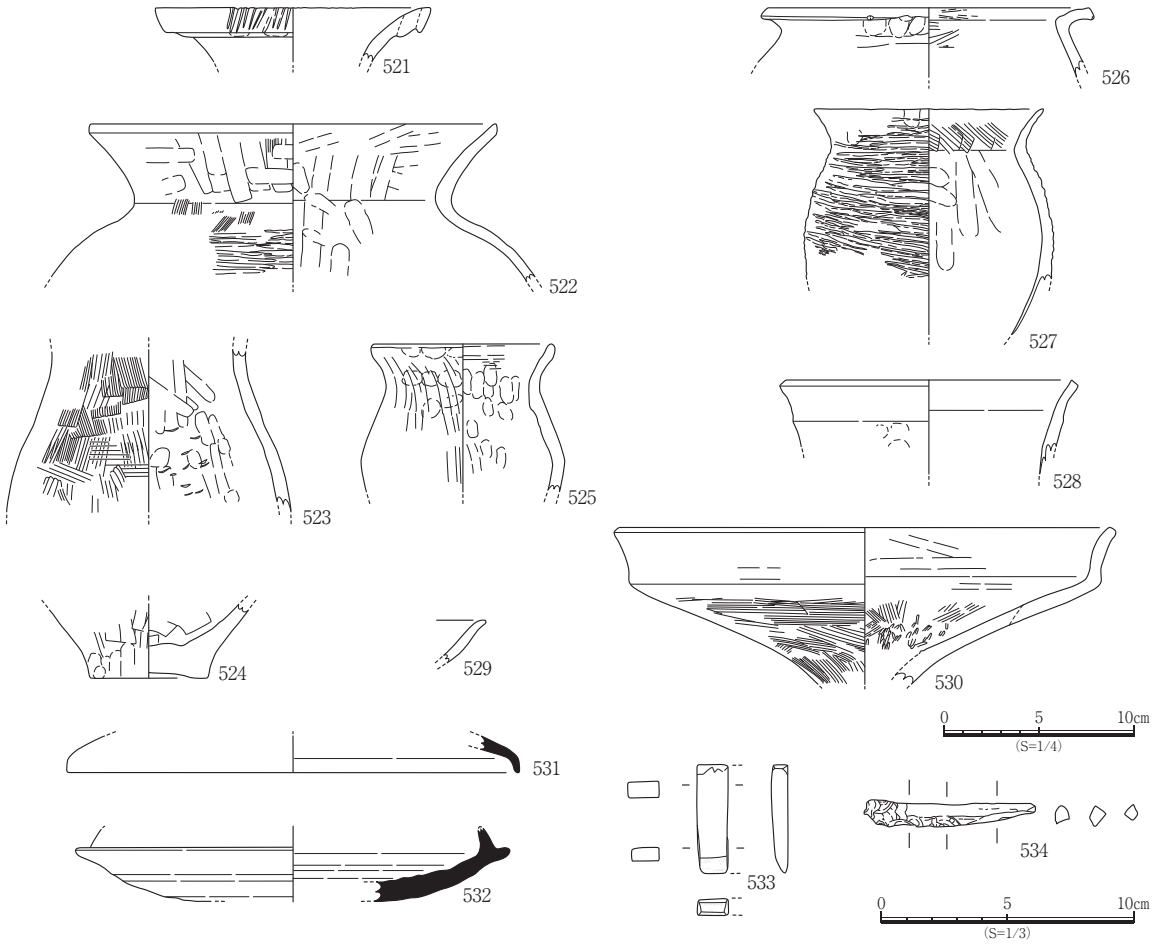


図2－51　ST2016出土遺物実測図

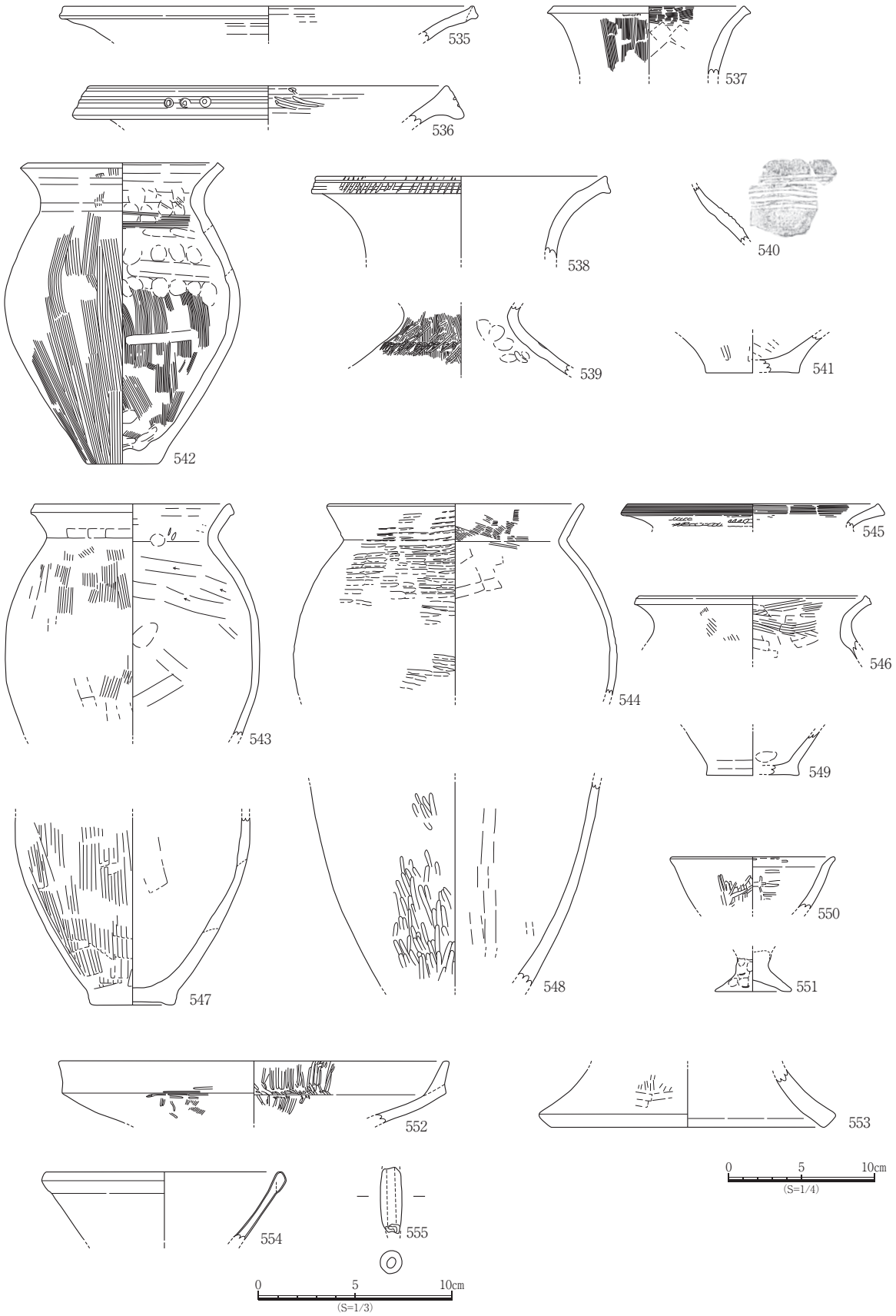


図2－52　ST2017出土遺物実測図

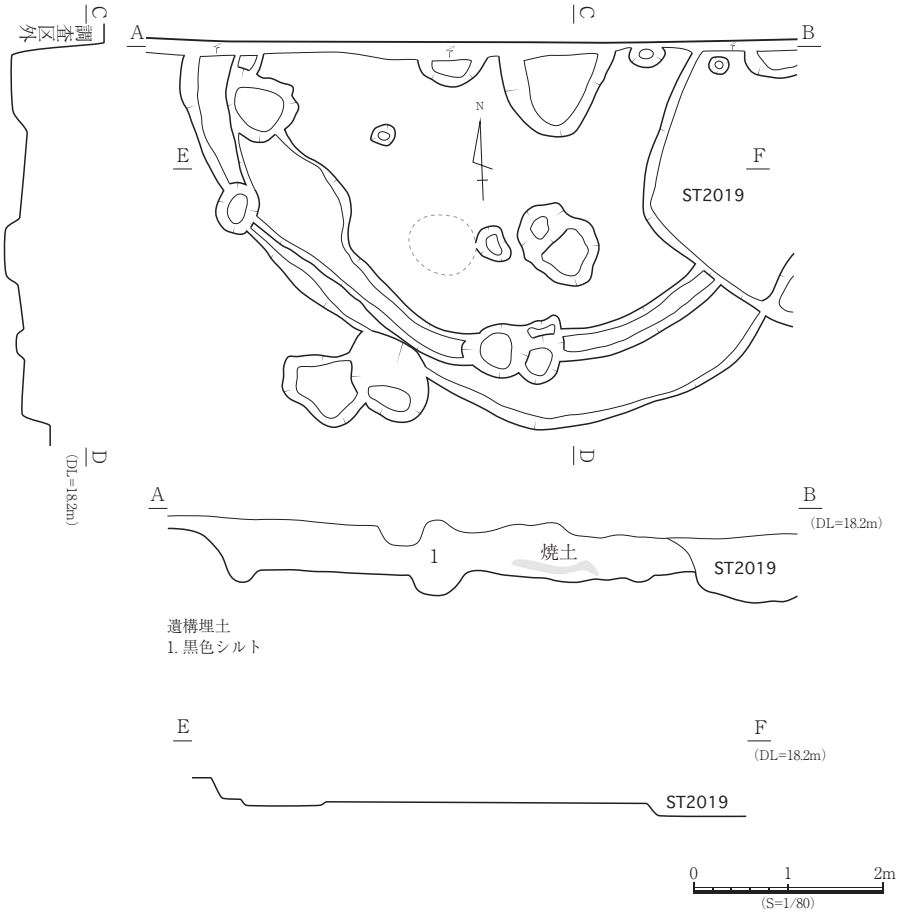


図2－53　ST2018遺構図

ST2018

Ｄ区北部で検出した円形状の竪穴建物跡で調査区北壁へ延びる。長軸は 6.72m 以上、短軸は 4.08m 以上を測り、面積は約15.38㎡以上である。検出面からの深さは約0.28mで、床面標高は17.50mを測る。床面に複数のピットがみられ、主柱穴は判然としない。壁溝は南部壁際で確認され、幅 0.34 ～ 0.90m を測る。中央ピットは床面の中央に位置し、埋土に焼土を含む。ST2018 の出土遺物は弥生土器・石製品等で、556 ～ 576 を図示した。

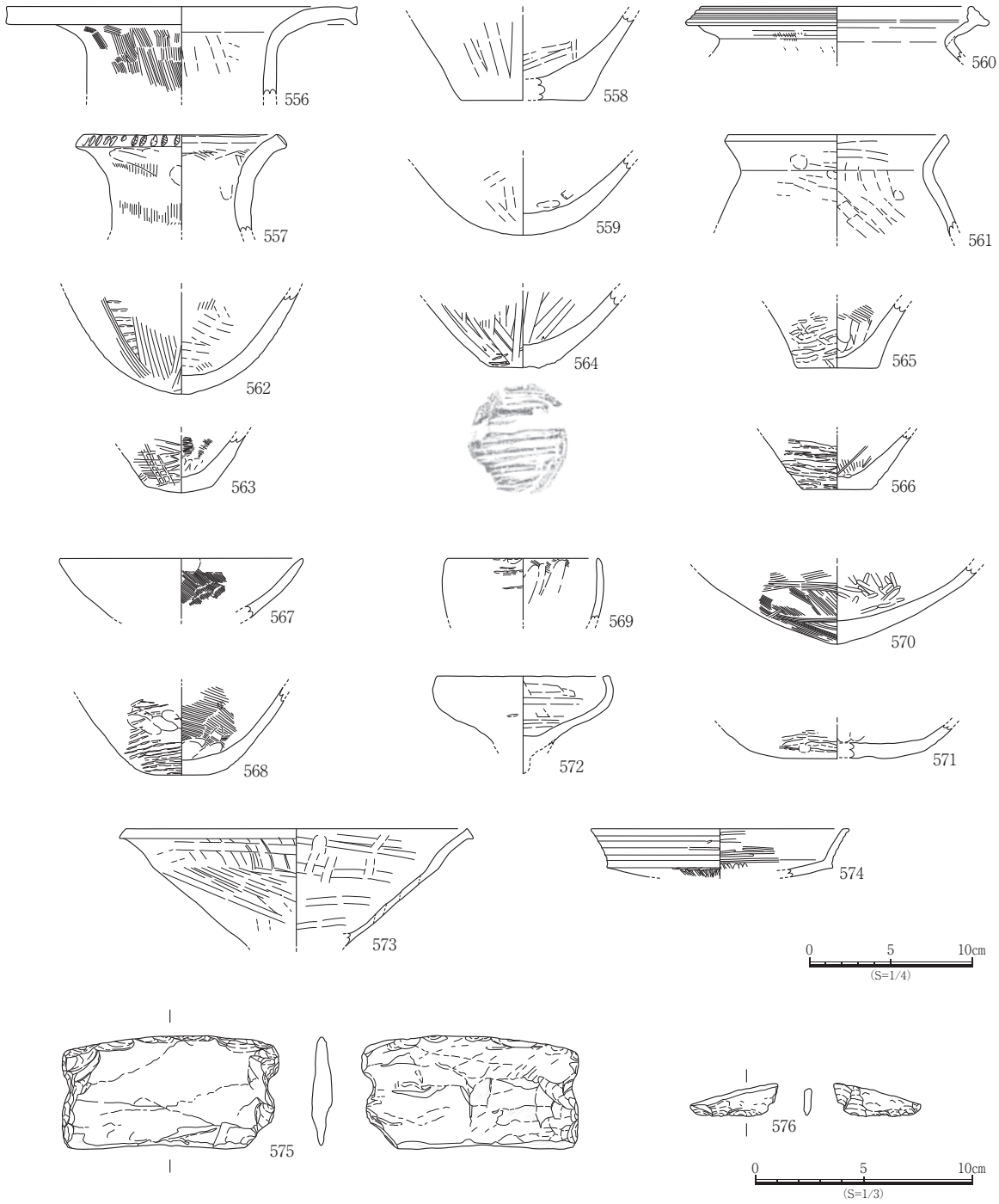


図2－54　ST2018出土遺物実測図

ST2019

Ｄ区北部で検出した隅丸方形状の竪穴建物跡で調査区北壁へ延びる。長軸は5.36m以上、短軸は3.68m以上を測り、面積は約16.57㎡以上である。検出面からの深さは約0.36mで、床面標高は17.30～17.40mを測る。床面に複数のピットがみられるが、主柱穴は判然としない。ST2018を切る。ST2019の出土遺物は弥生土器等で、577～593を図示した。

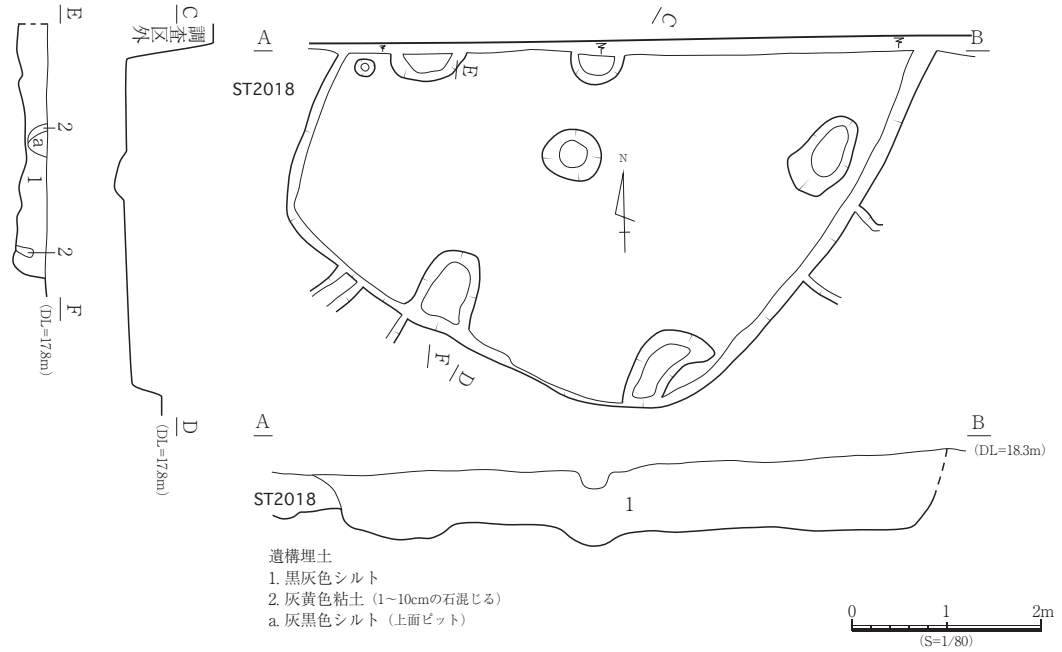


図2－55　ST2019遺構図

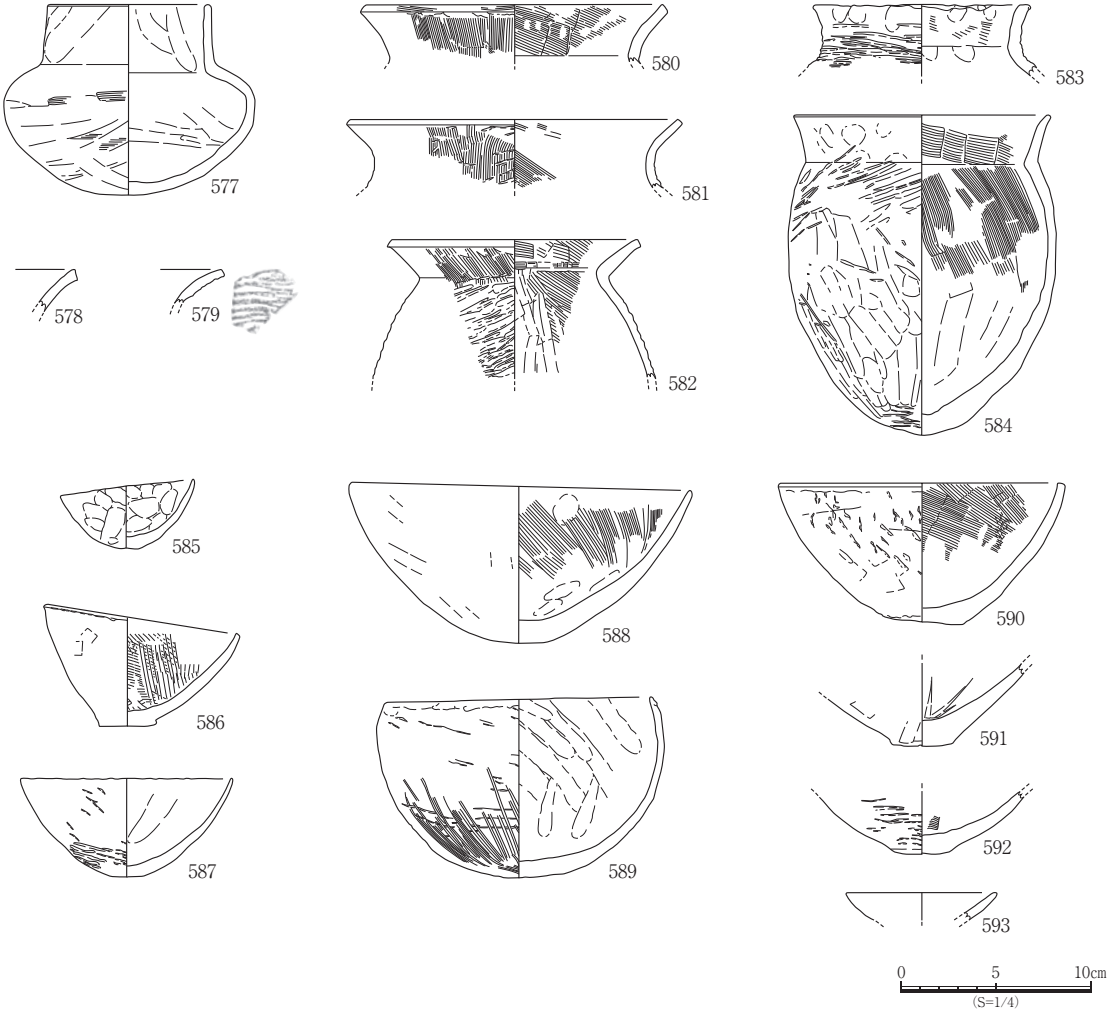


図2－56　ST2019出土遺物実測図

ST2020

Ｄ区中央部で検出した隅丸方形状の竪穴建物跡である。長軸は 6.40m 、短軸は 5.76m を測り、面積は約36.86㎡である。検出面からの深さは約0.16mで、床面標高は17.70m を測る。床面に複数の小ピットがみられ、主柱穴は判然としない。カマドは床面北部中央に位置する。ST2020 の出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器・鉄製品・石製品等で、594～609 を図示した。

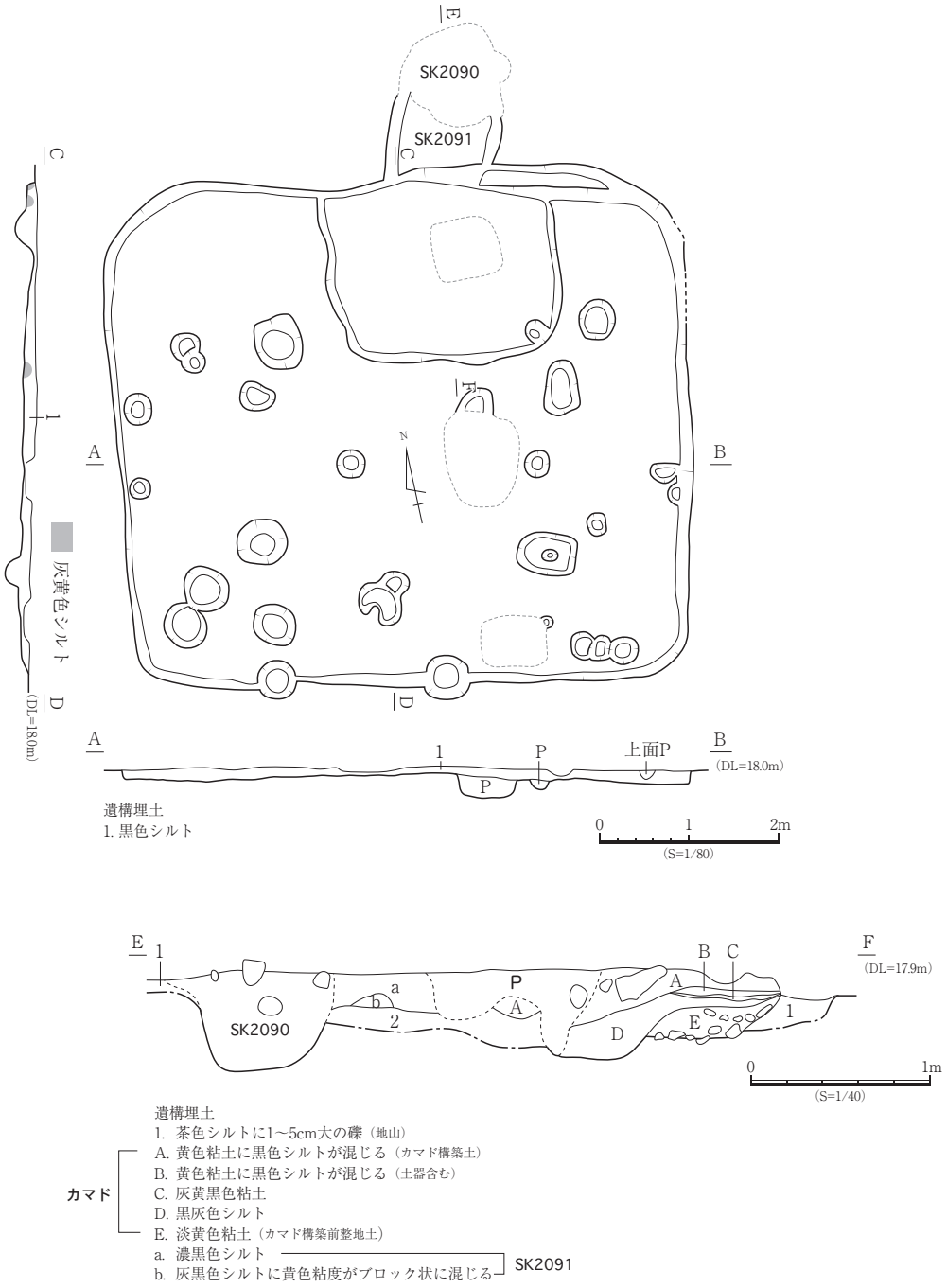


図２－57　ST2020遺構図

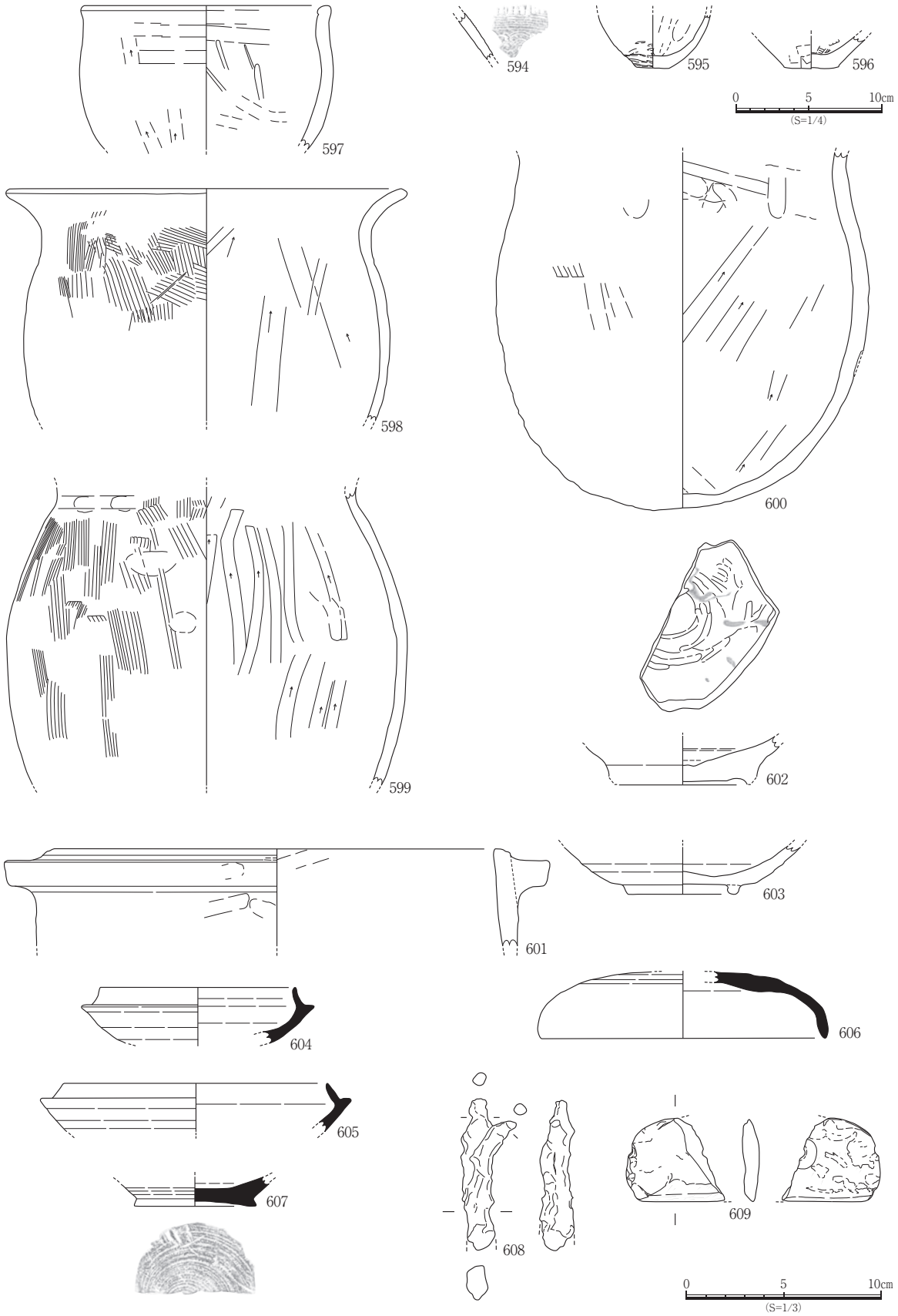


図2－58　ST2020出土遺物実測図

ST2021

Ｄ区南部で検出した楕円形状の竪穴建物跡で調査区南壁に延びる。長軸は3.60m以上、短軸は3.28m以上を測り、面積は約7.86㎡以上である。検出面からの深さは約0.08mで、床面標高は17.80mを測る。床面に不整形のピットがみられ、主柱穴は判然としない。ST2021の出土遺物は土器細片のみである。

ST2025

Ｊ区北部で検出した隅丸方形又は多角形状の竪穴建物跡で調査区東壁に延びる。長軸は4.68m、短軸は2.28m以上を測り、面積は約10.67㎡以上である。検出面からの深さは約0.16mで、床面標高は18.00mを測る。床面に複数の小ピットがみられ、主柱穴は判然としない。ST2025の出土遺物は弥生土器・土師器等で、610・611を図示した。

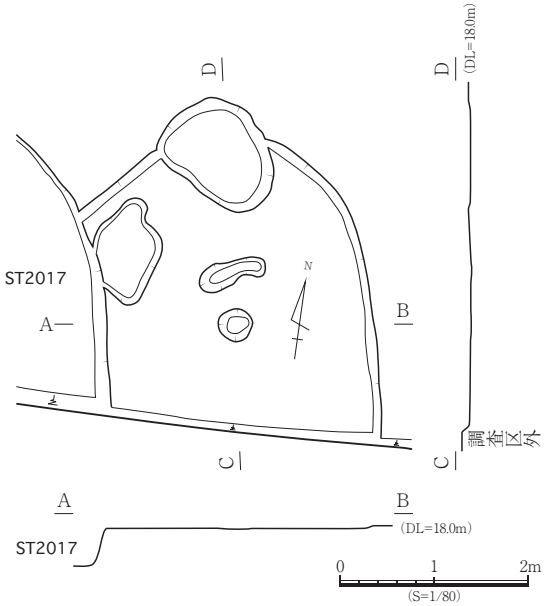


図２－59　ST2021遺構図

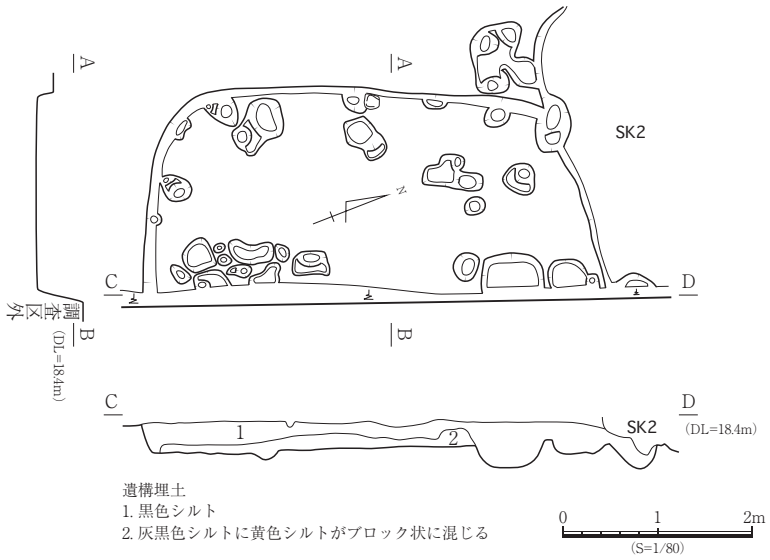


図２－60　ST2025遺構図

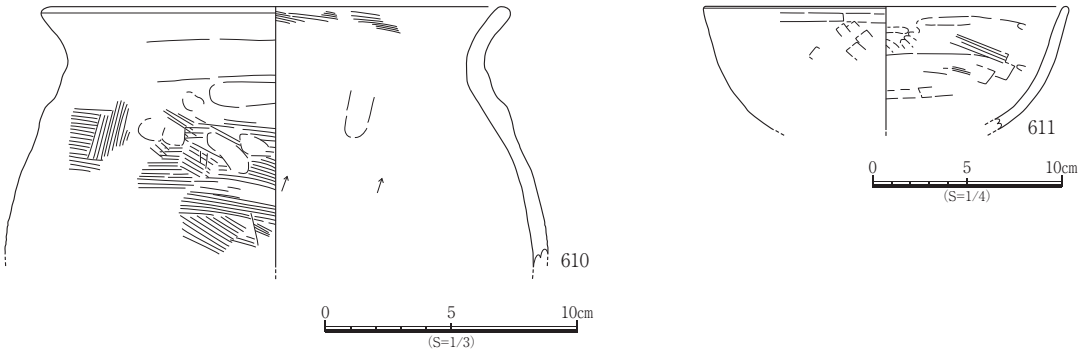
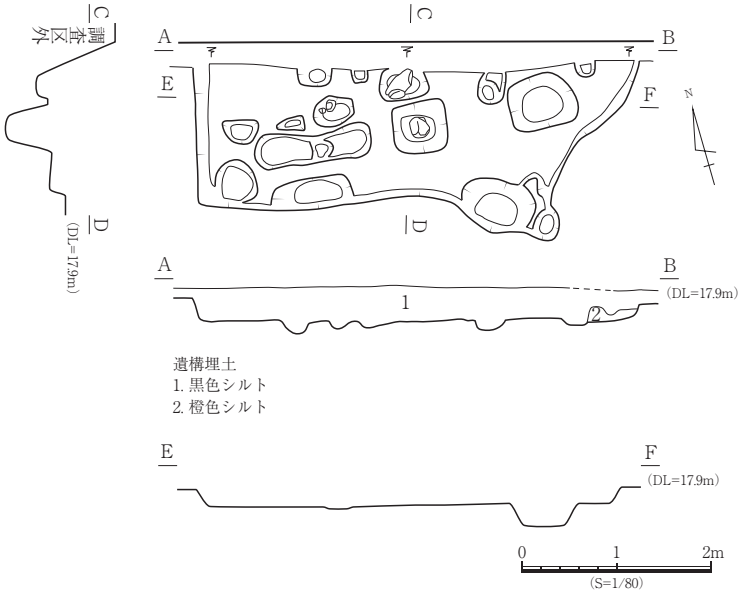


図２－61　ST2025出土遺物実測図

ST2026

J区北部で検出した不整形状の竪穴建物跡で調査区北壁に延びる。長軸は4.88m以上、短軸は1.72m以上を測り、面積は約8.39㎡以上である。検出面からの深さは約0.20mで、床面標高は18.00mを測る。床面に複数の小ピットがみられ、主柱穴は判然としない。ST2026の出土遺物は弥生土器等で、612を図示した。



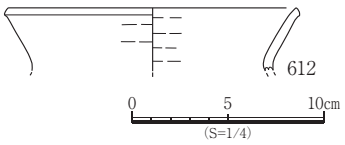


図2－63　ST2026出土遺物実測図

図2－62　ST2026遺構図

ST2027

K区東部で検出した多角形状の竪穴建物跡で調査区北壁に延びる。長軸は3.72m以上、短軸は2.00m以上を測り、面積は約6.52㎡以上である。検出面からの深さは約0.28mで、床面標高は17.70mを測る。床面に複数の小ピットがみられ、主柱穴は判然としない。ST2027の出土遺物は細片のみである。

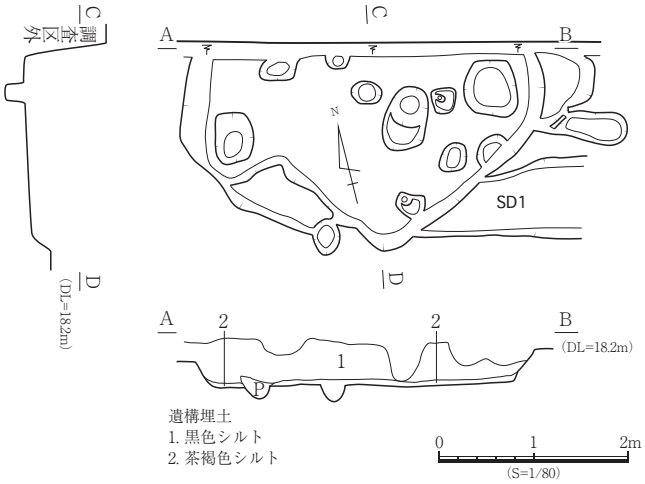


図2－64　ST2027遺構図

ST2028

Ｋ区中央部で検出した隅丸方形状とみられる竪穴建物跡で調査区北壁に延びる。長軸は 3.60m 、短軸は 1.12m 以上を測り、面積は約 4.03 ㎡以上である。検出面からの深さは約 0.20m で、床面標高は 17.90m を測る。床面に複数の不整形のピットがみられ、主柱穴は判然としない。ST2028 の出土遺物は土師器・石製品等で、613・614 を図示した。

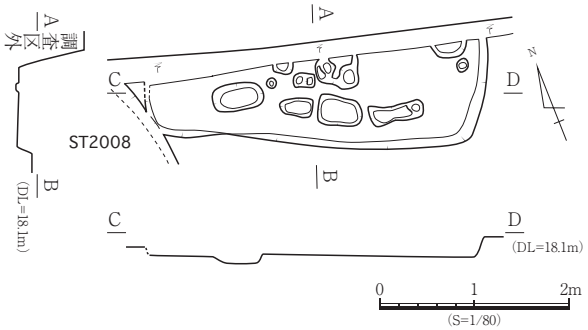


図２－65　ST2028 遺構図

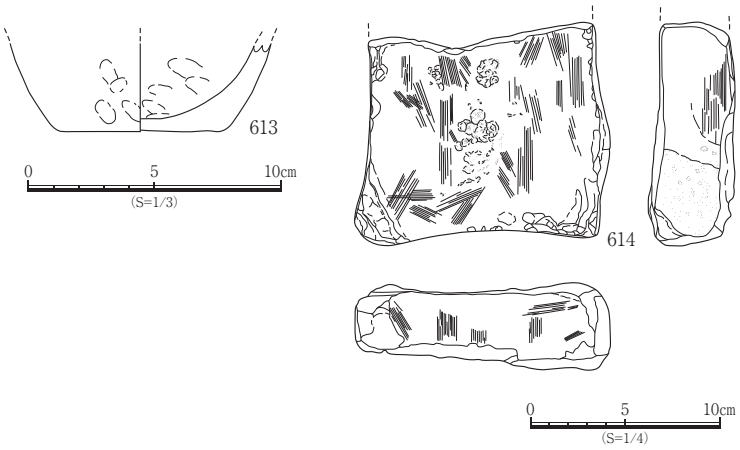


図２－66　ST2028 出土遺物実測図

ST3001

Ａ区中央部で検出した円形又は楕円形状の竪穴建物跡である。長軸は7.12m 、短軸は6.56m を測り、面積は約 35.87 ㎡である。検出面からの深さは約 0.08m と浅く、床面標高は 17.90m を測る。床面に複数の不整形のピットがみられ、主柱穴は判然としない。調査時には遺構番号が付されていなかったため、整理作業の段階で番号を付した。ST3001 の出土遺物は弥生土器等で、615・616 を図示した。

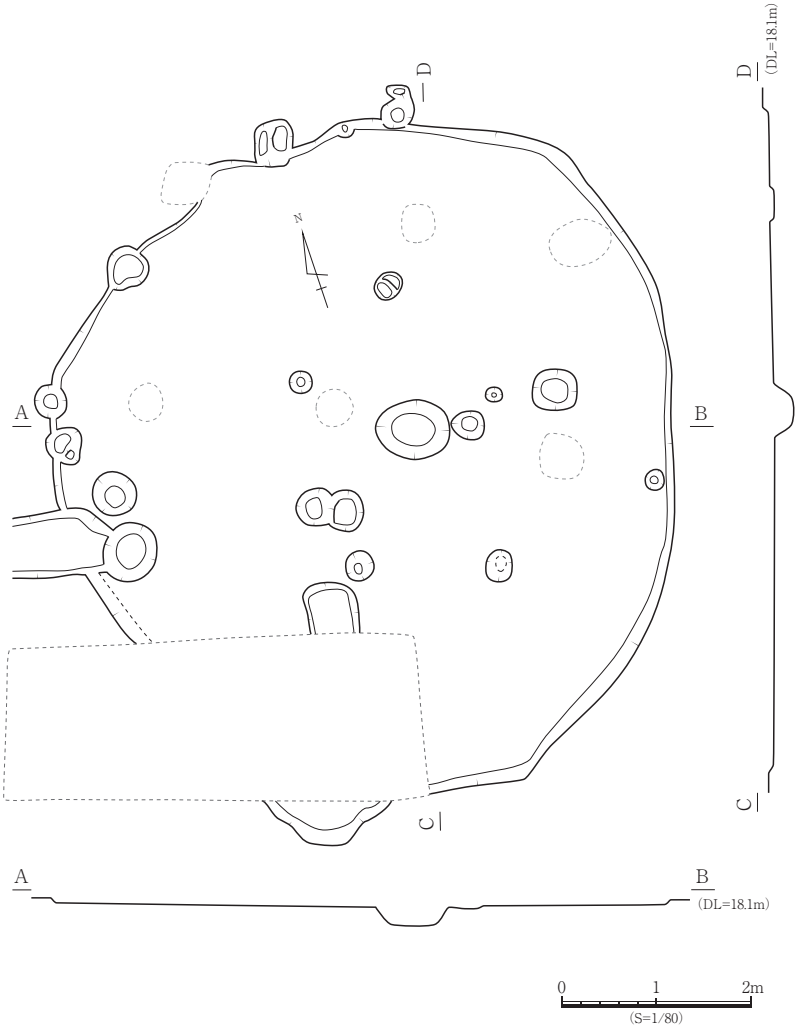


図2－67　ST3001遺構図

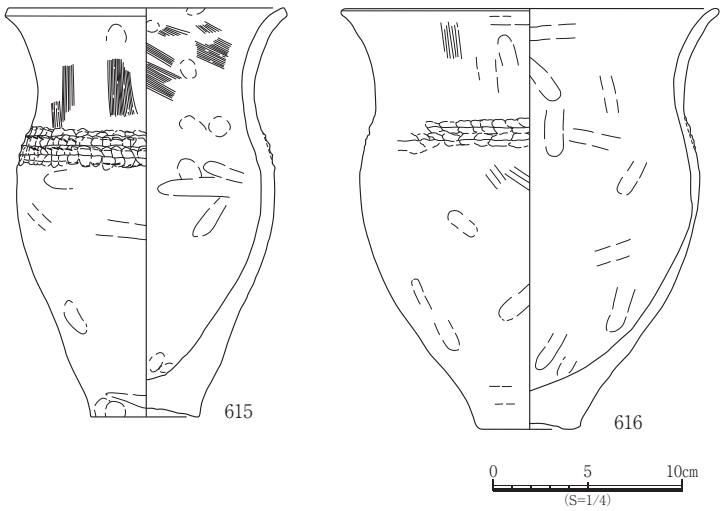


図2－68　ST3001出土遺物実測図

ST1

北区中央部で検出した隅丸多角形状とみられる竪穴建物跡で、南部は調査区南壁に延びる。長軸は6.77m以上、短軸は2.46m以上を測り、面積は約90.42㎡以上である。検出面からの深さは約0.34～0.47mで、床面標高は17.60mを測る。中央部に隅丸多角形とみられる段部を有し、下段の床面標高は17.40mである。床面隅に小ピットがみられ、主柱穴は2個以上とみられる。上段部隅にも規模が大きな土坑状のピットを有する。壁際には幅0.31～0.42mを測る壁溝が巡る。ST1の出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器・緑釉陶器・黒色土器・瓦器等で、617～657を図示した。

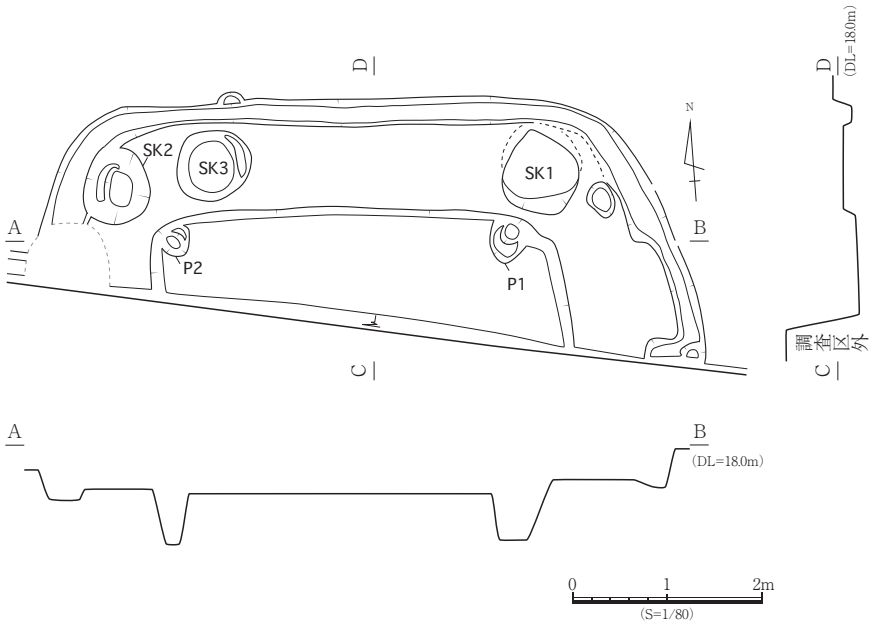


図2－69　ST1遺構図

ST2

北区南西部で検出した円形状とみられる竪穴建物跡で、南部は調査区南壁及び西壁に延びる。竪穴建物跡又は土坑と考えられるが、調査時の遺構名のSTとして報告を行う。長軸は3.11m以上、短軸は2.46m以上を測り、面積は約7.17㎡以上である。検出面からの深さは約0.74mで、床面標高は18.02mを測る。床面に複数のピットがみられ、主柱穴は判然としない。ST2の出土遺物は弥生土器・石製品等で、658～682を図示した。

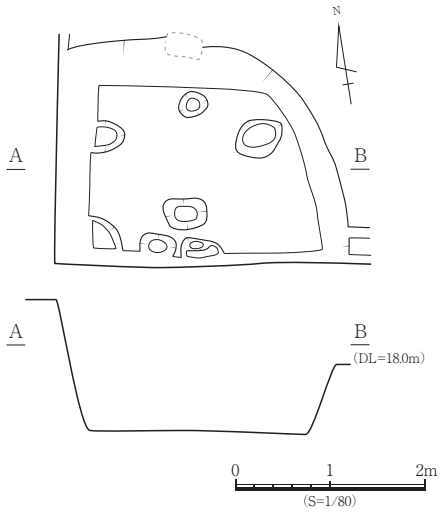


図2－70　ST2遺構図

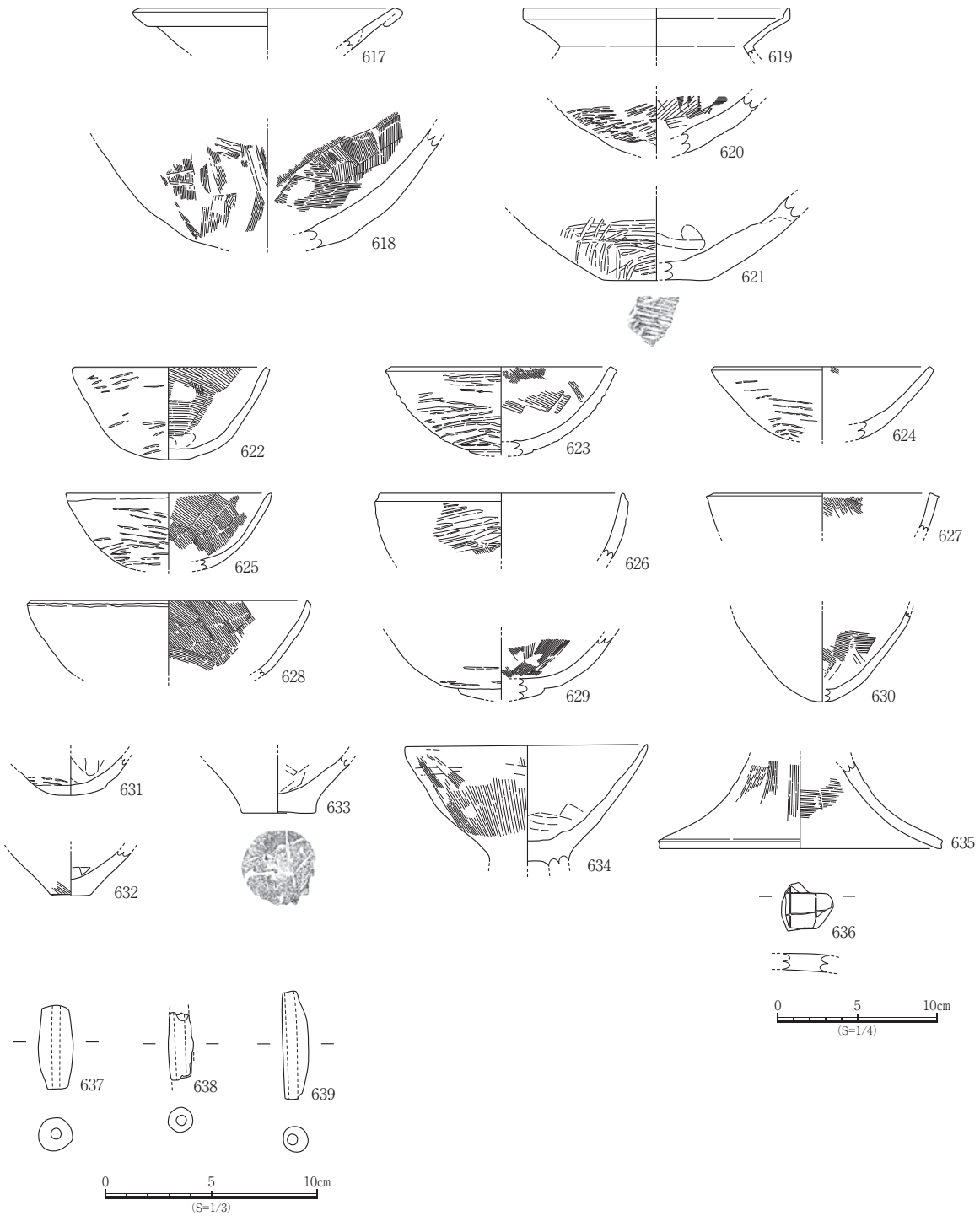


図2－71　ST1出土遺物実測図1

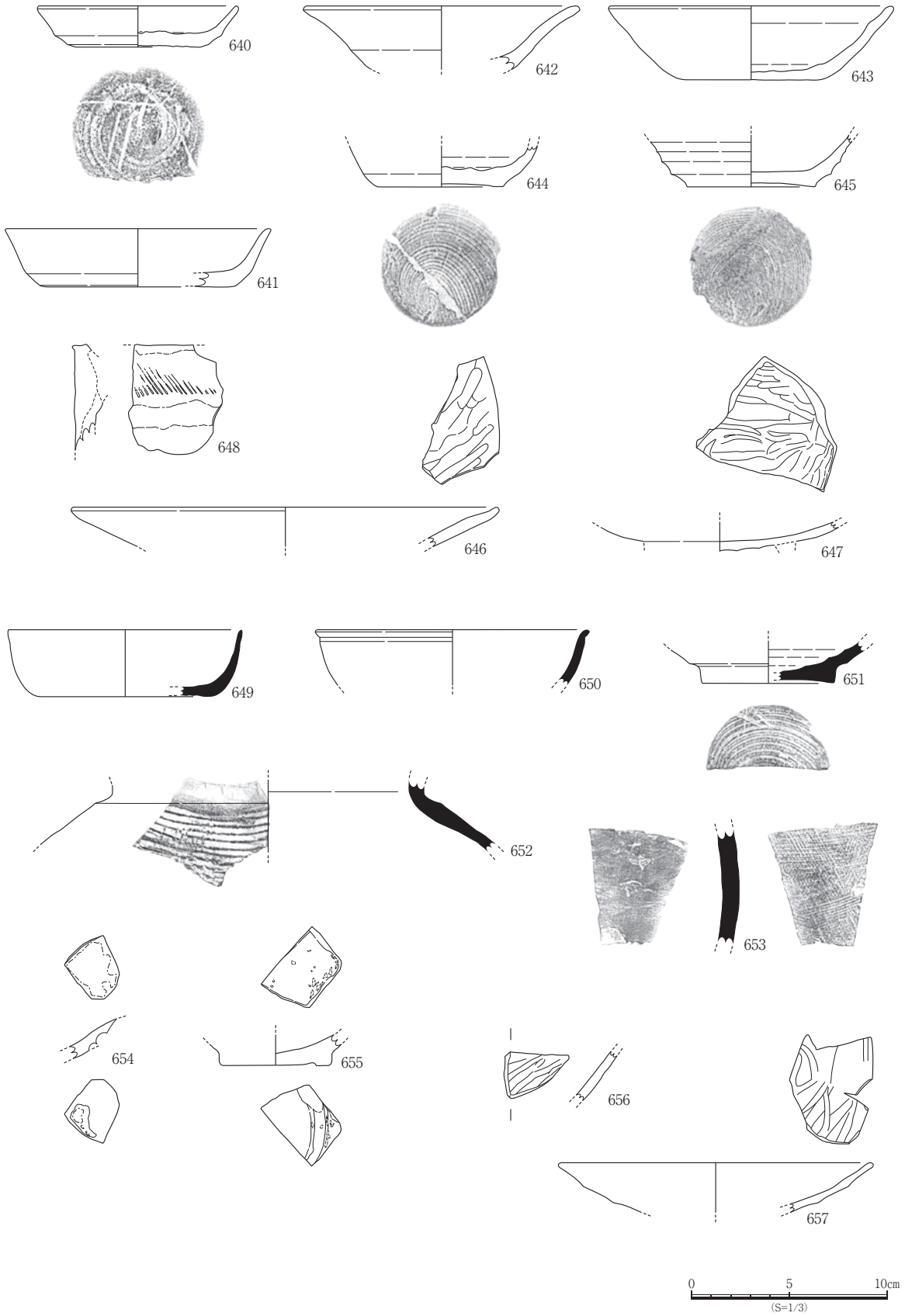


図2－72　ST1出土遺物実測図2

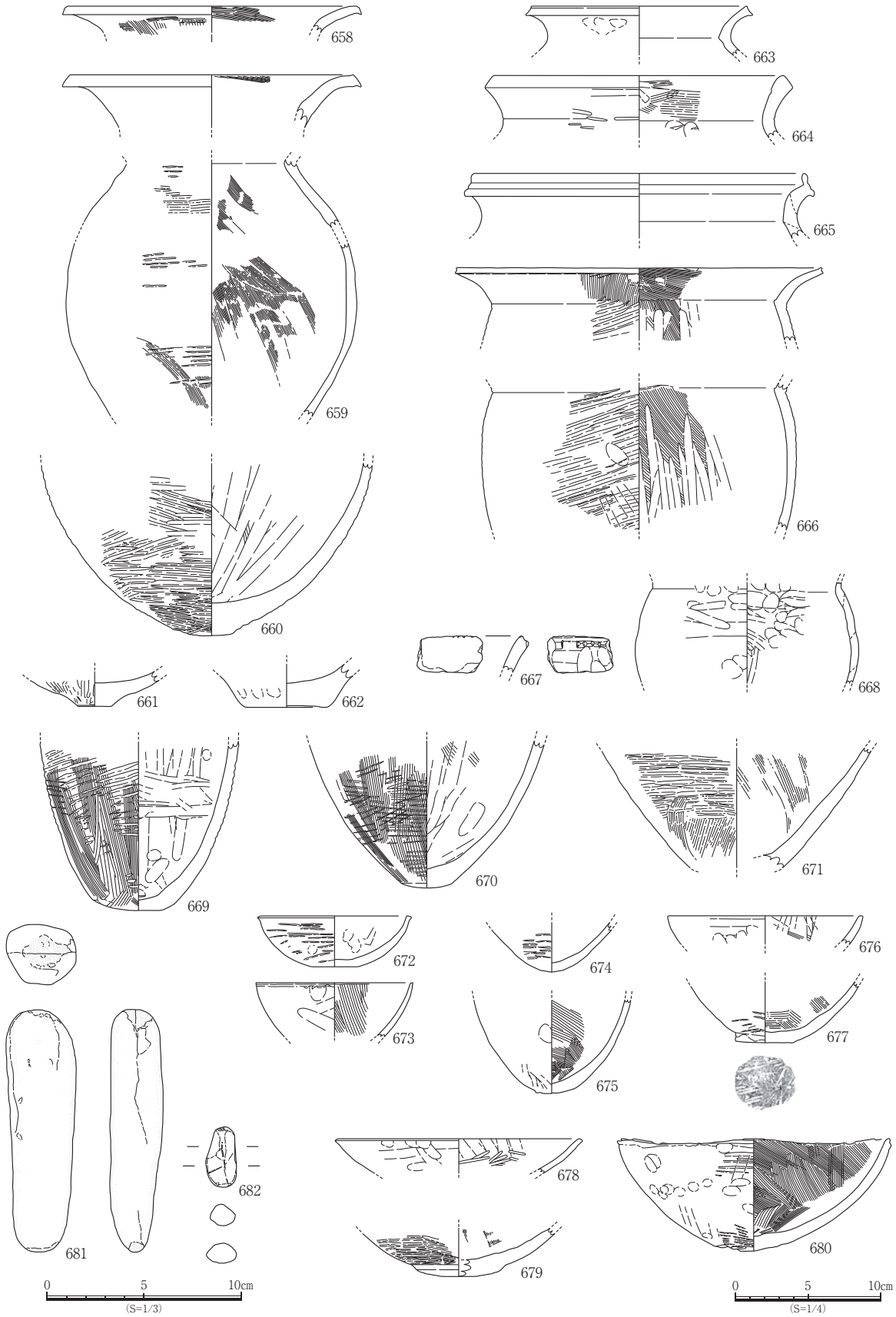


図2－73　ST2出土遺物実測図

⑵掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、調査区北部で６棟を検出した。調査区全体を通じて遺構密度が高く、切り合い関係が判然としないものが多い。遺構は、一部土坑として記録されたものもあるが、遺構番号は変更せず、調査時のものを掲載している。尚、先述の通り出土遺物の詳細については遺物観察表に記す。

SB1

Ａ区とＪ区に跨る中央やや北寄りで検出した桁行３間(4.43m)、梁行１間(2.95m)の南北棟建物跡で、主軸方向はＮ－44°－Ｗである。柱間距離は桁行1.50m、梁行2.95m、面積は13.07㎡を測る。柱穴の掘方は円形又は楕円形で、柱間に布掘り状の溝跡を有する。出土遺物はSK2011・SD2051・SD2052・P3172・P3268から出土した弥生土器・土師器等で、683～710を図示した。

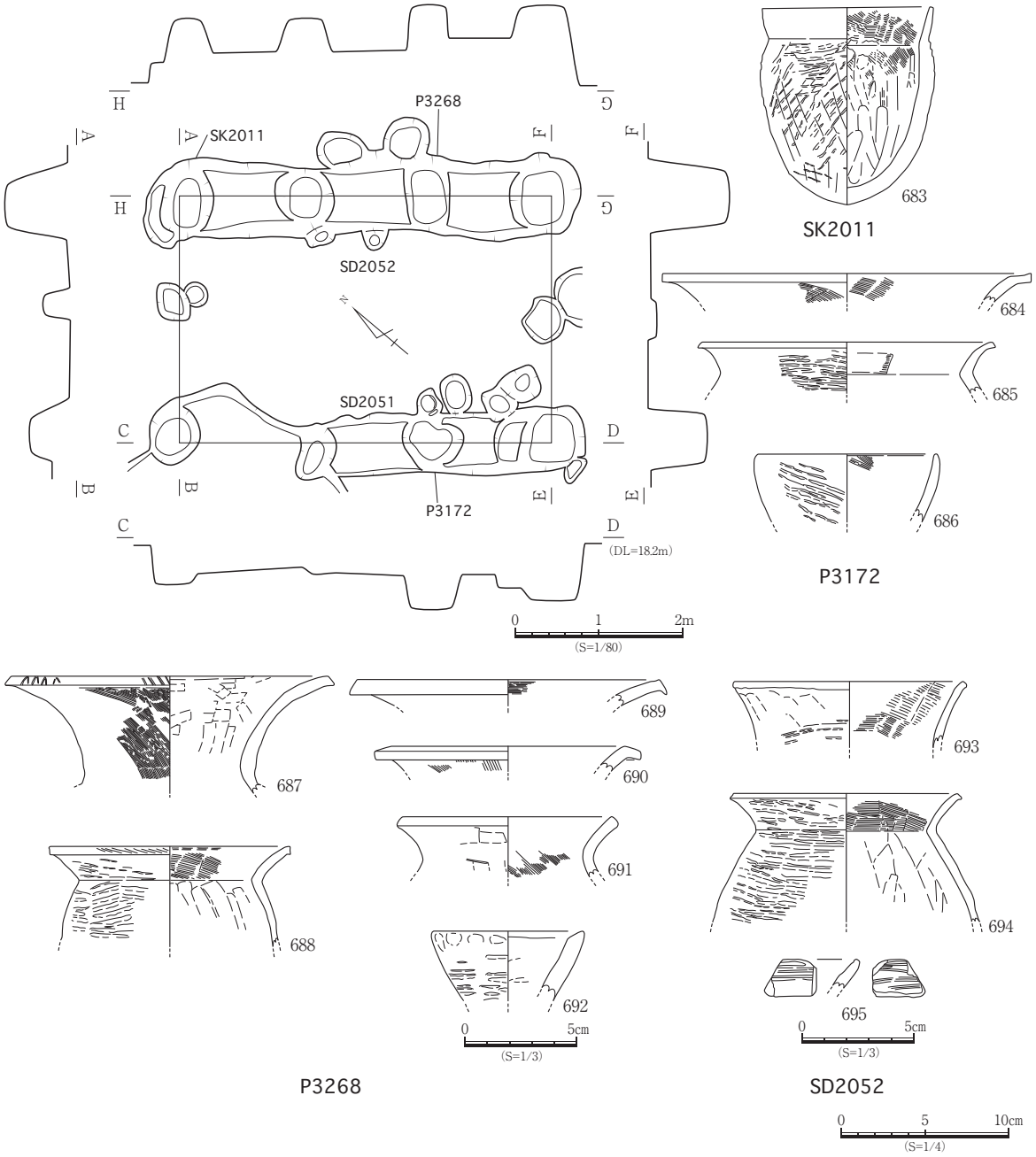


図２－74　SB1遺構図・出土遺物実測図１

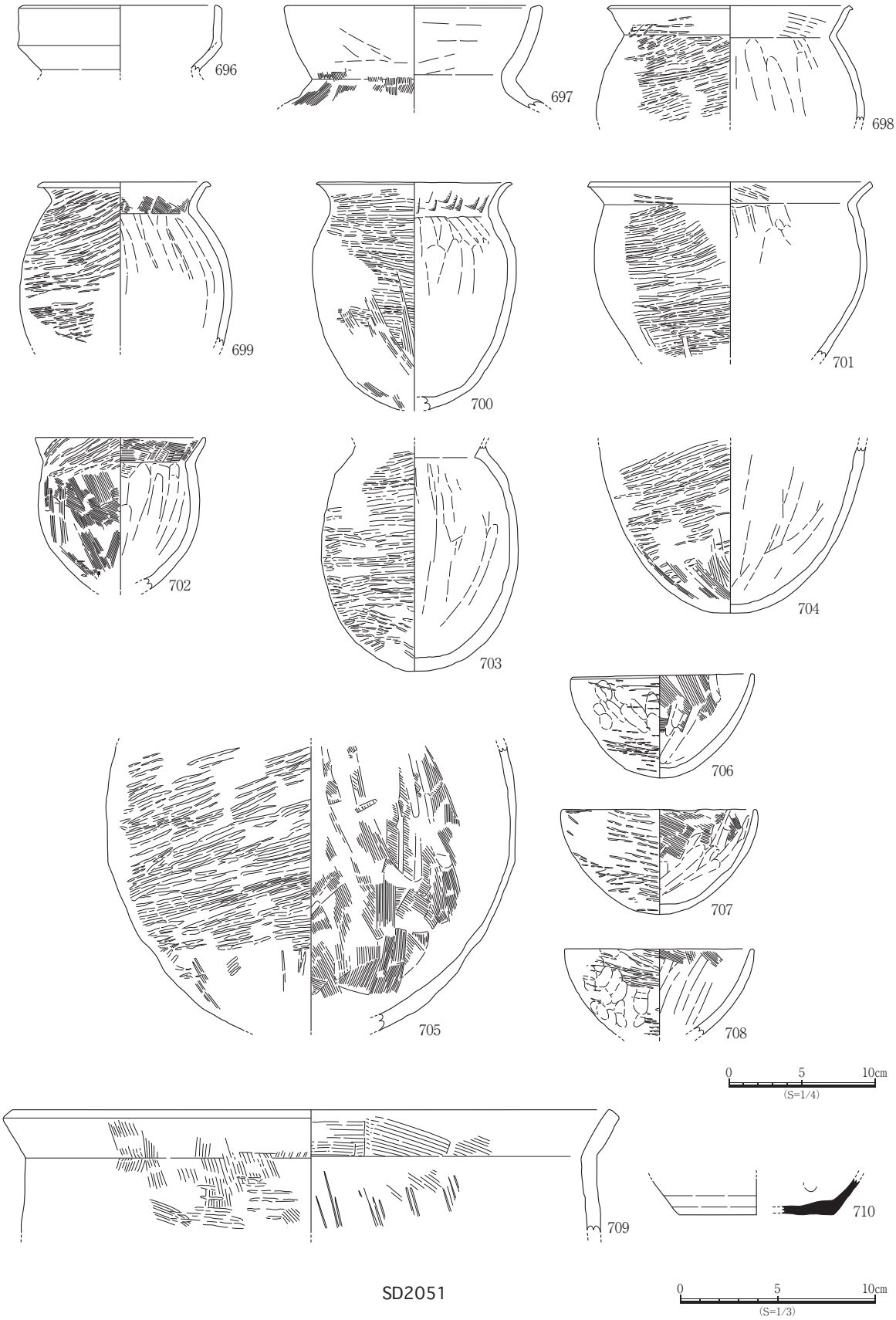


図2－75　SB1出土遺物実測図2

SB2

Ａ区中央部やや北寄りで検出した桁行４間(7.30m)、梁行３間(4.70m)の東西棟建物跡で、主軸方向はＮ－76°－Ｗである。柱間距離は桁行1.42～2.18m、梁行1.50～1.85m、面積は34.31㎡を測る。柱穴の掘方は円形又は隅丸方形である。

SB3

Ｊ区中央部で検出した桁行４間(6.00m)、梁行２間(3.60m)の南北棟建物跡で、主軸方向はＮ－3°－Ｗである。柱間距離は桁行1.04～1.82m、梁行1.68～1.84m、面積は21.60㎡を測る。柱穴の掘方は円形又は隅丸方形である。出土遺物はP3121・P3140から出土した弥生土器・土師器等で、711～718を図示した。

SB4

Ａ区とＪ区に跨る南部で検出した桁行３間(6.57m)、梁行２間(4.10m)の東西棟建物跡で、主軸方向はＮ－81°－Ｗである。柱間距離は桁行2.00～2.44m、梁行1.96～2.15m、面積は26.94㎡を測る。柱穴の掘方は円形又は隅丸方形である。出土遺物はSK2047・P3071から出土した土師器等で、719～721を図示した。

SB5

Ａ区の北部で検出した桁行４間(4.41m)、梁行１間(3.75m)の南北棟建物跡で、主軸方向はＮ－38°－Ｗである。柱間距離は桁行1.00～1.20m、梁行3.75m、面積は16.53㎡を測る。棟持柱は見受けられず、

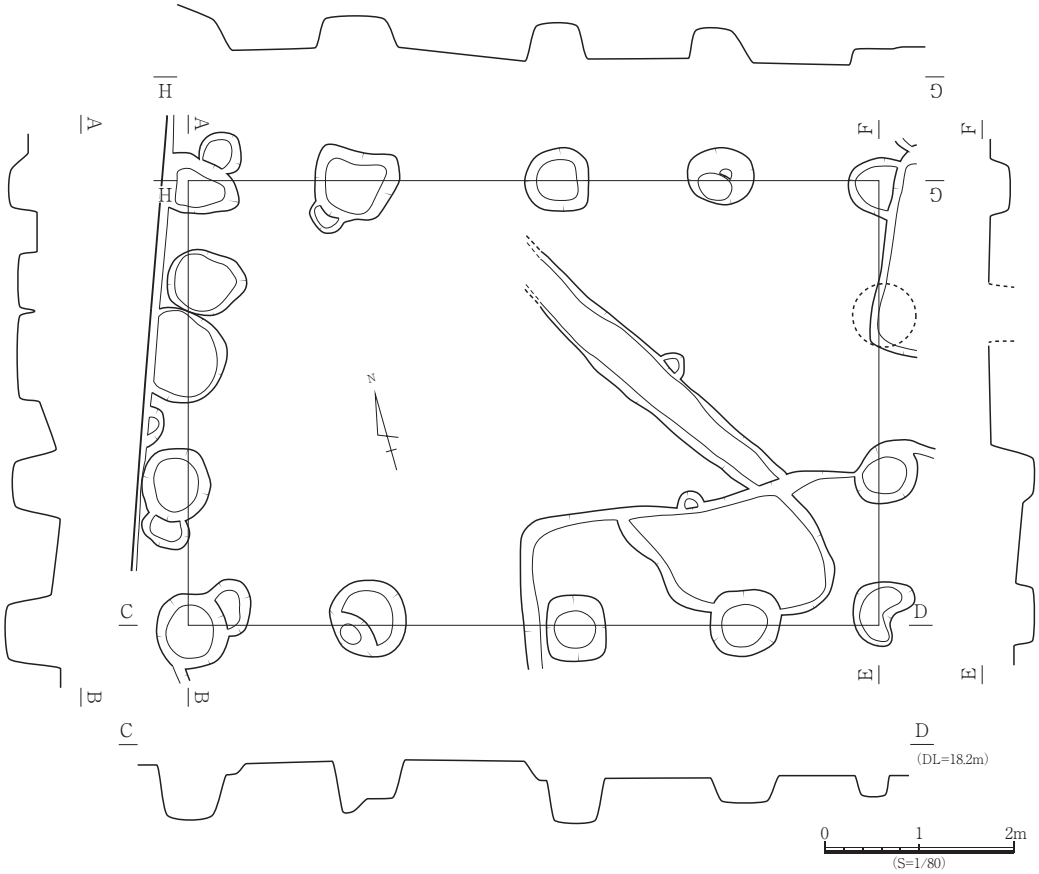


図２－76　SB2遺構図

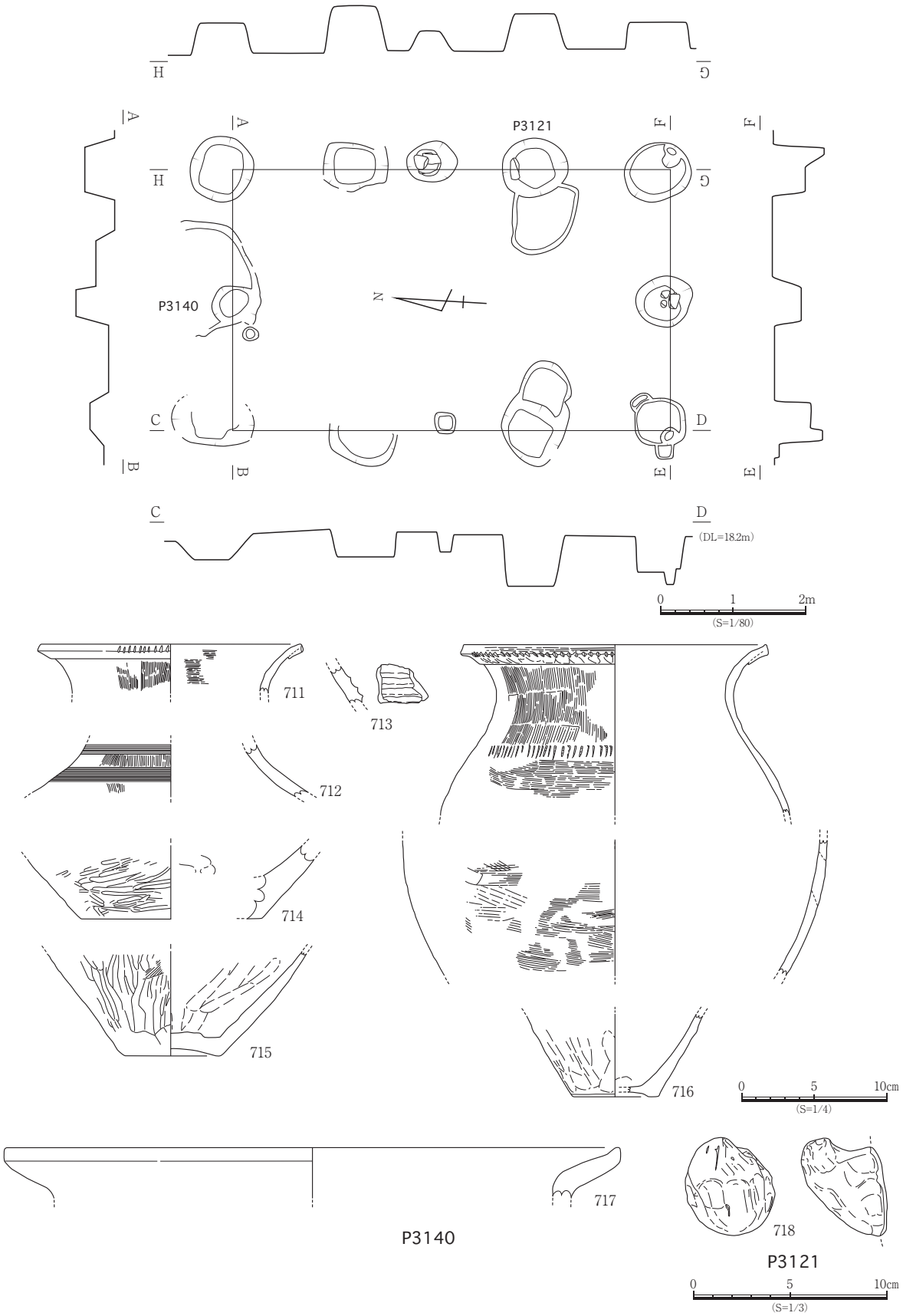


図2－77　SB3遺構図・出土遺物実測図

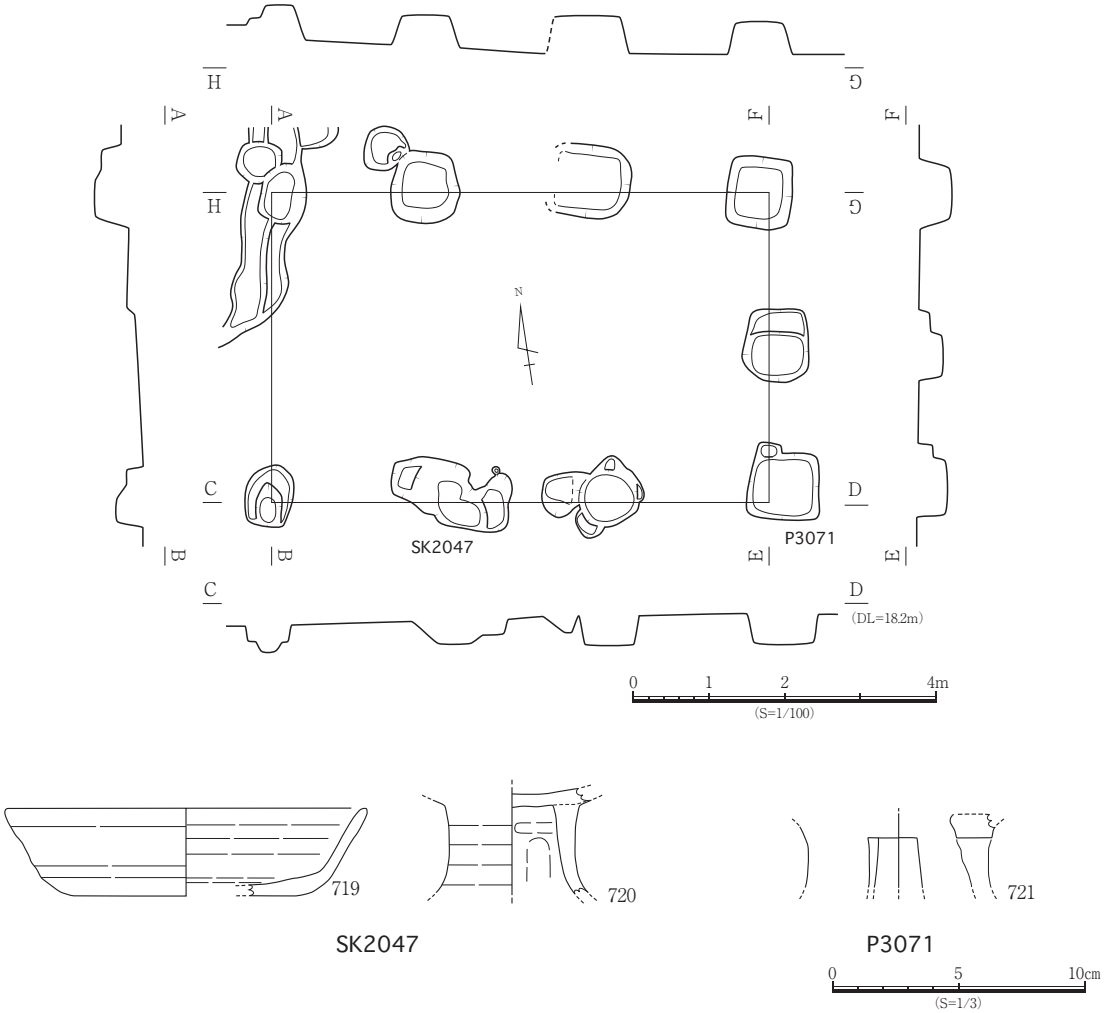


図2－78　SB4遺構図・出土遺物実測図

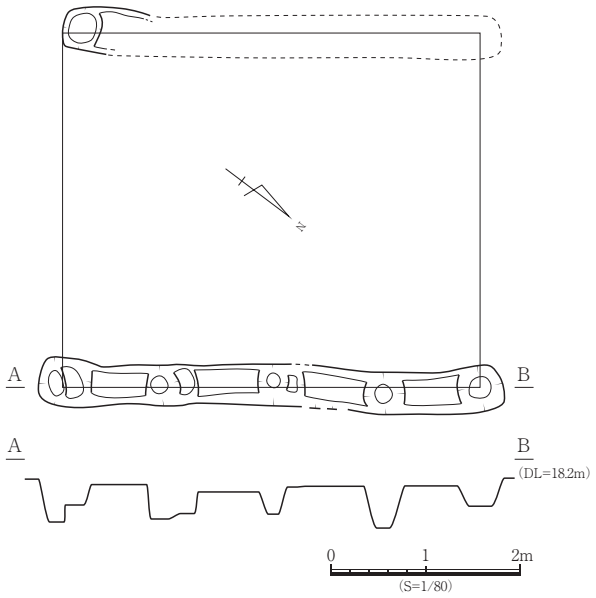


図2－79　SB5遺構図

梁行方向の柱間距離が長い。柱穴の掘方は円形で、柱間に布掘り状の浅い溝跡を有する。西部桁行方向については調査時に残された記録より予測し、復元を行なった。

SB6

Ｄ区の西部で検出した桁行４間(9.38m)、梁行１間(4.73m)の南北棟建物跡で、主軸方向はＮ－15°－Ｅである。柱間距離は桁行1.58～2.58m、梁行4.73m、面積は44.37㎡を測る。柱穴の掘方は円形又は楕円形である。棟持柱は見受けられず、梁行方向の柱間距離が長い。出土遺物はSK2038・P2208・P2233から出土した土師器・須恵器・土製品等で、722～727を図示した。

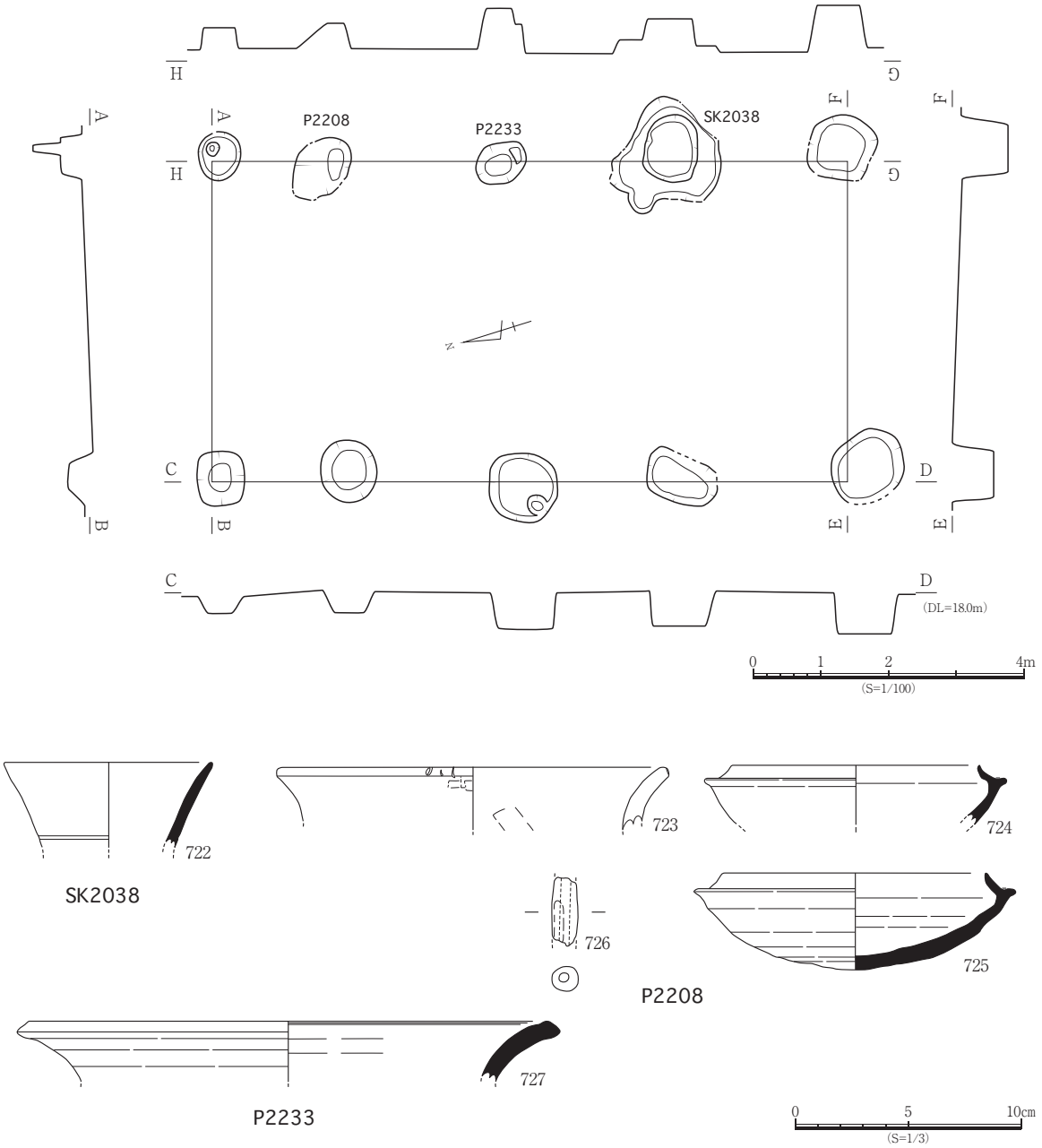


図２－80　SB6遺構図・出土遺物実測図

⑶土坑

調査時に土坑と判断し、SKと付されたものを対象とした。規模の大きな柱穴状の遺構も含まれているが、掘立柱建物跡の柱穴と判断できるもの以外は土坑として報告を行う。遺構の時期は、弥生時代前期末、弥生時代終末期から古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、古代末から中世前期、近世から近代と多岐に渡る。出土遺物の詳細については、遺物観察表に記す。

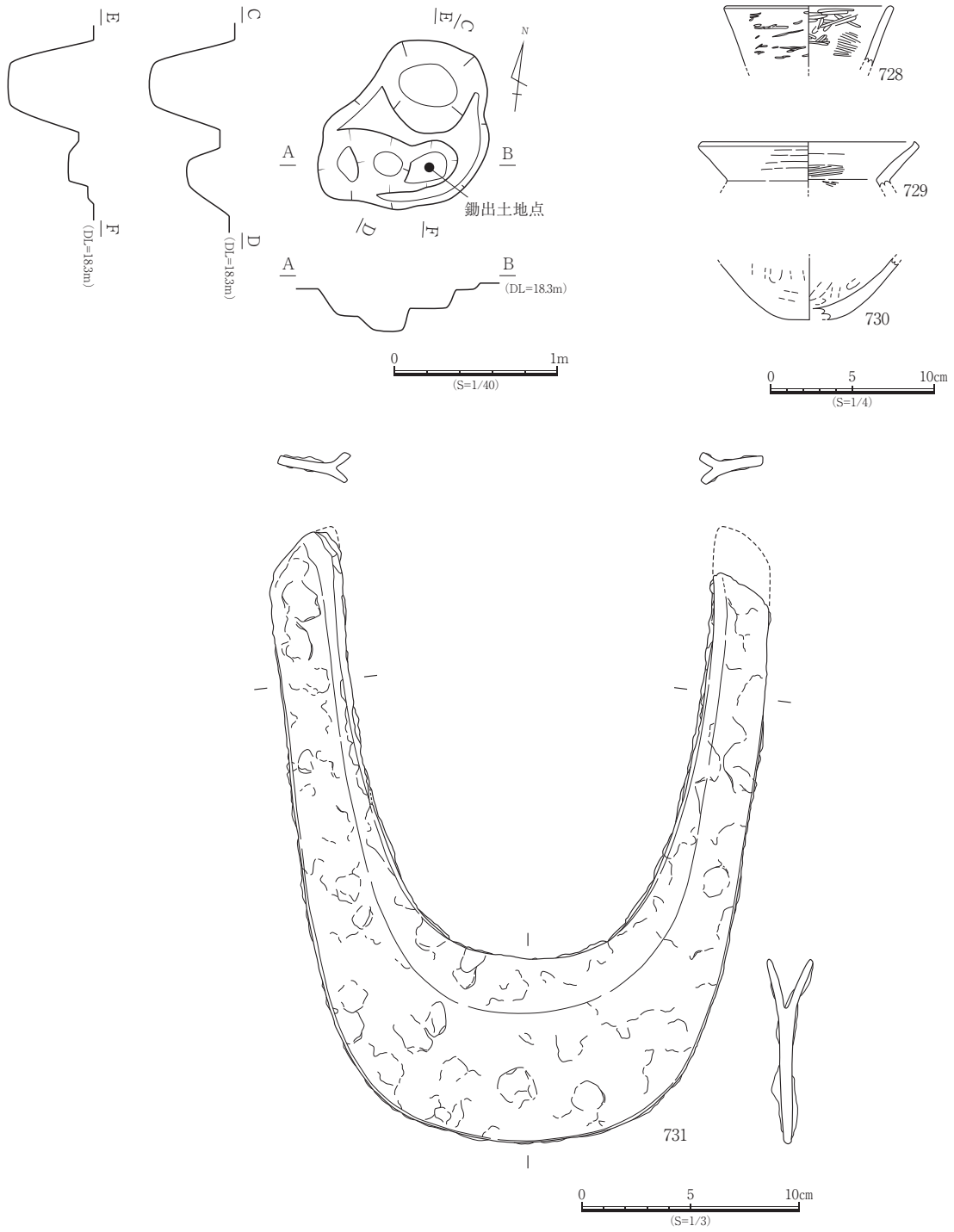


図2－81　SK1遺構図・出土遺物実測図

SK1

C区北部で検出した不整形状の土坑である。長軸は 1.24m 、短軸は 0.88m を測る。検出面からの深さは約 0.04 ～ 0.54m である。北部に径 0.56m 、深さ 0.54m 、南部に径 0.34m 、深さ 0.28m の柱穴状の落ち込みを有する。南部落ち込みの東側段部で鉄製の鋤先が出土した。出土遺物は弥生土器・鉄製品等で、728 ～ 731 を図示した。

SK2009

A区北部で検出した隅丸長方形状の土坑である。長軸は 2.20m 、短軸は 1.02m を測る。検出面からの深さは約0.22～0.32mである。断面形は逆台形状を呈する。出土遺物は鉄製品等で、732を図示した。

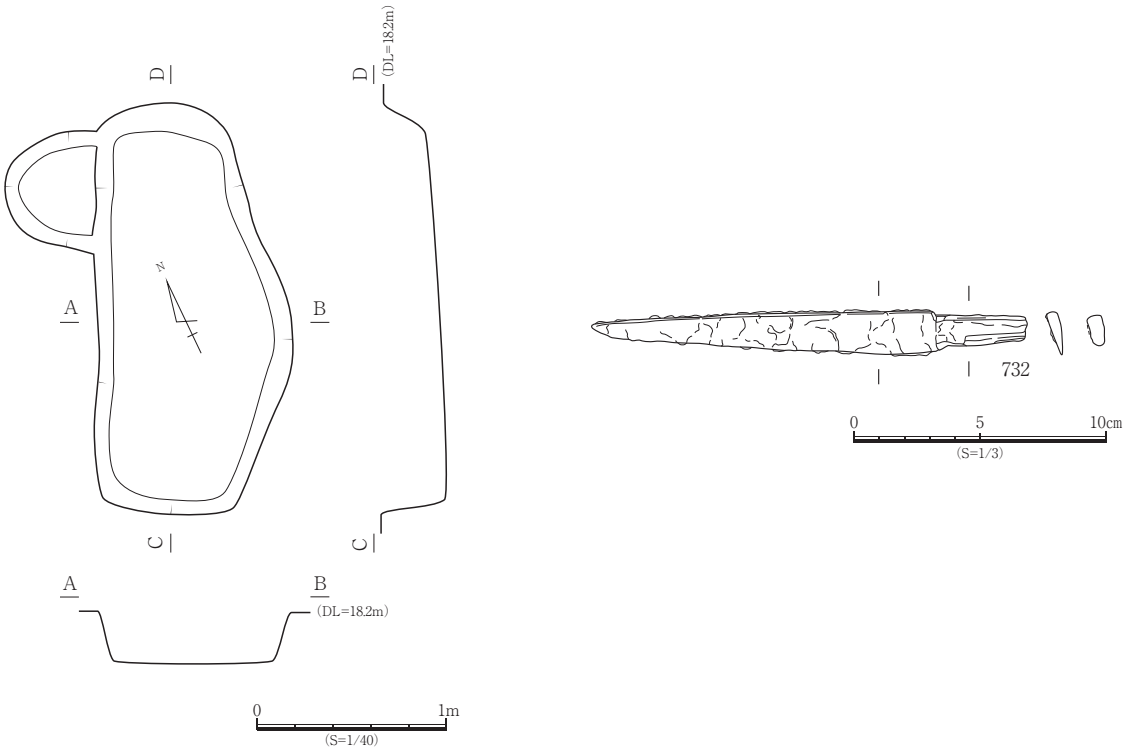


図2－82　SK2009遺構図・出土遺物実測図

SK2014

A区北部で検出した円形状の土坑である。埋土から多くの弥生土器が出土した。SK2005 と切り合い関係で検出したが、埋土に差がなく、土器が出土した範囲をSK2014として掘削した。検出面からの深さは約0.30 m程度である。完掘時の記録は残されていないが、多量の遺物が出土したため、推定位置のみではあるが報告を行う。出土遺物は弥生土器・石製品等で、733 ～ 752 を図示した。

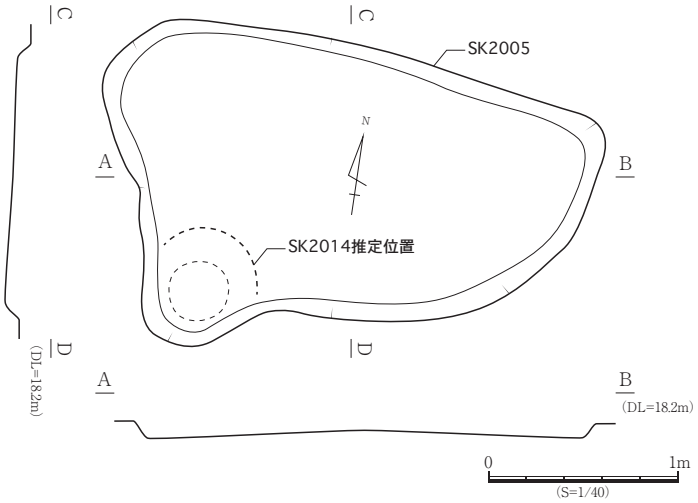


図2－83　SK2014遺構図

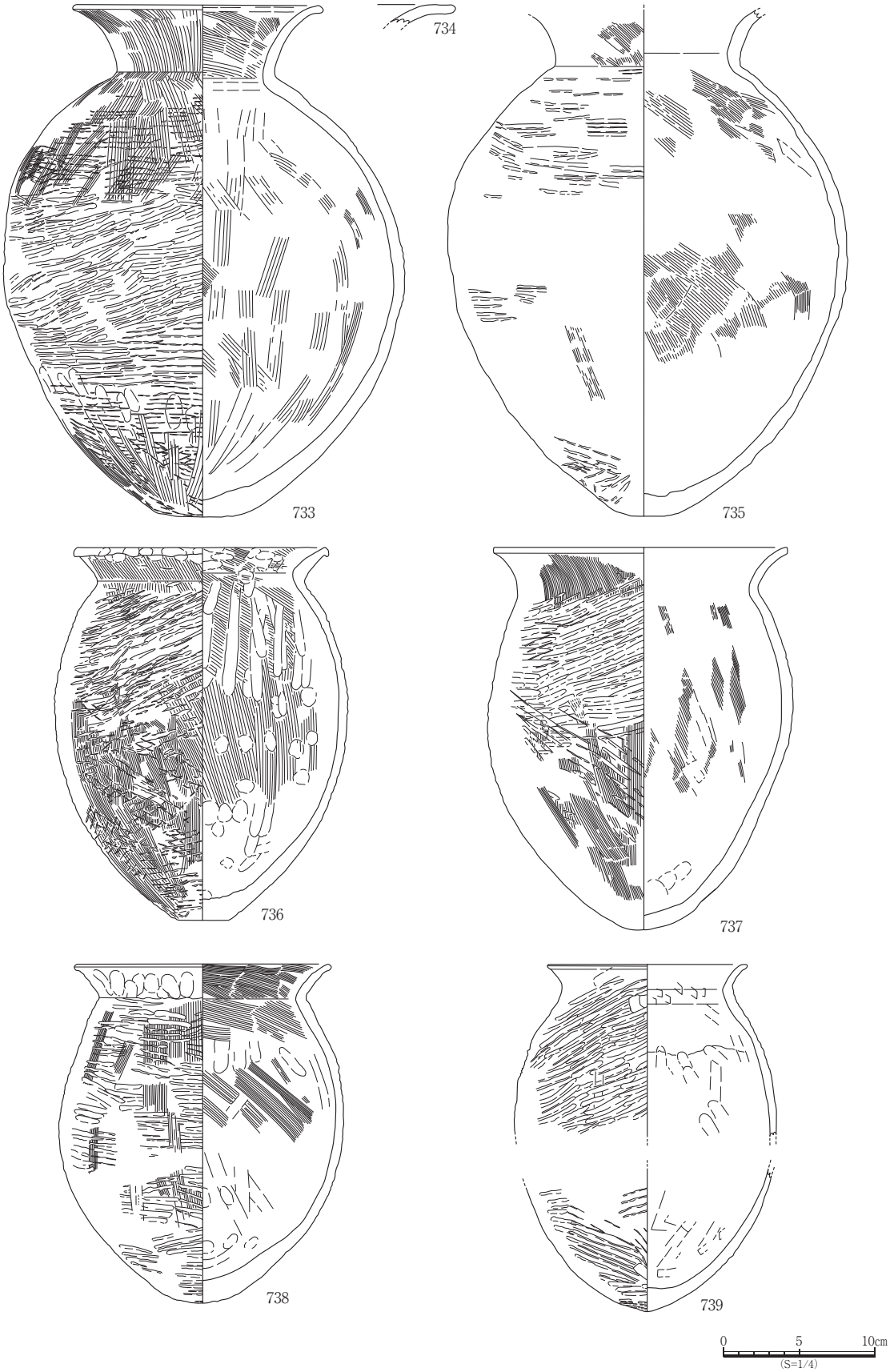


図２－84　SK2014出土遺物実測図１

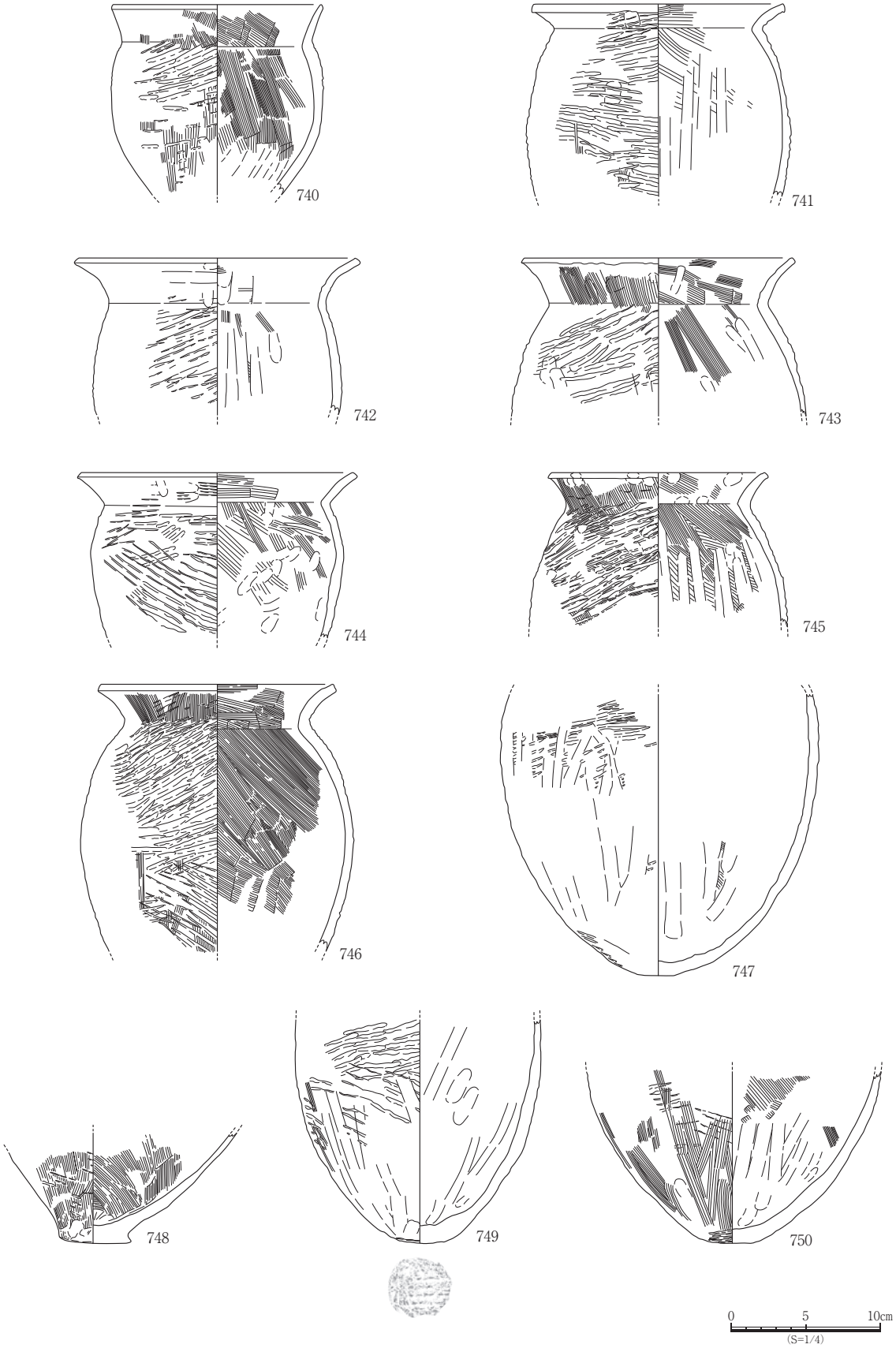


図2－85　SK2014出土遺物実測図2

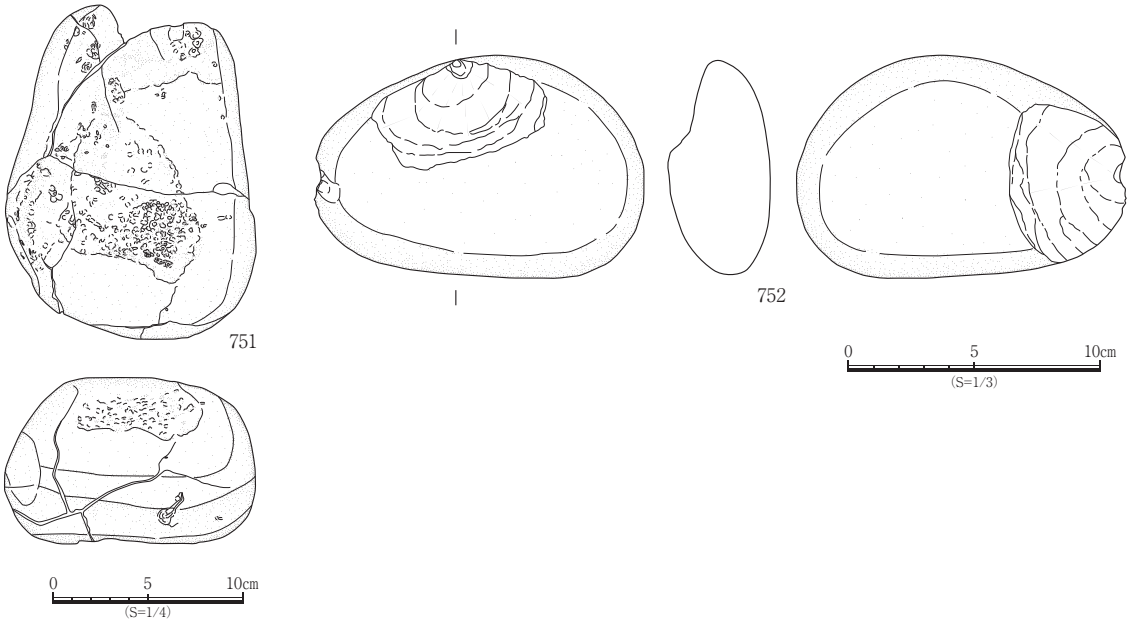


図２－86　SK2014出土遺物実測図３

SK2015

Ａ区中央部やや北寄りで検出した隅丸長方形状の土坑である。長軸は2.00m、短軸は0.72mを測る。検出面からの深さは約0.38～0.40mである。断面形は逆台形状を呈する。出土遺物は土師器・須恵器・鉄製品等で、753～755を図示した。

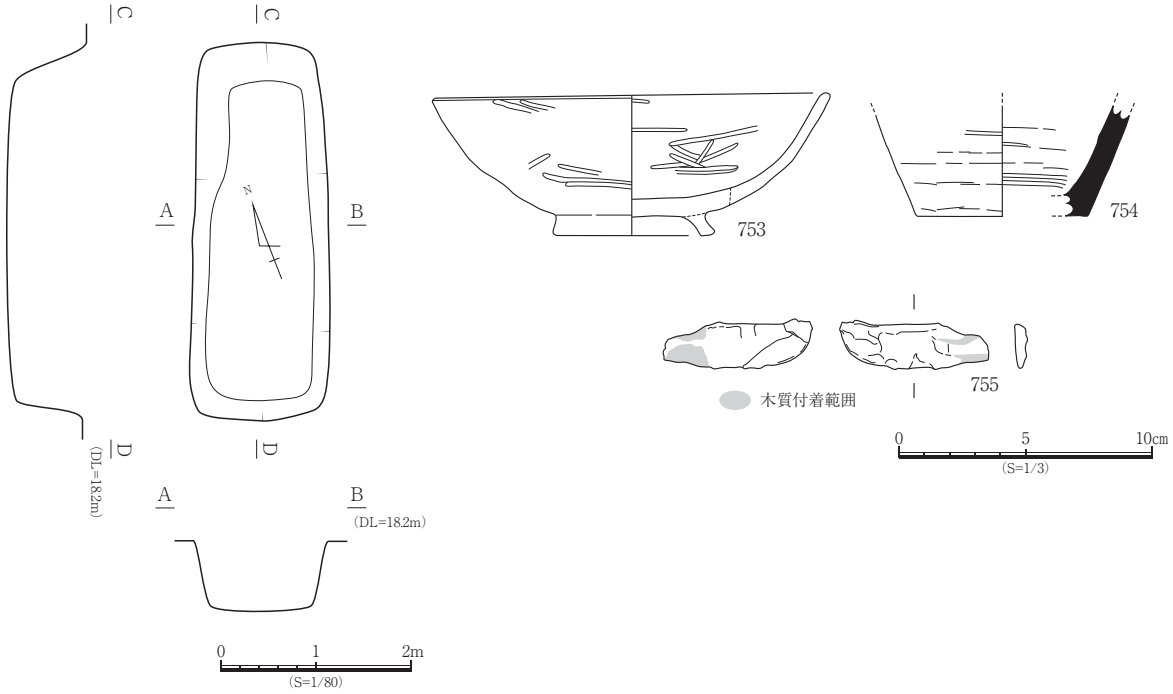


図２－87　SK2015遺構図・出土遺物実測図

SK2052

A区南部で検出した不整隅丸長方形状の土坑である。長軸は1.30m、短軸は0.84mを測る。検出面からの深さは約0.22～0.44mである。西部に柱穴状の落ち込みがみられ、段部を有することから、掘立柱建物跡、又は柵列の柱穴の可能性も考えられる。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器等で、756～758を図示した。

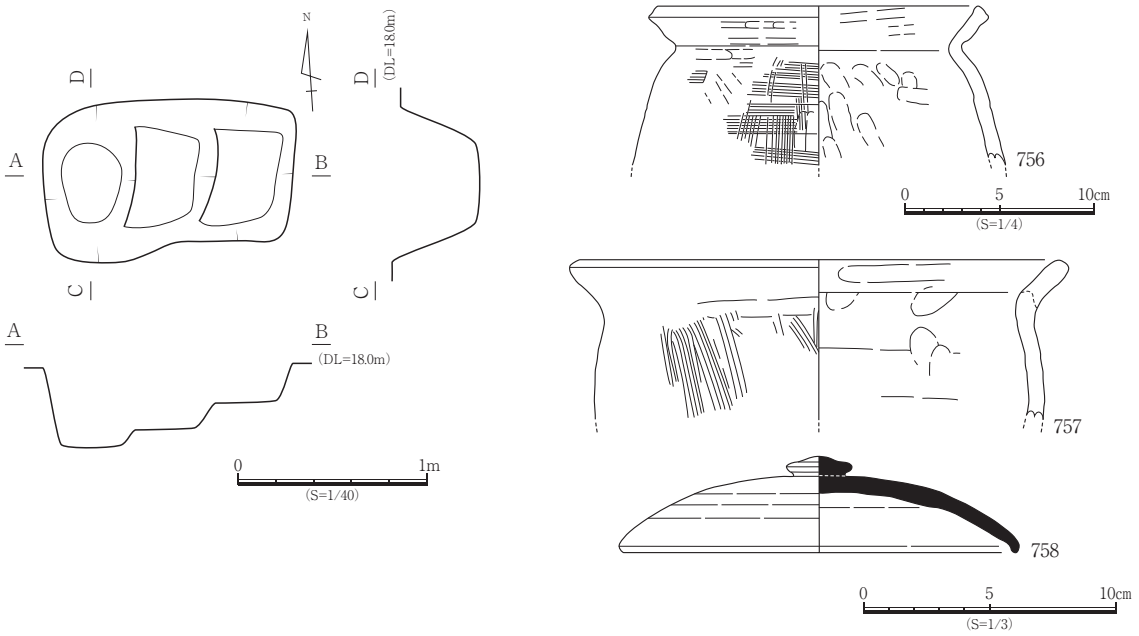


図2－88　SK2052遺構図・出土遺物実測図

SK2053

A区南部で検出した不整楕円形状の土坑である。長軸は0.84m、短軸は0.48mを測る。検出面からの深さは約0.40mである。出土遺物は土師器・須恵器等で、759・760を図示した。

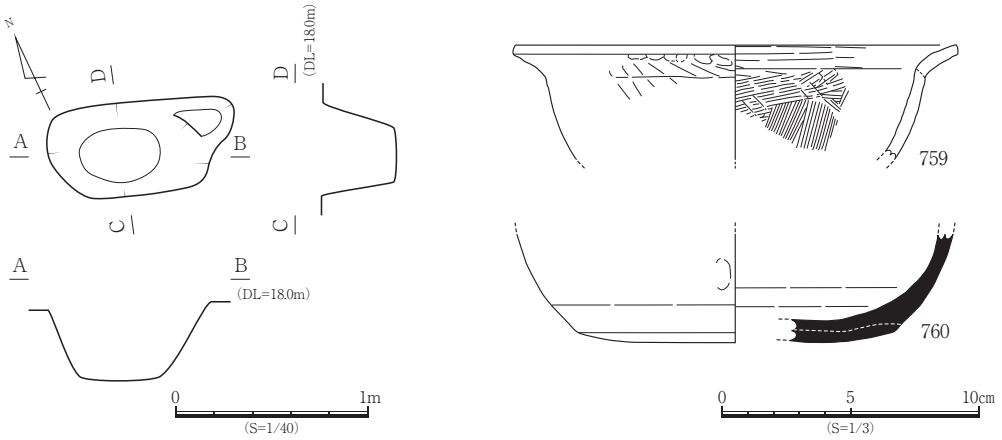


図2－89　SK2053遺構図・出土遺物実測図

SK2057

Ａ区南部で検出した楕円形状の土坑である。長軸は 1.12m 、短軸は 1.10m を測る。検出面からの深さは約 0.46m である。出土遺物は弥生土器・須恵器等で、761・762 を図示した。

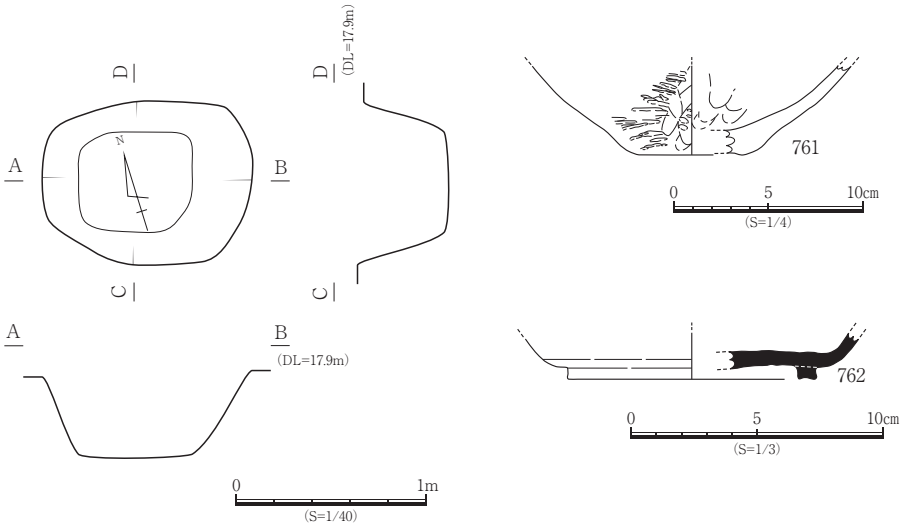


図２－90　SK2057 遺構図・出土遺物実測図

SK2061

Ａ区南部で検出した不整隅丸長方形状の土坑である。長軸は 2.60m 、短軸は 0.88m を測る。検出面からの深さは約 0.22 ～ 0.32m である。出土遺物は弥生土器・土製品等で、763 ～ 765 を図示した。

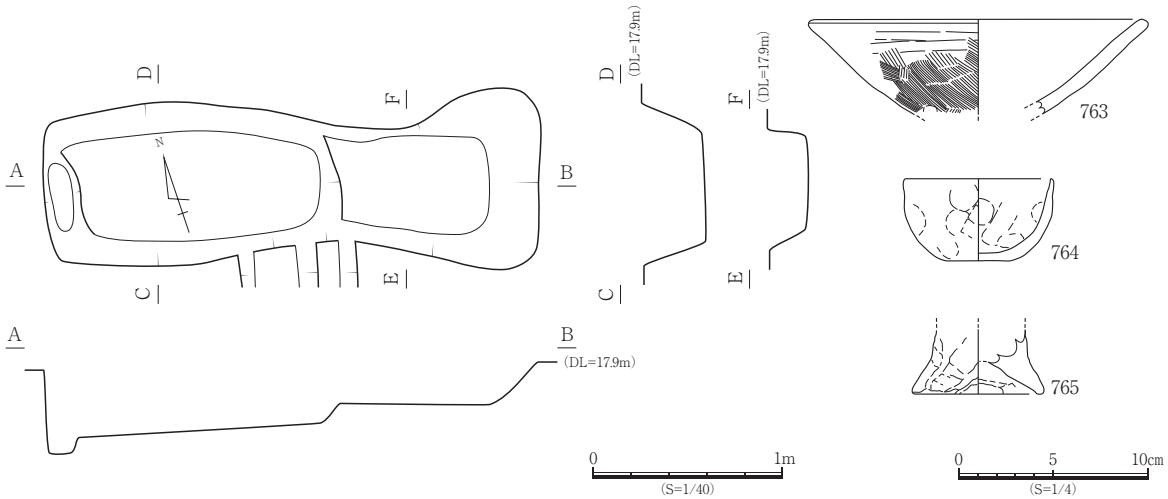


図２－91　SK2061 遺構図・出土遺物実測図

SK2062

A区南部で検出した不整楕円形状の土坑である。長軸は1.16m、短軸は0.88mを測る。検出面からの深さは約0.38mである。出土遺物は弥生土器等で、766を図示した。

SK2070・2162

B区西部・K区西部で検出した不整形状の土坑である。2基の土坑を検出したが、新旧関係は不明である。2基を合わせて長軸は2.90m、短軸は2.10mを測る。検出面からの深さは約0.02～0.18mで、床面で4つのピットを検出した。出土遺物は弥生土器等で、767～769を図示した。

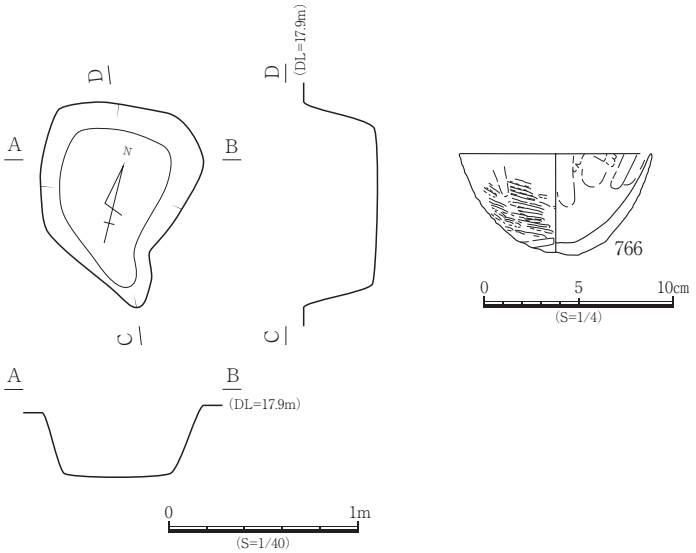


図2－92　SK2062遺構図・出土遺物実測図

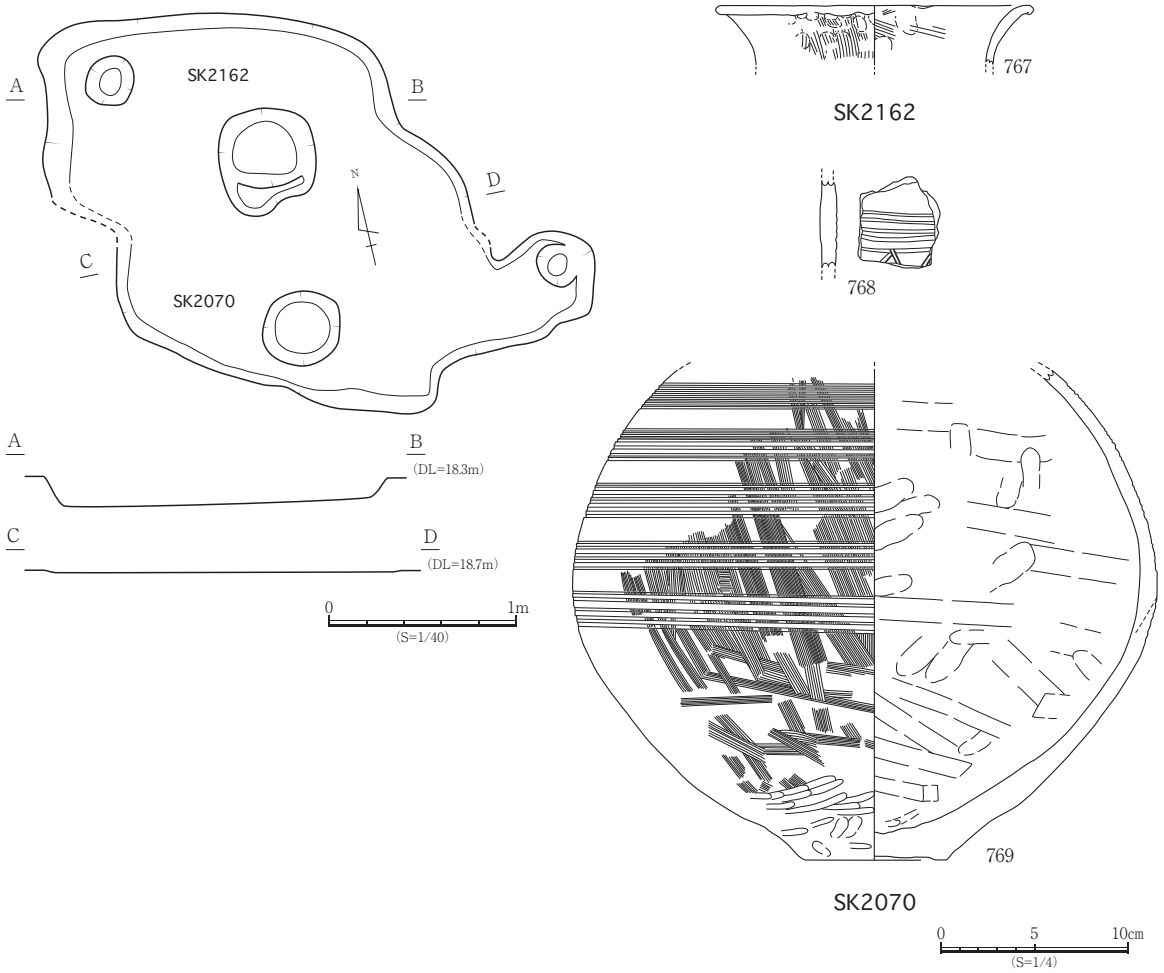


図2－93　SK2070・2162遺構図・出土遺物実測図

SK2081

Ｄ区西部で検出した隅丸長方形状の土坑である。長軸は 3.07m 、短軸は 2.48m を測る。検出面からの深さは約 0.27 ～ 0.45m である。床面で 6 つのピットを検出した。出土遺物は弥生土器等で、770 ～ 776 を図示した。

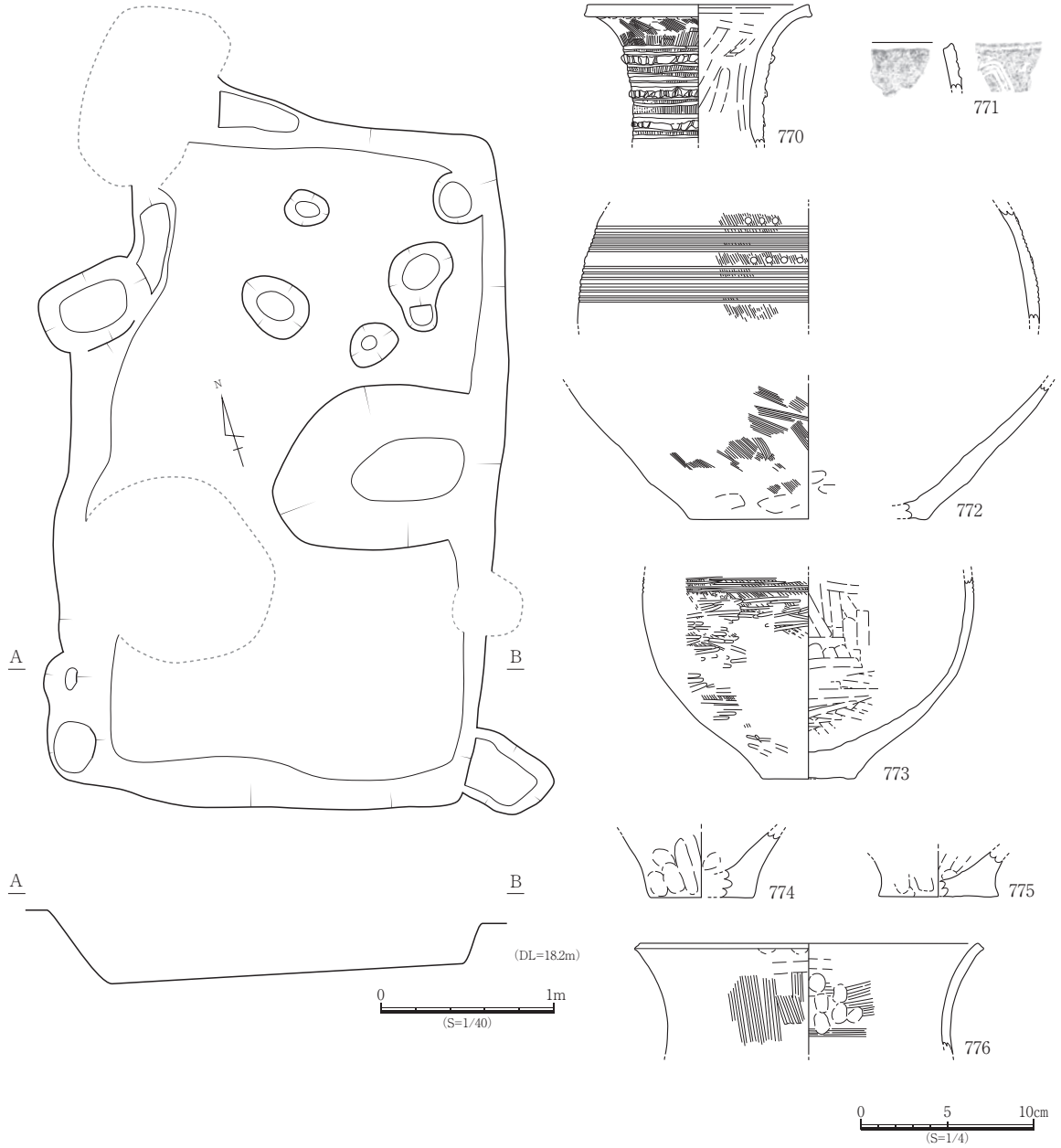
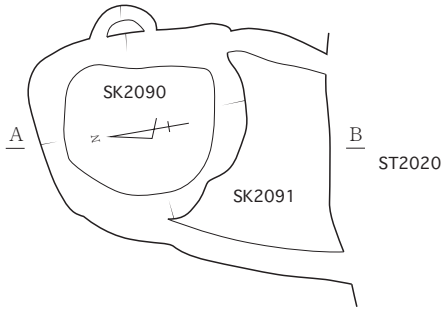
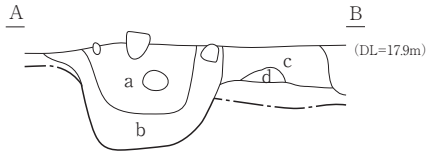


図2－94　SK2081 遺構図・出土遺物実測図

SK2090

D区北部で検出した不整円形状の土坑である。長軸は1.14m、短軸は1.09mを測る。SK2091を切る。検出面からの深さは約0.54mである。出土遺物は土師器・須恵器等で、777～782を図示した。





遺構埋土
a. 黄灰色粘土に黒色シルトが混じる（SK2090）
b. 黒色シルトに黄色粘土がブロック状に混じる（SK2090）
c. 濃黒色シルト（SK2091）
d. 灰黒色シルトに黄色粘土がブロック状に混じる（SK2091）

0　1m
(S=1/40)

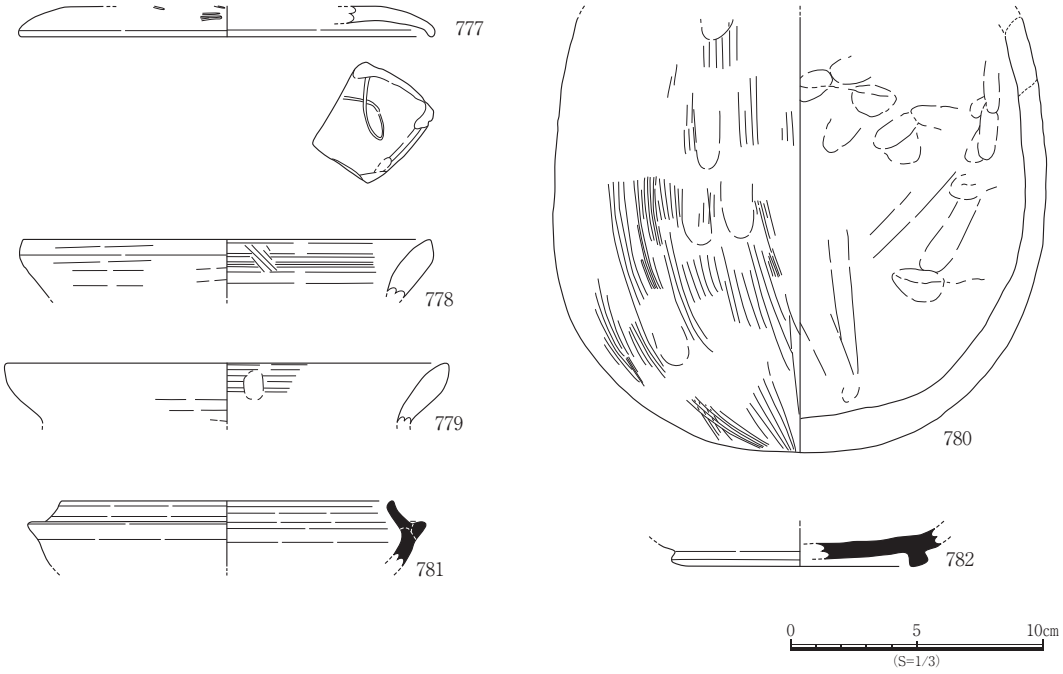


図2－95　SK2090遺構図・出土遺物実測図

SK2141

Ｊ区南部で検出した円形状の土坑で、南部は調査区南壁へ延びる。長軸は 1.44m 、短軸は 0.76m 以上を測る。検出面からの深さは約 0.12 ～ 0.73m で、東西に段部を有する。出土遺物は弥生土器等で、783 を図示した。

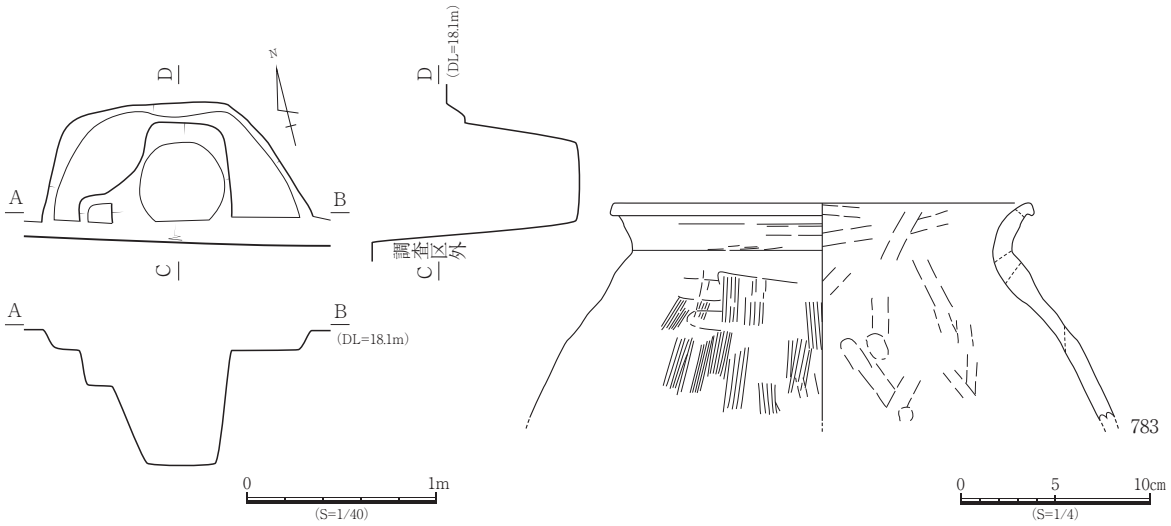


図２－96　SK2141 遺構図・出土遺物実測図

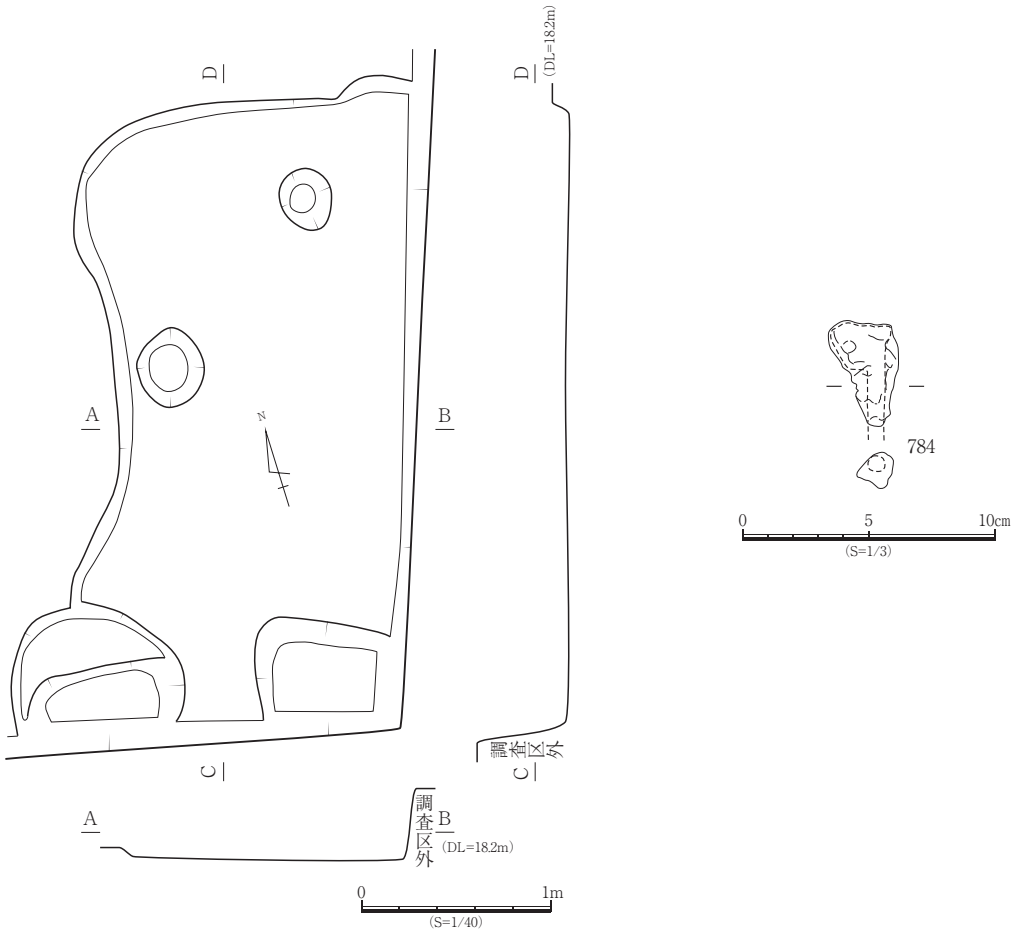


図２－97　SK2143 遺構図・出土遺物実測図

SK2143

J区南東部で検出した円形状の土坑で、南部・東部は調査区南壁及び東壁へ延びる。長軸は3.40m以上、短軸は1.58m以上を測る。検出面からの深さは約0.08mで、床面に小ピットを有する。出土遺物は鉄製品等で、784を図示した。

SK2147

J区中央部南寄りで検出した楕円形状の土坑である。長軸は1.20m、短軸は0.80mを測る。検出面からの深さは約0.30mである。出土遺物は弥生土器等で、785～788を図示した。

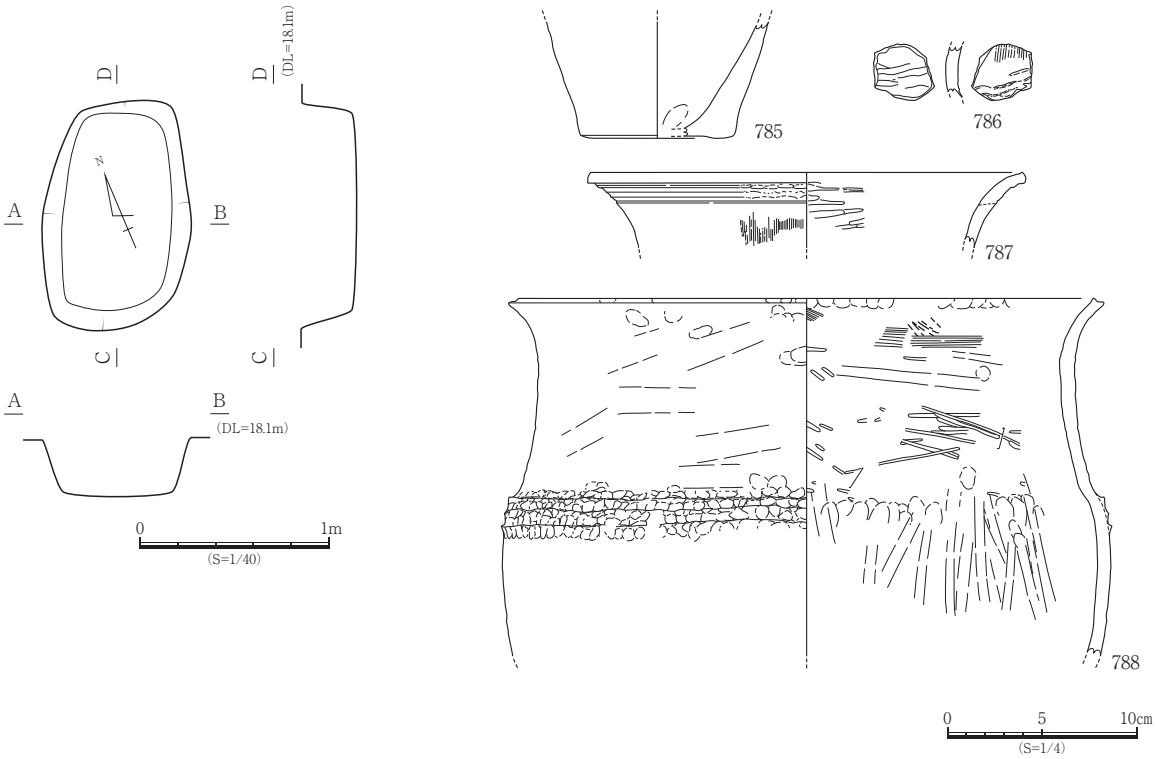


図2－98　SK2147遺構図・出土遺物実測図

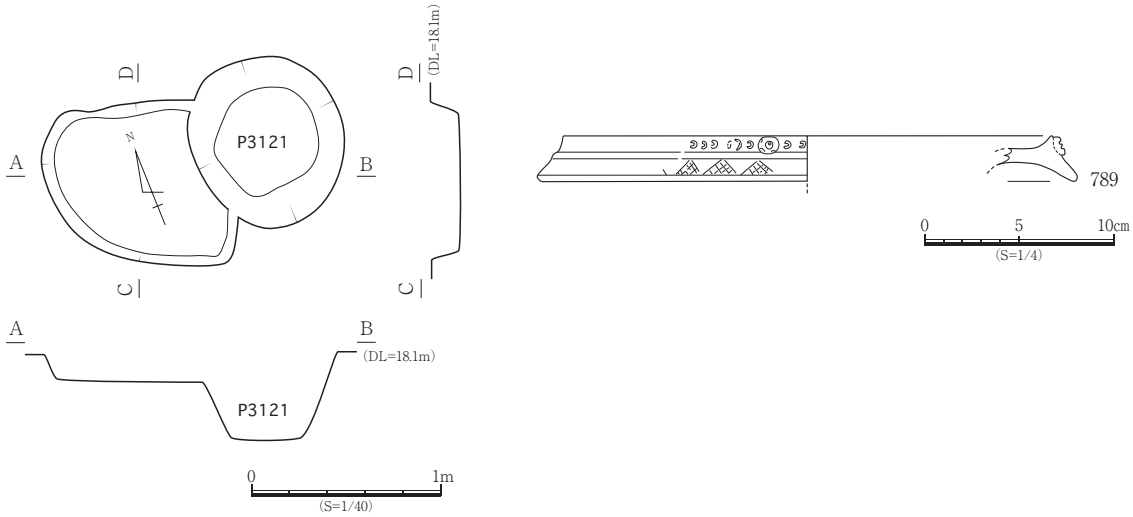


図2－99　SK2149遺構図・出土遺物実測図

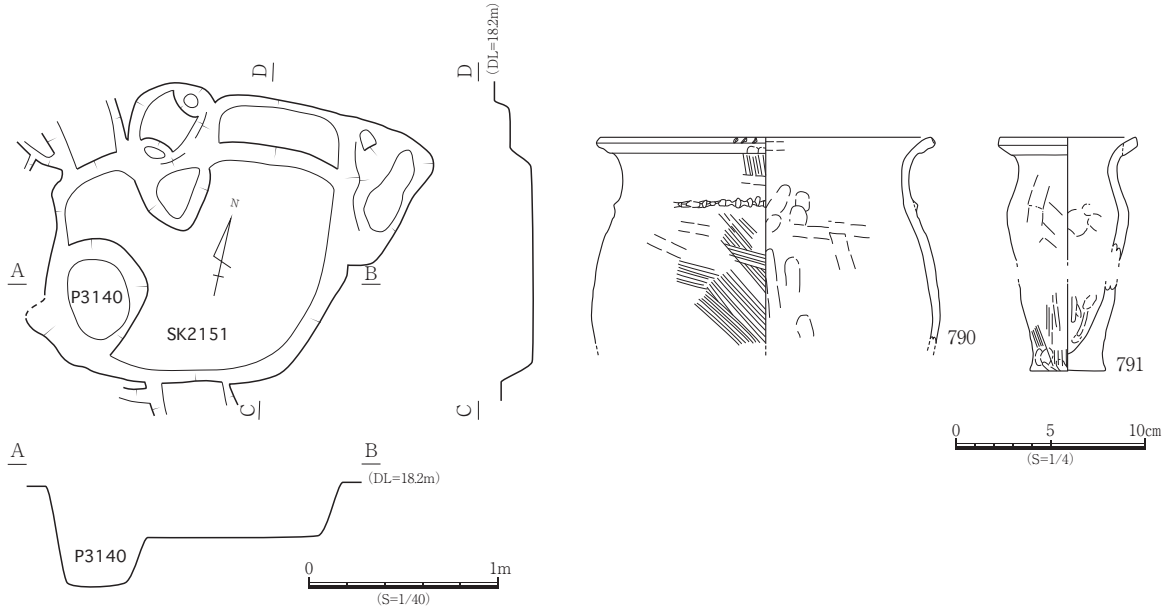


図2－100　SK2151遺構図・出土遺物実測図

SK2149

J区中央部で検出した楕円形状の土坑である。長軸は0.84m、短軸は0.80mを測る。検出面からの深さは約0.16mである。出土遺物は弥生土器等で、789を図示した。

SK2151

J区中央部西寄りで検出した不整隅丸方形状の土坑である。長軸は1.58m、短軸は1.48mを測り、検出面からの深さは約0.28mである。出土遺物は弥生土器等で、790・791を図示した。

SK3001

J区中央部で検出した円形又は隅丸方形状の土坑で調査区東壁へ延びる。長軸は2.78m、短軸は2.34m以上を測り、検出面からの深さは約0.56mである。出土遺物は近世陶磁器・弥生土器・石製品等で、792～809を図示した。

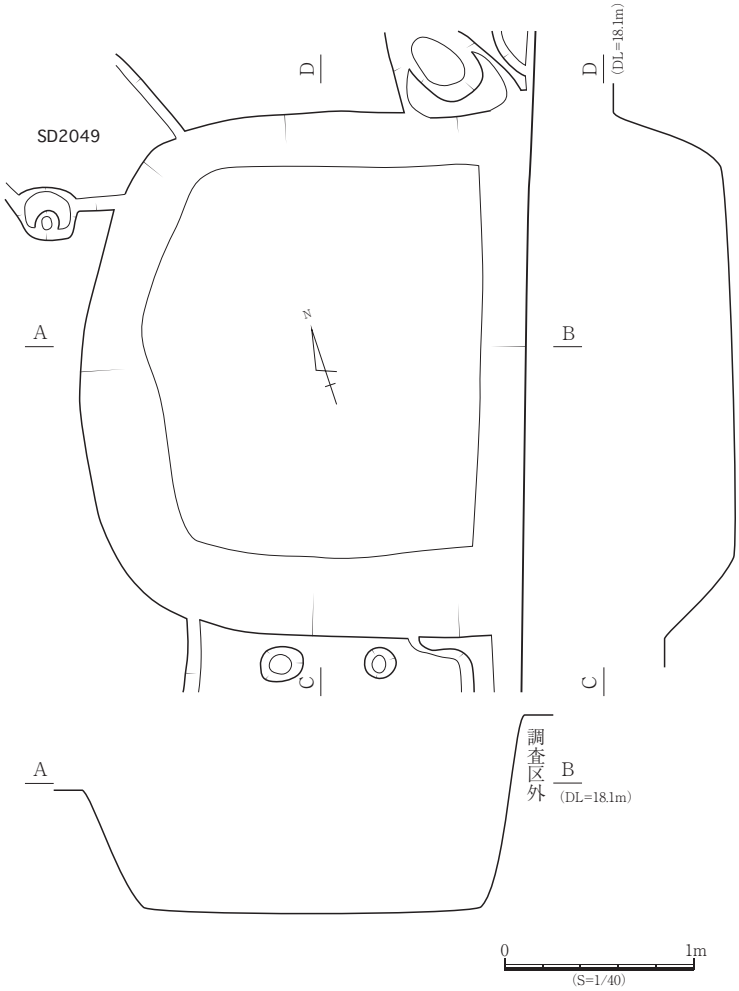


図2－101　SK3001遺構図

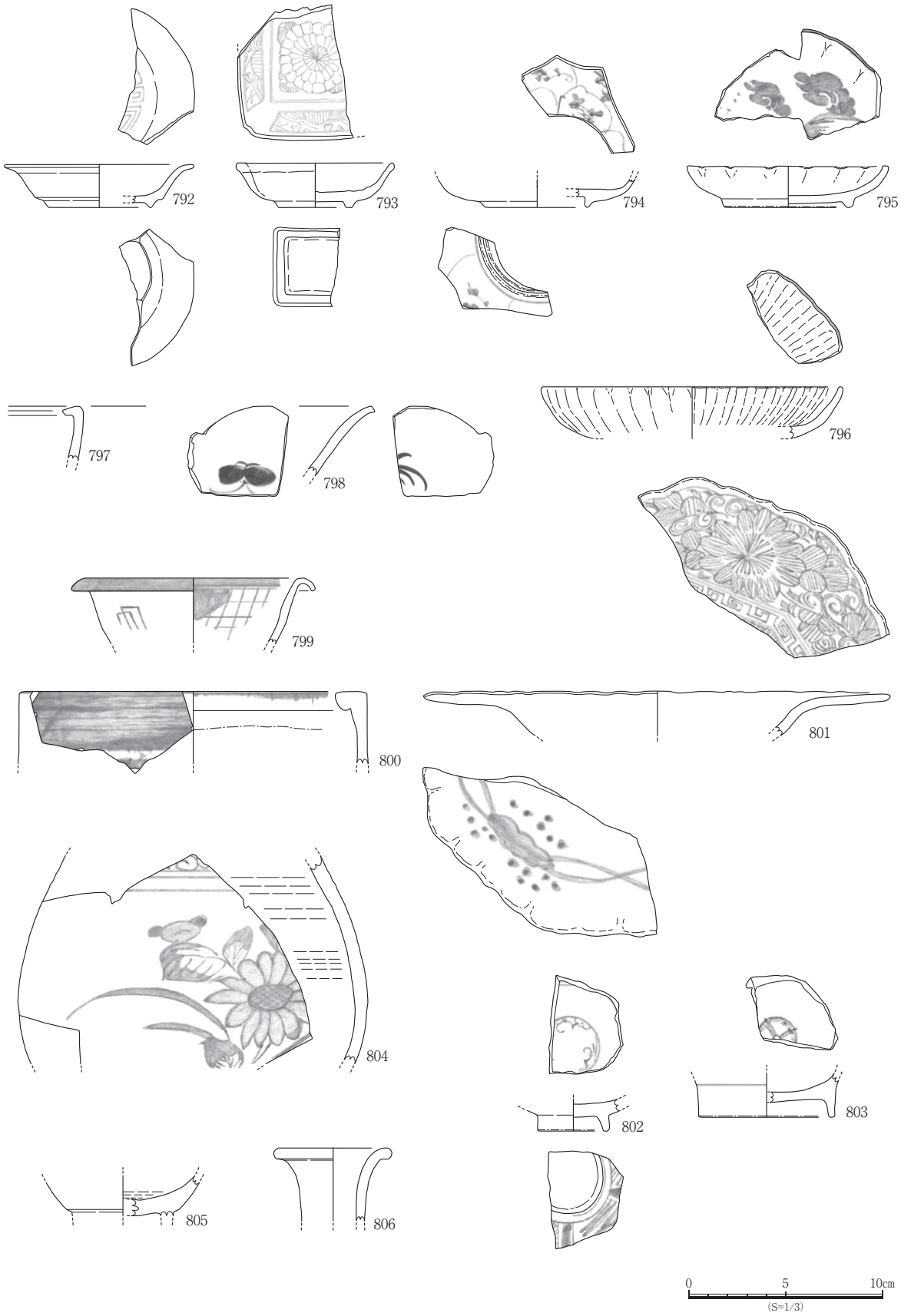


図2－102　SK3001出土遺物実測図1

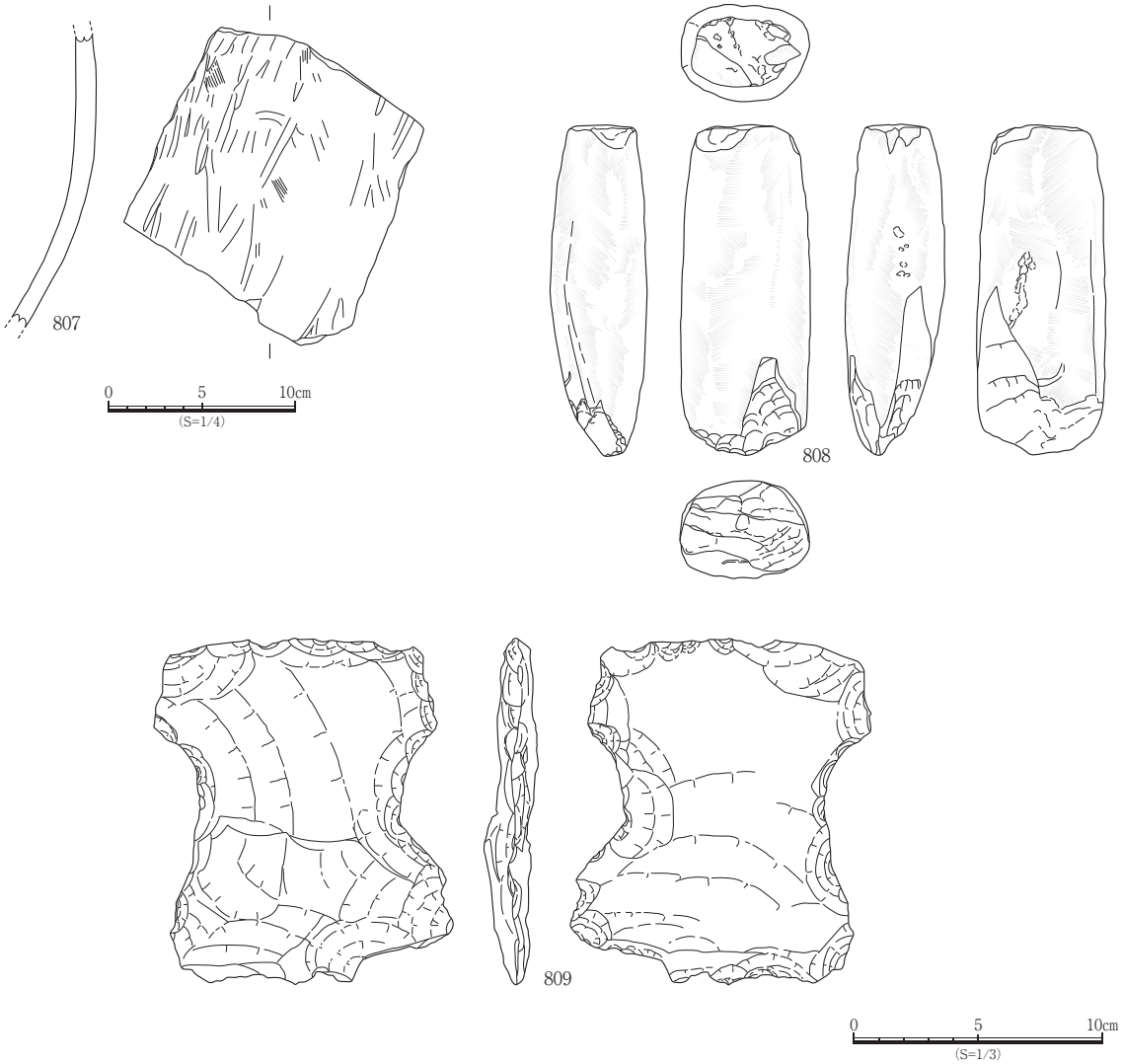


図2－103　SK3001出土遺物実測図2

SK3002

J区北部で検出した不整円形状の浅い落ち込みで径5.5mを測る。出土遺物は土師器・須恵器・近世陶磁器・鉄製品等で、810～845を図示した。

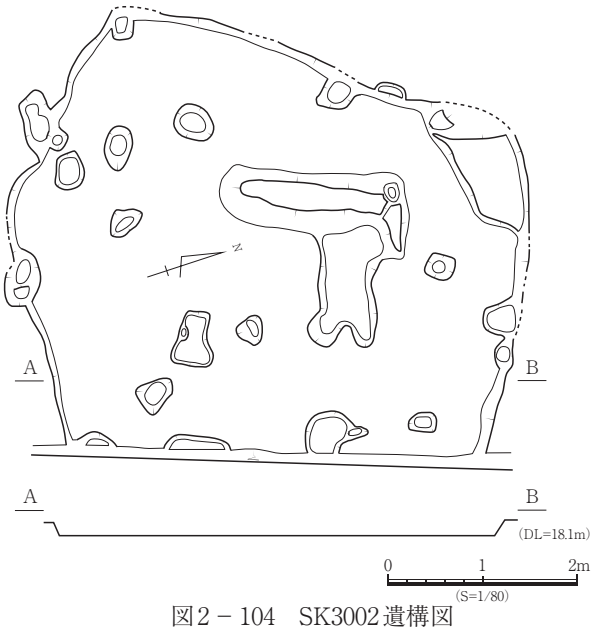


図2－104　SK3002遺構図

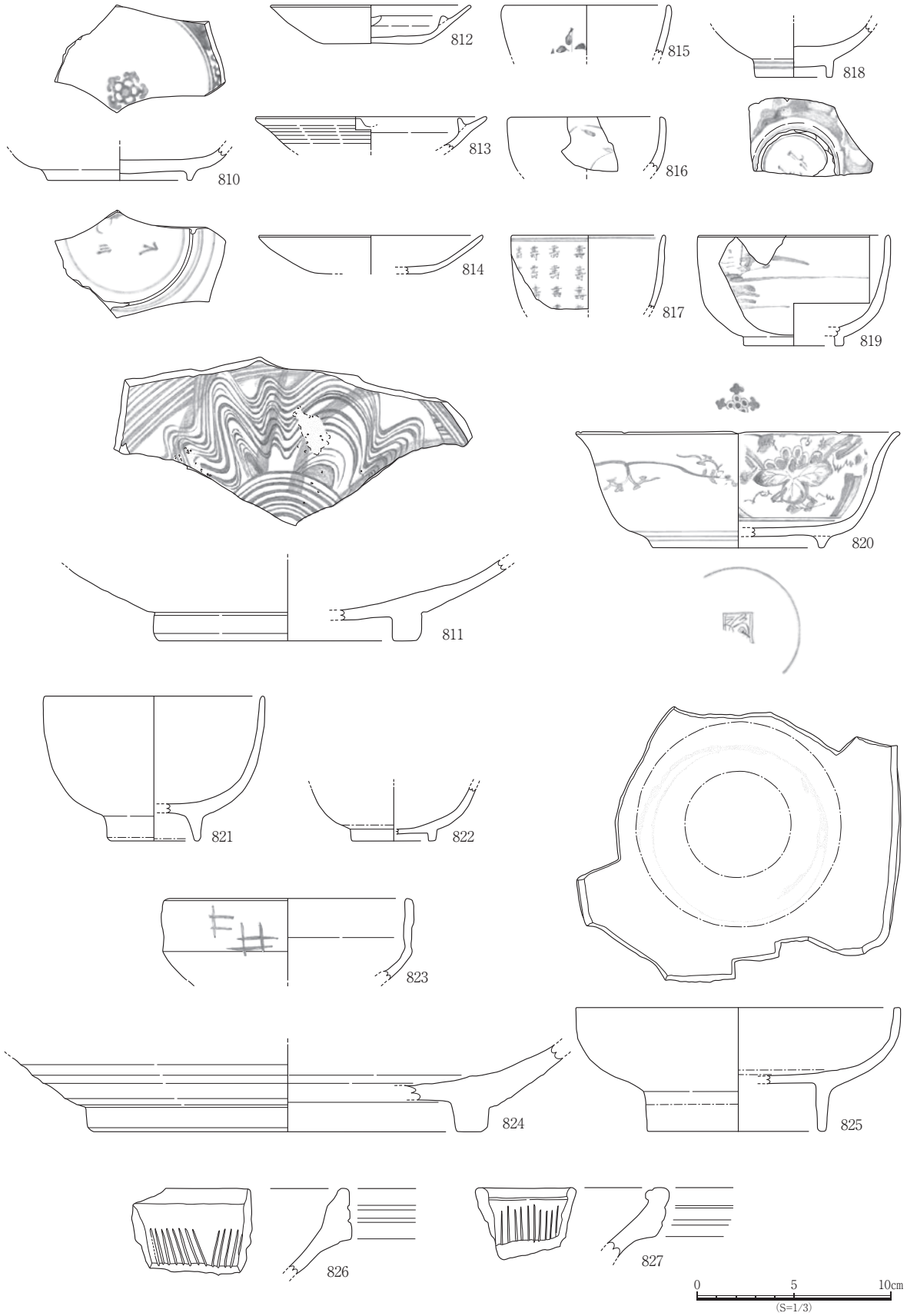


図2－105　SK3002出土遺物実測図1

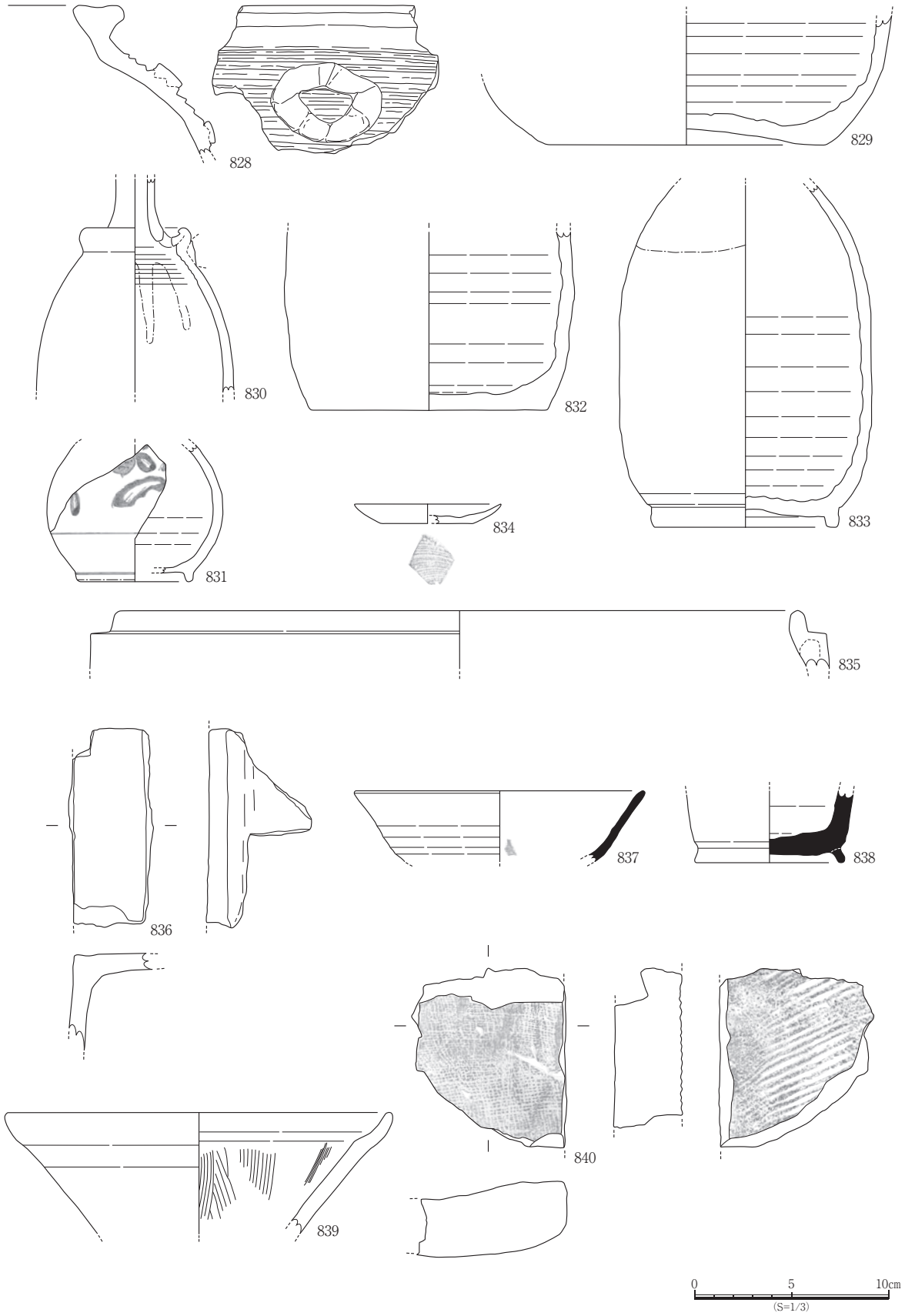


図2－106　SK3002出土遺物実測図2

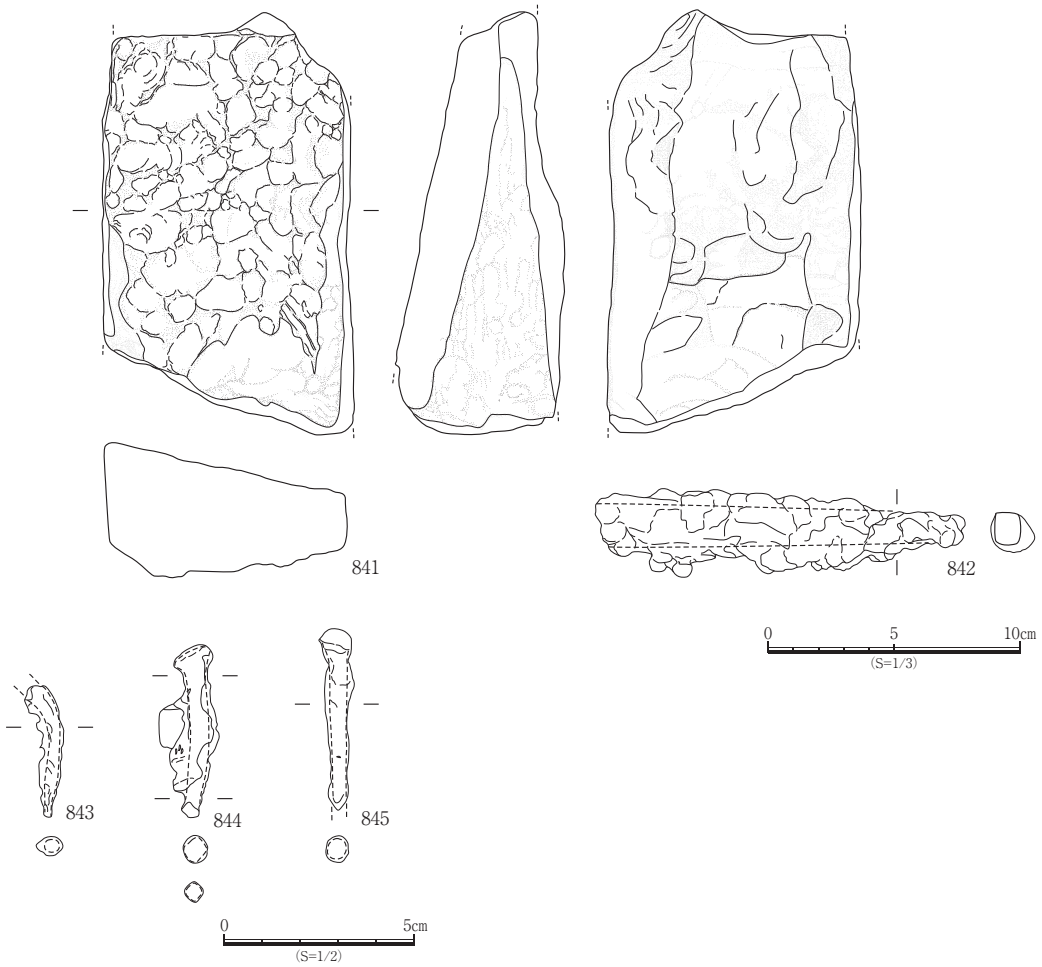


図2－107　SK3002出土遺物実測図3

SK2016

A区中央部で検出した不整形状の土坑で、長軸1.00 m、短軸0.80 m、深さ0.14 mを測る。出土遺物は須恵器・緑釉陶器等で、846・847を図示した。

SK2018

A・J区中央部で検出した隅丸長方形状の土坑で、長軸1.25 m、短軸0.75 m、深さ0.22 mを測る。出土遺物は須恵器等で、848を図示した。

SK2020

A・J区中央部で検出した不整形状の土坑で、長軸1.00 m、短軸0.75 m、深さ0.20 mを測る。出土遺物は石製品等で、849を図示した。

SK2032

C区南部で検出した不整形状の土坑で、長軸1.00 m、短軸0.65 m、深さ0.15 mを測る。出土遺物は土師器・須恵器・石製品等で、850～854を図示した。

SK2035

C区南部で検出した楕円形状の土坑で、長軸1.35 m、短軸0.70 m、深さ0.09 mを測る。出土遺物は弥生土器等で、855を図示した。

SK2037

Ｄ区西部で検出した不整形状の土坑で、長軸0.85ｍ、短軸0.65ｍ、深さ0.06ｍを測る。出土遺物は須恵器等で、856・857を図示した。

SK2043

Ｄ区西部で検出した不整形状の土坑で、長軸1.70ｍ、短軸0.60ｍ、深さ0.20ｍを測る。出土遺物は弥生土器等で、858～860を図示した。

SK2048

Ａ･Ｊ区南部で検出した楕円形状とみられる土坑で、長軸1.20m、短軸0.72m以上、深さ0.35mを測る。出土遺物は弥生土器等で、861を図示した。

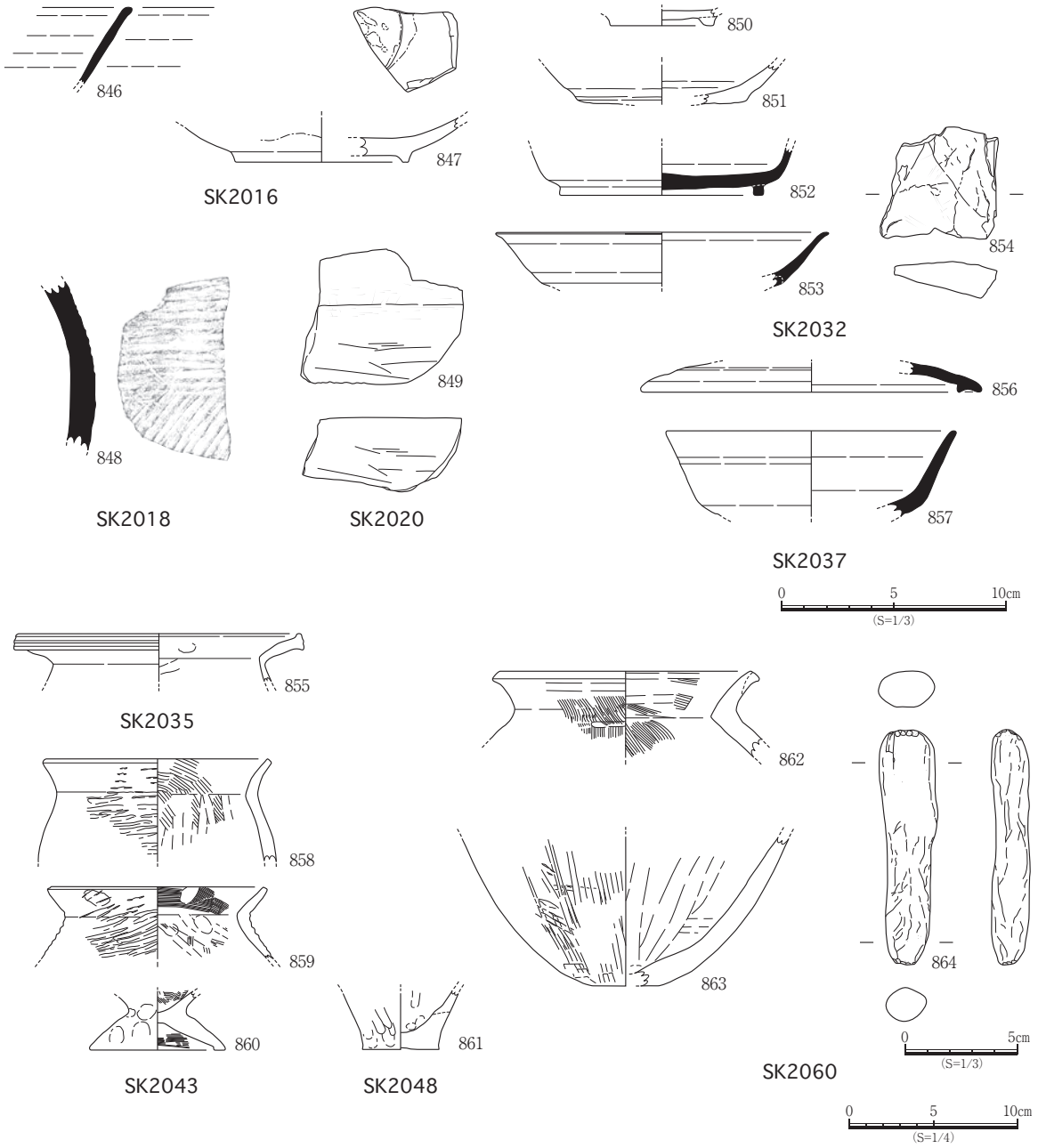


図２－108　SK出土遺物実測図１

SK2060

A区南部で検出した楕円形状の土坑で、長軸1.04 m、短軸0.69 m、深さ0.42 mを測る。出土遺物は弥生土器・石製品等で、862～864を図示した。

SK2063

D区東部で検出した円形状の土坑で、長軸1.06 m、短軸0.94 m、深さ0.10 mを測る。出土遺物は弥生土器・須恵器等で、865～868を図示した。

SK2065

B区東部で検出した円形状の土坑で、長軸1.06 m、短軸0.94 m、深さ0.10 mを測る。出土遺物は土師器等で、869を図示した。

SK2066

B区東部で検出した楕円形状の土坑で、長軸0.90 m、短軸0.74 m、深さ0.16 mを測る。出土遺物は土師器等で、870を図示した。

SK2069

B区南部東寄りで検出した楕円形状の土坑で、長軸1.24 m、短軸1.02 m、深さ0.18 mを測る。出土遺物は土師器等で、871を図示した。

SK2072

D区東部で検出した隅丸方形状の土坑で、長軸1.04 m、短軸0.95 m、深さ0.25 mを測る。出土遺物は須恵器等で、872を図示した。

SK2074

D区東部で検出した不整楕円形状の土坑で、長軸1.83 m、短軸1.15 m、深さ0.20 mを測る。出土遺物は土師器・須恵器・緑釉陶器等で、873～876を図示した。

SK2075

D区東部で検出した楕円形状の土坑で、長軸1.25 m、短軸1.00 m、深さ0.16 mを測る。出土遺物は弥生土器等で、877・878を図示した。

SK2077

D区東部で検出した楕円形状の土坑で、長軸1.25 m、短軸0.82 m、深さ0.16～0.25 mを測る。出土遺物は土師器等で、879を図示した。

SK2148

J区中央部で検出した楕円形状の土坑で、長軸1.36 m、短軸0.60 m、深さ0.12 mを測る。出土遺物は弥生土器等で、880を図示した。

SK2153

K区北部で検出した不整形状の土坑で、長軸0.95 m、短軸0.80 m、深さ0.15～0.28 mを測る。出土遺物は土師器等で、881を図示した。

SK2154

K区東部で検出した不整形状の土坑で、長軸2.50 m、短軸0.75 m以上、深さ0.17 mを測る。出土遺物は土師器等で、882を図示した。

SK2155

J区中央部で検出した楕円形状の土坑で、長軸1.03 m、短軸0.90 m、深さ0.42 mを測る。出土遺物は

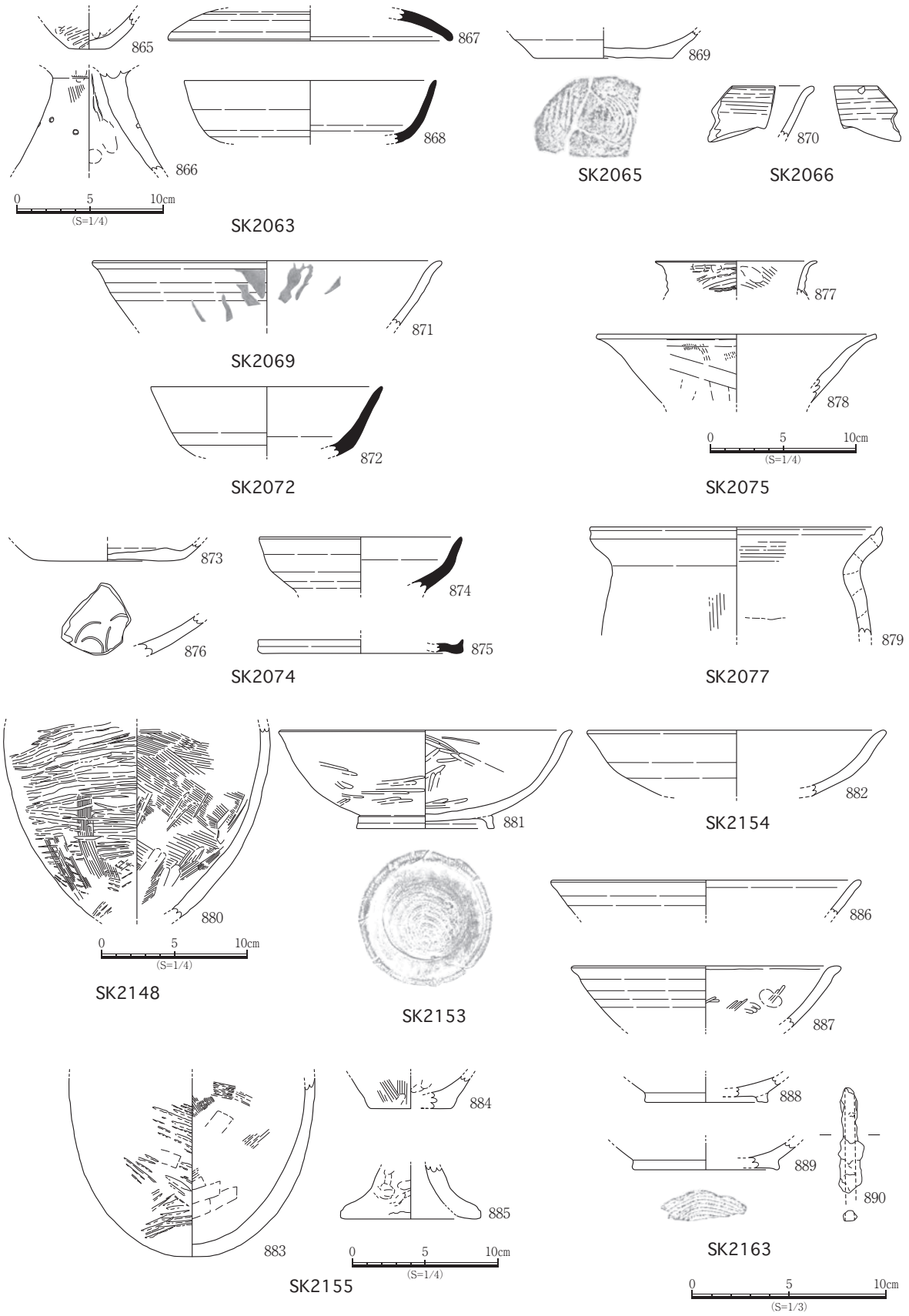


図2－109　SK出土遺物実測図2

弥生土器・土製品等で、883～885を図示した。

SK2163

K区西部で検出した円形又は楕円形状の土坑で、長軸1.00ｍ以上、短軸0.90ｍ以上、深さ0.26ｍを測り、他の遺構に切られる。出土遺物は土師器・鉄製品等で、886～890を図示した。

SK2164

L区南部で検出した不整形状の土坑で、長軸1.00ｍ、短軸0.95ｍ、深さ0.09ｍを測る。出土遺物は弥生土器等で、891を図示した。

SK2165

L区南部で検出した円形状の土坑で、長軸1.75ｍ、短軸1.00ｍ以上、深さ0.58ｍを測り、調査区西壁へ延びる。出土遺物は陶器・陶胎染付等で、892・893を図示した。

SK3

北区東部で検出した隅丸方形状の土坑で、長軸1.65ｍ、短軸1.38ｍ、深さ0.19ｍを測る。出土遺物は土師器等で、894を図示した。

SK6

北区西部で検出した不整形状の土坑で、長軸2.15ｍ、短軸1.60ｍ、深さ0.27ｍを測る。出土遺物は土師器・須恵器等で、895・896を図示した。

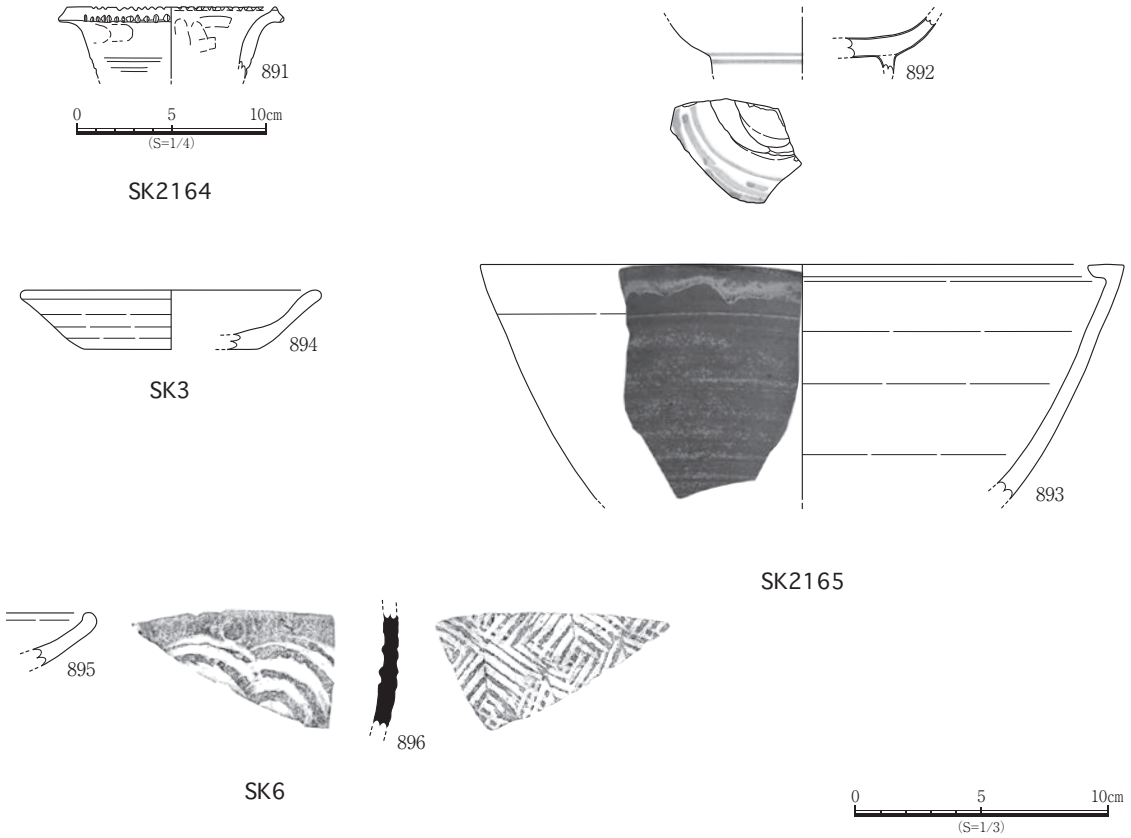


図2－110　SK出土遺物実測図3

⑷溝跡

遺構の時期は、弥生時代前期末、弥生時代終末期から古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、古代末から中世前期である。掘立柱建物に付随する溝跡については、⑵掘立柱建物跡の項に記載した。出土遺物の詳細については、遺物観察表に記す。

SD1

K区北部で検出した溝跡である。規模は長さ約5.50m、幅0.65～0.85mを測る。検出面からの深さは約0.06～0.13mである。出土遺物は土師器等で、897を図示した。

SD2005

A区中央部で検出した溝跡である。規模は長さ約5.40m、幅約0.55mを測る。検出面からの深さは約0.04～0.12mである。出土遺物は須恵器・石製品等で、898・899を図示した。

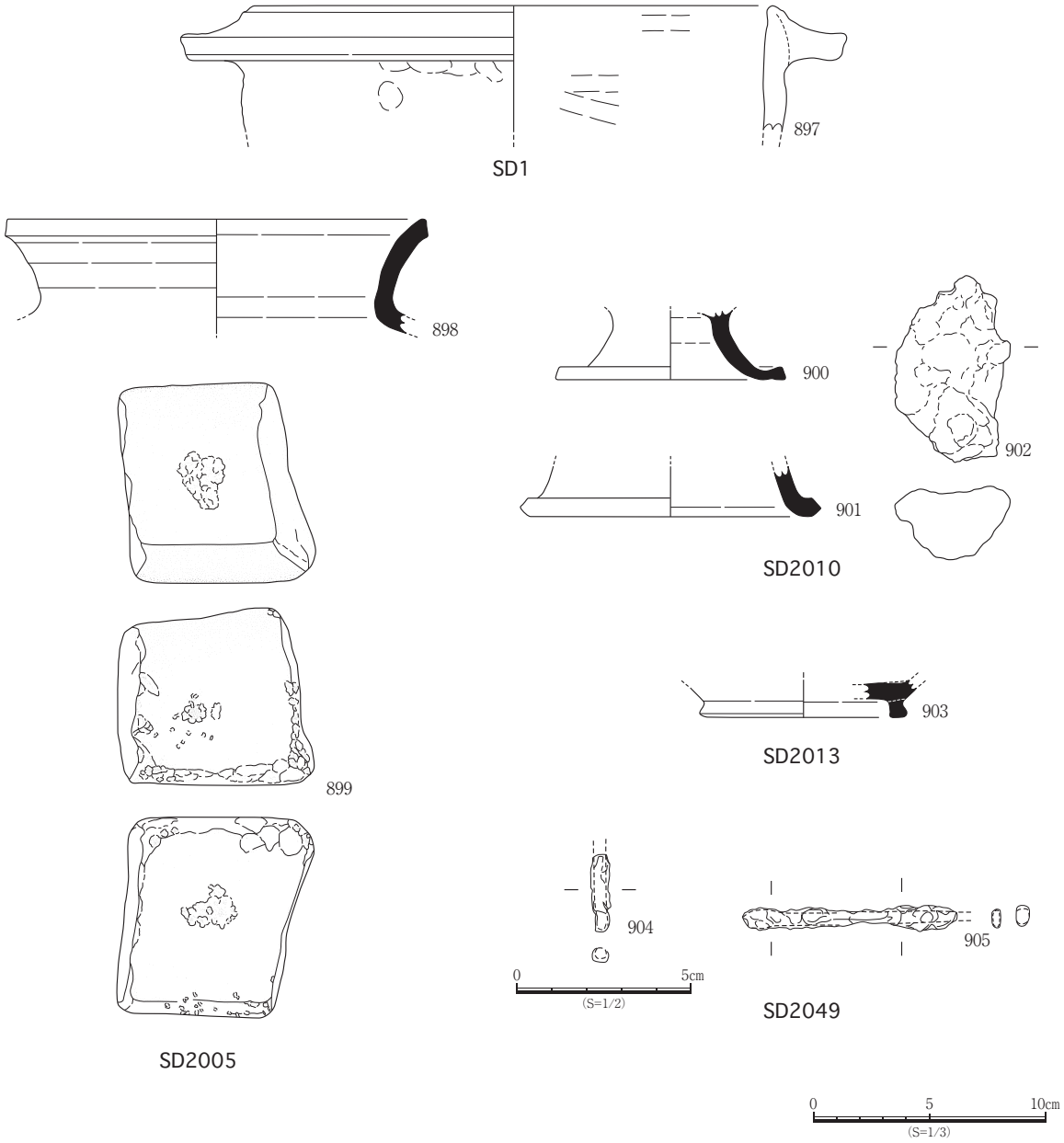


図2－111　SD出土遺物実測図1

SD2010

L区南部で検出した溝跡である。南部ではSD2010、北部ではSD2057の番号が付されており、同一の溝跡と考えられる。規模は長さ約3.60m以上、幅約0.70mを測る。SD2057を含めると長さは21.00m以上である。検出面からの深さは約0.02mである。出土遺物は須恵器・鉄滓等で、900～902を図示した。

SD2013

C区中央部で検出した溝跡である。規模は長さ約4.15m以上、幅約0.32mを測り、調査区西壁へ延

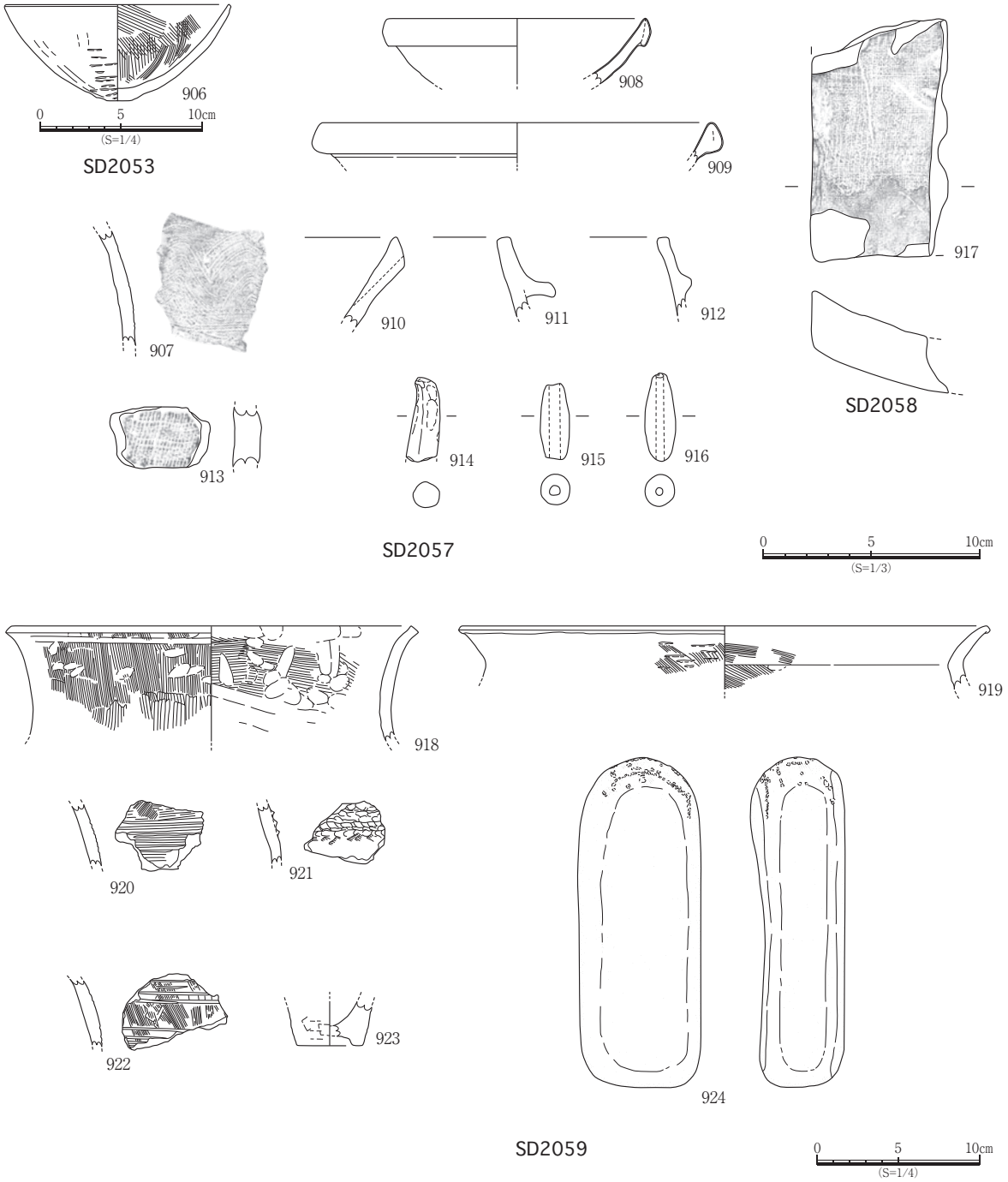


図2－112　SD出土遺物実測図2

びる。検出面からの深さは約0.08～0.10mである。出土遺物は須恵器等で、903を図示した。

SD2049

J区中央部で検出した溝跡である。規模は長さ約14.00m、幅0.50～0.95mを測る。検出面からの深さは約0.10～0.14mである。出土遺物は鉄製品等で、904・905を図示した。

SD2053

K区北東部で検出した溝跡である。規模は長さ約4.40m、幅0.45～0.80mを測り、ST2008を切る。検出面からの深さは約0.13～0.30mである。出土遺物は弥生土器等で、906を図示した。

SD2057

L区北部で検出した溝跡である。南部ではSD2010の番号が付されている。規模は長さ約16.50m、幅0.70～1.10mを測る。SD2010を含めると長さは21.00m以上を測り、調査区北壁へと延びる。検出面からの深さは約0.18～0.28mである。出土遺物は弥生土器・瓦質土器・土製品・白磁・製塩土器等で、907～916を図示した。

SD2058

L区中央部で検出した溝跡である。規模は長さ約10.02m以上、幅0.45～1.10mを測り、調査区西壁へと延びる。南部はSD2057に接続し、やや北西に分岐する。切り合い関係については不明である。検出面からの深さは約0.02～0.16mである。出土遺物は瓦等で、917を図示した。

SD2059

L区南部で検出した溝跡である。規模は長さ約4.40m、幅1.30～1.60mを測る。検出面からの深さは約0.20～0.30mである。出土遺物は弥生土器・石製品で、918～924を図示した。

⑸柱穴

竪穴建物跡及び掘立柱建物を構成していると考えられる柱穴については⑴竪穴建物跡・⑵掘立柱建物跡の項で報告した。ここでは上記以外で柱穴とされ、遺物が出土したものについて記す。

P2258

B区東部で検出した隅丸長方形状の柱穴で、長軸0.30ｍ、短軸0.20ｍ、深さ0.21ｍを測る。出土遺物は土師器等で、966を図示した。

P2423

D区中央部で検出した不整形状の柱穴で、長軸0.16ｍ、短軸0.14ｍ、深さ0.11ｍを測る。出土遺物は土師器等で、1004～1009を図示した。

P2425

D区東部で検出した円形状の柱穴で、長軸0.12ｍ、短軸0.11ｍ、深さ0.36ｍを測る。出土遺物は須恵器等で、1010～1012を図示した。

P2453

D区東部で検出した楕円形状の柱穴で、長軸0.26ｍ、短軸0.18ｍ、深さ0.54ｍを測る。出土遺物は須恵器等で、1023を図示した。

P3077

J区南部で検出した楕円形状の柱穴で、長軸0.17ｍ、短軸0.16ｍ、深さ0.27ｍを測る。出土遺物は須恵器・鉄製品等で、1039・1040を図示した。

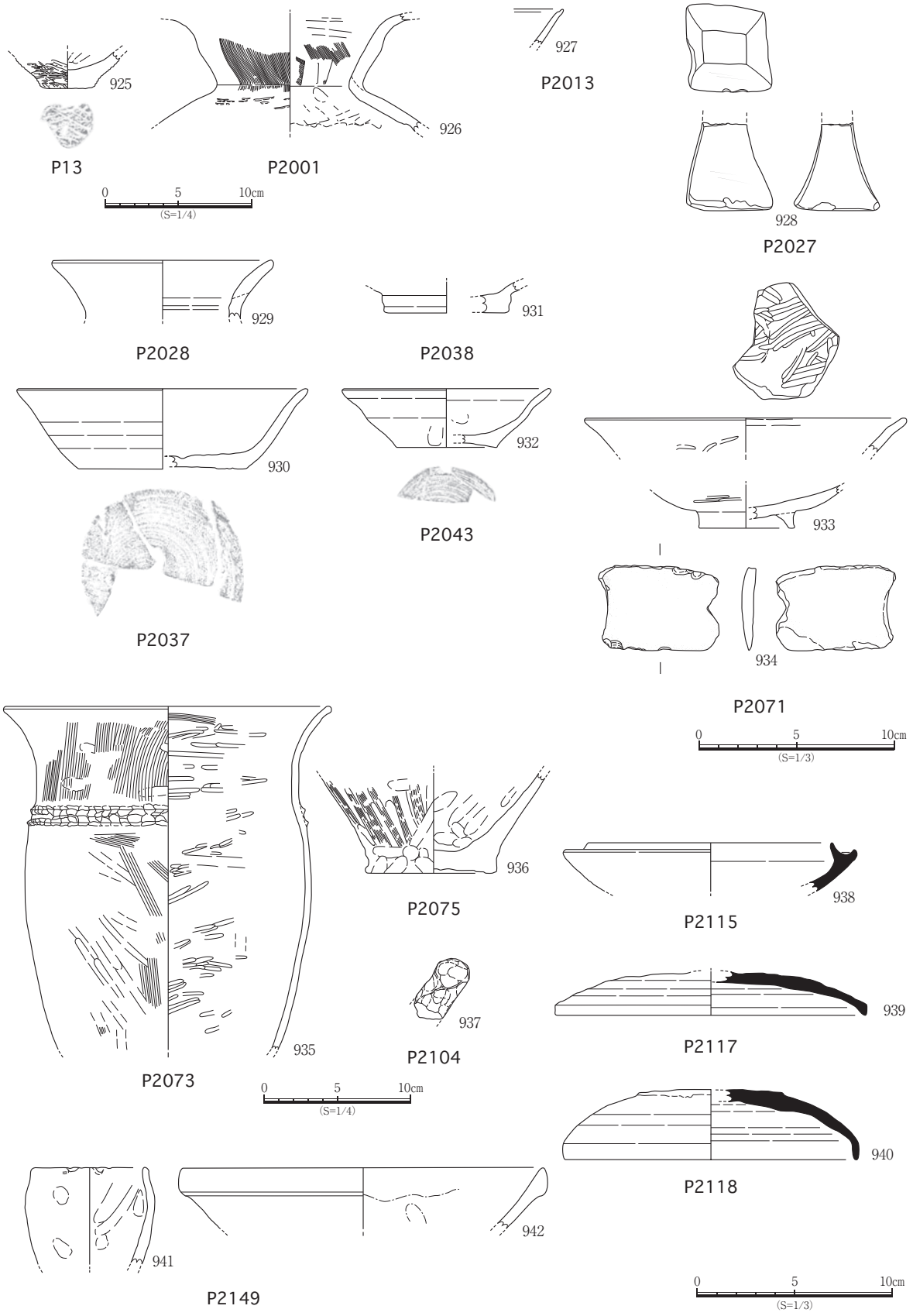


図2－113　ピット出土遺物実測図1

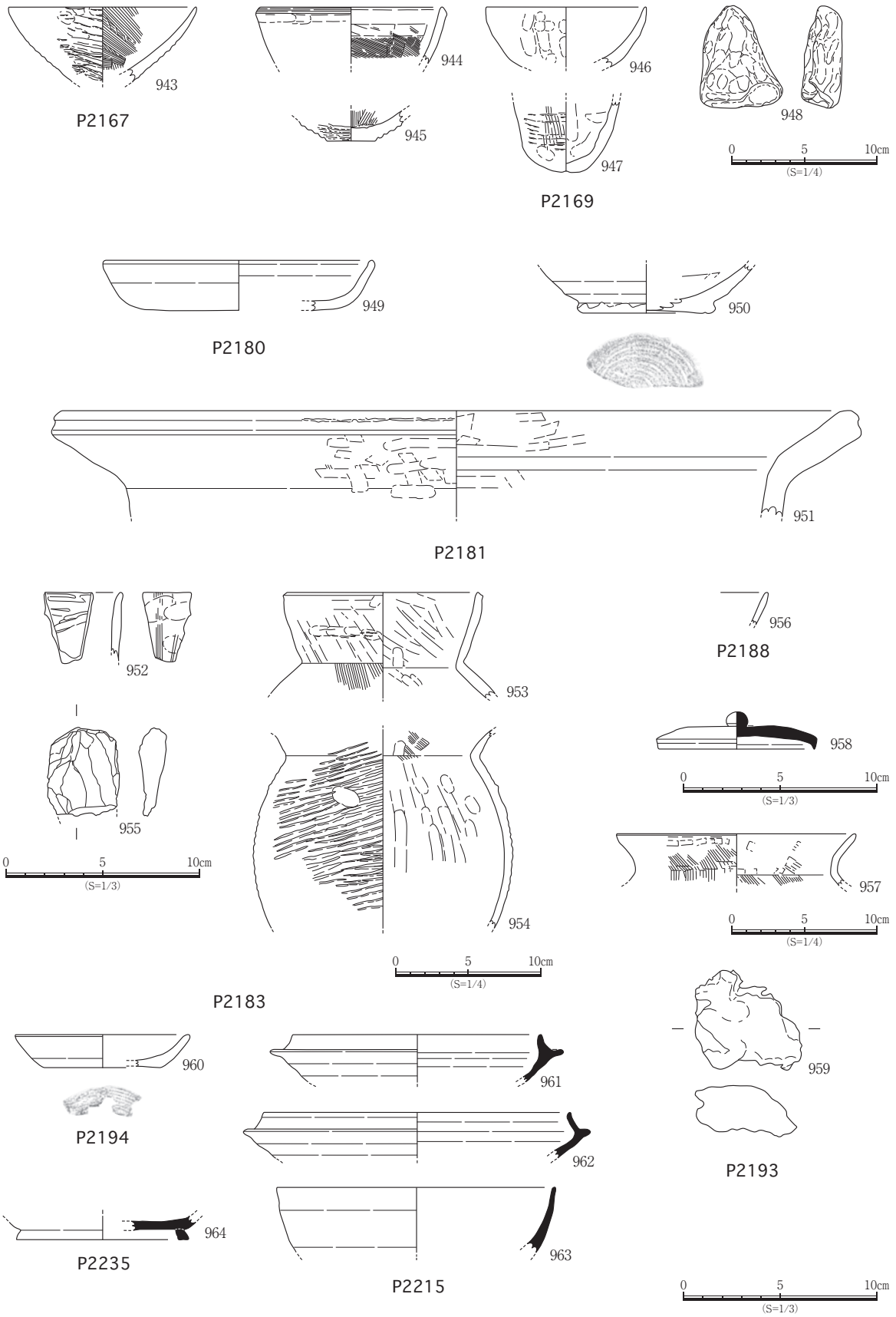


図2－114　ピット出土遺物実測図2

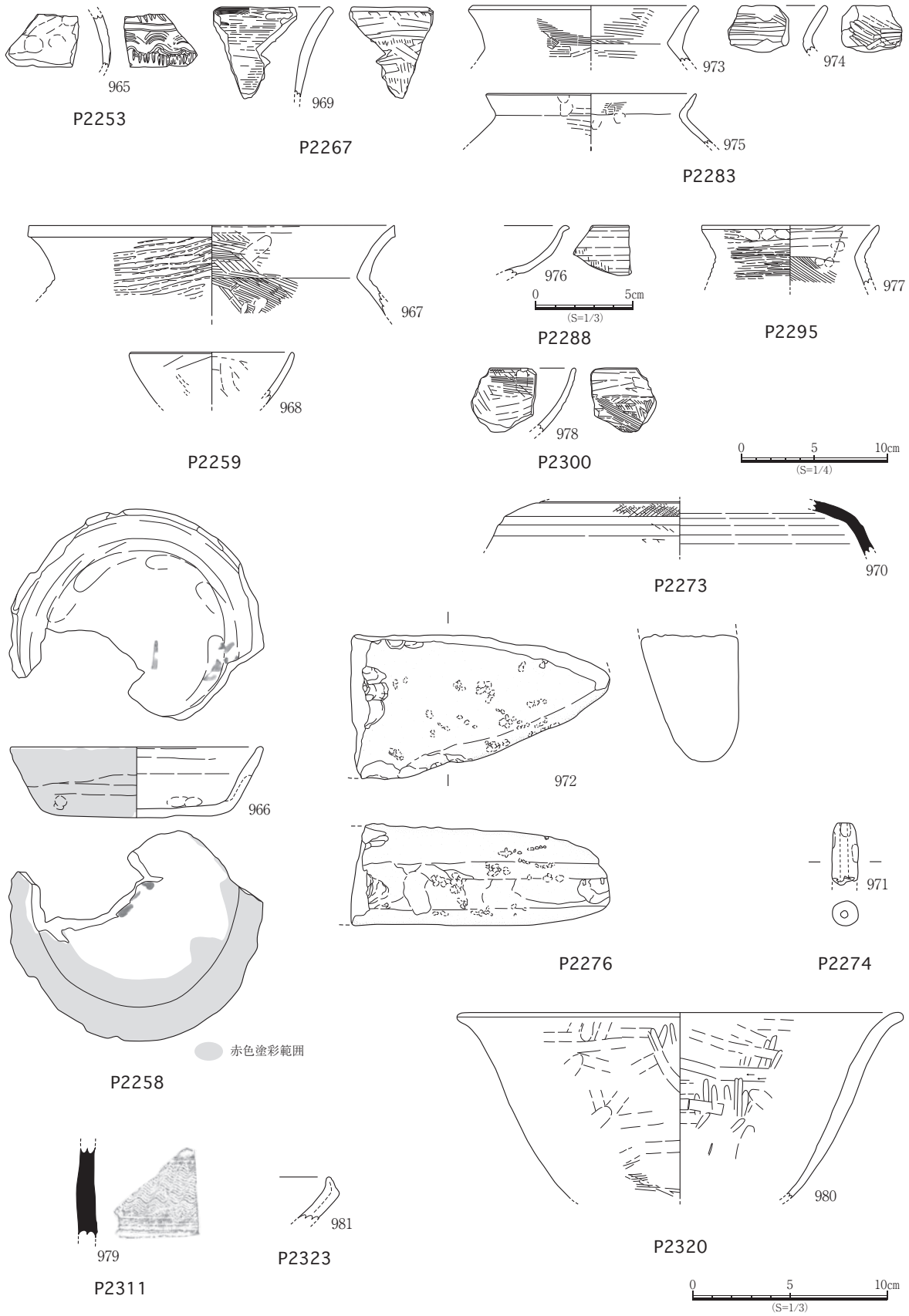


図2－115　ピット出土遺物実測図3

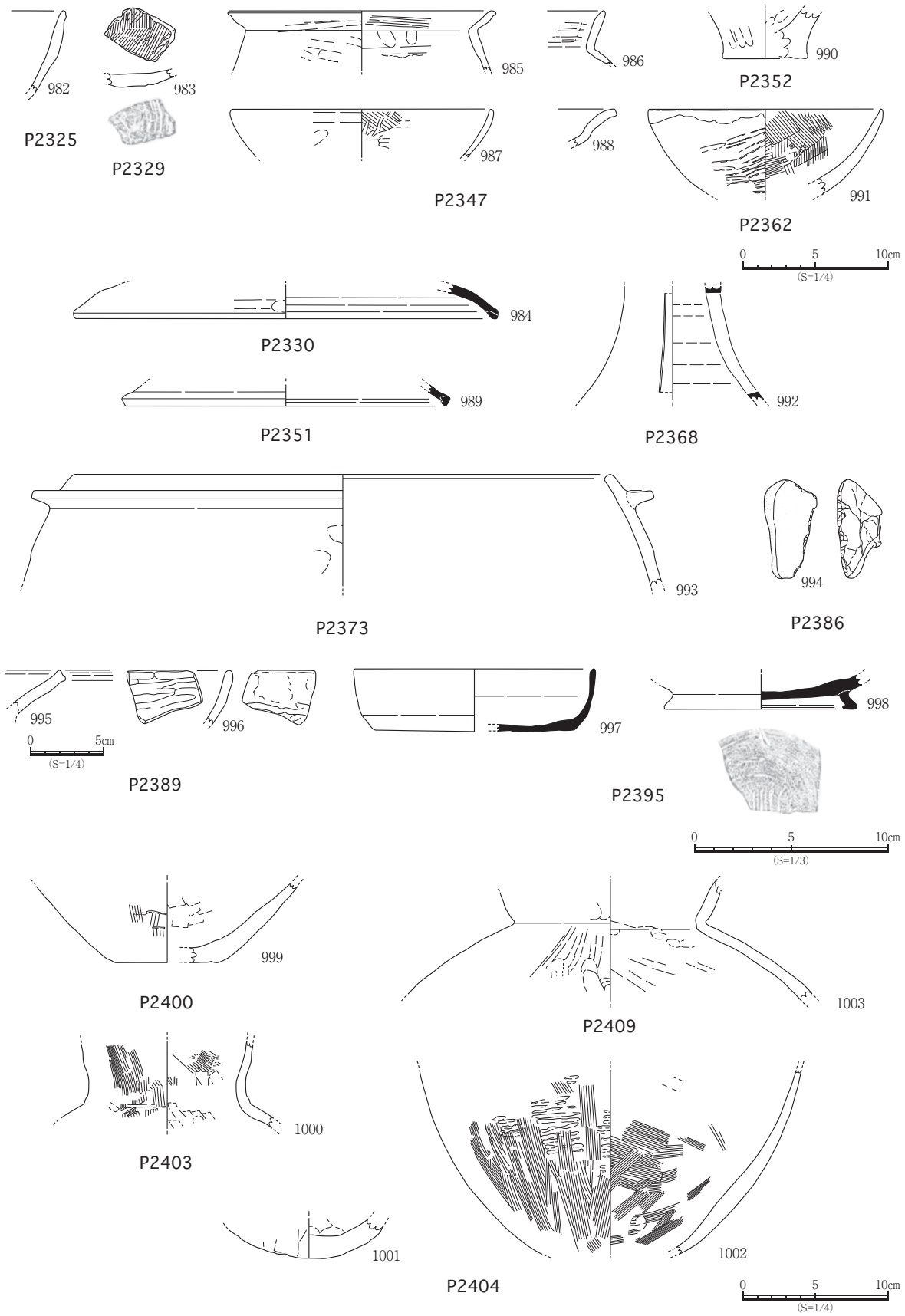


図2－116　ピット出土遺物実測図4

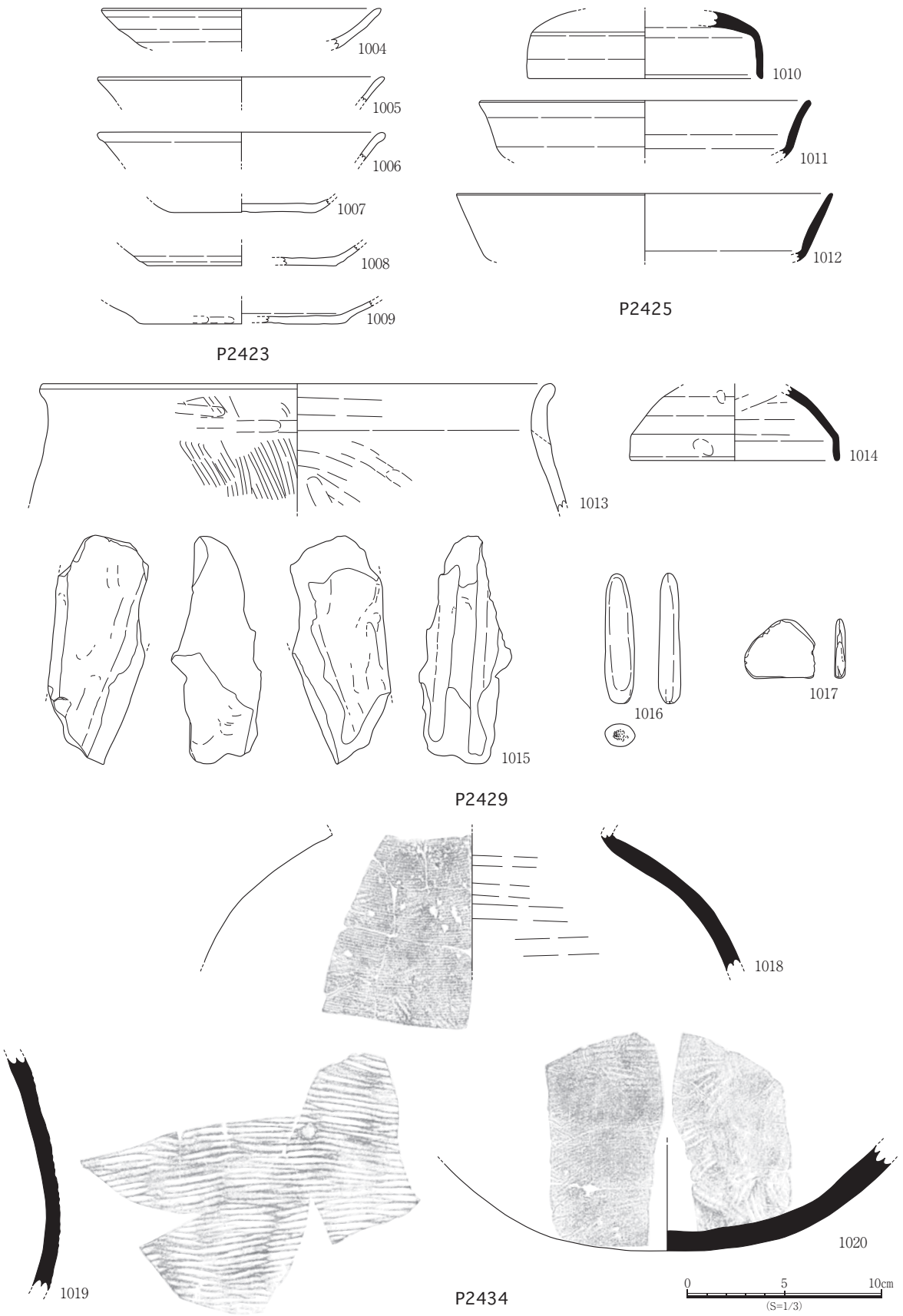


図2－117　ピット出土遺物実測図5

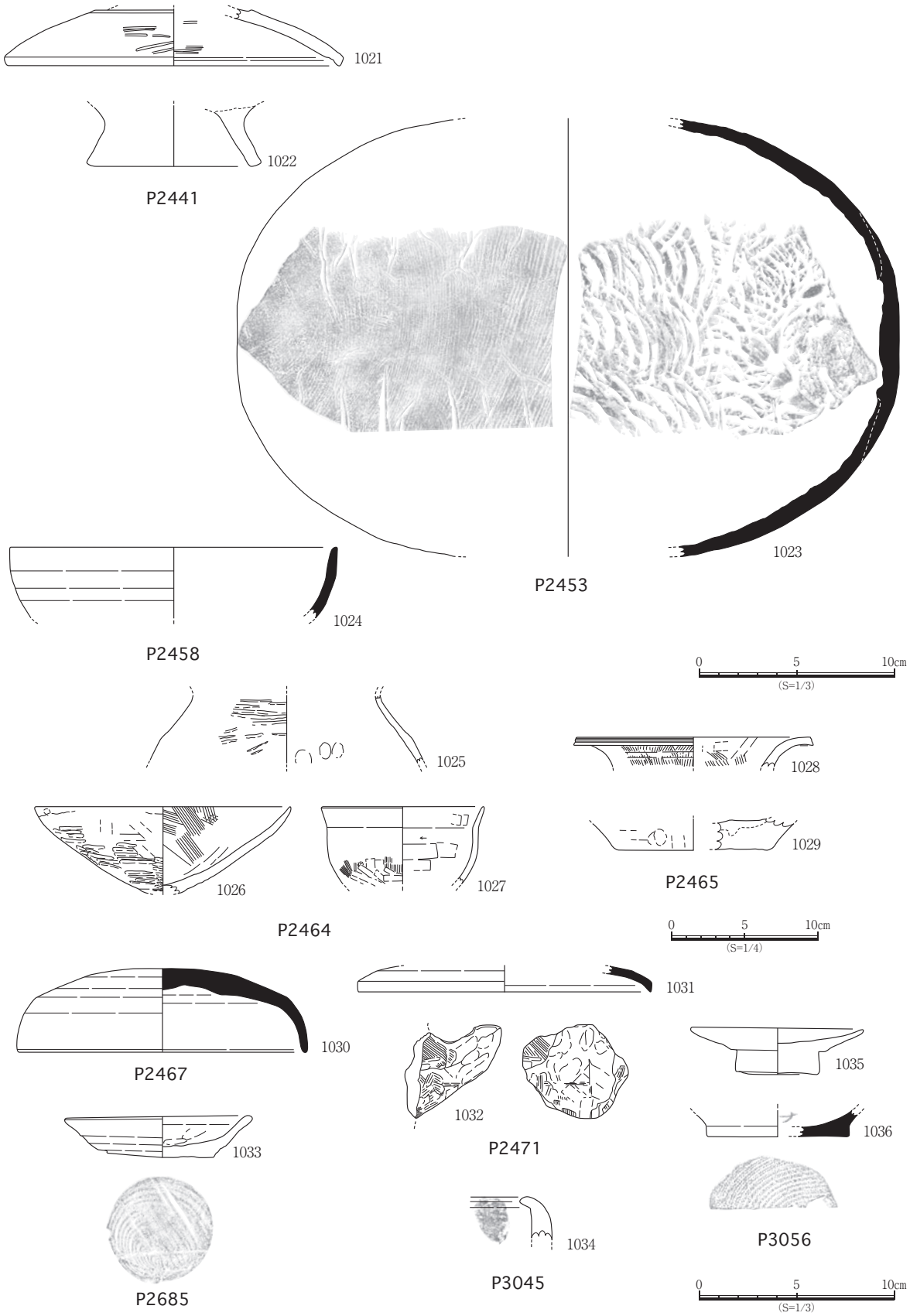


図2－118　ピット出土遺物実測図6

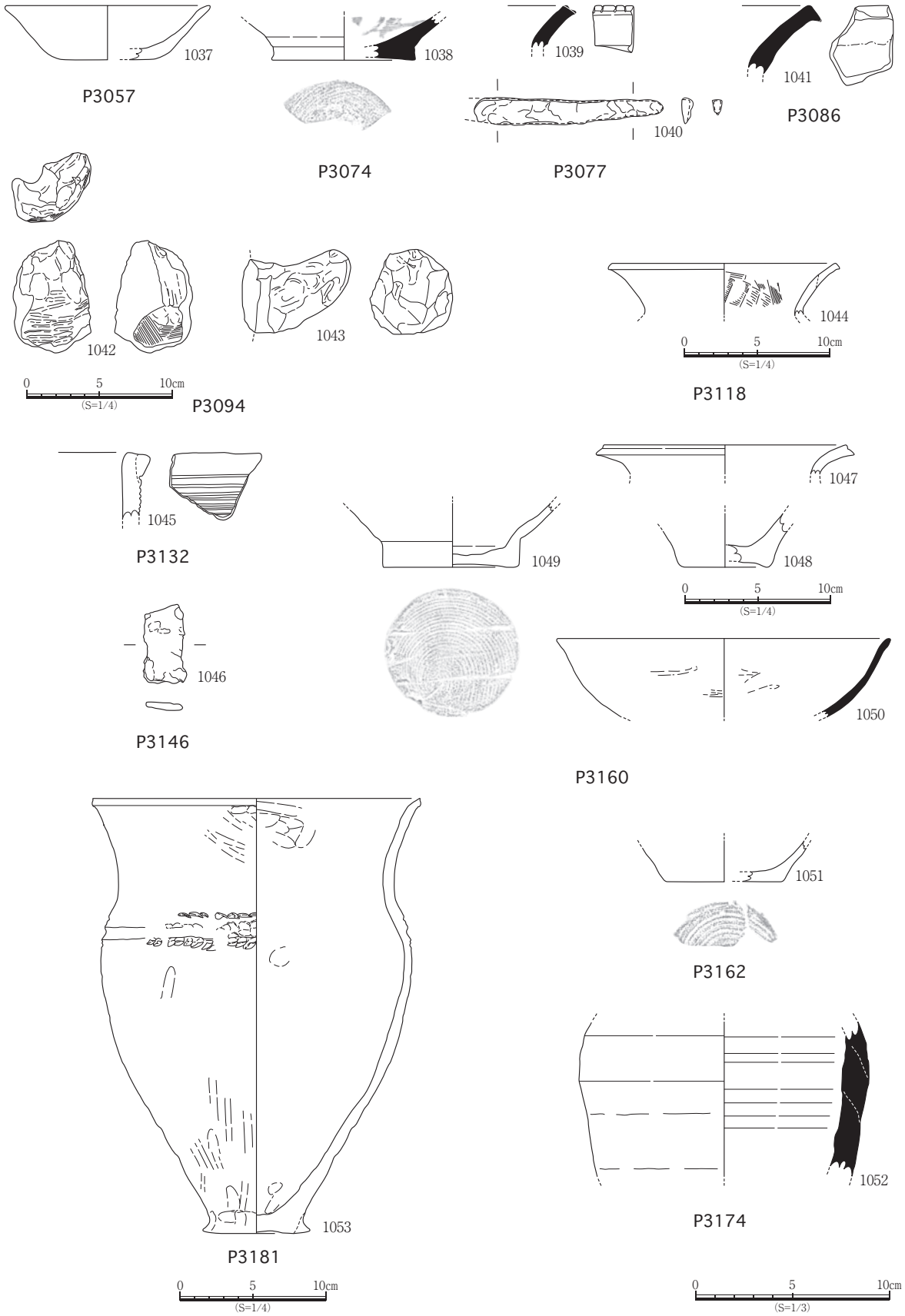


図2－119　ピット出土遺物実測図7

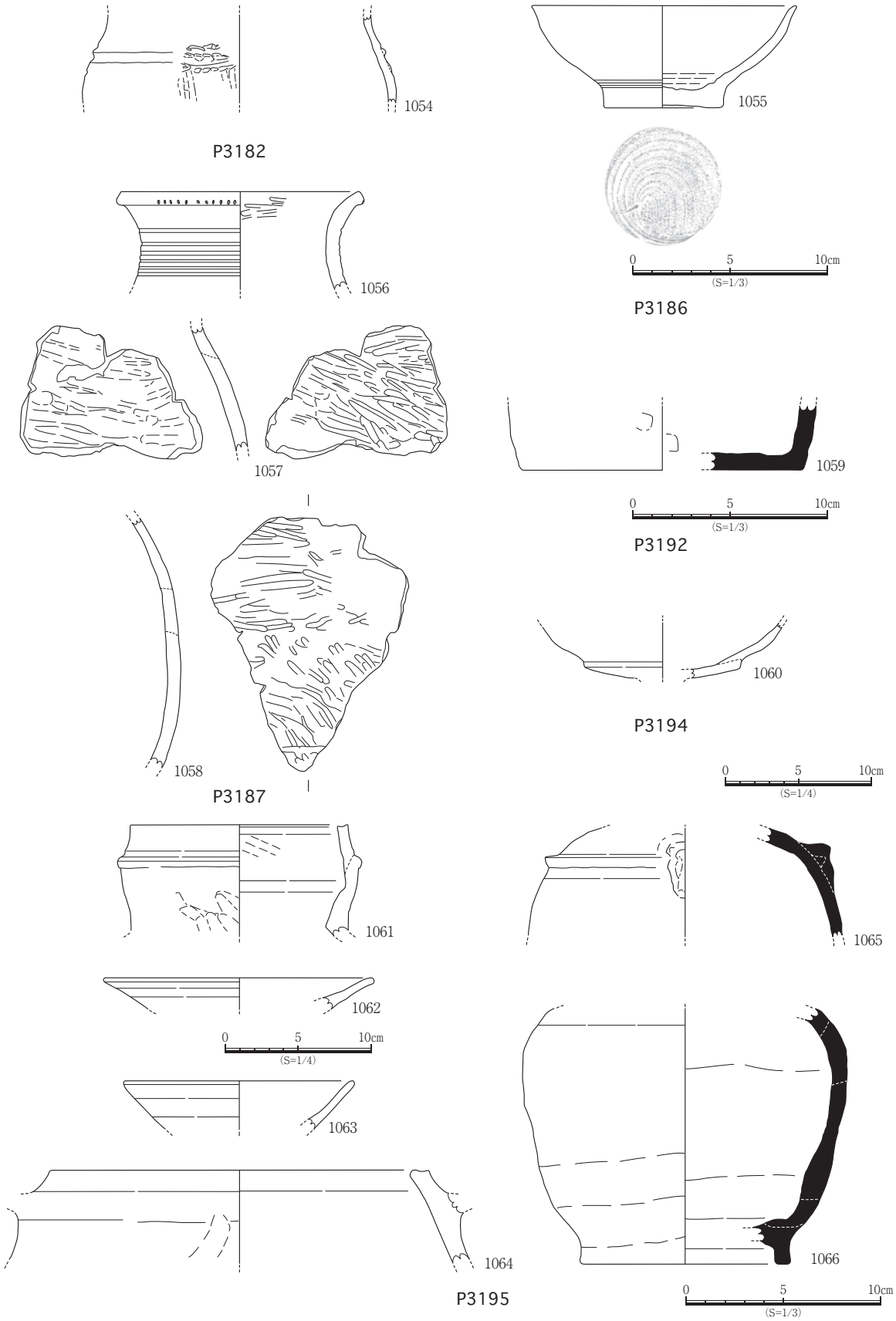


図2－120　ピット出土遺物実測図8

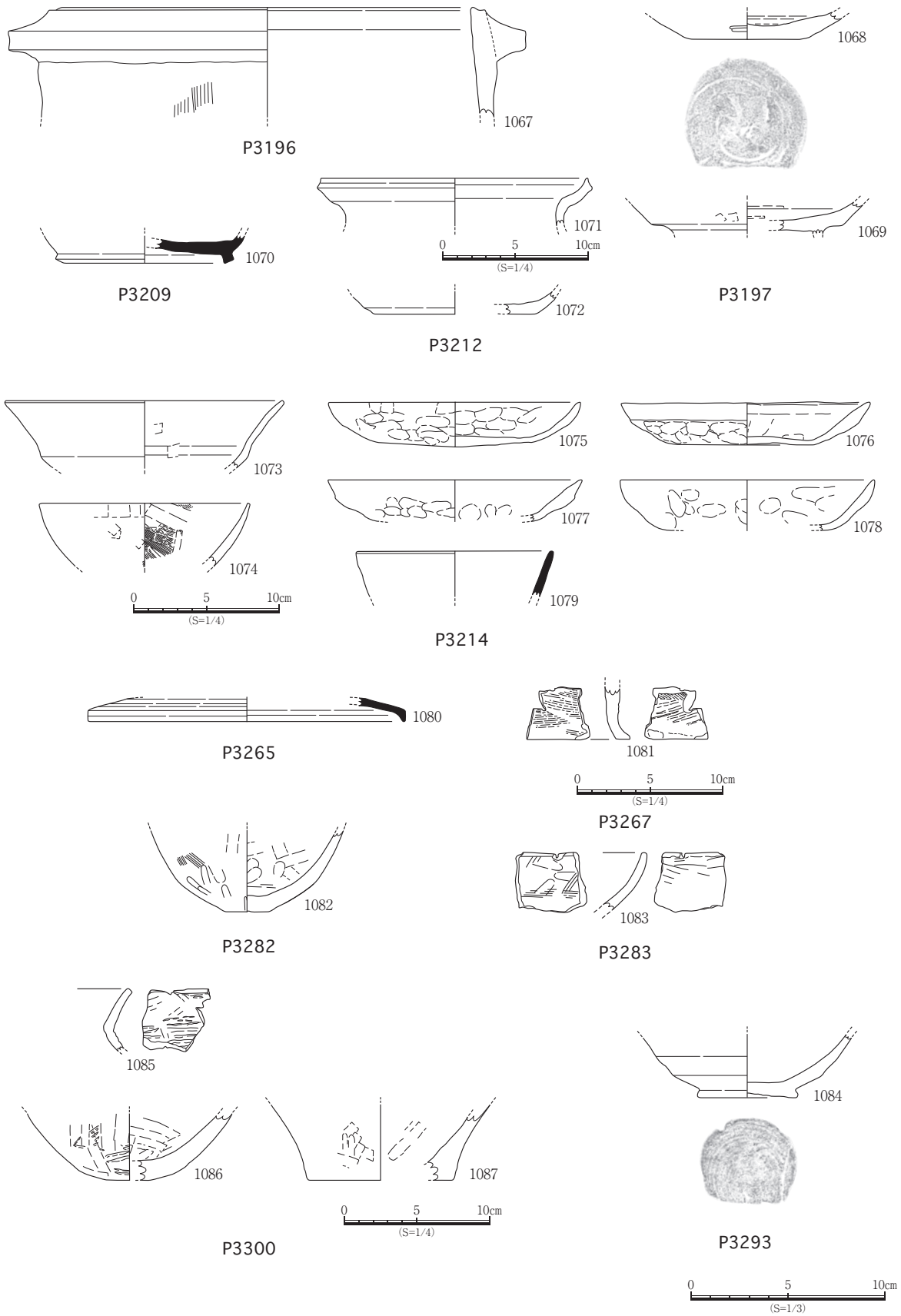


図2－121　ピット出土遺物実測図9

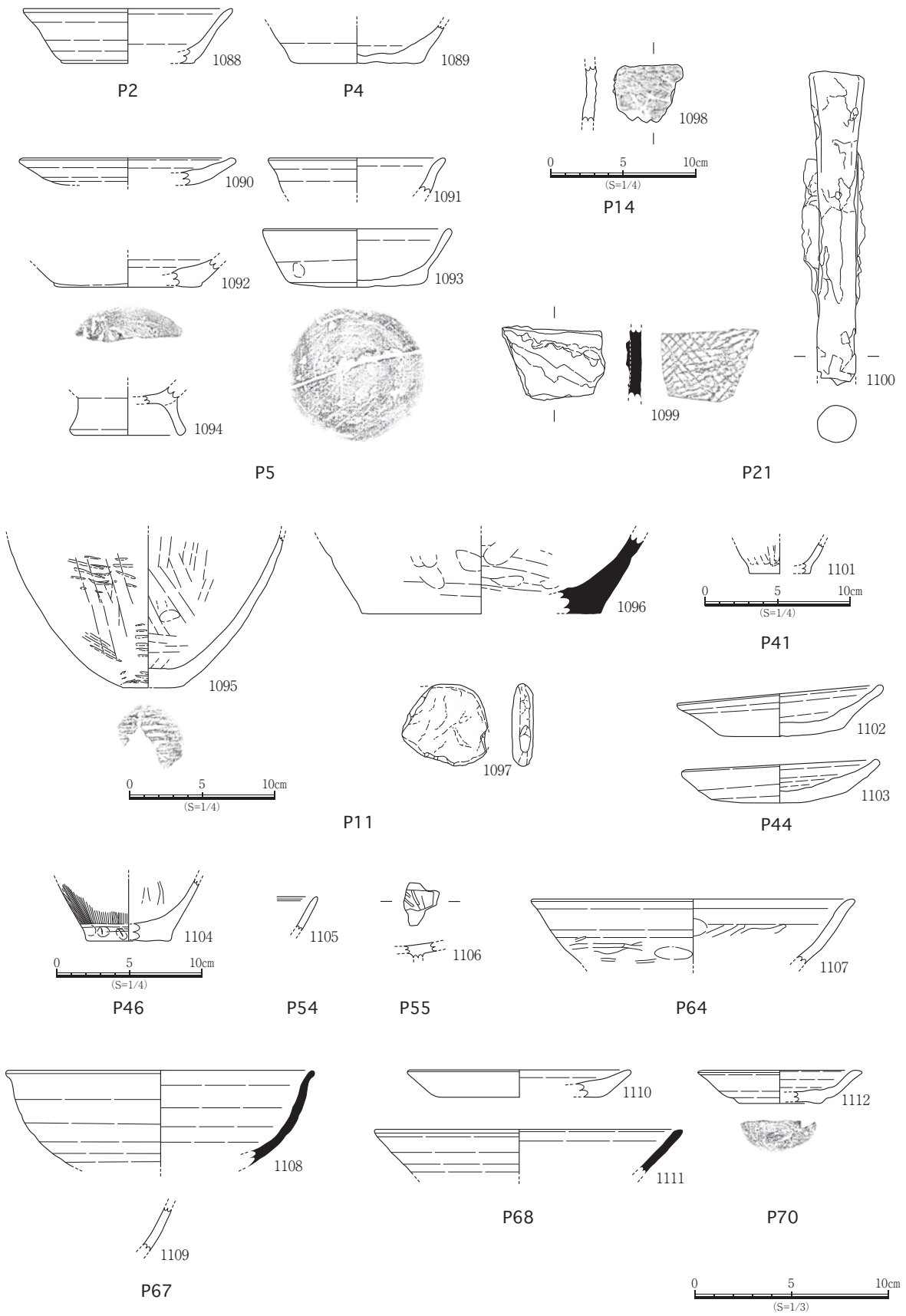


図2－122　ピット出土遺物実測図10

P3195

Ｊ区中央部北寄りで検出した円形状の柱穴で、長軸0.18ｍ、短軸0.16ｍ、深さ0.16ｍを測る。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器等で、1061～1066を図示した。

P3214

Ｊ区北部で検出した不整形状の柱穴で、長軸0.27ｍ、短軸0.21ｍ、深さ0.25ｍを測る。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器等で、1073～1079を図示した。

P5

北区東部で検出した不整楕円形状の柱穴で、長軸0.75ｍ、短軸0.57ｍ以上、深さ0.14ｍを測る。出土遺物は土師器等で、1090～1094を図示した。

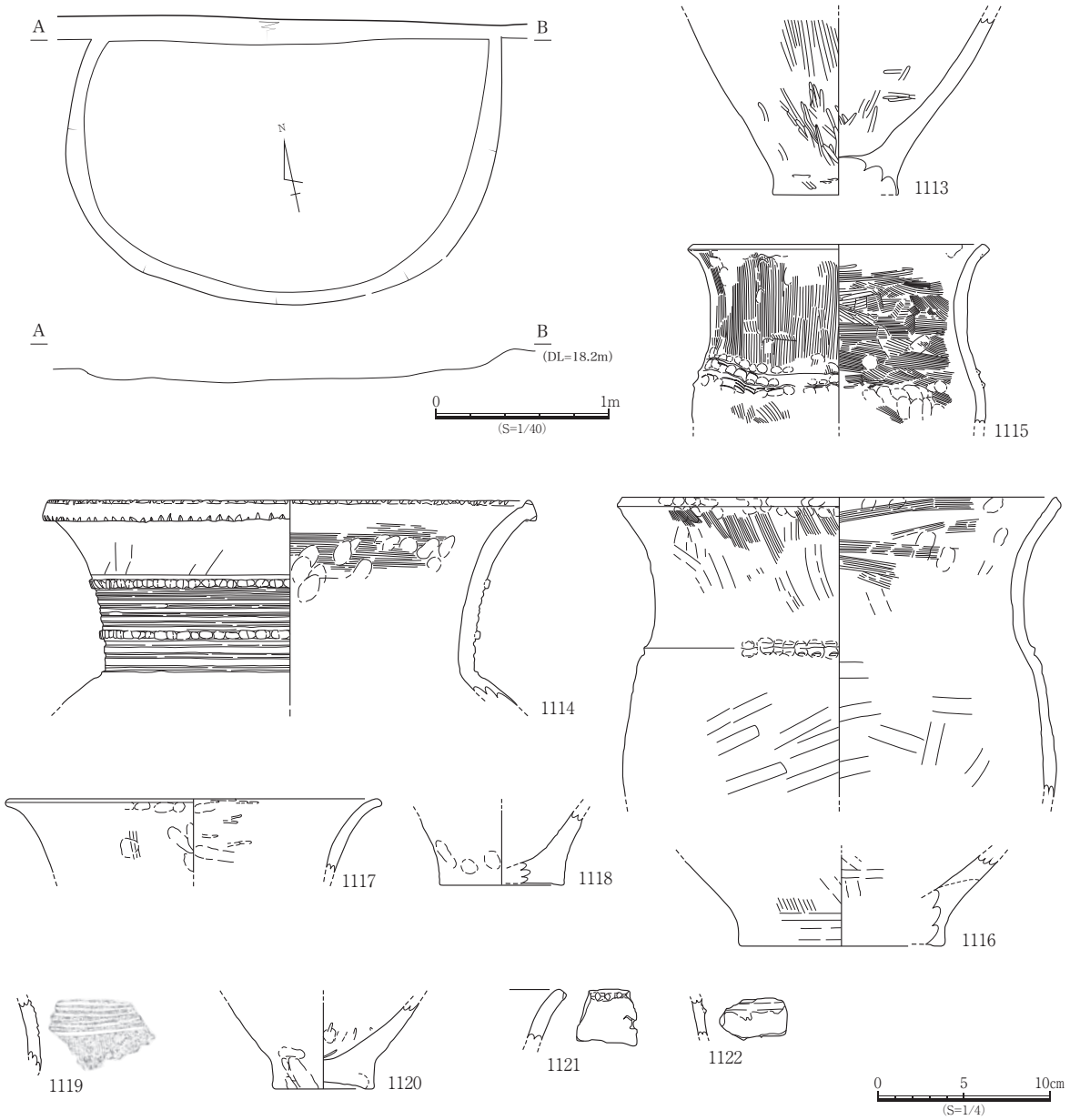


図2－123　SX1遺構図・出土遺物実測図

P44

北区東部で検出した円形状の柱穴で、長軸0.11ｍ、短軸0.09ｍ、深さ0.12ｍを測る。SK3の床面で検出した。出土遺物は土師器等で、1102・1103を図示した。

⑹ 性格不明遺構

調査時に性格不明遺構と判断し、遺物が出土したものについて報告する。出土遺物の詳細については、遺物観察表に記す。

SX1

Ｋ区北西部で検出した性格不明遺構で、調査区北壁へ延びる。円形を呈し、長軸 2.30 ｍ、短軸 1.66 ｍ以上、深さ0.10ｍを測る。浅い断面皿状の土坑状遺構であるが、多くの弥生土器が出土し、1113～1122を図示した。

⑺ 包含層出土遺物

包含層出土遺物は、黒色シルト質土から出土したものが多くを占める。Ｈ区南壁ではⅤ層、Ｊ区東壁ではⅣ層が包含層に相当し、調査区全体を通して13～16㎝程度の堆積が確認された。出土遺物は、それぞれの調査区ごとに取り上げを行なったが、全体を纏めて器種・器形ごとに掲載する。遺物の時期は、弥生時代前期末、弥生時代終末期から古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、古代末から中世である。出土遺物の詳細については、遺物観察表に記す。

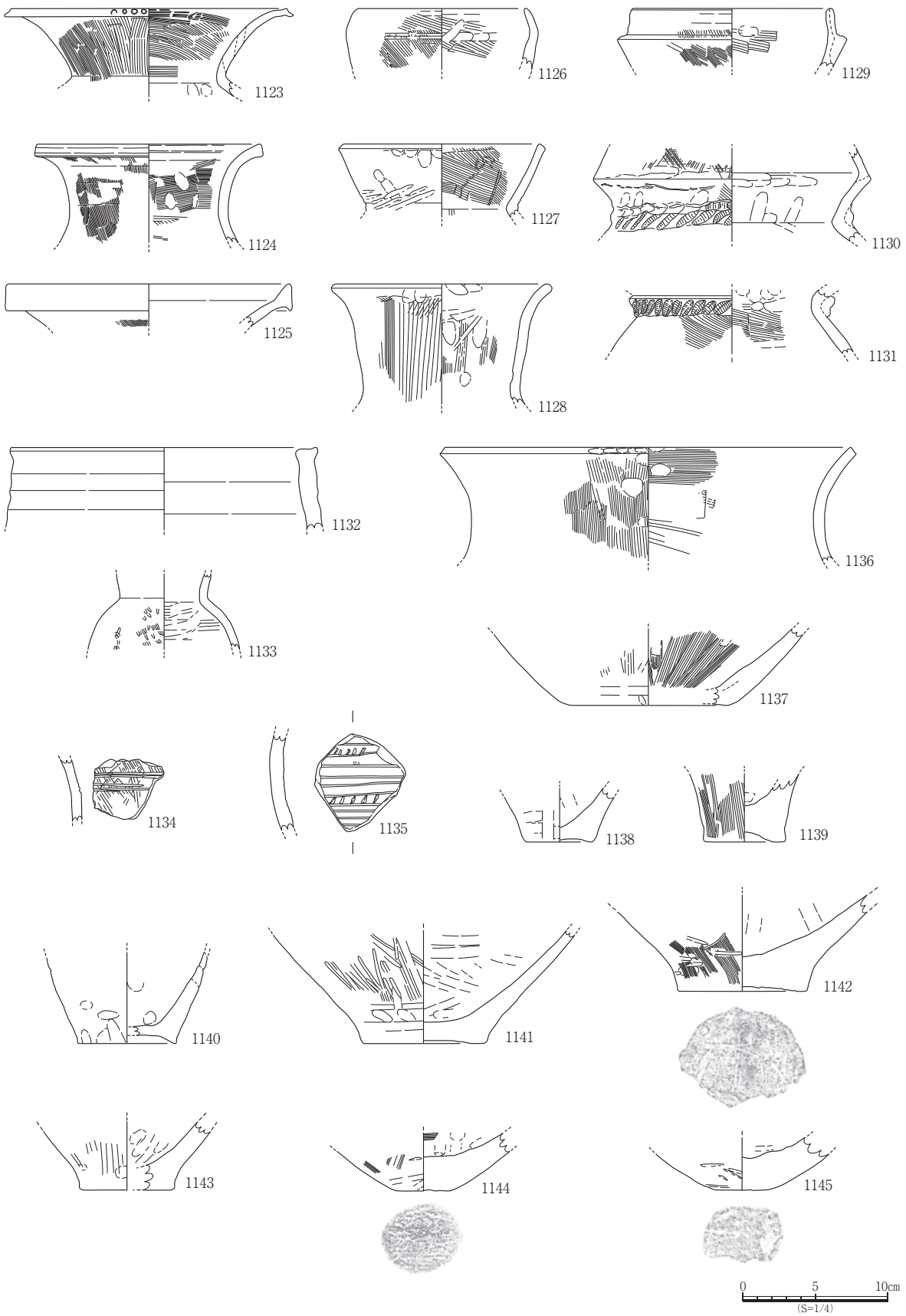


図2－124　包含層出土遺物実測図1（弥生土器・土師器）

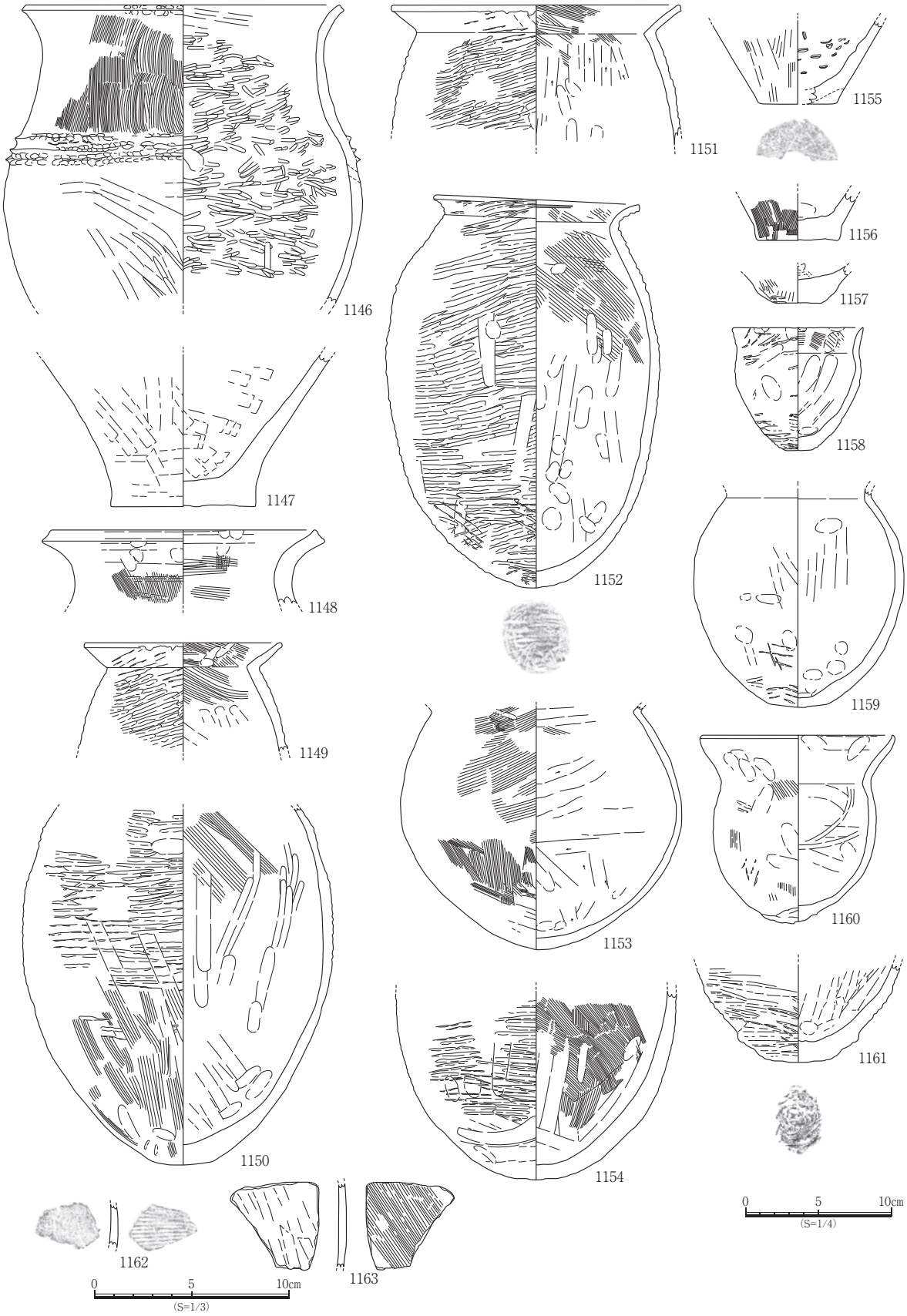


図2－125　包含層出土遺物実測図2（弥生土器・庄内式土器）

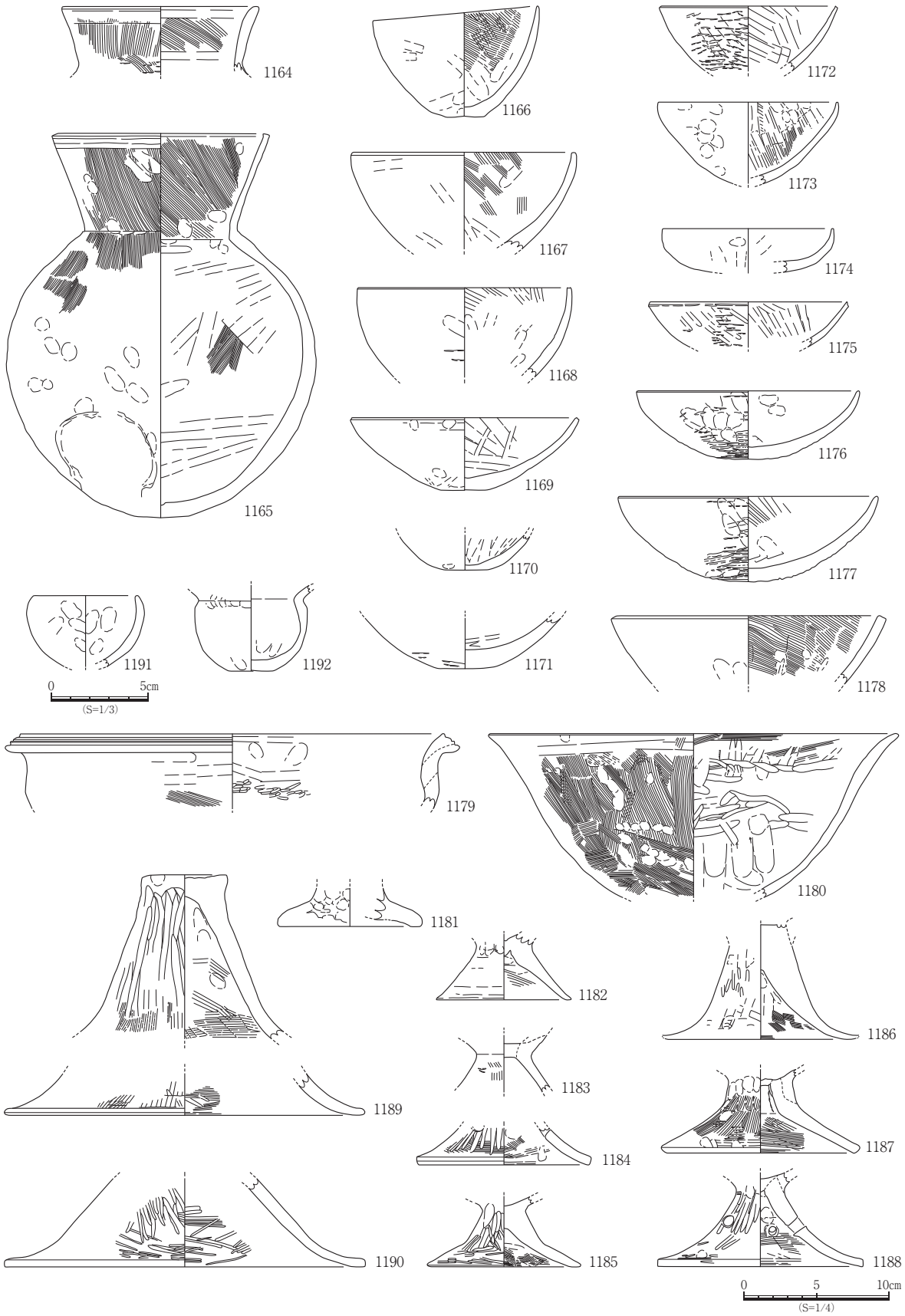


図2－126　包含層出土遺物実測図3（弥生土器・土師器）

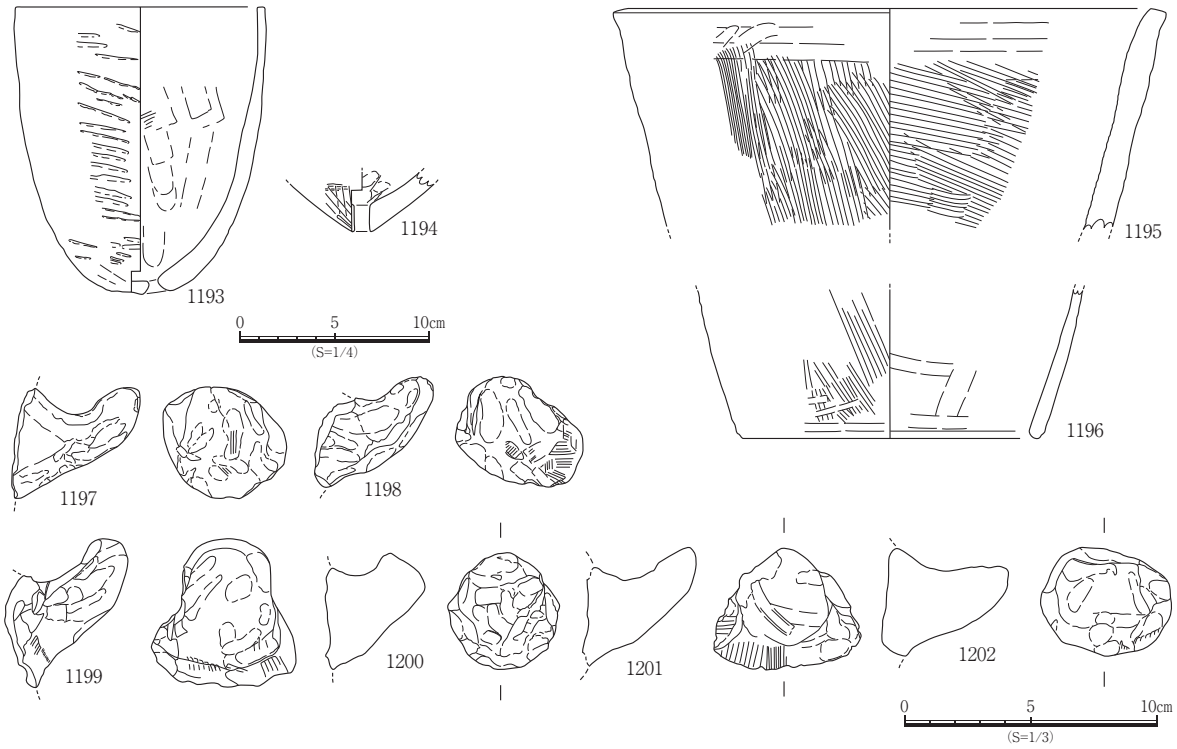


図2－127　包含層出土遺物実測図4（弥生土器・土師器）

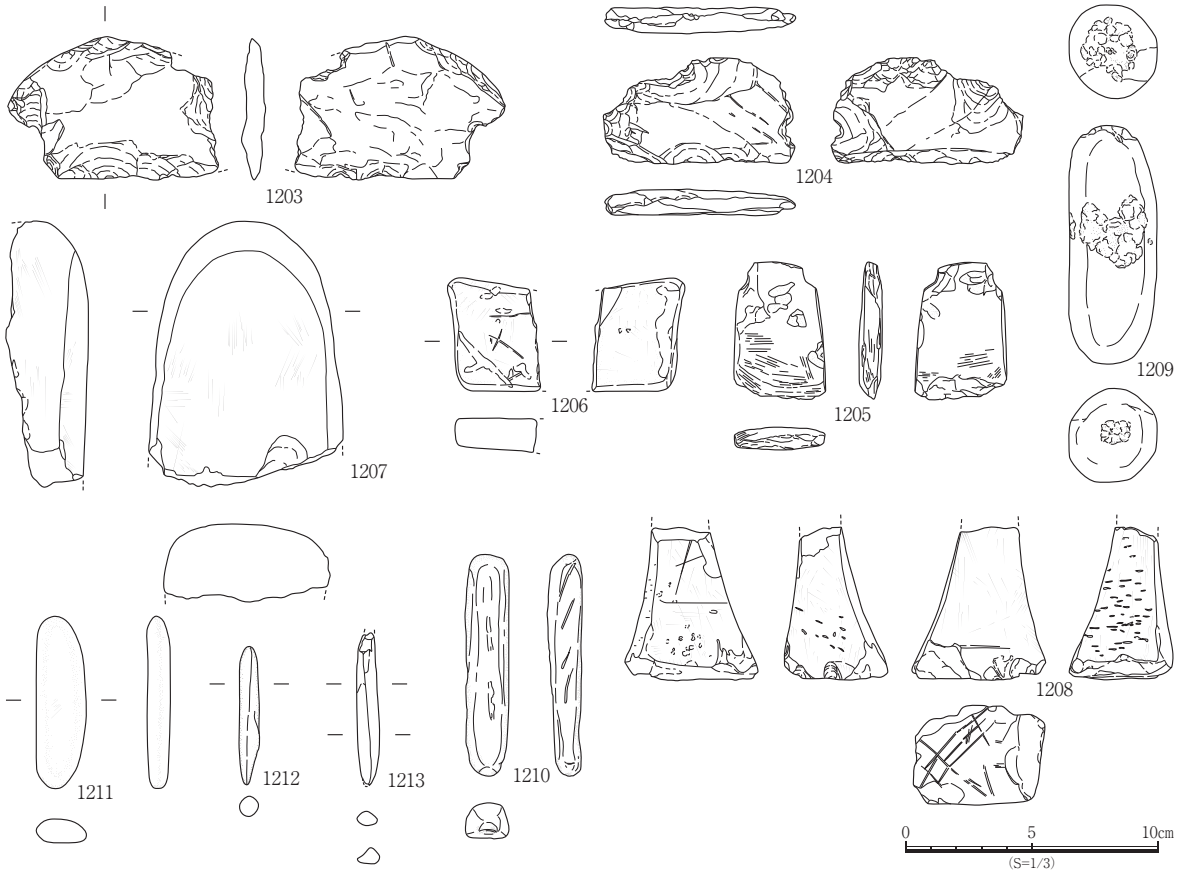


図2－128　包含層出土遺物実測図5（石製品）

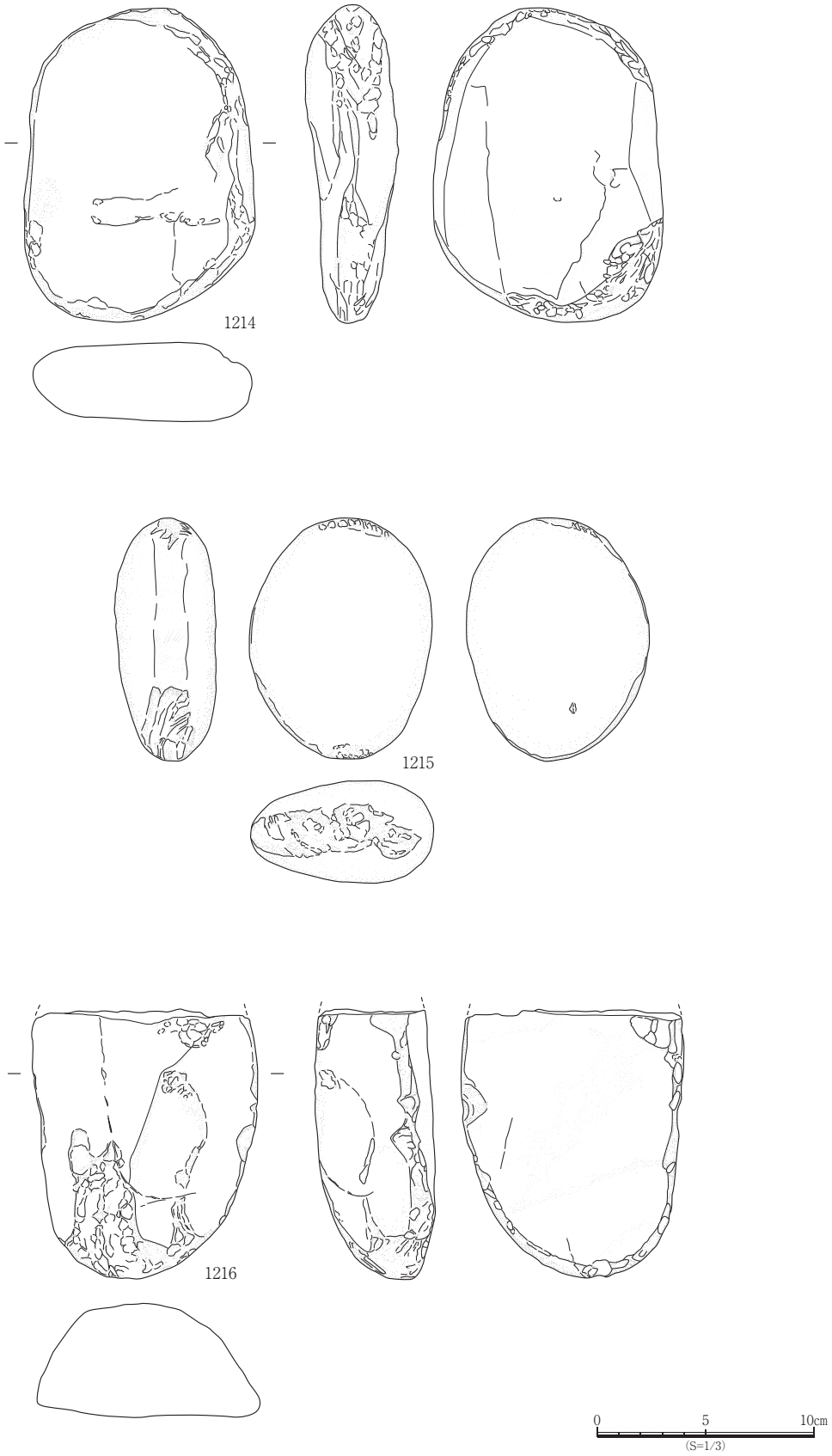


図2－129　包含層出土遺物実測図6（石製品）

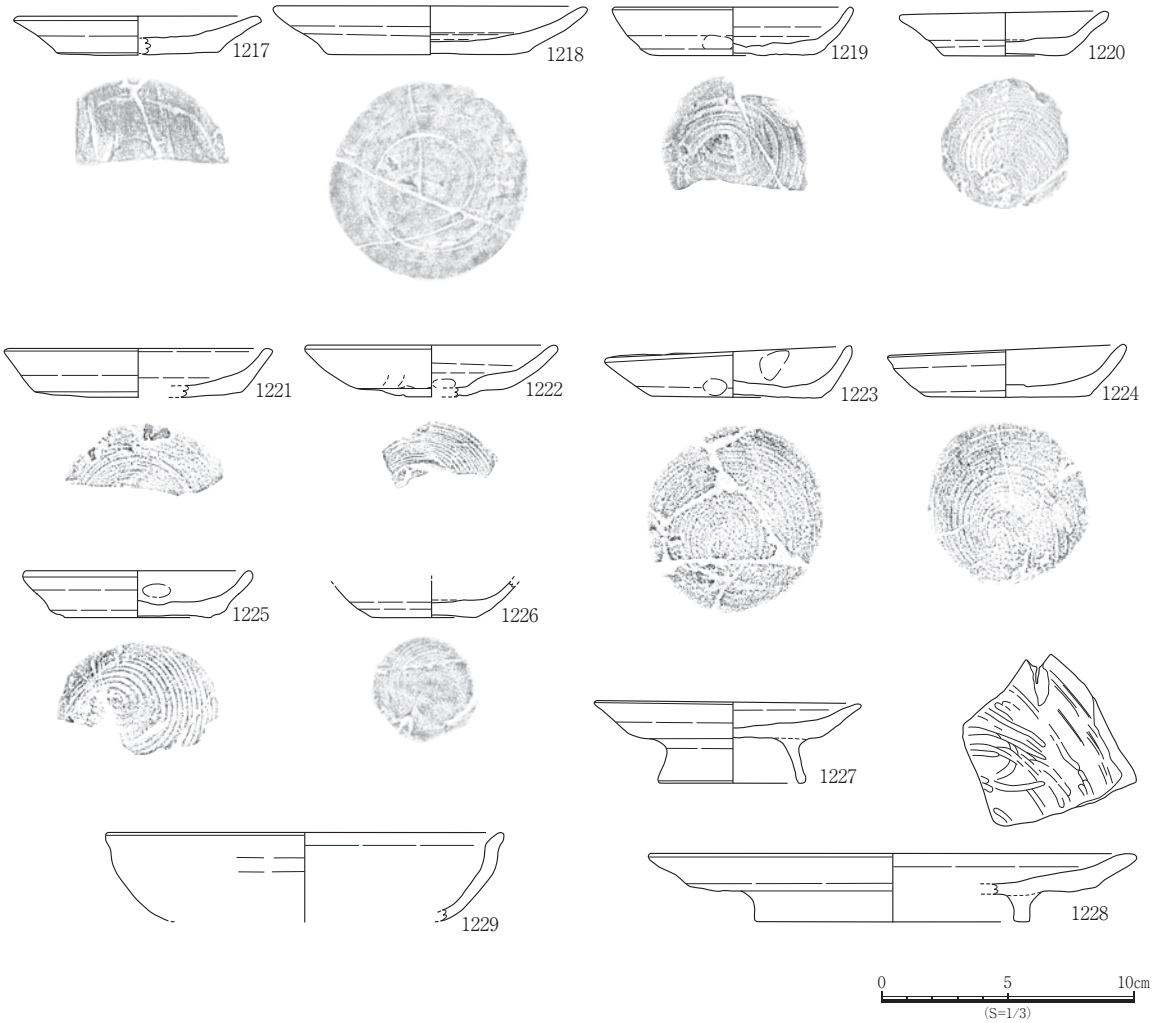


図２－130　包含層出土遺物実測図７（土師器）

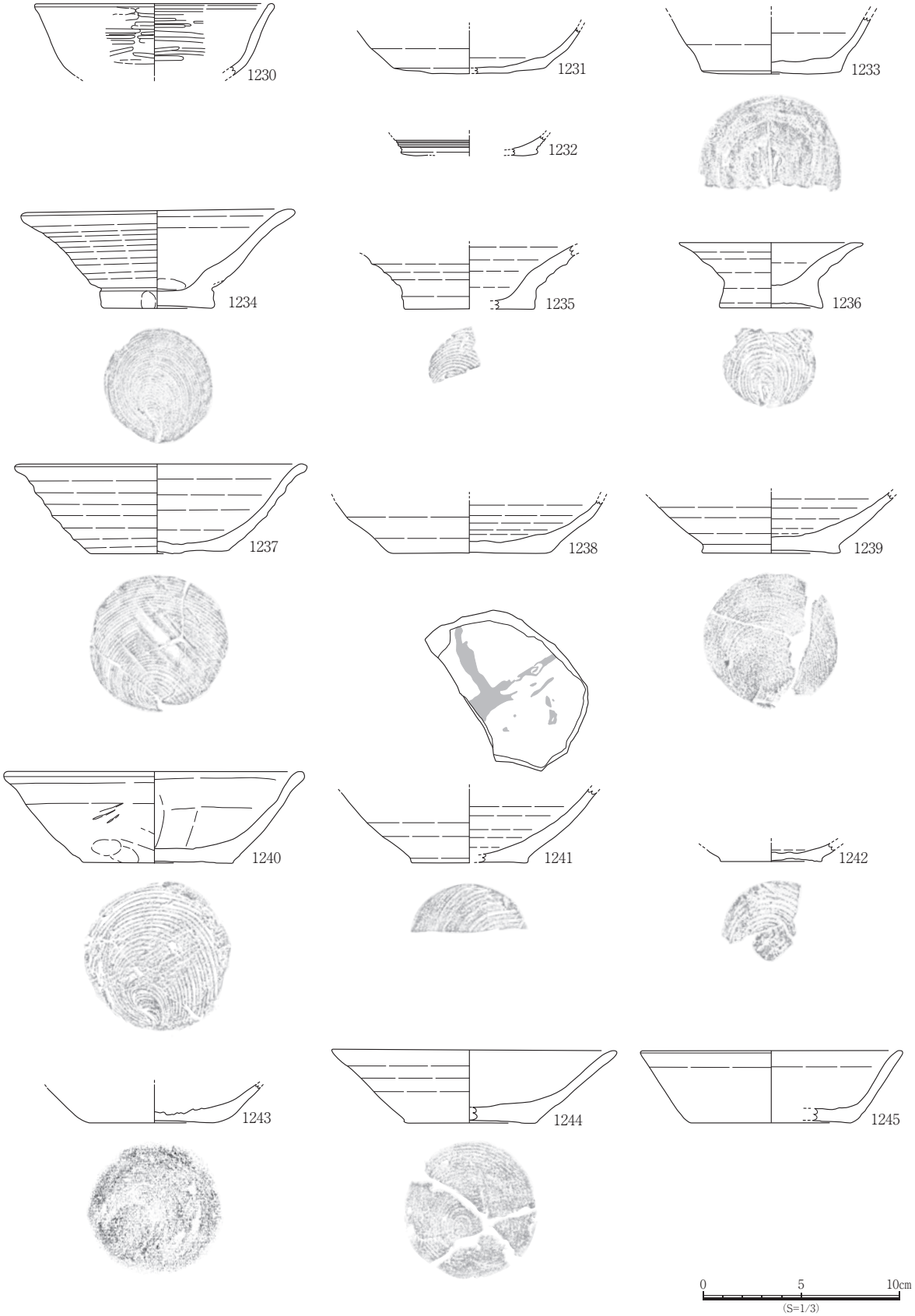


図2－131　包含層出土遺物実測図8（土師器）

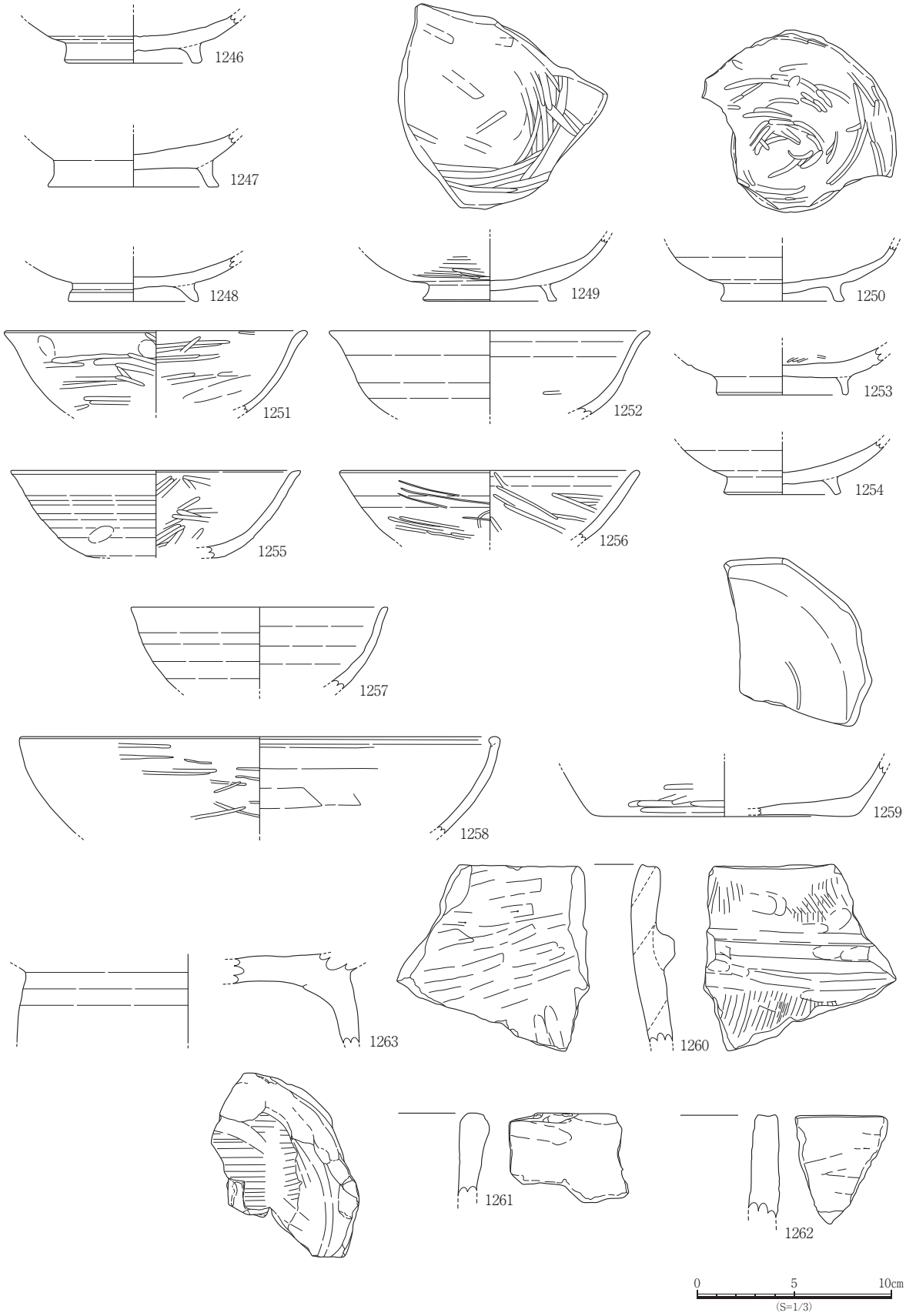


図2－132　包含層出土遺物実測図9（土師器）

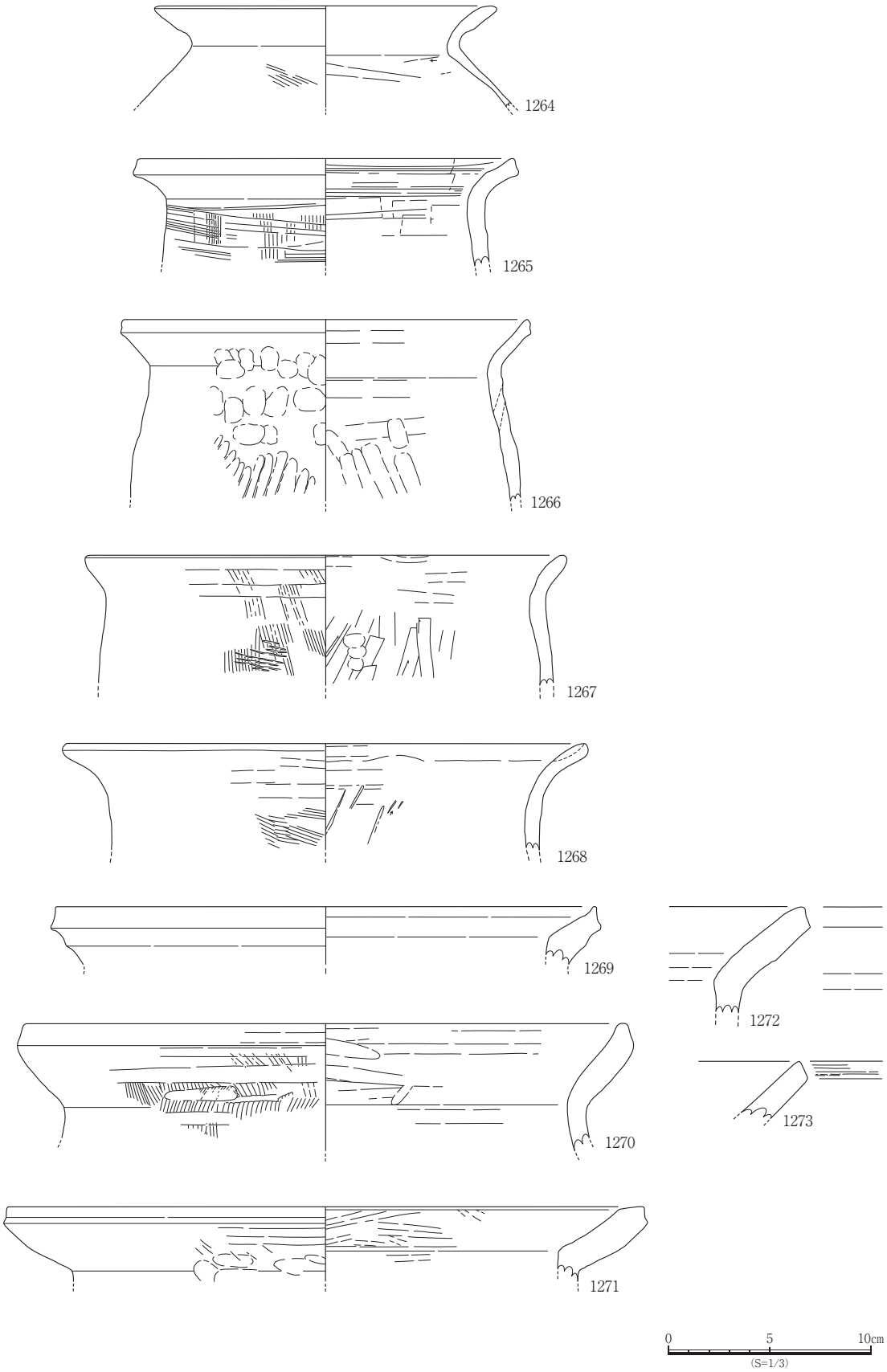


図2－133　包含層出土遺物実測図10（土師器）

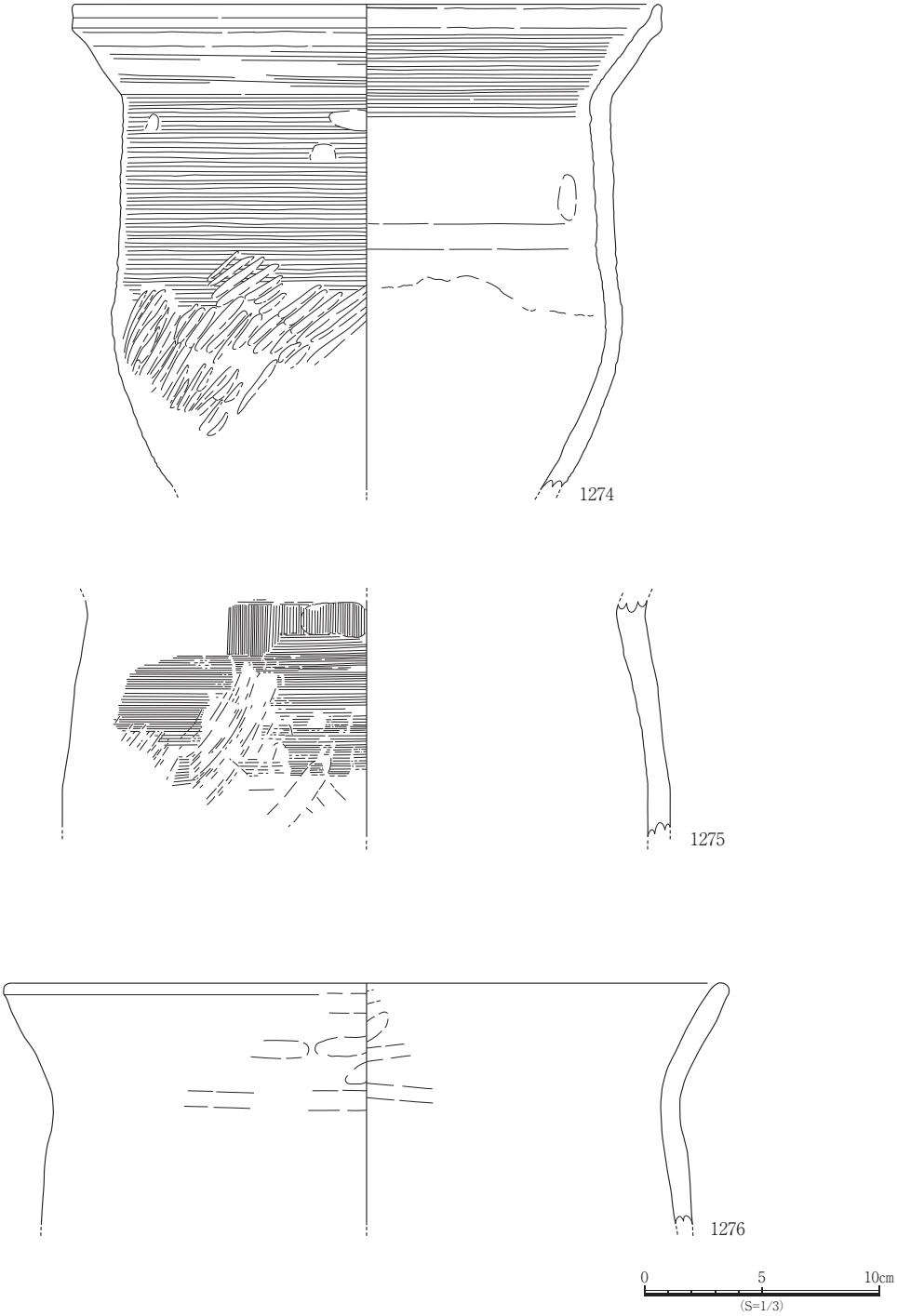


図2－134　包含層出土遺物実測図11（土師器）

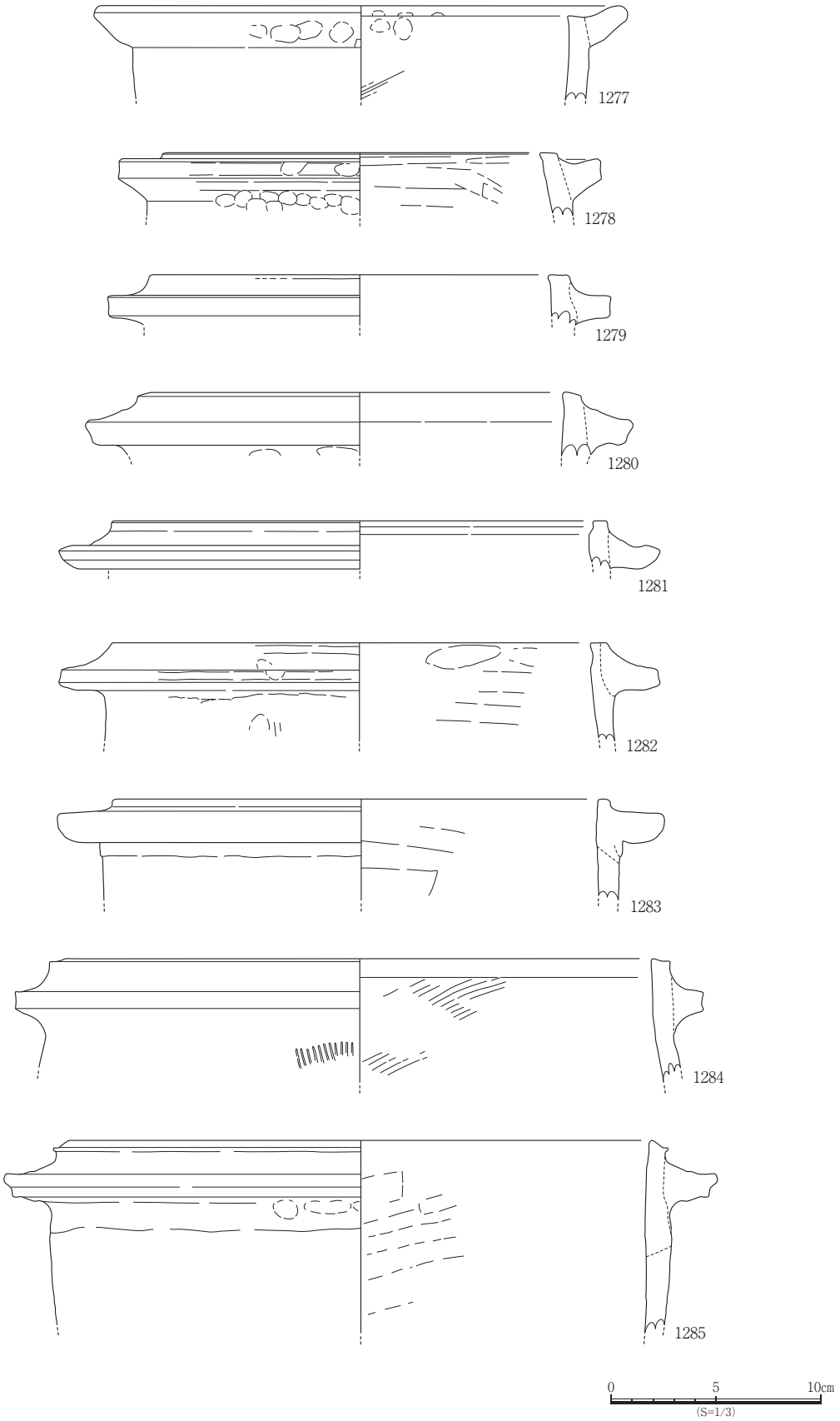


図2－135　包含層出土遺物実測図12（土師器）

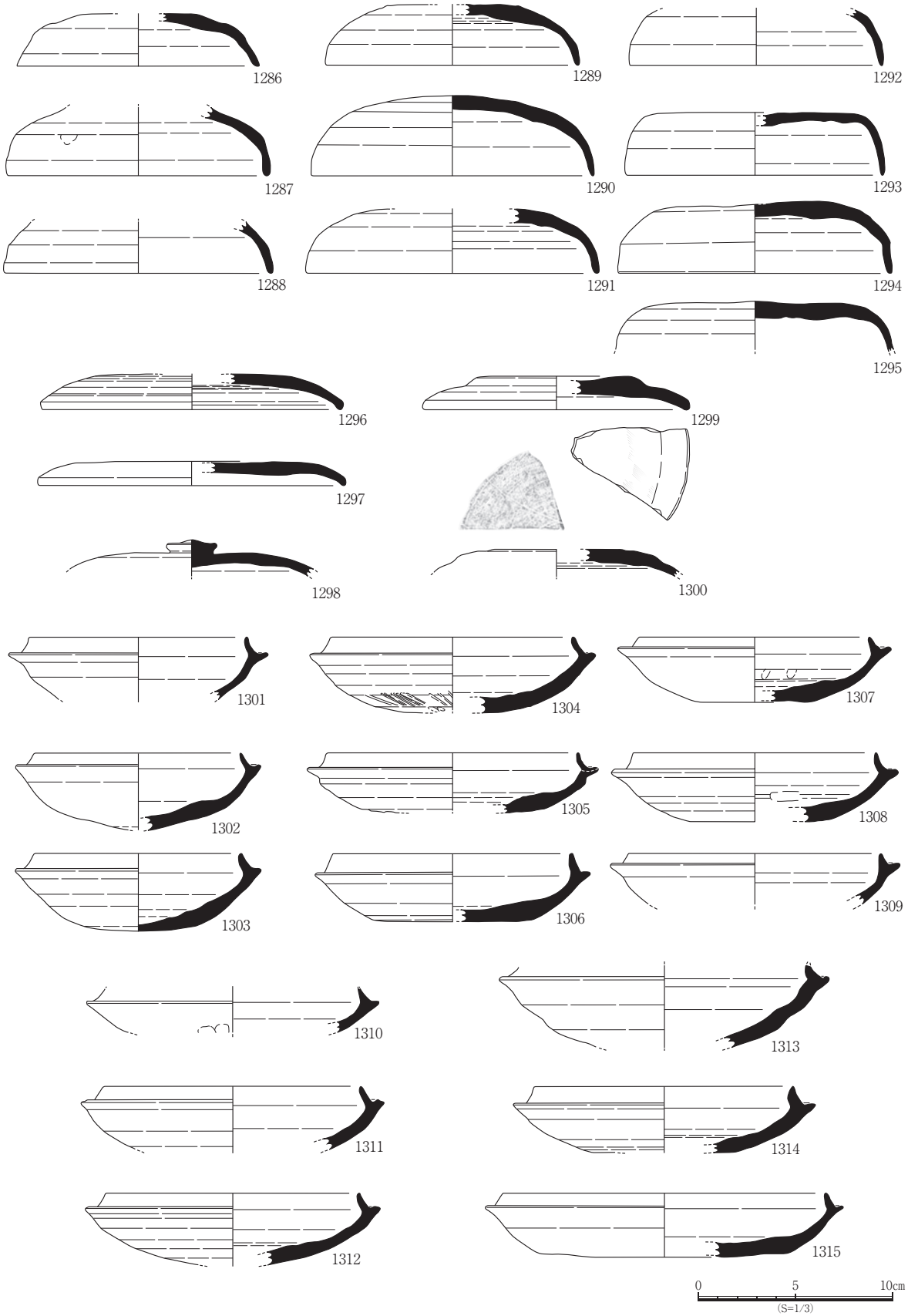


図2－136　包含層出土遺物実測図13（須恵器）

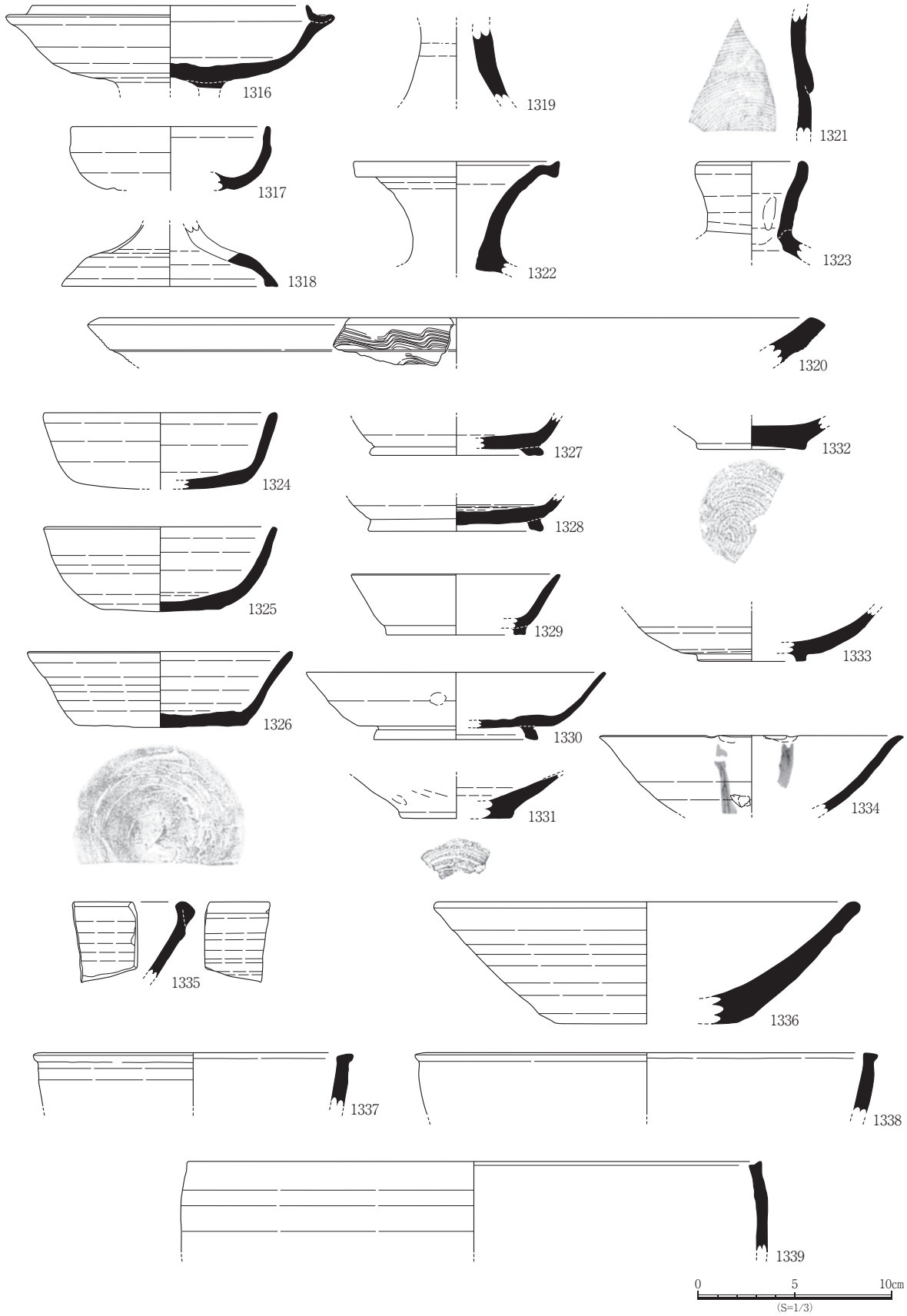


図2－137　包含層出土遺物実測図14（須恵器）

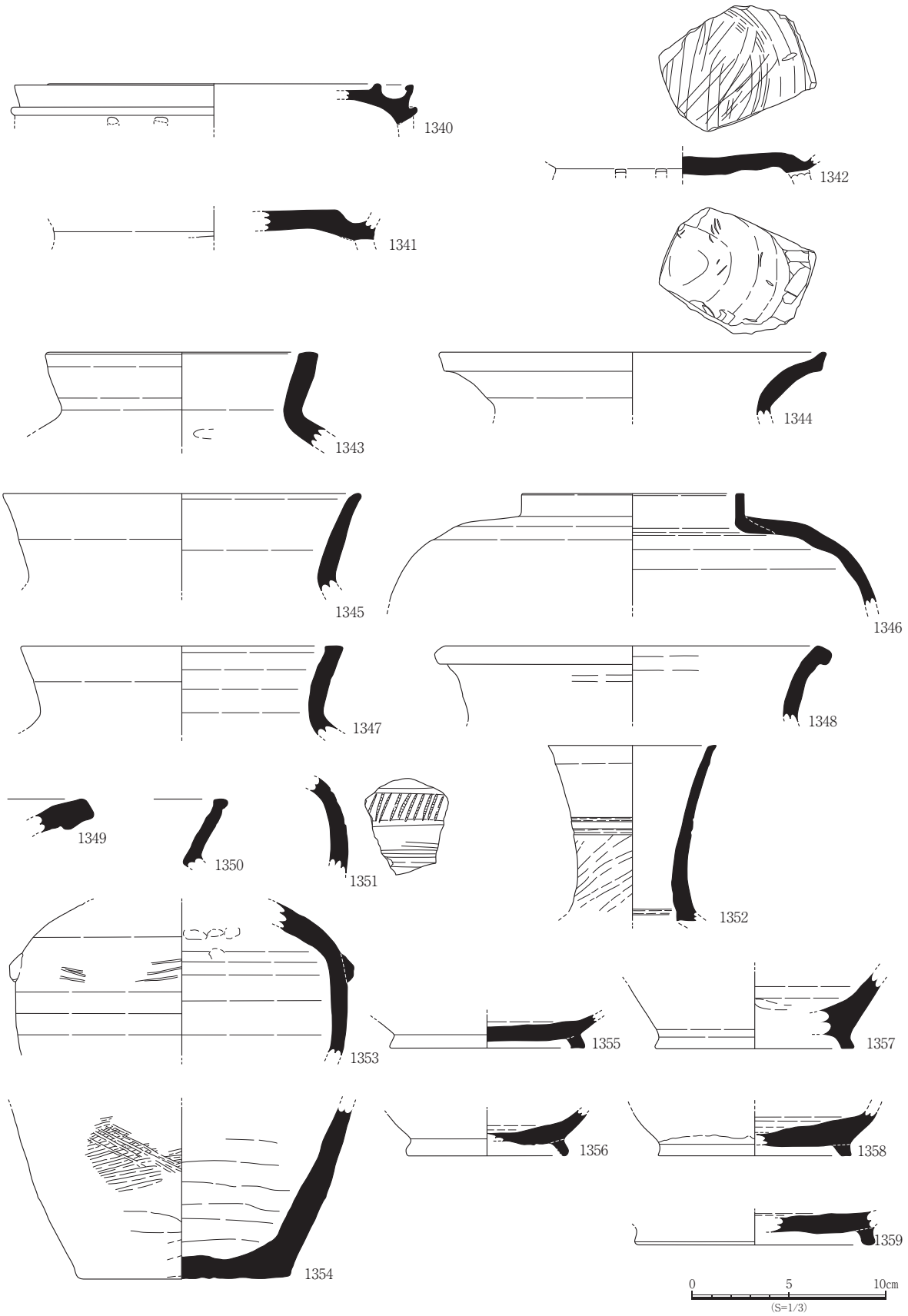


図2－138　包含層出土遺物実測図15（須恵器）

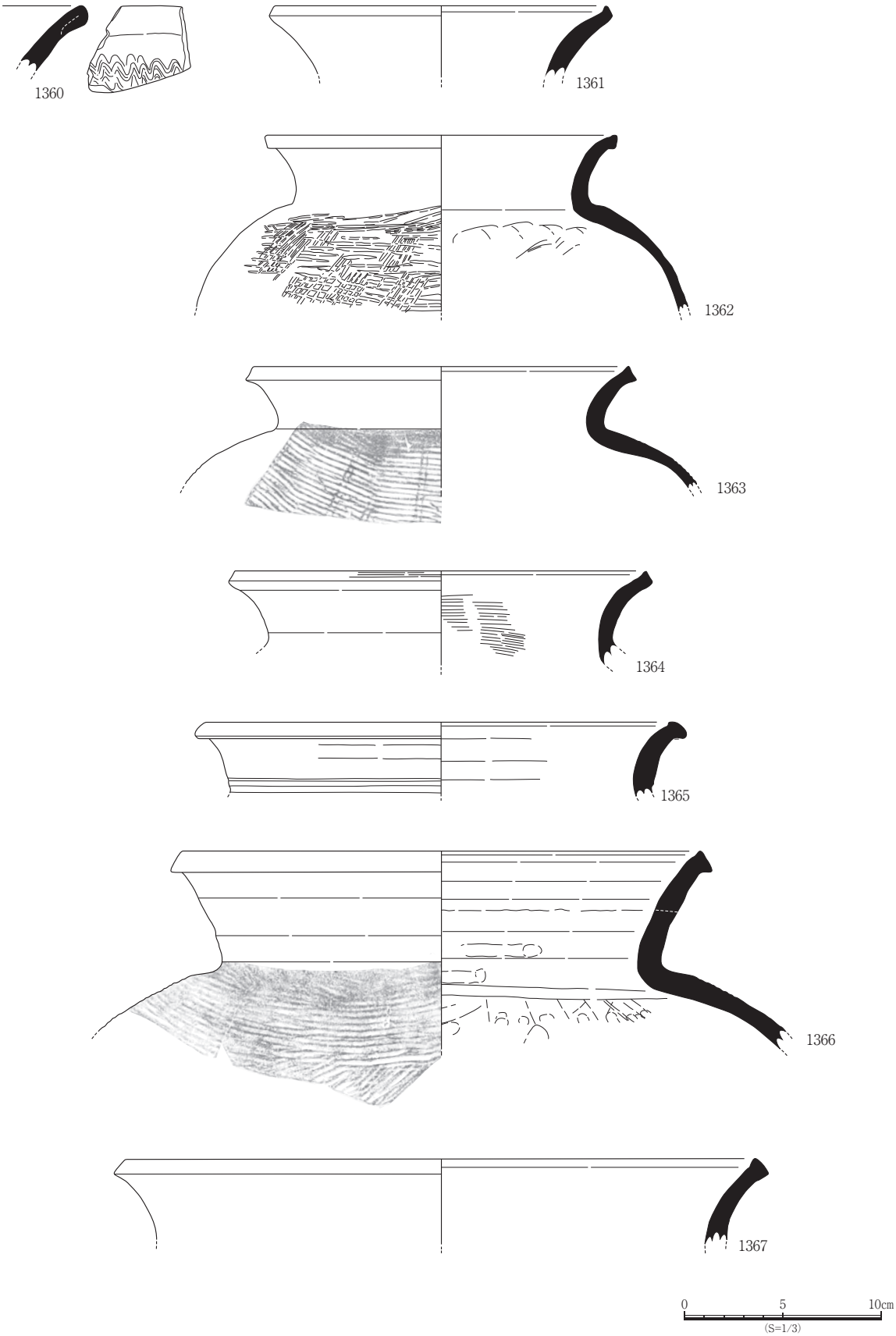


図2－139　包含層出土遺物実測図16（須恵器）

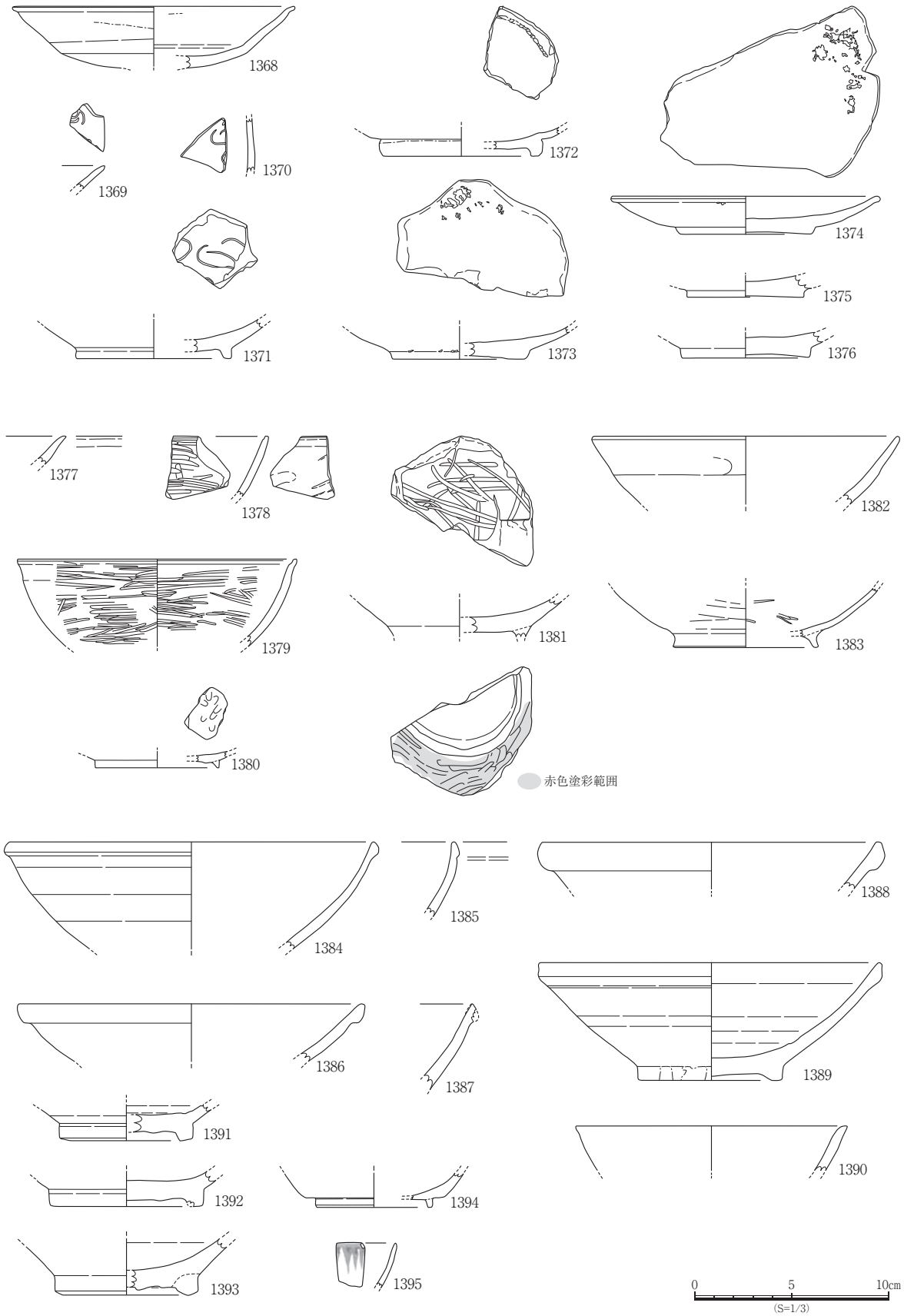


図2－140　包含層出土遺物実測図17（緑釉陶器・黒色土器・瓦器・白磁・磁器）

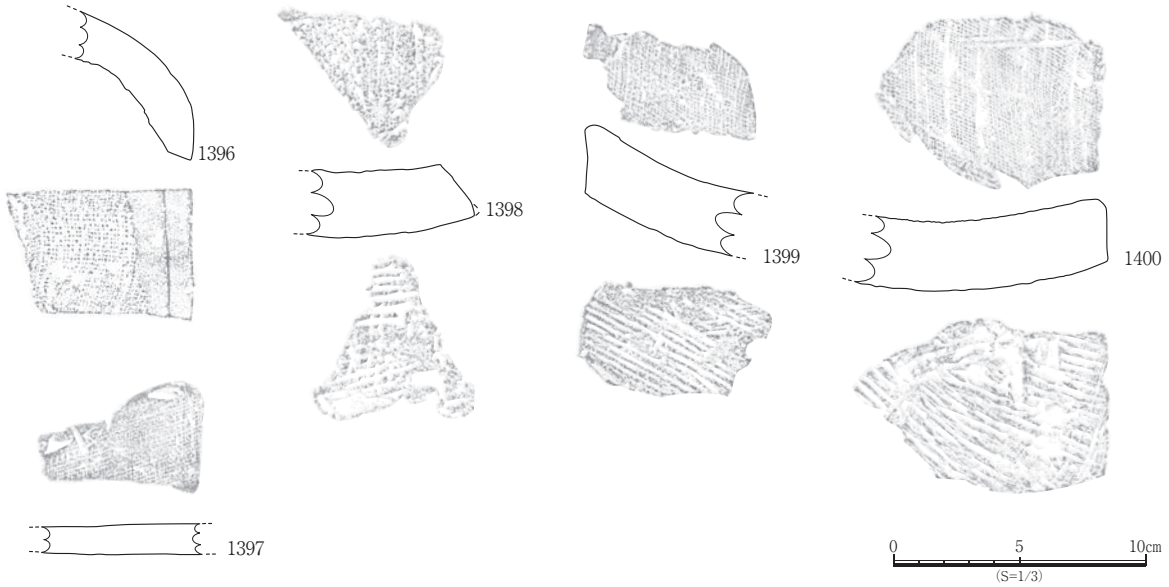


図2－141　包含層出土遺物実測図18（瓦）

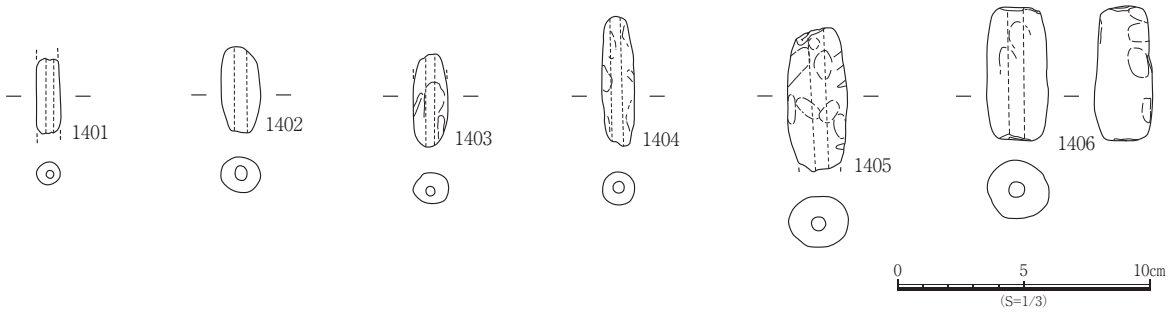


図2－142　包含層出土遺物実測図19（土製品）

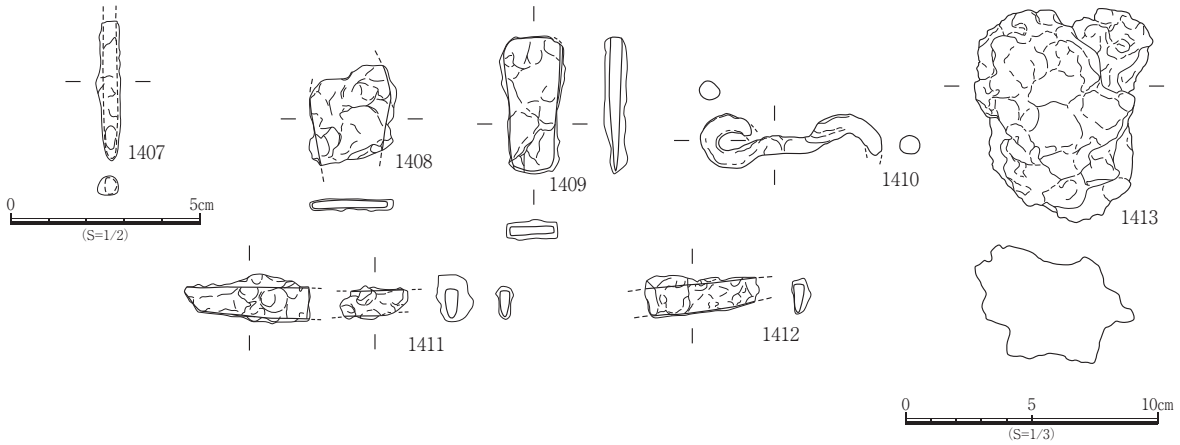


図2－143　包含層出土遺物実測図20（鉄製品）

遺 物 観 察 表

凡例

1. 遺物観察表の法量は、基本的に口径・器高・底径について計測した。法量の内、完形又は復元可能な口径・底径については数値を記載、器高の残存長については( )で記載した。その他、器形により必要なものは直接項目に付け加えた。石製品及び鉄製品については完形・欠損に拘らず全長・全幅・全厚の順にそれぞれ記載した。
2. 色調については『新版標準土色帳』(農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修)に準じた。
3. 胎土については肉眼観察で判別できるものについてのみ記載した。
4. 備考は器種の分類、年代のわかるものについて記載した。
5. 中世の土器・陶磁器の分類については『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編 真陽社1995、貿易陶磁器の分類については『国立歴史民俗博物館資料調査報告書4 日本出土の貿易陶磁器』1993を参照した。
6. 遺構・層位については、原則的に調査時の記録を使用した。不明なものについては包含層出土として報告する。

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1	試掘 TR8	包含層	土師器 椀	－	(3.5)	5.8	橙色 〃 〃	底部と体部の境目がナデにより凹状になる。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
2	試掘 TR9	SK2	弥生土器 甕	15.4	(2.5)	－	浅黄色 〃 灰色	頸部の屈曲から、口縁部は短く直線的に外上方に延びる。端部は面を成す。内面横方向のハケ、外面タタキ。胎土に砂粒・チャート粒を含む。	
3	試掘 TR9	包含層	土師器 杯	13.4	(3.2)	－	にぶい褐色 にぶい黄橙色 にぶい橙色	体部から口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面ロクロ目顕著。	
4	試掘 TR9	SK1	須恵器 蓋	－	(1.9)	－	灰色 〃 灰オリーブ色	内面天井部にロクロ目顕著、口縁部回転ナデ。外面天井部は回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ。	
5	試掘 TR9	包含層	須恵器 椀	－	(2.6)	5.2	灰白色 〃 〃	ハの字に開く断面台形状の高台。内面ミガキ、放射状の鏝当ての痕跡、火襷が見られる。外面高台内に篦状工具による放射状のケズリ、体部回転ナデ。	
6	試掘 TR9	SK1	土製品 土錘	全長 3.2	全幅 1.1	全厚 1.1	－ にぶい橙色 －	管状土錘。中央部に直径 0.4cmの円孔が貫通する。	
7	試掘 TR10	包含層	須恵器 蓋	－	(1.4)	－	灰白色 灰黄色 灰白色	天井部片。内面ナデ、外面回転ナデ。胎土に白色砂礫を含む。小規模な円・裂孔が多く存在する。	
8	試掘 TR10	包含層	土製品 支脚	－	7.1	－	－ 灰色 〃	角状の支部が 2 カ所、把手状の突起が 1 カ所、脚裾部が欠損する。中実。外面に押圧痕が残る。	
9	試掘 TR11	包含層	弥生土器 壺	18.0	(2.3)	－	浅黄橙色 〃 〃	口縁部は外反する。端部は直立する面を成し、外側にやや肥厚する。内外面ともハケの後、口縁端部横方向のナデ。胎土中にチャート粒・赤色斑を含む。	
10	試掘 TR11	包含層	弥生土器 壺か甕	－	(6.0)	－	浅黄橙色 〃 暗灰色	丸味を帯びた胴部から、頸部で緩く屈曲し、口縁部は外反する。内面ナデ、押圧痕が残る。外面頸部縦方向のハケ、胴部上位はハケの後ナデ。	
11	試掘 TR11	包含層	弥生土器 甕	9.0	(2.9)	－	橙色 浅黄橙色 黄灰色	小型の甕形を呈する口縁部片。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は短く直線的に外上方に延びる。端部は面を成す。内外面ともナデ。	
12	試掘 TR11	包含層	土師器 高杯	－	(2.2)	－	にぶい橙色 浅黄橙色 黄灰色	脚部と杯部の接合部に明瞭な段を残す。摩耗著しい。内面ナデ。胎土中にチャート粒・赤色斑を含む。	
13	試掘 TR11	包含層	土師器 甕	29.0	(7.5)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	頸部は緩く屈曲し、口縁部は短く外上方に延びる。端部は凹状を呈す。内面口縁部横方向のナデ、頸部以下ハケ。外面口縁部ナデ、頸部以下は粗い単位のハケ。	
14	試掘 TR12	ST1	弥生土器 壺	16.0	(4.0)	－	にぶい黄橙色 橙色 黄灰色	口縁部は外反し、端部は粘土帯の貼付により肥厚、直立し面を成す。内外面とも粗い単位のハケ、口縁端部は強い横方向のナデ。胎土中にチャート粒を含む。	
15	試掘 TR12	ST1	弥生土器 甕	15.3	(1.9)	－	黒褐色 灰黄褐色 浅黄橙色	口縁部は外反し、端部は面を成す。器壁薄い。内面ハケ、外面指頭圧痕が残る。	
16	試掘 TR12	ST1	弥生土器 甕	15.4	(3.2)	－	灰黄褐色 黄灰色 〃	口縁部は直線的に外上方に延び、端部はやや凹状の面を成す。内面横方向のハケ、外面縦方向のハケ又は篦状工具によるナデ。	
17	試掘 TR12	ST1	弥生土器 甕	16.5	(4.5)	－	にぶい橙色 にぶい黄橙色 褐灰色	口縁部下位はやや直立気味、上位は外反する。端部はナデにより外側へ肥厚し、玉縁状を呈す。内面概ね横方向のハケ。外面縦方向のハケ、口縁端部は横方向のハケ。	
18	試掘 TR12	ST1	弥生土器 甕	－	(6.9)	－	にぶい橙色 にぶい褐色 浅黄橙色	頸部の屈曲は緩やかで、内面に鋭い稜を残す。内面口縁部主に横方向のハケ、胴部縦方向のナデ、接合痕を留める。外面タタキ、口縁部に押圧痕。	
19	試掘 TR12	ST1 SK1	弥生土器 鉢	10.4	(5.7)	－	灰色 暗灰黄色 〃	体部は緩やかに外上方に延び、口縁端部は内傾する面を成す。内面丁寧なナデ、外面口縁部横方向のナデ。器面に煤付着又は炭素吸着か。胎土にチャート粒を含む。	
20	試掘 TR12	ST1 SK1	弥生土器 鉢	12.8	(4.2)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	体部は丸味を帯び、口縁端部は内傾する面を成す。内外面ともハケ・ナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm）			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
21	試掘 TR12	ST1 SK1	弥生土器 鉢	14.0	(5.1)	–	橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	口縁部は斜上方に延び、端部は上方に尖り気味になる。内面粗い単位のハケ又は板状工具によるナデ。外面タタキの後ナデ。	
22	試掘 TR12	ST1	弥生土器 甕か鉢	15.5	(3.1)	–	にぶい黄橙色 黄灰色 黒褐色	口縁部は内湾気味に外上方に延び、端部は面を成す。内面横方向の箆状工具によるナデ。外面口縁部横方向のナデ、他は粗い箆状工具によるナデ。	
23	試掘 TR12	ST1	弥生土器 鉢	19.2	(3.0)	–	にぶい黄橙色 浅黄橙色 褐灰色	体部から口縁部は外上方に延び、端部は僅かに凹状の面を成す。内外面ともナデ。	
24	試掘 TR12	ST1 SK1	弥生土器 鉢	–	(3.7)	4.2	橙色 〃 〃	柱状の小さな平底。指頭により底部端を摘み出す。内面ハケ。外面ナデ、指頭圧痕が残る。	
25	試掘 TR12	ST1 SK1	弥生土器 鉢	–	(2.7)	3.9	黄灰色 にぶい褐色 暗灰黄色	底部はやや小さな平底状で、中央の窪んだ面を成す。体部は直線的に外上方に延びる。内面箆状工具によるナデ。外面ナデ、タール状の煤付着。	
26	試掘 TR12	ST1 SK1	弥生土器 鉢	–	(3.2)	4.0	にぶい黄褐色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	底部は中央の窪んだ小さな平底状。体部は丸味を帯びる。内面細かいハケ。外面タタキの後ナデ、小さな凹凸面を残す。胎土に小礫・チャート粒を含む。	
27	試掘 TR12	ST1	弥生土器 甕	–	(2.6)	3.0	にぶい黄橙色 〃 〃	底部は小さな平底状。外面底部に葉脈状の圧痕が残る。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。	
28	試掘 TR12	ST1	弥生土器 鉢	13.9	(3.9)	–	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	体部は外上方に延び、口縁部は短く外反し、端部は尖る。器壁薄い。	
29	試掘 TR12	ST1	弥生土器 鉢	–	(2.7)	2.5	にぶい橙色 浅黄橙色 黄灰色	底部は貼付底か。粘土の接合痕が残る。内面細かい単位の螺旋状のハケ。外面タタキの後ナデ、押圧痕を残す。	
30	試掘 TR12	ST1	弥生土器 鉢か台付き鉢	14.2	(3.5)	–	明赤褐色 〃 暗灰黄色	体部は直線的で、口縁端部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面口縁部横方向、体部縦方向のミガキ。外面強いナデ後に口縁部横方向のナデ。堅緻で、器壁は赤色。	
31	試掘 TR12	ST1	弥生土器 高杯	–	(3.0)	–	浅黄橙色 にぶい黄橙色 灰白色	杯部は屈曲の後外反する。内面横方向のハケの後中心から放射状の幅広のミガキ、外面縦方向のハケ。胎土は白色系の仕上がりで、砂粒を多く含む。	
32	試掘 TR12	ST1	ミニチュア 土器	6.1	2.0	–	にぶい黄橙色 〃 褐灰色・にぶい黄灰色	丸底状の浅い鉢又は皿状を呈す。内外面とも押圧痕が残る。	
33	試掘 TR12	ST1	土師器 壺	9.8	17.3	2.8	にぶい黄橙色 〃 〃	底部は小さな平底状。口縁部は直線的に外上方に延びる。胴部下位に内から径1.8cmの穿孔（焼成後）。内面ナデ。外面胴部縦方向のミガキ、口縁部横方向のナデ、縦方向のミガキ。	
34	試掘 TR12	ST1	土師器 壺	9.1	(4.5)	–	にぶい黄褐色・橙色 にぶい橙色 黄灰色	口縁部は上方に延び、端部は尖り気味に丸く収める。内面口縁部上位に沈線状の細い凹線が巡る。内外面ともナデ・ミガキ。	
35	試掘 TR12	ST1	土師器 壺	12.7	(10.7)	–	浅黄橙 〃 〃	頸部はくの字状で、口縁部は短く外上方に延びる。内面ナデ、粘土帯接合痕が顕著。外面口縁部横方向のナデ、胴部粗い単位のハケ、胴部上位から口縁部は後にナデ。	
36	試掘 TR12	ST1	弥生土器 鉢	10.1	(4.1)	–	にぶい橙色 〃 〃	体部から口縁部は内湾気味に上方に延び、端部は丸く収める。内面箆状工具によるナデ、外面口縁部横方向のナデ。	
37	試掘 TR12	ST1	弥生土器 台付鉢か	9.9	(1.9)	–	明黄褐色 〃 浅黄色	口縁部は外上方に延び、端部は丸く収める。摩耗著しく調整は不明瞭。	
38	試掘 TR12	包含層	弥生土器 台付鉢か	–	(2.7)	10.6	にぶい橙色 〃 〃	脚部片。裾部は直線的に開き、端部は面を成す。内外面とも赤色顔料が塗布され、丁寧なミガキ。	
39	試掘 TR12	包含層	土師器 羽釜	–	(4.7)	–	橙色 〃 〃	口縁部横に断面隅丸三角形状の鍔が巡る。鍔の下部及び胴部の一部に煤付着。内面横方向のナデ。外面口縁部ナデ、胴部横方向のハケ。	
40	試掘 TR12	ST1	須恵器 蓋	13.9	(1.8)	–	灰黄色 灰白色 灰黄色	内面口縁部に断面三角形の小さなかえりが付く。内外面とも回転ナデ、摩耗著しい。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
41	試掘 TR12	ST1	須恵器 蓋	－	(1.6)	－	灰色 オリーブ灰色 灰色	摘みの基部は抉れ、上位へ直線的に延び、稜を持つ。頂部は比較的平らで中央部がやや尖る。内外面ともナデ。胎土に小規模な円・裂孔を有す。	
42	試掘 TR14	SK2・3	土師器 杯	12.8	(2.5)	－	浅黄色 淡黄色 暗灰色	口縁部は僅かに肥厚し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ調整。	
43	試掘 TR14	SK1	土師器 壺	－	(8.5)	7.0	黄灰色 橙色 〃	平底状の底部。底部中央部は凹状を呈する。内面縦方向のナデ、押圧痕が残る。外面縦方向の丁寧なミガキ。	
44	試掘 TR14	包含層	土師器 杯	－	(2.2)	7.2	灰白色 〃 〃	底部端はやや丸味を帯びる。内外面とも回転ナデ。内面見込みの一部にタール状の煤付着。底部切り離しは回転糸切り。	
45	試掘 TR14	SK2・3	須恵器 杯身	－	(1.7)	7.2	にぶい橙色 にぶい褐色 褐灰色	丸味を持った底部から体部は外上方に延びる。内面回転ナデ、外面ナデ。外面底部に火襷様の黒変。胎土中に白色砂粒、赤色斑を含む。底部切り離しはヘラ切り。	
46	試掘 TR14	SK4	平瓦	全長 10.2	全幅 5.9	全厚 2.0	橙色 にぶい黄橙色 橙色	凹面は布目圧痕、凸面は丁寧なナデ。	
47	A 区	ST2001	弥生土器 壺	14.6	(1.6)	－	にぶい橙色 橙色 黄灰色	口縁部は外反する。端部は外側に肥厚し、面を成す。端部には２条の篦描きによる擬凹線が施される。内面横方向のナデ、外面ハケの後横方向のナデ。	
48	A 区	ST2001	弥生土器 甕	－	(4.0)	5.6	にぶい黄橙色 〃 〃	平底状を呈する底部片。内面ナデ、押圧痕を残す。外面ナデ。	
49	A 区	ST2001	弥生土器 鉢	12.4	(4.2)	－	にぶい橙色 にぶい橙色・明黄褐色 褐灰色	内面粗い単位のハケ、外面タタキの後ナデ。	
50	J 区	ST2001	弥生土器 鉢	－	(2.5)	4.6	にぶい褐色 橙色 浅黄橙色	底部は平底状。底部から体部は丸味を持って外反する。内面ナデ。外面タタキの後ナデ、浅い凹凸面を残す。	
51	A 区	ST2001	弥生土器 鉢	26.8	(8.5)	－	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色 にぶい黄橙色	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。端部は丸く収める。内面ヘラナデ。外面ハケ、口縁部ナデ。	
52	J 区	ST2001	土師器 甑	－	(4.7)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	把手部。基部は横断面楕円形状で、端部は丸味を持つが尖る。器面は浅い押圧痕、一部にハケの痕跡が残る。煤付着。	
53	J 区	ST2001	弥生土器 甕	14.0	(4.9)	－	にぶい褐色 橙色 灰黄色	頸部から口縁部は連続的に外反する。端部は丸く収め、外側にやや肥厚する。	
54	J 区	ST2001 カマド	弥生土器 甕	19.4	(5.7)	－	灰黄褐色 にぶい黄褐色 〃	頸部から口縁部は外反する。端部は丸く収め、外側にやや肥厚する。	
55	A 区	ST2001	弥生土器 甕	14.6	(12.8)	－	にぶい橙色 橙色 にぶい橙色	胴部は丸味を帯び、頸部で屈曲の後、口縁部は短く外反する。端部は丸く収める。内面ケズリの後ナデ。外面ハケ、口縁部横方向のナデ。	
56	J 区	ST2001	土師器 甕	17.2	(3.0)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。内面口縁部横方向のナデ。外面口縁部横方向のナデ、頸部縦方向の粗いハケ。	6c 後～ 7c 初
57	J 区	ST2001	土師器 甕	15.4	(4.7)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	頸部は短く上方に延び、口縁部は外反する。端部は丸味を帯びた面を成す。内面ナデ、口縁部は横方向のナデ。外面短い縦・横方向のハケ、口縁部は横方向のナデ。	6c 後～ 7c 初
58	J 区	ST2001	土師器 甕	16.2	(3.8)	－	にぶい黄橙色 〃 明黄褐色	口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。内面口縁部横方向のナデ。外面口縁部横方向のナデ、頸部縦方向のハケの後横方向のナデ。	
59	J 区	ST2001 (P5)	土師器 甕	15.6	(6.1)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	頸部から口縁部は短く緩く外反し、端部は丸く収める。内面口縁部ハケの後横方向のナデ。外面口縁部横方向のナデ、胴部上位はハケの後ナデ。	
60	J 区	ST2001	土師器 甕	14.7	(10.5)	－	橙色 〃 にぶい橙色	頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は外反する。端部は丸く収め、一部は外側に肥厚する。摩耗著しく調整は不明瞭だが、外面に僅かにハケ目が残る。	6c 後～ 7c 初

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
61	J 区	ST2001	土師器 甕	20.0	(10.5)	–	にぶい橙色 にぶい褐色 にぶい黄色	頸部は緩やかに屈曲する。口縁端部は緩やかに屈曲し、外下方に肥厚し丸く収める。摩耗著しく調整は不明瞭だが、内面に粗い単位のハケ目が残る。	6c 後～ 7c 初
62	J 区	ST2001	土師器 甕	17.6	(9.2)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	頸部はやや上方に延び、口縁部は短く外反する。端部は丸く収める。内面ナデ。外面胴部ハケ、口縁部横方向のナデ。	6c 後～ 7c 初
63	J 区	ST2001	土師器 甕	23.7	(15.6)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	頸部は直立し、口縁部は短く外反する。口縁端部は丸く収める。内面ケズリ・ナデ。外面口縁部・頸部は横方向のナデ、胴部は短いストロークのハケ。	6c 後～ 7c 初
64	J 区	ST2001	土師器 杯	18.4	(3.8)	–	褐色 灰褐色 にぶい黄橙色	口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。内面口縁部に沈線状の段が巡る。内外面ともミガキ、スリップ（朱泥）を塗布する。内面に火襷風の煤の重なりが見られる。	
65	A 区	ST2001	須恵器 杯蓋	12.2	(4.6)	–	灰色 〃 赤灰色	内面口縁部ナデ、ロクロ目を残す。外面口縁部にナデ、天井部（中位以上）に回転ケズリの後ナデ、頂部には灰が付着する。	
66	J 区	ST2001	須恵器 杯蓋	14.3	4.1	–	灰白色 〃 〃	口縁部は短く直立し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面天井部はロクロ目顕著。	6c 後半
67	A 区	ST2001	須恵器 杯身	11.0	(3.4)	–	灰白色 灰色 灰白色	体部から口縁部は内湾し、受け部は外側へ短く付く。かえりは直線的に内傾する。内外面とも回転ナデ、外面下位はケズリ。受け部径 13.4cm	
68	A 区	ST2001	須恵器 杯身	12.0	(3.6)	–	灰白色 〃 灰色	体部は内湾の後外反し受け部となる。かえりは短く内傾する。内外面とも回転ナデ。受け部径 14.6cm	
69	A 区	ST2001	須恵器 杯身	12.2	(2.2)	–	灰色 〃 〃	体部から受け部は直線的に延び、かえりは短く内傾する。受け部端が押圧により変形する。内外面とも回転ナデ。受け部径 14.5cm	
70	A 区	ST2001	須恵器 杯身	13.0	(2.6)	–	にぶい褐色 〃 黄灰色	体部から受け部は直線的に延び、端部は丸く収める。かえりは短く内傾する。器面が酸化のため褐色を帯びる。内外面とも回転ナデ。受け部径 15.6cm	
71	A 区	ST2001	須恵器 杯身	14.2	(2.8)	–	灰色 〃 〃	口縁部は緩く外反する。端部は太く丸く収める。かえりは内傾し、内面体部口縁部との境は凹状になる。内外面とも回転ナデ。蓋の可能性あり。受け部径 16.8cm	
72	J 区	ST2001	須恵器 杯	–	(1.5)	8.0	暗灰黄色 灰色 黄灰色	断面逆台形状の高台が付く。底部端から体部へ直線的に外反する。内外面とも回転ナデ。高台の接合部はナデ、高台内の一部は接合痕が顕著。	8c 前後
73	A 区	ST2002	弥生土器 壺	12.6	(12.9)	–	にぶい黄橙色・黄灰色 にぶい黄橙色 黄灰色	口縁部は緩く外反し、端部は内傾する面を成す。外面頸部に 9 条の篦描沈線が巡る。	
74	A 区	ST2002	弥生土器 壺	–	(6.3)	–	褐灰色 灰色 にぶい黄橙色	胴部上下に 7 ～ 8 条以上の櫛描直線文、縦方向の 2 条 1 単位の双線を交互に配する。	
75	A 区	ST2002	弥生土器 甕	17.0	(10.6)	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	頸部から口縁部は外反し、端部は丸く収める。内面口縁部はナデ、胴部はケズリ。外面口縁部はナデ、胴部はハケ。	
76	A 区	ST2002	弥生土器 鉢	15.4	6.3	–	橙色 〃 灰黄色	底部は丸底状。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。	
77	A 区	ST2002	弥生土器 鉢	8.4	(6.5)	1.4	淡黄色 にぶい黄橙色 淡黄色	底部は小さな平底状。体部から口縁部は外反し、端部は尖り気味に仕上げる。内面下から上のナデ、口縁部横方向のナデ。外面タタキの後ナデ。	
78	A 区	ST2002	土師器 甕	26.0	(3.4)	–	にぶい黄橙色 〃 褐色	口縁部は外上方へ延びる。端部は粘土の貼付により上方に立ち上がる。	
79	A 区	ST2002	須恵器 杯身	12.8	(3.8)	7.8	灰白色 〃 〃	体部は丸味を帯びる。受け部は緩く短く外側へ張り出す。かえりは内傾して内上方に延びる。受け部径 15.0cm	
80	A 区	ST2002	石製品 石包丁	全長 7.3	全幅 4.8	全厚 1.4	–	刃部は直線的で使用により摩滅する。側縁は打ち欠くが、僅かに窪む程度。緑色片岩製。重量 71.0g	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
81	A 区	ST2002	石製品 石包丁	全長 7.0	全幅 3.4	全厚 1.3	–	平面形は長方形状。刃部は直線的で使用により摩滅。側縁は双方中央を打ち欠き、弱く湾曲する。重量 45.0g	
82	A 区	ST2003	弥生土器 壺	11.8	(7.7)	–	橙色 〃 〃	口縁部はやや外反する。内外面とも粗い単位のハケの後ナデ・ミガキ。	
83	A 区	ST2003	弥生土器 壺	–	(4.2)	–	灰白色 〃 灰色	底部は欠く。丸底状か。胴部は内湾する。鉢の可能性あり。	
84	B 区	ST2003	弥生土器 壺	15.4	(8.3)	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 黄灰色	口縁端部に内傾する口縁部が付加される複合口縁壺。外面頸部に粗い単位のハケ。	
85	A 区	ST2003	弥生土器 壺	–	(3.4)	6.4	橙色 にぶい黄橙色 〃	平底状を呈する底部。底部端は短く外反し、胴部は直線的に立ち上がる。内外面ともナデ。	
86	A 区	ST2003	弥生土器 壺	–	(3.1)	6.7	オリーブ黒色・にぶい黄色 灰色 黄灰色	底部は平底状。内面ハケの後ナデ。外面ナデ、押圧痕が残る。	
87	A 区	ST2003	弥生土器 甕	–	(2.1)	–	橙色 〃 〃	口縁部は外反する。端部は太く丸く収め、外側に微かに肥厚する。	
88	A 区	ST2003	弥生土器 甕	–	(2.8)	–	にぶい黄橙色 明黄褐色 にぶい黄橙色	口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。内面ナデ、頸部に粗いハケ目が残る。外面ハケの後ナデ、口縁部は横方向のナデが顕著。	
89	A 区	ST2003	弥生土器 壺	–	(7.7)	–	橙色 〃 〃	内面ナデ、一部に煤付着。外面ナデ、胴部ではハケが卓越する。	
90	A 区	ST2003	土師器 壺	–	(7.1)	–	橙色 〃 〃	肩部から胴部にかけて大きく張り出す球形の体部。内外面ともナデ・ミガキ。	
91	A 区	ST2003	弥生土器 甕	10.6	(9.4)	–	にぶい黄橙色 浅黄橙色 灰色	胴部は内湾する。頸部から口縁部は緩く外反し、端部は細く丸く収める。	
92	A 区	ST2003	弥生土器 甕	17.4	(6.1)	–	橙色 〃 にぶい黄橙色	頸部から口縁部は外反して立ち上がる。端部は太く丸く収め、一部で外側に肥厚する。内面ナデ、胴部の一部にケズリ。外面ハケの後ナデ、胴部はハケが卓越する。	
93	B 区	ST2003	弥生土器 甕	16.0	(8.0)	–	橙色 〃 黄灰色	口縁端部は外反し、丸く収める。内面頸部に接合痕が残る。内面ヘラケズリ・ナデ、外面ハケ・ナデ。	
94	A 区	ST2003	弥生土器 甕	13.6	(5.7)	–	浅黄色 にぶい黄橙色 黄灰色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は緩く外反する。外面タタキの後ハケ、口縁部ナデ。	
95	B 区	ST2003	弥生土器 甕	18.3	(8.3)	–	橙色 〃 黄橙色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は短く外反する。内面口縁部は横方向のナデ、頸部以下はケズリ及びナデ。外面口縁部は横方向のナデ、頸部以下はハケ。	
96	A 区	ST2003	弥生土器 甕	21.7	(3.6)	–	明赤褐色 橙色 〃	口縁端部は外方に延び、丸く収める。内面ハケの後ナデ。接合痕を残す。外面ナデ、一部に篦状工具によるナデ、口縁端部には押圧痕、横方向のナデ。	
97	B 区	ST2003	弥生土器 甕	–	(19.3)	–	にぶい黄橙色・明赤褐色 にぶい褐色 にぶい黄橙色	胴部は球形に近い。内面はナデ。外面胴部上位はタタキ、下位はタタキの後ナデ。	
98	A 区	ST2003	弥生土器 甕	–	(13.8)	–	黄灰色 黒褐色・にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	胴部片。内面細かい単位のハケの後ナデ。外面タタキの後ヘラナデ。強いナデにより砂粒が動く。	
99	A 区	ST2003	弥生土器 甕か	–	(7.7)	–	明赤褐色 にぶい褐色 にぶい橙色	底部は丸底状。体部は球形状を呈す。器壁は内面からのケズリにより薄い。内面底部はナデ・押圧痕が残る。外面丁寧なハケ。	
100	A 区	ST2003	弥生土器 甕	–	(5.6)	–	橙色 浅黄橙色 〃	小型の甕。胴部は内湾する。内面ナデ、外面タタキ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
101	A 区	ST2003	弥生土器 甕	–	(5.6)	–	にぶい黄橙色 にぶい褐色 灰色	底部は尖り気味の丸底状。底から胴部は内湾して立ち上がる。内面ナデ、外面タタキの後篦状工具によるナデ。	
102	A 区	ST2003	弥生土器 甕	–	(2.0)	5.8	浅黄橙色 〃 黄灰色	底部は粘土が盛り上がった平底。胴部は緩く内湾して大きく開く。内面ナデ、外面タタキ。	
103	B 区	ST2003	弥生土器 甕か	–	(4.3)	6.7	浅黄色 橙色 黄灰色	平底状を呈する底部片。外面縦方向のハケ。摩耗著しい。	
104	A 区	ST2003	弥生土器 甕	18.1	(12.5)	–	明赤褐色 〃 橙色	口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。内面胴部は縦・斜方向のケズリ、口縁部は横方向のナデ。外面胴部はハケ、口縁部は丁寧なナデ。	
105	A 区	ST2003	弥生土器 甕	16.0	(15.7)	–	にぶい橙色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	口縁部は直線的に短く立ち上がる。端部は細く、外側にやや肥厚。内面口縁部横方向のナデ、胴部ケズリ。外面粗いハケ、口縁部横方向の強いナデ。	
106	A 区	ST2003	弥生土器 甕	17.5	29.0	–	にぶい橙色 灰褐色 浅黄橙色	底部は丸底状。胴部最大径は中位で、口縁部は短く外反する。内面胴部下半はケズリ、上位はナデ、指頭圧痕、口縁部は横方向のハケ。外面胴部ハケ・ナデ、口縁部ナデ。	
107	A 区	ST2003	弥生土器 鉢か	12.2	(3.2)	–	にぶい黄橙色 灰黄褐色 にぶい黄橙色	鍔付きの鉢か。頸部の屈曲から口縁部は短く、直線的に立ち上がる。端部は中央の窪んだ面を成す。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。	
108	A 区	ST2003 (P1)	弥生土器 鉢	–	(4.5)	5.0	浅黄橙色 橙色 浅黄橙色	底部は平底状を呈し、緩い凸面を成す。体部は直線的に立ち上がる。内面ハケ、外面ハケ・ナデ。器面に裂孔が多く見られる。	
109	B 区	ST2003	土師器 甑	24.0	(8.5)	–	明黄褐色 〃 〃	胴部から口縁部は緩やかに外反する。内面ヘラケズリ・ナデ、外面ハケ・ナデ。	
110	B 区	ST2003	土師器 甑	23.0	(6.7)	–	橙色 灰褐色 にぶい黄橙色	口縁部は緩やかに外反する。内面ヘラケズリ・ナデ、外面ハケ・ナデ。	
111	A 区	ST2003	弥生土器 鉢	–	(11.3)	6.0	橙色 にぶい黄橙色 褐灰色	丸味を帯びた体部で、口縁端部は緩く外反する。内面ヘラナデ、底部はヘラミガキ。外面ヘラナデ。	
112	B 区	ST2003	弥生土器 高杯	–	(6.5)	–	橙色 〃 〃	脚部内面に爪による圧痕が残る。外面ハケ。	
113	A 区	ST2003	土師器 甑	26.9	27.2	13.7	橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	筒状の大型甑。口縁部はやや外反し、左右に把手が付く。内面胴部上位はハケ、中位以下はナデ、ケズリ。外面胴部は縦・斜方向のハケ、把手部はナデ、指頭圧痕。	6c 代
114	A 区	ST2003	弥生土器 甑	–	(5.9)	–	橙色 にぶい橙色 橙色	把手は断面不整形で端部は舳先のように先端が上方へ尖る。内面ケズリ、外面粗いハケ。	
115	A 区	ST2003	土師器 把手	–	(3.2)	–	– にぶい黄橙色 灰色	把手の断面は扁平な楕円形状を呈し、端部は丸味を持つが偏心する。	
116	A 区	ST2003	土製品 支脚	–	4.2	6.6	にぶい黄橙色 〃 灰色	外面裾部に篦状工具による縦位の刻みを施す。内面指頭圧痕、外面押圧痕が残る。	
117	A 区	ST2003	土製品 支脚	–	8.1	8.2	褐灰色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	脚部以外欠損する。内面絞り目を残す。外面タタキの後ナデ。	
118	B 区	ST2003	土製品 支脚	–	7.7	–	– にぶい黄橙色 黄灰色	指部以外を欠損する。器面はナデ、指頭圧痕が残る。	
119	A 区	ST2003	土製品 支脚	–	11.6	–	黒色 にぶい黄橙色 黒色	支部は緩く湾曲し、端部は丸味を持つ。器面は粗いナデ、裂孔が顕著で下面に押圧痕が残る。粘土接合痕も明瞭。	
120	A 区	ST2003	須恵器 杯蓋	13.2	(2.9)	–	灰白色 〃 〃	天井部から口縁部は緩く内湾する。端部は丸く収める。内面回転ナデ。外面天井部ケズリ、口縁部ナデ。胎土中に小円孔が多く存在する。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
121	A 区	ST2003	須恵器 杯蓋	13.5	(3.1)	–	灰色 〃 〃	天井部は内湾する。口縁部は直線的で端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面体部はロクロ目顕著。	
122	A 区	ST2003	須恵器 杯蓋	13.4	(2.2)	–	灰黄色 〃 〃	口縁部は内湾する。端部は尖り気味に丸く収める。内外面ともナデ。胎土中に小裂孔と円孔が存在する。	
123	B 区	ST2003	須恵器 杯蓋	13.1	(3.7)	–	灰色 褐灰色 灰白色	内面は強いナデ。外面天井部は回転ヘラケズリ、口縁部にかけて回転ナデ。	
124	B 区	ST2003	須恵器 杯蓋	14.6	(3.5)	–	灰白色 〃 灰黄色	内面は強いナデ。外面天井部は回転ヘラケズリ、口縁部にかけて回転ナデ。	
125	A 区	ST2003	須恵器 杯身	11.6	3.7	6.6	淡黄色 灰白色 〃	体部は丸味を帯びる。受け部は短く外側に張り出し、かえりは内傾する。受け部径 14.2cm	
126	A 区	ST2003	須恵器 杯身	13.3	4.4	5.0	灰白色 〃 〃	受け部の断面は小さい三角形状を呈す。内外面とも回転ナデ。底部は強いナデにより砂粒が動く。受け部径 15.2 cm	6c 後～ 7c 初
127	B 区	ST2003	須恵器 杯身	12.6	(2.4)	–	灰色 〃 〃	口縁部は内傾し、尖り気味に仕上げる。受け部は断面三角形状で、上面は凹状を呈す。受け部径 14.8cm	
128	B 区	ST2003	須恵器 杯身	12.4	4.0	3.8	灰白色 〃 黄灰色	かえりは内傾し、受け部は断面三角形状を呈す。外面底部は回転ナデ。受け部径 14.6cm	
129	A 区	ST2003	須恵器 杯身	12.8	(3.4)	–	灰白色 〃 〃	胎土中に規模のやや大きな裂孔が見られる。内面ナデ。受け部径 14.8cm	
130	A 区	ST2003	須恵器 杯身	14.6	(1.8)	–	灰白色 灰色 〃	口縁部は外反し、受け部は短く外方へ向かう。端部は細く丸く収め、かえりは短く、やや内傾する。胎土中に小円孔が存在する。受け部径 16.4cm	
131	B 区	ST2003	石製品 砥石	全長 15.9	全幅 12.3	全厚 3.1	–	長方体の 2 面を砥石として使用する。頁岩製。重量 1,055.0g	
132	A 区	ST2003	石製品 砥石	全長 5.5	全幅 3.6	全厚 3.6	–	4 面に使用痕が残る。主面には浅い線条が長軸方向に対して斜方向に残る。使用に伴い各々の砥面は抉りこまれる。側面の 1 面には溝状の深い刃研痕が残る。重量 59.0g	
133	A 区	ST2003	土製品 土錘か	全長 5.8	全幅 3.0	全厚 1.6	– 橙色 にぶい黄橙色	平面形は円形状を呈し、断面形は流線型。土錘または土製鏡か。	
134	A 区	ST2003	石製品 叩石か	全長 8.3	全幅 8.1	全厚 3.3	–	平面形は隅丸三角形状。頂部と縁辺に敲打痕と擦痕がみられる。一部に煤付着。砂岩製。重量 288.0g	
135	A 区	ST2004 (P2)	弥生土器 壺	14.4	(7.5)	–	橙色 〃 黄灰色	頸部から口縁部は内湾し、口縁端部は外反する。端部は内傾する面を成し、外方へ肥厚する。内面ハケ。外面ハケ、口縁端部は横方向のナデ、頸部は強い横方向のナデ。	
136	A 区	ST2004 (P1)	弥生土器 甕	15.2	(4.2)	–	浅黄橙色 〃 褐灰色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は緩く外反する。端部は細い面を成す。内面ハケ。外面タタキ、口縁部はナデか。	
137	A 区	ST2004	弥生土器 鉢	14.9	7.0	–	浅黄橙色 〃 〃	底部は丸底状。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ナデ。	
138	A 区	ST2004	弥生土器 鉢	–	(3.8)	3.2	浅黄橙色 橙色 灰色	小型の鉢。底部はやや突出した小さな平底状。体部は丸味を帯びる。内面細かい単位のハケ、外面ナデ。器面に裂孔がみられる。	
139	A 区	ST2004 (P1)	弥生土器 高杯	–	(3.5)	–	橙色 灰白色 〃	杯部は中位に屈曲部（接合部）を持ち、口縁部へ直線的に延びる。内面ハケの後ミガキ、外面ハケ。	
140	B 区	ST2005	弥生土器 壺	23.2	(7.9)	–	にぶい黄橙色 浅黄橙色 灰色	口縁部はラッパ状に外反する。内外面とも頸部から口縁部はハケの後上位は横方向のナデ、口縁端部はナデにより凹状になる。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
141	試掘 TR11	ST2005	弥生土器 壺	14.8	(3.3)	–	浅黄橙色 〃 灰色	口縁部は外反する。口縁端部は面を成し、外側へ肥厚。内面横方向のハケの後ナデ。外面タタキの後縦方向のハケ、口縁端部直下に押圧痕。胎土にチャート粒を含む。	
142	B区	ST2005	弥生土器 壺	14.2	(5.0)	–	浅黄橙色 橙色 浅黄橙色	頸部から口縁部は直線的に外上方に開く。内外面ともハケ、口縁端部は横方向のナデ。	
143	B区	ST2005	弥生土器 壺	16.0	(7.4)	–	にぶい黄橙色 橙色 浅黄橙色・黄灰色	二重口縁状を呈す。摩耗著しいが、内外面ともハケ・ナデ。	
144	B区	ST2005	弥生土器 壺か	–	(14.4)	7.0	灰黄色 にぶい黄橙色 灰色	底部は平底状。内面ナデ、外面底部から胴部にタタキ。	
145	試掘 TR11	ST2005	弥生土器 甕	14.9	(2.0)	–	にぶい黄橙色 〃 灰色	口縁部は外反する。口縁端部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面概ね横方向のハケ。外面ナデ、縦方向の押圧痕が残る。堅緻な胎土。	
146	B区	ST2005	弥生土器 甕	17.2	(4.1)	–	浅黄橙色 〃 灰白色	頸部はくの字状。端部は僅かに上下に拡張し平坦面状。内面口縁部はハケ。外面頸部から口縁部ハケの後横方向のナデ、頸部以下タタキ・ハケの後ナデ。精緻な胎土。	
147	B区	ST2005	弥生土器 甕	12.8	(4.3)	–	浅黄色 〃 暗灰色	口縁部は外上方に開く。内面ハケ、外面タタキ。	
148	B区	ST2005	弥生土器 甕	–	(5.0)	–	にぶい黄橙色 黄灰色 〃	丸底状を呈する底部片。内面ナデ。外面はタタキの後ハケ、底部はタタキ。	
149	B区	ST2005	弥生土器 鉢	13.0	(3.7)	–	にぶい黄橙色 浅黄色 黄灰色	口縁部は上方に延び、端部は平坦な面を成す。器面は丁寧なナデ。	
150	試掘 TR11	ST2005	弥生土器 鉢	15.0	(3.9)	–	灰黄褐色 にぶい黄橙色 灰白色	やや浅く、容量のある鉢。体部は丸味を帯び、口縁端部は内外をなであげることにより中央の窪んだ面を成す。内面箆状工具によるナデ。外面ナデ、細かな凹凸が残る。	
151	B区	ST2005	弥生土器 鉢	13.5	(5.7)	–	にぶい黄褐色 〃 浅黄橙色	口縁端部はナデにより水平な平坦面状を呈す。内面箆状工具によるナデ、外面タタキの後ナデ。器壁厚い。	
152	試掘 TR11	ST2005	弥生土器 鉢	22.7	(5.3)	–	にぶい黄橙色 〃 黒色	口縁部はやや内湾し、端部は狭い面を成す。内外面ともナデ。	
153	B区	ST2005	弥生土器 鉢	–	(3.8)	3.0	橙色 〃 灰色	底部は小さな平底状。内面横方向のハケ、外面ナデ。	
154	試掘 TR11	ST2005	弥生土器 鉢	17.5	6.2	4.1	橙色 〃 –	平底状の底部。底部端は明瞭で、体部から口縁部は外上方に延び、端部は面を成す。内面ハケ・ナデ、外面丁寧なナデ。	
155	B区	ST2005	ミニチュア 土器	6.0	5.6	1.8	にぶい橙色 にぶい黄橙色 オリーブ黒色	甕型を呈す。外面指頭圧痕が顕著。	
156	B区	ST2005	ミニチュア 土器	2.6	4.7	1.7	黄灰色 〃 –	甕型を呈す。手づくね成形。	
157	試掘 TR11	ST2005	土製品 支脚	–	14.2	9.2	灰黄褐色 〃 〃	脚部は中空で、上位に径約 1.0cmの玉状の粘土を詰める。内面押圧痕、絞り目、外面螺旋状に押圧痕が残る。	
158	B区	ST2005	土師器 甕	–	(6.0)	–	にぶい黄褐色 黒褐色 にぶい黄橙色・黄灰色	内外面ともナデ。器壁厚い。	混入か
159	B区	ST2005	石製品 叩石	全長 23.3	全幅 9.7	全厚 6.9	–	長辺の 2 面と短辺 1 面に敲打痕。砂岩製。重量 2076.0g	
160	B区	ST2006	須恵器 杯蓋	13.0	(3.5)	–	灰黄褐色 褐灰色 〃	内面回転ナデ。外面天井部は回転ヘラケズリ、口縁部にかけて回転ナデが施される。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
161	B 区	ST2006	鉄製品 鉄剣	全長 31.6	全幅 3.7	全厚 0.8	–	直径 0.25cmの円孔が穿たれる。重量 200.0g	
162	A 区	ST2007	弥生土器 壺	–	(2.5)	5.2	にぶい褐色 〃 橙色	底部は平底状。内面ナデ、外面ヘラナデ。	
163	A 区	ST2007	弥生土器 甕	15.6	(4.8)	–	淡黄色 浅黄橙色 淡黄色	頸部の屈曲から口縁部は外反し、端部は内傾する面を成す。内面ハケ。外面タタキ、押圧痕が残る。	
164	A 区	ST2007	弥生土器 甕	16.0	(5.8)	–	浅黄橙色 橙色 灰色	頸部の屈曲は緩く、口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は尖り気味に丸く収める。内面細かい単位のハケ、外面タタキ。	
165	A 区	ST2007	弥生土器 甕	12.4	(2.4)	–	にぶい橙色 〃 灰色	頸部の屈曲から口縁部は内湾する。端部は部分的に細い面を成す。内面細かい単位のハケ、外面タタキの後細かい単位のハケ。	
166	A 区	ST2007	弥生土器 鉢	11.0	(4.0)	–	にぶい黄橙色 浅黄橙色 淡黄色	体部は丸味を帯び、口縁端部は丸く収める。内面細かい単位のハケ、外面ナデ。器面に裂孔が多くみられる。	
167	A 区	ST2007	弥生土器 鉢	17.0	(4.0)	–	橙色 〃 淡赤橙色	体部は丸味を帯び、口縁端部は内傾する面を成す。内面ヘラナデ。外面口縁部横方向のナデ、押圧痕が残る。	
168	A 区	ST2007	弥生土器 鉢	–	(1.3)	7.0	浅黄橙色 灰オリーブ色 灰色	底部は粘土貼付状の平底状。外面底部に葉脈状の圧痕が残る。内面細かい単位のハケ、外面タタキが僅かに残る。	
169	A 区	ST2007	弥生土器 鉢	–	(2.4)	4.2	浅黄橙色 〃 黄灰色	底部はやや突出する小さな平底状。内面ヘラナデ、外面ナデ。	
170	A 区	ST2007	弥生土器 鉢	–	(2.3)	4.4	橙色 〃 〃	底部は押しつぶした平底状。内面ハケ、底部はナデ。外面タタキ。	
171	A 区	ST2007	石製品 叩石	全長 10.6	全幅 8.0	全厚 3.4	–	表裏面と両側面、端部は欠損。表裏面に鼠歯状痕。側面は緩い凸面で縁辺に打痕を残す。端部に敲打痕。端部は敲打により、幅のある面になる。泥岩製か。重量 410.0g	
172	A 区	ST2007	石製品 砥石	全長 5.1	全幅 3.8	全厚 3.3	–	3面を使用、1面は自然面、端面は破断。使用面の1面に、斜めのやや深い線条使用痕。他2面に細く浅い線条が不定方向に残る。砂岩又は泥岩製。重量 85.0g	
173	A 区	ST2007	石製品 台石か	全長 18.2	全幅 11.7	全厚 6.1	–	表裏面に滑らかな面が存在する。長軸方向の1辺には敲打による小さな剥離が認められる。重量 2219.0g	
174	K 区	ST2008	弥生土器 壺か	23.5	(6.0)	–	橙色 〃 橙色・黄灰色	口縁部はラッパ状に外反する。口縁端部はナデにより凹状になる。内外面とも丁寧なハケ。	
175	B 区	ST2008	弥生土器 壺	18.7	(2.2)	–	にぶい黄橙色 〃 にぶい黄橙色・灰色	ラッパ状に開く壺の口縁部片。口縁端部は外傾する面を成す。内面横方向のハケ、外面頸部にかけて縦方向のハケ。	
176	K 区	ST2008	弥生土器 壺	–	(2.6)	–	にぶい橙色 〃 にぶい橙色・オリーブ黒色	複合口縁壺。口縁端部は欠損する。内外面ともハケ、指頭圧痕が残る。	
177	K 区	ST2008	弥生土器 壺	–	(4.7)	–	にぶい橙色 〃 にぶい黄橙色	頸部に多重の箆描沈線、2条の扁平刻目突帯が巡る。	
178	K 区	ST2008	弥生土器 壺	–	(6.4)	–	灰黄褐色 〃 〃	口縁部・底部は欠損。内面胴部は接合痕顕著、ナデ、指頭圧痕が残る。外面ナデ・ミガキ、僅かにタタキ。	
179	K 区	ST2008	弥生土器 壺	12.6	(22.7)	–	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	口縁部はくの字状に内傾し、端部は丸く仕上げる。内面ハケ・ナデ。外面タタキ・ハケ。胴径 25.5cm	
180	K 区	ST2008	弥生土器 甕	12.5	16.0	–	にぶい黄橙色 浅黄橙色 灰オリーブ色	口縁端部は短く上方に延びる。内面口縁部はハケにより稜を成す。外面口縁部はタタキ、指頭圧痕、胴部はタタキ。胴径 14.0cm	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
181	K 区	ST2008	弥生土器 甕	15.6	23.6	1.4	灰黄色 にぶい黄橙色 灰褐色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。内面ナデ、外面タタキ。内外面とも指頭圧痕が残る。底部に径1.0 ～ 1.2cm、深さ 1.0cmの不貫通の穿孔あり。胴径 18.6cm	
182	K 区	ST2008	弥生土器 甕	–	(21.1)	–	暗灰黄色 橙色 黄灰色	底部は丸底状。内面ナデ・ハケ。外面胴部上位はタタキ、下位はハケ・タタキ。	
183	K 区	ST2008	弥生土器 甕	15.3	29.2	2.5	明赤褐色 橙色 〃	底部は小さな平底状。口縁部はくの字状に外反する。内面ハケ・ナデ、外面タタキの後部分的にハケ。	
184	K 区	ST2008	弥生土器 甕	16.2	25.9	3.4	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色 黒色	底部は小さな平底状。内面ハケ・ナデ、指頭圧痕が残る。外面タタキ。	
185	K 区	ST2008	弥生土器 甕	20.8	(17.8)	–	にぶい黄橙色 〃 灰色	頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反し、端部は中央部が僅かに凹む平坦な面を成す。内面ハケ・ナデ、指頭圧痕が残る。外面口縁部ハケ、胴部タタキ。胴径 24.0cm	
186	B 区	ST2008	弥生土器 甕	13.3	(3.5)	–	灰白色 浅黄色 黄灰色	口縁端部はナデにより内傾する面を成す。内面粗い単位のハケ、外面ナデ。	
187	K 区	ST2008	弥生土器 甕	16.6	(8.0)	–	にぶい黄橙色 〃 橙色	口縁端部は上方に尖り断面三角形状を呈し、直下に粘土帯が巡る。内面口縁部はハケにより頸部の稜が明瞭。外面タタキ、指頭圧痕が残る。	
188	K 区	ST2008	弥生土器 甕	16.5	(8.0)	–	にぶい黄橙色 浅黄色 浅黄橙色	口縁部はくの字状に外反し、端部は平坦な面を成す。内面ナデ、外面タタキ。	
189	K 区	ST2008	弥生土器 甕	13.2	(5.2)	–	にぶい黄色 にぶい黄橙色 灰色	口縁部はくの字状に外反する。端部は平坦面を呈し、微かに 2 条の凹線状の窪みが巡る。内外面ともハケ。	
190	K 区	ST2008	土師器 甕	12.2	(7.0)	–	浅黄橙色 〃 灰オリーブ色	口縁部はやや内湾し、端部は上方に延びる。一部棒状工具により凹状になる。内面ナデ、外面ハケ・ナデ。	
191	K 区	ST2008	弥生土器 壺か甕	–	(5.3)	13.4	橙色 〃 〃	平底状の底部片。内面横方向の指ナデ、外面ハケ。摩滅著しい。	
192	K 区	ST2008	弥生土器 壺か甕	–	(4.0)	4.7	にぶい黄橙色 灰黄褐色 黒色	壺か甕の底部。平底状を呈す。内面ナデ、指頭圧痕が残る。外面タタキ。	
193	K 区	ST2008	弥生土器 壺か	–	(2.3)	5.1	にぶい赤褐色 にぶい黄橙色 〃	外面底部は凹状を呈し、繊維状の圧痕が残る。内外面ともナデ。	
194	K 区	ST2008	弥生土器 甕	–	(4.5)	–	橙色 にぶい黄橙色 灰色	丸底状の底部に植物の種実が圧着する。内面ハケ、指頭圧痕。外面ハケ・ナデ。	
195	K 区	ST2008	弥生土器 壺か甕	–	(3.5)	3.4	にぶい黄橙色 〃 灰色	底部は小さな平底状。内外面ともナデ。	
196	B 区	ST2008 (P2)	弥生土器 壺か	–	(4.9)	4.6	にぶい黄橙色 浅黄橙色 灰色	底部は小さな平底状。内面ハケ、底部に指頭圧痕が残る。外面タタキの後粗い単位のハケ。	
197	K 区	ST2008	土師器 甑	32.0	(8.9)	–	にぶい橙色 〃 橙色	口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。内面横・斜方向のケズリ、外面ハケ。	6c 後
198	K 区	ST2008	弥生土器 鉢	13.2	4.0	–	明黄褐色 橙色・暗灰黄色 灰色	丸底状の底部。内面ハケ、外面指頭圧痕が残る。	
199	K 区	ST2008	弥生土器 鉢	12.4	4.4	–	橙色 〃 黄灰色	底部は丸底状。内面ハケ。外面タタキ、指頭圧痕が残る。	
200	K 区	ST2008 (SK2)	弥生土器 鉢	12.3	4.5	5.9	橙色 〃 灰色	口縁端部は横方向のナデにより内傾する面を成す。内面細かい単位のハケ、底部はナデ。外面タタキ・ナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
201	K区	ST2008 （SK2）	弥生土器 鉢	12.6	4.2	－	にぶい黄橙色 橙色 暗灰黄色	底部は丸底状。口縁部は外上方に開き、口縁端部内面はナデにより稜線状になる。内面ハケ。外面タタキ、押圧痕が残る。	
202	K区	ST2008 （SK1）	弥生土器 鉢	12.3	5.0	－	橙色 〃 〃	底部は丸底状。外面口縁部に部分的に粘土帯を貼付し、僅かに肥厚する。内面細かい単位のハケ、外面タタキの後丁寧なナデ。	
203	K区	ST2008	弥生土器 鉢	14.2	（4.1）	－	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色	口縁端部は上方に延びる。内面ハケ、外面ナデと指頭圧痕が残る。	
204	B区	ST2008	弥生土器 鉢	13.4	（3.5）	－	橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色・灰色	口縁端部は内傾する平坦面状を呈し、内側に僅かに肥厚する。内面ハケ、外面ナデ。	
205	B区	ST2008	弥生土器 鉢	14.6	（5.0）	－	橙色 〃 橙色・黄灰色	外面口縁部は横方向のナデにより凹状になる。内面ハケ。外面ナデ、指頭圧痕が残る。	
206	K区	ST2008	弥生土器 鉢	14.8	（4.9）	－	にぶい橙色 橙色 にぶい黄橙色	口縁端部はナデにより凹状を呈す。内面粗い単位のハケ。外面ナデ、指頭圧痕が残る。	
207	B区	ST2008	弥生土器 鉢	12.4	7.3	4.0	黄灰色 浅黄橙色 黄灰色	底部は小さな平底状。内面ハケ、底部はナデ。外面タタキ、口縁部ナデ、粘土紐の接合部に亀裂。	
208	K区	ST2008	弥生土器 鉢	14.5	8.3	－	橙色 〃 〃	底部は丸底状。口縁端部は強いナデにより外側に僅かに肥厚する。内面ハケ、外面タタキをナデ消す。	
209	K区	ST2008	弥生土器 鉢	15.5	8.8	2.8	橙色 〃 明黄褐色	底部は僅かに突出する。内面ハケ・ナデ、外面タタキ・ナデ。	
210	K区	ST2008	弥生土器 鉢	15.6	6.6	4.4	浅黄色 〃 －	底部は僅かに突出する。口縁端部は僅かに凹状を呈する面を成す。内面ハケ、外面タタキ。	
211	K区	ST2008 （SK2）	弥生土器 鉢	18.9	6.6	－	橙色 明赤褐色 暗灰黄色	底部は丸底状。口縁端部はナデにより凹状になる。内面細かい単位のハケ。外面タタキ、指頭圧痕が残る。外面底部はナデ。	
212	K区	ST2008	弥生土器 鉢	19.2	（4.9）	－	橙色 浅黄橙色・灰黄色黄灰色	口縁部は上方にへ延び、端部は水平な面をなす。内部に赤色顔料が塗布される。内面ハケ、口縁部は横方向のナデ。外面タタキ・ナデ。	
213	K区	ST2008 （SK2）	弥生土器 鉢	17.8	9.0	－	にぶい黄褐色 〃 〃	底部は丸底状。口縁端部は強いナデにより外方に僅かに肥厚する。内面ハケ、外面タタキ。	
214	B区	ST2008	弥生土器 鉢	20.0	9.2	－	浅黄橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	底部は丸底状。口縁部はやや外反し、端部は尖り気味に仕上げる。内面口縁部は横方向のハケ、上位はナデ、中位以下はヘラミガキ。外面上位タタキ、下位ハケの後ナデ。	
215	K区	ST2008	弥生土器 鉢	13.2	10.4	3.2	明赤褐色 橙色 褐灰色	底部は小さな平底状。口縁部は上方に伸び、端部は水平な平坦面をなす。内面ハケ、外面ナデ・ハケ。	
216	K区	ST2008	弥生土器 鉢	19.2	（6.4）	－	にぶい橙色 オリーブ黒色 暗灰黄色・にぶい橙色	口縁部は緩やかに外反し、丸く納める。内面ハケ、外面タタキ・ハケ。器壁厚い。	
217	B区	ST2008	ミニチュア 土器	7.5	（1.7）	－	にぶい黄橙色 〃 〃	手づくね成形。内外面ともナデ、指頭圧痕が残る。	
218	K区	ST2008	土師器 鉢	12.0	（5.7）	－	浅黄色 にぶい黄色 〃	底部から口縁部は緩やかに外上方に延び、端部は丸く収める。内面ハケ、口縁部横方向のナデ。外面ハケ・ナデ。	
219	K区	ST2008	土師器 鉢	12.2	（2.2）	－	明黄褐色 にぶい黄橙色 黄灰色	口縁部は直線状に外上方に開き、端部は平坦な面を成す。内面ハケ、外面指頭圧痕が残る。	
220	K区	ST2008	弥生土器 高杯	－	（2.2）	14.0	橙色 〃 灰オリーブ色	裾部は内外面ともハケが施される。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
221	K 区	ST2008	土製品 支脚	–	6.5	–	にぶい黄褐色 〃 灰色	指部を有するとみられる。表面ナデ、指頭圧痕が残る。指部及び脚部を欠損する。	
222	K 区	ST2008	土製品 支脚	–	7.8	–	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	受け部・脚部欠損。中実。表面指頭圧痕が残る。	
223	K 区	ST2008	須恵器 杯蓋	12.5	(2.0)	–	灰色 〃 〃	天井部欠損。内外面とも回転ナデ。内面口縁端部に明瞭な段を有する。	
224	K 区	ST2008	須恵器 杯	14.2	(2.8)	–	にぶい褐色 〃 褐灰色	口縁下部が肥厚する。内外面とも回転ナデ。	
225	K 区	ST2008	須恵器 瓶か壺	–	(1.0)	–	灰色 黄灰色 灰褐色	底部片。内面ナデ、目跡状を呈する小礫またはその抜けた痕跡が残る。	
226	K 区	ST2008	石製品 砥石	全長 7.0	全幅 6.2	全厚 1.7	–	扁平な面の 1 面を砥石として使用する。重量 104.0g	
227	K 区	ST2008	石製品 叩石	全長 9.2	全幅 6.3	全厚 5.6	–	自然石の先端及び周縁に使用痕が残る。重量 360.0g	
228	A 区	ST2009	弥生土器 壺	14.4	(6.3)	–	明黄褐色 浅黄橙色 灰色	頸部から口縁部は連続的に外反する。端部は面を成し、外側に肥厚する。内面ナデ。外面口縁部はナデ、胴部は縦方向のハケか。	
229	A 区	ST2009	弥生土器 壺	14.6	(3.2)	–	橙色 〃 にぶい黄橙色	口縁部は外反し肥厚する。端部に凹線文を施し、4 カ所の篦状工具の端を用いた刻みを配する。外面ハケの後ヘラナデ。	
230	A 区	ST2009	弥生土器 壺	–	(3.5)	–	橙色 〃 灰色	口縁部は外反し、端部で粘土貼付により肥厚する。垂直な端面には円形の刺突文（竹管か）が施される。	
231	A 区	ST2009	弥生土器 壺	–	(4.3)	8.8	橙色 〃 〃	底部は平底状。底部端は明瞭で、胴部は直線的に外上方に延びる。内面ケズリの後ナデ、外面ハケ。	
232	A 区	ST2009 (P5)	弥生土器 壺	–	(4.5)	5.8	明赤褐色 〃 にぶい褐色	底部は平底状。底部端は明瞭で、胴部は直線的に外上方に延びる。内面ナデ、外面粗いハケ。	
233	A 区	ST2009	弥生土器 甕	16.4	(3.4) (6.9)	–	橙色 〃 明黄褐色	口縁部は外反し、端部は外傾する面を成す。内面胴部ヘラナデ、強いナデにより砂粒が上位に動く。口縁部横方向のハケ。外面ハケ、口縁部は横方向のナデ。	
234	A 区	ST2009	弥生土器 甕	23.6	(3.2)	–	橙色 〃 〃	頸部の屈曲から口縁部は短く立ち上がる。端部は面を成し、外側に肥厚する。内外面ともナデ。外面に煤付着。	
235	A 区	ST2009	弥生土器 甕	15.6	(6.4)	–	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。端部は外傾する面を成し、ナデにより凹状となる。摩耗著しく調整は不明瞭。	
236	A 区	ST2009	弥生土器 甕	14.6	(5.0)	–	橙色 〃 灰色	頸部から口縁部は連続的に外反する。端部は広い面を成し、外側に肥厚する。口縁端部に 1 条以上の凹線を施す。内面ナデ、外面縦方向のハケ。	
237	A 区	ST2009	弥生土器 甕	10.6	(4.5)	–	灰色・にぶい黄色 浅黄橙色・にぶい黄橙色 黄灰色	口縁部はやや内湾し、短く外上方に開く。内面ナデ。外面頸部以下はタタキの後ナデ、頸部・口縁部ナデ。	
238	A 区	ST2009	弥生土器 甕	–	(8.7)	4.8	にぶい橙色 〃 灰黄褐色	底部は狭く緩い凸面状を呈す。内面ナデ、外面タタキ。	
239	A 区	ST2009	弥生土器 甕	–	(8.5)	6.3	暗灰色 にぶい橙色 浅黄橙色	底部は平底状。内面ナデ。外面縦方向のハケ、丁寧なナデ。	
240	A 区	ST2009	弥生土器 甕	–	(2.8)	4.9	オリーブ黒色 にぶい橙色 オリーブ黒色	平底状の底部片。内面ナデ、外面ハケ・ナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
241	A 区	ST2009	弥生土器 甕	–	(9.1)	6.8	灰白色 橙色 灰黄色	平底状の底部片。内面ハケ・ナデ、外面タタキの後ハケ・ナデ。	
242	A 区	ST2009	弥生土器 甕か	–	(1.6)	3.6	浅黄橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	底部は小さな平底状。底部は突出する。	
243	A 区	ST2009	弥生土器 甕	–	(5.9)	6.3	褐灰色 にぶい黄褐色 浅黄橙色	底部は平底状。胴部と底部の境は凹状になる。内面粗い単位のハケ、底部は指頭圧痕が残る。外面タタキの後ハケ・ナデ。	
244	A 区	ST2009	弥生土器 甕	–	(5.5)	4.8	黄灰色 浅黄橙色 黄灰色	底部は平底状。外面縦方向の丁寧なナデ。	
245	A 区	ST2009	弥生土器 甕	–	(5.3)	6.4	浅黄橙色 にぶい黄橙色 褐灰色	平底状の底部片。内面ハケ・ナデ、外面縦方向のハケ。	
246	A 区	ST2009	弥生土器 甕	–	(3.8)	5.4	橙色 〃 灰色	底部は平底状。内面は強いナデにより砂粒が動く。外面縦方向のナデ。	
247	A 区	ST2009	弥生土器 甕	–	(4.6)	5.8	浅黄橙色 にぶい黄橙色 灰黄色	平底状の底部片。内面ナデ、外面縦方向のハケ。	
248	A 区	ST2009	弥生土器 甕か	–	(2.0)	8.9	黄灰色 にぶい黄橙色 黄灰色	底部は平底状。底部と胴部の境目は縦方向のナデ。	
249	A 区	ST2009	弥生土器 甕	–	(5.3)	3.2	灰黄褐色 灰黄色 灰黄褐色	底部は小さな平底状。胴部は直線的に外上方に延びる。内面ナデ、外面ハケ。	
250	A 区	ST2009	弥生土器 高杯	–	(6.9)	–	明黄褐色 〃 黄灰色	中空の脚部片。杯部の外面底部に円孔状の圧痕が認められる。内外面ともナデ。	
251	A 区	ST2009	土製品 支脚	–	6.6	–	– にぶい黄橙色 褐灰色	器面に凹凸面と裂孔がみられる。粘土による成形も不十分な箇所が残る。	
252	A 区	ST2009	土製品 支脚	–	9.3	–	橙色 浅黄橙色 黄灰色	支部を欠く。脚部は直線的に小さく開く。内面ナデ、裂孔が多い。外面タタキ。	
253	A 区	ST2009	土製品 土錘	全長 3.0	全幅 2.9	全厚 2.9	– 橙色 –	管状土錘。球形を呈し、中央に直径 0.3cmの円孔を焼成前に穿つ。外面はナデにより滑らかに仕上げる。	
254	A 区	ST2009	土製品 土錘	全長 3.6	全幅 1.9	全厚 1.6	– 淡浅黄色 –	管状土錘。やや肉厚の円筒形で、直径 0.4cmの円孔を穿つ。	
255	A 区	ST2009	鉄製品 鉄鏃	全長 6.8	全幅 2.8	全厚 1.8	–	方頭形で、刃部は丸味を持つ。関は両関か。茎部の一部に木質状の物質が付着する。重量 19.0g	
256	A 区	ST2009	土師器 皿	–	(1.2)	14.6	灰黄褐色 橙色 灰黄褐色	底部は平底で、端部で湾曲し、外上方に延びる。内面ナデ・ヘラミガキ、ロクロ目を残す。外面ヘラミガキ。	
257	A 区	ST2009	土師器 皿	10.0	1.6	7.0	浅黄橙色 〃 黄灰色	小型の皿。口縁端部は丸く収める。底部切り離しは回転ヘラ切り。	
258	A 区	ST2009	土師器 杯	–	(2.8)	–	橙色 〃 〃	口縁部は緩やかに外反する。端部は内側にやや肥厚する。胎土は朱色に発色する。内面ナデの後暗文風のミガキ、外面密な横方向のミガキ。	
259	A 区	ST2009	土師器 椀	–	(1.3)	7.2	にぶい黄橙色 〃 〃	底部から体部は歪む。内外面とも回転ナデ、見込みはロクロ目が顕著。底部切り離しは回転ヘラ切りで、板状の圧痕が認められる。	
260	A 区	ST2009	土師器 椀	12.4	(3.6)	–	にぶい橙色 暗灰色 にぶい橙色	体部から口縁部は緩やかに外上方に延びる。端部は丸く収める。内外面ともナデ。外面一部炭素吸着。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
261	A 区	ST2009	土師器 椀	–	(2.4)	7.6	橙色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	断面逆台形の高台が付く。外面高台周縁に煤付着。内外面とも回転ナデ。	
262	A 区	ST2009	土師器 鉢か	17.8	(2.4)	–	橙色 〃 〃	体部から口縁部は直線的に斜上方に延びる。端部は内側にやや肥厚する。内面に暗文を施す。胎土は朱色に発色する。内外面とも回転ナデ。	
263	A 区	ST2009	須恵器 壺	9.3	(2.0)	–	灰色 〃 〃	口縁部は外反する。端部は上下に拡張し、外傾する面を成す。内外面とも回転ナデ。	9c
264	A 区	ST2009	須恵器 壺か瓶	9.0	(4.3)	–	灰色 黄灰色 灰黄褐色	口縁部は外上方に直線的に開き、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
265	A 区	ST2009	黒色土器 椀	16.8	7.3	8.0	オリーブ黒色 橙色 〃	内面に黒色処理が施される。底部に断面三角形の高台がハの字状に付く。体部は丸味を帯びる。胎土中に白ないし透明の細粒を含む。内外面ともヘラミガキ。	
266	A 区	土器集中	弥生土器 壺	17.0	(4.2)	–	橙色 にぶい橙色 褐灰色	口縁部は外反し端部は面を成す。口縁端部にナデによる凹線状の浅い痕跡。内面口縁端部横方向のナデ、口縁部ハケ。外面口縁端部横方向のナデ、口縁部縦方向のハケ。	
267	A 区	土器集中	弥生土器 甕	13.6	(5.1)	–	褐灰色 にぶい黄橙色 褐灰色	胴部から頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は緩く外反する。端部は窪んだ面を成し、外側にやや肥厚する。内面口縁部ハケ、胴部ハケの後ナデ。外面タタキ、煤付着。	
268	A 区	土器集中	弥生土器 甕	14.3	(6.3)	–	浅黄橙色 にぶい黄橙色 褐灰色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。端部は面を成し、僅かに肥厚する。内面ハケ。外面胴部タタキ、口縁部タタキの後ハケ。一部に煤付着。	
269	A 区	土器集中	弥生土器 甕か鉢	13.3	20.3	4.1	にぶい橙色 浅黄橙色 にぶい橙色	底部は緩い凸状、胴部は縦断面楕円形状。頸部はくの字状で、口縁部は外反する。端部は凹面を成し、外側へやや肥厚。内面ハケの後ナデ、底部ナデ。外面タタキ。	
270	A 区	土器集中	弥生土器 甕	17.0	23.1	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 〃	底部は丸底状で、胴部最大径は上位。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は内傾する面を成す。内面ハケの後ナデ、外面タタキ。	
271	A 区	土器集中	弥生土器 甕	14.5	(11.2) (10.6)	–	橙色 〃 〃	丸味を帯びた胴部。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は緩く外反。端部は凹面を成し、外側にやや肥厚。内面ハケの後ナデ、口縁部ハケ。外面タタキの後ハケ、煤付着。	
272	A 区	土器集中	弥生土器 甕	–	(4.2)	3.1	にぶい黄色・オリーブ黒色 〃 オリーブ黒色	底部は緩い凸面を成す。内面ナデ、押圧痕が残る。外面タタキの後ハケ。	
273	A 区	土器集中	弥生土器 甕	–	(8.7)	1.5	浅黄橙色 〃 〃	底部は狭く不明瞭で、緩い凸面状を呈す。胴部は下位と中位の接合部で弱く括れる。内面粗いハケの後ナデ。外面タタキ、底部格子状のタタキ。	
274	A 区	土器集中	弥生土器 甕	–	(13.1)	3.0	橙色 にぶい褐色 橙色・灰色	底部はやや突出し、緩い凸面を成す。内面ナデ。外面タタキの後ハケ、胴部下位を中心に煤付着。	
275	A 区	土器集中	弥生土器 甕	–	(8.0)	–	黄灰色 にぶい黄橙色 黒色	丸底状の底部。内面ナデ、外面タタキの後ハケ。	
276	A 区	土器集中	弥生土器 甕	–	(10.5)	–	にぶい黄橙色 灰黄褐色 褐灰色	底部はやや尖り気味の丸底状。内面粗いハケの後、底部はナデ消す。外面胴部中位は横方向のタタキ、底部は斜格子状を呈す。	
277	A 区	土器集中	弥生土器 甑	–	(12.9)	2.0	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	底部は尖底状で、直径 0.8cmの円孔を穿つ。内面粗いハケ、底部はナデ。外面タタキ。	
278	A 区	土器集中	弥生土器 鉢	9.8	(3.5)	–	にぶい橙色 浅黄橙色 にぶい橙色	皿状を呈す。口縁端部は丸く収める。内外面ともナデ。外面に浅い凹凸面が残る。	
279	A 区	土器集中	弥生土器 鉢	10.8	(2.6)	–	橙色 〃 浅黄橙色	浅い皿状を呈す。内外面ともナデ。外面に凹凸面が残る。	
280	A 区	土器集中	弥生土器 鉢	–	(4.1)	3.5	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色 〃	底部はやや丸味を帯びた狭い平坦面状を呈す。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。器面に小・中規模の裂孔が多くみられる。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
281	A 区	土器集中	弥生土器 鉢	–	(6.0)	5.0	浅黄橙色 〃 黄灰色	底部は緩い凸面状を呈し、粘土貼付底風に突出する。内面細かいハケ、外面タタキ。	
282	A 区	土器集中	弥生土器 鉢	–	(4.1)	4.2	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	底部は狭い平坦面状で、端部は丸味を帯びる。内外面ともナデ。器面に中規模の裂孔が見られる。	
283	A 区	土器集中	弥生土器 鉢	15.0	6.8	4.0	橙色 〃 灰オリーブ色	底部は狭い平底状で、粘土貼付底風にやや突出する。体部から口縁部は丸味を持ち外上方に開き、端部は丸く収める。内面細かいハケの後ナデ、外面タタキの後ナデ。	
284	A 区	土器集中	弥生土器 鉢	15.6	7.3	6.4	にぶい黄橙色 〃 〃	底部は粘土貼付底風にやや突出し、緩い凸面を成す。体部から口縁部は緩やかに外上方に延び、端部は面を成す。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。	
285	A 区	土器集中	弥生土器 鉢	13.5	5.9	3.7	橙色 〃 〃	底部はやや突出した平底状を呈す。緩やかに外反し、口縁端部は丸味を持った面を成す。内面ハケの後丁寧なナデ。外面タタキ、口縁部横方向のナデ。一部に煤付着。	
286	A 区	土器集中	弥生土器 鉢	16.4	5.3	5.0	浅黄橙色 〃 褐灰色	底部は平底状で、端部は不明瞭。口縁部は外上方に延び、端部は面を成す。内面ヘラナデ、口縁部横方向のナデ。外面タタキの後ナデ、浅い凹凸面を残す。煤付着。	
287	A 区	土器集中	弥生土器 鉢	16.4	6.0	7.4	浅黄橙色 〃 明オリーブ灰色	底部は緩い凸面を成す。胴部から口縁部は丸味を帯びて外上方に延びる。端部は面を成す。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ナデ。	
288	A 区	土器集中	弥生土器 鉢	17.4	5.9	–	橙色 にぶい橙色 黄灰色	底部は緩く窪んだ面を成す。底部端は不明瞭で、体部から口縁部は緩やかに外上方に延びる。	
289	A 区	土器集中	弥生土器 鉢	16.8	6.8	–	橙色 〃 〃	丸底状の底部。体部から口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。内外面ともナデ。	
290	A 区	土器集中	弥生土器 鉢	18.0	8.0	4.7	にぶい橙色 浅黄橙色 褐灰色	底部はやや突出し、緩い凸状を呈す。体部から口縁部は緩やかに外反し、端部は中央の窪んだ面を成す。内面ハケ、外面ナデ。外面底部にはタタキ目が残る。	
291	A 区	土器集中	弥生土器 鉢	19.0	(5.5)	–	浅黄色 〃 〃	体部は丸味を帯び、口縁部は外上方に延びる。端部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面細かいハケ、口縁部粗いハケ。外面タタキ。	
292	A 区	土器集中	弥生土器 高杯	20.2	12.7	14.6	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	杯部は低位で屈曲する。脚部に中位３方向に直径 1.1cm の円形透かしを配す。内面杯部縦方向のミガキ、脚部ハケ、裾部ナデ。外面杯部ミガキ、脚部縦方向のハケ。	
293	A 区	土器集中	製塩土器か	10.0	(7.3)	–	にぶい黄橙色 〃 灰色	深い椀型ないし鉢型。体部から口縁部は直立し、端部は概ね丸く収める。内面ケズリ・ナデ、外面縦方向の篦状工具によるナデ。	
294	A 区	土器集中	土製品 支脚	上部径 9.4	8.7	10.5	– 浅黄橙色 –	中実で、縦断面形は台形状を呈す。受け部は弱い凹凸のある凹面で、緩く傾斜する。底部は広い凸面を成し、押圧痕を残す。器面はナデを残すが、弱い凹凸を留める。	
295	A 区	土器集中	土製品 支脚	上部径 9.5	9.6	9.0	– にぶい黄橙色・にぶい橙色 –	中実の円筒形状で上下端で開く。受け部は傾斜し浅い凹面を成す。底部は凹面を成し、中心と端部が突出し接地する。器面に押圧痕、比較的整えられる。	
296	A 区	土器集中	土製品 支脚	上部径 8.3	9.5	6.8	– 浅黄色 〃	中実の円筒形状で、受け部は緩く傾斜した凹面を呈す。底部は平坦面で、端部は丸味を帯びる。器面にナデ・押圧痕が見られ、一部に煤付着。	
297	A 区	土器集中	土製品 支脚	–	8.3	–	– 灰黄色 暗灰黄色	支部は粘土を巻き込み棒状に仕上げる。器面に押圧痕が残る。	
298	A 区	土器集中	土製品 支脚	–	11.4	–	灰白色 〃 –	翼状に開く支部を持つ。背部の突起は扁平と見られる。脚部を欠く。器面はナデ、押圧痕が残る。	
299	A 区	土器集中	土製品 支脚	–	5.5	9.2	浅黄橙色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	脚部の裾は短く広がる。端部は押し潰した面を成す。内外面ともナデ。外面に浅い押圧痕と篦状工具による押圧痕が残る。	
300	A 区	土器集中	土製品 支脚	–	4.9	10.3	にぶい黄橙色 〃 淡橙色	脚部は腹側で短く背部で長く、傾きを持って広がる。内外面ともナデ。内面に絞り目、外面に押圧痕が残る。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
301	A 区	土器集中	土製品 支脚	–	14.2	9.0	– にぶい橙色 –	やや細い支部が二股に開いて付き、脚部は中実。正面は押圧痕、背面は絞り目風の縦位の溝が見られる。底面にナデ、植物繊維の圧痕が残る。	
302	A 区	土器集中	土製品 支脚	–	15.8	11.1	にぶい黄橙色 〃 〃	支部は大きく開く。背面の突起は扁平で中央でへの字状に屈曲する。脚部は中空。内面ハケ・ナデ。外面ナデ、中位と裾の一部に煤付着。	
303	A 区	土器集中	土製品 支脚	–	15.7	11.2	にぶい橙色 〃 にぶい黄橙色	支部は双方向の翼状を呈す。背部の突起は幅広く扁平で、脚中位まで中実。内面ナデ、裾部篦状工具によるナデ。外面粗いナデ、凹凸面が残る。	
304	A 区	土器集中	石製品 台石	全長 30.9	全幅 22.6	全厚 6.4	–	河原石。表裏面と縁辺に使用痕。表面の中央部は敲打により剥離する。縁辺は一部剥離し、一部が欠損する。表面に煤付着。砂岩製。重量 6400.0g	
305	A 区	土器集中	石製品 叩石	全長 13.3	全幅 10.5	全厚 4.8	–	平面形は不整楕円形状。縁辺に小規模な敲打剥離がややまとまって見られる。表裏面にはやや規模の大きな剥離が散見される。重量 1143.0g	
306	A 区	土器集中	石製品 台石	全長 17.7	全幅 11.9	全厚 10.2	–	台石の一部。中央部と縁辺に敲打による剥離痕を残す。砂岩製か。重量 1760.0g	
307	A 区	ST2010	弥生土器 壺	13.4	(5.8)	–	浅黄橙色 橙色 褐灰色	複合口縁壺。頸部から緩く外反し屈曲の後、口縁部は直線的に内上方に延びる。端部は面を成し、内側にやや肥厚する。内外面ともハケ。	
308	A 区	ST2010	弥生土器 壺	14.8	(4.3)	–	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色・橙色 褐灰色	複合口縁壺。口縁部は外上方に開き、接合部で屈曲後、直線的に上方ないし僅かに内傾する。端部は平坦面を呈す。内外面ともハケ。	
309	A 区	ST2010	弥生土器 壺	–	(6.8)	–	明褐色・オリーブ黒色 橙色・にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	頸部の屈曲はやや急で、口縁部は緩く外反する。内面口縁部ハケ、胴部はハケの後ナデ。外面ハケ。	
310	A 区	ST2010	弥生土器 壺	–	(9.0)	–	灰色 浅黄橙色 灰色	頸部で屈曲し、口縁部は直線的に上方に延びる。屈曲の後外反するとみられる。内面ナデ、外面ハケの後ナデ・ミガキ。	
311	A 区	ST2010	弥生土器 壺	16.8	(12.1)	–	にぶい黄橙色・黄灰色 明黄褐色 にぶい黄橙色	頸部で屈曲の後、口縁部は外反し、外上方に延びる。端部は面を成す。内面ハケの後ナデ。外面胴部タタキ、口縁部は縦方向の細かいハケ。	
312	A 区	ST2010	弥生土器 壺	–	(3.4)	5.6	にぶい黄橙色 浅黄橙色 黄灰色	底部は平底状。底部から胴部は外上方に延びる。内面ナデ、外面ハケ。	
313	A 区	ST2010	弥生土器 壺	–	(5.0)	–	浅黄橙色 〃 〃	底部は尖り気味の丸底で、胴部は直線的に開く。内面ナデ、凹凸面を残す。外面タタキの後ハケ。	
314	A 区	ST2010	弥生土器 甕	13.2	(16.2)	–	橙色 〃 灰色	胴部は球形で、最大径は中位。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は短く外反。端部は面を成し、外側にやや肥厚する。内外面ともハケの後ナデ。	
315	A 区	ST2010	弥生土器 甕	12.9	(4.7)	–	浅黄色 灰白色 オリーブ黒色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。端部は凹面を成し、外側に僅かに肥厚する。内面口縁部は横方向のハケ、胴部ハケ。外面タタキ。	
316	A 区	ST2010	弥生土器 甕	15.0	(4.3)	–	橙色 〃 褐灰色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面ハケ、外面タタキ。	
317	A 区	ST2010	弥生土器 甕	17.0	(4.7)	–	淡黄色 灰黄褐色 淡黄色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面ハケ、外面タタキ。	
318	A 区	ST2010	弥生土器 甕	12.8	(5.7)	–	浅黄橙色 〃 〃	頸部の屈曲はくの字状で、口縁部は外反する。端部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面ナデ、口縁部ハケ。外面タタキ。	
319	A 区	ST2010	弥生土器 甕	12.4	(6.2)	–	灰黄褐色 にぶい黄橙色 褐灰色	頸部の屈曲はくの字状で、口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、部分的にやや肥厚する。内面ハケ。外面口縁部ハケ、胴部タタキ。	
320	A 区	ST2010	弥生土器 甕	16.2	(6.3)	–	橙色 〃 灰色	胴部上位から頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は直線的に外方に開く。端部は概ね面を成す。内面ナデ。外面タタキの後ハケ、一部に煤付着。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
321	A 区	ST2010	弥生土器 甕	14.0	(8.0)	–	浅黄橙色 〃 黄灰色	頸部の屈曲は緩やかで口縁部は外反する。端部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面口縁部ハケ、胴部ナデ。外面タタキの後ナデ。	
322	A 区	ST2010	弥生土器 甕	11.4	(9.5)	–	橙色 灰黄褐色 橙色	胴部から頸部は緩やかなくの字状に屈曲し、口縁部は短く直線的に立ち上がる。端部は面を成す。内面口縁部ハケ、胴部ナデ。外面タタキ、煤付着。	
323	A 区	ST2010	弥生土器 甕	13.7	(8.4)	–	橙色 〃 灰オリーブ色	頸部の屈曲は緩やかで、口縁部は緩く外反する。端部は部分的に面を成し、外側へやや肥厚。内面ハケ・ナデ。外面タタキ、口縁部に煤付着。	
324	A 区	ST2010	弥生土器 甕	13.6	16.9	2.0	にぶい黄橙色 〃 黒色	胴部は球形で、最大径は中位。口縁部は外反する。端部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ハケ。	
325	A 区	ST2010	弥生土器 甕	11.0	20.5	–	にぶい黄橙色 浅黄橙色・褐灰色 浅黄橙色	底部は丸底状。口縁部は外方に開く。端部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面ハケの後ナデ、口縁部ハケ。外面タタキの後ハケ、胴部中位以下に煤付着。	
326	A 区	ST2010	弥生土器 甕	15.6	(20.0)	–	浅黄橙色 にぶい黄褐色 黒褐色	頸部はくの字状で口縁部は外反する。端部は面を成し、外側にやや肥厚。内面ハケの後ナデ。外面タタキの後ハケ、口縁部ナデ、胴部中位と口縁部の一部に煤付着。	
327	A 区	ST2010	弥生土器 甕	15.7	(10.3) (11.6)	3.0	浅黄橙色 〃 黄灰色	底部は狭く不明瞭で、緩い凸面を成す。内面ナデ・ハケ、外面タタキ。	
328	A 区	ST2010	弥生土器 甕	16.4	25.4	4.0	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	底部は狭い凸面状。頸部はくの字状で、口縁部は緩く外反する。内面ハケの後ナデ。外面タタキの後ハケ。内面底部、外面胴部中位以下に煤付着。	
329	A 区	ST2010	弥生土器 甕	14.7	27.2	2.6	灰白色 にぶい黄橙色 灰色	底部は緩い凸面状。頸部の屈曲はやや緩く、口縁端部は面を成し、外側へ肥厚。内面ナデ、口縁部はハケ。外面タタキ、胴部中位に煤付着。	
330	A 区	ST2010	弥生土器 甕	17.8	(11.7)	–	暗灰色 にぶい黄橙色 〃	頸部はくの字状で、口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面粗い斜方向のハケ。外面タタキ、口縁部の一部に煤付着。	
331	A 区	ST2010	弥生土器 壺	14.7	(11.9)	–	灰黄褐色 にぶい黄橙色 〃	口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側に僅かに肥厚する。内面ハケ。外面タタキの後ナデ、口縁部はナデによりタタキを消す。	
332	A 区	ST2010	弥生土器 甕	–	(5.0)	3.4	黄橙色 浅黄橙色 黄灰色	底部は狭く緩い凸面状で、端部は丸味を持つ。内面ナデ、外面タタキ。	
333	A 区	ST2010	弥生土器 甕	–	(4.2)	–	にぶい黄褐色・黄灰色 黄灰色・にぶい黄橙色 黄灰色	丸底状の底部。ナデや押圧によりやや尖り気味になる。胴部は緩やかに外方に延びる。内面ナデ、外面タタキ。	
334	A 区	ST2010	弥生土器 甕	–	(10.6)	–	灰黄褐色 にぶい黄褐色 にぶい黄橙色	底部は丸底状。内面粗いハケの後ナデ。外面タタキ、胴部中位に煤付着。	
335	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	10.4	5.8	2.4	にぶい黄橙色 にぶい橙色 褐灰色	底部は狭い平底状で、端部は丸味を持つ。内面ナデ。外面ハケ、口縁端部横方向のナデ。	
336	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	16.8	7.0	5.0	にぶい黄橙色 〃 〃	口縁端部は丸味を持った面を成し、外側に僅かに肥厚する。内面ハケ。外面口縁部タタキの後ナデ、体部タタキの後ハケ、底部タタキ。	
337	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	21.0	7.8	–	にぶい橙色 にぶい黄橙色 橙色	丸底状の底部。口縁部は緩やかに外反する。端部は丸味を持った面を成す。内面ハケ。外面タタキの後ハケ、口縁部ナデ。内外面の一部に煤付着。	
338	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	12.4	(5.9)	–	にぶい黄橙色 〃 明黄褐色	体部から口縁部は丸味を持ち、外上方に延びる。端部は丸く収める。内面箆状工具によるナデ、外面タタキ。	
339	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	18.3	7.8	5.4	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	底部は緩い凸面を成し、端部は不明瞭。体部は丸味を帯び、口縁端部は丸味を持った面を成す。内面ハケ、口縁部横方向のナデ。外面タタキ、底部は箆状工具によるナデ。	
340	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	21.0	7.7	8.0	灰黄褐色 にぶい黄橙色 褐灰色	底部は緩い凸面を成し、端部は明瞭。体部は丸味を持ち、外上方に延びる。端部は丸く収める。内面粗いハケ、外面タタキ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
341	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	13.4	(5.4)	–	橙色 〃 明褐色	体部から口縁部は内湾して上方に伸びる。口縁部は仕上げに至らず、尖り気味に丸く収める。内面ハケの後ナデ又はミガキ。外面ナデ、小・中裂孔が多く見られる。	
342	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	16.0	(5.1)	–	にぶい黄橙色 浅黄橙色 黄灰色	体部から口縁部は緩やかに外上方に延び、端部は平坦面状を成す。内外面ともナデ。器面に小裂孔が残る。	
343	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	19.5	7.1	4.6	浅黄橙色 〃 黄灰色	底部は突出し、緩い凸面を成す。体部は緩やかに外方に開き、口縁部は上方に延びる。端部は面を成す。内面ハケ、外面ナデ。	
344	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	12.0	6.8	3.6	にぶい橙色 〃 灰オリーブ色	底部は突出し、緩い凸面を成す。体部から口縁部は外上方に延び、端部は細く丸く収める。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。	
345	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	16.4	(3.9)	–	にぶい橙色 にぶい黄橙色 灰色	頸部は緩く屈曲し、口縁部は短く外反する。端部は丸味を持つ。内面ナデ。外面ナデ、口縁部直下に押圧痕が連続する。	
346	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	20.0	12.1	–	橙色 浅黄橙色 にぶい黄橙色	尖り気味の丸底状。体部から口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収めるが中心が凹む。内外面ともナデ。外面に小裂孔と凹凸面を残す。外面底部にヘラナデ跡、圧痕。	
347	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	6.3	3.6	1.6	黄灰色 浅黄色 オリーブ黒色	小型の鉢。底部は狭小で緩い凸面を成し、端部は不明瞭。口縁端部は丸く収める。内面ナデ、篦状工具の圧痕が残る。外面タタキの後ハケ、凹凸面を留める。	
348	A 区	ST2010 (P4)	弥生土器 鉢	8.5	4.2	–	浅黄橙色 〃 〃	丸底状の底部から、口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は面を成し、部分的に外側にやや肥厚する。内面ハケ、外面ナデ。器面に凹凸面が残る。	
349	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	12.0	6.6	3.0	橙色 〃 暗灰色	底部はやや突出した緩い凸面を呈す。体部は丸味を帯び、口縁端部は丸く収める。内面ナデ、一部に篦状工具によるナデ。外面ナデ、小裂孔、弱い凹凸面を留める。	
350	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	9.6	6.2	3.2	にぶい黄橙色 〃 灰白色	底部は粘土貼付底風に突出し、胴部から口縁部は緩やかに外上方に延び、端部は丸く収める。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。	
351	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	9.0	(7.9)	–	にぶい黄橙色 〃 灰色	体部は接合部で僅かに括れ、口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は丸味を帯びた面、又は丸く収める。内面ナデ・ケズリ又は強いナデ、外面ナデ・ミガキ。	
352	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	–	(2.9)	–	浅黄橙色 〃 灰色	小型の鉢又はミニチュア土器か。底部は緩い凸面で、端部は不明瞭。内面ナデ、外面タタキ。	
353	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	–	(3.8)	–	明褐色 橙色 〃	丸底の底部片。内面ハケ・ナデ、外面タタキ。	
354	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	–	(3.9)	3.5	にぶい黄橙色 〃 〃	底部は狭い平底状で、端部は不明瞭。胴部下位は丸味を帯びる。内面ミガキ、外面ナデ。器面の一部に小裂孔が見られる。	
355	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	–	(4.0)	3.8	黄灰色 黄褐色 〃	底部は狭い平底で、粘土貼付底風にやや突出する。体部はやや直線的に外上方に延びる。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。器面に裂孔が見られる。	
356	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	–	(5.8)	–	灰黄褐色 にぶい黄褐色 にぶい褐色	底部は尖り気味の丸底状。内外面ともナデ。緩い屈曲を留める。	
357	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	–	(2.7)	3.6	橙色 橙色・にぶい黄橙色 黄灰色	底部は狭く緩い凸面を成し、粘土貼付底風にやや突出する。内面ハケ、外面ナデ。器面に小裂孔が多く見られる。	
358	A 区	ST2010	弥生土器 鉢	–	(6.0)	3.2	暗灰黄色 にぶい黄褐色 黄灰色	底部は狭く緩い凸面を成し、粘土紐貼付底でやや突出する。体部は直線的に外上方に延びる。内面ハケ、外面タタキ。	
359	A 区	ST2010	弥生土器 台付鉢	10.2	(5.2)	–	浅黄色・灰色 〃 〃	台部は欠損する。体部は丸味を帯び、口縁端部は丸く収める。内面篦状工具によるナデ、外面タタキの後ナデ。	
360	A 区	ST2010	弥生土器 台付鉢	–	(3.2)	4.1	にぶい黄橙色 浅黄橙色 黄灰色	台部上位は緩やかに外反し、裾部は短く広がる。端部は太く丸く収める。内面鉢部ハケ、台部ナデ。外面台部押圧痕が残る。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
361	A 区	ST2010	弥生土器 高杯	23.8	(6.5) (9.1)	14.6	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	杯部は接合部で屈曲。内外面ともミガキ。脚部上位は中実で直径0.8cmの円孔を穿つ。内面ハケ、外面ミガキ。調整後、脚中位に直径0.25cmの円孔を5カ所、外側から穿つ。一部に筋状の煤付着。	
362	A 区	ST2010	弥生土器 高杯	23.3	(12.8)	–	浅黄橙色 〃 灰色	杯部は下位で屈曲。脚部は下位で屈曲し、外方に開く。内面ハケの後ミガキ、杯底部は丁寧なナデ、脚部はナデ、絞り目を残す。外面ハケの後ミガキ、口縁部・脚部はナデ。	
363	A 区	ST2010	弥生土器 高杯	21.0	(5.8)	–	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	杯部は接合部で屈曲し、口縁部は外反する。端部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面口縁部はハケ、杯部はヘラミガキ。外面杯部はナデ又はハケ、口縁部ナデ。	
364	A 区	ST2010	弥生土器 高杯	–	(4.0)	–	浅黄橙色 〃 黄橙色	杯部は直線的に延び接合部で屈曲し、口縁部は外反する。内面杯部の下位はミガキ、上位はハケ。外面ハケ、一部ミガキ。	
365	A 区	ST2010	ミニチュア 土器	5.6	(6.3)	–	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	頸部の屈曲は緩く、口縁部は短く外反する。端部は丸く収める。内外面ともナデ。器面に小裂孔が見られる。	
366	A 区	ST2010	ミニチュア 土器	7.0	(3.4)	–	浅黄橙色 〃 黄灰色	甕型。胴部上位は直線的に上方に延びる。頸部の屈曲は急で、口縁部は短く外方に開く。端部は丸く収める。内外面ともナデ。内面に接合痕、外面に浅い凹凸面を残す。	
367	A 区	ST2010	土製品 支脚	上部径 9.1	8.2	7.9	– にぶい黄橙色 褐灰色	中実の円筒形で、受け部は緩く傾斜した凹面を呈す。底部は緩い凸面で、植物繊維又は箆と見られる圧痕を残す。	
368	A 区	ST2010	土製品 支脚	–	3.8	–	にぶい黄褐色 〃 にぶい橙色	脚部は直線的に広がり、端部は丸く収める。外面刺突、押圧痕を残す。	
369	A 区	ST2010	土製品 土錘	全長 5.2	全幅 1.6	全厚 1.5	– にぶい黄橙色 –	管状土錘。直径 0.4cmの円孔を穿つ。	
370	A 区	ST2010	石製品 石包丁	全長 9.2	全幅 3.3	全厚 1.1	–	刃部は弧状を成し、一部で欠損する。背部は緩く湾曲する。側縁に打ち欠いた痕跡はあるが、抉りは見られない。泥質。重量 38.0g	
371	A 区	ST2010 (P4)	石製品 石包丁	全長 8.0	全幅 5.2	全厚 1.8	–	刃部は緩やかに弧を描き、背部は概ね直線的で、端部は丁寧に丸く仕上げる。側縁の一方は大きく抉れる。重量 59.0g	
372	A 区	ST2010	石製品 砥石	全長 13.8	全幅 11.1	全厚 5.0	–	表裏面と側面 1 面の 3 面を使用する。縁辺にの一部に小さな剥離又は敲打痕、表面に被熱が認められる。作業台として使用したものか。重量 1083.0g	
373	A 区	ST2010	石製品 叩石	全長 8.7	全幅 7.5	全厚 4.3	–	扁平な不整楕円形状を呈す。縁辺と表面の剥離が著しい。特に表面の中央が大きく窪む。重量 376.0g	
374	A 区	ST2010	石製品 叩石	全長 10.0	全幅 8.7	全厚 2.6	–	平面形は不整円形状、断面形は長楕円形状を呈す。縁辺と表裏面の中央付近に小規模で浅い打痕。大部分に赤色顔料が付着する。部分的に被熱が見られる。重量 362.0g	
375	A 区	ST2010	土師器 甕	14.0	(7.6)	–	橙色 〃 黒褐色	胴部から頸部は緩く屈曲し、口縁部は短く外反する。内面口縁部はナデ、胴部は縦・横方向のハケ。外面ナデ。	
376	A 区	ST2010	土師器 甕	–	(3.0)	–	浅黄橙色 〃 褐灰色	口縁部は内湾気味に外方に開き、外側へ肥厚して上方に延びる。端部は太く丸く収める。内面口縁部はナデ、胴部は横方向のハケ。外面ハケの後ナデ。	
377	A 区	ST2010	須恵器 杯身	11.3	3.6	4.8	灰白 〃 〃	底部は緩い凹面。口縁部は直線的で、かえりは短く内傾。内外面とも回転ナデ。外面体部下位にケズリ、底部には箆状工具による圧痕とナデ。受け部径 13.6cm	
378	A 区	ST2010	黒色土器 椀	–	(2.4)	7.6	黄灰色 浅黄橙色 〃	底部は緩い凸面を成し、端に直立ないしやや開き、断面長方形の高台が付く。胴部は丸味を帯びる。内面に黒色処理。内面ミガキ、外面ナデ。	
379	A 区	ST2010	緑釉陶器 不明	–	(2.1)	–	浅黄色 〃 灰白色	印刻花文。箆状工具によると見られる沈線で、文様を施す。	
380	D 区	ST2012	弥生土器 壺	18.0	(2.1)	–	にぶい黄褐色 〃 黄灰色	口縁部は直線的に外上方に延び、端部は面を成し外側へ肥厚する。内外面ともナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm）			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
381	D区	ST2012	弥生土器 壺	13.4	(2.4)	–	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	口縁部は直線的に外上方に延び、外方に開く。端部は面を成し、外側に肥厚する。内面ナデ。外面ハケ、口縁端部は横方向のナデ。	
382	D区	ST2012	弥生土器 壺	16.6	(1.3)	–	浅黄色 にぶい黄橙色 黄灰色	口縁部は外反し大きく開く。端部は面を成し、内外に肥厚する。口縁端部に櫛描波状文を施す。内外面ともナデ。	
383	D区	ST2012	弥生土器 壺	16.0	(7.2)	–	浅黄色 浅黄橙色 黄灰色	頸部は緩く屈曲し、口縁部は外反する。内面ハケの後ナデ、口縁端部は横方向のナデ。外面口縁部はハケの後口縁端部に横方向のナデ、胴部タタキの後ハケ。	
384	D区	ST2012	弥生土器 壺	16.0	(3.5)	–	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色	口縁部は外反し大きく開く。端部は面を成し、外側へ肥厚する。内面ハケ、口縁端部横方向のナデ。外面ハケ、口縁端部又は口縁部上位の広い範囲に横方向のナデ。	
385	D区	ST2012	弥生土器 壺	16.8	(2.1)	–	灰黄褐色 〃 暗灰黄色	口縁部は外反し、端部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面ハケの後ナデ、口縁端部横方向のナデが顕著。外面口縁部は縦方向のハケ、口縁端部は横方向のナデ。	
386	D区	ST2012	弥生土器 壺	16.4	(2.4)	–	浅黄橙色 〃 〃	口縁部は外反し、端部は面を成す。口縁端部に竹管刺突文。内外面ともナデ。	
387	D区	ST2012	弥生土器 壺	16.2	(3.1)	–	にぶい赤褐色 〃 暗灰黄色	口縁部は外反し、端部は平坦面を成す。口縁端部に竹管刺突文を施す。内面口縁端部横方向のナデ、口縁部ハケ。外面口縁端部横方向のナデ、口縁部ハケの後ナデ。	
388	D区	ST2012	弥生土器 壺	17.0	(4.9)	–	にぶい黄色 浅黄橙色 灰色	口縁部は直立し、後に外反し大きく開く。端部は凹状の面を成す。内面ハケ、口縁端部横方向のナデ。外面口縁部は縦方向のハケ、口縁端部は横方向のナデ。	
389	D区	ST2012	弥生土器 壺	21.4	(1.8)	–	橙色 黄橙色 〃	口縁部は外反して大きく開く。端部は面を成し、外側に肥厚する。口縁端部に櫛描波状文が施される。内面ナデ、外面ハケ。	
390	D区	ST2012	弥生土器 壺	20.8	(8.1)	–	浅黄橙色 にぶい橙色 黄灰色	胴部上位から頸部の屈曲はやや急で、口縁部は緩く、後に大きく開く。端部は丸味を持った面を成す。内面ナデ、口縁部粗いハケの後ナデ。外面粗いハケ。	
391	D区	ST2012	弥生土器 壺	10.2	(4.7)	–	橙色 浅黄橙色 〃	丸味を持つ胴部から頸部で屈曲し、口縁部は直線的に上方に延びる。端部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面口縁部ハケ、胴部はハケの後ナデ。外面タタキ。	
392	D区	ST2012	弥生土器 壺	12.4	(7.8)	–	橙色 〃 黄灰色	頸部は屈曲し、口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は丸味を持った面を成し、外側へやや肥厚。内面ナデ、胴部はヘラナデ。外面ナデ・タタキ、口縁部は横方向のナデ。	
393	D区	ST2012	弥生土器 壺	13.5	(7.1)	–	にぶい橙色 〃 灰色	口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は面を成し、外側へ肥厚。内面胴部ナデ、口縁部は粗いハケ、端部ナデ。外面口縁部は縦方向の粗いハケ、端部横方向のナデ。	
394	D区	ST2012	弥生土器 壺	–	(6.5)	–	橙色 〃 黒褐色	口縁部は緩く外反し、屈曲の後僅かに内傾する。内面口縁部横方向のナデが顕著、胴部はハケの後ナデ。外面口縁部はナデ、胴部はタタキの後ナデ。	
395	D区	ST2012	弥生土器 壺	18.0	(3.6)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	口縁部は緩く内湾して上方に延び、端部は面を成す。内外面とも粗いハケの後横方向のナデ。	
396	D区	ST2012	弥生土器 壺	16.0	(4.5)	–	褐灰色 にぶい黄橙色 橙色	口縁部は外反し、接合部で屈曲した後内上方に緩く内湾して立ち上がる。端部は丸味を持った面、又は太く丸く収める。内外面ともハケの後横方向のナデ。	
397	D区	ST2012	弥生土器 壺	17.4	(8.2)	–	にぶい橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	口縁部はまず外上方に屈曲の後、直線的に上方に延びる。内面ナデ、頸部下は横方向のナデ。外面口縁端部横方向のナデ、口縁部縦方向のハケ、頸部横方向のナデ。	
398	D区	ST2012	弥生土器 壺	17.0	(9.1)	–	橙色 〃 黄灰色	口縁部は外上方に延び、接合部で屈曲し上方に延びる。端部は面を成す。内外面ともナデ。内面口縁部はハケの後ナデ。外面口縁部は篦状工具によるナデ。	
399	D区	ST2012	弥生土器 壺	–	(6.0)	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 黄灰色	頸部で屈曲し、口縁部は先ず直線的に上方に延び、再び屈折する。内面横方向、外面縦方向のヘラナデ。	
400	D区	ST2012	弥生土器 壺	15.5	(2.9)	–	にぶい橙色 にぶい黄橙色 灰色	口縁部は内湾し上方に延びる。端部は広い面を成す。内外面ともナデ。外面横方向のナデが顕著。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm）			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
401	D区	ST2012	弥生土器 壺	21.6	(2.6)	–	明黄褐色 〃 浅黄橙色	口縁部は緩く外反し、端部は太く丸く収め、部分的に外側へやや肥厚する。内面ナデ、口縁部横方向のハケの後ナデ。外面ナデ。	
402	D区	ST2012	弥生土器 壺	13.5	(10.6)	–	浅黄橙色 橙色 灰色	胴部上位は内湾し頸部で屈曲、口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側に肥厚する。内面ナデ。外面タタキ、口縁部はナデ。	
403	D区	ST2012	弥生土器 壺	–	(9.3)	–	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	胴部上位、他は欠失する。内面ナデ、粘土帯の接合痕を残す。外面タタキの後ハケ。一部に赤色顔料が付着する。	
404	D区	ST2012	弥生土器 壺	–	(4.5)	4.8	にぶい黄褐色 にぶい橙色 灰黄褐色	底部はやや狭い平底で浅い凹面状になる。底部端は稜を成す。内外面ともナデ。	
405	D区	ST2012	弥生土器 壺	–	(4.0)	9.0	黄灰色 橙色 暗灰黄色	底部は緩い凸面状を呈し、底部端は明瞭。胴部は直線的に外上方に延びる。内外面ともハケ。外面底部タタキ。	
406	D区	ST2012	弥生土器 壺	–	(7.3)	6.0	橙色 暗灰色 黄灰色	底部は突出し、緩い凹面状を呈す。底部端は緩い曲線を描き、胴部は外上方に延びる。	
407	D区	ST2012	弥生土器 甕	–	(2.5)	–	橙色 〃 〃	口縁部片。外面口縁端部下に微隆起帯1条が巡り、上下に押圧痕が残る。内面ナデ。	
408	D区	ST2012	弥生土器 壺	–	(3.7)	–	にぶい黄色 にぶい黄橙色 〃	胴部片上位に4条以上を1単位とする箆描沈線帯がみられる。	
409	D区	ST2012	弥生土器 甕	–	(3.2)	–	にぶい橙色 にぶい黄褐色 にぶい黄橙色	肩部から頸部片。外面頸部に2条の微隆起突帯が巡る。内面ナデ。	
410	D区	ST2012	弥生土器 壺	–	(1.9)	–	暗灰黄色 にぶい橙色 黄灰色	胴部片。箆状工具による4条以上の沈線が巡る。内面ナデ、外面ハケ。	
411	D区	ST2012	弥生土器 甕	11.0	(8.2)	–	浅黄橙色 にぶい黄橙色 淡黄色	胴部最大径は中位。頸部で屈曲し、口縁部は短く直線的に外上方に延びる。端部は凹面状を呈し、外側にやや肥厚。内面ナデ、口縁部は粗いハケの後ナデ。外面タタキ。	
412	D区	ST2012	弥生土器 甕	–	(11.0)	3.1	浅黄橙色 〃 〃	底部は粘土貼付底風に緩い凸面状を成す小さな平底で、端部は不明瞭。胴部最大径は上位で、頸部の屈曲はやや緩い。内面ナデ、外面タタキ。	
413	D区	ST2012	弥生土器 甕	14.8	(4.2)	–	橙色 〃 暗灰黄色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は短く直線的に外上方に延びる。端部は面を成し部分的に外側へやや肥厚。内面口縁部はハケ、胴部はナデ。外面タタキの後ナデ。	
414	D区	ST2012	弥生土器 甕	15.0	(1.8)	–	浅黄橙色 〃 淡黄色	口縁部は外反して外上方に延び、端部は面を成す。内面口縁部ナデ、口縁端部横方向のナデ。竹管刺突文を施す。外面ハケの後ナデ、口縁端部は横方向のナデ。	
415	D区	ST2012	弥生土器 甕	19.0	(3.0)	–	浅黄色 にぶい黄橙色 浅黄色	口縁部は短く外上方に延びる。内面ナデ、口縁端部は横方向のナデ、下部に竹管刺突文。外面縦方向のナデの後口縁端部に横方向のナデ、一部に赤色顔料が付着する。	
416	D区	ST2012	弥生土器 甕	–	(3.2)	5.6	灰黄色 浅黄色 灰色	底部は高台状で中央が大きく窪む。内面ナデ、外面タタキ。	
417	D区	ST2012	弥生土器 甕	–	(5.8)	2.6	灰色 にぶい黄橙色 にぶい褐色	底部は小さな平底状。胴部は丸味を持って外上方に延びる。内面ナデ、外面タタキの後ハケ。	
418	D区	ST2012	弥生土器 甕	–	(6.8)	3.2	明黄褐色 にぶい橙色 褐灰色	底部は緩い凸面を成し、端部は不明瞭。胴部は丸味を持って上方に延びる。内面ナデ、外面タタキ。外面底部に煤付着。	
419	D区	ST2012	弥生土器 甕	21.7	(8.6)	–	にぶい黄橙色 灰黄褐色 黄灰色	頸部はくの字状で、口縁部は短く外反する。内面ハケの後ナデ、口縁部ハケ、口縁端部の一部に煤付着。外面タタキ、口縁部タタキの後ナデ。	
420	D区	ST2012	弥生土器 甕	12.3	(26.9)	–	浅黄色 浅黄橙色 灰白色	胴部断面は楕円形状で、中位やや下で最大径。頸部はくの字状で、口縁部は緩く外反。内面口縁部ヘラナデ、胴部ハケの後ナデ。外面タタキ、底部は後にヘラナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
421	D区	ST2012	弥生土器 甕	14.9	27.7	－	浅黄橙色 橙色 褐灰色	底部は丸底状。胴部断面は楕円形状で中位で最大径。頸部はくの字状で、口縁部は短く外反する。内面口縁部ハケ、胴部ハケの後ナデ。外面タタキ、胴部下位に煤付着。	
422	D区	ST2012	弥生土器 甕	－	(17.9)	－	褐灰色 橙色 黄灰色	底部は丸底状。胴部は丸味を持ち、最大径は中位か。内面ハケの後ナデ、外面タタキ。	
423	D区	ST2012	弥生土器 甕	14.0	37.6	－	灰白色 浅黄橙色 灰色	底部は丸底状で、胴部最大径はやや上位。頸部の屈曲の後、口縁部は短く外上方に延びる。内面ハケ、外面タタキの後ハケ。	
424	D区	ST2012	弥生土器 壺	－	(31.8)	4.1	にぶい黄橙色 橙色 黒褐色	底部はやや突出し、小さな平底状を呈す。胴部最大径はやや上位。内面ナデ、押圧痕。外面タタキの後ナデ。	
425	D区	ST2012	弥生土器 鉢	8.6	(2.4)	－	にぶい橙色 〃 オリーブ黒色	体部は緩やかに湾曲する。口縁部は上方又は僅かに内傾気味に延び、端部は細く収める。内外面ともナデ。	
426	D区	ST2012	弥生土器 鉢	9.1	2.8	5.0	橙色 〃 〃	底部は緩い凸面状を呈す。体部は緩やかに丸味を持ち、口縁部は上方に延びる。端部は尖り気味に丸く収める。内外面ともナデ。	
427	D区	ST2012	弥生土器 鉢	9.8	(3.0)	－	にぶい黄橙色 浅黄色 〃	体部は丸味を持ち、口縁端部は丸く収める。内外面ともナデ。	
428	D区	ST2012	弥生土器 鉢	11.1	(3.0)	－	にぶい黄橙色 浅黄橙色 黄灰色	体部は外上方に開き、口縁部で緩く屈曲し上方に延びる。端部は丸く収める。内面ナデ、口縁部に浅い凹凸面が残る。外面ナデ、浅い凹凸面が残る。	
429	D区	ST2012	弥生土器 鉢	10.8	3.8	3.4	橙色 〃 褐灰色	底部はやや突出した中央の窪んだ面を成す。体部から口縁部は緩やかに外上方に開き、端部は中央の窪んだ面を成す。内外面ともナデ。	
430	D区	ST2012	弥生土器 鉢	9.8	3.9	4.7	橙色 〃 黄灰色	底部は押し潰した平底状で、端部は不明瞭。口縁端部は面を成す。	
431	D区	ST2012	弥生土器 鉢	8.9	4.9	－	浅黄色 〃 〃	底部は尖り気味の丸底。内面中央から放射状のナデ。外面ナデ、底部に押圧痕が残る。器面に小規模の裂孔が見られる。	
432	D区	ST2012	弥生土器 鉢	9.0	(4.8)	－	にぶい褐色 明褐色 にぶい黄褐色	底部は緩い凸状。底部端で屈曲する。口縁端部は凹面状、又は丸く収める。内外面ともナデ、内面口縁部はハケ。外面底部に押圧痕。器面に小・中規模の裂孔が残る。	
433	D区	ST2012	弥生土器 鉢	8.8	5.0	3.3	橙色 〃 明黄褐色	底部は小さな平底状。口縁端部は中央の窪んだ面を成し、外側にやや肥厚する。内面ナデ、底部に螺旋状の篦圧痕。外面タタキの後ナデ。小ないし中規模の裂孔が顕著。	
434	D区	ST2012	弥生土器 鉢	10.2	5.3	1.6	灰黄褐色 橙色 黄灰色	底部は緩やかな凸状。体部下位で緩く屈曲する。内面ハケの後ナデ、口縁部ハケ、体部に篦状工具によるナデの痕跡。外面ナデ、押圧痕と小裂孔が残り、一部に煤付着。	
435	D区	ST2012	弥生土器 鉢	13.0	(4.7)	－	明黄褐色 橙色・暗灰黄色 にぶい黄褐色	体部から口縁部は緩く湾曲し、口縁端部は丸く収める。内面粗いハケ、底部から口縁部は螺旋状に施される。外面ナデ。	
436	D区	ST2012	弥生土器 鉢	11.1	(4.9)	－	橙色 〃 灰色	底部は押し潰した様な丸底状。体部から口縁部は緩く内湾し、外上方に延びる。端部は凹面状を呈す。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。器面に小・中規模の裂孔が見られる。	
437	D区	ST2012	弥生土器 鉢	12.1	7.0	4.0	浅黄橙色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	底部は粘土貼付底風に緩い凸面を成す。体部から口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。器面に小規模の裂孔が見られる。	
438	D区	ST2012	弥生土器 鉢	12.8	(4.5)	－	にぶい黄橙色 灰黄褐色 灰色	体部から口縁部は丸味を持ち、端部は水平な面を成す。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。器面に小規模の裂孔が見られる。	
439	D区	ST2012	弥生土器 鉢	13.6	5.1	3.1	にぶい橙色 〃 浅黄色	底部は緩い凹状。体部から口縁部は緩やかに外反する。内面ナデ、浅い凹凸面を残し、底部に煤付着。外面ナデ、小裂孔、砂粒の抜け痕が残り、一部に煤付着。	
440	D区	ST2012	弥生土器 鉢	12.9	(5.0)	－	橙色 明褐色 橙色	丸底状の底部。体部は丸味を帯び、口縁部は凹面状を呈し、外側にやや肥厚する。内面篦状工具によるナデ、外面ナデ。器面に小裂孔が多い。火襷風に煤付着。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
441	D区	ST2012	弥生土器 鉢	13.8	(6.6)	–	灰黄褐色 〃 〃	体部から口縁部は緩やかに外上方に延び、端部で上方に延びる。端部は細く丸く収める。内面放射状のナデ。外面ナデ、口縁端部は横方向のナデ、浅い凹凸面を残す。	
442	D区	ST2012	弥生土器 鉢	14.9	6.2	3.0	にぶい橙色 灰黄褐色 褐灰色	底部は狭い平底状で、端部は不明瞭。内面ナデの後ミガキ、赤色顔料付着。外面口縁部はナデ、体部以下はハケが卓越、体部中位には煤が帯状に付着。	
443	D区	ST2012	弥生土器 鉢	15.3	6.9	–	橙色 にぶい黄橙色 〃	底部は丸底状。内面ヘラミガキ様の丁寧なナデ、底部に煤付着。外面ナデ、底部に篦条工具による圧痕、砂粒の抜け痕、小さな裂孔を残す。	
444	D区	ST2012	弥生土器 鉢	17.0	6.6	3.0	明黄褐色 にぶい黄橙色 褐灰色	底部は緩い凹状。体部は丸味を持つ。内面ナデ、底部に押圧痕、体部にケズリ・ハケ。外面ナデ、底部に篦状工具による圧痕、周囲に強いナデ。	
445	D区	ST2012	弥生土器 鉢	18.5	8.2	4.6	浅黄橙色 橙色 浅黄橙色	底部は緩い凸面状を成し、端部は不明瞭。体部は丸味を持ち、口縁部は上方に延びる。端部は平坦面を呈す。内外面ともナデ。外面砂粒の抜け痕や小規模の裂孔が残る。	
446	D区	ST2012	弥生土器 鉢	19.4	8.6	6.4	橙色 〃 にぶい黄橙色	底部はやや突出した緩い凹面を成す。体部から口縁部は緩く外上方に延び、端部は概ね丸く収める。内外面ともナデ。器面に小規模の裂孔が多く見られる。	
447	D区	ST2012	弥生土器 鉢	19.3	(2.7)	–	橙色 にぶい橙色 灰オリーブ色	口縁端部は面を成し、一部は中央部が窪む。内面ミガキ様のナデ、外面横方向のナデ。	
448	D区	ST2012	弥生土器 鉢	–	(4.3)	5.8	にぶい橙色 にぶい黄橙色 灰色	底部は粘土貼付底風に突出し、緩い凹凸面を成す。体部は内湾して外上方に立ち上がる。内面ナデ、放射状に篦状工具の端部による圧痕が残る。外面螺旋状のタタキ。	
449	D区	ST2012	弥生土器 鉢	–	(6.3)	2.0	明赤褐色 橙色 暗灰黄色	底部はやや突出した緩い凸面を成し、端部は不明瞭。体部は丸味を持つ。内面ナデ、外面タタキ。	
450	D区	ST2012	弥生土器 鉢	10.1	(7.9)	–	橙色 〃 黄灰色	頸部は緩く屈曲し、鍔状の口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は細く丸く収める。内面口縁部ハケ、胴部ナデ。外面タタキの後ナデ、小・中規模の裂孔、浅い凹凸面。	
451	D区	ST2012	小型丸底土器 鉢	9.4	(4.3)	–	にぶい黄橙色 〃 浅黄色	体部は丸味を帯び、弱い屈曲の後口縁部は短く外上方に延びる。端部は凹面を成す。内面ナデ、外面粗いハケ・ナデ。	
452	D区	ST2012	弥生土器 鉢	10.2	5.1	3.2	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	底部はやや突出し、緩い凸状。体部は丸味を帯び、口縁部は弱い屈曲の後、鍔状に短く外上方に延びる。内外面ともヘラナデ。器面に小裂孔。外面口縁部の一部に煤付着。	
453	D区	ST2012	弥生土器 鉢	10.0	6.9	–	浅黄橙色 明黄褐色 黄灰色	底部は尖り気味の丸底状。口縁部は僅かに屈曲し、短く外上方に開く。端部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面ナデ、口縁部ハケ。外面タタキ。器面に裂孔。	
454	D区	ST2012	小型丸底土器 鉢	12.0	(5.9)	–	橙色 暗灰色 灰色	丸味を帯びた胴部で、開いた頸部で屈曲し、口縁部は短く直線的に外上方に開く。内面口縁部はハケの後ナデ、体部はナデ、中位より下に赤色顔料が付着。外面ハケ。	
455	D区	ST2012	弥生土器 鉢	17.0	(5.2)	–	橙色 〃 浅黄橙色	丸味を帯びた胴部。口縁部下で屈曲し、口縁部は直線的に短く外上方に開く。端部は細く尖り気味で、外側にやや肥厚。内面ナデ、口縁部横方向のナデ。外面タタキ。	
456	D区	ST2012	弥生土器 鉢	–	(4.2)	3.8	にぶい黄橙色 浅黄橙色 黄灰色	底部は緩い凸状。底部端は明瞭で、体部は下位で外反する。内面底部から螺旋状にハケを施す。外面タタキの後ナデ、底部縁辺に押圧痕。器面に小・中規模の裂孔。	
457	D区	ST2012	弥生土器 鉢	–	(22.2)	8.3	浅黄橙色 〃 褐灰色	底部は平底状。胴部上位は内湾し、屈曲の後口縁部は外反すると見られる。内面ハケ、篦状工具によるナデ。外面タタキ。	
458	D区	ST2012	弥生土器 甑	17.2	10.0	4.7	明赤褐色 〃 明赤褐色・黄褐色	底部は突出し、緩い凸状。直径1.0cmの円孔を焼成前に穿つ。内面細かい単位のハケ、口縁端部は横方向のナデ。外面タタキ、口縁端部横方向のナデ。	
459	D区	ST2012	弥生土器 高杯	22.4	(5.6)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	杯部は接合部で屈曲の後、口縁部は外反する。端部は面を成す。内面ナデ・ミガキ。外面ハケの後ナデ。	
460	D区	ST2012	弥生土器 高杯	20.0	(4.0)	–	明黄褐色 橙色 橙色・にぶい黄色	口縁部は接合部で屈曲の後、緩く外反して外上方に立ち上がる。端部は丸味を持った面を成す。内面ナデ・ミガキ、外面ナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
461	D区	ST2012	弥生土器 高杯	20.0	(3.7)	–	浅黄橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	杯部か。接合部で屈曲し、緩く外反する。端部は丸く収め、一部は丸味を持った面を成す。内面ハケの後ナデ、口縁部横方向のハケ。外面ハケ、口縁部縦方向のハケ。	
462	D区	ST2012	弥生土器 高杯	–	(7.9)	–	橙色 にぶい黄橙色 にぶい黄色	脚部は中位で緩く屈曲し、裾部で広がる。内面杯部ハケの後ミガキ、脚部はナデ又はハケで、上位にケズリの痕跡が残る。外面ハケ。	
463	D区	ST2012	弥生土器 高杯	–	(2.3)	10.8	にぶい黄橙色 〃 灰色	脚部は直線的に緩く広がり、屈曲の後裾部は大きく開く。端部は面を成し、上側に肥厚する。内面脚部はナデ、裾部はハケの後ナデ。外面ハケの後ナデ。	
464	D区	ST2012	土師器 高杯	–	(7.6)	17.6	黒褐色 橙色 褐灰色	脚部は下方に直線的に延びた後、裾部で内湾気味に広がる。脚部裾に外側から直径1.0cmの円孔を穿つ。端部は丸味を帯びた面を成す。内面ハケ、外面ナデ。	
465	D区	ST2012	弥生土器 器台	17.0	(2.5)	–	橙色 〃 〃	鼓型器台。接合部で屈曲し、口縁部は外反して外上方に延びる。端部は丸く収める。内面口縁部及び外面体部に櫛描波状文。内外面ともナデ。	
466	D区	ST2012	弥生土器 器台	6.0	7.2	8.3	橙色 〃 にぶい黄橙色	杯部は浅い皿状。台部は裾部へ向かって緩く外反する。杯部は内外面ともナデ。台部内面は横方向の篦状工具によるナデ、裾部は横方向のナデ。内外面に赤色泥が付着。	
467	D区	ST2012	土製品 器台	–	(1.9)	7.4	橙色 〃 にぶい黄橙色	台部は外反の後直線的に外下方に広がる。外面に断面角丸三角形状の突帯が巡る。端部は丸く収める。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。	
468	D区	ST2012	ミニチュア 土器	4.8	1.3	3.8	浅黄橙色 〃 黄灰色	浅い鉢状を呈す。緩い凸面状の底部から口縁部はやや上方に延び、端部は丸く収める。内外面ともナデ、押圧痕を残す。	
469	D区	ST2012	ミニチュア 土器	7.8	(2.6)	–	橙色 〃 にぶい黄橙色	鉢形を呈す。体部上位で屈曲し、口縁部は短く外上方に延びる。端部は凹面を成す。内面ナデ、外面ハケ・ナデ。	
470	D区	ST2012	ミニチュア 土器	6.8	4.3	2.3	にぶい黄橙色 〃 〃	底部は緩い凸面状を呈す。体部から口縁部は緩く内湾して立ち上がる。端部は細く丸く収める。内面ナデ。外面ハケの後ナデ、口縁端部に押圧痕、底部にタタキが残る。	
471	D区	ST2012	ミニチュア 土器	3.6	(3.9)	–	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	甕形を呈す。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は短く外反する。内面ナデ、押圧痕及び絞り目が残る。外面ナデ・タタキか。	
472	D区	ST2012	ミニチュア 土器	4.2	(3.9)	–	にぶい黄橙色 灰黄褐色 黄灰色	甕形を呈す。胴部は丸味を帯び、口縁部は上方に延びる。端部は細く尖り気味に収める。内面ナデ、押圧痕が残る。外面タタキ・ナデ。	
473	D区	ST2012	土製品 支脚	–	7.9	10.5	にぶい黄橙色 〃 灰黄色・にぶい褐色	脚部は外反し、部分的に大きく外上方に開く。内面ナデ、押圧痕が残る。外面螺旋状にタタキが施される。	
474	D区	ST2012	土製品 支脚	–	10.8	8.2	黄褐色 にぶい黄色 〃	支部は欠損する。脚部は緩く外反し、端部は太く丸く収める。内外面ともナデ。部分的に筋状の工具圧痕が残る。	
475	D区	ST2012	土製品 支脚	–	9.0	–	褐灰色・にぶい黄橙色 にぶい褐色 にぶい橙色	支部先端及び脚部下部を欠損。外面タタキ・ナデ。押圧痕を残す。	
476	D区	ST2012	土製品 支脚	–	7.0	–	– にぶい黄橙色・黄灰色 –	支部は直線的に延び、先端で内側に短く屈曲する。端部は扁平で、先端は丸く収める。上面はナデ、下面及び外面は押圧痕を残す。	
477	D区	ST2012	土製品 支脚	–	5.0	–	にぶい橙色 にぶい黄橙色 にぶい橙色	柱状で上面に皿状の受け部が付く支脚の一部か。外面に押圧痕を残し、ナデを施す。脚部は概ね垂直方向に延び、裾部で外方向に広がる。底部は碁笥底状に中央が窪む。	
478	D区	ST2012	土製品 支脚	–	13.0	–	にぶい黄橙色 〃 にぶい黄橙色・褐灰色	双方に伸びる角状の支部を持つ支脚。片側の支部と下半の多くを欠損する。上位に接合痕、下方にタタキ目が残る。支部間の中央に直径0.8cmの円孔を焼成前に穿つ。	
479	D区	ST2012	石製品 石包丁か	全長 5.9	全幅 3.6	全厚 0.6	–	剥離が著しく、縁片は鋭利。背部は弧状で刃部は直線的。泥質。重量16.0g	
480	D区	ST2012	石製品 石包丁か	全長 6.3	全幅 4.0	全厚 1.0	–	河原石の一部を欠いた剥片を用い、背部は打割時のままで、刃部はやや弧を描く。両側縁は中位を浅く抉る。泥岩。重量27.0g	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
481	B区	ST2013	弥生土器 壺	11.0	(6.2)	–	橙色 〃 灰色	複合口縁壺の口縁部。口縁端部は僅かに内傾する。内面横方向のナデ、指頭圧痕が残る。外面ハケの後ナデ。	
482	B区	ST2013	弥生土器 甕	9.8	(4.1)	–	にぶい黄橙色 浅黄色 黄灰色	小型の甕。口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。内面口縁部は横方向のハケ、頸部以下はナデ。外面タタキ。	
483	B区	ST2013	弥生土器 甕	14.8	18.5	4.5	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色 灰色	底部は小さな平底状。胴部最大径は上位で、口縁部は短く外反する。内外面とも口縁部横方向のナデ。内面頸部以下は丁寧な縦方向のナデ、外面はタタキ。	
484	B区	ST2013	弥生土器 甕か	–	(6.5)	–	にぶい黄橙色 浅黄色 灰黄色	丸底状の底部片。外面タタキ。	
485	B区	ST2013	弥生土器 甕	12.8	(5.2)	–	にぶい黄橙色 灰黄褐色 〃	内面口縁部ハケ、胴部ナデ。外面口縁部ナデ、胴部タタキ、口縁部の一部に煤付着。	
486	B区	ST2013	弥生土器 甕	–	(5.2)	–	黄褐色 〃 浅黄橙色	丸底状の底部片。外面胴部下位はタタキの後ハケ、底部はタタキ。	
487	B区	ST2013	小型丸底土器 鉢	8.8	(2.0)	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 〃	口縁部片か。僅かに内湾する。器壁が薄く、器面は丁寧なナデ。精緻な胎土。	
488	B区	ST2013	弥生土器 鉢	10.7	4.5	5.4	淡黄色 〃 灰色	底部は平底状。器壁が薄く、焼成良好。内面丁寧なハケ、外面タタキの後ナデ。	
489	B区	ST2013	弥生土器 鉢	11.6	(5.4)	–	にぶい黄橙色 灰黄褐色 にぶい黄橙色	底部は丸底状とみられる。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ナデ。	
490	B区	ST2013	土師器 鉢	13.4	(5.1)	–	灰白色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	外面縦方向のハケ。摩耗が著しく調整は不明瞭。	
491	B区	ST2013	弥生土器 鉢	14.0	(4.0)	–	橙色 にぶい黄橙色 灰色	内面は赤色顔料が塗布される。内面丁寧なナデ。外面はタタキの後ナデ、一部に煤付着。	
492	B区	ST2013	弥生土器 鉢	–	(5.3)	3.0	にぶい黄橙色 にぶい黄色 黄灰色	内面は斜方向のハケ。外面タタキ、底部以外はタタキを丁寧にナデ消す。器壁薄い。外面底部に葉脈状の圧痕。	
493	B区	ST2013	弥生土器 鉢	14.5	6.7	3.7	明黄褐色 橙色 浅黄橙色	底部は小さな平底状。内面篦状工具によるナデ、外面タタキ・ナデ。外面底部に葉脈状の圧痕が残る。	
494	B区	ST2013	弥生土器 高杯	12.5	9.7	18.4	にぶい黄橙色 〃 灰色	杯部は椀状で、裾部は大きく広がる。裾部の4カ所に円孔が認められる。杯部は内外面ともハケの後丁寧なナデ。裾部内面ハケ、外面はハケの後放射状のヘラミガキ。	
495	B区	ST2013	土師器 杯	–	(9.5)	11.5	淡黄色 〃 オリーブ黒色	内面ハケ。外面裾部は縦方向のハケの後横方向のミガキが施される。	
496	B区	ST2013 (P1)	ミニチュア 土器	5.9	6.7	1.6	橙色 明黄褐色 –	手づくね成形。内外面ともナデ、指頭圧痕が残る。	
497	B区	ST2013	須恵器 甕	–	(3.0)	–	にぶい黄褐色 褐色 黄灰色	内外面ともナデ。褐色の自然釉がかかる。	
498	C区	ST2015	弥生土器 壺	–	(4.1)	–	橙色 にぶい橙色 〃	胴部上位の沈線帯。5条以上の篦描沈線で、断面形はV字または逆台形状を呈す。内外面ともナデ。	
499	C区	ST2015	土師器 甕	17.6	(14.8) (19.7)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	頸部は直立し、口縁部は外反する。内面ケズリの後ナデ、口縁部は横方向のナデ。外面口縁部は横方向のナデ、胴部は縦・横方向の粗いハケ、底部粗いハケ。	
500	C区	ST2015	土師器 甕	16.3	(10.5)	–	橙色 〃 〃	口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。内面ケズリの後ナデ。外面口縁部ナデ、胴部ハケ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
501	C区	ST2015	弥生土器 甕	15.7	(2.8)	–	橙色 〃 黒褐色	口縁部は外反する。端部は内・外にやや肥厚し、面を成す。内側には弱い段が形成される。内外面ともナデ。	
502	C区	ST2015	土師器 甕	15.9	(4.5)	–	にぶい橙色 にぶい黄褐色 にぶい橙色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は短く外反する。端部は丸く収める。内面口縁部ナデ、胴部はケズリの後ナデ。外面口縁部ナデ、胴部はハケ。	
503	C区	ST2015	土師器 甕	–	(12.2)	–	橙色 〃 にぶい黄橙色	底部は丸底状。胴部へ向かって連続的に内湾する。内面ケズリの後ナデ、外面ハケ。	
504	C区	ST2015	弥生土器 壺	–	(4.3)	6.6	にぶい黄橙色 〃 黒褐色	底部は平底状。胴部は直線的に立ち上がる。内面ケズリ。外面ナデ、一部ミガキ。	
505	H区	ST2015	土師器 甑	–	(11.9)	11.9	にぶい橙色 橙色 浅黄橙色	底部端から胴部は緩く内湾して立ち上がる。底部端は面を成す。内面ケズリの後、底部には丁寧なナデが入るが、多くは削り痕を残す。外面ハケ。	
506	C区	ST2015	弥生土器か 鉢	9.6	5.3	5.4	橙色 〃 〃	底部は平底状。体部から口縁部は緩く内湾して立ち上がる。端部の仕上げは様々で、丸味を持つ部分もある。内面ナデ。外面ナデ、押圧痕を多く残す。	
507	C区	ST2015	弥生土器 高杯	–	(10.0)	10.7	橙色 〃 〃	杯部は内湾して延び、口縁部は欠損する。脚部は緩く外反し、裾端部は丸く収める。内面ナデ。外面杯部はナデ、脚部はハケ。	
508	H区	ST2015	須恵器 蓋	13.9	4.2	–	灰色 〃 オリーブ灰色	天井部から口縁部は内湾し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面天井部にはロクロ目を残す。外面天井部にケズリ。	
509	C区	ST2015	須恵器 杯身	10.4	(3.0)	–	灰色 〃 〃	口縁部は緩く内湾し、受け部は外上方へ延びる。かえりは長く、やや内傾する。内外面とも回転ナデ。外面体部ロクロ目顕著。器面に小規模な円・裂孔。受け部径 13.1cm	
510	C区	ST2015	須恵器 杯身	13.5	(2.7)	–	灰色 〃 〃	受け部は外上方へ開き、端部は丸く収める。かえりは高く上方に延び、やや内傾する。受け部径 16.2cm	
511	C区	ST2015	須恵器 杯身	13.4	3.6	6.8	灰黄色 灰白色 灰黄色	口縁部は直線的。受け部は外方に短く延びる。内面回転ナデ、見込みロクロ目顕著。外面ナデ、底部はケズリの後ナデか。器面に小・中規模の円・裂孔。受け部径 16.1cm	
512	C区	ST2015	須恵器 杯	13.5	3.8	8.0	灰白色 〃 〃	底部端から体部は内湾し、口縁部は直線的に立ち上がる。端部は丸く収める。内外面ともナデ。	
513	C区	ST2015	須恵器 杯	–	(3.0)	10.0	灰白色 〃 〃	底部の端寄りに断面不整方形の高台が付く。高台端部は緩い凸面を成し、内側にやや肥厚する。体部は腰折風に屈曲。内外面ともナデ。器面に小規模な円・裂孔が存在。	
514	C区	ST2015	須恵器 高杯か	14.8	(2.8)	–	黄灰色 灰白色 黄灰色	器壁厚い。杯体部から口縁部は緩く内湾して立ち上がる。端部は太く丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
515	C区	ST2015	須恵器 高杯か台付椀	11.0	(3.4)	–	灰色 灰白色 灰色	体部は内湾して延び、口縁部で緩く外反する。端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。胎土中に大規模の裂孔が見られる。	
516	C区	ST2015	須恵器 甕	14.0	(7.2)	–	灰色 〃 灰黄褐色	胴部は内湾し、頸部から口縁部は外反する。口縁端部は外側に肥厚し、太く丸く収める。内面口縁部ナデ、胴部は同心円文。外面口縁部はナデ、胴部はタタキの後ナデ。	
517	C区	ST2015	須恵器 壺	–	(3.6)	–	暗灰黄色 黄灰色 浅黄色	外面に6条1単位の櫛描波状文を2単位以上施す。区画として浅い凹線1条を有する。内面に自然釉がかかる。胎土中に小規模な円・裂孔が見られる。	
518	C区	ST2015	須恵器 提瓶	6.4	(18.5)	–	灰色 灰黄色 灰褐色	口縁部は基部から斜上方に直線的に延びる。胴部の正面は扁平な凸面状で、側面に鍵状の把手。内面回転ナデ。外面口縁部回転ナデ、基部はナデ、胴部は回転カキ目。	
519	C区	ST2015	石製品 砥石	全長 6.0	全幅 5.7	全厚 1.0	–	砂岩製。母岩の自然面を両側面に残す。両主面に打割時の剥離面を滑らかに消す程度の使用痕が認められる。端面は直線的な縁を指向して打ち欠く。重量 39.0g	
520	C区	ST2015	石材 剥片	全長 6.2	全幅 4.5	全厚 1.0	–	母材を打割し、自然面を残す。縁辺の一部に摩滅痕と見られる痕跡が残る。重量 33.0g	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
521	D区	ST2016	弥生土器 壺	14.6	(2.8)	–	にぶい黄橙色 〃 灰白色	口縁部は外反。粘土帯の接合で端部で２度の段部が形成される。端部は広い面を成し、外側へ肥厚する。口縁端部に篦状工具による斜位の刻みが施される。内外面ともナデ。	
522	D区	ST2016	弥生土器 壺	21.4	(8.4)	–	暗灰黄色 橙色 黄灰色	胴部から頸部は緩く屈曲し、口縁部は外上方に延びる。端部は面を成す。内面ナデ。外面タタキの後ハケ、口縁部は縦方向のハケ。	
523	D区	ST2016	弥生土器 壺	–	(8.6)	–	明黄褐色 〃 オリーブ黒色	胴部は上位で緩く内湾する。内面ナデ、胴部に爪痕を残す。外面ハケ。	
524	D区	ST2016	弥生土器 壺	–	(3.9)	6.2	浅黄橙色 にぶい黄橙色 灰色	底部は平底状で、中央部は緩い凹状になる。胴部下位は外反する。内面ナデ・ハケ、外面ヘラナデ。	
525	D区	ST2016	弥生土器 甕	9.4	(7.9)	–	にぶい橙色 にぶい褐色 黒褐色	胴部最大径は中位。中位から直線的に頸部の屈曲に延びる。口縁端部は丸く収め、外側にやや肥厚する。内面口縁端部横方向のナデ、外面口縁部以下は縦方向のヘラナデ。	
526	D区	ST2016	弥生土器 甕	17.0	(3.7)	–	にぶい黄橙色 〃 灰色	頸部の屈曲は急で、口縁部は短く外反する。端部は面を成し、外側に肥厚する。内外面とも概ね横方向のナデ。内面ヘラナデの痕跡、外面口縁端部に押圧痕が残る。	
527	D区	ST2016	弥生土器 甕	12.0	(11.9)	–	浅黄橙色 にぶい黄橙色 褐灰色	胴部上位から頸部で緩く屈曲した後、口縁部は短く直線的に外上方に延びる。端部は尖り気味に丸く収める。内面口縁部ハケ、胴部ナデ。外面タタキ、一部に煤付着。	
528	D区	ST2016	弥生土器 鉢	15.0	(5.0)	–	橙色 にぶい黄橙色 橙色・灰色	体部から口縁部は緩く外反する。内外面ともナデ。口縁部横方向のナデ、体部に浅い凹凸面が残る。	
529	D区	ST2016	弥生土器 高杯	–	(2.3)	–	にぶい黄色 橙色 灰黄色	口縁部は外上方に延び、後に短く外反する。端部は細く丸く収める。内外面ともナデ。	
530	D区	ST2016	弥生土器 高杯	25.9	(8.3)	–	橙色 〃 にぶい黄橙色・灰色	杯部は緩く外反し、屈曲の後上方に延びる。端部は平坦面状。内面口縁部横方向のナデ、体部ハケの後ヘラミガキ。外面口縁部横方向のナデ、体部粗いハケ又はハケ。	
531	D区	ST2016	須恵器 蓋	18.0	(1.5)	–	灰色 灰色・明オリーブ灰色 黄灰色	口縁部はやや緩い屈曲の後、短く下方に向かう。端部は丸く収める。内外面ともナデ。外面の一部に灰が付着する。	
532	D区	ST2016	須恵器 高杯	–	(2.9)	–	灰色 〃 〃	口縁部は外上方に延びる。受け部は短く外方に張り出し、かえりは断面三角形状を成し、内上方に延びる。受け部径 17.2cm	
533	D区	ST2016	石製品 石斧	全長 4.3	全幅 1.3	全厚 0.7	–	扁平片刃石斧。片側の側縁部以外は欠損。刃部の稜に擦痕が密に残る。刃端部に斜・横方向の擦痕や線条痕。欠損後にも、小型の斧として使用したか。頁岩製。重量 7.0g	
534	D区	ST2016	石材 剥片か	全長 6.8	全幅 1.1	全厚 0.6	–	一片に打痕が連続して加えられたものか。重量 4.0g	
535	D区	ST2017	弥生土器 壺	28.2	(2.4)	–	橙色 にぶい橙色 〃	口縁部は外反する。端部は面を成し、上下に肥厚する。口縁端部に３条の沈線状のナデが巡る。内外面ともナデ。	
536	D区	ST2017	弥生土器 壺	24.6	(2.6)	–	黒褐色 明褐色 にぶい褐色	口縁部は内傾する面を成し、上下に肥厚する。口縁端部に３条の凹線、１単位３個以上の竹管刺突文。内面横方向のナデ・ヘラミガキ、外面ナデ。内外面の一部に煤付着。	
537	D区	ST2017	弥生土器 壺	13.2	(4.7)	–	橙色 〃 橙色・灰色	口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側に肥厚する。内面ナデ、口縁端部は横方向の細かいハケ又はナデ。外面縦方向の細かいハケ、口縁端部は横方向のナデ。	
538	D区	ST2017	弥生土器 壺	20.0	(5.7)	–	橙色 〃 灰色	口縁部は外反する。端部は面を成し、上下に肥厚する。内外面ともナデ。口縁端部に２条の凹線と斜方向の刻み又は列点文か。	
539	D区	ST2017	弥生土器 壺	–	(4.8)	–	橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	胴部上位から頸部片。胴部上位に列点文が施される。内面ナデ、粘土接合部に押圧痕。外面ハケの後ミガキ。	
540	D区	ST2017	弥生土器 壺	–	(3.9)	–	にぶい黄褐色 にぶい赤褐色 にぶい黄褐色	胴部上位に１単位６条の篦描沈線帯が巡る。内外面ともナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
541	D区	ST2017	弥生土器 壺	－	(2.6)	6.5	灰黄褐色 黒褐色 〃	平底状の底部片で底部端は明瞭。内外面ともナデ。	
542	D区	ST2017	弥生土器 甕	13.1	20.7	5.0	にぶい黄橙色 浅黄色 浅黄色・灰色	底部は平底状。胴部最大径は中位やや上で、口縁部は短く外反。内面ハケの後ナデ、接合部に押圧痕。外面ハケの後ナデ、胴部中位から口縁部にタール付着。	
543	D区	ST2017	弥生土器 甕	13.4	(15.9)	－	にぶい褐色・暗褐色 にぶい黄褐色・黒褐色 にぶい黄橙色	丸味を帯びた胴部から頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は直線的に短く外上方に開く。端部は面を成し、外側に肥厚する。内面ナデ・ケズリ、外面ナデ・ハケ。	
544	D区	ST2017	弥生土器 甕	17.5	(13.2)	－	橙色 にぶい黄橙色 〃	胴部は丸味を帯び、頸部はくの字状。口縁部は直線的に外上方に延び、端部は丸く収める。内面ナデ、口縁部は細かいハケの後ナデ、一部に煤付着。外面タタキ、一部ハケ。	
545	D区	ST2017	弥生土器 甕	17.2	(1.7)	－	橙色 浅黄橙色 〃	口縁部は外反する。端部は内傾する面を成し、上下に肥厚する。内外面とも横方向のナデ・細かいハケ。	
546	D区	ST2017	弥生土器 甕	15.6	(4.4)	－	橙色 〃 黄灰色	頸部は緩く屈曲し、口縁部は外上方に延びる。端部は面を成し上下に肥厚、２条の沈線又は凹線が巡る。内面横方向のハケ、胴部ナデ。外面横方向のナデ、一部に煤付着。	
547	D区	ST2017	弥生土器 甕	－	(12.9)	5.6	橙色 黄橙色 橙色	底部は平底状で、緩く窪んだ面を成す。底部端から胴部は先ず緩やかに外上方に開き、後に内湾する。内面ナデ、外面粗いハケ。	
548	D区	ST2017	弥生土器 甕	－	(14.1)	－	黄褐色 にぶい黄色 黄灰色	胴部片。緩く外上方に開く。内面ナデ。外面ヘラミガキ、胴部中位に煤付着。	
549	D区	ST2017	弥生土器 甕	－	(3.0)	6.4	にぶい黄橙色 橙色 黄灰色	底部は平底状。底部端は稜を成し、胴部下位は先ず僅かに上方に延び、後に直線的に外上方に開く。内外面ともナデ。内面底部に煤付着。	
550	D区	ST2017	弥生土器 鉢	11.2	(3.6)	－	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	体部は外上方に延び、口縁部で屈曲し、短く外上方に延びる。端部は丸く収める。内面ヘラミガキ。外面口縁部横方向のナデ、体部ヘラミガキ。	
551	D区	ST2017	弥生土器 台付鉢	－	(2.7)	5.3	黒褐色 にぶい黄橙色 黒褐色	台付鉢の脚部片。裾部は短く外反し、端部は太く丸く収める。底部は凹面状を成す。内外面ともナデ。外面に押圧痕を残す。	
552	D区	ST2017	弥生土器 高杯	26.9	(4.2)	－	明黄褐色 浅黄橙色 灰白色・浅黄橙色	接合部で屈曲し、口縁部は外上方に延びる。内面縦方向のヘラミガキ、口縁部下の屈曲部に篦状工具の圧痕が残る。外面口縁部横方向のナデ・ヘラミガキ、体部ヘラミガキ。	
553	D区	ST2017	弥生土器 高杯	－	(4.0)	18.8	黒色 浅黄橙色 黄灰色	脚部片。裾部は外反し大きく開く。端部で厚みが増す。内面ナデ、裾部端で横方向のナデ。外面ハケ、裾部端で横方向のナデ。	
554	D区	ST2017	白磁 碗	11.8	(3.5)	－	灰白色 〃 〃	体部は斜外方に緩やかに延び、口縁部は玉縁状を呈す。内外面とも白磁釉が施される。	
555	D区	ST2017	土製品 土錘	全長 3.4	全幅 1.1	全厚 1.2	－ にぶい黄橙色 －	管状土錘。中心に直径0.5cmの楕円形孔を穿つ。	
556	D区	ST2018	弥生土器 壺	21.5	(5.4)	－	橙色 〃 黒褐色	口縁部は先ず上方に延び、後に大きく外反する。端部は上下に肥厚し凹面状を成す。内面ナデ、口縁端部は横方向のナデ。外面縦方向のハケ、口縁端部は横方向のナデ。	
557	D区	ST2018	弥生土器 壺	11.8	(6.0)	－	にぶい黄橙色 〃 黒褐色	口縁部は外反する。端部は面を成し、外側に肥厚する。端部に篦状工具による刻みを施す。内外面ともハケの後ナデ、口縁端部は横方向のナデ。	
558	D区	ST2018	弥生土器 壺	－	(5.3)	7.6	オリーブ黒色 暗灰黄色 〃	底部は平底状。胴部は直線的に外上方に延びる。内面ナデ又は篦状工具によるナデ、外面篦状工具によるナデ。	
559	D区	ST2018	弥生土器 壺	－	(4.8)	－	灰黄褐色 〃 〃	丸底状の底部。内外面ともナデ。	
560	D区	ST2018	弥生土器 甕	16.6	(3.4)	－	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色 灰色	頸部はくの字状で、口縁部は直線的に延びる。端部は内傾する面を成し、上下に肥厚する。口縁端部に３条の凹線がめぐる。内外面ともナデ。外面の一部に煤付着。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
561	D区	ST2018	弥生土器 甕	13.3	(6.3)	–	にぶい橙色 にぶい褐色 にぶい褐色・灰色	頸部は湾曲し、口縁部は直線的に外上方に延びる。内面ナデ、口縁部は横方向のナデ、胴部ケズリ。外面ナデ、口縁部横方向のナデが顕著。一部に煤付着。	
562	D区	ST2018	弥生土器 甕	–	(6.3)	–	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	底部は丸底状。胴部下位は外反する。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後粗いハケ。	
563	D区	ST2018	弥生土器 甕	–	(3.6)	4.0	橙色 〃 灰色	底部は緩い凸面状を呈し、端部は比較的明瞭。内面ナデ又は細い単位のハケ、底部に押圧痕を残し、一部に煤付着。外面タタキ。外面底部タタキ。	
564	D区	ST2018	弥生土器 甕	–	(4.8)	4.6	灰黄褐色 褐灰色 〃	底部は緩い凸面状を呈す。内面ナデ、外面篦状工具によるナデ。	
565	D区	ST2018	弥生土器 甕	–	(4.0)	5.0	にぶい黄橙色 〃 〃	底部は平底状。底部端は明瞭な稜線を成し、胴部は緩く外反して外上方に延びる。内面ハケの後ナデ、外面タタキ。	
566	D区	ST2018	弥生土器 壺か甕	–	(3.4)	4.2	淡黄色 〃 黄灰色	底部は狭い平底状。内面ナデ・ハケ、外面タタキ。	
567	D区	ST2018	弥生土器 鉢	15.0	(3.7)	–	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	体部から口縁部は緩く湾曲し、端部は尖り気味に丸く収める。内面細かいハケ、口縁端部に押圧痕。外面タタキの後ナデ。器面に裂孔がみられる。	
568	D区	ST2018	弥生土器 鉢	–	(5.4)	4.6	浅黄色 灰白色 黄灰色	底部は押し潰した平底状で、緩い凸面状を成し、端部は不明瞭。内面ハケ、底部ナデ。外面タタキ。	
569	D区	ST2018	弥生土器 鉢	9.2	(3.8)	–	にぶい黄橙色 〃 黒褐色	体部は内湾し、口縁部は内上方に延びる。端部は尖り気味に丸く収める。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ナデ。	
570	D区	ST2018	弥生土器 鉢	–	(4.8)	–	橙色 橙色・にぶい褐色 黄灰色	底部は小さく突出する。胴部下位は大きく外反する。内面ミガキ、外面ハケ。	
571	D区	ST2018	弥生土器 鉢	–	(2.1)	10.6	にぶい黄橙色 〃 灰色	底部は緩い凸面状を呈し、端部は不明瞭である。内面ナデ、外面タタキ。	
572	D区	ST2018	弥生土器 高杯か台付鉢	10.5	(6.0)	–	にぶい黄橙色 〃 黒褐色	脚部は挿入法で接合か。杯部は下位で外方に開き、口縁部で内湾し内上方に延びる。端部は太く、部分的に丸味を持った面を成す。内外面ともナデ。外面に浅い凹凸面。	
573	D区	ST2018	弥生土器 高杯	21.0	(7.3)	–	暗灰黄色 にぶい橙色 オリーブ黒色	杯部は接合部で段を成し、口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、内外に肥厚する。内面丁寧なナデ、口縁部は横方向のナデ。外面ナデ、口縁部は篦状工具によるナデ。	
574	D区	ST2018	弥生土器 高杯	15.9	(3.0)	–	にぶい褐色 にぶい赤褐色 にぶい橙色	杯体部は屈曲の後外反する。外面に6条の凹線が巡る。内面口縁部は横方向、体部は放射状のミガキ。外面体部は縦方向のミガキが卓越する。	
575	D区	ST2018	石製品 石包丁	全長 10.0	全幅 5.2	全厚 1.0	–	背部は緩い弧を描き、刃部は直線的。刃部及び表裏面の一部を滑らかに仕上げる。側縁は中位やや背側を抉る。泥質。重量68.0g	
576	D区	ST2018	石材 剥片	全長 4.1	全幅 1.6	全厚 0.4	–	一片に規模の小さな調整が連続的に施される。泥質。重量2.0g	
577	D区	ST2019 (P3)	弥生土器 壺	8.3	10.1	–	淡赤橙色 浅黄橙色 にぶい黄橙色	丸底状の底部で、胴部上位で最大径を持つ。口縁部は直線的に上方に延び、端部は丸く収める。内面ナデ、底部は凹凸面。外面口縁部は縦方向のナデ、胴部ハケの後ナデ。	
578	D区	ST2019	弥生土器 壺	–	(2.3)	–	にぶい黄褐色 〃 〃	口縁部は外反する。端部は窪んだ面を成し、外側へやや肥厚する。内外面ともナデ。	
579	D区	ST2019	弥生土器 壺	–	(1.8)	–	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色 〃	口縁部は外反する。端部は面を成し、外側に肥厚する。内面ハケの後ナデ。外面タタキ、一部に煤付着。	
580	D区	ST2019 (P3)	弥生土器 甕	15.7	(3.1)	–	黄橙色 橙色 黄橙色	頸部はくの字状と見られ、口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側にやや肥厚する。内外面ともハケ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
581	D区	ST2019 （P3）	弥生土器 甕	17.4	（3.6）	－	橙色 〃 〃	頸部から口縁部は連続的に外反し、外上方に延びる。端部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ハケ。	
582	D区	ST2019 （P3）	弥生土器 甕	13.0	（7.3）	－	橙色 黒褐色 褐灰色	胴部は丸味を帯び、頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は直線的に外上方に開き、端部は面を成し、外側に肥厚する。内面ハケの後ナデ。外面口縁部ハケ、胴部タタキ。	
583	D区	ST2019	弥生土器 甕	11.5	（3.8）	－	にぶい黄橙色 〃 灰色	頸部は緩く屈曲し、口縁部は僅かに外反する。端部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面ナデ、口縁部はハケの後ナデ。外面タタキ、口縁端部に押圧痕を残す。	
584	D区	ST2019 （P3）	弥生土器 甕	13.4	16.9	－	橙色 にぶい橙色・暗オリーブ色 灰色	底部は丸底状。頸部で屈曲し、口縁部は緩く外反する。内面口縁部ハケ、胴部はハケの後ナデ。外面タタキの後ヘラナデ又はハケ。外面底部に格子状のタタキ。	
585	D区	ST2019	弥生土器 鉢	7.1	3.6	－	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色 オリーブ黒色	底部は尖り気味の丸底。体部から口縁部は外上方に延び、端部は丸く収める。内外面ともナデ。器面に浅い凹凸面が残る。	
586	D区	ST2019	弥生土器 鉢	10.1	6.5	3.0	明黄褐色 〃 オリーブ黒色	底部は突出した狭い平底状。体部から口縁部は緩やかに斜外上方に延びる。内面ハケ、外面ナデ。器面に小・中規模の裂孔。	
587	D区	ST2019	弥生土器 鉢	11.2	5.3	－	にぶい黄橙色 〃 灰色	底部は丸底状。体部から口縁部は丸味を持って外反し、端部は尖り気味に丸く収める。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。外面底部に螺旋状のタタキ目が残る。	
588	D区	ST2019	弥生土器 鉢	18.0	8.5	－	明黄褐色 にぶい橙色 黄灰色	底部は丸底状。体部から口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ナデ。器面に浅い凹凸面が残る。	
589	D区	ST2019	弥生土器 鉢	14.0	9.6	－	にぶい黄橙色 〃 黒褐色	底部は丸底状。体部は内湾し、口縁部は内上方に延びる。端部は丸く収め、外側に肥厚する。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。外面底部に放射状の粗いハケ。	
590	D区	ST2019 （P2）	弥生土器 鉢	15.2	7.5	4.3	橙色 〃 褐灰色	底部はやや突出した小さな平底。底部端の稜は不明瞭。口縁部は緩やかに外上方に開き、端部は面を成す。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。器面に浅い凹凸面と小裂孔。	
591	D区	ST2019	弥生土器 鉢	－	（4.4）	3.2	浅黄橙色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	底部は突出し、緩い凸面を成す。内面ナデ、篦状工具の端部の圧痕が残る。外面ナデ、器面に小裂孔がみられる。	
592	D区	ST2019	弥生土器 鉢	－	（3.3）	3.0	浅黄橙色 暗灰黄色・橙色 灰黄色	底部は小さな丸底状で、狭く緩い凸面を成す。内面ナデ、外面タタキ。	
593	D区	ST2019	弥生土器 鉢	8.0	（1.4）	－	黒褐色 〃 オリーブ黒色	浅い鉢形を呈す。口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。	
594	D区	ST2020	弥生土器 壺	－	（3.2）	－	にぶい褐色 橙色 黄灰色	壺の肩部片か。外面に櫛描波状文･6条の櫛描沈線帯（櫛描直線文か）・縦方向の長楕円形の刺突文又は列点文を施す。	
595	D区	ST2020	弥生土器 鉢	－	（3.7）	2.2	浅黄橙色 淡黄色 黄灰色	底部は粘土貼付底風にやや突出し、緩い凸面を成す。体部は丸味を帯びる。内面ナデ、外面タタキ。	
596	D区	ST2020	弥生土器 鉢	－	（2.2）	3.7	橙色 〃 黄灰色	底部は粘土貼付底風にやや突出し緩い凸面を成す。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。	
597	D区	ST2020	土師器 鉢	12.6	（7.4）	－	橙色 〃 〃	体部は内湾し、口縁部は僅かに外反する。端部は丸く収め内側にやや肥厚する。内外面とも縦方向のケズリの後横方向のナデ。	
598	D区	ST2020	土師器 甕	20.2	（12.0）	－	にぶい褐色 にぶい橙色 〃	胴部から頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は外反する。端部は丸く収める。内面口縁部ナデ、胴部は縦方向のケズリ。外面粗いハケ。	
599	D区	ST2020	土師器 甕	－	（15.3）	－	にぶい黄橙色 〃 〃	胴部片。内面ケズリ、外面ハケ。	
600	D区	ST2020	土師器 甕	－	（18.5）	－	橙色 にぶい橙色 橙色	底部は丸底で、胴部は縦断面楕円形状を呈す。頸部は緩く湾曲する。内面ケズリの後ナデ、外面ナデ。外面破断面の一部に煤付着。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
601	D区	ST2020	土師器 羽釜	22.4	(5.0)	−	明黄褐色 〃 〃	口縁部は直線的に上方に延び、端部は内傾する面を成す。下部に断面方形状の鍔が巡り、端部は面を成す。内外面ともナデ。鍔の接合部は概ねナデにより消される。	
602	D区	ST2020	土師器 椀	−	(2.5)	6.7	灰白色 〃 〃	底部端に断面逆三角形状の高台が付く。内面回転ナデ・ヘラミガキ、火襷様の炭化痕が残る。外面ナデ。	
603	D区	ST2020	土師器 椀	−	(2.5)	5.6	橙色 〃 〃	平坦な底部端に断面台形状の高台が付く。内外面とも回転ナデ、ロクロ目顕著。	
604	D区	ST2020	須恵器 杯身	10.0	(2.9)	−	灰黄色 黄灰色 灰黄色	体部から口縁部は内湾し、受け部は短く外上方へ延びる。かえりは内傾し緩く外反する。内外面とも回転ナデ。受け部に自然釉が付着。受け部径 12.0cm	
605	D区	ST2020 (P3)	須恵器 杯身	13.5	(2.5)	−	灰白色 〃 〃	受け部は短く外方に延び、端部は丸く収める。かえりは直線的に内上方に延び、端部は細く尖り気味に収める。内外面ともナデ。受け部径 16.0cm	
606	D区	ST2020	須恵器 杯蓋	14.5	(3.5)	−	灰色 〃 褐灰色	口縁端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、外面天井部は回転ヘラケズリ。	
607	D区	ST2020	須恵器 杯	−	(1.5)	6.2	灰色 〃 〃	底部は円盤状に突出し、中央部はやや凹面状を呈す。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
608	D区	ST2020	鉄製品 不明	全長 7.8	全幅 2.8	全厚 1.8	−	棒状で、一方は二股となる。重量 37.0g	
609	D区	ST2020	石製品 石包丁	全長 5.1	全幅 4.3	全厚 0.9	−	磨製。片刃で、背部は弧、刃部は直線的。表面は刃部に横方向、周辺に不定方向の線条、一部に準滑面。裏面は概ね滑らかで、穿孔に伴う窪みが一部残る。泥質。重量 23.0g	
610	J区	ST2025	土師器 甕	17.9	(10.3)	−	橙色 〃 にぶい黄橙色	頸部から口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。内面口縁部はハケの後横方向のナデ、頸部以下は外上方へのケズリ。外面口縁部は横方向のナデ、胴部ハケ。	
611	J区	ST2025	弥生土器 鉢	19.4	(6.5)	−	にぶい黄橙色 橙色 にぶい黄橙色	体部から口縁部は直線的に上外方に延び、端部は丸く収める。内面ナデ、体部に横方向の箆状工具によるナデ。外面ナデ、口縁端部は横方向のナデ。	
612	J区	ST2026	弥生土器 甕	15.1	(3.3)	−	明赤褐色 黒褐色 〃	短く外反する口縁部片。口縁端部は内傾する面を成す。内外面とも横方向のナデ。	
613	K区	ST2028	土師器 杯	−	(3.5)	6.8	にぶい黄橙色 〃 〃	ベタ高台。外面底部に板状の圧痕が残る。内外面ともナデ、指頭圧痕が残る。	
614	K区	ST2028	石製品 砥石	全長 13.6	全幅 11.8	全厚 4.6	−	やや扁平で、主面の他に2面を使用する。重量 982.0g	
615	A区	ST3001	弥生土器 甕	14.6	21.7	5.8	にぶい黄橙色 〃 〃	底部は平底状。口縁部は緩やかに外反し、端部は面を成す。外面肩部に3条の微隆起突帯が巡る。胴部中位以上に煤付着。	
616	A区	ST3001	弥生土器 甕	19.6	22.3	5.4	橙色 にぶい黄褐色 〃	底部は平底状。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。外面肩部に2条の微隆起突帯が巡る。胴部上位から肩部の一部に煤付着。	
617	北区	ST1	弥生土器 壺	16.0	(2.6)	−	にぶい黄橙色 浅黄橙色 灰白色	口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側へ肥厚する。内面丁寧なナデ、外面ナデ。	
618	北区	ST1	弥生土器 壺	−	(7.5)	−	浅黄橙色 橙色 灰色	胴部下位以外は欠損する。縦断面形は球形と見られる。内面細かいハケ、外面タタキの後ハケ。	
619	北区	ST1	弥生土器 甕	16.6	(3.0)	−	暗灰黄色 〃 にぶい黄橙色	頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反し、屈曲の後短く上方に延びる。端部は丸く収める。内外面ともナデ。外面に煤付着。搬入品。	
620	北区	ST1	弥生土器 甕か	−	(3.7)	−	浅黄橙色 灰黄褐色 オリーブ黒色	底部は尖り気味の丸底状と見られる。内面ハケの後ナデ、外面タタキ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
621	北区	ST1 （SX1）	弥生土器 甕か	－	（5.3）	6.4	暗灰黄色 にぶい黄橙色・黄灰色 黄灰色	底部は平底状。胴部は底部端で緩く屈曲する。内面ナデ、押圧痕が残る。外面タタキ。	
622	北区	ST1	弥生土器 鉢	12.0	5.8	－	浅黄色 にぶい黄橙色 淡黄色	底部は丸底状。体部は下位で丸味を帯び、上位はやや直線的に外上方に開く。端部は凹面状を呈す。内面細かいハケ、底部はナデ。外面タタキの後ナデ。	
623	北区	ST1	弥生土器 鉢	13.8	（5.6）	－	橙色 〃 浅黄橙色	底部は粘土貼付底風に突出し、緩い凸面状を呈す。体部から口縁部は丸味を帯びる。端部は面を成し、外側へ肥厚する。内面ハケの後ナデ、外面タタキ。	
624	北区	ST1	弥生土器 鉢	13.5	（4.6）	－	褐灰色 〃 浅黄橙色	体部から口縁部は外上方に開き、端部は面を成す。内面ハケの後ナデ、外面タタキ。	
625	北区	ST1	弥生土器 鉢	12.8	（4.8）	－	にぶい橙色 橙色 褐灰色	体部から口縁部は丸味を帯び、端部は丸く収める。内面細かいハケ、外面タタキ。	
626	北区	ST1 （SX1）	弥生土器 鉢	15.3	（4.1）	－	浅黄橙色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	胴部から口縁部は丸味を帯び外上方に延びる。端部は凹面状を呈し、外側にやや肥厚する。内面ナデ、外面タタキ。	
627	北区	ST1 （SX1）	弥生土器 鉢	13.6	（2.4）	－	にぶい橙色 〃 灰白色	口縁部片。端部は面を成す。内面細かいハケ、口縁端部横方向のナデ。外面ナデ。	
628	北区	ST1	弥生土器 鉢	17.4	（4.7）	－	にぶい黄橙色 浅黄橙色 灰色	体部から口縁部は丸味を帯びる。端部は凹面状を呈し、外側にやや肥厚する。内面細かいハケ、外面タタキの後ナデ。	
629	北区	ST1	弥生土器 鉢	－	（3.9）	5.4	浅黄橙色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	底部は粘土貼付底風に突出する。内面細かいハケ、外面タタキの後ナデ。	
630	北区	ST1	弥生土器 鉢	－	（5.7）	－	浅黄橙色 〃 灰色	底部は尖り気味の丸底。内面細かいハケ、外面ナデ。	
631	北区	ST1	弥生土器 甕か鉢	－	（2.4）	4.4	浅黄橙色 〃 灰白色	底部は粘土貼付底風にやや突出し、緩い凸面状を成す。内面ナデ、外面タタキ。	
632	北区	ST1	弥生土器 鉢	－	（2.8）	2.6	橙色 〃 黄灰色	底部は狭い平底状。体部下位は外反する。内面ヘラナデ、外面タタキの後ナデ。	
633	北区	ST1	弥生土器 鉢	－	（3.6）	4.8	橙色 浅黄橙色 〃	底部は突出した平底状。胴部下位は外反する。内面篦状工具によるナデ。外面縦位の裂孔が多く見られる。	
634	北区	ST1	弥生土器 台付鉢	15.2	（7.7）	－	オリーブ黒色 浅黄橙色 にぶい黄橙色	鉢部は緩く斜上方に延び、口縁端部は丸く収める。内面ナデ、部分的に煤付着。外面ハケ、全面に煤付着。台の接合部にも煤付着。台部を欠き鉢部のみで使用したか。	
635	北区	ST1	弥生土器 高杯	－	（5.5）	17.8	橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	脚部は裾部にかけて連続的に外反する。端部は凹面状を呈す。内面横方向のハケ。外面縦方向のハケ、底位に横方向のナデ。	
636	北区	ST1 （SX1）	弥生土器 不明	全長 3.3	全幅 3.0	全厚 1.1	褐灰色 灰黄褐色 にぶい黄橙色	肉厚の破片。底部または底部付近のものか。内面ナデ。外面に格子状の圧痕又は篦状工具等による記号が見られる。	
637	北区	ST1	土製品 土錘	全長 3.9	全幅 1.7	全厚 1.6	－ にぶい橙色 －	管状土錘。直径 0.5cmの円孔が穿たれる。	
638	北区	ST1	土製品 土錘	全長 3.2	全幅 1.2	全厚 1.2	－ にぶい黄橙色 －	管状土錘。直径 0.4cmの円孔が穿たれる。	
639	北区	ST1	土製品 土錘	全長 5.1	全幅 1.2	全厚 1.2	－ 浅黄橙色 －	管状土錘。直径 0.4cmの円孔が穿たれる。	
640	北区	ST1	土師器 皿	10.0	2.1	7.0	褐灰色 にぶい黄橙色 〃	底部端は湾曲し、口縁部は緩く外反して外上方に延びる。端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、見込みロクロ目顕著。底部切り離しは回転ヘラ切りと見られる。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
641	北区	ST1	土師器 杯	13.4	3.0	10.0	にぶい橙色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	底部は平底状で、端部は湾曲する。口縁部は直線的に外上方に延び、端部は尖り気味に丸く収める。内外面ともナデ、赤色顔料が施される。	
642	北区	ST1	土師器 杯	13.8	(3.2)	–	浅黄橙色 〃 灰白色	体部は初め内湾し、上位で緩く外反する。口縁端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
643	北区	ST1	土師器 杯	14.4	3.8	7.0	にぶい黄橙色 〃 〃	底部は平底状で、端部は湾曲する。体部から口縁部は外上方に延び、口縁端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面ロクロ目顕著。外面底部に粘土紐痕が残る。	
644	北区	ST1	土師器 杯	–	(2.1)	6.4	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色	底部は平坦面状で、やや突出する。内外面とも回転ナデ。見込みロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り。	
645	北区	ST1	土師器 杯	–	(2.6)	6.6	淡橙色・浅黄橙色 橙色・浅黄橙色 淡黄色	底部は緩い凹面状を呈す。内外面とも回転ナデ。外面ロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り。	
646	北区	ST1	土師器 椀か高杯	21.8	(2.0)	–	明赤褐色 にぶい黄橙色 褐灰色	口縁部片。端部は丸く収める。内面ナデの後ヘラミガキ、外面回転ナデ。	
647	北区	ST1	土師器 椀か高杯	–	(1.5)	–	浅黄橙色 灰白色 灰色	底部から体部下位片。内面ミガキ、外面体部ケズリの後篦状工具によるナデ。外面底部ロクロ目顕著。	
648	北区	ST1	土師器 羽釜	–	(5.4)	–	にぶい褐色 橙色 〃	口縁部は上方に延び、端部は面を成す。内面ナデ、口縁端部篦状工具によるナデ。外面鍔接合部に櫛状工具の痕跡を残し、口縁端部は緩い凹面を成す。	
649	北区	ST1	須恵器 杯	12.0	3.4	9.2	灰白色 〃 〃	底部端で湾曲し、口縁端部は丸く収める。内外面ともナデ。	
650	北区	ST1	須恵器 杯か高杯	13.8	(2.9)	–	灰白色 〃 褐灰色	体部は丸味を帯び、口縁部は短く外反する。端部は丸く収める。内外面ともナデ。	
651	北区	ST1	須恵器 椀	–	(2.2)	6.9	灰白色 〃 〃	円盤状の底部。内外面とも回転ナデ、ロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り。	
652	北区	ST1	須恵器 甕	–	(3.7)	–	緑灰色 灰色 〃	胴部上位片。頸部との境目に強いナデにより段が形成される。内面同心円文のタタキの後ナデ。外面頸部横方向のナデ、胴部格子状又は斜格子状のタタキ。	
653	北区	ST1	須恵器 甕	–	(6.0)	–	明青灰色 灰白色 灰色	内面ナデ、植物及び昆虫の圧痕が残る。外面ハケ。	
654	北区	ST1	緑釉陶器 皿	–	(2.1)	–	灰白色 〃 灰色	体部片。内外面ともナデ、釉薬が施される。洛北か。	
655	北区	ST1	緑釉陶器 不明	–	(1.6)	5.8	灰白色 〃 〃	幅の広い断面台形状の高台が削り出される。高台内は概ね浅く、高台脇ではやや深い。内面と外面高台内まで施釉される。釉の剥離が著しい。	
656	北区	ST1	黒色土器 椀	–	(2.6)	–	黒褐色 橙色 黄灰色	内面に黒色処理。内面ヘラミガキ、外面丁寧なナデ。	
657	北区	ST1	瓦器 椀	15.9	(2.5)	–	灰色 〃 灰白色	体部から口縁部は外上方に延び、端部は丸く収める。内面ヘラミガキ。外面ナデ、体部に押圧痕が残る。	
658	北区	ST2	弥生土器 壺	19.9	(1.8)	–	にぶい黄橙色 浅黄色 褐灰色	口縁部は外反する。端部は面を成し、外側へ肥厚する。内面粗いハケ、外面タタキの後ハケ。	
659	北区	ST2	弥生土器 壺	19.5	(3.6) (17.7)	–	にぶい橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	丸味を持つ胴部。頸部は屈曲し口縁部は外反する。端部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面ハケの後ナデ、口縁端部にハケ。外面ナデ、胴部はタタキの後ハケ。	
660	北区	ST2	弥生土器 壺	–	(11.8)	4.0	灰黄褐色 にぶい黄橙色 灰色	底部は粘土貼付底風に突出し、胴部は丸味を帯びる。内面ナデ、外面タタキ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
661	北区	ST2	弥生土器 壺	－	(2.4)	2.3	黄灰色 にぶい黄橙色 褐灰色	底部は突出する狭い平底状。内面ナデ、外面ヘラミガキ。	
662	北区	ST2	弥生土器 壺	－	(3.0)	5.5	黄灰色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	底部は平底で緩い凹面を成す。内外面ともナデ。外面に指頭圧痕を残す。	
663	北区	ST2	弥生土器 甕	14.8	(3.4)	－	にぶい黄褐色 〃 浅黄橙色	頸部から口縁部は連続的に外反し、端部は面を成し上下に肥厚する。内面ハケの後ナデ。外面ハケの後ナデ、押圧痕を残す。	
664	北区	ST2 (P1)	弥生土器 甕	20.0	(4.3)	－	橙色 〃 明黄褐色	頸部から口縁部は連続して外反する。端部は拡張して面を成す。内面ハケ、外面ナデ。	
665	北区	ST2	弥生土器 甕	22.7	(4.5)	－	明赤褐色 にぶい橙色 浅黄橙色	口縁部は外反し外上方に延びる。端部は面を成し、上下に肥厚する。内外面ともナデ。外面口縁端部に２条の凹線を施す。	
666	北区	ST2	弥生土器 甕	25.1	(5.0) (10.1)	－	にぶい橙色 〃 灰色	胴部から頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。端部は凹面を成し、外側にやや肥厚する。内面ハケの後ナデ。外面タタキ、口縁部ハケ、部分的に煤付着。	
667	北区	ST2 (P2)	弥生土器 甕	－	(2.5)	－	にぶい橙色 〃 灰色	口縁部片。端部は緩い凹面を成す。内外面ともナデ。外面口縁端部に押圧風の刻み。	
668	北区	ST2	弥生土器 甕	－	(7.0)	－	にぶい黄橙色 〃 暗オリーブ色	胴部から頸部は緩く屈曲する。内外面ともナデ。内面に接合痕、外面に小裂孔が見られる。	
669	北区	ST2	弥生土器 甕	－	(11.6)	3.8	橙色 〃 灰色	底部は緩い凸面を成し、端部は湾曲する。胴部最大径は上位。内面ナデ、胴部は縦・横方向のナデ。外面タタキの後ハケ、底部はハケ・ナデ。	
670	北区	ST2 (P1)	弥生土器 甕	－	(10.1)	3.5	にぶい黄橙色 灰黄褐色 灰色	底部は狭い平底状で、緩い凸面を呈す。内面ナデ、外面タタキの後ハケ。	
671	北区	ST2	弥生土器 甕	－	(8.3)	－	橙色 にぶい橙色 灰色	胴部下位片。底部は平底状と見られる。内面ハケの後ナデ。外面タタキの後ハケ、下位ではハケが卓越する。	
672	北区	ST2	弥生土器 鉢	10.0	3.5	3.1	にぶい橙色 〃 褐灰色	底部は押し潰した様な平底で、端部は不明瞭。体部から口縁部は丸味を帯びる。端部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面篦状工具によるナデ、外面タタキ。	
673	北区	ST2 (P2)	弥生土器 鉢	10.8	(3.7)	－	にぶい黄橙色 〃 灰色	体部から口縁部は丸味を帯びる。端部は凹面を成し、外側にやや肥厚する。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。器面に小規模の裂孔が見られる。	
674	北区	ST2	弥生土器 鉢	－	(3.4)	－	浅黄色 オリーブ褐色 浅黄橙色	底部は尖り気味の丸底状。内面ナデ、外面タタキ。	
675	北区	ST2	弥生土器 鉢	－	(6.4)	2.8	橙色 にぶい橙色 灰色	底部は緩い凸面状。内面ハケ、外面ナデ。器面に小裂孔が見られる。	
676	北区	ST2 (P1)	弥生土器 鉢	13.2	(2.0)	－	橙色 〃 にぶい黄橙色	口縁部は内湾して延び、端部は丸く収める。内外面ともナデ、外面口縁端部横方向のナデ。	
677	北区	ST2	弥生土器 鉢	－	(4.2)	3.9	にぶい橙色 〃 橙色	底部は粘土貼付底風に突出する。内面ハケ。外面タタキの後ナデ、凹凸面を残す。	
678	北区	ST2 (P1)	弥生土器 高杯	16.6	(2.4)	－	にぶい黄橙色 〃 灰色	杯部は緩く外上方に延び、端部は丸味を持った面を成す。内面ナデの後ミガキ、外面ナデ。	
679	北区	ST2	弥生土器 鉢	－	(3.3)	5.7	にぶい黄橙色 灰黄褐色 黄灰色	底部は粘土貼付底風に突出し、緩い凸面を成す。胴部下位は丸味を帯びる。内面ハケの後ナデ、外面タタキ。	
680	北区	ST2	弥生土器 鉢	18.3	7.7	5.4	にぶい黄橙色 〃 灰色	底部は緩い凸面状で、口縁部は緩やかに外上方に延びる。端部は緩い凹面を成し外側にやや肥厚する。内面ハケ、外面タタキの後ナデ。外面底部に篦状工具による押圧。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
681	北区	ST2	石製品 叩石か	全長 12.5	全幅 3.6	全厚 2.8	–	棒状で、両端部に打痕と剥離痕を残す。一方には擦痕が見られる。砂岩製。重量 163.0g	
682	北区	ST2	円礫	全長 3.1	全幅 1.6	全厚 1.1	–	縦断面楕円形状の円礫。被熱を受ける。重量 6.0g	
683	A 区	SB1 (SK2011)	弥生土器 甕	10.2	11.8	–	灰白色 灰白色・暗灰色 灰白色	小型の甕。口縁部は僅かに外反する。内面胴部は強いナデ、頸部と口縁部は細かいハケ。外面タタキの後、下から上方向のナデ、胴部下半・口縁部はタタキをナデ消す。	
684	J 区	SB1 (P3172)	弥生土器 壺	22.0	(1.7)	–	橙色 浅黄色 灰黄色	口縁部は外反して大きく開き、端部は面を成す。内外面ともハケ、口縁部横方向のナデ。	
685	J 区	SB1 (P3172)	弥生土器 甕	17.3	(3.1)	–	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反して立ち上がる。端部は面を成し外側にやや肥厚する。内面ナデ、外面タタキ。	
686	J 区	SB1 (P3172)	弥生土器 鉢	10.8	(4.0)	–	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	体部から口縁部はやや内湾し、端部は内傾する面を成す。内面ハケの後ナデ、外面タタキ。	
687	J 区	SB1 (P3268)	弥生土器 壺	19.0	(7.0)	–	橙色 明黄褐色 橙色	口縁部は外反し大きく広がり、端部は面を成す。内面ナデ、一部に煤付着。外面口縁端部に山形文、口縁部に横方向のナデ、細かいハケを施す。	
688	J 区	SB1 (P3268)	弥生土器 甕	14.2	(6.0)	–	橙色 黒褐色 暗灰黄色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。端部は凹面を成し、外側に肥厚する。内面口縁部は横方向の細かいハケ、胴部ヘラナデ。外面タタキ、一部に煤付着。	
689	J 区	SB1 (P3268)	弥生土器 壺	18.0	(1.6)	–	にぶい橙色 橙色 灰色	口縁部は緩く外反して外上方に延びる。端部は面を成し外側に肥厚する。内外面ともハケ。	
690	J 区	SB1 (P3268)	弥生土器 壺	14.0	(1.5)	–	にぶい黄橙色 橙色 灰色	口縁部は緩く外反し、屈曲の後短く直線的に外斜下方に延びる。端部は面を成し外側へやや肥厚する。内外面ともハケ。	
691	J 区	SB1 (P3268)	弥生土器 甕	12.5	(3.6)	–	にぶい黄橙色 〃 淡黄色	口縁部は外反し、端部は丸味を帯びた面を成す。内面口縁部は横方向のナデ、胴部は細かいハケ。外面口縁部は横方向のナデ、胴部はハケ又は篦状工具によるナデ。	
692	J 区	SB1 (P3268)	ミニチュア 土器	6.8	(3.2)	–	にぶい橙色 〃 褐灰色	手づくね成形の鉢型。体部から口縁部は外上方に延び、端部は細く丸く収める。内面ナデ、外面押圧痕・タタキ。	
693	J 区	SB1 (SD2052)	弥生土器 甕	13.6	(4.0)	–	橙色 〃 オリーブ黒色	口縁部は緩く外反して外上方に延びる。端部は凹面を成し、外方に肥厚する。内面ハケ、外面タタキの後ナデ。	
694	J 区	SB1 (SD2052)	弥生土器 甕	13.4	(7.7)	–	橙色 にぶい黄橙色 灰色	胴部上位は緩く内湾し、頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面ハケの後ナデ、口縁部横方向のハケ。外面タタキ、一部に煤付着。	
695	J 区	SB1 (SD2052)	土師器 杯	–	(1.7)	–	明赤褐色 〃 にぶい黄橙色	口縁部は緩く外反し、端部は面を成す。内面口縁端部に沈線状の段が見られる。内外面ともナデ・ミガキ、赤色顔料が塗布される。	
696	J 区	SB1 (SD2051)	弥生土器 壺	13.2	(4.5)	–	橙色 浅黄橙色 灰色	頸部で屈曲の後、口縁部は外反し、その後弱く屈曲して上方へ延びる。端部は丸味を帯びた面を成す。内面ナデ、外面ハケの後ナデ。	
697	J 区	SB1 (SD2051)	弥生土器 壺	17.6	(7.1)	–	灰色 にぶい橙色 灰色	胴部から頸部で屈曲し、口縁部は内湾気味に上方に延びる。端部は外傾する面を成す。内面ナデ。外面口縁部横方向のナデ、胴部は縦方向のハケを施す。	
698	J 区	SB1 (SD2051 P3172)	弥生土器 甕	16.2	(7.9)	–	灰黄褐色 にぶい黄橙色 褐灰色	頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は直線的に外上方に延び、端部は面を成し、外方へやや肥厚する。内面口縁部ハケの後ナデ。外面タタキ。一部に煤付着。	
699	J 区	SB1 (SD2051)	弥生土器 甕	11.2	(11.1)	–	にぶい黄橙色 褐灰色 黄灰色	胴部最大径は中位。頸部はくの字状で、口縁端部は丸味を持った面を成し、外側に肥厚する。内面口縁部ハケの後ナデ、胴部はナデ。外面タタキ、胴部中位に煤付着。	
700	J 区	SB1 (SD2051)	弥生土器 甕	13.4	(15.7)	–	にぶい黄橙色 灰黄褐色 黄灰色	胴部最大径は上位。口縁端部はナデにより面を成し外側へ摘み出す。内面口縁部ハケ、胴部はナデ。外面タタキの後ハケ、胴部の中位に部分的に煤付着。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
701	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 甕	19.1	(12.0)	–	にぶい黄橙色 黒褐色 オリーブ黒色	頸部はくの字状で口縁部は外反する。端部は面を成し外側にやや肥厚する。内面口縁部ハケ、胴部はハケの後ナデ。外面タタキ、口縁部はタタキの後ナデ。広範囲に煤付着。	
702	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 甕	11.5	(10.4)	–	にぶい黄橙色 〃 灰色	底部は丸底状か。頸部はやや緩く屈曲する。口縁部は直線的に外上方に延び、端部は丸く収める。内面口縁部ハケ、胴部ナデ。外面タタキの後ハケ。部分的に煤付着。	
703	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 甕	–	(15.4)	–	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	底部は丸底状。胴部最大径は中位で13.5cm。内面ナデ、頸部下のナデ痕は明瞭。外面タタキ、一部に赤変部有り。	
704	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 甕	–	(11.4)	–	にぶい黄橙色 黒褐色 灰色	底部は丸底状。内面ナデ、外面タタキの後ハケ。	
705	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 甕	–	(19.5)	–	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	胴部最大径は中位で28.2cm。内面胴部丁寧なハケ、外面タタキ。	
706	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 鉢	12.2	7.1	–	灰黄褐色 〃 褐灰色	やや尖った丸底で粘土貼付底風である。体部から口縁部は内湾する。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ナデ。	
707	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 鉢	13.3	7.2	–	灰黄褐色 〃 褐灰色	底部は丸底状。口縁端部は内傾する面を成す。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ナデ。	
708	J区	SB1 (SD2051 P3172)	弥生土器 鉢	13.0	(5.9)	–	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	体部から口縁部は緩やかに外反し、端部は概ね丸く収める。内面ハケの後ナデ、体部に縦方向の箆状工具によるナデ。外面タタキの後ナデ。	
709	J区	SB1 (SD2051)	土師器 甕	30.7	(6.3)	–	にぶい黄橙色 浅黄色 褐灰色	胴部はやや内傾し直立し頸部で屈曲、口縁部は斜外上方に延びる。口縁端部は断面長方形状を呈し、内傾する面を成す。内面ハケ、外面タタキの後ハケ。	
710	J区	SB1 (SD2051)	須恵器 杯	–	(1.9)	8.0	灰白色 〃 〃	底部は緩い凸面状を呈す。体部は直線的に外上方に延びる。内外面とも回転ナデ。	
711	J区	SB3 (P3140)	弥生土器 壺か	18.0	(3.2)	–	にぶい橙色 にぶい褐色 暗灰黄色	口縁部は外反し、端部外面に粘土板を貼付し肥厚する。口縁端部は面を成し、刻みを施す。内面ナデ、口縁部は横方向のハケ。外面ハケ、口縁部は縦方向のハケ。	
712	J区	SB3 (P3140)	弥生土器 壺	–	(3.6)	–	黄橙色 橙色 にぶい橙色	胴部は上位で緩やかに外反して内上方に延びる。胴部の上位に櫛描沈線帯を2カ所以上配する。内面ナデ、外面ハケ。	
713	J区	SB3 (P3140)	弥生土器 壺	–	(2.6)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	外面に断面三角形状の微隆起突帯が3条以上巡る。胴部上位片か。	
714	J区	SB3 (P3140)	弥生土器 壺	–	(5.1)	12.5	にぶい橙色 にぶい黄橙色 灰黄褐色	径の大きな平底。器壁厚い。内面ナデ、外面ミガキ。	
715	J区	SB3 (P3140)	弥生土器 壺	–	(7.2)	6.6	浅黄橙色 橙色 浅黄橙色	底部は碁笥底状の凹面を成す。胴部は直線的に外方に延びる。内面ナデ、外面ハケの後ミガキが施される。	
716	J区	SB3 (P3140)	弥生土器 甕	20.8	(11.6) (9.4) (5.6)	5.8	灰色 灰黄褐色 オリーブ黒色	底部は緩い凹面状。口縁部は粘土帯の貼付により肥厚し、端部は面を成す。口縁端部に刻み、胴部の上位に列点文。内面ナデ。外面ハケ、底部はナデ。外面の一部に煤付着。	
717	J区	SB3 (P3140)	土師器 甕	31.8	(2.5)	–	灰黄褐色 〃 〃	頸部で屈曲の後、口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は面を成し上方へ短く突出する。内外面ともナデ。	
718	J区	SB3 (P3121)	土師器 甑	–	(5.1)	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	把手部。粘土接合痕、基部へ向かってのナデ痕を留める。	
719	A区	SB4 (SK2047)	土師器 杯	14.3	3.5	9.6	灰白色 〃 〃	底部端部から口縁部まで直線的に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。白色で砂質の胎土。	
720	A区	SB4 (SK2047)	土師器 高杯	–	(4.2)	–	にぶい黄橙色 橙色 にぶい黄橙色	内外面ともナデ。杯部と脚部の接合部にナデを施す。杯部は白色の胎土。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
721	J 区	SB4 (P3071)	土師器 高杯	–	(3.0)	–	浅黄橙色 橙色 浅黄橙色	脚部は裾部へ向かって外反し、4 方向に透かしを配す。内外面ともナデ。脚部の上位に押圧痕が見られる。スリップ（朱泥）を塗布する。	
722	D 区	SB6 (SK2038)	須恵器 壺	9.2	(3.8)	–	灰オリーブ色 〃 〃	口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。口縁部下位に沈線が巡る。内外面ともナデ、自然釉がかかる。	
723	D 区	SB6 (P2208)	土師器 甕	16.9	(2.8)	–	橙色 〃 にぶい黄橙色	口縁部は外反して外上方に立ち上がる。端部は太く丸く収め、刻みが施される。内外面ともナデ。	
724	D 区	SB6 (P2208)	須恵器 杯身	11.0	(2.6)	–	黄灰色 〃 〃	体部は内湾し、受け部は短く外上方に延び、かえりは内上方に延びる。内面ナデ、外面回転ナデ。受け部径 13.3cm	
725	D 区	SB6 (P2208)	須恵器 杯身	11.6	4.3	–	黄灰色 灰色 灰白色	受け部は短く外上方に延び、かえりは内傾する。内外面とも回転ナデ、内面底部にロクロ目。外面体部下位から中上位まで回転ヘラケズリ。受け部径 14.3cm	
726	D 区	SB6 (P2208)	土製品 土錘	全長 3.0	全幅 1.2	全厚 1.1	– 浅黄色 –	管状土錘。中心に直径 0.4cmの円孔を穿つ。	
727	D 区	SB6 (P2233)	須恵器 甕	23.0	(2.7)	–	灰白色 灰色 灰黄色	口縁部片。口縁部の内面に沈線状の浅い窪みが巡り、口縁端部は内傾する面を成す。内外面とも回転ナデ。	
728	C 区	SK1	土師器 壺	10.4	(3.7)	–	橙色 〃 褐灰色	口縁部は直線的に外上方に延び、端部は丸く収める。内外面ともミガキ。	
729	C 区	SK1	弥生土器 甕	13.0	(2.8)	–	にぶい黄橙色 黒褐色 浅黄橙色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は直線的に立ち上がる。端部は面を成し、上方へ微かに立ち上がる。	
730	C 区	SK1	弥生土器 鉢	–	(3.8)	3.0	浅黄色 〃 浅黄色・黄灰色	端の不明瞭な平底状の底部。底部から体部は緩く外反して立ち上がる。内外面ともナデ。	
731	C 区	SK1	鉄製品 鋤先	全長 28.2	全幅 23.0	–	–	中央刃部の幅 8.5cm、耳部の幅 3.3cmを測る。片方の耳部は端を欠損する。柄の装着部分は深さ 0.5 ～ 2.0cm程度。表面に木質の一部が付着する。重量 727.0g	
732	A 区	SK2009	鉄製品 刀子	全長 17.3	全幅 1.7	全厚 0.7	–	片刃の刀子。峰から茎端まで残存する。関は直角で、茎には柄挿入に伴い隙間に詰めた木質が錆化の影響で付着する。重量 25.0g	
733	A 区	SK2014	弥生土器 壺	16.1	33.9	4.7	にぶい黄橙色 〃 〃	口縁部は外反し、口縁端部は面取りされる。内面口縁部は横方向のハケ、胴部は粗い単位のハケ・ナデ。外面口縁部・頸部は縦方向のハケ、胴部はタタキの後ハケ。	
734	A 区	SK2014	弥生土器 壺	–	(1.3)	–	にぶい橙色 にぶい黄橙色 にぶい黄橙色・灰色	口縁部は外反し、端部は丸く収める。内面ナデ、外面ハケの後ナデ。	
735	A 区	SK2014	弥生土器 甕	–	(33.5)	–	灰白色 灰黄色 灰色	底部は丸底状。胴部の最大径は中位で 26.4cm。内面ハケ。外面タタキの後ハケ・ナデ。	
736	A 区	SK2014	弥生土器 甕	16.4	24.7	3.5	にぶい橙色 黒色 黄灰色	底部は小さな平底状。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は短く外反する。口縁端部はナデにより下方に拡張する。内面ハケ・ナデ。外面胴部タタキの後ハケ、口縁部ハケ。	
737	A 区	SK2014	弥生土器 甕	19.4	25.3	–	橙色 〃 〃	底部は尖り気味の丸底状。口縁部は緩く外反し、端部は面を成す。内面細かい単位のハケ・ナデ。外面タタキ、口縁部・胴部下位はタタキの後ハケ。外面底部にタタキ目。	
738	A 区	SK2014	弥生土器 甕	16.6	22.5	–	灰黄色 にぶい黄橙色 〃	底部は丸底状。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。内面ハケ・ナデ、外面タタキの後ハケ。	
739	A 区	SK2014	弥生土器 甕	13.0	(11.4) (9.5)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	底部は尖り気味の丸底状。頸部はくの字状で、口縁部は直線的に外上方へ延びる。内面頸部および胴部はナデ、口縁部へラナデ。外面タタキ、一部に煤付着。	
740	A 区	SK2014	弥生土器 甕	14.0	(12.8)	–	橙色 〃 灰色	頸部はくの字状で、口縁部は直線的に延びる。端部は面を成す。内面細かい単位のハケ。外面胴部にタタキ、下位はタタキの後ハケ、口縁部はナデ・細かい単位のハケ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
741	A 区	SK2014	弥生土器 甕	16.8	(12.9)	–	にぶい黄橙色 にぶい褐色・褐灰色 にぶい黄橙色	頸部はくの字状で、口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面ハケ、胴部はハケの後ナデ。外面タタキ。	
742	A 区	SK2014	弥生土器 甕	18.6	(10.5)	–	にぶい黄橙色 橙色 にぶい黄橙色	頸部から口縁部は外反し、端部は内傾する面を成す。内面ハケの後ナデ。外面タタキ、口縁部はナデ。	
743	A 区	SK2014	弥生土器 甕	18.0	(10.6)	–	橙色 〃 〃	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は緩く外反する。端部は不明瞭な面を成し、外側へやや肥厚する。	
744	A 区	SK2014	弥生土器 甕	18.2	11.1	–	にぶい橙色 にぶい黄褐色 にぶい橙色・褐灰色	口縁部は短く外反する。内面ハケ・ナデ、外面タタキ。	
745	A 区	SK2014	弥生土器 甕	14.2	(10.4)	–	にぶい橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	頸部はくの字状で、口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面細かい単位のハケ。外面タタキ、口縁部ではタタキの後ハケ、一部に煤付着。	
746	A 区	SK2014	弥生土器 甕	15.6	(17.9)	–	にぶい黄橙色 黒褐色 浅黄橙色	頸部はくの字状で、口縁部は外反する。端部は内傾する面を成し、外側へやや肥厚する。内面細かいハケ、口縁部は横方向のハケ。外面タタキ、口縁部はタタキの後ハケ。	
747	A 区	SK2014	弥生土器 甕	–	(18.9)	–	にぶい黄橙色 橙色 〃	底部は丸底状。内面丁寧なナデ。外面胴部上半はタタキ、下半はタタキをナデ消す。	
748	A 区	SK2014	弥生土器 鉢	–	(7.4)	4.8	にぶい黄橙色 灰黄褐色 褐灰色	円柱状の高台。歪な形状を呈す。内面斜方向のハケ、外面タタキの後ハケ・ナデ。	
749	A 区	SK2014	弥生土器 甕	–	(15.0)	4.0	橙色 〃 〃	底部は小さな平底状。内面ナデ。外面タタキ、底部から胴部はタタキの後ヘラナデまたは細かい単位のハケ。外面底部にタタキ目を残す。	
750	A 区	SK2014	弥生土器 甕	–	(11.5)	3.6	にぶい黄褐色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	底部は小さな平底状。内面細かい単位のハケの後ナデ、外面タタキの後細かい単位のハケ。外面底部にタタキ目が残る。	
751	A 区	SK2014	石製品 叩石	全長 17.8	全幅 13.3	全厚 8.9	–	円礫のやや窪んだ面を主に使用する。凹面と縁辺に打痕を多く残す。一部は被熱及び暗色化。タールの付着が見られる。砂岩製。重量 2454.0g	
752	A 区	SK2014	石製品 叩石	全長 13.1	全幅 8.9	全厚 4.1	–	扁平な円礫を用いる。縁辺に打痕を残し、一部に大小の剥離が存在する。砂岩製。重量 608.0g	
753	A 区	SK2015	土師器 椀	15.4	5.7	6.4	橙色 〃 〃	底部にハの字状に開く高台が付く。体部は緩く内湾し、口縁部は直線的に斜上方に延びる。端部は丸く収める。	
754	A 区	SK2015	須恵器 壺か	–	(4.4)	6.8	灰色 〃 〃	平底の底部端から胴部は直線的に立ち上がる。胎土中に白色粒・赤色チャート含む。小円孔・裂孔がみられる。内外面ともナデ。	
755	A 区	SK2015	鉄製品 刀子	全長 5.9	全幅 1.9	全厚 0.4	–	刀身は幅広く、刃部が大きく湾曲する。関は両関撫角であるが、不均等で刃側が浅い。茎部途中で欠損、木質が部分的に付着している。重量 6.0g	
756	A 区	SK2052	弥生土器 甕	16.9	(8.4)	–	橙色 〃 〃	頸部の屈曲は急で、口縁部は直線的に外反する。端部はやや肥厚し、面を成す。内面ナデ、頸部以下に押圧痕。外面口縁部はナデ、胴部に横・縦方向のハケ、頸部は強いナデ。	
757	A 区	SK2052	土師器 甕	19.0	(6.4)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	頸部は緩やかに曲がり、口縁部は短く立ち上がる。端部は太く丸く収める。内面ナデ、頸部は押圧痕が顕著。外面胴部ハケ、口縁部ナデ。	
758	A 区	SK2052	須恵器 蓋	15.6	3.8	–	灰白色 灰色 灰白色	やや扁平な宝珠の摘みを有する。内面ナデ。外面天井部中位以上はケズリ、口縁部は回転ナデ。	
759	A 区	SK2053	土師器 鉢	17.2	(4.5)	–	明黄褐色 〃 オリーブ黒色	頸部で屈曲し、口縁部は短く外反する。端部は丸味を帯びた面を成す。内面口縁部横方向のナデ、胴部ハケ。外面ナデ、口縁部押圧痕が残る。	
760	A 区	SK2053	須恵器 平瓶	–	(4.2)	12.4	褐灰色 灰白色 〃	底部は緩い凸面を成し、胴部は内湾し外側に張り出す。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
761	A 区	SK2057	弥生土器 甕	－	(4.7)	5.6	灰黄褐色 〃 褐灰色	底部はやや突出した平底状。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。外面底部にタタキ目を残す。	
762	A 区	SK2057	須恵器 杯	－	(1.8)	10.0	灰白色 灰色 褐灰色	平らな底部に断面方形状の高台が付く。畳付は凹状を呈す。内外面とも回転ナデ。	
763	A 区	SK2061	弥生土器 鉢	17.3	(5.1)	－	橙色 浅黄橙色 灰オリーブ色	体部から口縁部は直線的に延び、端部は太く丸く収める。内面ナデ。外面細かい単位のハケ、口縁部に横方向のナデ。	
764	A 区	SK2061	弥生土器 鉢	7.8	4.4	3.2	橙色 〃 浅黄橙色	底部は押し潰した平坦面状を呈し、体部は丸味を帯びる。口縁部は不揃いで、概ね丸く収める。	
765	A 区	SK2061	土製品 支脚	－	3.4	6.6	灰黄色 〃 にぶい橙色	中空の脚部。裾部はハの字状に短く開く。	
766	A 区	SK2062	弥生土器 鉢	10.2	5.4	－	橙色 〃 〃	底部は不安定な丸底状で、不明瞭な凸面を成す。体部から口縁部は外上方に開き、端部は細く丸く収める。内面ナデ、外面タタキ。外面底部は粗いナデ。	
767	K 区	SK2162	弥生土器 甕	16.6	(3.2)	－	にぶい黄橙色 灰黄褐色 黄橙色	ラッパ状に開く口縁部片。口縁端部は斜下方に延び、丸く収める。内面ハケ・ナデ、外面ハケ・指頭圧痕。	
768	B 区	SK2070	弥生土器 不明	－	(4.7)	－	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	外面５条の箆描沈線と双線による山形文が施される。	
769	B 区	SK2070	弥生土器 壺	－	(26.3)	7.6	黄灰色 にぶい黄橙色 にぶい黄橙色・黄灰色	内面ナデ。外面ハケの後、肩部から胴部中位に５～７条を１単位とする多重沈線が巡る。胴部下位はナデ、底部付近にミガキが施される。	
770	D 区	SK2081	弥生土器 壺	12.8	(8.0)	－	にぶい黄橙色 にぶい褐色 〃	口縁部は直立し、後に外反する。端部は凹面を成し、外側にやや肥厚する。口縁部下に多重の箆描沈線帯と押圧刻みを施した突帯が３条以上巡る。内面ナデ、外面ハケ。	
771	D 区	SK2081	弥生土器 壺	－	(2.7)	－	暗灰黄色 暗灰色・にぶい黄橙色 暗灰黄色・にぶい黄橙色	口縁部は直線的に内傾する。端部は凹面を成す。内面横方向のハケ。外面斜方向のハケ、２条以上の箆描沈線による波状文。	
772	D 区	SK2081	弥生土器 壺	－	(6.7) (7.9)	13.8	明黄褐色 橙色 明黄褐色	胴部中位に６条、７条の箆描沈線帯を施し、その間に１単位３～４個以上の円形浮文を配す。底部は緩い凹面を呈す。内面ナデ、外面ハケ。胴径 26.8㎝	
773	D 区	SK2081	弥生土器 壺	－	(11.7)	5.3	にぶい黄褐色 明黄褐色・暗灰色 にぶい黄褐色	底部は平底状で緩い凹面を成し、胴部は丸味を帯びる。内面ナデ。外面ハケの後へラミガキ、胴部中位に１単位５条以上の箆描沈線が巡る。	
774	D 区	SK2081	弥生土器 甕	－	(3.6)	6.0	橙色 にぶい黄橙色 灰オリーブ色	底部は平底状。胴部は下位で外反する。内面ナデ、外面丁寧なナデ又はミガキで仕上げる。	
775	D 区	SK2081	弥生土器 甕	－	(2.6)	7.0	にぶい褐色 褐灰色 にぶい橙色	底部は平底状。胴部は下位で外反する。内外面ともナデ。外面底部端に押圧痕を残す。	
776	D 区	SK2081	弥生土器 壺	19.6	(6.4)	－	にぶい橙色 橙色・にぶい橙色 にぶい橙色	口縁部は僅かに外反する。端部は狭い面を成し、外側にやや肥厚する。内面横方向のハケ。外面縦方向のハケ、口縁端部横方向のナデ、押圧痕を残す。	
777	D 区	SK2090	土師器 蓋	16.6	(1.2)	－	明赤褐色 〃 灰白色	天井部は中央部がやや凹む。口縁部は短く下方に向かい、端部は丸く収める。内外面に赤色顔料を塗布する。内面ナデ・暗文風のミガキ。外面ナデ・ミガキ。	
778	D 区	SK2090	土師器 甕	16.2	(2.3)	－	にぶい黄橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	口縁部は短く直線的に外上方に延びる。端部は緩い凸面を成す。内外面とも横方向のナデ。	
779	D 区	SK2090	土師器 甕	17.5	(2.4)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	口縁部は直線的に短く開く。端部は尖り気味に丸く収める。内外面ともナデ。	
780	D 区	SK2090	土師器 甕	－	(17.3)	－	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色	底部は丸底で、胴部は縦断面楕円形状を呈す。胴部最大径は下位。内面は丁寧なナデ、外面ハケ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
781	D 区	SK2090	須恵器 杯身	13.2	(2.6)	–	灰色 〃 〃	受け部は短く外上方に延びる。かえりは太く内上方に延び、端部は面を成す。内外面とも回転ナデ。受け部径 15.8 cm	
782	D 区	SK2090	須恵器 杯	–	(1.5)	10.2	灰白色 〃 〃	底部端に断面台形状の高台がハの字に付く。内面回転ナデ、外面ケズリの後回転ナデ。	
783	J 区	SK2141	弥生土器 甕	22.0	(11.5)	–	にぶい黄橙色 褐色 にぶい黄褐色	丸味のある胴部から頸部は緩く屈曲し、口縁部は短く外反する。端部は面を成し、外側へ肥厚する。内面ナデ、外面ハケ。	
784	J 区	SK2143	鉄製品 不明	全長 4.2	全幅 2.8	全厚 1.5	–	断面形は方形状を呈す。L 字状の屈曲部。重量 13.0g	
785	J 区	SK2147	弥生土器 壺	–	(6.1)	8.1	にぶい橙色 灰黄褐色 にぶい橙色	底部は平底状。底部は緩い凹面を成す。胴部は直線的に外上方へ立ち上がる。内外面ともナデ。	
786	J 区	SK2147	弥生土器 甕	–	(2.7)	–	明黄褐色 〃 〃	頸部片。緩く屈曲する。内面ミガキ。外面ハケ、胴部上位に 2 条以上の波状を成す微隆起帯が見られる。	
787	J 区	SK2147	弥生土器 甕	22.8	(4.0)	–	明黄褐色 〃 〃	口縁部は外上方に延び、端部は面を成す。口縁端部下に 2 条の微隆起突帯。内面ハケの後ミガキ。外面口縁部は縦方向のハケの後一部で横方向のナデ、一部に煤付着。	
788	J 区	SK2147	弥生土器 甕	30.4	(18.9)	–	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	頸部は僅かに屈曲し、口縁部は外反する。内面ハケの後ナデ、ミガキ。外面口縁部ナデ、胴部は粗いナデ、胴部上位に 3 条の微隆起突帯、その上下に押圧痕。	
789	J 区	SK2149	弥生土器 壺	25.9	(2.4)	–	浅黄橙色 にぶい橙色 灰色	口縁部は外反し、端部は上下に拡張する。口縁部に円形浮文と竹管刺突文・鋸歯文・半截竹管文が施される。内外面ともナデ。	
790	J 区	SK2151	弥生土器 甕	17.6	(10.9)	–	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色 にぶい黄橙色	口縁端部は粘土帯を折り返し外側に肥厚し、篦状工具の押圧風の刻みを配す。頸部下に刻みを施した 1 条の微隆起突帯。内面ナデ。外面口縁部ナデ、胴部ハケ、一部に煤付着。	
791	J 区	SK2151	弥生土器 壺 ミニチュアか	7.2	(6.5) (4.6)	4.0	暗灰黄色 にぶい褐色 オリーブ黒色	底部は平底状。口縁端部は外側へ粘土を折り返し肥厚する。内外面とも篦状工具によるナデ、押圧痕。	
792	J 区	SK3001	磁器 皿	9.8	2.3	5.2	灰白色 〃 〃	高台は断面逆三角形状で、腰張状に底部端で稜を持つ。体部は直線的に外上方に延び、口縁部は外反する。見込みに印刻による吉祥文字。	
793	J 区	SK3001	磁器 皿	8.2	2.3	3.8	明緑灰色 〃 灰白色	型打成形による方形小皿で、四隅を浅く抉る。四辺は緩く膨らみを持つ。方形の底部に断面逆台形状の高台。内面陽刻による菊花文。	
794	J 区	SK3001	陶磁器 皿	–	(1.5)	5.2	灰白色 〃 〃	高台内は深く削り込まれ、畳付は釉剥ぎ。コバルト釉。内面花文又は蔓草。外面区画（窓）を設け、花文とみられる文様を施す。高台脇に一重圏線。	
795	J 区	SK3001	磁器 皿	10.4	2.2	6.3	灰白色 〃 〃	輪花皿。高台の端部は尖り気味に仕上げられる。体部から口縁部は内湾する。畳付釉剥ぎ。内面雲と鳥とみられる文様が描かれ、口縁端部に呉須を施す。	
796	J 区	SK3001	陶磁器 皿	15.4	(2.7)	–	灰白色 明緑灰色 灰白色	肥前産型打成形の菊皿。褐色の口錆が施される。	
797	J 区	SK3001	陶器 鉢	–	(2.8)	–	灰オリーブ色 灰白色 〃	体部は緩く内湾して延び、口縁部は屈曲して短く内下方に向かう。内外面とも灰釉が施される。	
798	J 区	SK3001	磁器 鉢	–	(3.6)	–	灰白色 〃 〃	稜花状を呈す。口縁部は外反し、端部は面を成す。内面花弁文又は昆虫文。外面草花文。	
799	J 区	SK3001	磁器 鉢	11.0	(3.4)	–	灰白色 〃 〃	体部は緩く外反し、口縁部は大きく外反する。内面格子目文、口縁部に幅広く呉須を施す。外面に帆掛け舟。	
800	J 区	SK3001	陶器 鉢	18.0	(3.8)	–	暗灰黄色 – 黄灰色	胴部は直線的に上方に立ち上がる。端部は緩い凸面を成し、内側に肥厚する。内面口縁部に白色釉、胴部に暗灰色釉。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
801	J区	SK3001	磁器 鉢	24.1	(2.3)	–	灰白色 〃 〃	稜花型の鉢で、八角形を呈す。体部で緩く屈曲し短く立ち上がった後、口縁部は外方に延び、端部は面を成す。	
802	J区	SK3001	磁器 碗	–	(1.7)	3.6	灰白色 〃 〃	内面体部に2重圏線、見込みに円、蔓草。外面は窓を区画し、文様を施す。高台の基部に1重圏線。コバルト釉。	
803	J区	SK3001	磁器 碗	–	(2.3)	7.0	灰白色 明緑灰色 灰白色	底部端にやや高い高台を削り出す。体部から口縁部は直線的に外上方へ延びる。端部は丸く収める。見込みに十字花文。高台の基部に圏線が巡る。	
804	J区	SK3001	陶磁器 徳利	–	(10.8)	–	灰白色 〃 〃	胴部は内湾する。内面露胎、胴部上位にロクロ目を残す。外面草花文。透明釉はやや青灰色を帯びる。	
805	J区	SK3001	陶磁器 瓶	–	(2.2)	–	浅黄橙色 灰白色 〃	底部端に高台が付くと見られる。内面露胎、回転ナデ。	
806	J区	SK3001	陶磁器 徳利	5.6	(3.8)	–	明緑灰色 〃 灰白色	細頸の瓶。頸部は上方へ緩く外反して立ち上がる。端部は太く丸く収める。	
807	J区	SK3001	弥生土器 壺	–	(15.8)	–	にぶい黄橙色 にぶい褐色 褐灰色	胴部片。胴径は推定42.0cm前後。内面篦状工具によるナデ、外面ハケの後ミガキ。	
808	J区	SK3001	石製品 石斧	全長 13.3	全幅 5.2	全厚 3.9	–	太型蛤刃石斧。平面形は緩い分銅形、断面形は楕円形状。基端は一部を除いて面を成し打痕を留める。基部は概ね滑らか。緑色片岩製か。重量477.0 g	
809	J区	SK3001	石製品 石斧	全長 13.8	全幅 12.0	全厚 1.9	–	分銅型。泥質の変成岩を用いる。比較的薄い母材の中位両側縁から弧状に抉る。両端部細い刃部を形成し、明瞭でない浅い弧を描く。重量315.0g	
810	J区	SK3002	磁器 鉢	–	(1.7)	7.4	灰白色 〃 〃	肥前産向付鉢。見込みに五弁花、体部に不明文様。外面高台内に1重圏線、「入川」の文字。体部下位に1重圏線が巡る。	
811	J区	SK3002	陶器 皿	–	(4.2)	13.2	オリーブ灰色 灰色 〃	高台は断面台形状の削り出し。内面白化粧土による刷毛目文、褐色釉が下位に垂下し、重ね焼による目痕が残る。外面ケズリの後ナデ、体部の下位は露胎する。	
812	J区	SK3002	陶器 皿	10.2	2.0	5.2	灰赤色 赤褐色 にぶい赤褐色	受付灯明皿。平底。体部から口縁部は外上方に延び、端部は細く丸く収める。内面体部中位に断面三角形状の受け部が付く。内外面とも回転ナデ。	
813	J区	SK3002	陶磁器 皿	12.0	(1.7)	–	にぶい赤褐色 〃 褐灰色	受付灯明皿。内外面とも鉄釉が施される。体部は緩く内湾し、口縁部は短く直線的に外上方に延びる。内面口縁部下に受け部が付く。内面ナデ、外面回転ナデ。	
814	J区	SK3002	陶器 皿	11.5	2.0	5.0	黄灰色 にぶい赤褐色 褐灰色	灯明皿。平底から口縁部は外上方に延び、端部は尖り気味に収める。内面ナデ、外面回転ナデ。内面口縁部と外面にタール状の煤付着。	
815	J区	SK3002	陶磁器 碗	8.4	(2.6)	–	灰白色 明緑灰色 灰白色	染付の丸碗。口縁部はやや外上方に延び、端部は細く丸く収める。外面草花文。	
816	J区	SK3002	陶磁器 碗	7.6	(2.8)	–	灰白色 〃 〃	波佐見焼くらわんか手の碗。胎土はやや灰色を帯びる。体部から口縁部は内湾し上方に延び、端部は丸く収める。外面草花文。	
817	J区	SK3002	陶磁器 碗	7.8	(3.8)	–	灰白色 〃 〃	肥前系煎茶碗。内面口縁部に1重の圏線、外面口縁部に2重圏線及び寿文を配す。	
818	J区	SK3002	磁器 碗	–	(2.8)	4.0	灰白色 〃 〃	肥前系、能茶山焼か。丸形碗。底部端の高台はやや内湾。高台内は浅く削り出され、体部は内湾し外上方に延びる。外面草花文、高台に2重圏線、高台内に1重圏線と銘。	
819	J区	SK3002	陶磁器 碗	9.8	5.7	5.0	浅黄橙色 灰白色 〃	丸形の湯飲み茶碗。内面黄白釉。外面に風景が染付される。	
820	J区	SK3002	陶磁器 鉢	16.8	6.0	8.8	灰白色 〃 〃	口縁部輪花型を呈する向付鉢。肥前産。内面草花文、見込み2重圏線内に五弁花文。外面唐草文と1重圏線、高台2重圏線。高台内渦福と1重圏線。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
821	J区	SK3002	陶器 碗	11.2	7.5	4.6	灰オリーブ色 〃 灰白色	呉器手形の碗。内外面とも緑灰釉。高台畳付は釉剥ぎ。	
822	J区	SK3002	陶器 碗	－	(2.7)	4.2	オリーブ黄色 〃 黄灰色	小型の煎茶碗。内外面とも緑灰釉。外面底部は露胎する。	
823	J区	SK3002	陶器 鉢	12.4	(4.2)	－	灰オリーブ色 灰黄色 灰白色	向付鉢。体部は腰部で屈曲し、口縁部は上方に延びる。端部は内側に偏し、丸く収める。内外面とも緑灰釉。外面に「井」の文様が施される。	
824	J区	SK3002	陶器 鉢	－	(4.5)	20.0	暗赤灰色 赤灰色 にぶい橙色	底部端に断面台形状の高台が付く。内外面ともナデ、暗褐色の釉薬がかかる。畳付は露胎する。	
825	J区	SK3002	陶器 鉢	16.8	6.4	9.0	黒色 黒褐色 褐灰色	方形の角鉢向付。内外面とも鉄釉。見込み蛇の目釉剥ぎ、アルミナ砂を塗布。重ね焼きに伴う熔着痕が残る。釉の表面には小気泡。高台内は深く削り込まれる。	
826	J区	SK3002	陶器 擂鉢	－	(4.4)	－	にぶい赤橙色 暗赤灰色 にぶい橙色	口縁部は外側に肥厚する。端部は垂直な面を成し、2条の細い沈線が巡る。摺目は9条1単位。内外面とも回転ナデ。外面口縁部に自然釉が付着する。	
827	J区	SK3002	陶器 擂鉢	－	(3.6)	－	にぶい橙色 にぶい赤褐色 にぶい橙色	口縁部は外側に肥厚する。端部は垂直な面を成し、2条の細い沈線が巡る。摺目は12条1単位。外面に煤付着。	
828	J区	SK3002	陶器 甕	－	(7.7)	－	青灰色 黒褐色 黄灰色	丹波産。口縁部は短くやや内上方に延び、端部は緩い凹面を成し内外に肥厚する。胴部上位に箆状工具による段部が連続し、粘土紐を円環状に貼付し押圧する。	
829	J区	SK3002	陶器 甕	－	(6.7)	14.2	にぶい橙色 赤灰色 にぶい褐色	底部は浅い凹面を成す。内外面とも回転ナデ。内面底部及び胴部の下位にロクロ目が残る。外面胴部に鉄泥（褐釉か）を塗布し、底部は露胎し窯道具の痕跡が残る。	
830	J区	SK3002	陶器 瓶	－	(11.0)	－	青灰色 暗赤灰色 青灰色	油徳利。内面は露胎。外面鉄釉が施され、肩部に把手の一部が残る。	
831	J区	SK3002	陶磁器 瓶	－	(7.1)	5.7	灰白色 〃 〃	肥前系。内面は露胎、胴部にロクロ目を残す。外面蕪の野菜文、胴部下位及び高台に1重の圏線が巡る。	
832	J区	SK3002	陶器 瓶	－	(9.2)	12.2	灰色 暗褐色 灰白色	底部は平底状で、胴部は直立。内外面とも回転ナデ。内面はロクロ目顕著、胴部の一部にタール状の煤付着、底部に自然釉。外面は褐釉、底部に刷毛状工具の痕跡。	
833	J区	SK3002	陶器 徳利	－	(17.6)	9.4	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色 灰白色	底部端に断面長方形状の高台。内外面とも回転ナデ。内面はロクロ目顕著、露胎する。外面胴部の上位に白釉または白化粧土、下位は黄灰釉が掛かる。	
834	J区	SK3002	土師器 皿	7.4	1.0	4.7	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色	底部から口縁部は外方に開き、端部は尖り気味に丸く収める。内面回転ナデ、外面ナデ。内面の一部に煤付着。底部切り離しは回転糸切り。	
835	J区	SK3002	土師器 焜炉か	35.0	(3.0)	－	黄灰色 灰黄褐色 にぶい黄橙色	内外面ともナデ。	
836	J区	SK3002	土製品 焜炉	－	(10.3)	－	にぶい黄褐色 橙色 にぶい黄橙色	内部構造を持つ箱型。内外面ともナデ。外面の一部に煤付着。	
837	J区	SK3002	須恵器 杯	14.8	(3.6)	－	灰色 〃 〃	体部は緩く外反し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面底部に火襷様の焼成痕が残る。	
838	J区	SK3002	須恵器 壺	－	(3.7)	7.6	灰白色 黄灰色 灰白色	底部端に断面台形状の高台がハの字状に付く。内面回転ナデ、外面ケズリの後ナデ。外面底部はナデ、粘土紐痕を残す。	
839	J区	SK3002	瓦質土器 擂鉢	19.6	(6.3)	－	灰色 〃 灰白色	体部は直線的に外上方に延び、口縁部で屈曲し短く内湾する。端部は太く丸く収める。内外面とも横方向のナデ。内面摺目は縦方向あるいは斜方向で、5条1単位。	
840	J区	SK3002	瓦	全長 9.3	全幅 8.0	全厚 3.5	暗灰色 灰色 黄灰色	凹面に布目圧痕、凸面タタキの痕跡が残る。胎土中に白色粒を含み、中ないし大規模の裂孔が見られる。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
841	J 区	SK3002	石製品 台石	全長 16.8	全幅 10.0	全厚 6.7	－	砂岩製。平面形は不整長方形状。表面及び両側面の剥離が著しい。被熱のためか。表面は細かな打痕による緩い凹面を成し、裏面は打割による粗い面を留める。	
842	J 区	SK3002	鉄製品 釘	全長 14.7	全幅 3.5	全厚 0.9	－	断面形は方形状を呈す。重量 117.0g	
843	J 区	SK3002	鉄製品 釘	全長 3.4	全幅 1.0	全厚 0.5	－	湾曲した釘の先端部。頭部を欠く。断面形は方形状を呈す。重量 1.0g	
844	J 区	SK3002	鉄製品 釘	全長 4.6	全幅 1.6	全厚 0.7	－	断面形は方形状、頭部は楕円形状を呈す。重量 4.0g	
845	J 区	SK3002	鉄製品 釘	全長 4.8	全幅 0.9	全厚 0.7	－	断面形は円形状、先端は欠損する。頭部は円形状を呈す。重量 2.0g	
846	A 区	SK2016	須恵器 杯	－	(3.4)	－	灰白色 灰黄色 〃	口縁部は直線的に外方に延び、端部は短く外反する。口縁端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
847	A 区	SK2016	緑釉陶器 椀	－	(2.1)	7.8	浅黄橙色 〃 〃	釉の発色は灰白及びオリーブ灰色で、斑になる。見込みは釉剥ぎ。高台は断面逆台形状で削り出しによる。外面回転ナデ。	
848	A 区	SK2018	須恵器 甕	－	(7.6)	－	灰色 〃 〃	外面タタキ。	
849	A 区	SK2020	石製品 砥石	全長 7.3	全幅 6.0	全厚 3.3	－	自然石の 2 面を砥石として使用。砂岩製。重量 78.0g	
850	C 区	SK2032	土師器 皿	－	(0.8)	4.6	黄灰色 〃 明黄褐色	平らな底部に断面逆台形状の高台が付く。内面ナデ。	
851	C 区	SK2032	土師器 皿	－	(1.7)	7.6	にぶい橙色 橙色 浅黄橙色	底部は緩い凸面を成す。底部端に凹線状の段を有し、体部は緩く内湾して立ち上がる。内外面ともナデ。	
852	C 区	SK2032	須恵器 杯	－	(2.1)	9.0	灰色 〃 〃	底部に直立した断面方形状の高台が付く。底部端で内湾して立ち上がる。内面回転ナデ、外面ナデ。胎土中に小円孔と小・中裂孔が見られる。	
853	C 区	SK2032	須恵器 高杯	14.9	(2.4)	－	灰色 〃 〃	精緻で薄手に仕上げる。杯部に屈曲部を持つ。口縁部は直線的に延び、短く外反する。細く仕上げた端部は丸味を持ち、外側に稜を有する。	
854	C 区	SK2032	石製品 砥石か	全長 5.2	全幅 5.0	全厚 1.7	－	使用面としたものは 1 面のみで、破断等により一部が残存する。自然面と考えられ、小さな凹凸を残しているが、摩滅等により非常に滑らかになる。重量 44.0g	
855	C 区	SK2035	弥生土器 甕	16.7	(2.8)	－	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色 黄灰色	頸部の屈曲は急で、口縁部は短く外上方に開く。端部は上下に拡張して面を成し、2 条の凹線が巡る。器壁薄い。内面口縁部ナデ、胴部はケズリか。外面ナデ、煤付着。	
856	D 区	SK2037	須恵器 杯蓋	15.2	(1.3)	－	灰白色 〃 〃	口縁端部は太く丸く収め、口縁部下に短いかえりが付く。内外面とも回転ナデ。	
857	D 区	SK2037	須恵器 杯	12.9	(3.8)	－	灰白色 〃 〃	体部は腰折状の屈曲部から直線的に外上方に延びる。口縁端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
858	D 区	SK2043	弥生土器 甕	13.2	(6.1)	－	橙色 にぶい黄橙色 〃	頸部は緩く屈曲し、口縁部は短く外上方に開く。端部は丸味を帯びた面を成す。内面ハケ、胴部はハケの後ナデ。外面口縁部タタキの後ナデ、胴部タタキ、煤付着。	
859	D 区	SK2043	弥生土器 甕	12.6	(4.3)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は短く直線的に外上方に延びる。端部は狭い凹面を成す。内面口縁部細かいハケ、胴部ナデ。外面タタキ。	
860	D 区	SK2043	弥生土器 台付鉢	－	(3.5)	8.0	にぶい黄橙色 〃 〃	台部はやや短く開き、端部は押し潰された粘土で、広く安定した面を成す。内面ハケ、外面ナデ。鉢部と台部の境目に押圧痕が残る。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
861	A 区	SK2048	弥生土器 壺	–	(3.5)	4.6	黄灰色 にぶい黄橙色 黄灰色	底部は平底状。内面ナデ、押圧痕を残す。外面ヘラミガキ・ナデ。	
862	A 区	SK2060	弥生土器 甕	14.9	(5.1)	–	橙色 〃 黒褐色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側にやや肥厚する。内外面ともハケ。	
863	A 区	SK2060	弥生土器 甕	–	(8.8)	4.0	明黄褐色 にぶい橙色 黄灰色	底部は小さな平底状。内面ヘラナデ、外面タタキの後ハケ。	
864	A 区	SK2060	石製品 叩石	全長 10.5	全幅 2.6	全厚 1.6	–	断面形は楕円形。棒状の敲打具で両端に打痕や剥離を残す。端部は被熱か。頁岩製か。重量 67.0g	
865	A 区	SK2063	弥生土器 鉢	–	(2.5)	2.8	にぶい橙色 橙色 灰色	底部は押し潰した小さな平底状。内面ナデ、外面タタキ。	
866	A 区	SK2063	弥生土器 高杯	–	(6.9)	–	浅黄橙色 橙色 灰黄色	残存脚部中位に直径 0.4cmの円形刺突（未貫通）を 7 カ所以上配する。内面ナデ、外面ハケの後ナデか。	
867	A 区	SK2063	須恵器 杯蓋	14.4	(1.6)	–	灰色 〃 〃	口縁部は短く屈曲し、端部は丸く収める。内面ナデ。外面天井部ケズリ、口縁部回転ナデ。	
868	A 区	SK2063	須恵器 杯身	13.0	(3.2)	–	灰白色 〃 〃	底部端は内湾し、口縁部に向かって直線的に立ち上がる。端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
869	B 区	SK2065	土師器 杯	–	(1.4)	7.1	橙色 〃 〃	底部切り離しは回転糸切り。摩耗著しく調整は不明瞭。	
870	B 区	SK2066	土師器 杯	–	(2.6)	–	にぶい橙色 橙色 にぶい橙色	口縁端部は外上方に開き、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
871	B 区	SK2069	土師器 椀	18.0	(3.4)	–	淡黄色 〃 灰白色	口縁部は緩やかに外反する。内外面とも回転ナデ、火襷が見られる。	
872	D 区	SK2072	須恵器 杯	12.0	(3.6)	–	灰白色 〃 〃	体部は腰折状の屈曲部から直線的に外上方に延びる。端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
873	D 区	SK2074	土師器 杯	–	(0.9)	7.9	淡橙色 浅黄橙色 にぶい黄橙色	底部端は湾曲し、体部は直線的。内面回転ナデ、外面ナデ。外面底部に粘土紐圧痕と篦条工具によるとみられる圧痕が残る。	
874	D 区	SK2074	須恵器 高杯	10.4	(2.9)	–	灰白色 〃 〃	杯部中位で屈曲し、口縁部は緩く外反する。端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面の一部に煤付着。	
875	D 区	SK2074	須恵器 高杯	–	(0.7)	10.5	灰白色 〃 〃	脚裾部で大きく外反し、端部は凹面状を呈し、上方へ細く突出する。内面回転ナデ、外面ナデ。	
876	D 区	SK2074	緑釉陶器 皿	–	(2.0)	–	浅黄色・明赤褐色 浅黄色 灰白色	内面に陰刻花文。	
877	D 区	SK2075	弥生土器 甕	11.2	(2.4)	–	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	頸部の屈曲は緩やかで口縁部は外反する。端部は丸く収める。内面ナデ、外面タタキ。	
878	D 区	SK2075	弥生土器 鉢	19.2	(4.8)	–	淡黄色 〃 灰色	口縁部は外反し、外上方に延び、端部は面を成す。内面ナデ。外面ハケ又は篦状工具によるナデ、口縁端部横方向のナデ。	
879	D 区	SK2077	土師器 甕	15.0	(5.6)	–	灰黄褐色・にぶい黄橙色 にぶい黄橙色 〃	頸部は緩いくの字状で、口縁部は短く開く。端部は外側に凹面状、内側がナデによる段。内面口縁部粗いハケ、胴部ナデ、粘土紐接合痕。外面口縁部ナデ、胴部粗いハケ。	
880	J 区	SK2148	弥生土器 甕	–	(13.1)	–	灰黄褐色 にぶい橙色 褐灰色	胴部最大径は上位で 18.3cm。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ハケ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm）			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
881	K 区	SK2153	土師器 椀	15.2	5.1	7.0	灰白色 浅黄橙色 灰白色	口縁端部は緩やかに外傾する。ハの字に開く高台が付き、高台内部に糸切りの痕跡が残る。内外面ともミガキ。	
882	K 区	SK2154	土師器 椀	15.4	(3.4)	–	橙色 〃 〃	底部から僅かに内湾し、口縁部は外上方に開く。外面回転ナデ。	
883	J 区	SK2155	弥生土器 甕	–	(12.3)	–	浅黄色 〃 黄灰色	底部は丸底状。胴部最大径は中位。内面ハケの後ナデ、外面タタキ。	
884	J 区	SK2155	弥生土器 甕	–	(2.3)	5.6	黒褐色 灰黄褐色 黒褐色	底部は平底状。胴部は外上方に延びる。内面ナデ、外面ハケ。	
885	J 区	SK2155	土製品 支脚	–	(3.7)	9.5	にぶい黄褐色 黄褐色 〃	脚部は緩く外反して短く開き、端部は太く丸く収める。内外面ともナデ、外面に浅い凹凸面を残し、一部に煤付着。	
886	K 区	SK2163	土師器 杯	16.0	(1.8)	–	にぶい黄橙色 橙色 浅黄橙色	口縁部は直線的に外上方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
887	K 区	SK2163	土師器 椀	14.0	(3.2)	–	明黄褐色 〃 にぶい黄橙色	口縁部は緩やかに外反する。内面ナデ・ミガキ、外面回転ナデ。	
888	K 区	SK2163	土師器 杯か椀	–	(1.3)	6.4	浅黄橙色 橙色 浅黄橙色	やや外側に開く低い高台を有する。摩耗著しく調整は不明瞭。	
889	K 区	SK2163	土師器 杯か椀	–	(1.4)	7.4	橙色 浅黄橙色 灰白色	底部片。底部切り離しは回転糸切り。	
890	K 区	SK2163	鉄製品 鉄釘	全長 5.4	全幅 1.3	全厚 0.6	–	角釘か。重量 7.0g	
891	L 区	SK2164	弥生土器 壺	11.0	(3.8)	–	にぶい褐色 明赤褐色 にぶい黄橙色	細い頸部から口縁部は外反する。口縁端部は上下に拡張し、それぞれに刻目を施す。頸部に２条以上の箆描沈線が巡る。	
892	L 区	SK2165	陶胎染付 碗	–	(2.3)	–	明緑灰色 〃 灰白色	外面高台に２条の圏線、体部下位に文様が施される。見込み残存部にハマ痕が認められる。肥前系、波佐見か。	
893	L 区	SK2165	陶器 鉢か	25.6	(9.3)	–	褐色 にぶい褐色 灰黄色	口縁部は内側に肥厚し、天井部は釉を剥ぐ。内外面とも鉄釉が施される。	
894	北区	SK3	土師器 皿	11.6	2.4	7.0	浅黄橙色 〃 〃	底部端から体部は緩く外反する。端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
895	北区	SK6	土師器 皿か高杯	–	(2.1)	–	明赤褐色 橙色 〃	口縁部片。端部は丸く収め、上方に肥厚する。内面ミガキ、赤色顔料塗布する。外面ナデ・ミガキ。	
896	北区	SK6	須恵器 甕	–	(4.5)	–	灰白色 〃 にぶい黄橙色	胴部片。内面同心円状のタタキ、外面平行タタキを菱形状に配したものか。	
897	K 区	SD1	土師器 羽釜	22.4	(5.4)	–	にぶい黄褐色 〃 にぶい橙色	口縁部直下に断面長方形の鍔が巡る。内外面ともナデ、外面鍔直下に押圧痕が残る。	10c
898	A 区	SD2005	須恵器 甕	18.0	(4.9)	–	灰黄色 灰色 にぶい黄色	口縁部は緩く外反し、端部は面を成す。内外面とも回転ナデ。	
899	A 区	SD2005	石製品 叩石	全長 8.7	全幅 8.5	全厚 7.7	–	立方体の５面及び縁辺２辺に敲打痕がみられる。重量 887.0g	
900	B 区	SD2010	須恵器 高杯	–	(3.0)	10.0	灰白色 黄灰色 灰白色	脚部片。裾端部は内傾する平坦面状を呈す。内外面とも回転ナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
901	B区	SD2010	須恵器 高杯	–	(2.2)	12.0	黄灰色 黒褐色 灰白色	脚部片。裾端部は内傾する平坦面状を呈す。内外面とも回転ナデ。	
902	B区	SD2010	鉄滓	全長 8.1	全幅 5.0	全厚 3.2	–	重量 237.0g	
903	C区	SD2013	須恵器 杯	–	(1.6)	8.6	灰白色 灰色 灰白色	底部端に断面逆台形の高台が付く。胎土中に規模の大きな裂孔が存在する。内外面ともナデ。	
904	J区	SD2049	鉄製品 釘	全長 2.2	全幅 0.5	全厚 0.4	–	釘の先端部。断面形は不整方形状または長方形状を呈す。重量 1.0g	
905	J区	SD2049	鉄製品 不明	全長 9.3	全幅 1.2	全厚 0.6	–	先端はやや厚みがあり、平面形は楕円形状を呈す。基部は断面方形状で、軸状である。重量 10.0g	
906	K区	SD2053	弥生土器 鉢	13.8	6.0	–	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	底部は丸底状。内面底部を中心とする放射状のハケ、外面タタキ・ナデ。	
907	L区	SD2057	弥生土器 壺	–	(5.3)	–	オリーブ黒色 にぶい黄褐色 オリーブ黒色	外面に櫛描による直線文及び波状文が施される。	
908	L区	SD2057	白磁 碗	12.0	(3.0)	–	灰白 〃 黄灰色	口縁端部は玉縁状。内外面とも白磁釉が施される。	
909	L区	SD2057	白磁 碗	18.0	(1.9)	–	にぶい黄色 〃 浅黄色	口縁端部は玉縁状。内外面とも白磁釉が施される。釉調はにぶい黄色。	
910	L区	SD2057	瓦質土器 鉢	–	(4.2)	–	にぶい黄色 黄灰色・灰黄色 灰黄色	口縁端部は上方に拡張し、側面は内傾する面を成す。焼成不良。	
911	L区	SD2057	瓦質土器 羽釜	–	(3.7)	–	灰色 〃 灰白色	口縁端部は水平な平坦面状で、口縁部下に断面長方形状の鍔が巡る。鍔の端部は下方へ僅かに拡張する。	
912	L区	SD2057	瓦質土器 羽釜	–	(3.7)	–	暗灰黄色 灰色 灰白色	口縁端部は水平な平坦面状で、口縁部下に断面三角形状の短い鍔が巡る。	
913	L区	SD2057	製塩土器	–	(2.8)	–	明黄褐色 〃 にぶい黄橙色	内面に布目圧痕。	
914	L区	SD2057	土製品 不明	全長 4.0	全幅 1.4	全厚 1.2	– 淡黄色 灰黄色	細い角状を呈す。器形不明。	
915	L区	SD2057	土製品 土錘	全長 3.5	全幅 1.4	全厚 1.4	– 明赤褐色 –	管状土錘。孔径 0.4cm	
916	L区	SD2057	土製品 土錘	全長 4.1	全幅 1.4	全厚 1.5	– 橙色 –	管状土錘。孔径 0.3cm	
917	L区	SD2058	平瓦	全長 11.2	全幅 6.3	全厚 2.6	淡黄色 灰黄色 〃	凹面に布目圧痕。	
918	L区	SD2059	弥生土器 甕	24.8	(7.1)	–	にぶい橙色 〃 にぶい黄橙色	口縁部は緩やかに外反し、端部は横方向のナデにより断面四角形状を呈す。内面横方向のハケ。外面縦方向のハケ、口縁部横方向のナデ。	
919	L区	SD2059	弥生土器 甕	32.6	(3.9)	–	明黄褐色 にぶい黄橙色 灰色	頸部はくの字状に屈曲し口縁部は外反する。端部は僅かに外側へ肥厚する。内面口縁部は横方向のハケ、頸部は斜方向のハケ。外面口縁部タタキの後ハケ、横方向のナデ。	
920	L区	SD2059	弥生土器 壺か甕	–	(3.8)	–	黒褐色 〃 〃	外面残存部に 9 条の箆描沈線が巡る。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
921	L 区	SD2059	弥生土器 壺か甕	－	(3.7)	－	にぶい黄橙色 オリーブ褐色 にぶい黄橙色	外面残存部に３条以上の微隆起突帯が巡る。	
922	L 区	SD2059	弥生土器 壺か甕	－	(4.1)	－	黄灰色 にぶい黄橙色 黄灰色	外面残存部に４条以上を１単位とする篦描沈線が巡る。	
923	L 区	SD2059	弥生土器 ミニチュアか	－	(2.7)	4.0	にぶい黄橙色 灰黄褐色 〃	底部は小さな平底状。外面底部中央部は凹む。内外面ともナデ。外面に篦状工具による圧痕が残る。	
924	L 区	SD2059	石製品 叩石	全長 20.5	全幅 7.6	全厚 5.9	－	棒状の円礫の一方を使用する。重量 1526.0g	
925	K 区	P13	弥生土器 甕	－	(2.5)	3.8	にぶい黄色 黄褐色 黄灰色	底部は小さな平底状。内面ナデ、外面タタキ。	
926	A 区	P2001	弥生土器 壺	－	(8.0)	－	褐灰色 浅黄橙色 褐灰色	口縁部は直線的に外反し、端部は欠損。内面ナデ、口縁部細かい単位のハケ、端部は横方向のナデ、頸部下はヘラナデ。外面タタキ、口縁部は縦方向の細かい単位のハケ。	
927	A 区	P2013	黒色土器 椀	－	(1.9)	－	黒色 〃 〃	口縁部は直線的に延び、端部内面に段を有する。内面ナデ、外面口縁部は横方向のナデ。	
928	A 区	P2027	石製品 砥石	全長 4.5	全幅 4.5	全厚 4.5	－	5 面を使用。表面に長軸に直交する不連続な段、縁辺に擦痕。裏面に斜方向の線条と横方向の擦痕。両側面に横方向の線条と擦痕、端面に不定方向の線条。重量 85.0g	
929	A 区	P2028	土師器 甕か	11.2	(3.0)	－	橙色 〃 明黄褐色	内面頸部に沈線状の窪みを有する。口縁部は緩く外反し、端部は太く丸く収める。内外面ともナデ、一部に煤付着。	
930	A 区	P2037	土師器 杯	14.8	4.1	8.6	橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	体部は直線的に延び、口縁部は緩く外反する。端部は丸く収める。内面回転ナデ、見込みに粘土紐痕。外面体部ロクロ目顕著、口縁部回転ナデ。底部切り離しはヘラ切り。	
931	A 区	P2038	土師器 杯	－	(1.6)	6.4	にぶい橙色 〃 〃	底部は厚く、円盤状。破断面を含めた一部に煤付着。内面ナデ。	
932	A 区	P2043	土師器 杯	10.6	3.0	5.2	橙色 〃 浅黄橙色	底部端から口縁部は直線的に延び、端部は丸く収める。内外面ともナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
933	A 区	P2071	土師器 椀	16.4	(1.8) (2.2)	4.8	灰白色 にぶい黄橙色 灰白色	口縁端部は丸く収める。断面三角形状の輪高台が付く。内面底部丁寧なミガキ。外面ミガキ。	
934	A 区	P2071	石製品 石包丁	全長 6.2	全幅 4.4	全厚 0.8	－	1 面は自然面、他面は剥離する。短辺の２カ所に抉りを有する。砂岩製。重量 28.0g	
935	A 区	P2073	弥生土器 甕	22.0	(23.5)	－	橙色 灰黄褐色 にぶい黄橙色	口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。頸部と胴部の境目に２条の微隆起突帯を貼付する。内面ハケ・ミガキ。外面頸部以上は縦方向のハケ、以下はハケ・ナデ。	
936	A 区	P2075	弥生土器 甕	－	(6.9)	8.7	にぶい黄橙色 〃 〃	底部は平底状。内面ナデ。外面ハケ・ナデ。	
937	A 区	P2104	土製品 支脚	－	4.1	－	－ にぶい黄橙色 灰色	支脚の支部の先端部と見られる。角状を呈す。押圧痕・粘土紐接合痕を残す。上面はナデ、比較的滑らかに仕上げる。	
938	A 区	P2115	須恵器 杯身	12.5	(2.5)	－	にぶい黄褐色 灰白色 黄灰色	口縁部は外上方に延び、受け部端で上方を指向。かえりは短く内傾し、端部は上方に延びる。内外面とも回転ナデ、一部に煤付着。器面に小規模な円・裂孔。受け部径 15.0cm	
939	A 区	P2117	須恵器 蓋	16.0	(2.2)	－	灰白色 〃 〃	摘みを欠損。口縁部は短く直立し、端部は尖り気味に丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面天井部の上位に粘土紐接合痕、中位にケズリ、下位はロクロ目を残す。	
940	A 区	P2118	須恵器 蓋	15.0	3.6	－	灰白色 〃 〃	口縁部は屈曲の後直線的に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面天井部はロクロ目顕著、外面天井部上位は弱いナデ、中位はケズリ、口縁部はナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
941	C 区	P2149	弥生土器 鉢	5.6	(4.9)	–	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	体部から口縁部は内湾する。端部は粗に丸く収める。内外面ともナデ。凹凸面を残す。	
942	C 区	P2149	白磁 碗	18.4	(3.1)	–	灰白色 〃 〃	口縁部は緩く内湾して立ち上がる。端部は丸く収め、外側に粘土を貼付することにより肥厚する。胎土中に小規模な円孔が多在。裂孔は稀在。	11c 後～ 12c 前
943	C 区	P2167	弥生土器 鉢	13.0	(5.2)	–	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色・オリーブ黒色 〃	口縁端部は尖り気味で未調整。内面ハケ。外面タタキ・ナデ。	
944	C 区	P2169	弥生土器 鉢又は壺	12.6	(3.9)	–	橙色 明黄褐色 浅黄橙色	口縁部は緩く内湾して立ち上がる。端部は面を成す。内面細かいハケ、口縁部には横方向のナデ。外面ナデ、口縁端部は横方向のナデ。	
945	C 区	P2169	弥生土器 鉢	–	(2.1)	3.2	にぶい黄橙色 黒色 灰色	底部は小さな平底状を呈す。貼付底か。内面ハケ、外面タタキ。	
946	C 区	P2169	弥生土器 鉢	11.2	(4.2)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	器壁厚い。体部から口縁部は内湾して立ち上がる。端部は尖り気味に丸く収める。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。器面に裂孔と凹凸面が残される。	
947	C 区	P2169	ミニチュア 土器	–	(4.9)	–	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色	甕又は鉢型の小型の土器。丸底の底部から胴部は内湾して立ち上がる。内面指によるナデ、外面タタキの後ハケ・ナデ。	
948	C 区	P2169	土製品 支脚	–	7.1	–	浅黄橙色 黄橙色 灰色	平面形三角形状の支部片。上面は比較的滑らかに撫であげられ、下面は粘土を巻き込んだ押圧痕が残される。	
949	D 区	P2180	土師器 皿	13.8	2.6	9.0	浅黄橙色 明赤褐色 浅黄橙色	体部中位で僅かに外反し、口縁部は上方に延びる。端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、器面に赤色顔料が塗布される。	
950	D 区	P2181	土師器 杯	–	(2.5)	6.6	にぶい黄橙色 浅黄色 〃	底部は円盤状に突出し、中央の窪んだ面を成す。内外面とも回転ナデ、外面はヘラケズリに近い。底部切り離しは回転糸切り。	
951	D 区	P2181	土師器 甕	41.0	(5.5)	–	褐色 〃 明褐色	口縁部は短く外反し、端部は凹状を呈す。内外面ともナデ、外面篦状工具による圧痕が残る。	
952	C 区	P2183	弥生土器か 壺	–	(3.6)	–	橙色 〃 暗灰黄色	口縁部は直線的に立ち上がる。端部は外側に細く丸く収める。内面ミガキ、外面ハケの後ミガキ。	
953	C 区	P2183	弥生土器 壺	13.1	(7.3)	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 褐灰色	頸部の屈曲は急で、口縁部は緩く内湾して立ち上がる。端部は面を成し、外側に僅かに肥厚する。内面ナデ。外面タタキの後ナデ、胴部はハケ。	
954	C 区	P2183	弥生土器 甕	–	(13.7)	–	浅黄色 にぶい黄橙色 にぶい黄橙色・黄灰色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は緩く外反して立ち上がる。内面ハケの後ナデ、外面タタキ。胴径 18.0cm	
955	C 区	P2183	石製品 不明	全長 4.6	全幅 3.7	全厚 1.5	–	表裏面は剥離面で側縁は何れも細く稜を成す。端部の一方は欠損する。他方に敲打痕と摩滅痕を残す。重量 24.0g	
956	C 区	P2188	白磁 碗か	–	(1.6)	–	灰白色 〃 〃	口縁部は緩く内湾し、端部は尖り気味に丸く収める。胎土中に小規模な円孔が見られる。	
957	D 区	P2193	弥生土器 甕	16.5	(3.6)	–	橙色 〃 黄灰色	頸部はやや急に屈曲し、口縁部は外反する。端部は尖り気味に丸く収める。内面ハケの後ナデ。外面ハケ、口縁端部に横方向のナデ。	
958	D 区	P2193	須恵器 蓋	8.1	(1.9)	–	灰白色 灰オリーブ色 灰白色	円形の摘みが付く。天井部は中央部がやや凹み、口縁部は屈曲の後短く下方に延びる。端部は細く尖り気味に収める。内面ナデ。外面回転ナデ、ロクロ目顕著。自然釉。	
959	D 区	P2193	鉄滓	全長 5.5	全幅 5.1	全厚 2.8	–	磁性なし。重量 78.0g	
960	D 区	P2194	土師器 皿	9.0	1.7	6.0	にぶい黄褐色 にぶい橙色 橙色	体部は底部端から内湾気味に短く外方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
961	D 区	P2215	須恵器 杯身	12.9	(2.5)	–	灰色 褐灰色 にぶい橙色	受け部は短く外上方に延び、端部はやや尖り気味に丸く収める。かえりは内傾の後外反し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、体部にロクロ目。受け部径 15.2cm	
962	D 区	P2215	須恵器 杯身	16.0	(2.4)	–	灰白色 黄灰色 〃	受け部は短く外上方に延び、端部は丸く収める。かえりは内傾し、緩く外反し端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、外面体部にロクロ目が残る。受け部径 18.0cm	
963	D 区	P2215	須恵器 杯	14.4	(3.4)	–	灰白色 黄灰色 にぶい黄色	口縁部は細く上方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、外面体部にケズリ。	
964	D 区	P2235	須恵器 椀	–	(1.2)	9.0	灰白色 〃 〃	平らな底部端に断面逆台形状の高台が付く。畳付けは僅かに凹む。内外面ともナデ。	
965	A 区	P2253	弥生土器 壺	–	(3.7)	–	褐灰色 にぶい橙色 灰黄褐色	内面篦状工具によるナデ。外面胴部に櫛描波状文・沈線帯、ヘラ端部による縦及び斜方向の刻み列が巡る。	
966	B 区	P2258	土師器 杯	13.0	3.7	10.0	橙色 〃 浅黄橙色	外面底部以外に赤色顔料が塗布される。内外面底部にそれぞれ墨書が施される。底部から口縁部は直線的に外上方に延びる。	8c
967	B 区	P2259	弥生土器 甕	25.0	(6.2)	–	明赤褐色 橙色 灰色	口縁部はくの字状に外反する。端部は上下に拡張し、平坦面状を呈す。内面ハケ・ナデ、外面タタキ。	
968	B 区	P2259	弥生土器 鉢	11.0	(3.6)	–	橙色 〃 浅黄橙色	口縁端部は丸く収める。内面ハケの後ナデ、外面篦状工具によるナデ。	
969	B 区	P2267	弥生土器 高杯か	–	(6.2)	–	にぶい褐色 〃 にぶい橙色	内外面ともハケの後ナデ。	
970	B 区	P2273	須恵器 杯蓋	–	(2.8)	–	灰色 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色・黄褐色	天井部から体部は緩やかに屈曲する。内面回転ナデ。外面天井部同縁に斜方向の工具痕、体部との境目が凹線状になる。	
971	B 区	P2274	土製品 土錘	全長 3.2	全幅 1.3	全厚 1.3	– にぶい橙色 –	管状土錘。孔径 0.4cm	
972	B 区	P2276	石製品 叩石	全長 13.4	全幅 7.5	全厚 5.0	–	円礫の自然面 2 面に敲打跡が残る。他は剥離する。砂岩製。重量 629.0g	
973	B 区	P2283	弥生土器 甕	15.2	(3.8)	–	にぶい黄橙色 橙色 黄灰色	口縁部は短く外反する。内面は粗い単位の横方向のハケ、外面はハケ・ナデ。	
974	B 区	P2283	弥生土器 甕	–	(3.2)	–	にぶい黄橙色 灰黄褐色 灰色	口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。内面粗い単位の横方向のハケ。外面タタキの後ナデ。	
975	B 区	P2283	弥生土器 甕	14.4	(3.5)	–	にぶい赤褐色 橙色 にぶい橙色	頸部はくの字に屈曲し、口縁部は外反する。端部は尖り気味に仕上げる。内面ハケ・ナデ、外面ナデ。器壁薄い。	
976	B 区	P2288	土師器 不明	–	(2.6)	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	口縁端部は外方に延び、小さな玉縁状を呈す。器面は回転ナデ。	
977	B 区	P2295	弥生土器 甕	12.2	(4.2)	–	にぶい橙色 〃 褐灰色	頸部はくの字に屈曲し、口縁部は外反する。内面口縁部横方向のナデ、頸部以下はハケ。外面タタキ。	
978	B 区	P2300	弥生土器 鉢	–	(4.3)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	内面ハケ・ナデ。外面タタキの後ハケ。	
979	B 区	P2311	須恵器 不明	–	(4.7)	–	灰色 〃 灰褐色	外面に少なくとも 1 条の沈線と櫛書波状文が巡る。	
980	B 区	P2320	土師器 鉢か蓋	22.6	(9.6)	–	にぶい赤褐色・にぶい黄褐色 〃 褐色	口縁部がラッパ状に開く大型の鉢か蓋。内面ミガキ・ナデ、外面ナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
981	B区	P2323	土師器 甕	–	(2.2)	–	褐色 〃 〃	頸部はくの字状に屈曲し、端部は上方に延びる。	
982	B区	P2325	弥生土器 鉢	–	(5.7)	–	灰黄褐色 にぶい黄褐色 〃	胴部上位が肥厚する。内外面ともナデ。	
983	B区	P2329	弥生土器 鉢	–	(1.2)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	鉢の底部片か。内面ハケ。外面底部に植物の種子とみられる圧痕が残る。	
984	B区	P2330	須恵器 蓋	22.0	(1.8)	–	灰白色 灰黄色 〃	口縁部は肥厚する。天井部は欠損。	
985	C区	P2347	弥生土器 甕	18.3	(4.1)	–	淡黄色 〃 〃	頸部はくの字に屈曲し、口縁部は短く直線的に外上方に開く。端部は概ね丸味を持って収める。内面篦状工具による横方向のナデ、外面頸部に横方向の強いナデ。	
986	C区	P2347	弥生土器 甕	–	(3.7)	–	橙色 〃 にぶい黄橙色	頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。内面口縁部は横方向の粗いハケ目が残る、頸部以下はナデ。	
987	C区	P2347	弥生土器 鉢	17.9	(3.3)	–	にぶい黄橙色 浅黄橙色 〃	口縁部は緩く内湾して延び、端部は丸く収める。内面ハケの後ナデ・ミガキ、口縁部は横方向のナデ。外面ナデ、口縁部は横方向のナデ。外面の一部に煤付着。	
988	C区	P2347	弥生土器 高杯	–	(2.6)	–	暗灰黄色 にぶい黄橙色 〃	口縁部は屈曲の後外反する。端部は面を成す。内外面ともナデ。	
989	B区	P2351	須恵器 蓋	16.5	(1.1)	–	灰色 〃 〃	口縁部は肥厚し、断面台形状を呈す。天井部は欠損。	
990	C区	P2352	弥生土器 甕	–	(3.4)	5.8	褐色 暗灰黄色 にぶい褐色	底部は平底状。胴部は底部端から外反して立ち上がる。内外面ともナデ。	
991	C区	P2362	弥生土器 鉢	16.0	(5.9)	–	にぶい黄橙色 〃 橙色	器壁厚い。体部から口縁部は内湾して立ち上がる。端部は概ね丸味をもって収める。内面ハケ、外面タタキ。	
992	C区	P2368	須恵器 高杯	–	(5.9)	–	灰色 〃 〃	脚部に台形または短冊形の幅0.7～1.4cmの透かしを3方向に施す。内面回転ナデ、ロクロ目顕著。外面ナデ、脚部上位に浅い凹線が巡る。胎土中に中程度の裂孔。	
993	C区	P2373	瓦質土器 羽釜	28.0	(5.8)	–	灰色 〃 灰白色	胴部から口縁部は緩く内湾し、内傾する。端部は狭い面を成し、外面口縁部に断面長方形状の鍔が付く。内面ナデ。外面口縁部横方向のナデ、胴部には凹凸面が残る。	
994	C区	P2386	石材 剥片	全長 5.1	全幅 2.7	全厚 2.3	–	砂岩製。河原石を打割し、縁辺の1カ所に使用痕が残される。重量22.0g	
995	C区	P2389	弥生土器 甕	–	(3.0)	–	にぶい黄褐色 〃 黒褐色	口縁部は直線的に外上方に開き、端部は上下に微かに肥厚し面を成す。口縁端部に1条の凹線が巡る。内面ナデ。外面横方向のナデ、一部にタタキの後ハケ。	
996	C区	P2389	瓦器 椀	–	(2.9)	–	灰黄色・オリーブ黒色 オリーブ黒色・灰黄色 灰黄色	口縁部は緩く内湾し、端部は丸く収める。内面ナデ・ミガキ。外面一部にミガキ、凹凸面が残る。	
997	C区	P2395	須恵器 杯	12.5	3.3	10.5	灰白色 〃 〃	平坦な底部から屈曲部を持ち、口縁部は内湾の後直立する。端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面底部はケズリの後ナデ。	
998	C区	P2395	須恵器 椀	–	(1.8)	10.0	灰白色 〃 〃	底部端に断面不整長方形の高台が付く。高台端部は平らな面を成し、内側に肥厚する。内外面ともナデ。高台内はケズリの後ナデ。高台外側には自然釉が付着する。	
999	D区	P2400	弥生土器 甕	–	(5.6)	7.2	黄灰色 浅黄橙色 黄灰色	底部は平底状で端部は丸味を持つ。胴部下位は直線的に外上方に開く。内面ナデ、外面タタキの後ハケ。	
1000	D区	P2403	弥生土器 壺	–	(6.1)	–	橙色 浅黄橙色 黄灰色	頸部の屈曲は緩く、口縁部は緩く内湾し上方に延びる。内面ナデ、口縁部ハケの後ナデ。外面ハケ、口縁部縦方向のハケ、胴部タタキの後ハケ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1001	D区	P2404	弥生土器 壺	–	(2.7)	–	黄灰色 橙色 灰黄褐色	底部は丸底状。内面ナデ、外面箆状工具によるナデ。	
1002	D区	P2404	弥生土器 壺	–	(12.6)	–	にぶい黄橙色 橙色 灰色	胴部は球形と見られる。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ハケ。	
1003	D区	P2409	弥生土器 壺	–	(8.5)	–	黄灰色・浅黄橙色 浅黄橙色 黄灰色	胴部は緩く内湾し、頸部の屈曲はやや急。口縁部は先ず直線的に延び、後に外反すると見られる。内外面ともナデ。	
1004	D区	P2423	土師器 皿	14.4	(2.1)	–	橙色 〃 浅黄橙色	体部から口縁部は外上方に延び、端部は丸く収める。内外面ともナデ。	
1005	D区	P2423	土師器 杯	14.8	(1.3)	–	橙色 〃 〃	口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。内外面ともナデ。器壁薄い。	
1006	D区	P2423	土師器 杯	14.8	(1.5)	–	橙色 〃 にぶい黄橙色	口縁部は直線的に開き、端部は短く外反し丸く収める。内外面ともナデ。	
1007	D区	P2423	土師器 皿	–	(0.7)	7.6	橙色 〃 〃	底部端で湾曲し、体部は直線的に外上方に延びる。内外面ともナデ、底部に粘土紐接合痕が残る。	
1008	D区	P2423	土師器 皿	–	(0.9)	9.8	浅黄橙色 橙色 浅黄橙色	底部端から体部は緩く外反する。内外面ともナデ。	
1009	D区	P2423	土師器 皿	–	(1.2)	10.6	浅黄橙色 明黄褐色 浅黄橙色	底部は平底状でやや突出し、体部は直線的に外上方に延びる。内外面ともナデ。底部に粘土紐接合痕が残る。	
1010	D区	P2425	須恵器 杯蓋	12.2	(3.5)	–	灰色 灰白色 灰色	天井部は内湾し、口縁部は直立する。端部は内傾する面を成す。内外面ともナデ。	
1011	D区	P2425	須恵器 杯	17.0	(3.0)	–	灰白色 〃 〃	底部端で屈曲し、体部は緩く外反し口縁端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1012	D区	P2425	須恵器 杯	19.4	(3.5)	–	灰色 〃 〃	底部端で屈曲し、体部は直線的に延びる。口縁端部は細く丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面底部端に押圧痕が残る。	
1013	D区	P2429	土師器 甕	26.4	(6.6)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	頸部は僅かに屈曲し、口縁部は緩く外反する。端部は太く丸く収める。内面口縁部ナデ、胴部ケズリ。外面口縁部横方向のナデ、胴部ハケ。	
1014	D区	P2429	須恵器 杯蓋	10.8	(3.8)	–	灰色 灰白色 灰色	体部は丸味を帯び、下位で屈曲の後、口縁部は直線的に下方に延びる。端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1015	D区	P2429	土製品 移動式カマド	全長 11.8	全幅 5.2	全厚 4.8	橙色 にぶい黄橙色・暗灰黄色 暗灰黄色	正面左側、接地面に近い部分と見られる。凸部は厚みを保ちつつ下方へ幅を狭くする。器面はナデ。凹凸面を残す。	
1016	D区	P2429	石製品 叩石か	全長 6.8	全幅 1.6	全厚 1.2	–	一端部に複数の筋状痕が見られる。自然礫を用いた敲打具又は未製品又は素材か。泥質。重量 17.3g	
1017	D区	P2429	石製品 不明	全長 3.7	全幅 3.1	全厚 0.6	–	扁平な自然石。頁岩又は泥岩。重量 9.0g	
1018	D区	P2434	須恵器 甕	–	(7.2)	–	灰色 〃 〃	胴部片。内面ナデ、外面カキ目。外面にタタキ目が残る。	
1019	D区	P2434	須恵器 甕	–	(12.0)	–	灰色 〃 〃	丸味を帯びた胴部片。内面ナデ、外面タタキ。	
1020	D区	P2434	須恵器 甕	–	(5.5)	–	灰色 〃 〃	丸底状の底部片。内面同心円文の後ナデ、外面カキ目。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1021	D 区	P2441	土師器 杯蓋	17.0	(3.0)	–	橙色・浅黄橙色 浅黄橙色 〃	天井部から口縁部は緩く内湾し、外斜下方に延びる。端部は緩い凸面を成し、下方へやや突出する。内外面ともヘラミガキ、赤色顔料を塗布する。	
1022	D 区	P2441	土師器 杯	–	(3.0)	9.0	淡黄色 〃 〃	ハの字に開く、高い高台。畳付は緩い凹状を呈す。内外面ともナデ。	
1023	D 区	P2453	須恵器 壺	–	(22.4)	–	灰色 〃 〃	中位が大きく張り出す胴部片。長頸壺か。胴部中位に直径 6.0cm程度の粘土板を充填したと見られる。内面同心円文状のタタキ、外面タタキの後カキ目。	
1024	D 区	P2458	須恵器 杯か高杯	16.6	(3.6)	–	灰色 〃 〃	口縁部は直立し、端部は丸く収める。内面ナデ。外面回転ナデ、ロクロ目が微かに残る。	
1025	D 区	P2464	弥生土器 甕	–	(4.7)	–	にぶい黄橙色 浅黄橙色 〃	胴部は上位で緩く内湾する。内面ナデ、外面タタキ。	
1026	D 区	P2464	弥生土器 椀	17.4	(6.0)	–	にぶい黄橙色 〃 オリーブ黒色	底部はやや突出し、緩い凸状を呈す。体部から口縁部は外上方に開き、口縁部はやや上方に延びる。端部は尖り気味に丸く収める。内面ハケの後ナデ、外面タタキ。	
1027	D 区	P2464	弥生土器 鉢	11.0	(5.3)	–	にぶい黄橙色 〃 灰色	体部から頸部は緩く屈曲し、口縁部は直線的に短く外上方に延びる。端部は細く尖り気味に仕上げる。内面ケズリの後ナデ、一部にケズリが残る。外面ハケの後ナデ。	
1028	D 区	P2465	弥生土器 壺	16.0	(2.0)	–	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色・灰色	口縁部は大きく外反する。端部は面を成し外側に肥厚し、２条の凹線が巡る。内面ハケの後ナデ。外面口縁端部は横方向のナデ、口縁部ハケ。	
1029	D 区	P2465	弥生土器 壺	–	(2.2)	10.2	にぶい黄橙色 〃 橙色	径の大きな平底の底部。内外面ともナデ、押圧痕が残る。	
1030	D 区	P2467	須恵器 杯蓋	14.8	4.3	–	灰白色 〃 〃	天井部は丸味を帯び、口縁部は屈曲の後僅かに内湾する。端部は丸く収める。内面回転ナデ、外面回転ナデ・回転ヘラケズリ。	
1031	D 区	P2471	須恵器 杯蓋	15.0	(1.3)	–	灰色 〃 〃	口縁部は屈曲の後下方に短く突出し、端部は細く丸く収める。内外面とも回転ナデ。胎土中に円・裂孔を含む。	
1032	D 区	P2471	土師器 甑	–	(5.0)	–	橙色 〃 浅黄橙色	把手部。横断面形は楕円形で、端部は扁平で太く丸味を持つ。胴部との接合部にハケ、把手部には押圧痕・接合痕が残る。	
1033	A 区	P2685	土師器 皿	9.4	2.1	5.5	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色	小型。口縁部は緩く外反し、端部は太く丸く収める。内面回転ナデ、ロクロ目を消す。外面回転ナデ、体部以下はロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り、箆状工具の圧痕。	
1034	J 区	P3045	製塩土器	–	(2.1)	–	橙色 〃 〃	胴部は緩く内湾し、口縁部は短く内上方に延びる。端部は尖り気味に丸く収める。内面に布目圧痕が残る。外面ナデ。	
1035	J 区	P3056	土師器 皿	8.6	2.4	4.3	浅黄橙色 橙色 浅黄橙色	円盤状高台。高台下位から上位は直立または内傾する。口縁部は直線的に外上方に延び、端部は丸く収める。内外面ともナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1036	J 区	P3056	須恵器 椀	–	(1.3)	7.2	灰白色 〃 〃	円盤状高台。内外面とも回転ナデ。内面に火襷状の焼成痕（または墨書か）が見られる。底部切り離しは回転糸切り。	
1037	J 区	P3057	土師器 杯	10.6	2.8	4.8	橙色 〃 浅黄橙色	底部は緩い凸面を成す。底部端は湾曲し体部から口縁部は直線的に外上方に延びる。口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。	
1038	J 区	P3074	須恵器 椀	–	(2.3)	7.3	灰白色 〃 にぶい黄橙色	円盤状高台。内外面とも回転ナデ。内面に火襷状の焼成痕を留める。外面底部に煤付着。底部切り離しは回転糸切り。	
1039	J 区	P3077	須恵器 壺	–	(2.1)	–	灰黄色 灰白色 灰黄色	口縁部は外反し、端部は凹面を成し外側にやや偏って突出する。口縁端部に刻みが施される。内外面とも回転ナデ。	
1040	J 区	P3077	鉄製品 刀子	全長 9.8	全幅 1.3	全厚 0.6	–	刀身は背が直線的で幅を持つ平坦面。刃部は緩く湾曲する。関は方関で撫角、茎は茎尻に向かって徐々に幅を減じる。重量 10.0 g	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1041	J区	P3086	須恵器 甕	－	(3.5)	－	黄灰色 青灰色 〃	口縁部は外反し、端部は面を成し外側に肥厚する。内外面ともナデ、外面に自然釉が付着する。	
1042	J区	P3094	土製品 支脚	－	(7.7)	－	褐灰色 にぶい黄橙色 灰黄褐色	角状の支部の一部。裾部に粗いナデ・ハケ、外面は押圧痕とタタキ。支部の背面に直径2.0cmの孔を穿ち裾部の中空まで及ぶ。	
1043	J区	P3094	土師器 甑	－	4.3	－	橙色 〃 にぶい橙色	幅の広い扁平な把手部。端部は丸味を帯びる。上面はナデ、下面は押圧痕が顕著。	
1044	J区	P3118	弥生土器 壺	15.4	(3.6)	－	浅黄橙色 灰白色 〃	口縁部は外反し、端部は面を成し外方に肥厚する。口縁部中位の接合部で弱い屈曲が見られる。内面ハケの後ナデ。外面ナデ、口縁端部は横方向のナデが顕著。	
1045	J区	P3132	弥生土器 甕	－	(3.5)	－	黒褐色 にぶい橙色 浅黄橙色	口縁部は僅かに内湾した後短く外反し、箆状工具による7条以上の沈線帯が巡る。端部は面を成し外側へ肥厚する。内面ナデ、口縁端部に煤付着。外面ナデ。	
1046	J区	P3146	鉄製品 不明	全長 4.1	全幅 2.3	全厚 0.5	－	小刀あるいは鎌か。重量7.0 g	
1047	J区	P3160	弥生土器 甕	16.6	(2.0)	－	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色	口縁部は外反する。端部は浅い凹面を成し、外側に肥厚する。内面ナデ、口縁部の一部にハケの痕跡が残る。外面ナデ、一部に煤付着。	
1048	J区	P3160	弥生土器 甕	－	(3.6)	5.9	にぶい褐色 灰黄褐色 〃	底部は浅い凹面を成す。胴部は外上方に延びる。内外面ともナデ。	
1049	J区	P3160	土師器 椀	－	(3.4)	6.9	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	底部は浅い凹面状を呈し、体部は緩く内湾して外上方に延びる。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。精緻な胎土。	
1050	J区	P3160	須恵器 椀	17.2	(4.1)	－	灰白色 〃 〃	体部から口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。内外面ともナデ。外面の一部に箆状工具による圧痕が残る。	
1051	J区	P3162	土師器 杯	－	(2.1)	6.0	にぶい橙色 〃 〃	底部から体部は緩く外反する。内外面ともナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1052	J区	P3174	須恵器 壺	－	(7.9)	－	黄灰色 灰赤色 灰白色	胴部は僅かに外反し肩部より内湾。内外面ともナデ、粘土板の接合痕を留める。胎土中の気泡が顕著で器面の凹凸が著しい。外面は焼成の最終段階で酸化。	
1053	J区	P3181	弥生土器 甕	22.6	29.9	7.5	灰黄褐色 にぶい黄橙色 灰黄褐色	底部は平底状で、端部は外側に張り出す。胴部上位に2条の微隆起突帯、上下に箆状工具による圧痕。口縁部は外反し、端部は面を成す。内面ナデ、外面ハケの後ナデ。	
1054	J区	P3182	弥生土器 甕	－	(6.0)	－	灰褐色 にぶい橙色 灰黄褐色	胴部は内湾し、頸部にかけて緩やかに屈曲する。胴部上位に断面三角形状及び台形状の微隆起突帯が2条巡り、上下に箆又は爪による圧痕が残る。内外面ともナデ。	
1055	J区	P3186	土師器 椀	13.5	(5.3)	6.0	にぶい橙色 橙色 浅黄橙色	底部端は直立し、体部は内湾気味に延びる。口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面底部にはロクロ目、外面底部端へラナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1056	J区	P3187	弥生土器 壺	16.3	(6.7)	－	にぶい橙色 橙色 〃	頸部から口縁部は外反する。口縁端部は面を成し外側に肥厚。頸部に8条以上の箆描による沈線帯、端部に工具の押圧による刻み。内面横方向のミガキ、外面ナデ。	
1057	J区	P3187	弥生土器 壺	－	(8.6)	－	橙色 にぶい黄橙色 橙色	胴部片。内面横方向のナデ、外面横方向のミガキ。内面のナデはミガキ同様に丁寧に仕上げられる。	
1058	J区	P3187	弥生土器 壺	－	(17.2)	－	にぶい橙色 橙色 〃	胴部片。内面ナデ、外面箆状工具によるナデの後ミガキ。	
1059	J区	P3192	須恵器 甕	－	(3.3)	14.4	灰色 〃 〃	底部は平底状。内外面ともナデ。胎土中に白色粒・黒色粒を含む。	
1060	J区	P3194	弥生土器 高杯	－	(3.8)	－	にぶい褐色 〃 にぶい橙色	杯体部から口縁部は、外上方に延びる。内面ナデ、外面剥離が著しい。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1061	J区	P3195	弥生土器 壺	14.8	(7.6)	–	橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	口縁部は僅かに外上方に延び、接合部で弱く屈曲し、直線的に内上方に延びる。口縁端部は凹状の面を成す。内外面ともナデ。	
1062	J区	P3195	弥生土器 高杯	18.3	(2.1)	–	橙色 にぶい橙色 〃	口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。内外面ともナデ。	
1063	J区	P3195	土師器 杯	11.6	(2.5)	–	橙色 〃 浅黄色	口縁部は外上方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1064	J区	P3195	土師器 羽釜	19.4	(4.8)	–	にぶい赤褐色 明赤褐色 赤褐色	播磨型。口縁部下に鍔が巡る。胴部から口縁部は内湾し、端部はやや凹状の水平な面を成す。内外面ともナデ、鍔の下部に押圧痕が残る。	15c
1065	J区	P3195	須恵器 壺	–	(5.6)	–	灰色 〃 〃	肩部に断面三角形状の突帯。接合痕の上部はナデ消し、下部は痕を残す。残存部の1カ所に耳を有する。耳は部分的に接合痕をナデ消し、押圧痕。内外面とも回転ナデ。	
1066	J区	P3195	須恵器 壺	–	(13.1)	10.6	黄灰色 灰色 灰白色	底部端に断面方形状の高台を有し、やや肩部が張る形状。内外面ともナデ、粘土紐接合痕を留める。胎土中に黒色の粒子を多く含む。	
1067	J区	P3196	土師器 羽釜	21.2	(5.6)	–	灰褐色 〃 にぶい橙色	摂津型。口縁部は上方に延び、端部は凹面状。口縁部横に断面台形状の鍔。鍔端部は凹面を成す。内面ナデ。外面鍔上部は丁寧なナデ、下部は接合痕、胴部縦方向のハケ。	10c
1068	J区	P3197	土師器 杯	–	(1.4)	6.0	にぶい橙色 橙色 〃	底部はやや突出する緩い凸面状。内面回転ナデ、ロクロ目を残す。外面ナデ。底部切り離しはヘラ切り、粘土紐痕を残す。	
1069	J区	P3197	土師器 椀	–	(1.6)	–	褐灰色 橙色 にぶい橙色	底部に高台を有する。底部端が腰折状に屈曲し、体部は直線的に外上方に延びる。内面丁寧なナデ、外面ナデ。外面高台内に粘土紐の痕跡を残す。	
1070	J区	P3209	須恵器 杯	–	(1.4)	8.2	黄灰色 灰褐色 灰色	底部端に断面方形状でハの字に開く高台が付く。内外面ともナデ。	
1071	J区	P3212	弥生土器 壺	18.4	(3.3)	–	にぶい黄橙色 灰黄色 浅黄橙色	頸部から口縁部は内湾し斜外上方に延びる。端部は凹面を成し上部は尖り気味に仕上げる。内外面ともナデ。	
1072	J区	P3212	土師器 皿	–	(1.2)	8.2	にぶい黄橙色 〃 〃	内外面とも回転ナデ。底部に粘土紐痕を残す。	
1073	J区	P3214	弥生土器 高杯	19.1	(4.7)	–	橙色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	杯体部は屈曲の後外反し、口縁端部は丸味を帯びた面を成す。内外面ともナデ。	
1074	J区	P3214	弥生土器 鉢	14.2	(4.3)	–	橙色 〃 黄灰色	体部から口縁部は内湾して延び、端部は細い面を成す。内面細かい単位のハケ。外面タタキの後ナデ、口縁端部は横方向のナデ。	
1075	J区	P3214	土師器 手づくね皿	13.0	2.3	8.0	にぶい橙色 にぶい黄橙色 にぶい橙色	緩い起伏のある平底状。体部から口縁部は緩く内湾して立ち上がる。端部は尖り気味に丸く収める。内外面ともナデ、押圧痕が残る。部分的に煤付着。	
1076	J区	P3214	土師器 手づくね皿	12.9	2.2	7.6	灰黄褐色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	底部は起伏のある平底状。口縁部に強い横方向のナデが施され、段状になる。端部は尖り気味に丸く収める。内外面ともナデ、押圧痕。外面全面に煤付着。	14～ 16c前
1077	J区	P3214	土師器 手づくね皿	13.2	(2.2)	–	にぶい黄橙色 褐灰色 浅黄橙色	底部から口縁部は緩く内湾し外上方に延び、口縁端部は細く尖り気味に収める。内面ナデ、押圧痕。外面口縁端部横方向のナデ、押圧痕が残る。	
1078	J区	P3214	土師器 手づくね皿	13.2	(2.6)	–	にぶい黄橙色 灰黄褐色 にぶい黄橙色	底部から口縁部は緩く内湾し外上方に延び、口縁端部は細く尖り気味に収める。内面ナデ、外面押圧痕が残る。	
1079	J区	P3214	須恵器 杯	10.2	(2.3)	–	黄灰色 〃 〃	口縁部は直線的に外上方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1080	J区	P3265	須恵器 蓋	16.4	(1.2)	–	灰白色 〃 〃	口縁部は外側に面を成し、下方に突出する。端部は丸く収める。内外面ともナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1081	J 区	P3267	土製品 支脚か	–	3.8	–	浅黄色 〃 黄灰色	中空の脚部。内面横方向のハケ、脚端部ナデ。外面タタキの後ハケ。	
1082	K 区	P3282	土師器 甕	–	(4.2)	2.6	黄褐色 にぶい黄褐色・黒色 黒褐色	底部は小さな平底状。内面ナデ、外面ハケ・ミガキ、底部ミガキ。	
1083	K 区	P3283	弥生土器 鉢	–	(3.0)	–	黒褐色 暗灰黄色 〃	内面ナデ、指頭圧痕が残る。外面ハケ。	
1084	L 区	P3293	土師器 椀か	–	(3.3)	5.0	灰黄色 にぶい黄橙色 灰色	粘土紐成形。外面底部と体部の境が段状に凹む。外面胴部上位は回転ナデ、下位は回転ヘラケズリ。底部切り離しは回転糸切り。	
1085	L 区	P3300	弥生土器 甕	–	(4.3)	–	橙色 〃 〃	くの字状に外反する口縁部。頸部の一部に煤付着。	
1086	L 区	P3300	弥生土器 甕	–	(4.6)	–	橙色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	底部は丸底状。内面ナデ、外面タタキの後下から上へのナデ。	
1087	L 区	P3300	弥生土器 甕か	–	(5.2)	10.0	にぶい黄褐色 〃 にぶい黄橙色	平底状を呈する底部片。内外面ともナデ。	
1088	北区	P2	土師器 杯	10.8	2.8	6.9	にぶい黄橙色 灰黄褐色 にぶい黄橙色	体部中位から口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1089	北区	P4	土師器 杯	–	(2.0)	6.8	浅黄色 橙色・にぶい黄橙色 浅黄橙色	底部は緩い凸面状を呈す。内外面とも回転ナデ、見込みロクロ目顕著。外面底部は粘土紐痕をナデで消す。	
1090	北区	P5	土師器 皿	10.7	(1.4)	–	にぶい橙色 〃 〃	口縁部は直線的に外上方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1091	北区	P5	土師器 皿	9.1	(1.8)	–	にぶい黄褐色 〃 〃	口縁部は外反して外上方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、内面の一部に煤が薄く付着する。	
1092	北区	P5	土師器 杯	–	(1.4)	7.7	浅黄橙色 灰白色 褐灰色	底部はやや突出する。内外面とも回転ナデ、底部ロクロ目顕著。	
1093	北区	P5	土師器 杯	9.8	3.0	7.0	浅黄橙色 〃 〃	底部は緩い凸面状で、口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は丸く収める。内外面ともナデ。	
1094	北区	P5	土師器 椀	–	(2.5)	5.4	にぶい橙色 〃 〃	底部端に脚の長い高台がハの字状に付く。畳付けは丸味を持った面を成す。内外面ともナデ。	
1095	北区	P11	弥生土器 甕	–	(10.6)	3.8	にぶい黄橙色 〃 灰色	底部は押し潰した平底状で、端部は不明瞭。内面ナデ。外面タタキの後ナデ、底部にタタキ目が残る。煤が部分的に付着する。	
1096	北区	P11	須恵器 甕	–	(4.1)	12.4	灰色 〃 〃	緩い凹凸面状の平底。内外面ともナデ、押圧痕が見られる。	
1097	北区	P11	石製品 石錘	全長 4.5	全幅 4.3	全厚 1.1	–	扁平な不整円形状の縁辺の 1 カ所にくの字状の抉りが見られる。砂岩製。重量 27.0g	
1098	北区	P14	弥生土器 甕	–	(3.8)	–	橙色 〃 にぶい黄橙色	胴部片。内面ナデ、外面に 2 条の微隆起突帯が巡り、その上下に押圧痕をが見られる。	
1099	北区	P21	須恵器 壺	–	(3.6)	–	明黄褐色 黄灰色 〃	内面ナデ、鉄錆・土塊が付着する。外面タタキ、部分的に格子状になる。	
1100	北区	P21	鉄製品 パイプか	全長 16.3	全幅 3.3	全厚 1.9	–	中空のパイプ状で、端部を潰す。平面は浅い円弧を呈した箆状を成すが、先端は面を維持する。重量 103.0g	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm）			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1101	北区	P41	弥生土器 壺か	–	(2.1)	4.2	にぶい黄橙色 黒褐色 にぶい黄橙色	底部は平底状。内外面ともナデ。	
1102	北区	P44	土師器 皿	10.5	2.7	6.4	にぶい黄橙色 〃 〃	底部は緩い凸面状を呈す。口縁部は底部端から緩やかに外反し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、見込みロクロ目顕著。外面底部は粘土紐痕をナデで消す。	
1103	北区	P44	土師器 皿	10.2	2.2	7.0	にぶい黄橙色 〃 〃	底部は緩い凸面を成し、口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は太く丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面底部は粘土紐痕を一部残してナデ消す。	
1104	北区	P46	弥生土器 甕	–	(4.3)	5.8	橙色 〃 暗黄灰色	底部は平底状。内面ケズリの後ナデ、外面ハケ、底部端に押圧痕、強い横方向のナデ。	
1105	北区	P54	瓦器 椀	–	(1.7)	–	暗灰色 〃 褐灰色	口縁部片。端部は細く丸く収める。内外面ともナデ。内面口縁端部下に沈線状の段が巡る。外面の一部にタール付着。	
1106	北区	P55	黒色土器 椀	–	(0.8)	–	暗灰色 橙色 浅黄橙色	内面のみ黒色処理。底部端に高台が付く。内面ミガキ、外面ナデ。	
1107	北区	P64	土師器 杯	16.7	(3.3)	–	橙色 浅黄橙色 灰白色	体部は緩く内湾、口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。口縁部の一部に二次被熱を受ける。内面ナデ・ヘラミガキ、外面回転ナデ・ヘラミガキ。	
1108	北区	P67	須恵器 椀	15.8	(5.0)	–	灰白色 〃 〃	体部は丸味を帯び、口縁部は短く外反する。端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面体部ロクロ目顕著。外面口縁端部強い横方向のナデ。	
1109	北区	P67	緑釉陶器か 椀	–	(2.3)	–	灰白色 〃 にぶい黄橙色	体部片。内外面ともナデ、釉薬が施される。東海系。	
1110	北区	P68	土師器 皿	11.4	1.4	8.9	にぶい橙色 〃 灰白色	口縁部は直線的に短く外上方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1111	北区	P68	須恵器 杯	15.8	(2.3)	–	灰色 〃 〃	口縁部は緩やかに外上方に延び、端部は外側寄りに丸く収める。内外面とも回転ナデ、帯状の焼成痕が残る。	
1112	北区	P70	土師器 皿	8.5	1.7	4.3	浅黄橙色 〃 〃	底部はやや突出し、口縁端部は短く外反する。端部は尖り気味に丸く収める。内外面とも回転ナデ、見込みロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り。	
1113	K 区	SX1	弥生土器 壺	–	(10.3)	7.3	にぶい橙色 にぶい黄橙色 淡黄色	底部は高台状の平底を呈し、最下の粘土が剥離する。内面ナデ・ミガキ。外面中位はハケ、下位はミガキにより砂粒が下から上へ移動する。	
1114	K 区	SX1	弥生土器 壺	28.0	(11.9)	–	にぶい黄褐色 橙色 浅黄橙色	広口壺の頸部・口縁部。内面ハケ、指頭圧痕。口縁端部は上下に拡張しそれぞれ棒状工具による刻目。頸部に多重（11 条）の篦描沈線、上位と中位に扁平刻目突帯。	
1115	K 区	SX1	弥生土器 甕	16.8	(10.4)	–	にぶい橙色 橙色 にぶい黄橙色	肩部に微隆起突帯文。口縁端部はナデにより内傾する面を成す。内面横方向のハケ、指頭圧痕が残る。頸部と口縁部に部分的にミガキ。外面頸部縦方向のハケ。	
1116	K 区	SX1	弥生土器 甕	25.3	(17.4) (5.3)	11.9	橙色 にぶい橙色 〃	口縁部は緩やかに外反し端部は僅かに凹状を呈する面を成す。頸部に 2 条の微隆起突帯が巡る。内面ハケ、指頭圧痕が残る。外面口縁部ハケ、胴部板状工具によるナデ。	
1117	K 区	SX1	弥生土器 壺か甕	21.4	(4.3)	–	にぶい橙色 〃 黄灰色	口縁部は外反する。内面ミガキ。外面ナデ、指頭圧痕が残る。	
1118	K 区	SX1	弥生土器 壺か甕	–	(4.3)	7.2	にぶい橙色 にぶい黄橙色 〃	底部は平底状で、僅かに上げ底状を呈す。外面ナデ、指頭圧痕が残る。胎土に 2 ～ 10㎜大の砂粒を多く含む。	
1119	K 区	SX1	弥生土器 甕	–	(4.1)	–	にぶい橙色 にぶい黄橙色 にぶい橙色	外面の 7 条以上の多重の篦描沈線、直下に縦方向のハケ。	
1120	K 区	SX1	弥生土器 甕	–	(5.0)	5.9	にぶい橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	底部は平底状で、僅かに上げ底状を呈す。輪台粘土の接合痕が残る。内面ミガキ。外面ナデ、指頭圧痕が残る。胎土に 1 ～ 5㎜大の砂粒を多く含む。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1121	K 区	SX1	弥生土器 甕	－	(3.0)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	外面口縁端部に刻目。	
1122	K 区	SX1	弥生土器 不明	－	(2.2)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	外面に微隆起突帯が貼付される。	
1123	D 区	包含層	弥生土器 壺	18.9	(6.1)	－	明褐色 橙色 明黄褐色・灰色	頸部でやや急に屈曲し、口縁部は外反し大きく開く。端部は凹状の面を成し、上下に肥厚する。口縁端部に竹管刺突文を施す。内面ハケ、外面縦方向のハケ。	
1124	北区	包含層 検出面	弥生土器 壺	15.4	(6.8)	－	にぶい橙色 淡赤橙色 にぶい黄褐色	頸部から口縁部は連続して外反する。端部は面を成し、外側は肥厚する。内面ハケ、口縁端部横方向のナデ。外面ハケの後ナデ、口唇部に 1 条の浅い凹線が施される。	
1125	北区	表採	弥生土器 壺	19.4	(3.0)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	口縁部片。端部は面を成し、上下に肥厚する。内面ナデ。外面ハケ、口縁端部横方向のナデ。	
1126	B 区	包含層	弥生土器 壺か	11.6	(4.2)	－	橙色 〃 にぶい黄橙色・黄灰色	口縁部はやや内湾し、端部は丸く収める。口縁端部は内外面ともハケの後横方向のナデ。以下はハケ。	
1127	北区	包含層 検出面	弥生土器 壺	13.4	(5.1)	－	橙色 にぶい橙色 黄橙色	頸部の屈曲はやや急で、口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面ハケ、外面タタキの後ナデ。	
1128	北区	包含層 検出面	弥生土器 壺	14.4	(8.3)	－	橙色 〃 灰オリーブ色	頸部で湾曲し、口縁部は直線的に上方に延び、上位で外反する。端部は丸味を持った面を成す。内外面ともハケの後ナデ。	
1129	B 区	包含層	弥生土器 壺か	13.6	(4.8)	－	にぶい黄橙色 にぶい褐色 にぶい黄橙色	二重口縁で、二次口縁部は上方に延びる。内面横方向のハケ、外面 2 方の斜方向のハケ。	
1130	A 区	包含層	弥生土器 壺	－	(6.5)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	外面頸部にハケ状工具による刻目が施された貼付帯が巡る。口縁部外面に櫛描波状文と見られる文様。	
1131	A 区	包含層	弥生土器 壺	－	(4.4)	－	浅黄橙色 〃 灰色	頸部と胴部の境に、刷毛状工具による刻目が施された貼付帯が巡る。内外面とも胴部上位は斜方向のハケ。	
1132	D 区	包含層	弥生土器 壺	21.1	(5.7)	－	にぶい黄橙色 明赤褐色 にぶい黄橙色・灰色	口縁部はやや内傾する。端部は凹面を呈し、内外に肥厚する。内外面ともナデ、外面口縁部に凹線風の段が強い横方向のナデにより残る。	
1133	A 区	包含層	弥生土器 壺	－	(5.3)	－	淡黄色 淡黄橙色 淡黄色	頸部で屈曲の後、口縁部は上方へ立ち上がる。内面口縁部ナデ、胴部は粗いハケ。外面ヘラミガキ。	
1134	A 区	包含層	弥生土器 壺	－	(4.3)	－	にぶい褐色 にぶい橙色 にぶい黄褐色	外面ハケの後、4 条の箆描沈線が巡る。	
1135	北区	包含層 検出面	弥生土器 壺	－	(6.6)	－	橙色 〃 浅黄橙色	頸部片。外面に多重の箆描沈線、沈線間に箆状工具による刻みが巡る。内外面ともハケ。	
1136	北区	包含層 検出面	弥生土器 壺	28.0	(7.8)	－	橙色 にぶい橙色 〃	頸部から口縁部は連続して外上方に延びる。端部は面を成す。内面ナデ、外面ハケ。外面口縁端部に押圧によって刻み風に仕上げる。	
1137	D 区	包含層	弥生土器 甕	－	(5.3)	10.8	明赤褐色 〃 黒褐色	底部は平底状。体部は直線的に外上方に延びる。内面ハケ、外面ナデ。	
1138	D 区	包含層	弥生土器 壺	－	(3.7)	4.5	暗灰黄色 にぶい黄褐色 灰色	底部は平底状で凹面を成す。胴部は緩く外反する。内外面ともナデ。	
1139	A 区	包含層	弥生土器 壺	－	(4.7)	5.6	橙色 〃 黄灰色	底部は平底状を呈し、中央が凹面を成す。胴部は緩く外反する。内面ナデ、外面ハケ。	
1140	北区	包含層 検出面	弥生土器 壺	－	(6.3)	6.8	橙色 〃 暗灰黄色・橙色	底部は高台状で、中央がやや深く窪む。胴部下位は直線的に外上方に延びる。内外面ともナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1141	A 区	包含層	弥生土器 壺か甕	–	(7.8)	8.4	明赤褐色 〃 〃	平底状を呈する底部片。内面ナデ、外面縦方向のミガキ。	
1142	K 区	包含層	弥生土器 壺	–	(6.7)	9.0	にぶい黄橙色 にぶい褐色・暗灰色 明黄褐色	底部は平底状。内面ナデ。外面ハケ・ミガキ。外面底部は強いケズリ。	
1143	K 区	包含層	土師器 壺	–	(4.7)	6.6	橙色 にぶい黄橙色 橙色	平底状の底部片。内面ナデ、指頭圧痕、外面粗いハケの後ミガキ。	
1144	D 区	包含層	弥生土器 壺	–	(4.0)	4.4	にぶい黄橙色 にぶい橙色 黄灰色・浅黄色	底部は緩い凸面を成す。底部端は比較的明瞭で、胴部は外上方に延びる。内面ナデ、底部に押圧痕を残す。外面ハケ、底部タタキ。	
1145	A 区	包含層	弥生土器 壺	–	(3.6)	4.0	暗灰黄色 明黄褐色 灰黄褐色	底部は小さな平底状を呈す。胴部へ向かって緩く内湾して広がる。内面ナデ、外面タタキの後ヘラナデ。外面底部に簾状の圧痕。	
1146	K 区	包含層	弥生土器 甕	21.5	(20.6)	–	灰黄褐色 にぶい黄色 〃	内面ミガキ。外面胴部上位に３条の微隆起突帯が巡る。頸部から口縁部ハケ、口縁端部は指頭圧痕により断面長方形状を呈す。胴部は板状工具によるナデ。	
1147	A 区	包含層	弥生土器 甕	–	(10.5)	10.0	橙色・黒褐色 にぶい黄橙色 にぶい橙色	底部は平底状。内外面ともナデ。器壁が厚く焼成良好。内外面の一部に煤付着。	
1148	北区	包含層	弥生土器 甕	18.0	(5.1)	–	橙色 にぶい橙色 灰色	頸部から口縁部は連続的に外反し、端部は浅い凹面を成し、内外に拡張する。内面ハケ、口縁部横方向のナデ。外面ハケの後ナデ、口縁端部横方向のナデ。	
1149	A 区	包含層	弥生土器 甕	13.4	(7.5)	–	にぶい橙色 にぶい褐色 黄灰色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は短く直線的に外上方に延びる。端部は丸味を持った面を成し、外側に肥厚する。内面ハケ、胴部はハケの後ナデ。外面タタキ。	
1150	A 区	包含層	弥生土器 甕	–	(24.6)	5.0	褐灰色 灰黄褐色 褐灰色	底部は狭く緩い凸面状。内面ハケの後ナデ。外面胴部中位及び上位は横方向のタタキ、下位は斜方向のタタキをハケで消す。底部はタタキか。胴部中位に煤付着。	
1151	A 区	包含層	弥生土器 甕	19.5	(9.7)	–	にぶい橙色 にぶい褐色 にぶい褐色・褐灰色	頸部はくの字状で、口縁部は直線的に外上方に開く。端部は面を成し、外側に肥厚。内面口縁部ハケ、胴部ハケの後強いナデ。外面口縁部タタキの後ナデ、胴部タタキ。	
1152	A 区	包含層	弥生土器 甕	14.0	27.0	–	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	底部は丸底状。胴部縦断面形は楕円形状。頸部はくの字状で、口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側へやや肥厚。内面ハケの後ナデ。外面タタキ。一部に煤付着。	
1153	A 区	包含層	土師器 甕	–	(16.8)	–	浅黄橙色 〃 〃	底部は丸底状で、胴部最大径は中位。頸部の屈曲は比較的急。内面ナデ・ヘラケズリ、外面ハケ・ナデ。一部に煤付着。	
1154	A 区	包含層 検出面	弥生土器 甕	–	(13.0)	–	黒褐色 浅黄橙色 黄灰色	底部は丸底状。胴部は丸味を帯びる。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ナデ。	
1155	D 区	包含層	弥生土器 甕	–	(5.7)	5.4	にぶい赤褐色 灰褐色 褐灰色	底部は平底状。胴部は直線的に外上方に延びる。底部に直径 1.5cm程の穿孔を焼成後に穿つ。内面ナデ、底部に爪圧痕が残る。外面ハケ。	
1156	北区	包含層	弥生土器 甕	–	(3.3)	5.6	暗灰色 灰黄褐色 〃	底部は平底状で緩い凹面を成す。内面ナデ、外面ハケ。	
1157	D 区	包含層	弥生土器 甕	–	(2.6)	3.6	にぶい黄橙色 にぶい橙色 黄灰色	底部は小さな平底状を呈す。内面ナデ、外面タタキの後ハケ。	
1158	A 区	包含層	弥生土器 甕	9.0	8.5	2.3	浅黄橙色 淡黄色 灰色	底部は狭い平底状で、端部は丸味を持つ。頸部の屈曲は緩やかで、口縁部は直線的に僅かに外方に開く。端部は尖り気味に細く仕上げる。内面ハケ・ナデ。外面タタキ。	
1159	A 区	包含層	弥生土器 甕	–	(15.0)	4.2	にぶい黄橙色 明黄褐色 黄灰色	底部は緩い凸面状を呈す。胴部最大径は中位。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。	
1160	J 区	包含層	弥生土器 甕	13.0	12.9	–	橙色 〃 黄灰色	底部はやや突出した丸底状。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は僅かに内湾の後、上方に尖る。内面ナデ。外面タタキの後ハケ・ナデ、口縁部は横方向のナデ、押圧痕。	
1161	北区	包含層	弥生土器 甕	–	(6.7)	3.0	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	底部は粘土紐貼付底風に突出し、中央部は緩い凸面を成す。内面ナデ、底部に押圧痕を残す。外面タタキ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1162	C 区	包含層	庄内式土器 甕	－	(2.3)	－	にぶい黄褐色 オリーブ黒色 にぶい黄橙色	器壁薄い。内面細かい単位のハケ、外面タタキ。一部に煤付着。	
1163	B 区	包含層	庄内式土器 甕	－	(4.3)	－	暗褐色 黒褐色 褐色	胴部片とみられる。内面ヘラケズリ、外面ハケ。器壁が薄く、胎土に雲母片含む。	
1164	J 区	包含層	土師器 甕	13.4	(4.7)	－	橙色 〃 にぶい黄橙色・黄灰色	頸部から口縁部は直線的に外上方に延び、端部は丸く収める。内外面ともハケの後横方向のナデ。	
1165	A 区	包含層	土師器 甕	15.0	26.5	－	橙色 〃 黄灰色	底部は丸底状。胴部は丸味を帯び、口縁部はやや外上方に延びる。端部は面を成す。内面ナデ・ハケ。外面ハケの後ナデ、胴部上位から口縁部に細かいハケ、口縁部ナデ。	
1166	B 区	包含層	弥生土器 鉢	11.4	7.7	2.6	橙色 〃 〃	底部は小さな平底状。内面ハケ、外面ナデ。	
1167	A 区	包含層	弥生土器 鉢	15.5	(6.7)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	体部から口縁部は内湾気味に外上方に開く。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。小裂孔が多く見られる。	
1168	A 区	包含層	弥生土器 鉢	14.7	(6.2)	－	オリーブ黒色 にぶい黄褐色 黄灰色	体部から口縁部は内湾気味に外上方に延び、端部は無調整で窪んだ面を成す。内面粗いハケの後ナデ、外面ナデ。	
1169	A 区	包含層	弥生土器 鉢	15.8	5.0	4.4	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	底部は狭く緩い凸面状で、端部は不明瞭。口縁端部は中央の窪んだ面を成す。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。器面に小裂孔が多く見られる。	
1170	D 区	包含層	弥生土器 鉢	－	(2.3)	3.4	橙色 〃 浅黄橙色	底部は小さな平底状で、端部は不明瞭。内外面ともナデ、浅く小さな凹凸面が残される。	
1171	D 区	包含層	弥生土器 鉢	－	(3.5)	4.0	にぶい橙色 〃 〃	底部は端の不明瞭な緩い凸面を成す。内面ナデ、底部に螺旋状の篦状工具による圧痕が残る。外面タタキの後ナデ。中ないし大規模な裂孔が多く見られる。	
1172	A 区	包含層	弥生土器 鉢	12.0	(4.5)	－	浅黄橙色 黒色 黄灰色	内面ナデ。外面タタキの後ナデ。内面に僅かに赤色顔料が付着する。	
1173	北区	表採	弥生土器 鉢	12.4	(5.6)	－	橙色 にぶい橙色 灰白色	体部から口縁部は丸味を帯び、端部は尖り気味に丸く収める。内面篦状工具によるナデ、外面ナデ。器面に小裂孔が見られる。	
1174	J 区	包含層	弥生土器 鉢	11.8	(3.0)	－	にぶい黄橙色 浅黄橙色 褐灰色	手づくね成形で、浅い皿状を呈す。体部から口縁部は緩やかに外上方に延び、端部は上方にやや尖る。	
1175	A 区	包含層	弥生土器 鉢	13.6	(3.2)	－	赤色・浅黄橙色 褐色 浅黄橙色	内面に赤色顔料が塗布される。外面タタキの後斜方向のナデ。	
1176	A 区	包含層	弥生土器 鉢	15.4	4.8	4.4	にぶい橙色 〃 にぶい黄橙色	底部は押し潰した平底で、端部は不明瞭。口縁部は外上方に延び、端部は丸く収める。内面ナデ、外面タタキ。	
1177	A 区	包含層	弥生土器 鉢	18.0	5.9	4.2	浅黄橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	底部は押し潰した平底で、緩い凸面を成す。体部から口縁部は緩く上方に延び、端部は丸く収める。内面篦状工具によるナデ。外面タタキ、口縁部ナデ。	
1178	A 区	包含層か	弥生土器 鉢	18.0	(4.7)	－	淡黄色 〃 〃	体部から口縁部は緩く外上方に延び、端部は面を成す。内面ハケ、外面ナデ。	
1179	D 区	包含層	弥生土器 鉢	29.2	(5.2)	－	にぶい赤褐色 にぶい褐色 オリーブ黒色	口縁部は短く外反。端部は面を成し外側に肥厚し３条の凹線。内面ナデ、胴部ヘラミガキかミガキ風のナデ。外面ハケの後ナデ、口縁部横方向のナデ、胴部ハケ。	
1180	A 区	包含層	弥生土器 鉢	28.0	(11.3)	－	にぶい黄橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	大型。口縁部は緩やかに外反する。内面横方向のハケ・ナデ、体部はハケ・ミガキ、下位は縦方向のケズリ。外面口縁部ナデ、体部はハケ・指頭圧痕。一部に煤付着。	
1181	A 区	包含層	弥生土器 台付鉢	－	(2.7)	9.8	－ 浅黄橙色 〃	台部は外反の後緩く内湾する。端部は太く丸く収める。内面ナデ。外面ナデ、押圧痕を残す。	
1182	K 区	包含層	弥生土器 高杯	－	(4.5)	9.2	橙色 明黄褐色 浅黄橙色	ハの字に開く高台。内面ハケ・ナデ、外面横方向のナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1183	C 区	包含層	弥生土器 高杯	–	(3.9)	–	明赤褐色 〃 暗灰黄色	杯部は緩く内湾して立ち上がる。裾部は直線的に広がる。杯底部は充填による。内面ナデ、外面ハケの後ナデ。	
1184	B 区	包含層	弥生土器 高杯	–	(2.5)	11.8	黄灰色 にぶい黄橙色 黄灰色	脚部片。裾部は内面ハケ、外面横方向のハケの後縦方向のミガキ。直径 1.0cmの円孔が認められる。胎土に雲母片を含む。	
1185	B 区	包含層	弥生土器 高杯	–	(4.8)	10.6	浅黄色 淡黄色 〃	脚部片。内面ハケ、外面裾部は横方向のミガキ。	
1186	D 区	包含層	弥生土器 高杯	–	(7.9)	13.6	にぶい橙色 橙色 橙色・灰色	脚部片。裾部へかけて外反する。端部は欠損するがやや反り上がる。内面ナデ、絞り目が残る。外面ミガキ。	
1187	A 区	包含層	弥生土器 高杯	–	(5.8)	13.7	灰黄褐色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	杯又は鉢の脚（台）部と見られる。中空の脚上部に粘土の充填の痕跡が残る。上位は直線的に広がり、中位で屈曲、裾部は直線的に開き、端部は面を成す。	
1188	A 区	包含層	弥生土器 高杯	–	(6.5)	14.2	にぶい橙色 〃 浅黄色	脚部は裾部まで連続的に広がり、端部は面を成す。中位に直径 0.8cmの円孔を 3 方向に穿つ。内面ハケ、裾部ナデ。外面脚部上位で縦方向、下位で横方向のミガキ。	
1189	北区	包含層	弥生土器 蓋	25.0	(11.3) (2.9)	–	にぶい橙色 〃 にぶい黄橙色	天頂部は緩い凹面状。口縁部は外反し端部は丸く収める。内面ハケの後ナデ、口縁部ミガキ。外面ハケの後ミガキ、上位は縦方向の篦状工具によるナデ、口縁部はハケ。	
1190	A 区	包含層	弥生土器 蓋	24.8	(6.1)	–	浅黄橙色 橙色 浅黄橙色	裾部はラッパ状に外反し、端部は丸く収める。内外面とも丁寧なミガキ。	
1191	K 区	包含層	ミニチュア 土器	5.4	(3.7)	–	にぶい黄褐色 黒褐色 〃	手づくね成形。内外面とも指頭圧痕が残る。	
1192	A 区	包含層	小型丸底土器 鉢	–	(6.0)	3.2	にぶい黄橙色 〃 灰色	内外面とも丁寧なナデ。外面底部は篦状工具による痕跡が残る。	
1193	A 区	包含層	弥生土器 甑	13.2	15.2	–	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色	鍔の付かない甕型の底部に単孔とみられる直径 0.9cmの円孔を焼成前に穿つ。底部は丸底状、口縁部は上方に延び、端部は面を成す。内面ナデ、外面タタキ。	
1194	A 区	包含層	弥生土器 甑	–	(3.2)	–	にぶい黄橙色 浅黄橙色 灰色	底部は尖底。内面ナデ、押圧痕を残す。外面ハケ。直径 0.9 cmの円孔を穿つ。	
1195	北区	包含層	土師器 甑か甕	22.0	(8.8)	–	にぶい黄橙色 橙色 浅黄橙色	胴部は直線的に外上方に延び、口縁部は僅かに短く外反する。内外面ともハケ、口縁部はナデ。	
1196	A 区	包含層	土師器 甑又は甕	–	(5.9)	12.0	明赤褐色 橙色 〃	胴部は直線的、端部は丸く収める。内面ナデ、底端部は横方向のナデ。外面ハケ、一部に煤付着。	
1197	A 区	包含層	土師器 甑	–	(4.4)	–	– 浅黄橙色 –	把手部のみ残存、他は欠損。横断面楕円形状で上方に短く湾曲する。	
1198	C 区	包含層	土師器 甑	–	(4.4)	–	– 橙色 –	把手部は平面形不整台形、断面形は不整長方形状を呈す。端部は太く丸く上方へ反り上がる。	
1199	A 区	包含層	土師器 甑	–	(5.9)	–	– にぶい黄橙色 –	外面はナデにより概ね整えられ、接合部にはハケ目が残る。	
1200	B 区	包含層	土師器 甑	–	(4.7)	–	– 灰黄褐色 –	内外面ともナデ、指頭圧痕が残る。	
1201	K 区	包含層	土師器 甑	–	(4.8)	–	– にぶい橙色 –	把手部。接合部で剥離する。	6c 後
1202	A 区	包含層	土師器 甑	–	(4.3)	–	– 浅黄色 –	把手部片。把手基部は幅広く水平で、端部は丸味を持ち、緩く上方を向く。内面ナデ、外面篦状工具によるナデ。	
1203	D 区	包含層	石製品 石包丁	全長 8.4	全幅 5.7	全厚 1.0	–	打製石包丁。背部は山型、刃部は直線的。表裏面は自然面及び打割による剥離面。片側のみ残る側縁は下半を大きく欠く。泥岩。重量 54.0g	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1204	C 区	包含層	石製品 石包丁	全長 7.6	全幅 4.3	全厚 1.1	–	打製石包丁。直線的な刃部に使用痕が残る。背部は打割の際の剥離痕を残す。両側縁に抉りがあり、片側は深く、他方は極浅い。重量 41.0g	
1205	北区	包含層	石製品 石斧	全長 5.5	全幅 3.6	全厚 0.9	–	扁平で、平面形は台形状。表面は主に横方向の細かな線条、裏面は不定方向のやや深い溝状の痕跡。刃部は横又は刃縁に直行する線条。鎬は明瞭な深い線条。重量 30.3g	
1206	A 区	包含層	石製品 砥石	全長 4.5	全幅 3.7	全厚 1.4	–	仕上砥。両主面と側面2面の4面を使用し、線条を残す。重量 37.0g	
1207	D 区	包含層	石製品 砥石	全長 10.6	全幅 7.7	全厚 3.3	–	河原石を用い、約 1/3 が残存する。主面と側面を使用し、長軸に対して浅い角度で擦痕と線条が残る。敲打により破断した後は使用痕なし。石英粗面岩。重量 280.0g	
1208	D 区	包含層	石製品 砥石	全長 6.1	全幅 5.4	全厚 4.1	–	5 面を使用する。両主面と両側面は使用に伴う縦・横方向の線条を留める。両側面は連続した刻み風の痕跡。端面は深い線刻や線条が残る。石英粗面岩。重量 114.0g	
1209	K 区	包含層	石製品 叩石	全長 9.5	全幅 3.5	全厚 3.7	–	棒状の円礫の両端部及び中央部を使用する。重量 189.0g	
1210	北区	包含層	石製品 叩石	全長 8.8	全幅 1.7	全厚 1.4	–	棒状で、両端部に敲打による剥離が見られる。泥質。重量 34.7g	
1211	北区	包含層	石製品 不明	全長 6.8	全幅 2.0	全厚 1.0	–	扁平な棒状を呈す。端部及び側縁に打痕は認められない。泥質。重量 21.0g	
1212	C 区	包含層	石製品 不明	全長 5.5	全幅 0.8	全厚 0.8	–	緑色片岩か。両端部に摩滅や打痕は認められない。本体部分は滑らか。重量 4.0g	
1213	D 区	包含層	石製品 不明	全長 6.1	全幅 0.9	全厚 0.7	–	棒状の石材。重量 4.0g	
1214	A 区	包含層か	石製品 叩石	全長 14.5	全幅 10.6	全厚 4.3	–	平面形は幅広の分銅形状。断面形は長楕円形状を呈す。縁辺に打痕が認められる。重量 876.0g	
1215	A 区	包含層か	石製品 叩石	全長 11.2	全幅 8.5	全厚 4.6	–	平面形は楕円形状、断面形は不整楕円形状を呈す。端部を中心に小さな打痕を残す。一方の使用が著しい。泥質。重量 610.0g	
1216	A 区	包含層か	石製品 叩石	全長 12.5	全幅 10.3	全厚 5.6	–	一部欠損するが、平面形は長楕円形状、断面形は台形状と見られる。稜部及び端部に剥離痕が多い。砂岩製。重量 931.0g	
1217	A 区	包含層	土師器 皿	9.8	1.6	6.4	褐灰色 にぶい褐色 浅黄橙色	底部は僅かに凸面を成す。口縁部は直線的に外方に延び、端部は太く丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込みロクロ目顕著。外面底部に粘土紐接合痕。	
1218	A 区	包含層	土師器 皿	12.3	1.9	8.0	橙色 〃 明黄褐色	底部は平底で緩い凹面を成す。口縁部は緩く内湾し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込みにロクロ目を残す。外面底部に粘土紐の痕跡。	
1219	北区	包含層	土師器 皿	9.4	1.9	6.4	浅黄橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	体部から口縁部は緩く湾曲し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込みロクロ目顕著。内面の一部に煤付着。底部切り離しは回転糸切り。	
1220	C 区	包含層	土師器 皿	8.1	1.8	5.0	にぶい黄橙色 〃 〃	口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。内外面ともナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1221	北区	包含層 検出面	土師器 皿	10.7	2.0	8.3	浅黄橙色 〃 〃	底部端から口縁部は直線的に斜外方に延び、端部は丸味を持った面を成す。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1222	北区	包含層 検出面	土師器 皿	9.9	2.1	6.0	橙色 〃 にぶい黄橙色	底部は凹凸面状で、口縁端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込みに押圧痕を残す。底部切り離しは回転糸切り。	
1223	北区	包含層 検出面	土師器 皿	9.6	2.1	6.7	橙色 〃 浅黄橙色	底部は僅かに凹面状。底部端から口縁部は丸味を帯びて外上方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込みロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り。	
1224	北区	包含層 検出面	土師器 皿	9.2	2.1	6.5	浅黄橙色 〃 灰白色	底部端から口縁部は外上方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込み中央にロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1225	北区	包含層 検出面	土師器 皿	9.0	1.9	5.8	橙色 〃 〃	底部端から口縁部は緩く湾曲して外上方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込みロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り。	
1226	C 区	包含層	土師器 皿	–	(1.4)	4.1	にぶい橙色 浅黄橙色 〃	小型の皿。体部は緩く内湾して立ち上がる。内外面ともナデ。外面ロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り。	
1227	A 区	包含層	土師器 台付皿	10.4	3.2	5.9	浅黄橙色 〃 〃	口縁部は外上方に開き、端部は丸く収める。底部に高い高台。残存部の３カ所に打ち欠いだ欠損あり。内外面とも回転ナデ。高台内に回転ヘラ切りの痕跡。精緻な胎土。	
1228	J 区	包含層	土師器 台付皿	19.4	2.7	10.8	橙色 〃 〃	断面長方形状の高台が付く。体部中位で肥厚し、口縁端部は丸く収める。内面ミガキ・ナデ、外面回転ナデ、ロクロ目顕著。精緻な胎土。	
1229	J 区	包含層	土師器 手づくね皿	15.6	(3.5)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	底部から口縁部は外上方に延び、端部はやや尖り気味に仕上げる。内面ナデ、押圧痕、一部に煤付着。外面ナデ、押圧痕が残る。	
1230	J 区	包含層	土師器 杯	12.0	(3.6)	–	明褐色 明褐色・黒色 浅黄橙色	体部から口縁部は緩く外反し、口縁端部は丸く収める。内面口縁部に沈線状の段部が巡る。内外面ともミガキ。赤色顔料が施される。	8c
1231	D 区	包含層	土師器 杯	–	(2.4)	7.7	黄橙色 〃 〃	底部は緩い凸面を成し、底部端は湾曲する。内面回転ナデ、外面ナデ。外面底部に粘土紐痕を残す。底部切り離しは回転ヘラ切り。	10c
1232	D 区	包含層	土師器 杯	–	(1.0)	7.0	橙色 〃 浅黄橙色	底部は緩い凸面状を呈し、側面に粘土が突出する。体部は直線的に外方に開く。内外面ともナデ。外面体部下位に３条の沈線が施される。	
1233	K 区	包含層	土師器 杯	–	(2.9)	7.1	橙色 〃 浅黄橙色	ベタ高台。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転ヘラ切り。	
1234	A 区	包含層	土師器 杯	14.0	5.0	5.8	にぶい黄橙色 〃 〃	底部は厚い円盤状を呈し、体部は緩く内湾する。口縁部は緩く外反し、端部は太く丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面はロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り。	
1235	D 区	包含層	土師器 杯	–	(3.2)	6.6	暗褐色 にぶい赤褐色 にぶい黄褐色	柱状高台。体部は底部端から外反する。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	11c
1236	D 区	包含層	土師器 杯	9.4	3.4	5.3	橙色 〃 明黄褐色	柱状高台。体部から口縁部は外反し、端部は細く尖り気味に仕上げる。内外面ともナデ。底部切り離しは回転糸切りで、ヘラナデを施す。	11c
1237	A 区	包含層	土師器 杯	14.6	4.7	7.1	浅黄橙色 〃 〃	体部は緩く内湾する。口縁部は外反して端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込みロクロ目顕著。外面体部下位にナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1238	D 区	包含層	土師器 杯	–	(2.7)	8.0	にぶい黄橙色 灰黄色 にぶい黄橙色	底部は概ね平坦面を成し、端部は丸味を帯びる。内面回転ナデ。見込みロクロ目顕著。外面ナデ、底部端に粘土が盛り上がる。	
1239	D 区	包含層	土師器 椀	–	(3.1)	7.0	灰白色 〃 〃	底部は円盤状にやや突出し緩い凹面を成す。体部は直線的に立ち上がる。内外面とも回転ナデ。内面ロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り。	
1240	D 区	包含層	土師器 杯	15.4	4.7	7.7	灰黄褐色 にぶい黄橙色 〃	体部は丸味を持って延び、口縁部で緩く外反する。端部は太く丸く収める。内外面ともナデ。内面は概ね全体に、外面は中位以上に煤付着。底部切り離しは回転糸切り。	
1241	D 区	包含層	土師器 椀	–	(3.8)	5.8	にぶい黄褐色 〃 〃	底部は円盤状にやや突出。内外面とも回転ナデ。内面体部から底部にかけて線状に植物と見られる焼け跡が残る。外面の一部に煤付着。底部切り離しは回転糸切り。	
1242	B 区	包含層	土師器 椀か	–	(1.0)	5.2	橙色 浅黄橙色 〃	内面に赤色顔料を塗布。底部切り離しは回転糸切り。	
1243	北区	包含層 検出面	土師器 椀	–	(2.0)	6.7	にぶい橙色 〃 〃	底部端から体部は緩く屈曲する。内外面とも回転ナデ。見込みロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切りか。	
1244	D 区	包含層	土師器 杯	14.5	3.8	6.8	浅黄橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	体部から口縁部は直線的に外上方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込みロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り。	
1245	A 区	包含層	土師器 杯	13.2	3.7	8.2	橙色 にぶい橙色 橙色	口縁部は外上方に直線的に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1246	北区	包含層 検出面	土師器 椀	－	（2.5）	7.0	にぶい黄橙色 暗灰黄色 にぶい黄橙色	底部端に断面台形の高台がハの字状に付く。内外面とも回転ナデ。外面ミガキ、煤付着又は炭素吸着が見られる。	11c 後
1247	北区	包含層 検出面	土師器 椀	－	（2.7）	8.8	浅黄橙色 〃 〃	底部は平坦面状で、底部端に断面逆台形状のやや高い高台がハの字状に付く。内面ナデ、外面回転ナデ。	11c 後
1248	北区	包含層 検出面	土師器 椀	－	（2.3）	6.8	浅黄橙色 〃 灰白色	底部端に断面三角形状の高台がハの字状に付く。内外面ともナデ。	12c
1249	北区	包含層 検出面	土師器 椀	－	（3.2）	6.9	にぶい黄橙色 浅黄橙色 灰白色	底部から体部は丸味を帯びる。底部端に断面長方形状の高台がハの字状に付く。内面ミガキ、外面ナデ・ミガキ。	12c
1250	C 区	包含層	土師器 椀	－	（2.9）	6.4	浅黄橙色 〃 〃	底部から体部は内湾して立ち上がる。底部端にハの字状に断面台形状の高台が付く。高台端は丸味を持った面を成す。内面ミガキ、外面ナデ。	12c
1251	北区	包含層 検出面	土師器 椀	15.4	（4.3）	－	浅黄橙色 〃 〃	体部は丸味を帯び、口縁部は緩く外反する。端部は外側寄りに丸く収める。内面ナデ・ミガキ、外面ミガキ。	12c
1252	北区	包含層 検出面	土師器 椀	16.6	（4.3）	－	浅黄橙色 〃 〃	体部は丸味を帯び、口縁部は緩く外反する。端部は丸く収める。内面ナデ・ミガキ、外面回転ナデ。	12c
1253	北区	包含層	土師器 椀	－	（2.5）	6.7	浅黄橙色 にぶい褐色 浅黄橙色	底部は平坦面状を呈し、底部端に直立する高台が付く。内面ミガキ、外面ナデ。体部下位に煤付着。	
1254	北区	包含層 検出面	土師器 椀	－	（2.7）	6.0	浅黄橙色 〃 〃	底部端にやや幅の狭い高い高台が付く。内外面ともナデ。	
1255	北区	包含層 検出面	土師器 椀	15.0	（4.5）	－	浅黄橙色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は外側寄りに丸く収める。内面ナデの後ミガキ、外面ナデ。	
1256	北区	包含層 検出面	土師器 椀	15.4	（3.6）	－	にぶい橙色 橙色 浅黄橙色	体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は丸く収める。内外面ともナデ・ミガキ。内面口縁部は横方向のナデ。	
1257	北区	包含層 検出面	土師器 椀	13.2	（4.2）	－	浅黄橙色 〃 〃	体部は丸味を帯び、口縁部は緩く外反する。端部は外側寄りに丸く収める。内外面とも回転ナデ。ロクロ目顕著。	
1258	A 区	包含層	土師器 鉢	24.4	（5.0）	－	橙色 〃 浅黄橙色	口縁部は緩やかに斜上方に延び、端部は内側に肥厚し丸く収める。内外面とも丁寧なナデ、外面ミガキ。	
1259	D 区	包含層	土師器 鉢か盤	－	（2.9）	13.6	明赤褐色 明赤褐色・にぶい黄橙色 浅黄橙色	底部は広い平坦面状。体部は直線的に延びる。内面ナデ・ヘラミガキ、外面ヘラミガキ。	
1260	A 区	包含層	土師器 移動式竈	－	（9.7）	－	灰黄褐色 浅黄橙色 灰白色	口縁部下に断面台形状の鍔が巡る。内面横方向の強いナデにより一部の砂粒が動く。外面鍔上部と下部に粗いハケ。	
1261	B 区	包含層	不明	－	（4.3）	－	にぶい黄橙色 浅黄橙色 〃	器面はナデ。器壁厚い。	
1262	B 区	包含層	不明	－	（5.3）	－	浅黄橙色 にぶい黄橙色 灰白色	器面はナデ。器壁厚い。	
1263	北区	包含層 検出面	土師器 火舎	－	（4.5）	－	灰黄褐色 〃 にぶい橙色	底部と脚台の一部。内外面ともナデ。内面底部に篦状工具による圧痕、外面脚部に回転ナデ、底部に粗いハケ。	
1264	J 区	包含層	土師器 甕	16.8	（5.0）	－	橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は外反。端部は肥厚し、丸く収める。胴部器壁は薄い。内面胴部はケズリ、口縁部ナデ。外面胴部上位はハケの後ナデ、砂粒が動く。	
1265	A 区	包含層	土師器 甕	18.6	（5.3）	－	にぶい橙色 橙色 にぶい橙色	胴部上位は直線的に延び、口縁部は外反する。端部は面を成し、上下にやや肥厚。内面ナデ。外面胴部は横方向のハケの後縦方向のハケ、口縁部は横方向のナデ。	
1266	A 区	包含層	土師器 甕	20.0	（9.0）	－	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色・黒褐色 にぶい黄橙色	口縁部は緩やかに外反する。端部は直立する面を成し、断面凹状。内面口縁部は横方向のナデ、胴部縦方向のナデ。外面頸部はナデ、指頭圧痕、胴部は縦方向のナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1267	B区	包含層	土師器 甕	23.8	(6.4)	–	にぶい橙色 にぶい褐色 にぶい黄橙色	口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。内面下から上へのヘラケズリ、外面タタキの後ハケ。外面に煤付着。	
1268	K区	包含層	土師器 甕	25.6	(5.3)	–	橙色 にぶい橙色 黄灰色	内面口縁端部に粘土帯を貼付、僅かに肥厚する。内面板状工具によるナデ。外面口縁ナデ、胴部上位ハケ。	
1269	A区	包含層	土師器 甕	26.6	(2.8)	–	褐色 〃 灰黄褐色	口縁部は直線的に短く立ちあがる。端部は上方にやや尖った緩い凹面を成す。内面回転ナデ、外面ナデ。胎土中に白色粒を多く含む。	
1270	北区	包含層 検出面	土師器 甕	29.8	(6.3)	–	灰褐色 にぶい褐色 橙色	頸部の湾曲し、口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は緩やかに拡張して面を成し、上方にやや突出する。内面ナデ、外面ハケの後ナデ。	
1271	A区	包含層	土師器 甕	31.6	(3.7)	–	灰黄褐色 にぶい黄褐色 にぶい橙色	口縁部は外反し、端部上面に面を成す。側面はナデにより凹状を呈す。内外面とも横方向のナデ。	
1272	K区	包含層	土師器 甕	–	(5.3)	–	にぶい黄橙色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	頸部はくの字状を呈す。口縁部は外反し、端部は内傾する面を成す。胎土に雲母片含む。	
1273	北区	包含層 検出面	土師器 甕	–	(2.8)	–	にぶい橙色 〃 橙色	口縁部片。端部は面を成す。内外面ともナデ。	
1274	A区	包含層	土師器 甕	25.0	(20.7)	–	橙色 明黄褐色 灰黄褐色	胴部上位は直立し、口縁部は外上方に延びる。端部は外側に肥厚し丸く収める。内面口縁部カキ目、胴部ケズリ・ナデ。外面口縁部カキ目の後ナデ、頸部・胴部カキ目、胴部下位タタキ。	
1275	北区	包含層	土師器 甕	–	(10.1)	–	浅黄色 橙色・黒褐色 浅黄橙色	胴部片。内面ナデ、外面細かいハケ。外面の一部に煤付着。	
1276	D区	包含層	土師器 甕	30.5	(10.3)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	胴部は直線的に延び、頸部で緩く屈曲して口縁部は直線的に外上方に延びる。内面ナデ、外面ナデ。外面の一部に煤付着。	
1277	C区	包含層	土師器 羽釜	25.0	(4.5)	–	にぶい橙色 にぶい黄橙色 〃	口縁部は緩く内湾し上方に延びる。端部は平坦面状で、外側に肉厚の鍔がやや上向きに付く。内外面ともナデ。外面鍔の上下に押圧痕。外面、特に鍔の上下に煤付着。	
1278	北区	包含層 検出面	土師器 羽釜	19.0	(3.0)	–	灰黄褐色 〃 〃	口縁部は内湾し、端部は平坦面状を呈す。口縁直下に断面台形状の鍔が巡る。端部は浅い凹面を成す。内外面ともナデ。	
1279	北区	包含層 検出面	土師器 羽釜	20.0	(2.4)	–	褐灰色 灰黄褐色 〃	口縁部は緩く内湾し上方へ延び、口縁端部直下に断面長方形状の鍔が巡る。端部は浅い凹面を成す。	
1280	北区	包含層 検出面	土師器 羽釜	21.1	(3.1)	–	にぶい赤褐色 にぶい橙色 橙色	口縁部は内湾し上方に延びる。端部は内傾する面を成す。口縁下に断面台形状の鍔が巡り、鍔端部は浅い凹面状を呈す。内外面ともナデ、鍔下部に押圧痕。	
1281	北区	包含層	土師器 羽釜	23.6	(2.3)	–	橙色 〃 〃	口縁部は上方に延び、端部は面を成す。口縁直下の鍔は断面不整台形状で、端部は斜位の面を成す。内外面ともナデ。内面口縁端部に凹凸痕。外面鍔部に接合痕・押圧痕。	
1282	A区	包含層	土師器 羽釜	23.6	(4.7)	–	灰黄色 にぶい黄橙色 黄灰色	口縁端部は内側にやや拡張し、口縁部横に鍔が巡る。胴部は欠損する。	
1283	D区	包含層	土師器 羽釜	23.6	(4.9)	–	橙色 にぶい黄橙色 明黄褐色	口縁部は直線的に上方に延び、端部は狭い面を成す。口縁部下に鍔が巡る。鍔端部は丸味を持ち、上方に偏する。内外面ともナデ。鍔の下部に接合痕が残る。	
1284	D区	包含層	土師器 羽釜	29.5	(5.9)	–	にぶい橙色 〃 にぶい黄褐色	口縁部は上方に延び、端部は緩い凹面状。口縁部下に断面方形状の鍔が巡る。鍔端部は緩い凹面状。内面ハケの後ナデ。外面粗いハケ、口縁部及び鍔は横方向のナデ。	
1285	北区	包含層 検出面	土師器 羽釜	27.8	(9.2)	–	灰黄褐色 〃 橙色	胴部から口縁部は上方に延び、端部は凹面状。口縁下に断面台形状の水平な鍔が巡る。鍔端部は緩い凹面状。内面箆状工具によるナデ、外面ナデ。鍔下部に押圧痕、器面に浅い凹凸。	
1286	D区	包含層	須恵器 杯蓋	12.4	(2.7)	–	灰白色 〃 〃	天井部は回転ナデにより凹凸状を呈し、口縁部は湾曲の後直線的に外下方に延びる。端部は尖り気味に丸く収める。内外面ともナデ。	
1287	A区	包含層	須恵器 杯蓋	13.4	(3.5)	–	灰色 〃 褐灰色	天井部は僅かに突出する。口縁部は回転ナデによりやや肥厚し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1288	D区	包含層	須恵器 杯蓋	13.8	(2.6)	−	黄灰色 灰色 〃	天井部は欠損する。口縁部は直線的に外下方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1289	D区	包含層	須恵器 杯蓋	13.0	(3.1)	−	灰色 灰色・灰黄褐色 灰色	天井部は丸味を帯び、緩く屈曲して口縁部は直線的に下方へ延びる。端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面天井部は回転ヘラケズリ。	
1290	B区	包含層	須恵器 杯蓋	14.5	4.1	−	灰白色 〃 〃	外面天井部は回転ヘラケズリ、他はナデ。やや焼成不良。	
1291	D区	包含層	須恵器 杯蓋	15.0	(3.3)	−	灰色 〃 〃	天井部から口縁部は丸味を帯びる。口縁部は下方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面天井部ロクロ目顕著、外面天井部ヘラケズリ。	
1292	D区	包含層	須恵器 杯蓋	13.0	(2.9)	−	褐灰色 灰黄褐色 灰黄褐色・褐灰色	体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に下方に延びる。内外面とも回転ナデ。	
1293	D区	包含層	須恵器 杯蓋	13.2	3.3	−	黄灰色 〃 にぶい黄色	平坦な天井部から湾曲し、口縁部は下方に延びる。端部は細く丸く収める。内面ナデ、天井部ロクロ目顕著。外面ナデ、天井部に粘土紐接合痕を残す。	
1294	J区	包含層	須恵器 杯蓋	14.1	3.7	−	灰色 〃 〃	天井部から口縁部は直線的に下方に延び、端部は丸く収める。内面回転ナデ。外面口縁部回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ。	
1295	D区	包含層	須恵器 杯蓋	−	(2.6)	−	灰白色 灰色 〃	平坦な天井部から口縁部は直線的に下方に延びる。内外面とも回転ナデ。内面天井部に接合痕、外面天井部にヘラケズリの痕跡が残る。	
1296	D区	包含層	須恵器 蓋	15.4	(1.9)	−	灰黄色 〃 〃	天井部は低い。口縁部は下方へ短く突出し、端部は丸く収める。内面回転ナデ。外面ナデ、天井部ヘラケズリ。	
1297	D区	包含層	須恵器 蓋	15.8	1.3	−	灰黄色 〃 〃	天井部は緩い凹状を呈し、口縁部は短く下方に突出する。内外面とも回転ナデ。外面天井部にヘラケズリの痕跡が残る。	
1298	C区	包含層	須恵器 蓋	−	(1.9)	−	灰白色 灰オリーブ色 灰白色	擬宝珠型の摘みが付く。天井部は緩く内湾する。内面ナデ、外面ケズリの後ナデ。自然釉が付着する。胎土中に規模の大きな裂孔が見られる。	
1299	A区	包含層	須恵器 蓋	13.6	1.7	−	灰色 〃 〃	厚い天井部から口縁部は緩く内湾し、端部は太く丸く収める。内面口縁部回転ナデ、天井部に方向を異にする擦痕が残る。外面ナデ。転用硯か。	
1300	A区	包含層	須恵器 蓋	10.0	(1.4)	−	灰色 褐灰色 〃	外面天井部回転ヘラケズリ。「×」のヘラ記号を有する。	
1301	D区	包含層	須恵器 杯身	11.2	(3.2)	−	黄灰色 オリーブ黒色 黄灰色	受け部は凹面状で、短く外上方に延びる。かえりは緩く外反し内上方に延びる。内外面とも回転ナデ。胎土中に裂孔、焼成により器形態に歪みが生じる。受け部径 13.4cm	
1302	D区	包含層	須恵器 杯身	10.6	(4.0)	−	灰色 〃 褐灰色	受け部は凹面状で短く外上方に、かえりは直線的に内上方に延びる。内外面とも回転ナデ。内面底部ロクロ目顕著。外面底部ヘラケズリ痕を工具で細かく潰す。受け部径 12.6cm	
1303	D区	包含層	須恵器 杯身	10.6	4.0	−	灰色 〃 〃	受け部は短く外上方に延び、かえりは太く直線的に内上方に延びる。内外面とも回転ナデ。内面ロクロ目顕著、外面底部ヘラケズリ。受け部径 12.7cm	
1304	A区	包含層	須恵器 杯身	12.4	(3.9)	−	灰白色 灰色 にぶい橙色	かえりは内傾し、端部は尖り気味になる。受け部は断面三角形状を呈す。内外面とも回転ナデ。外面底部は回転ケズリ。外面底部の周縁に放射状の痕跡。受け部径 14.8cm	
1305	A区	包含層	須恵器 杯身	13.0	(3.1)	−	灰色灰 白色 にぶい黄橙色	かえりは内傾し、端部は尖り気味になる。受け部は凹状を呈す。内外面とも回転ナデ。底部は欠損する。受け部径 15.0cm	6c
1306	B区	包含層	須恵器 杯身	12.4	3.5	7.0	灰白色 〃 〃	かえりは外上方に延び、受け部は断面三角形状を呈す。外面底部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。受け部径 14.2cm	6c
1307	A区	包含層	須恵器 杯身	11.9	3.4	6.2	灰白色 灰色 〃	口縁部は緩く外反する。受け部は外上方に延び、かえりは短く内傾。内外面とも回転ナデ。内面中位以下はロクロ目顕著。外面中位以下はケズリ。受け部径 14.2cm	
1308	K区	包含層	須恵器 杯身	12.4	3.6	−	にぶい黄褐色 にぶい橙色 〃	内外面とも回転ナデ。受け部径 14.7cm。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1309	B区	包含層	須恵器 杯身	13.0	(2.6)	–	褐灰色 〃 〃	かえりは外上方に延び、受け部は断面三角形状を呈す。内外面とも回転ナデ。受け部径 14.9cm	6c
1310	A区	包含層	須恵器 杯身	–	(2.3)	–	黄灰色 灰色 灰黄色	体部から緩く内湾して延び、受け部端は丸味を帯びた細い面を成す。かえりは短く内傾する。内外面とも回転ナデ。受け部径 15.1cm	
1311	D区	包含層	須恵器 杯身	13.2	(3.2)	–	褐灰色 灰白色 褐灰色	受け部は短く外上方へ延び、かえりは直線的に内上方に延びる。内外面とも回転ナデ。受け部径 15.6cm	
1312	D区	包含層	須恵器 杯身	13.0	(3.7)	–	褐灰色 灰白色 黄灰色	受け部は短く外上方に延び、かえりは直線的に内上方に延びる。内外面とも回転ナデ。外面底部ヘラケズリ。受け部径 15.2cm	
1313	J区	包含層	須恵器 杯身	–	(4.3)	–	灰白色 にぶい黄橙色 灰白色	受け部は短く外反し、かえりは尖り気味と見られる。焼成不良のため外面は剥離する。受け部径 17.0cm	
1314	D区	包含層	須恵器 杯身	13.3	(3.4)	–	灰褐色 黄灰色 灰褐色	受け部は短く外上方に延び、かえりは太く、緩やかに外反し内上方に向かう。内外面とも回転ナデ。外面底部ヘラケズリ。受け部径 15.6cm	
1315	A区	包含層	須恵器 杯身	16.6	3.3	13.0	灰黄色 にぶい黄橙色 灰白色	口縁部のかえりはやや内傾し、端部は丸く収める。受け部は短く、端部はやや尖る。内外面とも回転ナデ。酸化焔焼成で軟質。受け部径 18.5cm	
1316	A区	包含層	須恵器 高杯	14.2	(4.3)	–	灰色 〃 〃	かえりは曲線状に内傾し、端部はやや尖る。受け部端部は丸く収める。脚部は中空で、複数の透かしが入るか。内面回転ナデ、平行なナデ。外面回転ナデ・ヘラケズリ。受け部径 17.0 cm	
1317	D区	包含層	須恵器 高杯	10.1	(3.3)	–	灰色 〃 灰黄色	体部は丸味を帯び、口縁部は上方に延びる。口縁部横に段を有し、端部は丸く収める。内面回転ナデ、外面ナデ。	
1318	D区	包含層	須恵器 高杯	–	(3.2)	11.2	黄灰色 灰色 黄灰色	脚部は中位で外反し、下位で内湾する。端部は凹面状を呈す。残存部に透かしがみられる。内面丁寧な回転ナデ、外面粗い仕上げの回転ナデ。	
1319	北区	包含層 検出面	須恵器 高杯	–	(3.9)	–	灰色 〃 〃	脚部片。内外面ともナデ。	
1320	C区	包含層	須恵器 高杯型器台	36.6	(2.4)	–	にぶい黄橙色 灰白色 〃	口縁部は緩く内湾して大きく開く。端部は面を成し、外側に肥厚する。内面ナデ、外面口縁部に6条1単位の櫛描波状文。	
1321	A区	包含層	須恵器 提瓶	–	(6.1)	–	黄灰色 灰白色 〃	扁平な胴部。頸部と胴部の境を粘土板で塞いだ後外面にカキ目を施す。内面回転ナデ。	
1322	D区	包含層	須恵器 提瓶	10.6	(5.8)	–	暗灰黄色 灰色 黄灰色	口縁部は外反し、端部で短く外上方に開く。端部は面を成し、上方へ肥厚。内面ナデ、口縁部に灰又は窯胎の一部が付着。外面ナデ、口縁部の一部が焼成時に焔を受ける。	
1323	A区	包含層	須恵器 平瓶	5.8	(5.1)	–	灰白色 灰色 灰黄褐色	ロクロ成形により口縁部を接合する。口縁部は緩く外反し、端部で直立。端部は太く丸く収める。内外面とも回転ナデ。一部に自然釉が付着する。	
1324	D区	包含層	須恵器 杯	11.9	4.0	9.0	灰黄色 〃 〃	底部は緩い凸面状を呈す。底部端は湾曲し、体部から口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は丸く収める。内外面ともナデ。	
1325	K区	包含層	須恵器 杯	11.8	4.4	6.4	灰黄色 灰色 〃	口縁部は緩やかに上方に開き、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。底部切り離しはヘラ切り。	
1326	K区	包含層	須恵器 杯	13.1	4.9	8.6	暗灰黄色 灰オリーブ色 灰色	口縁部は直線的に外上方に延びる。内外面とも回転ナデ。底部切り離しはヘラ切り。	
1327	D区	包含層	須恵器 杯	–	(2.0)	8.8	灰白色 灰色 灰白色	底部端にハの字状の高台が付く。高台端部は中央の窪んだ面を成す。内外面とも回転ナデ。外面の一部に煤付着。	
1328	D区	包含層	須恵器 杯	–	(1.8)	8.8	灰色 〃 〃	底部端に断面逆台形状のハの字状に開く高台が付く。内外面ともナデ。高台内に粘土紐痕を残す。	
1329	北区	表採	須恵器 杯	10.8	3.2	7.2	褐灰色 灰黄橙色 褐灰色	底部端に断面方形状の高台が付く。体部は直線的に外方に延び、口縁部は緩く外反する。端部は丸く外側寄りに収める。内外面とも回転ナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm）			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1330	A 区	包含層	須恵器 杯	15.4	3.5	8.5	灰白色 明褐灰色 〃	ハの字に開く高台が付き、体部との境は凹状になる。口縁部は外上方に直線的に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1331	北区	包含層 検出面	須恵器 杯	－	（2.2）	5.8	灰黄色 浅黄色 灰黄色	円盤状の底部。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	10c
1332	D 区	包含層	須恵器 杯	－	（1.6）	5.4	オリーブ灰色 灰オリーブ色 灰色	底部は平底状で緩い凹面を成す。内外面とも回転ナデ、一部に自然釉が付着する。底部切り離しは回転糸切り。	10c
1333	北区	包含層 検出面	須恵器 椀	－	（2.6）	5.6	にぶい黄橙色 灰黄橙色 にぶい黄橙色	底部端に断面台形状の高台が付く。内面ナデ、外面回転ナデ。	
1334	北区	包含層 検出面	須恵器 椀	15.8	（4.0）	－	灰白色 〃 〃	胴部は丸味を帯び、口縁部は緩やかに外反する。端部は尖り気味に丸く収める。内面ナデ、外面回転ナデ。器面に火襷風の焼成痕が見られる。	
1335	A 区	包含層	須恵器 鉢	－	（3.9）	－	灰白色 〃 〃	体部から直線的に延び、口縁部で内湾する。端部は外側に折り返すことにより肥厚し、丸味を持った面を成す。内外面とも回転ナデ。外面ロクロ目顕著。	10c
1336	K 区	包含層	須恵器 杯	21.7	（6.3）	9.3	にぶい橙色・にぶい黄橙色 〃 〃	ベタ高台。底部から口縁部にかけて外上方に立ち上がる。酸化焔焼成。	
1337	北区	包含層 検出面	須恵器 鉢	16.5	（2.6）	－	にぶい黄橙色 灰黄色 にぶい黄橙色	口縁端部は内外に拡張して面を成す。内外面とも回転ナデ、灰白色の釉薬が施される。	
1338	北区	包含層	須恵器 鉢	24.0	（3.2）	－	灰白色 〃 〃	口縁部片。口縁端部は面を成し、外側へ肥厚する。内外面ともナデ。	
1339	D 区	包含層	須恵器 鉢	29.7	（4.7）	－	灰黄色 〃 〃	口縁部は僅かに内湾気味に直立し、端部は凹状の面を成す。内外面とも回転ナデ。	
1340	D 区	包含層	須恵器 円面硯	20.6	（2.1）	－	灰色 〃 〃	陸部は平坦で、周端が断面台形状の土手状になる。海部は断面Ｖ字形。周縁は外上方に延び、端部は面を成す。脚の基部に断面三角形状の凹線、脚部には長方形の透かしを有す。内面回転ナデ。上面に自然釉が付着。	
1341	D 区	包含層	須恵器 円面硯	－	（1.6）	－	黄灰色 灰色 黄灰色	陸部は平坦で滑らか。海部は陸部端から緩やかに窪む。周縁は欠損するが、脚部には透かしを有する。陸部に不定方向の線条がみられる。	
1342	B 区	包含層	須恵器 円面硯	－	（1.4）	－	灰色 〃 〃	円面硯。脚部に透かしを有する。	
1343	B 区	包含層	須恵器 壺か	14.2	（4.9）	－	黄灰色 〃 褐灰色	口縁部は短く上方に延び、端部は水平な平坦面状を呈す。外面肩部、内面口縁部に自然釉がかかる。	
1344	D 区	包含層	須恵器 壺	19.9	（3.3）	－	灰黄色 暗灰黄色 〃	口縁部は外反する。端部は面を成し、上方に肥厚する。内外面とも回転ナデ。	
1345	D 区	包含層	須恵器 壺	18.5	（5.0）	－	黄灰色 黄灰色・黒褐色 黄灰色	口縁部は直線的に外上方に延び、端部は尖り気味に丸く収める。内外面ともナデ。胎土中に白色粒を含む。	
1346	B 区	包含層	須恵器 壺	11.5	（5.8）	－	灰色 灰黄色 灰色	口縁部は短く直立し、端部は水平な平坦面状を呈す。外面に自然釉が付着。内外面とも横方向のナデ。	
1347	D 区	包含層	須恵器 壺	16.6	（4.6）	－	黄灰色 灰白色 黄灰色	頸部から口縁部は直線的に外上方に立ち上がる。端部は面を成し、内側にやや肥厚する。内外面ともナデ。	
1348	A 区	包含層	須恵器 壺	19.1	（4.0）	－	褐灰色 灰色 灰褐色	口縁端部は外側に肥厚する。	
1349	D 区	包含層	須恵器 壺	－	（1.7）	－	黄灰色 〃 〃	口縁部は外反して大きく開く。端部は面を成し、外側に肥厚する。内外面ともナデ。外面口縁端部に自然釉が付着する。	
1350	A 区	包含層	須恵器 壺	－	（3.5）	－	灰色 〃 にぶい黄橙色	頸部はくの字状に屈曲し、端部は内外に肥厚する。胎土はにぶい黄橙色。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1351	A 区	包含層	須恵器 壺	–	(4.9)	–	灰色 〃 灰黄褐色	肩部外面上下2条の沈線の間に刷毛状工具による刻目。	
1352	K 区	包含層	須恵器 壺	8.6	(9.0)	–	灰色 〃 褐灰色	口縁部は僅かに外反し、端部は尖り気味。頸部と胴部の接合部で剥離する。外面頸部下位は斜方向、中位から口縁部は横方向の回転ナデ。境目に2条の沈線が巡る。	
1353	A 区	包含層	須恵器 壺	–	(7.9)	–	灰黄色 〃 黄灰色	双耳壺又は四耳壺の肩部とみられる。内外面とも回転ナデ。外面に自然釉がかかる。	
1354	北区	包含層 検出面	須恵器 壺	–	(8.9)	11.0	灰色 〃 〃	底部は広い平底状。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。	
1355	A 区	包含層	須恵器 壺	–	(1.7)	10.0	黄灰色 〃 〃	平らな底部端に断面方形の高台がハの字状に付く。高台畳付は浅い凹面を成す。内面ナデ、底部切り離しはヘラ切り。胎土中に小規模な円孔が存在し白色粒を多く含む。	
1356	D 区	包含層	須恵器 杯か壺	–	(2.4)	8.3	灰色 〃 〃	底部端にハの字状に開くやや高い高台が付く。端部は丸く収める。内外面ともナデ、粘土紐接合痕が残る。高台内の中央を削る。	
1357	北区	包含層 検出面	須恵器 壺	–	(4.0)	10.2	灰白色 〃 〃	底部端に断面方形状の高台がハの字状に付く。内外面とも回転ナデ、外面の一部に自然釉が付着する。	
1358	B 区	包含層	須恵器 壺か	–	(2.2)	10.0	灰色 〃 褐灰色	ハの字に開く高台を貼付、接合痕が残る。	
1359	D 区	包含層	須恵器 壺	–	(1.7)	12.2	灰色 〃 〃	底部端に断面逆台形状の高台が付く。端部は丸味を持った面を成す。内外面とも回転ナデ、内面ロクロ目顕著。	
1360	J 区	包含層	須恵器 甕	–	(3.3)	–	黄灰色 灰色 暗灰黄色	口縁端部は外側へ折り返して肥厚し、玉縁状を呈す。外面口縁部に櫛描波状文、内外面とも回転ナデ。	
1361	北区	表採	須恵器 甕	16.8	(3.7)	–	灰白色 〃 〃	口縁部は外反し、端部は面を成し上方へ肥厚する。内外面とも回転ナデ、内面の一部に自然釉が付着する。	
1362	J 区	包含層	須恵器 甕	17.8	(9.0)	–	灰色 〃 〃	口縁部は上方に延びる。端部は緩やかに外反し、上部に肥厚し垂直な面を成す。内面回転ナデ、胴部上位に押圧痕。外面口縁部回転ナデ、胴部は横・斜方向のタタキ。	
1363	D 区	包含層	須恵器 甕	19.0	(6.2)	–	灰色 灰オリーブ色・黄灰色 灰黄褐色	頸部で屈曲し、口縁部は外反して外上方に延びる。端部は凹面状を呈し、上下に肥厚する。内面ナデ。外面口縁部ナデ、胴部はタタキ。	
1364	北区	包含層 検出面	須恵器 壺	21.0	(4.8)	–	灰白色 〃 〃	口縁部は外反する。端部は面を成し上方に肥厚する。内面ハケ、外面回転ナデ。内面口縁部の上位に自然釉がかかる。	
1365	A 区	包含層	須恵器 甕	24.0	(3.8)	–	灰白色 〃 〃	口縁部は外反して立ち上がる。端部は緩い凸面を成し、外側へ丸味を持って肥厚する。内側は段状になる。外面頸部に2条以上の凹線を施す。内外面ともナデ。	
1366	D 区	包含層	須恵器 甕	26.4	(10.0)	–	灰色 灰色・オリーブ灰色 黄灰色	頸部は屈曲し、口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側へ肥厚する。内面ナデ。外面口縁部は横方向のナデ、胴部タタキ。	
1367	C 区	包含層	須恵器 甕	32.0	(4.3)	–	暗灰黄色 〃 灰オリーブ色	口縁部は外反する。端部は内側にやや肥厚し面を成す。内外面ともナデ。胎土中に小規模な円・裂孔が存在する。	
1368	北区	包含層 検出面	緑釉陶器 皿	14.6	(3.1)	–	灰白色 オリーブ灰色 灰色	体部は屈曲の後直線的に外上方に延びる。口縁部で屈曲し、短く外反する。端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。山城系。	
1369	D 区	包含層	緑釉陶器 碗	–	(1.2)	–	浅黄色 〃 灰白色	内面に陰刻花文。口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。東海系。	
1370	D 区	包含層	緑釉陶器 碗	–	(2.8)	–	浅黄色 〃 灰白色	内面に陰刻花文。東海系。	
1371	D 区	包含層	緑釉陶器 碗	–	(2.1)	8.0	オリーブ黄色 〃 灰黄色	見込みに陰刻花文。底部に断面台形状の高台。高台及び高台内にも施釉。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1372	D 区	包含層	緑釉陶器 皿	–	(1.5)	8.0	暗オリーブ灰色 〃 灰色	底部端に断面方形状の削り出し高台。内外面ともナデ。	
1373	D 区	包含層	緑釉陶器 皿	–	(1.7)	7.0	灰白色 〃 〃	円盤状高台。外面底部は凹面を成す。緑釉の多くは剥落するが、底部端まで施釉されていたと見られる。洛北産。	
1374	D 区	包含層	緑釉陶器 皿	13.8	2.0	6.8	灰白色 〃 〃	円盤状高台で凹面状を呈す。体部は外上方に延び、端部は短く外反し、太く丸く収める。コバルト色の釉薬が内面及び外面口縁部に付着する。洛北産でやや軟質。	
1375	D 区	包含層	緑釉陶器 碗	–	(1.1)	6.0	灰白色 灰黄色 黄灰色	円盤状高台。底面を除き、内面及び外面高台に釉薬が施される。	
1376	B 区	包含層	緑釉陶器 碗	–	(1.4)	6.6	灰白色 〃 橙色	外面底部の中央が凹む。	
1377	北区	包含層 検出面	黒色土器 椀	–	(1.5)	–	灰色 暗灰黄色 灰黄褐色	内面に黒色処理。口縁端部は細く尖り気味に仕上げる。内外面ともナデ。	
1378	A 区	包含層	黒色土器 椀	–	(3.3)	–	暗灰色 にぶい橙色 灰黄色	内面に黒色処理。器壁は薄い。口縁部は緩く内湾する。端部は細く面を成し、内側に沈線状の段を有する。内面ヘラミガキ、外面ナデ。	
1379	北区	包含層 検出面	黒色土器 椀	14.4	(4.5)	–	黒色 〃 黄灰色	内外面とも黒色処理。体部から口縁部は丸味を帯び、口縁端部は丸く収める。内外面とも横方向の篦状工具によるミガキ。内面口縁端部に沈線状の段部が巡る。	
1380	B 区	包含層	黒色土器 椀	–	(0.8)	6.4	黒色 橙色 黒色	内面のみ黒色処理。断面三角形の小さな高台を有する。	
1381	A 区	包含層	黒色土器 椀	–	(1.9)	–	暗灰色 橙色 黄灰色	底部から体部は緩く内湾する。端部には高台が付く。内外面にミガキ、底部はケズリの後ナデ。外面に赤色顔料が塗布される。	
1382	L 区	包含層	瓦器 椀	15.6	(3.5)	–	黄灰色 〃 灰色	外面横方向のナデ、指頭圧痕が残る。摩耗著しい。	
1383	北区	包含層 検出面	瓦器 椀	–	(3.1)	7.6	にぶい黄橙色 暗灰色 浅黄橙色	底部から体部は丸味を帯びる。底部端に断面三角形状の高台がハの字に付く。内面ナデ・ミガキ、外面ナデ。	
1384	D 区	包含層	白磁 碗	18.8	(5.5)	–	灰白色 〃 〃	底部は欠損。体部から口縁部は緩やかに外反し、端部は小さな玉縁状を呈し、外側に肥厚する。内面ナデ、外面回転ナデ。	11c 後
1385	C 区	包含層	白磁 碗	–	(3.9)	–	灰白色 〃 〃	体部から口縁部は内湾する。端部は内側に面取りを施すことで、尖り気味に仕上げる。外側にやや肥厚し、下位にケズリが施される。胎土中に小規模な円孔が多い。	
1386	D 区	包含層	白磁 碗	17.6	(3.0)	–	灰白色 〃 〃	口縁端部は外側に肥厚し、玉縁状を呈す。内面ナデ、外面回転ナデ。	
1387	L 区	包含層	白磁 碗	–	(4.5)	–	灰白色 〃 〃	口縁部は玉縁状を呈し上部に尖る。内外面とも白磁釉が施される。	10c 末～ 11c 代
1388	D 区	包含層	白磁 碗	17.2	(2.4)	–	灰白色 〃 〃	体部から口縁部は直線的に外上方に延び、端部は玉縁状を呈す。内外面ともナデ、外面にロクロ目が残る。	
1389	D 区	包含層	白磁 碗	17.6	6.1	7.6	灰色 〃 灰白色	削り出し高台で、高台内は浅い。体部から口縁部は緩く外反し、端部は玉縁状で上位は凹面状を成す。内面ナデ、外面回転ナデ。釉薬は概ね底部端、高台外面に及ぶ。	
1390	D 区	包含層	白磁 碗	14.0	(2.3)	–	灰白色 〃 灰黄色	口縁端部は外側に細く尖り気味に収める。内面ナデ。外面ナデ、口縁部横方向のナデ。	
1391	北区	表採	白磁 碗	–	(1.9)	6.9	灰白色 灰黄色 灰白色	底部は平坦面状で断面台形状の高台が付く。内面に施釉、見込みに沈線状の段が巡る。外面は高台を含めて露胎。器面はナデ。	
1392	D 区	包含層	白磁 碗	–	(1.8)	8.0	灰白色 灰黄色 灰白色	底部端に断面台形状の高台が斜めに削り出される。体部は緩く内湾して外上方に立ち上がる。内外面ともナデ、外面底部ケズリか。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴	備考
1393	B区	包含層	白磁 碗	–	(2.9)	7.4	灰白色 にぶい黄橙色 灰白色	内面のみ施釉。見込みに2条の界線が巡る。	16c
1394	B区	包含層	磁器 碗	–	(1.8)	6.0	灰白色 〃 〃	内外面ともに施釉され、外面高台は釉を剥ぎ取る。断面長方形の高台。	
1395	D区	包含層	磁器 碗	–	(2.3)	–	灰白色 〃 〃	肥前産。口縁端部は細く尖り気味に仕上げる。外面雨降り文。	
1396	K区	包含層	丸瓦	全長 6.4	全幅 4.3	全厚 1.7	灰色 黄灰色 にぶい赤褐色	凹面に布目圧痕、凸面にナデ。精緻な胎土。	
1397	D区	包含層	平瓦	全長 6.4	全幅 4.7	全厚 1.2	淡黄色 黄灰色 淡黄色	凹面は布目圧痕、凸面は箆状工具によるナデ。	
1398	J区	包含層	平瓦	全長 8.3	全幅 7.8	全厚 2.5	橙色 〃 浅黄橙色	酸化を受け赤色を呈す。凹面は布目圧痕を残す。凸面は平行及び斜格子のタタキ目。	
1399	J区	包含層	平瓦	全長 7.5	全幅 4.5	全厚 3.0	灰色 黄灰色 〃	須恵質の瓦で、凹面に布目圧痕、凸面にタタキ目を残す。	
1400	A区	包含層	平瓦	全長 10.7	全幅 7.4	全厚 3.6	黄灰色 〃 〃	凹面に布目圧痕、凸面に平行タタキ目。側面は面取りを行う。	
1401	北区	包含層	土製品 土錘	全長 3.0	全幅 1.0	全厚 0.9	– 淡赤橙色 –	管状土錘。円筒形を呈す。器面は比較的滑らかであるが、小さな凹凸面を残す。中央に直径0.3cmの円孔を穿つ。	
1402	D区	包含層	土製品 土錘	全長 3.4	全幅 1.6	全厚 1.4	– にぶい黄橙色 –	管状土錘。全長は短く、中央部はやや偏った肉厚である。直径0.5cmの円孔を穿つ。	
1403	D区	包含層	土製品 土錘	全長 3.7	全幅 1.4	全厚 1.2	– にぶい橙色 –	小型の管状土錘。恐らく全体の2割を欠損する。中心付近に直径0.4cm程度の円孔を穿つ。	
1404	北区	包含層	土製品 土錘	全長 5.2	全幅 1.3	全厚 1.3	– 浅黄橙色 –	管状土錘。器面に凹凸面を残す。中央に直径0.5cmの円孔を穿つ。	
1405	B区	包含層	土製品 土錘	全長 5.7	全幅 2.3	全厚 2.0	– にぶい橙色 –	管状土錘。孔径0.6cm。	
1406	A区	包含層	土製品 土錘	全長 5.3	全幅 2.4	全厚 2.3	– にぶい黄橙色 –	管状土錘。円筒形で、縦断面形は角丸長方形状。中央に直径0.6cmの円孔を穿つ。一部に煤付着。	
1407	D区	包含層	鉄製品 釘	全長 3.7	全幅 0.5	全厚 0.5	–	断面形は不整方形状又は不整長方形状。先端は尖る。重量2.0g	
1408	D区	包含層	鉄製品 鉄鏃	全長 4.0	全幅 3.4	全厚 0.5	–	板状の鉄片。三角形状又は長三角形状の鉄鏃か。重量13.0g	
1409	D区	包含層	鉄製品 鉄斧	全長 5.5	全幅 2.6	全厚 0.8	–	板状鉄斧。身部は厚みを持ち、基部から徐々に幅を減じる。刃部は緩い弧を描き、細く尖る。重量27.0g	
1410	D区	包含層	鉄製品 轡（銜）	全長 7.2	全幅 2.2	径 0.8	–	馬具（素環式轡）の一部か。銜の結合部で片側を欠く。重量13.0g	
1411	A区	包含層	鉄製品 刀子	全長 5.0 2.7	全幅 2.0 1.3	全厚 1.5 0.7	–	峰・基部を欠く、刀身の一部。刃部は緩く弧状を描く。背部は面を成し直線的である。重量12.0g・2.0g	
1412	D区	包含層	鉄製品 刀子	全長 4.5	全幅 1.7	全厚 0.8	–	狭い背部から刃部へ逆三角形状を呈す。直線的な背部と、やや弧を呈する刃部と見られる。重量8.0g	
1413	D区	包含層	鉄滓	全長 8.8	全幅 7.4	全厚 4.5	–	弱い磁性を持つ。表面に小・中規模の気孔を有する。重量349.0g	

報告書抄録

ふりがな	にしのいせき
書名	西野遺跡Ⅱ
副書名	宅地開発に伴う発掘調査報告書
巻次	第一分冊
シリーズ名	高知県香南市発掘調査報告書
シリーズ番号	第20集
編著者名	横山　藍
編集機関	香南市文化財センター（香南市教育委員会）
所在地	高知県香南市香我美町山北1553－1
発行年月日	2022年3月28日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
西野遺跡（にしのいせき）	〒781－5213 高知県（こうちけん） 香南市野市町（こうなんしのいちちょう） 西野（にしの）1530番地他	39211	200023	33° 33′ 50″	133° 41′ 11″	二次調査 2006. 4. 4 ～ 2007. 3. 30 四次調査 2007. 10. 9 ～ 2007. 11. 8	二次調査 4,500㎡ 四次調査 170㎡	記録保存調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西野遺跡	集落跡	弥生時代 古墳時代 古代 中世 近世	竪穴柱建物跡 掘立柱建物跡 土坑 溝跡 柱穴 性格不明遺構	弥生土器 土師器 須恵器 瓦器 瓦質土器 貿易陶磁器 近世陶磁器 金属製品 石製品	弥生後期から古墳初頭、古墳後期の竪穴建物跡、弥生時代の布掘状の溝を伴う掘立柱建物跡などが確認された。

要約	西野遺跡は香南市野市町西野の物部川左岸段丘上に立地する弥生時代から近世にかけての集落遺跡である。宅地開発計画に伴い、記録保存調査が行われた。二次調査に当たる本調査では、弥生時代前期末から近世にかけての遺物が出土した。調査対象地が集落として機能していた主な時期は、弥生後期から古墳初頭・古墳後期・古代・中世である。出土遺物が占める割合は、弥生後期から古墳初頭が最も多く、次いで古墳後期である。平成17年度に行われた一次調査でも出土した鉄製の鋤先が本調査でも出土した。古代の遺物も一定量が出土し、周辺の下ノ坪遺跡や北地遺跡と同様の官衙関連遺構の広がりも確認された。

高知県香南市発掘調査報告書第20集

西野遺跡Ⅱ

宅地開発に伴う発掘調査報告書

第一分冊

2022年3月28日

発行　高知県香南市教育委員会
香南市文化財センター

高知県香南市香我美町山北1553－1
Tel. 0887－54－2296

印刷　川北印刷株式会社